

## 基本計画書

基本計画																																																																											
事項	記入欄						備考																																																																				
計画の区分	学部設置																																																																										
フリガナ設置者	コクリツダガクカクシツン サガダガク 国立大学法人 佐賀大学																																																																										
フリガナ大学の名称	サガダガク 佐賀大学 (Saga University)																																																																										
大学本部の位置	佐賀県佐賀市本庄町1番地																																																																										
大学の目的	国際的視野を有し、豊かな教養と深い専門知識を生かして社会で自立できる個人を育成するとともに、高度の学術的研究を行い、さらに、地域の知的拠点として、地域及び諸外国との文化、健康、社会、科学技術に関する連携交流を通して学術的、文化的貢献を果たすことにより、地域社会及び国際社会の発展に寄与することを目的とする。																																																																										
新設学部等の目的	新学部・学科においては「芸術を通じた地域創生のための人材」、さらに地域社会において「芸術で地域を拓く人材」、国際社会で活躍する「芸術で世界を拓く人材」を育成することを目的とする。																																																																										
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地																																																																			
	計	年	人	年次人	人		年 月 第 年次																																																																				
	芸術地域デザイン学部 芸術地域デザイン学科  (英文) The Faculty of Art and Regional Design  The department of art and regional design	4	110	3年次 5	450	学士(芸術) 学士(地域デザイン)	平成28年4月 第1年次  平成30年4月 第3年次	佐賀県佐賀市本庄町1番地																																																																			
	計		110	5	450																																																																						
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)	<p>・平成28年4月 文化教育学部(学士課程)を次のとおり改組予定 (平成27年5月事前伺い(名称変更)書類提出予定) (名称変更前) (名称変更後)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">文化教育学部 (学士課程)</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">入学定員</td> <td style="width: 30%;">教育学部 (学士課程)</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">入学定員</td> </tr> <tr> <td>学校教育課程</td> <td style="text-align: center;">90</td> <td>学校教育課程〔定員増〕</td> <td style="text-align: center;">120 (30)</td> </tr> <tr> <td>人間環境課程</td> <td style="text-align: center;">60</td> <td>※平成28年4月学生募集停止</td> <td style="text-align: center;">(△60)</td> </tr> <tr> <td>国際文化課程</td> <td style="text-align: center;">60</td> <td>※平成28年4月学生募集停止</td> <td style="text-align: center;">(△60)</td> </tr> <tr> <td>美術・工芸課程</td> <td style="text-align: center;">30</td> <td>※平成28年4月学生募集停止</td> <td style="text-align: center;">(△30)</td> </tr> <tr> <td>(3年次編入学)</td> <td style="text-align: center;">20</td> <td>※平成30年4月学生募集停止</td> <td style="text-align: center;">(△20)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">260</td> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">120 (△140)</td> </tr> </table> <p>・平成28年4月 大学院学校教育学研究科並びに大学院経済学研究科を次のとおり改組予定 (平成27年3月意見伺い書類提出済)</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%;">(改組前) 教育学研究科 (修士課程)</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">入学定員</td> <td style="width: 30%;">(改組後) 地域デザイン研究科 (修士課程) 地域デザイン学専攻</td> <td style="width: 20%; text-align: center;">入学定員</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">20 (20)</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>学校教育学研究科 (専門職課程) 教育実践探究専攻</td> <td style="text-align: center;">入学定員</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td style="text-align: center;">20 (20)</td> </tr> <tr> <td>学校教育専攻</td> <td style="text-align: center;">6</td> <td>※平成28年4月学生募集停止</td> <td style="text-align: center;">(△6)</td> </tr> <tr> <td>教科教育専攻</td> <td style="text-align: center;">33</td> <td>※平成28年4月学生募集停止</td> <td style="text-align: center;">(△33)</td> </tr> <tr> <td>経済学研究科 (修士課程)</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>金融・経済政策専攻</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td>※平成28年4月学生募集停止</td> <td style="text-align: center;">(△4)</td> </tr> <tr> <td>企業経営専攻</td> <td style="text-align: center;">4</td> <td>※平成28年4月学生募集停止</td> <td style="text-align: center;">(△4)</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">47</td> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: center;">40 (△7)</td> </tr> </table>							文化教育学部 (学士課程)	入学定員	教育学部 (学士課程)	入学定員	学校教育課程	90	学校教育課程〔定員増〕	120 (30)	人間環境課程	60	※平成28年4月学生募集停止	(△60)	国際文化課程	60	※平成28年4月学生募集停止	(△60)	美術・工芸課程	30	※平成28年4月学生募集停止	(△30)	(3年次編入学)	20	※平成30年4月学生募集停止	(△20)	計	260	計	120 (△140)	(改組前) 教育学研究科 (修士課程)	入学定員	(改組後) 地域デザイン研究科 (修士課程) 地域デザイン学専攻	入学定員				20 (20)			学校教育学研究科 (専門職課程) 教育実践探究専攻	入学定員				20 (20)	学校教育専攻	6	※平成28年4月学生募集停止	(△6)	教科教育専攻	33	※平成28年4月学生募集停止	(△33)	経済学研究科 (修士課程)				金融・経済政策専攻	4	※平成28年4月学生募集停止	(△4)	企業経営専攻	4	※平成28年4月学生募集停止	(△4)	計	47	計	40 (△7)
文化教育学部 (学士課程)	入学定員	教育学部 (学士課程)	入学定員																																																																								
学校教育課程	90	学校教育課程〔定員増〕	120 (30)																																																																								
人間環境課程	60	※平成28年4月学生募集停止	(△60)																																																																								
国際文化課程	60	※平成28年4月学生募集停止	(△60)																																																																								
美術・工芸課程	30	※平成28年4月学生募集停止	(△30)																																																																								
(3年次編入学)	20	※平成30年4月学生募集停止	(△20)																																																																								
計	260	計	120 (△140)																																																																								
(改組前) 教育学研究科 (修士課程)	入学定員	(改組後) 地域デザイン研究科 (修士課程) 地域デザイン学専攻	入学定員																																																																								
			20 (20)																																																																								
		学校教育学研究科 (専門職課程) 教育実践探究専攻	入学定員																																																																								
			20 (20)																																																																								
学校教育専攻	6	※平成28年4月学生募集停止	(△6)																																																																								
教科教育専攻	33	※平成28年4月学生募集停止	(△33)																																																																								
経済学研究科 (修士課程)																																																																											
金融・経済政策専攻	4	※平成28年4月学生募集停止	(△4)																																																																								
企業経営専攻	4	※平成28年4月学生募集停止	(△4)																																																																								
計	47	計	40 (△7)																																																																								

教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数			
		講義	演習	実験・実習	計				
	芸術地域デザイン学部 芸術地域デザイン学科	73 科目	93 科目	47 科目	213 科目	124 単位			
教	学部等の名称		専任教員等					兼任 教員等	
			教授	准教授	講師	助教	計		助手
新 設 分	芸術地域デザイン学部 芸術地域デザイン学科		15 (16)	8 (8)	4 (0)	0 (0)	27 (24)	0 (0)	43 (0)
	計		15 (16)	8 (8)	4 (0)	0 (0)	27 (24)	0 (0)	— (—)
員	経済学部 経済学科		9 (9)	9 (9)	0 (0)	0 (0)	19 (19)	2 (2)	9 (9)
	経営学科		5 (5)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	1 (1)	3 (3)
組	経済法学科		4 (4)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	19 (19)
	医学部 医学科		38 (38)	33 (33)	5 (5)	63 (63)	139 (139)	1 (1)	76 (76)
の	看護学科		10 (10)	4 (4)	3 (3)	16 (16)	33 (33)	0 (0)	48 (48)
	理工学部 数理科学科		6 (6)	2 (2)	4 (4)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	7 (7)
概	物理科学科		6 (6)	7 (7)	0 (0)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	2 (2)
	知能情報システム学科		8 (8)	4 (4)	1 (1)	3 (3)	16 (16)	0 (0)	3 (3)
要	機能物質化学科		13 (13)	10 (10)	0 (0)	4 (4)	27 (27)	0 (0)	7 (7)
	機械システム工学科		11 (11)	10 (10)	2 (2)	4 (4)	27 (27)	0 (0)	5 (5)
の	電気電子工学科		9 (9)	8 (8)	2 (2)	5 (5)	24 (24)	0 (0)	1 (1)
	都市工学科		9 (9)	8 (8)	1 (1)	2 (2)	20 (20)	0 (0)	7 (7)
概	農学部 応用生物科学科		8 (8)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	15 (15)	0 (0)	1 (1)
	生物環境科学科		12 (12)	11 (11)	1 (1)	1 (1)	25 (25)	0 (0)	5 (5)
要	生命機能科学科		7 (7)	5 (5)	1 (1)	1 (1)	14 (14)	0 (0)	1 (1)
	アドミッションセンター		0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
の	キャリアセンター		0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	卒後臨床研修センター		0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
概	産学・地域連携機構		1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
	全学教育機構		8 (8)	12 (12)	5 (5)	0 (0)	25 (25)	0 (0)	251 (251)
要	保健管理センター		1 (1)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
	学生支援室		0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
の	海洋エネルギー研究センター		4 (4)	3 (3)	0 (0)	3 (3)	10 (10)	0 (0)	0 (0)
	総合分析実験センター		0 (0)	4 (4)	0 (0)	2 (2)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
概	総合情報基盤センター		1 (1)	2 (2)	0 (0)	1 (1)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
	国際交流推進センター		1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
要	低平地沿岸海域研究センター		3 (3)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	0 (0)
	シンクロトロン光応用研究センター		1 (1)	2 (2)	0 (0)	3 (3)	6 (6)	0 (0)	0 (0)
の	地域学歴史文化研究センター		0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	2 (2)	0 (0)	0 (0)
	計		175 (175)	165 (165)	29 (29)	108 (108)	478 (478)	4 (4)	— (—)

合計		190 (191)	173 (173)	33 (29)	108 (108)	505 (502)	4 (4)	— (—)
教員以外の職員の概要	職種	専任		兼任		計		
	事務職員	231 (252)		379 (374)		610 (626)		
	技術職員	66 (71)		157 (151)		223 (222)		
	図書館専門職員	9 (10)		27 (26)		36 (36)		
	その他の職員	818 (825)		316 (302)		1,134 (1,127)		
	計	1124 (1,158)		879 (853)		2003 (2,011)		
校地等	区分	専用	共用	共用する他の学校等の専用		計		
	校舎敷地	319,891 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		319,891 m <sup>2</sup>		
	運動場用地	135,684 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		135,684 m <sup>2</sup>		
	小計	455,575 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		455,575 m <sup>2</sup>		
	その他	374,981 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		374,981 m <sup>2</sup>		
	合計	830,556 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>	0 m <sup>2</sup>		830,556 m <sup>2</sup>		
校舎	専用	154,880 m <sup>2</sup> (154,880 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> (0 m <sup>2</sup> )	0 m <sup>2</sup> (0 m <sup>2</sup> )		154,880 m <sup>2</sup> (154,880 m <sup>2</sup> )		
	共用							
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設		語学学習施設		
	90 室	138 室	579 室	18 室 (補助職員 - 人)		5 室 (補助職員 - 人)		
専任教員研究室	新設学部等の名称			室数				
	芸術地域デザイン学部 芸術地域デザイン学科			25 室				
図書・設備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	
	芸術地域デザイン学部	762,367 [232,742]	11,909 [4,095]	11,702 [10,197]	4,196	9,146	230	
	芸術地域デザイン学科	(728,767 [226,342])	(11,869 [4,091])	(11,662 [10,177])	(3,732)	(7,066)	(230)	
計	762,367 [232,742] (728,767 [226,342])	11,909 [4,095] (11,869 [4,091])	11,702 [10,197] (11,662 [10,177])	4,196 (3,732)	9,146 (7,066)	230 (230)		
図書館	面積	閲覧座席数		収納可能冊数				
	7,643 m <sup>2</sup>	769 席		565,806 冊				
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要						
	5,543 m <sup>2</sup>	陸上競技場、野球場、テニスコート、弓道場、プール						
経費の見積り及び維持方法の概要	区分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次
	教員1人当り研究費等		—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円
	共同研究費等		—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円
	図書購入費	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円
	設備購入費	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円	—千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		—						
大学の名称	佐賀大学							
学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
文化教育学部	年	人	年次人	人		倍		佐賀県佐賀市本庄町1番地
学校教育課程	4	90	—	360	学士(学校教育)	1.05	平成9年度	
国際文化課程	4	60	—	240	学士(国際文化)	1.05	平成9年度	
人間環境課程	4	60	—	240	学士(人間環境)	1.06	平成9年度	
					学士(健康福祉・スポーツ)			

既設大学等の状況	美術・工芸課程 各課程共通	4	30	—	120	学士 (美術・工芸)	1.03	平成9年度	
				3年次□20	40				
	経済学部						1.04		佐賀県佐賀市本庄町1番地
	経済学科	4	110	—	220	学士 (経済学)	1.02	平成25年度	
	経営学科	4	80	—	160	学士 (経済学)	1.07	平成25年度	
	経済法学科	4	70	—	140	学士 (経済学)	1.03	平成25年度	
	医学部						1.00		佐賀県佐賀市鍋島五丁目1番1号
	医学科	6	106	—	630	学士 (医学)	1.00	昭和53年度	
	看護学科	4	60	—	240	学士 (看護学)	1.00	平成5年度	平成22年度入学定員増 (6人)
				10	20				
	理工学部						1.04		佐賀県佐賀市本庄町1番地
	数理科学科	4	30	—	120	学士 (理学)	1.03	平成9年度	
	物理科学科	4	40	—	160	学士 (理学)	1.02	平成9年度	
	知能情報システム学科	4	60	—	240	学士 (理学)	1.05	平成9年度	
	機能物質化学科	4	90	—	360	学士 (理学)	1.03	平成9年度	
						学士 (工学)			
	機械システム工学科	4	90	—	360	学士 (工学)	1.04	平成9年度	
	電気電子工学科	4	90	—	360	学士 (工学)	1.06	平成9年度	
	都市工学科	4	90	—	360	学士 (工学)	1.05	平成9年度	
	各学科共通			3年次□20	40				
	農学部						1.05		佐賀県佐賀市本庄町1番地
	応用生物科学科	4	45	—	180	学士 (農学)	1.06	平成18年度	
	生物環境科学科	4	60	—	240	学士 (農学)	1.04	平成18年度	
	生命機能科学科	4	40	—	160	学士 (農学)	1.05	平成18年度	
	各学科共通			3年次□20	20				
	大学院教育学研究科 (修士課程)								佐賀県佐賀市本庄町1番地
	学校教育専攻	2	6	—	12	修士 (教育学)	0.91	平成5年度	
	教科教育専攻	2	33	—	66	修士 (教育学)	1.04	平成5年度	
	大学院経済学研究科 (修士課程)								佐賀県佐賀市本庄町1番地
	金融・経済政策専攻	2	4	—	8	修士 (経済学)	1.00	平成4年度	
	企業経営専攻	2	4	—	8	修士 (経済学)	1.00	平成4年度	
	大学院医学系研究科 (修士課程)								佐賀県佐賀市鍋島五丁目1番1号
	医科学専攻	2	15	—	30	修士 (医科学)	0.43	平成15年度	
	看護学専攻	2	16	—	32	修士 (看護学)	0.87	平成9年度	
	(博士課程)								
	医科学専攻	4	25	—	115	博士 (医学)	0.98	平成20年度	
	大学院工学系研究科 (博士前期課程)								佐賀県佐賀市本庄町1番地
	数理科学専攻	2	9	—	18	修士 (理学)	1.10	平成22年度	
	物理科学専攻	2	15	—	30	修士 (理学)	0.95	平成22年度	
	知能情報システム学専攻	2	16	—	32	修士 (理学)	1.18	平成22年度	
	循環物質化学専攻	2	27	—	54	修士 (理学)	0.99	平成22年度	
					修士 (工学)				
機械システム工学専攻	2	27	—	54	修士 (工学)	1.21	平成22年度		
電気電子工学専攻	2	27	—	54	修士 (工学)	1.13	平成22年度		
都市工学専攻	2	27	—	54	修士 (工学)	0.92	平成22年度		
先端融合工学専攻	2	36	—	72	修士 (学術)	1.02	平成22年度		
					修士 (理学)				
					修士 (工学)				
(博士後期課程)									
システム創成科学専攻	3	24	—	72	博士 (学術)	0.95	平成22年度		
					博士 (理学)				
					博士 (工学)				
大学院農学研究科 (修士課程)								佐賀県佐賀市本庄町1番地	
生物資源科学専攻	2	40	—	80	修士 (農学)	1.07	平成22年度		



<p>名称：産学・地域連携機構</p> <p>目的：本学の産学・地域連携を組織的に推進する中核的拠点として、本学における産学・地域連携の取組に積極的な役割を果たすことを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：平成24年4月</p> <p>規模等：土地 - m<sup>2</sup> 建物 2,274 m<sup>2</sup></p>
<p>名称：アドミッションセンター</p> <p>目的：入学者選抜、入試広報、高大接続等に関する企画、立案等の業務を行うとともに、学部及び研究科で実施する入学者選抜を専門的立場から支援し、本学の教育研究の充実発展に寄与することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：平成19年10月</p> <p>規模等：土地 - m<sup>2</sup> 建物 53 m<sup>2</sup></p>
<p>名称：キャリアセンター</p> <p>目的：キャリア教育の調査研究及び就職支援に係る業務を行うことにより、本学の就職支援の充実発展に寄与することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：平成19年10月</p> <p>規模等：土地 - m<sup>2</sup> 建物 110 m<sup>2</sup></p>
<p>名称：国際交流推進センター</p> <p>目的：部局及び地域社会と連携し一体となって、海外の教育研究機関との国際交流の進展に寄与することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：平成23年10月</p> <p>規模等：土地 - m<sup>2</sup> 建物 311 m<sup>2</sup></p>
<p>名称：教員免許更新講習室</p> <p>目的：教育職員がその時々に必要な資質能力を保持し、定期的に最新の知識技能を身に付け、もって教育職員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：平成21年4月</p> <p>規模等：土地 - m<sup>2</sup> 建物 23 m<sup>2</sup></p>
<p>名称：全学教育機構</p> <p>目的：本学の共通教育、国際教育及び高等教育開発並びに本学の教育における情報通信技術の活用支援を総合的に行うことにより、「佐賀大学学士力」に基づく学士課程教育の質保証等に資することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：平成23年4月</p> <p>規模等：土地 - m<sup>2</sup> 建物 7,606 m<sup>2</sup></p>
<p>名称：附属図書館</p> <p>目的：教育、研究及び社会貢献等の諸活動を支援するため、必要な図書、雑誌等の資料はじめ学術情報を収集し、整理、作成、保存して提供することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：平成元年4月</p> <p>規模等：土地 - m<sup>2</sup> 建物 7,643 m<sup>2</sup></p>
<p>名称：美術館</p> <p>目的：本学の目的、使命にのっとり、本学の教育、研究、社会貢献等の諸活動を支援するため、必要な芸術資料等を収集、保存、管理及び調査し、並びに展示公開することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：平成25年10月</p> <p>規模等：土地 - m<sup>2</sup> 建物 1,502 m<sup>2</sup></p>
<p>名称：保健管理センター</p> <p>目的：本学の保健管理に関する専門的業務を行うことを目的とする</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：昭和45年4月</p> <p>規模等：土地 - m<sup>2</sup> 建物 450 m<sup>2</sup></p>
<p>名称：海洋エネルギー研究センター</p> <p>目的：共同利用・共同研究拠点として、海洋エネルギーとその複合利用に関する研究を行い、かつ、全国の大学の教員その他の研究機関の研究者で、センターの目的たる研究と同一の分野の研究に従事するものの利用及び研究に供することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地、佐賀県伊万里市山代町久原字平尾1番48号</p> <p>設置年月：平成14年4月</p> <p>規模等：土地 10,751 m<sup>2</sup> 建物 4,673 m<sup>2</sup></p>

附属施設の概要

名称	総合分析実験センター
目的	生物資源開発・機器分析・放射性同位元素利用・環境安全管理に関する体制を一元化し、各部門が有機的な連携を保ちつつ、教育・研究を効率的に推進するための拠点施設として、学際的・複合的な領域研究にも対応できる教育・研究支援体制の実現を目指すことを目的とする。
所在地	佐賀県佐賀市本庄町1番地
設置年月	平成14年4月
規模等	土地 - m <sup>2</sup> 建物 5,246m <sup>2</sup>
名称	総合情報基盤センター
目的	本学の学術情報を支える基幹情報システムを統括するとともに、本学の共通的情報基盤の整備推進及び電子図書館機能の充実並びに事務情報化の推進を図ることを目的とする。
所在地	佐賀県佐賀市本庄町1番地
設置年月	平成18年2月
規模等	土地 - m <sup>2</sup> 建物 939 m <sup>2</sup>
名称	低平地沿岸海域研究センター
目的	低平地と沿岸海域の環境に関する基礎的及び応用的研究を推進することにより、本学の研究教育活動及び学内外との学術交流の促進を図り、併せて地域社会及び国際社会の持続的発展に資することを目的とする。
所在地	佐賀県佐賀市本庄町1番地
設置年月	平成22年4月
規模等	土地 - m <sup>2</sup> 建物 540 m <sup>2</sup>
名称	シンクロトロン光応用研究センター
目的	本学の共同利用研究施設として、シンクロトロン光を応用して行う研究を推進し、その成果を公表することにより、本学の研究教育活動及び学術交流の活性化を図るとともに、地域社会における先端科学技術開発及び産学連携の振興に資することを目的とする。
所在地	佐賀県佐賀市本庄町1番地
設置年月	平成13年6月
規模等	土地 - m <sup>2</sup> 建物 354 m <sup>2</sup>
名称	地域学歴史文化研究センター
目的	地域（佐賀）の歴史文化の固有性と普遍性を探求することにより、本学の文系基礎学の発展・充実を図り、もって新たな学問体系としての地域学を創造するとともに、広く地域社会に対し研究成果を提供することを目的とする。
所在地	佐賀県佐賀市本庄町1番地
設置年月	平成18年4月
規模等	土地 - m <sup>2</sup> 建物 160 m <sup>2</sup>
名称	文化教育学部附属幼稚園
目的	本学部における幼児の保育又は児童若しくは生徒の教育に関する研究に協力し、本学部の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たるとともに、教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うことを目的とする。
所在地	佐賀県佐賀市水ヶ江1丁目4番45号
設置年月	昭和45年4月
規模等	土地 3,565m <sup>2</sup> 建物 744 m <sup>2</sup>
名称	文化教育学部附属小学校
目的	本学部における幼児の保育又は児童若しくは生徒の教育に関する研究に協力し、本学部の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たるとともに、教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うことを目的とする。
所在地	佐賀県佐賀市城内2丁目17番3号
設置年月	昭和24年5月
規模等	土地 17,426 m <sup>2</sup> 建物 5,624 m <sup>2</sup>
名称	文化教育学部附属中学校
目的	本学部における幼児の保育又は児童若しくは生徒の教育に関する研究に協力し、本学部の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たるとともに、教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うことを目的とする。
所在地	佐賀県佐賀市城内1丁目14番4号
設置年月	昭和24年5月
規模等	土地 22,166 m <sup>2</sup> 建物 6,379 m <sup>2</sup>
名称	文化教育学部附属特別支援学校
目的	本学部における幼児の保育又は児童若しくは生徒の教育に関する研究に協力し、本学部の計画に従い、学生の教育実習の実施に当たるとともに、教育の理論的、実証的研究を行うとともに、他の学校との教育研究の協力及び教育研究の成果の交流を行うことを目的とする。
所在地	佐賀県佐賀市本庄町正里46番2号
設置年月	昭和53年4月
規模等	土地 19,915 m <sup>2</sup> 建物 3,677 m <sup>2</sup>

<p>名称：文化教育学部附属教育実践総合センター</p> <p>目的：附属学校（園）等，学内外の関係機関との連携のもとに，教育臨床，教育実践及び教職支援に関する理論的・実践的研究及び指導を行い，教育実践の向上に資することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市本庄町1番地</p> <p>設置年月：平成14年4月</p> <p>規模等：土地 - m<sup>2</sup> 建物 530 m<sup>2</sup></p>
<p>名称：医学部附属病院</p> <p>目的：医学の教育及び研究に係る診療の場として機能するとともに，医療を通して医学の水準及び地域医療の向上に寄与することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市鍋島五丁目1番1号</p> <p>設置年月：昭和56年4月</p> <p>規模等：土地 99,233 m<sup>2</sup> 建物 70,388 m<sup>2</sup></p>
<p>名称：医学部附属地域医療科学教育研究センター</p> <p>目的：本学における教育研究の先導的組織として，地域医療機関，保健行政機関等との連携を基盤に，地域包括医療の高度化等に関する総合的，学際的な教育研究を行うとともに，関連する医学・看護学の課題に関して重点的に研究を進展させることを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市鍋島五丁目1番1号</p> <p>設置年月：平成15年4月</p> <p>規模等：土地 - m<sup>2</sup> 建物 222 m<sup>2</sup></p>
<p>名称：医学部附属先端医学研究推進支援センター</p> <p>目的：本学部における医学研究活動をより一層推進するため，学際分野を含む医学研究の先端的・中心的な役割を担い，もって学内外への情報発信を行うとともに，本学部における教育研究の基盤となる高度な技術的支援とその研鑽を組織的に行うことにより，関連する医学・看護学の課題に関して重点的に研究を進展させることを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市鍋島五丁目1番1号</p> <p>設置年月：平成19年4月</p> <p>規模等：土地 - m<sup>2</sup> 建物 53 m<sup>2</sup></p>
<p>名称：農学部附属アグリ創生教育研究センター</p> <p>目的：農学部の附属教育研究施設として，学内外の関係機関との連携のもとに，アグリ創生に関する教育及び研究を行い，農業・医療・環境修復等の地域社会ニーズに対応した学際的な国際化戦略の向上に資することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県佐賀市久保泉町下和泉1841番地、佐賀県唐津市松南町152番1号</p> <p>設置年月：平成24年10月</p> <p>規模等：土地 180,840 m<sup>2</sup> 建物 4,018m<sup>2</sup></p>
<p>名称：神集島合宿研修所</p> <p>目的：本学学生の集団行動における訓練の場として、学生相互あるいは教職員との共同生活を通じて、学生の間形成に資することを目的とする。</p> <p>所在地：佐賀県唐津市神集島コウソ辻1430番地</p> <p>設置年月：昭和48年3月</p> <p>規模等：土地 9,940 m<sup>2</sup> 建物 205 m<sup>2</sup></p>

# 国立大学法人佐賀大学 設置申請等に関する組織の移行表

平成27年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成28年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
<b>佐賀大学</b>				<b>佐賀大学</b>				
【新設】				→ <b>芸術地域デザイン学部</b>				学部の設置(意見伺い)
				→ <b>芸術地域デザイン学科</b>	110	0	440	
				→ <b>(3年次編入学)</b>	二	<sup>3年次</sup> 5	10	
文化教育学部				→ <b>教育学部</b>				名称変更(事前伺い)
→ 学校教育課程	90	—	360	→ 学校教育課程	120	二	480	定員変更
→ 国際文化課程	60	—	240	→ 国際文化課程	0	—	0	平成28年4月学生募集停止
→ 人間環境課程	60	—	240	→ 人間環境課程	0	—	0	平成28年4月学生募集停止
→ 美術・工芸課程	30	—	120	→ 美術・工芸課程	0	—	0	平成28年4月学生募集停止
→ (3年次編入学)	—	<sup>3年次</sup> 20	40	→ (3年次編入学)	二	<sup>3年次</sup> 二	0	平成28年4月学生募集停止
経済学部				→ <b>経済学部</b>				
→ 経済学科	110	—	440	→ 経済学科	110	—	440	
→ 経営学科	80	—	320	→ 経営学科	80	—	320	
→ 経済法学科	70	—	280	→ 経済法学科	70	—	280	
医学部				→ <b>医学部</b>				
→ 医学科	106	—	636	→ 医学科	106	—	636	
→ 看護学科	60	—	240	→ 看護学科	60	—	240	
理工学部				→ <b>理工学部</b>				
→ 数理科学科	30	—	120	→ 数理科学科	30	—	120	
→ 物理科学科	40	—	160	→ 物理科学科	40	—	160	
→ 知能情報システム学科	60	—	240	→ 知能情報システム学科	60	—	240	
→ 機能物質化学科	90	—	360	→ 機能物質化学科	90	—	360	
→ 機械システム工学科	90	—	360	→ 機械システム工学科	90	—	360	
→ 電気電子工学科	90	—	360	→ 電気電子工学科	90	—	360	
→ 都市工学科	90	—	360	→ 都市工学科	90	—	360	
→ (3年次編入学)	—	<sup>3年次</sup> 20	40	→ (3年次編入学)	—	<sup>3年次</sup> 20	40	
農学部				→ <b>農学部</b>				
→ 応用生物科学科	45	—	180	→ 応用生物科学科	45	—	180	
→ 生物環境科学科	60	—	240	→ 生物環境科学科	60	—	240	
→ 生命機能科学科	40	—	160	→ 生命機能科学科	40	—	160	
→ (3年次編入学)	—	<sup>3年次</sup> 10	20	→ (3年次編入学)	—	<sup>3年次</sup> 10	20	
計	1301	50	5516	計	1291	35	5446	
<b>佐賀大学大学院</b>				<b>佐賀大学大学院</b>				
教育学研究科				→ <b>学校教育学研究科</b>				研究科の設置(意見伺い)
→ 学校教育専攻(M)	6	—	12	→ 教育実践探究専攻(P)	20	二	40	
→ 教科教育専攻(M)	33	—	66	→ 教科教育専攻(M)	0	二	0	平成28年4月学生募集停止
【新設】				→ <b>地域デザイン研究科</b>				研究科の設置(意見伺い)
				→ <b>地域デザイン専攻(M)</b>	20	二	40	
経済学研究科				→ <b>経済学研究科</b>				
→ 金融・経済政策専攻(M)	4	—	8	→ 金融・経済政策専攻(M)	0	—	0	平成28年4月学生募集停止
→ 企業経営専攻(M)	4	—	8	→ 企業経営専攻(M)	0	—	0	平成28年4月学生募集停止
医学系研究科				→ <b>医学系研究科</b>				
→ 医科学専攻(M)	15	—	30	→ 医科学専攻(M)	15	—	30	
→ 医科学専攻(D)	25	—	100	→ 医科学専攻(D)	25	—	100	
→ 看護学専攻(M)	16	—	32	→ 看護学専攻(M)	16	—	32	

平成27年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員		平成28年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
工学系研究科				→	工学系研究科				
数理科学専攻(M)	9	—	18		数理科学専攻(M)	9	—	18	
物理科学専攻(M)	15	—	30		物理科学専攻(M)	15	—	30	
知能情報システム学専攻(M)	16	—	32		知能情報システム学専攻(M)	16	—	32	
循環物質化学専攻(M)	27	—	54		循環物質化学専攻(M)	27	—	54	
機械システム工学専攻(M)	27	—	54		機械システム工学専攻(M)	27	—	54	
電気電子工学専攻(M)	27	—	54		電気電子工学専攻(M)	27	—	54	
都市工学専攻(M)	27	—	54		都市工学専攻(M)	27	—	54	
先端融合工学専攻(M)	36	—	72		先端融合工学専攻(M)	36	—	72	
システム創成科学専攻(D)	24	—	72		システム創成科学専攻(D)	24	—	72	
農学研究科				→	農学研究科				
生物資源科学専攻(M)	40	—	80		生物資源科学専攻(M)	40	—	80	
計	351	—	776		計	<u>344</u>	—	<u>762</u>	

教育課程等の概要

(芸術地域デザイン学部芸術地域デザイン学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学部 共通 科目	地域デザイン基礎(デザイン)	1前	2				○		8	5				共同
	地域デザイン基礎(マネジメント)	1前	2				○		5	1				共同
	地域デザイン基礎(フィールドワーク)	1前	2				○		10	3				共同
	芸術表現基礎(絵画)	1前	2				○		4	3				共同
	芸術表現基礎(彫刻)	1前	2				○		3	2				共同
	芸術表現基礎(工芸)	1前	2				○		3	3				共同
	デザイン発想論	1後	2					○	1	1				オムニバス・共同(一部)
	デジタル表現基礎	1後	2					○	1	1				
	職業キャリア論	1後	2				○		1					
	流通論	1前		2			○		1					
	アートマーケティング	1後		2			○		1					
	知的財産権学	2前		2			○							兼1
	文化経済論	1後		2			○		1					
	アートマネジメント	1前		2			○			1				
	地域再生デザイン学	2後		2			○		1					
	比較オリエンタリズム研究	1後		2			○		1					
	Key Concepts in Art(キーコンセプトインアート)	1後		2			○			1				
	アートと科学	2・3前		2			○		1					
	芸術文化・地域創生論(国内外地域プロジェクト事例研究)	2後	2				○			1				
	有田キャンパスプロジェクト	3通		6				○	3	1	1			共同
	地域創生フィールドワーク	3通		6				○	9	6	2			共同
	国内外芸術研修	3前		4				○	3	2				共同
小計(22科目)		—	22	32	0		—	15	9	3	0	0	兼1	
コース 基礎 科目	芸術表現A(日本画)	1後	2				○			1				
	芸術表現A(西洋画)	1後	2				○			1				
	芸術表現A(彫刻)	1後	2				○		1					
	芸術表現B(窯芸)	1後	2				○		1					
	芸術表現B(染色工芸)	1後	2				○			1				
	芸術表現B(漆・木工芸)	1後	2				○			1				
	美術史基礎	1後		2		○			1					
	工芸理論	2・3前		2		○			1					
	現代美術概論	2・3後		2		○			1					隔年
	美術品流通論	2後		2		○			1					
	デザイン基礎	2後		2				○	1	1				オムニバス・共同(一部)
	図法	2前		2			○				2			
	材料学	2後		2		○			1					
小計(13科目)			20	6				7	5	2				
コース 専門 科目 (芸術表現コース)	日本画概論	2・3後		2		○				1				隔年
	西洋画概論	2・3前		2		○				1				隔年
	彫刻概論	2・3前		2		○			1					隔年
	染色工芸概論	2・3前		2		○				1				隔年
	漆・木工芸概論	2・3後		2		○				1				隔年
	陶磁史	2後		2		○								兼1
	窯芸基礎	2後		2				○	1		1			オムニバス
	日本画基礎	2・3後		2				○		1				隔年
	西洋画基礎	2・3前		2				○		1				隔年
	彫刻基礎	2・3前		2				○	1					隔年
	染色工芸基礎	2・3前		2				○		1				隔年
	漆・木工芸基礎	2・3後		2				○		1				隔年
	ミクストメディア基礎	2・3後		2				○	1					隔年
	製図	2前		2				○						兼1
	日本画Ia	2・3前		4				○		1				隔年
	日本画Ib	2・3前		4				○		1				隔年
	日本画IIa	2・3後		4				○		1				隔年
	日本画IIb	2・3後		4				○		1				隔年
	日本画IIIa	3後		2				○						兼1 隔年 集中
	日本画IIIb	3後		2				○						兼1 隔年 集中
	西洋画Ia	2・3前		4				○		1				隔年
	西洋画Ib	2・3前		4				○		1				隔年
	西洋画IIa	2・3後		4				○		1				隔年
西洋画IIb	2・3後		4				○		1				隔年	
西洋画IIIa	3後		2				○						兼1 隔年 集中	
西洋画IIIb	3後		2				○						兼1 隔年 集中	

コース専門科目（芸術表現コース）

コース選択科目

彫刻Ⅰa	2・3前	4			○		1													隔年	
彫刻Ⅰb	2・3前	4			○		1													隔年	
彫刻Ⅱa	2・3後	4			○		1													隔年	
彫刻Ⅱb	2・3後	4			○		1													隔年	
彫刻Ⅲa	3前	2				○													兼1	隔年	集中
彫刻Ⅲb	3前	2					○												兼1	隔年	集中
ミクストメディアⅠa	2・3前	4			○		1													隔年	
ミクストメディアⅠb	2・3前	4			○		1													隔年	
ミクストメディアⅡa	2・3後	4			○		1													隔年	
ミクストメディアⅡb	2・3後	4			○		1													隔年	
ミクストメディアⅢa	3後	2				○													兼1	隔年	集中
ミクストメディアⅢb	3後	2					○												兼1	隔年	集中
視覚伝達デザインⅠ	2前	2			○		1														
視覚伝達デザインⅡ	3前	2			○		1														
視覚伝達デザインⅢ	3後	2			○		1														
コンテンツデザインⅠ	2後	2			○				1												
映像デザインⅠ	2前	2			○		1														
情報デザインⅠ	2後	2			○				1												
コミュニケーションデザイン論	2・3前	1		○															兼1	隔年	集中
コミュニケーションデザイン演習	2・3前	1			○														兼1	隔年	集中
地域ブランディング論	2・3前	1		○															兼1	隔年	集中
地域ブランディング演習	2・3前	1			○														兼1	隔年	集中
メディアアート論	2・3前	1		○															兼1	隔年	集中
メディアアート演習	2・3前	1			○														兼1	隔年	集中
染色工芸Ⅰa	2・3前	4			○				1												隔年
染色工芸Ⅰb	2・3前	4			○				1												隔年
染色工芸Ⅱa	2・3後	4			○				1												隔年
染色工芸Ⅱb	2・3後	4			○				1												隔年
染色工芸Ⅲa	3前	2				○													兼1	隔年	集中
染色工芸Ⅲb	3前	2					○												兼1	隔年	集中
漆・木工芸Ⅰa	2・3前	4			○				1												隔年
漆・木工芸Ⅰb	2・3前	4			○				1												隔年
漆・木工芸Ⅱa	2・3後	4			○				1												隔年
漆・木工芸Ⅱb	2・3後	4			○				1												隔年
漆・木工芸Ⅲa	2・3前	2				○													兼1	隔年	集中
漆・木工芸Ⅲb	2・3前	2					○												兼1	隔年	集中
応用木工芸	2・3前	2			○				1												
金属工芸Ⅰa	2・3前	2			○														兼1	隔年	集中
金属工芸Ⅰb	2・3前	2			○														兼1	隔年	集中
金属工芸Ⅱa	2・3後	2			○														兼1	隔年	集中
金属工芸Ⅱb	2・3後	2			○														兼1	隔年	集中
陶磁マーケティング	3前	2		○					1												
陶磁器産業論	3後	2		○					1												
釉薬化学概論	2前	2		○															兼1		
セラミック原料化学	2前	2		○					1												
セラミック焼成	2後	2			○				1												
衣食住文化論	2・3前	2		○															兼3	隔年	オムニバス
世界の中の肥前陶磁器	2後	2		○															兼1		
食と器	2・3前	2			○														兼2	隔年	オムニバス
陶磁特別演習Ⅰ	2・3後	2			○														兼1	隔年	集中
陶磁特別演習Ⅱ	2・3後	2			○														兼1	隔年	集中
陶磁成形技法Ⅰ	2前	2				○						1									
陶磁成形技法Ⅱ	2後	2					○					1									
陶磁成形技法Ⅲ	3前	2				○			1				1								オムニバス
陶磁技法特別演習	2・3前	2			○														兼1	隔年	
装飾技法Ⅰ	2前	2				○													兼1		
装飾技法Ⅱ	2後	2					○												兼1		
装飾技法Ⅲ	3前	2				○													兼1		
装飾技法特別演習	2・3後	2			○														兼1	隔年	
ロクロ成形Ⅰ	2前	2				○							1								
ロクロ成形Ⅱ	2後	2					○						1								
ロクロ成形Ⅲ	3前	2				○							1								
ロクロ特別演習	3前	2			○														兼1		
石膏型成型Ⅰ	2前	2				○							1								
石膏型成型Ⅱ	2後	2					○						1								
石膏型成型Ⅲ	3前	2				○							1								
石膏型成型特別演習	2・3後	2			○														兼1	隔年	
釉薬化学Ⅰ	2前	2		○															兼1		
釉薬化学Ⅱ	3後	2			○				1												
セラミック科学演習	3前	2			○				1												
セラミック科学実験	3前	2				○			1												
唐津焼演習	2・3前	2			○				1										兼1	共同	
CAD/CAMⅠ	3前	2			○														兼1		
CAD/CAMⅡ	3後	2			○														兼1		
小計（100科目）	—	0	242	0	—	—	8	6	3	0	0	兼28									

コース基礎科目	博物館概論	1後	2			○			1									
	ランドスケープ	1後	2			○			1									
	地域再生論	2前	2			○			1									
	ヘリテージマネジメント論	2前	2			○			2									オムニバス
	地域マネジメント論	3前	2			○			1									
	社会政策	2前	2			○			1									
	コミュニティビジネス	2前	2			○			1									
	美術史基礎	1後	2			○			1									
	Intercultural Communication and Art I (インターカルチュラル・コミュニケーションとアートI)	2後	2					○		1								
	地域情報マネジメント演習	2前	2					○		1								
	フィールドデザイン演習 I	2後	2					○		1								
	エリアスタディー演習 I	2後	2					○		1								
	経営・流通演習 I	2後	2					○		1								
	経営・流通演習 III	2後	2					○		1								
	コンテンツデザイン I	2後	2					○			1							
	視覚伝達デザイン I	2前	2					○		1								
	映像デザイン I	2前	2					○		1								
	情報デザイン I	2後	2					○			1							
小計 (18科目)	—	10	26	0	—	—	—	—	11	3	0	0	0	0	0	0	0	0
コース専門科目 (地域デザインコース)	キュレイトイング基礎	2前	2			○				1								
	博物館経営論	2前	2			○			1									
	博物館資料論	2後	2			○				1								
	博物館展示論	2後	2			○			1									
	博物館資料保存論 (芸術と倫理を含む)	2前	2			○				1								
	博物館情報・メディア論	2後	2			○				1								
	博物館教育論	2後	1			○											兼2	オムニバス・共同 (一部)
	博物館学内実習	1後	2					○	2	1							兼1	オムニバス・共同 (一部)
	博物館学外実習	3前	1					○	2	1							兼1	共同 集中
	美術史 I	2前	2			○			1									
	美術史 II	2後	2			○			1									
	美術史 III	3前	2			○				1								
	美術史演習	2後	2					○	1									
	工芸理論	2・3前	2			○			1									
	キュレーター実務実践演習	2後	2					○		1								
	キュレイトイング応用 I	2前	2			○			3									オムニバス・共同 (一部)
	キュレイトイング応用 II	2後	2			○				2								オムニバス・共同 (一部)
	アートプロデュース論	2前	2			○				1								
	アートマネジメント特別講義	3前	2			○											兼1	隔年 集中
	アートプロデュース演習 I	2後	2					○		1								
	アートプロデュース演習 II	3前	2					○		1								
	考古学 I	2前	2			○			1									
	考古学 II	2後	2			○			1									
	考古学 III	2前	2			○											兼1	集中
	考古学演習 I (古代以前)	2前	2					○	1									隔年
	考古学演習 II (中世・近世)	3前	2					○	1									隔年
	考古学実習 I (室内)	2後	2					○	1									
	考古学実習 II (野外)	3前	2					○	1									
	コンテンツデザイン II	3前	2					○		1								
	コンテンツデザイン III	3後	2					○		1								
	映像デザイン II	3前	2					○	1									
	映像デザイン III	3後	2					○	1									
	情報デザイン II	3前	2					○		1								
	情報デザイン III	3後	2					○		1								
	デザインプロジェクト演習	2後	2					○	1	1								オムニバス・共同 (一部)
	メディアプレゼンテーション	3前	2					○		1								
	デザイン実践セミナー	3後	2					○	2									オムニバス・共同 (一部)
	コミュニケーションデザイン論	2・3前	1			○											兼1	隔年 集中
	コミュニケーションデザイン演習	2・3前	1					○									兼1	隔年 集中
	地域ブランディング論	2・3前	1			○											兼1	隔年 集中
地域ブランディング演習	2・3前	1					○									兼1	隔年 集中	
メディアアート論	2・3前	1			○											兼1	隔年 集中	
メディアアート演習	2・3前	1					○									兼1	隔年 集中	
地域史論 I	2前	2			○											兼2	オムニバス	
地域史論 II	2後	2			○											兼1	隔年	
地域史論 III	3後	2			○											兼1	隔年	
アーカイブズ論	2前	2			○											兼1		
陶磁史	2後	2			○											兼1		
地域史演習	3前	2					○									兼2	オムニバス	



コース 専 門 科 目 ( 地 域 デ ザ イ ン コ ー ス)	古文書解読演習	3後	2			○									兼2	オムニバス
	風土と地理学	1後	2			○			1							
	地域調査分析	3前	2					○		1						
	都市空間論Ⅰ	2後	2			○			1							
	都市空間論Ⅱ	3後	2			○			1							
	フィールドワーク実習	2前	2					○	1							集中
	都市・地域空間史	2前	2			○			1							
	フィールドデザイン演習Ⅱ	3前	2					○	1							
	文化財の保存と活用	2前	2			○			1							
	ヘリテージマネジメント演習	2前	2					○	1							
	地域資源論	3前	2			○									兼1	隔年
	博物館の政治学	3前	2			○			1							
	エリアスタディー演習Ⅱ	3前	2					○	1							
	美術品流通論	2後	2			○			1							
	ミュージアム・マーケティング	3前	2			○			1							
	地域雇用政策論	3前	2			○			1							
	経営・流通演習Ⅱ	3前	2					○	1							
	経営・流通演習Ⅳ	3後	2					○	1							
	Critical Studies in Language and Image I (クリティカル・スタディーズ (言語とイメージ) I)	2後	2			○				1						
	Critical Studies in Language and Image II (クリティカル・スタディーズ (言語とイメージ) II)	3前	2			○				1						
	Critical Studies in Language and Image III (クリティカル・スタディーズ (言語とイメージ) III)	3後	2			○				1						
Intercultural Communication and Art II (インターカルチュラル・コミュニケーションとアートⅡ)	3前	2					○		1							
Intercultural Communication and Art III (インターカルチュラル・コミュニケーションとアートⅢ)	3後	2					○		1							
Art in Context (アート・イン・コンテクスト)	3前	2			○				1							
小計 (73科目)	—	0	138	0		—			12	5	0	0	0		兼14	
卒業研究	4通	6	0	0				○	15	9	3					
小計 (1科目)	—	6	0	0		—			15	9	3	0	0	0		
合計 (216科目)		—	58	444	0	—			15	9	3	0	0		兼43	
学位又は称号	学士(芸術)、学士(地域デザイン)		学位又は学科の分野				美術関係、経済学関係									
卒業要件及び履修方法								授業期間等								
<p><b>【芸術表現コース卒業要件】</b>            教養教育科目30単位以上、専門教育科目94単位以上、合計124単位以上を修得すること。            (履修科目の登録の上限：44単位 (年間))</p> <p>[履修方法]</p> <p>1・教養教育科目 (30単位以上)</p> <p>①大学入門科目 2単位            ②共通基礎科目 6単位            ③基本教養科目 12単位            ④インターフェース科目 8単位            ⑤共通教職科目 2単位</p> <p>2. 専門教育科目 (94単位以上)</p> <p>①学部共通科目 34単位 (必修科目22単位、選択科目12単位)            ②コース基礎科目 22単位 (必修科目20単位、選択科目 2単位)            ③コース選択科目 20単位            ④卒業研究 6単位            ⑤自由選択科目 12単位 (教養教育科目及び専門教育科目)</p> <p><b>【地域デザインコース卒業要件】</b>            教養教育科目32単位以上、専門教育科目92単位以上、合計124単位以上を修得すること。            (履修科目の登録の上限：44単位 (年間))</p> <p>[履修方法]</p> <p>1・教養教育科目 (32単位以上)</p> <p>①大学入門科目 2単位            ②共通基礎科目 6単位            ③基本教養科目 16単位            ④インターフェース科目 8単位            ⑤共通教職科目 0単位</p> <p>2. 専門教育科目 (92単位以上)</p> <p>①学部共通科目 34単位 (必修科目22単位、選択科目12単位)            ②コース基礎科目 20単位 (必修科目10単位、選択科目10単位)            ③コース選択科目 20単位            ④卒業研究 6単位            ⑤自由選択科目 12単位 (教養教育科目及び専門教育科目)</p>								1学年の学期区分		2 期						
								1学期の授業期間		15 週						
								1時限の授業時間		90 分						

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教育課程等の概要															
(芸術地域デザイン学部芸術地域デザイン学科)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
学部共通科目	地域デザイン基礎(デザイン)	1前	2				○		8	5					共同
	地域デザイン基礎(マネジメント)	1前	2				○		5	1					共同
	地域デザイン基礎(フィールドワーク)	1前	2				○		10	3					共同
	芸術表現基礎(絵画)	1前	2				○		4	3					共同
	芸術表現基礎(彫刻)	1前	2				○		3	2					共同
	芸術表現基礎(工芸)	1前	2				○		3	3					共同
	デザイン発想論	1後	2					○	1	1					オムニバス・共同(一部)
	デジタル表現基礎	1後	2					○	1	1					
	職業キャリア論	1後	2				○		1						
	流通論	1前		2			○		1						
	アートマーケティング	1後		2			○		1						
	知的財産権学	2前	2				○							兼1	
	文化経済論	1後		2			○		1						
	アートマネジメント	1前		2			○			1					
	地域再生デザイン学	2後		2			○		1						
	比較オリエンタリズム研究	1後		2			○		1						
	Key Concepts in Art(キーコンセプトインアート)	1後		2			○			1					
	アートと科学	2・3前		2			○		1						
	芸術文化・地域創生論(国内外地域プロジェクト事例研究)	2後	2				○			1					
	地域創生フィールドワーク	3通		6				○	9	6	2				共同
	国内外芸術研修	3前		4				○	3	2					共同
小計(21科目)		—	22	26	0		—	15	9	2	0	0	兼1		
コース基礎科目	芸術表現A(日本画)	1後	2				○			1					
	芸術表現A(西洋画)	1後	2				○			1					
	芸術表現A(彫刻)	1後	2				○		1						
	芸術表現B(窯芸)	1後	2				○		1						
	芸術表現B(染色工芸)	1後	2				○			1					
	芸術表現B(漆・木工芸)	1後	2				○			1					
	美術史基礎	1後		2			○		1						
	工芸理論	2・3前		2			○		1						
	現代美術概論	2・3後		2			○		1						隔年
	美術品流通論	2後		2			○		1						
	デザイン基礎	2後		2				○	1	1					オムニバス・共同(一部)
	図法	2前		2				○			2				
	材料学	2後		2			○		1						
	小計(13科目)		20	6					7	5	2				
コース専門科目(芸術表現コース)	小計(13科目)	2・3後	20	2			○		7	1					隔年
	西洋画概論	2・3前		2			○			1					隔年
	彫刻概論	2・3前		2			○		1						隔年
	染色工芸概論	2・3前		2			○			1					隔年
	漆・木工芸概論	2・3後		2			○			1					隔年
	陶磁史	2後		2			○							兼1	
	窯芸基礎	2後		2				○	1		1				オムニバス
	日本画基礎	2・3後		2				○		1					隔年
	西洋画基礎	2・3前		2				○		1					隔年
	彫刻基礎	2・3前		2				○	1						隔年
	染色工芸基礎	2・3前		2				○		1					隔年
	漆・木工芸基礎	2・3後		2				○		1					隔年
	ミクストメディア基礎	2・3後		2				○	1						隔年
	製図	2前		2				○						兼1	
	日本画Ia	2・3前		4				○		1					隔年
	日本画Ib	2・3前		4				○		1					隔年
	日本画IIa	2・3後		4				○		1					隔年
	日本画IIb	2・3後		4				○		1					隔年
	日本画IIIa	3後		2				○						兼1	隔年 集中
	日本画IIIb	3後		2				○						兼1	隔年 集中
	西洋画Ia	2・3前		4				○		1					隔年
	西洋画Ib	2・3前		4				○		1					隔年
	西洋画IIa	2・3後		4				○		1					隔年
	西洋画IIb	2・3後		4				○		1					隔年
	西洋画IIIa	3後		2				○						兼1	隔年 集中
	西洋画IIIb	3後		2				○						兼1	隔年 集中

コース専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	彫刻Ⅰa	2・3前	4			○		1											隔年					
		彫刻Ⅰb	2・3前	4				○		1											隔年				
		彫刻Ⅱa	2・3後	4				○		1											隔年				
		彫刻Ⅱb	2・3後	4				○		1											隔年				
		彫刻Ⅲa	3前	2									○								兼1	隔年	集中		
		彫刻Ⅲb	3前	2										○							兼1	隔年	集中		
		ミクストメディアⅠa	2・3前	4					○		1											隔年			
		ミクストメディアⅠb	2・3前	4					○		1											隔年			
		ミクストメディアⅡa	2・3後	4					○		1											隔年			
		ミクストメディアⅡb	2・3後	4					○		1											隔年			
		ミクストメディアⅢa	3後	2										○								兼1	隔年	集中	
		ミクストメディアⅢb	3後	2											○							兼1	隔年	集中	
		視覚伝達デザインⅠ	2前	2					○		1														
		視覚伝達デザインⅡ	3前	2					○		1														
		視覚伝達デザインⅢ	3後	2					○		1														
		コンテンツデザインⅠ	2後	2					○				1												
		映像デザインⅠ	2前	2					○		1														
		情報デザインⅠ	2後	2					○				1												
		コミュニケーションデザイン論	2・3前	1				○														兼1	隔年	集中	
		コミュニケーションデザイン演習	2・3前	1					○													兼1	隔年	集中	
		地域ブランディング論	2・3前	1				○														兼1	隔年	集中	
		地域ブランディング演習	2・3前	1					○													兼1	隔年	集中	
		メディアアート論	2・3前	1				○														兼1	隔年	集中	
		メディアアート演習	2・3前	1					○													兼1	隔年	集中	
		染色工芸Ⅰa	2・3前	4					○				1										隔年		
		染色工芸Ⅰb	2・3前	4					○				1										隔年		
		染色工芸Ⅱa	2・3後	4					○				1										隔年		
		染色工芸Ⅱb	2・3後	4					○				1										隔年		
		染色工芸Ⅲa	3前	2										○								兼1	隔年	集中	
		染色工芸Ⅲb	3前	2											○							兼1	隔年	集中	
		漆・木工芸Ⅰa	2・3前	4					○				1										隔年		
		漆・木工芸Ⅰb	2・3前	4					○				1										隔年		
		漆・木工芸Ⅱa	2・3後	4					○				1										隔年		
		漆・木工芸Ⅱb	2・3後	4					○				1										隔年		
		漆・木工芸Ⅲa	2・3前	2										○								兼1	隔年	集中	
		漆・木工芸Ⅲb	2・3前	2											○							兼1	隔年	集中	
		応用木工芸	2・3前	2									1												
		金属工芸Ⅰa	2・3前	2										○								兼1	隔年	集中	
		金属工芸Ⅰb	2・3前	2										○								兼1	隔年	集中	
		金属工芸Ⅱa	2・3後	2										○								兼1	隔年	集中	
		金属工芸Ⅱb	2・3後	2										○								兼1	隔年	集中	
		衣食住文化論	2・3前	2				○														兼3	隔年	オムニバス	
		世界の中の肥前陶磁器	2後	2				○														兼1			
		食と器	2・3前	2					○													兼2	隔年	オムニバス	
		小計（70科目）	—	20	182	0		—			6	6	1	0	0							兼20			
		コース専門科目（地域デザインコース）	コース基礎科目	博物館概論	1後	2			○		1														
				ランドスケープ	1後	2			○		1														
				地域再生論	2前	2			○		1														
				ヘリテージマネジメント論	2前	2			○		2														オムニバス
				地域マネジメント論	3前	2			○		1														
				社会政策	2前	2			○		1														
				コミュニティビジネス	2前	2			○		1														
				美術史基礎	1後	2			○		1														
				Intercultural Communication and Art I (インターカルチュラル・コミュニケーションとアートⅠ)	2後	2				○				1											
				地域情報マネジメント演習	2前	2				○		1													
				フィールドデザイン演習Ⅰ	2後	2				○		1													
				エリアスタディー演習Ⅰ	2後	2				○		1													
経営・流通演習Ⅰ	2後			2				○		1															
経営・流通演習Ⅲ	2後			2				○		1															
コンテンツデザインⅠ	2後			2				○				1													
視覚伝達デザインⅠ	2前			2				○		1															
映像デザインⅠ	2前			2				○		1															
情報デザインⅠ	2後			2				○				1													
小計（18科目）	—			10	26	0		—		11	3	0	0	0	0										
コース選択科目	コース選択科目			キュレイトイング基礎	2前	2			○			1													
		博物館経営論	2前	2			○		1																
		博物館資料論	2後	2			○			1															
		博物館展示論	2後	2			○			1															
		博物館資料保存論（芸術と倫理を含む）	2前	2			○				1														
		博物館情報・メディア論	2後	2			○				1														
		博物館教育論	2後	1			○														兼2	オムニバス・共同（一部）			
		博物館学内実習	1後	2					○	2	1										兼1	オムニバス・共同（一部）			
		博物館学外実習	3前	1					○	2	1										兼1	共同	集中		

コース 専門科目 (地域デザインコース)	コース 選択科目	美術史 I	2前	2	○			1										
		美術史 II	2後	2	○			1										
		美術史 III	3前	2	○				1									
		美術史演習	2後	2	○	○		1			1							
		工芸理論	2・3前	2	○			1										
		キュレーター実務実践演習	2後	2	○	○					1							
		キュレイトイング応用 I	2前	2	○			3										オムニバス・共同 (一部)
		キュレイトイング応用 II	2後	2	○						2							オムニバス・共同 (一部)
		アートプロデュース論	2前	2	○						1							
		アートマネジメント特別講義	3前	2	○												兼1	隔年 集中
		アートプロデュース演習 I	2後	2		○					1							
		アートプロデュース演習 II	3前	2		○					1							
		考古学 I	2前	2	○				1									
		考古学 II	2後	2	○				1									
		考古学 III	2前	2	○												兼1	集中
		考古学演習 I (古代以前)	2前	2		○			1									隔年
		考古学演習 II (中世・近世)	3前	2		○			1									隔年
		考古学実習 I (室内)	2後	2			○		1									
		考古学実習 II (野外)	3前	2			○		1									
		コンテンツデザイン II	3前	2			○					1						
		コンテンツデザイン III	3後	2			○					1						
		映像デザイン II	3前	2			○		1									
		映像デザイン III	3後	2			○		1									
		情報デザイン II	3前	2			○					1						
		情報デザイン III	3後	2			○					1						
		デザインプロジェクト演習	2後	2			○		1		1							オムニバス・共同 (一部)
		メディアプレゼンテーション	3前	2			○					1						
		デザイン実践セミナー	3後	2			○		2									オムニバス・共同 (一部)
		コミュニケーションデザイン論	2・3前	1	○												兼1	隔年 集中
		コミュニケーションデザイン演習	2・3前	1		○											兼1	隔年 集中
		地域ブランディング論	2・3前	1	○												兼1	隔年 集中
		地域ブランディング演習	2・3前	1		○											兼1	隔年 集中
		メディアアート論	2・3前	1	○												兼1	隔年 集中
		メディアアート演習	2・3前	1		○											兼1	隔年 集中
		地域史論 I	2前	2	○												兼2	オムニバス
		地域史論 II	2後	2	○												兼1	隔年
		地域史論 III	3後	2	○												兼1	隔年
		アーカイブズ論	2前	2	○												兼1	
		陶磁史	2後	2	○												兼1	
		地域史演習	3前	2		○											兼2	オムニバス
		古文書解読演習	3後	2		○											兼2	オムニバス
		風土と地理学	1後	2	○					1								
		地域調査分析	3前	2		○				1								
		都市空間論 I	2後	2	○					1								
		都市空間論 II	3後	2	○					1								
		フィールドワーク実習	2前	2			○			1								集中
		都市・地域空間史	2前	2	○					1								
		フィールドデザイン演習 II	3前	2		○				1								
		文化財の保存と活用	2前	2	○					1								
		ヘリテージマネジメント演習	2前	2		○				1								
		地域資源論	3前	2	○												兼1	隔年
		博物館の政治学	3前	2	○					1								
		エリアスタディー演習 II	3前	2		○				1								
		美術品流通論	2後	2	○					1								
		ミュージアム・マーケティング	3前	2	○					1								
		地域雇用政策論	3前	2	○					1								
		経営・流通演習 II	3前	2		○				1								
		経営・流通演習 IV	3後	2		○				1								
		Critical Studies in Language and Image I (クリティカル・スタディーズ (言語とイメージ) I)	2後	2	○							1						
		Critical Studies in Language and Image II (クリティカル・スタディーズ (言語とイメージ) II)	3前	2	○							1						
		Critical Studies in Language and Image III (クリティカル・スタディーズ (言語とイメージ) III)	3後	2	○							1						
		Intercultural Communication and Art II (インターカルチュラル・コミュニケーションとアート II)	3前	2		○						1						
		Intercultural Communication and Art III (インターカルチュラル・コミュニケーションとアート III)	3後	2		○						1						
		Art in Context (アート・イン・コンテキスト)	3前	2	○							1						
		小計 (73科目)	—	0	138	0	—	—	—	12	5	0	0	0	0	0	兼14	
		卒業研究	4通	6	0	0			○	15	9	3						
		小計 (1科目)	—	6	0	0	—	—	—	15	9	3	0	0	0	0		
		合計 (196科目)	—	52	278	0	—	—	—	15	9	3	0	0	0	0	兼43	
		学位又は称号	学士(芸術)、学士(地域デザイン)		学位又は学科の分野					美術関係、経済学関係								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<p><b>【芸術表現コース卒業要件】</b>            教養教育科目30単位以上、専門教育科目94単位以上、合計124単位以上を修得すること。            (履修科目の登録の上限：44単位(年間))</p>	1学年の学期区分	2期
<p>[履修方法]            1・教養教育科目(30単位以上)            ①大学入門科目 2単位            ②共通基礎科目 6単位            ③基本教養科目 12単位            ④インターフェース科目 8単位            ⑤共通教職科目 2単位</p>	1学期の授業期間	15週
<p>2. 専門教育科目(94単位以上)            ①学部共通科目 34単位(必修科目22単位、選択科目12単位)            ②コース基礎科目 22単位(必修科目20単位、選択科目2単位)            ③コース選択科目 20単位            ④卒業研究 6単位            ⑤自由選択科目 12単位(教養教育科目及び専門教育科目)</p>	1時限の授業時間	90分
<p><b>【地域デザインコース卒業要件】</b>            教養教育科目32単位以上、専門教育科目92単位以上、合計124単位以上を修得すること。            (履修科目の登録の上限：44単位(年間))</p>		
<p>[履修方法]            1・教養教育科目(32単位以上)            ①大学入門科目 2単位            ②共通基礎科目 6単位            ③基本教養科目 16単位            ④インターフェース科目 8単位            ⑤共通教職科目 0単位</p>		
<p>2. 専門教育科目(92単位以上)            ①学部共通科目 34単位(必修科目22単位、選択科目12単位)            ②コース基礎科目 20単位(必修科目10単位、選択科目10単位)            ③コース選択科目 20単位            ④卒業研究 6単位            ⑤自由選択科目 12単位(教養教育科目及び専門教育科目)</p>		

(用紙 日本工業規格A4縦型)

教育課程等の概要														
(芸術地域デザイン学部芸術地域デザイン学科)														
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	
学部共通科目	アートと科学	2・3前		2		○			1					
	有田キャンパスプロジェクト	3通		6				○	3	1	1			共同
	小計(2科目)	—	0	8	0	—	—	—	3	1	1	0	0	
コース基礎科目	工芸理論	2・3前		2		○			1					
	小計(1科目)	—	0	2		—	—	—	1					
	陶磁マーケティング	3前		2		○			1					
	陶磁器産業論	3後		2		○			1					兼1
	釉薬化学概論	2前		2		○								兼1
	セラミック原料化学	2前		2		○			1					
	セラミック焼成	2後		2			○		1					
	陶磁特別演習Ⅰ	2・3後		2			○							兼1 隔年 集中
	陶磁特別演習Ⅱ	2・3後		2			○							兼1 隔年 集中
	陶磁成形技法Ⅰ	2前		2				○			1			
	陶磁成形技法Ⅱ	2後		2				○			1			
	陶磁成形技法Ⅲ	3前		2				○		1		1		オムニバス
	陶磁技法特別演習	2・3前		2				○						兼1 隔年
	装飾技法Ⅰ	2前		2				○						兼1
	装飾技法Ⅱ	2後		2				○						兼1
	装飾技法Ⅲ	3前		2				○						兼1
	装飾技法特別演習	2・3後		2				○						兼1 隔年
	ロクロ成形Ⅰ	2前		2				○			1			
	ロクロ成形Ⅱ	2後		2				○			1			
	ロクロ成形Ⅲ	3前		2				○			1			
	ロクロ特別演習	3前		2				○						兼1
	石膏型成型Ⅰ	2前		2				○			1			
	石膏型成型Ⅱ	2後		2				○			1			
	石膏型成型Ⅲ	3前		2				○			1			
	石膏型成型特別演習	2・3後		2				○						兼1 隔年
	釉薬化学Ⅰ	2前		2			○							兼1
	釉薬化学Ⅱ	3後		2				○		1				兼1
	セラミック科学演習	3前		2				○		1				
	セラミック科学実験	3前		2				○		1				
	唐津焼演習	2・3前		2				○		1				兼1 共同
	CAD/CAMⅠ	3前		2				○						兼1
	CAD/CAMⅡ	3後		2				○						兼1
	小計(30科目)	—	0	60	0	—	—	—	—	7	0	3	0	0
コース専門科目(芸術表現コース)	工芸理論	2・3前		2		○			1					
	小計(1科目)	—	0	2	0	—	—	—	1	0	0	0	0	
コース専門科目(地域デザイ)	卒業研究	4通	6	0	0			○	2	0	3			
	小計(1科目)	—	6	0	0	—	—	—	2	0	3	0	0	0
合計(35科目)		—	6	72	0	—	—	—	3	1	3	0	0	兼11
学位又は称号	学士(芸術)、学士(地域デザイン)		学位又は学科の分野			美術関係、経済学関係								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
<b>【芸術表現コース卒業要件】</b> 教養教育科目30単位以上、専門教育科目94単位以上、合計124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限：44単位(年間))	1学年の学期区分	2期
<b>【履修方法】</b> 1・教養教育科目(30単位以上) ①大学入門科目 2単位 ②共通基礎科目 6単位 ③基本教養科目 12単位 ④インターフェース科目 8単位 ⑤共通教職科目 2単位	1学期の授業期間	15週
2. 専門教育科目(94単位以上) ①学部共通科目 34単位(必修科目22単位、選択科目12単位) ②コース基礎科目 22単位(必修科目20単位、選択科目2単位) ③コース選択科目 20単位 ④卒業研究 6単位 ⑤自由選択科目 12単位(教養教育科目及び専門教育科目)	1時限の授業時間	90分
<b>【地域デザインコース卒業要件】</b> 教養教育科目32単位以上、専門教育科目92単位以上、合計124単位以上を修得すること。 (履修科目の登録の上限：44単位(年間))		
<b>【履修方法】</b> 1・教養教育科目(32単位以上) ①大学入門科目 2単位 ②共通基礎科目 6単位 ③基本教養科目 16単位 ④インターフェース科目 8単位 ⑤共通教職科目 0単位		
2. 専門教育科目(92単位以上) ①学部共通科目 34単位(必修科目22単位、選択科目12単位) ②コース基礎科目 20単位(必修科目10単位、選択科目10単位) ③コース選択科目 20単位 ④卒業研究 6単位 ⑤自由選択科目 12単位(教養教育科目及び専門教育科目)		

教 育 課 程 等 の 概 要																	
(教養教育科目)																	
科目 区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手	兼任(常勤)	兼任(非常勤)		
大学入 門科目	大学入門科目Ⅰ	1前	2			○			1						兼43	43	0
	大学入門科目Ⅱ	1後	2			○			1						兼44	44	0
	小計(2科目)	—	4	0	0	—			1	0	0	0	0	—	43	43	0
共通基 礎科目	外国語科目																
	英語A	1前	1			○			1		1				兼50	0	5
	英語B	1後	1			○					1				兼60	0	6
	英語C	2前	1			○				2					兼30	0	3
	英語D	2後	1			○				2					兼30	0	3
	Intercultural English:Awakenings	1前		1		○					1						
	Integrated Speaking:Awakenings	1前		1		○					1						
	Intercultural English:Bridging	1後		1		○				1							
	Integrated Writing:Awakenings	1後		1		○					1						
	Integrated Writing:Bridging	2前		1		○				1							
	English Test Success TOEFL I	2前		1		○				1							
	Integrated Speaking:Bridging	2後		1		○				1							
	English Test Success TOEFL II	2後		1		○					1						
	日本語Ⅰ	1前		2		○				1					兼10	0	0
日本語Ⅱ	1後		2		○				1					兼10	0	0	
情報リテラシー科目																	
情報基礎概論	1前		2		○									兼33	3	0	
情報基礎演習Ⅰ	1前・後		1			○								兼55	5	0	
小計(16科目)	—		7	12	0	—			1	6	2	0	0	—	7	8	
自然科学と技術の分野	基礎数理の世界	1～2		2		○									兼11	1	0
	応用数理の世界	1～2		2		○									兼11	1	0
	物理の世界Ⅰ	1～2		2		○									兼11	1	0
	物理の世界Ⅱ	1～2		2		○									兼11	1	0
	実験物理学	1～2		2		○									兼11	1	0
	化学の世界A	1～2		2		○									兼22	2	0
	化学の世界B	1～2		2		○									兼22	2	0
	実験化学Ⅰ	1～2		2		○									兼77	7	0
	実験化学Ⅱ	1～2		2		○									兼66	6	0
	生物学の世界	1～2		2		○				1					兼11	1	0
	地学の世界	1～2		2		○									兼11	1	0
	Breakthroughs in the Modern Age	1～2		2		○					1						
	The Natural World	1～2		2		○						1					
	情報科学の世界Ⅰ	1～2		2		○				1					兼11	1	0
	情報科学の世界Ⅱ	1～2		2		○				1							
	機械工学の世界A	1～2		2		○									兼22	2	0
	機械工学の世界B	1～2		2		○									兼22	2	0
	電気電子工学の世界A	1～2		2		○									兼11	1	0
	電気電子工学の世界B	1～2		2		○									兼11	1	0
	都市と生活	1～2		2		○									兼11	1	0
環境科学Ⅱ	1～2		2		○					1				兼11	1	0	
環境保全論Ⅰ	1～2		2		○									兼22	2	0	



基本 教養 科目	環境保全論Ⅱ	1～2	2	○						兼2	2	0
	資源循環論Ⅰ	1～2	2	○						兼4	4	0
	資源循環論Ⅱ	1～2	2	○						兼4	4	0
	地域の環境－森・川・海を繋ぐ環境と暮らし	1～2	2	○						兼2	2	0
	わかりやすい機構学	1～2	2	○		1						
	セラミックスの不思議	1～2	2	○						兼1	1	0
	21世紀のエネルギーと環境問題	1～2	2	○						兼1	1	0
	生物科学の世界A	1～2	2	○						兼2	2	0
	生物科学の世界B	1～2	2	○						兼1	1	0
	生物科学の世界C	1～2	2	○						兼1	1	0
	生物科学の世界D	1～2	2	○						兼1	1	0
	栄養と健康の科学	1～2	2	○						兼2	2	0
	くらしの中の生命科学	1～2	2	○						兼1	1	0
	生命科学の基礎A	1～2	2	○			1			兼1	1	0
	生命科学の基礎B	1～2	2	○						兼1	1	0
	生命科学の基礎C	1～2	2	○						兼1	1	0
	生命科学の基礎D	1～2	2	○						兼1	1	0
	生命科学の基礎E	1～2	2	○						兼1	1	0
	生命科学の基礎F	1～2	2	○						兼2	2	0
	自然科学と技術の分野特別講義	1～2	2	○						兼1	1	0
	文化の分野											
	日本文学	1～2	2	○						兼1	1	0
	アジアの文化・文学	1～2	2	○		1	1					
	欧米の文化・文学	1～2	2	○			1			兼1	1	0
	芸術論	1～2	2	○		2				兼5	5	0
	画像へのアプローチ	1～2	2	○						兼1	0	1
	伝統工芸と匠	1～2	2	○		1				兼1	0	1
	映像制作入門	1～2	2	○		1				兼1	1	0
	シルクロード入門	1～2	2	○		1						
	日本語学	1～2	2	○			1					
	言語学	1～2	2	○			2					
	応用言語学	1～2	2	○			1	1				
	コミュニケーション論	1～2	2	○						兼1	1	0
	記号論	1～2	2	○						兼1	1	0
	Critical Thinking for the Modern Age	1～2	2	○			1					
	Cultural Metaphors	1～2	2	○				1				
	デジタル表現技法	1～2	2	○					1		0	1
	教育デジタル表現	1～2	2	○		1				兼1	0	1
	プロデューサー原論	1～2	2	○		1				兼1	0	1
	映画製作	1～2	2	○						兼1	0	1
	哲学・倫理学	1～2	2	○						兼1	1	0
	東洋思想	1～2	2	○						兼1	1	0
	考古学	1～2	2	○		1				兼1	1	0
	日本史	1～2	2	○		1				兼2	2	0
	東洋史	1～2	2	○			1					
	西洋史	1～2	2	○						兼1	1	0
	人類学	1～2	2	○						兼2	2	0
文化の分野特別講義	1～2	2	○			1			兼1	1	0	
現代社会の分野												
経済学	1～2	2	○		1				兼2	1	0	
会計学	1～2	2	○						兼1	1	0	
経営学	1～2	2	○						兼1	1	0	
法律学	1～2	2	○						兼1	1	0	
政治学	1～2	2	○						兼1	1	0	
日本国憲法	1～2	2	○						兼1	0	1	
社会思想史	1～2	2	○		1							
地理学	1～2	2	○		1							

教育学	1～2	2	○				1				兼2	2	0
心理学A	1～2	2	○								兼2	2	0
心理学B	1～2	2	○								兼1	1	0
心理学C	1～2	2	○								兼1	1	0
障がい者支援論	1～2	2	○								兼2	1	1
Citizenship Education	1～2	2	○				1						
情報メディアと倫理	1～2	2	○				1				兼1	1	0
身体表現入門	1～2	2	○								兼1	0	1
授業支援入門	1～2	2	○				1				兼2	1	1
発達障害と神経心理学	1～2	2	○								兼1	1	0
心の個人差	1～2	2	○								兼1	1	0
心身の障害	1～2	2	○								兼1	1	0
心の病と癒しのプロセス	1～2	2	○								兼1	1	0
子どもの病気と子育て	1～2	2	○								兼1	1	0
学習障害と授業	1～2	2	○								兼1	1	0
心身の発達過程	1～2	2	○								兼1	1	0
現代人権論	1～2	2	○								兼1	1	0
ジャーナリズムの現在	1～2	2	○								兼1	1	0
環境科学Ⅰ	1～2	2	○					1			兼6	6	0
環境科学Ⅲ	1～2	2	○					1			兼6	6	0
環境経営学	1～2	2	○								兼2	1	1
環境会計	1～2	2	○								兼1	1	0
作業環境測定論	1～2	2	○								兼1	1	0
衛生管理論	1～2	2	○								兼1	1	0
高齢者・障がい者の生活・就労支援概論	1～2	2	○								兼1	1	0
高齢者・障がい者就労支援の諸理論	1～2	2	○								兼2	1	1
インストラクショナル・デザイン	1～2	2	○								兼1	1	0
現代社会の分野特別講演	1～2	2	○								兼3	3	0
総合科目													
国際交流実習	1～2	2				○			1		兼1	1	0
キャリアデザイン	1～2	2	○								兼1	1	0
外国人留学生生用科目													
日本事情（自然科学と技術）	1～2	2	○								兼1	1	0
日本事情（文化）	1～2	2	○				1						
日本事情（現代社会）	1～2	2	○				1						
小計（110科目）	—	0	220	0	—		7	11	3	0	0	77	6
環境コース													
機械工学と環境Ⅰ	2前	2	○								兼3	3	0
機械工学と環境Ⅱ	2後	2	○								兼3	3	0
機械工学と環境Ⅲ	3前	2	○								兼6	6	0
機械工学と環境Ⅳ	3後	2	○								兼5	5	0
電気電子工学と環境Ⅰ	2前	2	○								兼1	1	0
電気電子工学と環境Ⅱ	2後	2	○								兼1	1	0
電気電子工学と環境Ⅲ	3前	2	○								兼1	1	0
電気電子工学と環境Ⅳ	3後	2	○								兼1	1	0
有明海学Ⅰ	2前	2	○				1	1			兼3	3	0
有明海学Ⅱ	2後	2	○					1					
有明海学Ⅲ	3前	2	○				1	1			兼4	4	0
有明海学Ⅳ	3後	2	○				1				兼1	1	0
地域環境の保全と市民社会Ⅰ	2前	2	○				1						
地域環境の保全と市民社会Ⅱ	2後	2	○								兼2	2	0
地域環境の保全と市民社会Ⅲ	3前	2	○								兼2	2	0
地域環境の保全と市民社会Ⅳ	3後	2	○								兼2	2	0
環境教育Ⅰ	2前	2	○								兼3	3	0
環境教育Ⅱ	2後	2	○								兼9	9	0
環境教育Ⅲ	3前	2	○								兼1	1	0
環境教育Ⅳ	3後	2	○								兼1	9	0



	現代社会と医療Ⅲ	3前		2		○							兼2	2	0	
	現代社会と医療Ⅳ	3後		2		○							兼1	1	0	
	食と健康Ⅰ	2前		2		○							兼4	4	0	
	食と健康Ⅱ	2後		2		○							兼1	1	0	
	食と健康Ⅲ	3前		2		○							兼7	7	0	
	食と健康Ⅳ	3後		2		○							兼1	1	0	
	子どもの発達支援Ⅰ	2前		2		○							兼1	0	1	
	子どもの発達支援Ⅱ	2後		2		○							兼1	1	0	
	子どもの発達支援Ⅲ	3前		2		○							兼4	2	0	
	子どもの発達支援Ⅳ	3後		2		○							兼2	2	0	
	障がい者就労支援Ⅰ	2前		2		○							兼2	2	0	
	障がい者就労支援Ⅱ	2後		2		○							兼3	3	0	
	障がい者就労支援Ⅲ	3前		2		○							兼1	1	0	
	障がい者就労支援Ⅳ	3後		2		○							兼2	2	0	
	地域・佐賀学コース															
	佐賀の歴史文化Ⅰ	2前		2		○			1				兼1	1	0	
	佐賀の歴史文化Ⅱ	2後		2		○										
	佐賀の歴史文化Ⅲ	3前		2		○							兼1	1	0	
	佐賀の歴史文化Ⅳ	3後		2		○			1							
	地域経済と社会Ⅰ	2前		2		○							兼1	1	0	
	地域経済と社会Ⅱ	2後		2		○							兼1	1	0	
	地域経済と社会Ⅲ	3前		2		○							兼1	1	0	
	地域経済と社会Ⅳ	3後		2		○							兼1	1	0	
	地域創成学Ⅰ	2前		2		○			1				兼2	2	0	
	地域創成学Ⅱ	2後		2		○			1		1					
	地域創成学Ⅲ	3前		2		○							兼3	3	0	
	地域創成学Ⅳ	3後		2		○			1				兼2	2	0	
	インターフェース演習科目															
	インターフェース演習	2～3		2		○							兼1	1	0	
	小計（101科目）	—	0	202	0	—			4	8	3	0	0	155	3	
職共 科通 目教	体育実技Ⅰ	1前・後		1							1			兼4	0	0
	体育実技Ⅱ	1前・後		1							1			兼4	1	0
	小計（2科目）	—	0	2	0	—			0	0	1	0	0	—	1	0
	合計（231科目）	—	11	436	0	—			8	12	5	0	0	234	17	

授 業 科 目 の 概 要			
(芸術地域デザイン学部芸術地域デザイン学科)			
科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
学部 共通 科目	地域デザイン基礎（デザイン）	<p>授業の到達目標及びテーマ 地域社会からコンテンツ（テーマ例：熱気球大会、シュガーロード、農産物、佐賀錦など）を発掘し、調査・取材して独自の切り口で魅力を引き出し、プレゼンテーションすることを通して、デザインに不可欠なアイデアの発想方法、イメージを形にする基本的な方法を学ぶ。 ものを見る基本的な姿勢を身につけ、場を見る力を養い、アートマネジメント、コスト、流通、経営の知識や手法を生かした効果的なデザイン戦略について学び、さらに、ブランディングの基礎を経験する。</p> <p>授業の概要 授業では、5～6人のチームを編成し、テーマに沿ってコンテンツの抽出から調査・取材、ディスカッション、プレゼンテーションに至るプロセスを役割分担の中で経験しながら客観的魅力の発見と発表に結実させる。これらの課題を通して芸術やデザインとの接点を見だし、流通や発信を視野に入れながら柔軟な思考を持ち主体的な創造性と協働で生み出す力を育む。</p> <p>（担当教員：○荒木博申・中村隆敏・小瀬村貴哉・杉本達應・山下宗利・重藤輝行・山崎功・Houghton Stephanie Ann・花田伸一・山口夕妃子・西島博樹・藤巻美恵・有馬隆文） 授業は以下の専門分野を中心に担当者全員で指導、評価する。（○は主担当）</p> <p>○（④ 荒木博申）全体統括、ガイダンス等を担当しグループ毎の授業効果を適宜判断しながら進めていく。 （⑧ 中村隆敏）まとめとしてのプレゼンテーションと評価の検討を行い円滑なディスカッションをサポートする。 （⑩ 小瀬村貴哉）プレゼンテーションにおける方策や技術を支援し、効果的なディスカッションができるようサポートする。 （⑫ 杉本達應）プレゼンテーションの作法やメディアの活用などを支援し、ディスカッションや発表のサポートを行う。 （⑮ 山下宗利）地理的なフィールドワークを指導する。 （⑯ 重藤輝行）文化遺産に関するフィールドワークを指導する。 （⑰ 山崎 功）地域とアジア・世界に関わるフィールドワークを指導する。 （⑱ Houghton Stephanie Ann）地域から世界へと繋がるフィールドづくりについて指導する。 （㉑ 花田伸一）アートマネジメントの手法を活かした地域づくりに関するフィールドワークを指導する （㉒ 山口夕妃子）経営・マネジメントに関するフィールドワークについて指導する。 （㉓ 西島博樹）コスト・流通に関するフィールドワークについて指導する。 （㉔ 藤巻美恵）平面表現、色彩表現、地域での造形活動とプレゼンテーションの方法について指導する。 （㉕ 有馬隆文）都市に関するフィールドワークについて指導する。</p>	共同
	学部 共通 科目	地域デザイン基礎（マネジメント）	<p>授業の到達目標及びテーマ 経営学の基本的な理論や知識を学び、地域や芸術におけるマネジメント課題と解決方法をみにつけることを到達目標とする。前半は講義形式で身近な商品やサービスを事例として挙げながら、それらを周りを取り巻く経済・経営環境を理解することを目標とする。講義の後半は、具体的な課題をもとにマネジメント能力・マーケティング思考をみにつけることを目標とする。</p> <p>授業の概要 講義の前半は企業や消費者の理解をするために基本的な経営、マーケティングの用語や理論を中心とする。後半はPBL型教育を実践し、マネジメントの理論を活用しながら、課題発見、課題解決能力をみにつける。</p> <p>（担当教員：○山口夕妃子・西島博樹・富田義則・浅田智子・花田伸一・赤津隆） 授業は以下の専門分野を中心に担当者全員で指導、評価する。（○は主担当）</p> <p>○（⑯ 山口夕妃子）経営・マーケティングについて指導する。 （⑥ 西島博樹）経営・流通について指導する。 （② 富田義典）経済について指導する。 （③ 浅田智子）地域におけるミュージアムなどの施設を活かした地域づくりに関するフィールドワーク指導する。 （⑱ 花田伸一）アートを活かした地域づくりに関するフィールドワークを指導する （⑩ 赤津隆）地域における新製品の研究開発に関するフィールドワークを指導する</p>

<p style="text-align: center;">学部 共通 科目</p>	<p>地域デザイン基礎（フィールドワーク）</p>	<p>授業の到達目標及びテーマ 文化・歴史・地域資源を再生・保護・活用し、フィールドをデザインするにあたっての、フィールド調査の基本的な姿勢を身につけ、場を見る力を養う。文化・歴史・地域資源を活用したフィールドの魅力を引き出し、フィールドと人やものをつなげるマネジメントの手法を身につけ、協働して新たな場を作り上げる事ができるようになる。またプレゼンテーションの技法を学び、発表することを通して主体的にアウトプットする基本的な能力を養う。</p> <p>授業の概要 フィールドワーク演習ではテーマに沿ってフィールドワーク（1チーム9、10人の12チーム程度）を行う。訪問する調査地域において地域の置かれている現状を把握してその課題を見つけるとともに、施設等の入館者数やスタッフの配置と業務、予算、実施する事業等の、運営・経営面や地域経済との関連についても調べ、それをふまえて討議をすすめる。これらを通して、より実質的な郷土の文化・歴史資源を再生・保護・活用したフィールドの魅力を引き出すフィールドデザインプランの立案、プレゼンテーションを行う。</p> <p>（担当教員：○山下宗利・重藤輝行・山崎功・Houghton Stephanie Ann・有馬隆文・吉住磨子・浅田智子・花田伸一・西島博樹・富田義典・山口夕妃子・中村隆敏・杉本達應） 授業は以下の専門分野を中心に担当者全員で指導、評価する。（○は主担当）</p> <p>○（⑤ 山下宗利）地理学的なフィールドワークを指導する。 （⑮ 重藤輝行）文化遺産（ヘリテージマネジメント）に関するフィールドワークを指導する。 （⑬ 山崎 功）地域とアジア・世界に関わるフィールドワークを指導する。 （⑰ Houghton Stephanie Ann）地域から世界へと繋がるフィールドづくりについて指導する。 （⑫ 有馬隆文）都市に関するフィールドワークについて指導する。 （⑨ 吉住磨子）地域・芸術資源に関するフィールドワークを指導する。 （③ 浅田智子）地域におけるミュージアムのあり方に関するフィールドワークを指導する。 （⑱ 花田伸一）アートを活かした地域づくりに関するフィールドワークを指導する。 （⑥ 西島博樹）経営学の視点から地域活性化に関するフィールドワークについて指導する。 （② 富田義典）産業構造・雇用構造の変化と地域活性化について指導する。 （⑩ 山口夕妃子）経営・マネジメントに関するフィールドワークについて指導する。 （⑧ 中村隆敏）まとめとしてのプレゼンテーションと評価の検討を行い円滑なディスカッションをサポートする。 （⑫ 杉本達應）プレゼンテーションの作法やメディアの活用などを支援し、ディスカッションや発表のサポートを行う。</p>	<p style="text-align: center;">共同</p>
<p style="text-align: center;">学部 共通 科目</p>	<p>芸術表現基礎（絵画）</p>	<p>授業の到達目標及びテーマ 鉛筆や水彩の基本的な技術を学びながら絵画の基本である素描を経験する。対象を見だし、思考し、そしてテーマを発見していく素描のプロセスと視点を学び、創作の基礎を経験する。さらに版表現としてアウトプットすることを学び、素描や手わざによる思考やそのプロセスを表現として昇華させることを学ぶ。</p> <p>授業の概要 授業では、まずさまざまな素描とその歴史の講義を受け、その後実際に対象をみて鉛筆で描写を行う。鉛筆のいろいろな使い方と対象の観察の方法を学ぶことにより自己の描写力と観察力が変容するプロセスを経験する。 次に色の三原色を使ってさまざまな色を作ることを学び、構内で写生を行う。普段見慣れている構内の風景の中から場を切り取り形や色を発見して行くプロセスを経験する。 さらにこれらの素描や写生をもとに、版表現を体験する。版を作り、インクをのせ、プレスで刷るという手順や、紙を表にするまではどのように仕上がるかが予想出来ないなどの豊かな表現性などの、「版表現」のアナログの側面とデジタルとの違いを感じ多くの示唆を得る。</p> <p>（担当教員：○小木曾誠・吉住磨子・田中右紀・石崎誠和・荒木博申・小瀬村貴哉・柳健司） 授業は以下の専門分野を中心に担当者全員で指導、評価する。（○は主担当）</p> <p>○（20 小木曾誠）素描に関する講義、平面表現、色彩表現、全般的な素描活動、版画活動を指導する。 （7 吉住磨子）素描に関する講義、合評に関わる活動時に指導する。 （9 田中右紀）素描に関する講義、全般的な素描活動、版画活動を指導する。 （21 石崎誠和）素描に関する講義、平面表現、色彩表現、全般的な素描活動、版画活動を指導する。 （3 荒木博申）平面表現、色彩表現にかかる造形活動と合評に関わる活動時に指導する。 （18 小瀬村貴哉）平面表現、色彩表現にかかる造形活動と合評に関わる活動時に指導する。 （5 柳 健司）平面表現、素材間をまたぐ造形活動と合評に関わる活動時に指導する。</p>	<p style="text-align: center;">共同</p>

<p style="text-align: center;">学部 共通 科目</p>	<p>芸術表現基礎（彫刻）</p>	<p>授業の到達目標及びテーマ          ものを見る基本的な姿勢を身につけ、フィールドワークの理論と手法の基礎をもとに場を見る力を養い、素材や場の魅力を引き出し、協働して作品制作に取り組み新たな場を作り上げる事ができるようになる。またプレゼンテーションの技法を応用し、発表することを通して主体的にアウトプットする基本的な能力を養う。平成28年度は、「本来見えないものを可視化する」をテーマに多角的に彫刻作品（立体造形作品やインスタレーション作品を含む）を制作する。</p> <p>授業の概要          授業ではテーマに沿って共同制作（1チーム6～9人程度）を行い、制作プランの立案から制作、プレゼンに至るプロセスを制作リーダーや場の使用交渉や制作分担、素材調達、素材特性分析、スケジュール管理、プレゼンテーションの設計、発表など、いろいろな役割において経験しながら一つの造形と発表へと結実させる。これらの課題を通して芸術を実体験し、柔軟な思考を持ち主体的な創造性と協働で生み出す力を育む。</p> <p>（担当教員：○柳健司・田中右紀・徳安和博・井川健・小木曾誠）          授業は以下の専門分野を中心に担当者全員で指導、評価する。（○は主担当）</p> <p>○（5 柳 健司）立体表現、平面表現、素材間をまたぐ造形活動とプレゼンテーション方法について指導する。          （9 田中右紀）立体表現、空間表現、土、木材を使った造形活動とプレゼンテーション方法について指導する。          （12 徳安和博）塑造的立体表現、木材を使った造形活動とプレゼンテーション方法について指導する。          （22 井川 健）立体表現、漆、木材を使った造形活動について指導する。          （20 小木曾誠）平面表現、色彩表現とプレゼンテーション方法について指導する。</p>	<p style="text-align: center;">共同</p>
<p style="text-align: center;">学部 共通 科目</p>	<p>芸術表現基礎（工芸）</p>	<p>授業の到達目標及びテーマ          工芸で用いられる多様な素材に触れ、その特性を理解しながら発想を養い、加工する方法を学び、考えを形にする。素材を扱う視点を得る事やものを作るときのプロセスを経験し、さらに、自分が制作した作品をプレゼンテーションすることにより、アウトプットする基本的な能力を養う。</p> <p>授業の概要          授業はアイデアを出す→形にする→プレゼンテーションする、というプロセスを「素材」を切り口にして行う。まず、素材に触れる・素材の可能性を探求するワークショップを行い、素材との出会いと発見を通して、テーマに沿って柔軟に構想を展開させる。次に、プロトタイプを制作して構想を固め、コストパフォーマンスを含め制作の計画を立てる。教員によるプランニング確認の後、作品制作を行う。その中で、道具の使用を伴う手による加工を通して、素材を造形へと結びつける制作活動の基礎を学ぶ。最後に制作した作品についてプレゼンテーションを行う。</p> <p>（担当教員：○田中右紀・田中嘉生・井川健・柳健司・藤巻美恵・西島博樹）          授業は以下の専門分野を中心に担当者全員で指導、評価する。（○は主担当）</p> <p>○（⑩ 田中右紀）立体表現、空間表現、土、木材を使った造形活動とプレゼンテーション方法について指導する。          （①① 田中嘉生）平面表現、色彩表現、布等を使った染織関係材料にまつわる造形活動について指導する。          （② 井川 健）立体表現、プロダクト制作、木材を使った造形活動について指導する。          （⑦ 柳 健司）立体表現、平面表現、素材間をまたぐ造形活動とプレゼンテーション方法について指導する。          （⑱ 藤巻美恵）平面表現、色彩表現、布等を使った染織関係材料にまつわる造形活動とプレゼンテーション方法について指導する。          （⑥ 西島博樹）造形活動におけるコストについて指導する。</p>	<p style="text-align: center;">共同</p>

学部 共通科目	デザイン発想論	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザインの広義を理解し、それを踏まえた造形への取り組みができる。</li> <li>・情報メディアの変遷と役割を正しく理解し、ソフト・ハード、平面・立体、アナログ・デジタルを縦横に駆使したコミュニケーションが図れる。</li> <li>・既成のデザイン成果に多く接し（鑑賞・評価）、自身に反映できる。</li> <li>・コンテンツに応じた的確な表現方法を見極め、伝達・交流・共有を図れる。</li> <li>・デザイン史と社会情勢を踏まえた展望から、新たなコンテンツを見いだすことができる。</li> </ul> <p>造形基礎や情報教育を起点として、常に変化するIT環境や流行・世相にも柔軟に対応し、的確な構想・活動・表現ができる。</p> <p>授業の概要</p> <p>優れたコンテンツありきのメディアでありデザインである。論理的かつ説得力のある成果をメディアを活用して成立させるための入口とする。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3 荒木博申/7回)</p> <p>デザインの広義を理解したうえでメディアデザインの考え方や道筋をたぐる。講義とともにグループ討議なども交え、幅広いコミュニケーションを図るための考え方、心、取り組み方、テーマの発見、メディアの活用術などについて、具体例を参照しながら具体的な課題へと接続する。</p> <p>(18 小瀬村貴哉/7回)</p> <p>思考法・表現力・創造力を磨き、専門性・経験値の蓄積によってさまざまなコンテンツの発掘・企画につなげるための基礎とし、メディアの種類と性質を理解しながら独創的な作品を完成させる。</p> <p>(3 荒木博申・18 小瀬村貴哉/1回) (共同)</p> <p>合評会、プレゼンテーション。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
学部 共通科目	デジタル表現基礎	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の表現としてマルチメディアによる多様なデジタル表現技術を理解し説明できる。</li> <li>・情報の視覚化としてベクターデータやピクセルデータ等、画像データの基礎理解ができる。</li> <li>・アプリケーションの基本ツールを使って、基本的な図形描写や視覚デザインができる。</li> <li>・写真や動画等、映像デジタルデータの編集、加工、補正ができる。</li> <li>・課題に応じたデザインの制作ができ、情報の交流や共有としてメッセージが伝わっているか自己評価を行い、他者の作品に関しても意見を述べるができる。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <p>コンピュータを中心としたデジタル表現技術の必要性を説明しながら、映像、CG、Web、プログラミング、ファブリケーション等、デジタル表現の概説を行い、基礎的なアプリケーションについての演習も行う。後半では、IllustratorやPhotoshop、Premiereを用い、写真やビデオ動画等、画像や映像の加工補正を行う。また、演習を通してデジタルデザインの特徴を生かした効果的な表現機能や、メディア間の連携などを意識した基礎技能を修得する。最終課題は合評会を行い、デジタルデザインとしてメッセージの伝達や交流ができていないかを相互評価する。</p>	
学部 共通科目	職業キャリア論	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>テーマ：社会経済の構造変化のもとで、個々人の職業キャリアがどのように形成され開発されるかをテーマとする。</p> <p>到達目標：産業社会・企業経営の発達の歴史とそれに関わる経済学と経営学の初歩的知識を得る。そのかなで仕事・職業がどのように発達・変化したかの背景を理解できるようになる。</p> <p>授業の概要</p> <p>二つの観点をもってアプローチする。①個々人が人生の各段階でどのような課題を担いつつキャリアを展開して行くのか。②そのさい社会はそれらに対してどのようなリソースを提供しているのか。①については、出生、就職、結婚などのライフサイクルを、国ごとの比較や現代の困難などに焦点をあて、②は、雇用・職業構造の変化、社会保障のあり方などにそくして理解を深めるよう指導したい。</p>	
学部 共通科目	流通論	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市場経済における生産部門、流通部門、消費部門の位置づけと相互関連性を理解する。</li> <li>・生産と消費を橋渡しする流通の機能を理解する。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <p>市場経済が深化した現代経済では、生産と消費の懸隔はますます増大している。流通の役割はその懸隔を架橋することである。本講義では、市場経済において生産者が作ったモノ(商品)がどのようなメカニズムで消費者まで流通していくのかについて、その基本原理を考察する。</p>	



学部 共通科目	アートマーケティング	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケティングの基本的な原理を理解する。</li> <li>・講義中にてでくるマーケティングの専門用語を理解する。</li> <li>・アートをマーケティング観点から考察する力をみにつける。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <p>マーケティングは生産と消費というフレームワークだけではなく、地域活性化や新たなメディアの創出などといった社会的創造といった観点からのマーケティング理論拡張がなされている。本講義では、基礎理論をベースにアート、デザインと言った高付加価値が知的財産やソリューションとして市場においてどのように活用されているのかを戦略的に考察していく。具体的には伊万里、有田といった窯業産業の事例を挙げながら、地域ブランド構築や陶磁器流通における現状を考察しながらマーケティング戦略としての製品戦略、価格戦略、流通戦略、コミュニケーション戦略を理解することを目的とする。</p>	
学部 共通科目	知的財産権学	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的財産権の主要な制度を理解し、説明できるようになる。</li> <li>・芸術表現及び芸術マネジメントに関連する特許・実用新案・意匠・商標・不正競争・著作権を主テーマとして修得できる。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知的財産権の必要性を歴史・経済変革に基づいて解説。</li> <li>・特許・実用新案・意匠・商標・不正競争・著作権を各法律に基づいて解説すると共に、パリ条約等の国際条約との関係について説明。</li> <li>・現代経済の工業・商業等における知的財産権の活用について解説。</li> <li>・特許・実用新案・意匠・商標・不正競争・著作権の審判例・裁判例の紹介</li> </ul>	
学部 共通科目	文化経済論	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化経済論の基礎知識を修得する。</li> <li>・わたしたちの日常的な経済活動においてアートや文化が重要な役割を果たしていることを理解する。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <p>理論経済学が考察対象とする完全競争市場は価格という唯一の判断基準で人々は行動すると仮定している。しかし現実経済はそう単純なものではなく、人々の経済活動において社会や文化の側面を無視することは不可能である。本講義では、企業が生産する商品においてアート、デザイン、文化という要素が大きな重要性を占めているだけでなく、まちづくり活動においても芸術性や文化性を前面に打ち出した地域ほど集客に成功している実態に注目し、経済と文化の相互依存関係を学生自らが考察し分析する。</p>	
学部 共通科目	アートマネジメント	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>美術展やアート・プロジェクトについて享受者としてのみならず、制作者側の視点から吟味・批評する力を身に付ける。アートの現場における課題を理解し、自らの考えをまとめ、論述する力を身につける。</p> <p>授業の概要</p> <p>美術館・アートNPO・地方自治体の主催による美術展やアート・プロジェクトの事例を取り上げる。それらの制作過程について、企画制作、教育普及、広報、企業・地域との連携など、様々な視点から具体例を紹介する。毎回、感想や質問をミニ・ペーパーに書き出し、提出すること。</p>	
学部 共通科目	地域再生デザイン学	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>現代の都市・地域は様々な都市問題を有しており、都市・地域における問題の解決および再生は喫緊の課題であります。本講義では都市デザインの視点のみならず、まちづくり活動にも着目して都市・地域の再生について学びます。</p> <p>授業の概要</p> <p>日本や海外の事例を参照しながら、都市・地域の再生について理解します。まず前半の講義では日本各地における都市・地域の再生の取り組みについて把握します。日本の事例ではハードな都市デザインのみならず、NPOや各種まちづくり活動も参照しつつ、都市・地域の再生について学びます。後半の講義では特に英国における中心市街地の再生に向けた取り組みを参照しながら、都市デザインの実践による都市・地域の再生について理解します。</p>	
学部 共通科目	比較オリエンタリズム研究	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>オリエンタリズムのまなざしは、欧米がアジア・アフリカ・アラブ世界に、さらに近代日本、アジア諸国がアジア自身に投げかけているものであることを理解してもらおう。博覧会、美術展の展示、さらに漫画、映画などのさまざまなメディア表象をもとに、近代欧米・日本・アジア諸国、さらには東京中央が他者・地方郷土文化に投げかけるまなざしを比較考察する。我々自身が依然として乗り越えられない「近代」の負の側面について問い直す。欧米がアジア・アフリカ・アラブ世界に、さらに近代日本、アジア諸国がアジア自身に投げかけているものがいかなるまなざしであるか理解できること。博覧会、美術展の展示、さらに漫画、映画などのさまざまなメディア表象をもとに、近代欧米・日本・アジア諸国、さらには東京中央が他者・地方郷土文化に投げかけるまなざしを比較して論じることができる。</p> <p>授業の概要</p> <p>エドワード・サイードが批判提起したオリエンタリズムのまなざしは、欧米がアジア・アフリカ・アラブ世界に投げかけているものにとどまらない。本講義では、博覧会、美術展の展示、さらに漫画、映画などのさまざまなメディア表象をもとに、近代欧米・日本・アジア諸国、さらには東京中央が他者・地方郷土文化に投げかけるまなざしを比較考察する。</p>	

学部 共通科目	Key Concepts in Art (キー コンセプトインアート)	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 芸術における異文化コミュニケーション能力の発達</li> <li>2. 芸術の基本概念を英語で説明する能力の発達</li> <li>3. リサーチ能力・プレゼンテーション能力の発達</li> </ol> <p>テーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 芸術の基本概念とは何か</li> <li>② それぞれの文化を超えて出現する芸術表現様式のクロス・カルチュラル分析</li> <li>③ 世界共通語としての英語で芸術基本概念を表現するための技術・方法</li> </ol> <p>授業の概要</p> <p>・芸術を理解し評価するための鍵となる概念(キー・コンセプト・イン・アート)はそれぞれの文化や言語の間で異なるため、芸術論は自然と異文化相互の対話へと発展することを、テーマに沿って考察していく。</p> <p>・3つのテーマに沿って、テキスト・資料を用いての教師側からのガイダンスと学生間のディスカッション、学生のリサーチ、プレゼンテーション、レポートという形で進行する。</p>	
学部 共通科目	アートと科学	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>自然の造形、発光、発色など、自然界に存在する各種アートの原点を科学の視点で理解できる基礎的な学力を養う。</p> <p>授業の概要</p> <p>自然が造る形はアートの原点である。本講義では氷の結晶形、天然鉱物における柱状や薄片状など模様状形態、を示し、その形成原理を説明する。また、鉱物には光り輝く物質があり、この発光原理を説明する。宝石における色は魅力的であり、その発色の原理を説明する。顔料には多様な種類があるが、その発色原理を説明する。この様に自然界に存在する各種アートの原点となりうる発色の原理や形態の形成原理を示し、科学的に説明する。</p>	
学部 共通科目	芸術文化・地域創生論(国 内外地域プロジェクト事例 研究)	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>3年次の実習コア科目である「有田プロジェクト研究」「地域創生フィールドワーク」「国内外芸術研修」を履修するために必要な理論を学ぶ。実習に入る前に、アートをつかった地域創生事業の現状や問題点について俯瞰し、実習のさまざまな方法論を知り、実習に円滑に着手することができるようになることを目標とする。</p> <p>授業の概要</p> <p>作家として地域でアートプロジェクトを行う事例と、アートファシリテーターとしてアートプロジェクトを行う事例についてVTR等をつかって紹介した後、それぞれの場合の問題点や方法論について説明する。次に、作家である教員等をゲストリーダーとして迎え、経験に基づいた地域創生の事例についての話を聞く。その後、教員と学生が地域創生のさまざまな可能性についてディスカッションする。本授業では、佐賀、九州のみならず、全国、そして国外の事例もとりあげることで、問題を相対化して考える視点を養う。</p>	
学部 共通科目	有田キャンパスプロジェク ト	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>芸術の表現活動と同時に陶磁器産業地である肥前有田地域を表現と発表の場として捉え直すフィールドワークを実践し素材や場の魅力を引き出しながら作品や製品制作に取り組み、新たな場を作り上げ、発信することができる。</p> <p>有田での制作や発表の実践で地域と関わり協働することで、芸術表現や製品開発による地域との関わりを実体験し、柔軟な思考と主体的な創造性で社会に働きかける力を育む。</p> <p>作品・製品のプランニング、制作、発表に至るプロセスを理論的に構築し、地域と協働し制作を進める力を養い、さらに自己の実践を客観的に分析し、理論を補完することで今後の新たな実践に活かす思考プロセスを持つ事が出来る。</p> <p>授業の概要</p> <p>窯業とは異なる分野の学生、または窯業専攻生と他専攻の学生がチームを組み共通のテーマを見いだし、佐賀県立窯業技術センターや有田サテライトキャンパス施設を活用して、本庄キャンパス教室では制作できない規格外の制作や製品開発、サイトスペシフィックな作品制作を行う。制作物は有田町内で展示発表を行い、展示に際してはフィールドワークにより作者自らが展示する場を見いだし、展示のプレゼンテーションの後展示する。</p> <p>産地に対して美術・アイデア・科学技術・経営学等を複合し何が出来るのかを提示するとともに、そのプロセスにおいて地域と関わり、新たな切り口を発掘する。展覧会開催後は記録、分析を行い最終合同プレゼンテーションで発表を行い総括する。</p> <p>(担当教員：○田中右紀・小瀬村貴哉・赤津隆・甲斐広文・西島博樹) 授業は以下の専門分野を中心に担当者全員で指導、評価する。(○は主担当)</p> <p>○(⑪ 田中右紀) 学生の制作発表計画や地域の要望を考慮し、制作指導、発表活動の援助、指導等を行う。 (⑫ 小瀬村貴哉) 学生の制作発表計画や制作指導、メディアの活用の方法や発表活動の援助指導を行う。 (⑬ 赤津 隆) 窯業技術面の特に材料分析に関する部分を指導する。 (⑭ 甲斐広文) 窯芸制作における技術面の指導援助を行う。 (⑮ 西島博樹) 地域産業リサーチ、フィールドワーク、プランニング等の指導を行う。</p>	共同

学部 共通 科目	地域創生フィールドワーク	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>地域の地理的諸要素や文化・芸術資源を学生がチームを組んで継続的に調査し、実践的なフィールドワークの能力を修得しながら、地域との協働によって地域資源を活かした企画を計画することができるようになる。計画から現地で実際に展開するまでのさまざまなプロセスを、いろいろな役割で経験し、地域と協働しながら企画を実現する事ができるようになる。また、それらの活動を様々な形で情報発信し、地域創生のために必要な実践的な能力を習得する。実践後は取り組みを客観的に分析し、理論を補完し今後の新たな実践に活かす思考プロセスを持つ事が出来るようになる。</p> <p>授業の概要</p> <p>学生は6グループ（1グループ10～15人程度 芸術表現、地域デザインコース学生混成）、6地域に分かれて実施する。担当する地域を決定後にフィールドワークの準備を行い、地図や各種データ、史料、または地域の取り組みを調査、検討し、その後フィールドワークを実施する（フィールドワークは、実施場所や内容によって、授業時間内に実施する場合もあれば、夏季・冬季休業期間中に集中的に実施する場合もある）。また、フィールドワーク実施中は、地域の取り組みなどの説明を受け、人の動きや経済的な効果などを学び、企画立案していく。その後コンセプトの明確化や場の設定や展示制作物の準備など現地展開に向けて現地協力者とコンタクトをとりながら現地展開に向けて協力して実現する。それらのプロセスをWebやソーシャルメディア等を活用して広報に繋げて人の流れを作る。現地展開後は、合同プレゼンテーションで発表し総括する。</p> <p>（担当教員：○山下宗利・荒木博申・中村隆敏・徳安和博・小木曾誠・石崎誠和・井川健・柳健司・杉本達應・鳥谷さやか・湯之原淳・三木悦子・重藤輝行・花田伸一・西島博樹・山口夕妃子・有馬隆文）</p> <p>授業は以下の専門分野を中心に担当者全員で指導、評価する。（○は主担当）</p> <p>○(⑤山下宗利)地理的なフィールドワークおよび地域に応じた企画展示ワークショップ指導を担当する。</p> <p>(④荒木博申)プレゼンテーションにおける方策や技術を支援し、効果的なディスカッションができるようサポートし、地域に応じた企画展示を指導する。</p> <p>(⑧中村隆敏)クリエイティブ人材育成事業やアートイベントにおける繋がりから学生らと自治体、事業者との連携を促し、フィールドにおける機会を与え指導・支援を行う。</p> <p>(⑭徳安和博)地域が求める芸術資源について、学生のフィールドワークと作品制作企画展示を主に担当する。</p> <p>(②小木曾誠)西洋画または平面作品のインスタレーションまたは地域に応じた企画展示ワークショップ指導を担当する。</p> <p>(③石崎誠和)日本画または平面作品のインスタレーションまたは地域に応じた企画展示ワークショップ指導を担当する。</p> <p>(④井川健)学生の制作発表計画や地域の要望を考慮し、制作指導、発表活動の援助、指導等を行う。</p> <p>(⑦柳健司)立体表現、平面表現、素材間をまたぐ造形活動と地域に応じた企画展示の指導を担当する。</p> <p>(②杉本達應)プレゼンテーションの作法やメディアの活用などを支援し、ディスカッションや発表のサポートを行う。</p> <p>(①②鳥谷さやか)染織のインスタレーションまたは学生の制作発表計画や地域の要望を考慮し、制作指導、発表活動の援助、指導等を行う。</p> <p>(⑤湯之原淳)窯芸作品のインスタレーションおよび地域に応じた企画展示ワークショップ指導を担当する。</p> <p>(⑦三木悦子)窯芸作品のインスタレーションおよび地域に応じた企画展示ワークショップ指導を担当する。</p> <p>(⑮重藤輝行)文化遺産に関するフィールドワークおよび地域に応じた企画展示ワークショップ指導を担当する。</p> <p>(⑱花田伸一)地域でアートを生み出すことや、地域づくりにつながるネットワーク構築を指導する。</p> <p>(⑥西島博樹)地域ブランドの構築を用いた地域活性化について指導する。</p> <p>(⑩山口夕妃子)経営・マネジメントの観点からの地域に応じた企画展示の指導を担当する。</p> <p>(⑫有馬隆文)都市に関する観点から地域に応じた企画展示の指導を担当する。</p>	共同
----------------	--------------	--	----

<p>学部 共通科目</p>	<p>国内外芸術研修</p>	<p>授業の到達目標及びテーマ          芸術作品を生み出した歴史について学習したり、歴史的遺物を生み出した環境に実際に触れたりすることによって、芸術の歴史や芸術作品をより説得力をもって他者へ伝えることができるようになる。それとともに、作品と作品を生み出した歴史的背景の関係をすることにより、自分自身の作品の社会的機能について高い意識をもつようになる。また、実際の資料（美術作品、歴史的遺構、自然）に触れることで、技法や素材の扱いについて習熟することができるようになる。          受講者各自が、国際的・協働的視点をもって創作活動や学術的研究に向かえるようになる。また、グループワークなどのアクティブラーニング形式の授業を受講することによって、受講者の能動性や主体性を養う。さらに、異文化理解の視点をもって、学ぶことにより、ものごとの普遍性と差異の両方を理解するようになる。          授業の概要          国内外の芸術関連施設やヒストリックサイトなどに出かけていき、そこで、実物資料に触れたり、歴史的遺物の活用方法について学んだりする。実習を効果的に実施するため、実務家を招聘した講演会を行う。具体的な実習のやり方は次のとおり。教員5名がそれぞれの専門分野のプレゼンテーションを行う。それに対して、学生は7～8名でグループを作り、実習目的や実習内容をグループごとに約3ヶ月かけて決定していく。          （担当教員：○吉住磨子、浅田智子、山崎功、藤巻美恵、S.A. ホートン）○は主担当          実習期間中（15回から27回）以外は、金曜日のⅢ、Ⅳ、Ⅴ校時に行う。実習期間中は、8～10時間/日の実習を行う。          ○（7 吉住磨子）プレゼンテーション、企画立案に対する助言・指導、語学指導（英語、伊語）、実務家教員への連絡等          （11 山崎 功）プレゼンテーション、企画立案に対する助言・指導、語学指導（英語、インドネシア語他）          （2 浅田智子）プレゼンテーション、企画立案に対する助言・指導、語学指導（英語、仏語）          （16 藤巻美恵）プレゼンテーション、企画立案に対する助言・指導、語学指導（英語）          （15 Houghton Stephanie Ann）プレゼンテーション、企画立案に対する助言・指導、語学指導（英語）</p>	<p>共同</p>
<p>コース 専門科目（芸術表現コース）</p>	<p>コース基礎科目          芸術表現A（日本画）</p>	<p>授業の到達目標及びテーマ          ものを見る基本的な姿勢を身につけ、日本画制作に取り組む入門的授業。日本画の素材に触れながら絵画を制作する喜びを感じる。日本文化の特質を制作への取り組みを通して実感する。          授業の概要          身の回りの植物などを写生し、円窓の色紙に描き、日本画制作を体験しながら日本画の考え方に触れてもらう。日本画の描画素材の基礎的な知識を知り、写生と下図と草稿という日本画の制作行程と描画方法を体験し、日本画の制作を実感する。写生によって自分の視点で発見する事や、視点を活かす構図を考察し、墨入れや膠の濃度による違いの理解、胡粉の種類による特性の違い、水干絵具、岩絵具の特性を、描写を通して実感し植物を画面の中に活かす描写を行う。</p>	
<p>コース 専門科目（芸術表現コース）</p>	<p>コース基礎科目          芸術表現A（西洋画）</p>	<p>授業の到達目標及びテーマ          スペインの伝統的デッサン法マンチャを習得し、西洋におけるデッサン表現を理解し、油絵具の可塑性や透明性を習得、理解し作品を仕上げる。写真も撮影し、それを作品に活かしていく。          授業の概要          西洋画における素描を講義し、ライティングし写真撮影し、それも活かしながら、その中でも木炭やコンテ、鉛筆などを用いたデッサンを描き、油絵に活かしていく。写真技術は印象派でも使用され、ドガやドラクロア等は絵画作品に上手く有効活用している。油絵は自画像を描く。鏡と対峙し、自己の内面を描いていく。17世紀以降の西洋画の礎となったベネチア派の技法、「グリザイユ」から着色し描くことで、デッサンから油絵に転嫁していくことを目標にします。可塑性を活かした白色絵具によるインパストから、グレージングによる透明性の表現を習得していく。</p>	
<p>コース 専門科目（芸術表現コース）</p>	<p>コース基礎科目          芸術表現A（彫刻）</p>	<p>授業の到達目標及びテーマ          彫刻の要素である心象性、立体性、触覚性、材料性を、彫刻史や作家論、技法論、などの具体的な講義を通して理解し、実際に塑造演習を行うことでそれらを実感する。          授業の概要          彫刻の要素である心象性、立体性、触覚性、材料性を、具体的な講義と演習によって理解する。心象性は、立体造形における表現行為の核心を塑造演習を通して理解する。立体性は、概念崩しの思考を制作技術取り込むことによって理解する。塑造演習も行う。彫刻制作には欠かせない触覚性は、人間の触覚感について学び、視覚に頼らない塑造演習によって理解する。材料性は、粘土や、木、石、ブロンズなど、彫刻でよく用いる材料や道具について学び、実際に木や石を彫る体験をする。</p>	

コース専門科目（芸術表現コース）	コース基礎科目	芸術表現B（窯芸）	授業の到達目標及びテーマ 焼き物作りの要素「土から粘土を作る」「土で形創る」「器を作る」「色(模様)を着ける」「焼成する」「使う」「鑑賞する」といった過程の中にそれぞれある面白さを体験を通して発見し形に残すことで、焼き物の多様性を知る。 授業の概要 焼き物の多様性を、素材としての土の特徴から理解するため、様々な特徴をテーマに実習する。 ・土10kgの塊にアプローチ ・ひとがたまたは、生き物を作る ・器を作る ・鉄・銅・呉須による下絵付けと釉薬掛け ・使う器のプレゼンテーション	
コース専門科目（芸術表現コース）	コース基礎科目	芸術表現B（染色工芸）	授業の到達目標及びテーマ ・染色平面表現の基礎を学ぶことで工芸活動理解の一助となることを授業のテーマとする。染色平面表現にかかわる繊維、染料等の基礎知識の理解、及び工芸における染色制作の基本的な造形思考を意識出来るようになることを授業到達目標とする。 授業の概要 染色意匠と防染技法の関係理解のために、染色工芸でよく行われる防染技法の一つ、型糊防染技法を取り上げ、染色デザイン創出の一方法論を用いた小品制作を課題とする。また、制作工程の折々で、染色のこと、工芸についての基礎理論にもふれ、工芸活動の中での染色制作の立場、意味を知る。	
コース専門科目（芸術表現コース）	コース基礎科目	芸術表現B（漆・木工芸）	授業の到達目標及びテーマ 天然材料である木に触れ、感じ、それを作品制作へと繋げることを主なテーマとする。その中で、木目の方向性などの木の性質や鑿・鋸・鉋といった木工道具の使い方を学ぶとともに、用途ある器としてのプロダクティブな発想方法やカービングによる制作方法を学ぶ。 授業の概要 無垢の木を用いて削り物技法により器を制作する。日常の生活の中で使用するテーブルの中央に料理を盛る大鉢をテーマとする。粗い状態の無垢材からスタートし、鋸での荒木取り、鉋での平面出しを行い、鑿を用いて彫り上げていく。	
コース専門科目（芸術表現コース）	コース基礎科目	美術史基礎	授業の到達目標及びテーマ 西洋、日本、東洋のそれぞれの美術史の大まかな流れがつかめるようになる。美術史の基本的な方法論について理解する。 古今東西のさまざまな美術作品を通して、日本及び諸外国の美術文化について理解を深める。美術史の基本的な方法論についても学び、美術史研究や作品の鑑賞が効果的に行えるようにする。美術史の背景にある、宗教、政治、経済、人種の問題などにも光をあてることで、作品が社会を映す鏡であることを理解させる。 授業の概要 古今東西のさまざまな美術作品を通して、作品の見方、美術史とは何か、西洋と日本の世界観の違い等について講義する。それとともに、人々は何のために作品を生み出してきたか、という問題について、受講生に考えさせる契機とする。佐賀大学美術館で作品を鑑賞しながら講義する時間も設ける。	
コース専門科目（芸術表現コース）	コース基礎科目	工芸理論	授業の到達目標及びテーマ 工芸の意味、工芸のたどった歴史を知ることで、現代生活の中で工芸が果たす役割に気づき、より豊かな生活環境を築くために、これからの産業、とりわけプロダクトデザインがどうあるべきかに思考をつなげる。また、「工芸」「民芸」「クラフト」「プロダクト」「アート」「作家」などの言葉の背景にある歴史と思想についても主に、陶磁器、染色、木工、家具、生活空間などの素材をフィールドに理解する。 授業の概要 本授業では、「工芸」の言葉の意味、たどった歴史、その思想を学び、主要な工芸理論について解説します。 さまざまな素材による工芸表現の構造原理についても学びます。 ・豊かさとは ・「工芸」「民芸」「クラフト」「プロダクト」「アート」「作家」の言葉の背景 ・工芸の思想 ・プロダクトデザインの思想	
コース専門科目（芸術表現コース）	コース基礎科目	現代美術概論	授業の到達目標及びテーマ ・現代美術の歴史と表現を、世界の地理、文化、政治、宗教など多様な状況の時代背景や地域特性とともに概説し、表現の動機、発想の起点、表現方法等について現代美術への理解を深める。 授業の概要 20世紀初頭から現在までのヨーロッパ、アメリカ、アジアにおける重要な現代美術の動向と作品を、作家たちの生きざまなどを交えながら概観する。また、今日の美術が抱えている様々な問題や可能性について考察する。また、日本における現代美術の動向と世界のそれとの差異についてもその特徴を理解する。 ・マルセル・デュシャン以降 ・第2次世界大戦以降 ・映像、インスタレーション、パフォーマンス ・日本の作家	隔年

<p>コース専門科目（芸術表現）</p>	<p>コース基礎科目</p>	<p>美術品流通論</p>	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・流通の基本的なしくみを理解する。</li> <li>・美術品における流通のしくみを理解する。</li> <li>・日本の美術品流通における特殊性、とくに商社の役割について理解する。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <p>流通の基本原理の理解を深めつつ、美術品流通の特殊性を理解することを本講義の目的とする。流通業者のもつ役割や消費者ニーズをどのように生産者がつかみ、流通させていくのかといった仕組みの理解を深められるようにケーススタディとして陶磁器流通をあげ説明する。陶磁器流通は日本の流通システムの独自性を反映した流通システムを構築してきたが、近年変化しつつある。その点を踏まえ、近年増えつつある海外からの陶磁器流通もあわせて考察する。</p>	
<p>コース専門科目（芸術表現コース）</p>	<p>コース基礎科目</p>	<p>デザイン基礎</p>	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・造形基礎としての形体と色彩に関する基本概念を理解し、理性的で秩序のある美しい構成・配色ができる。</li> <li>・数多くのアイデアを練り出したうえで最適なものを導き出す習慣を身に付ける。</li> <li>・発想した形体を自在に表現するための素描力・観察力を身に付ける。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <p>科学的根拠に基づく造形基礎としての形体と色彩について、基本概念を理解し、さまざまな応用事例（作品）の鑑賞・分析から自らの課題への手がかりを見いだす。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>（3 荒木博申/7回）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・単元毎に講義と課題提示を行う。デザインにおける基本的な平面構成、立体構成、色彩構成を各課題として演習する。また、タイポグラフィやダイアグラム等基本的なデザイン技法やデザイン材料についても演習を行う。</li> </ul> <p>（18 小瀬村貴哉/7回）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ほぼ毎回、短時間の速写訓練を合わせて実施し、観察力・描写力を養う。デザインにおける発想やイメージ創出について講義し、テーマに応じた課題を通じ豊かで個性的な作品の本質を理解する演習を行う。</li> </ul> <p>（3 荒木博申・18 小瀬村貴哉/1回）（共同）</p> <p>合評会、プレゼンテーション。</p>	<p>オムニバス方式 共同（一部）</p>
<p>コース専門科目（芸術表現）</p>	<p>コース基礎科目</p>	<p>図法</p>	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>立体観念を養成し製図技術を学ぶ。基本となる作図法を理解し、作品制作の必要に応じて図が描ける基礎を習得すると共に、CGやCADといったコンピューター上での作業でも基礎となる基本的概念を養成する。また、正確な作図という作業を通じて、「忍耐力」、「綿密な注意力」、「精確な構力」及び現象を立体的に考察する「幅広い思考力」など、表現者としての基礎素養を養成する。</p> <p>授業の概要</p> <p>平面幾何学、立体幾何学に基づき描く図についての概念を講じた上で、製図板、T定規、三角定規、コンパス、鉛筆等を用い実際に作図を行う。三次元の空間図形を二次元の平面上に表示する方法を主に扱い、中でも、立体を定性的、定量的関係において表す方法を理解させるため、複投象について多く取り上げる。最後に、絵画に応用できる概念として透視投象についても扱う。</p>	
<p>コース専門科目（芸術表現コース）</p>	<p>コース基礎科目</p>	<p>材料学</p>	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>本授業は美術工芸に関わる三大材料である、プラスチック、金属、セラミックス（無機材料）について、科学的観点から理解し、利用できるようになることを目的とする。</p> <p>授業の概要</p> <p>本授業では、美術・工芸分野で多く使われる材料について特に可塑性と恒久性において特徴的なプラスチック、金属、セラミックス（無機材料）を中心に、科学的観点から理解し基礎的な知識を身につけることで、多様な材料の利用と解釈ができるようになることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 水の物理的・化学的性質</li> <li>2) 岩石・土について</li> <li>3) プラスチック、金属、セラミックス（無機材料）の特性とその違い</li> <li>4) プラスチック、金属、セラミックス（無機材料）における構成元素と結合の違い</li> </ol> <p>構成元素を周期表から説明する。有機物（共有結合）、金属（金属結合）、セラミックス（イオン結合）の違いを電気陰性度等から説明する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5) プラスチック、金属、セラミックス（無機材料）の代表例と応用</li> </ol>	

コース専門科目（芸術表現）	コース選択科目	日本画概論	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>日本画が成立した明治時代を起点として近代以前と以後の違いを理解し、近代から現代への系譜を学び、興味を持つ系譜、文脈を見いだし、深く掘り下げて学ぶことが出来るようになる。</p> <p>授業の概要</p> <p>明治期に成立した日本画の出自から、近代から戦後、そして現代に至る日本画の歴史の流れを知るとともに、特に現代において多様な表現を得た日本画の多くを学びながら、身近な表現としての日本画と歴史化された日本画の共通点を制作者の視点から見つけていく。さらに近代以前の絵の様式を現代から概観することで日本画や日本の絵の魅力を見いだす。スクラップブックに作品写真などや基本データを編集しながら主体的に日本画の歴史を学び、プレゼンテーションを行いながら美術の歴史文脈を自分の言葉で語ることを通して、日本画を深く理解する。</p>	隔年
コース専門科目（芸術表現）	コース選択科目	西洋画概論	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>西洋における絵画の歴史を学ぶとともに技術的な側面にスポットを当てながら授業を進行していきます。自己の制作によって表現と技術は切っても切り離せないものであり、それを理解することでこれからの自己の作品制作に活かしていくことを目標とします。</p> <p>授業の概要</p> <p>西洋の500年の油絵の表現方法と技術に焦点を当てながら、イタリアルネサンス、北方ルネサンスからはじめ、バロック期のレンブラントやフェルメールの絵具づくりを実際に行います。授業は映像を中心に見せながら進めていきますが、講義等も行います。20世紀に入り樹脂絵具の発達等によってできた新しい表現方法を実際に体験しながら、20世紀の現代美術をも理解していきます。</p>	隔年
コース専門科目（芸術表現）	コース選択科目	彫刻概論	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>彫刻作品を、技法面、歴史面、制作の面など多面的に分析、鑑賞ができ、特に彫刻史の転換期に位置する世界の彫刻家や作品、制作の技法、制作論等について口頭かつ文章で表現できる。</p> <p>授業の概要</p> <p>先史から現代までの彫刻史、そして彫刻史の転換期に位置する世界の彫刻家や作品、制作の技法、制作論等について概観することにより、彫刻とは・造形とは・芸術とは何かを探究する。彫刻史の換点に存在する作家、作品、当時の世相などを横断的に学ぶことにより彫刻鑑賞の基礎を学ぶ。</p>	隔年
コース専門科目（芸術表現）	コース選択科目	染色工芸概論	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>・染色工芸史の概要を見ていくことで、時代と造形の関係や工芸美を学ぶ。また、現代の染色工芸に繋がるものに目を向けることで、今後の染色工芸の展開についても考えることが出来るようになることを授業到達目標とする。</p> <p>授業の概要</p> <p>染色の歴史を辿りながら、その時代で特記される事象について考察を図る。古代における染色の果たした役割や、その意味に始まり、模様染めの盛行した天平時代の三纒を見ることにより防染技法を考える契機とする。平安朝における配色の展開、ここでは主に植物染料について触れる。鎌倉時代、ここでは現代で言う型染めの成立を想像する。また、その後の南蛮貿易により舶載された更紗等の影響、辻が花の出現、室町、安土桃山を経て、そして、何よりも小袖衣装の完成が大きな力となった江戸期染色文化の成熟。ここで、機能と美の関係、染色技法、染色意匠と多くのことを学ぶ動機付けとする。</p>	隔年
コース専門科目（芸術表現）	コース選択科目	漆・木工芸概論	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>木工芸と漆工芸における、材料、道具、技法、歴史、現代の工芸思想について学ぶ。それぞれの知識を得ることにより、自身の作品制作にも生かせる思考を養う。</p> <p>授業の概要</p> <p>広く浅い内容で、材料、道具、技法、歴史、現代の工芸思想について扱い、木工芸と漆工芸の入門編といった講義内容とする。材料、道具、技法に関しては実習内容では不十分な知識や理論的部分について補填する。歴史に関しては、縄文から現代へと繋がる作品の変遷を、それが制作された時代の歴史的背景と共に追いつながら学ぶ。</p>	隔年
コース専門科目（芸術表現）	コース選択科目	陶磁史	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>テーマ</p> <p>① は、「九州陶磁器の多様性を学ぶ」  ② は、「肥前磁器の海外輸出と最高権力者の器・鍋島焼を学ぶ」  ③ は、「これからの陶磁器を考える力を養う」</p> <p>到達目標</p> <p>① 日本陶磁史の全体像を知り、さらに中国・朝鮮の陶磁器技術との交流にもとづく九州の陶磁器の多様性を学ぶ。  ② 日本初の磁器として誕生した肥前磁器の発展から海外輸出の実態を学ぶとともに、最高権力者の器としての鍋島焼を知る。  ③ 時代をリードする陶磁器がどのように生まれ、消えていくのかを知ることで、これからの陶磁器を考える力を養う。</p> <p>授業の概要</p> <p>焼物は人間にとって普遍的なモノであり、時代を映し出す鏡のようなものである。そうした視点で日本の陶磁史について時代を追って説明する。このうち、近世になると九州が主要な陶磁生産の地域となり、肥前磁器は世界に輸出されるとともに、最高権力者の器を作り出した歴史を概観する。</p>	

コース専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	窯芸基礎	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な焼き物の制作技法を体験し、焼き物制作の特性を知ること、創作活動の発想の基盤の1つとして焼き物をとらえることができるようになる。</li> <li>・ 暮らしの中で使われる陶磁器や建築に使われる陶磁建材等も含め、身のまわりのある焼き物の役割について認識し、その根底にある焼き物思考を理解する。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <p>本授業では、土作りから焼成までの一連の陶磁器成形過程を経験すると共に、焼き物思考を理解する。また、そのうえで現代のモノ作り「プロダクトデザイン」についても実践的に学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全15回) (9 田中 右紀/8回) 主に、土作りから焼成までの一連の陶磁器成形過程を経験と、焼き物思考の解説を担当 (25 三木 悦子/7回) 主に、泥漿排泥鑄込み、プロダクトデザイン担当</p>	オムニバス方式
コース専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	日本画基礎	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ さまざまなマチエールで描く動物</li> <li>・ 6号程度の大きさの作品を描き、以下の4点を目標とする。</li> <li>・ ものを見る基本的な姿勢を身につけ、日本画制作に専門的に取り組む授業で、</li> <li>・ 日本画制作の基礎を知り、制作を通して対象を深く見つめる事が出来る。</li> <li>・ 日本画の基本的な制作過程の特質を理解しながら制作する事が出来る。</li> <li>・ マチエールを作りながら工夫して制作に取り組む事が出来る。</li> <li>・ 日本画の素材や対象の写生を通して触発されながら制作を組み立てることが出来る。</li> </ul> <p>ようになる。</p> <p>授業の概要</p> <p>対象をじっくり観察した写生から、日本画の素材を使った6号程度の小品制作を制作する。写生から制作意図に沿った下図作成、そして草稿を経て、日本画の制作を行う、その過程を通して自己の制作と向き合うことを意図します。その過程でパネル作りから和紙の扱いなど日本画の基本と基礎的技法を具体的に教授する。</p>	隔年
コース専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	西洋画基礎	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>写真をもとに風景画を水彩で描きます。写真は肉眼ほど様々な情報をくみ取ることが出来ないが、便利な道具ですので写真の露出等を学び、ハイライトの描画と、暗部の描画の方法を学びます。水彩絵具にまず慣れ親しんでもらい、屋外に出て油絵で風景画を制作します。写真を撮ることによって、構図を学び、水彩絵具等による偶然性を習得し、油絵表現をより豊かなものになることを目指します。</p> <p>授業の概要</p> <p>デジタル一眼レフカメラを用意してください。また、透明水彩絵具を用意します。写真の撮り方を講義し、学内で写真を撮影し、アトリエで水彩画を5枚制作します。その後その中から、1枚をピックアップし、キャンバスに油絵具で描いていきます。写真撮影における構図の入れ方、考え方も講義します。油絵は印象派期の描法を中心に講義し、描いていきます。</p>	隔年
コース専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	彫刻基礎	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>彫刻作品としての頭像の制作の手順や技法を理解する。その上で、単にモデルの頭部と同じ形になるように模倣するのではなく、彫刻作品として成立するために必要な、頭像における量、面、均衡、動勢などについて理解し、作品に反映する。</p> <p>授業の概要</p> <p>実習授業である。授業2コマ180分間の内の140分で人物モデルの20分ポーズ10分休みでモデリングを進行し、残りの40分は不足分の制作を進める。教員は塑造による頭像の制作の手順や技法を解説し、実習中の作品に造形的な観点からの指導を適宜行う。受講者は「頭像」を2作品制作する。1つ目は自力で制作し、2作品目は指導を受けながら制作する。後で両者を比較し、改善点を振り返ることで、彫刻制作時におけるモデルの観察方法や目標に掲げた彫刻の要素を確認する。2作品目は石膏どりも行う。</p>	隔年
コース表現科目（芸術）	コース選択科目	染色工芸基礎	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>染色平面表現の基礎を学び、工芸活動の理解へ繋げることをテーマとする。複数の防染技法や染色技法を経験することで、染色工芸における形態創出についての理解と、染色制作の基本を身につけることを授業到達目標とする。</p> <p>授業の概要</p> <p>防染技法としてよく使われる蠟防染、絞り技法について学ぶ。また、染色工芸でも用いられるシルクスクリーン技法を使った小品制作もあわせて行う。すなわち、染色工芸の作品制作で柱となる防染技法である、蠟防染技法、絞り技法、そしてシルクスクリーン技法の3技法を、小品制作を通して理解する。</p>	隔年



コース 美術表現 専門科目 (芸)	コース 選択科目	漆・木工芸基礎	<p>授業の到達目標及びテーマ 木や塗りといった素材・技法を見つめる中から発想することを一つのテーマとする。また、その発想から得た制作意図を明確にし、他人に伝えられるようにする。技術面では、木の造形を行う際の加工手順、道具の手入れ等について学ぶ。その後、下塗りから磨きまでを行うことで、塗装方法の基本となる行程を修得する。</p> <p>授業の概要 木を素材として、用途を想定しない立体造形を課題とし、カシューで塗装後磨き仕上げをおこなう。</p>	隔年
コース 専門科目 (芸 美術表現 コ	コース 選択科目	ミクストメディア基礎	<p>授業の到達目標及びテーマ 素材のもつ既成概念にとらわれず、それぞれの素材が持っている多面的なキャラクターを知り、素材についての新しい発見をすることで、表現の手段の幅を広げる。そしてより本来的な自由な発想とは何かをを理解すると共に、コンセプトを重視した思考方法を養う。</p> <p>授業の概要 平面表現、立体表現、映像表現における課題の後、それらを活かした自由表現による作品制作の4つの課題で構成する。受講する学生個々と、作品内容について意見交換を行うことで、制作された作品とコンセプトの整合性をはかる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参考表現の研究、ディスカッション</li> <li>・平面表現、立体表現、映像表現における課題</li> <li>・選択表現による自由表現</li> <li>・プレゼンテーション</li> </ul>	隔年
コース 専門科目 (芸 美術表	コース 選択科目	製図	<p>授業の到達目標及びテーマ 投影図法・透視図法を理解し、製図・立体表示として表すことができる。「デザインコンセプトを踏まえた形態」さらに「もの」や「空間」を製図・レンダリング・モデリング等の技法習得から第三者に正確に伝える基礎的な造形力を養成する。</p> <p>授業の概要 生活空間に関わる「もの」「空間」について授業を展開する。投影図法・第三角法および透視図法における製図とパステルやマーカー等を用いたレンダリング、更にそれらを用いた応用課題から構成する。応用課題では、生活機器のデザインを取り上げ、授業内容の実践的活用を学ぶ。</p>	
コース 専門科目 (芸 美術表現 コース)	コース 選択科目	日本画 I a	<p>授業の到達目標及びテーマ 植物と人物の日本画の系譜を理解し、日本画制作に専門的に取り組む授業。植物の構造を理解し描写する事や、人物の構造や人格を消化しながら日本画の素材や対象の写生を通して自己表現と向き合うことが出来るようになる。日本画画材水干と岩絵具の特性を学びつつ絵具を置いて描写する方法を学ぶ。</p> <p>授業の概要 講義：「日本画で描かれた植物の系譜」「日本画で描かれた人物の変遷について」 演習：日本画の基本的な制作を通して表現の基礎、特に日本画の素材で描写する力を身につける。写生においては対象を発見する視点や対象を捉える描写力を身につけ、下図で対象と自分と向き合い表現する力を身につけ、草稿で制作を組み立てる力を身につけ、本紙制作で日本画の表現に昇華する力を身につける。この4段階それぞれで合評を行う。描く対象を取材し対象を活かし表現する事で自分の表現と向き合う。30号植物課題 50号人物課題を課す。</p>	隔年
コース 専門科目 (芸 美術表現 コ	コース 選択科目	日本画 I b	<p>授業の到達目標及びテーマ 動物と風景の日本画の系譜を理解し、日本画制作に専門的に取り組む授業。日本画の素材や対象の写生を通して自己表現と向き合うことが出来るようになる。動物を実際に見ることや風景を見いだすことから制作意図を見つけ主体的に日本画制作に取り組む。日本画画材水干と岩絵具の特性を学びつつ絵具を置いて描写する方法を学ぶ。</p> <p>授業の概要 講義：「日本画で描かれた動物たち」「日本画で描かれた風景の変遷について」 演習：日本画の基本的な制作を通して表現の基礎、特に日本画の素材で描写する力を身につける。写生においては対象を発見する視点や対象を捉える描写力を身につけ、下図で対象と自分と向き合い表現する力を身につけ、草稿で制作を組み立てる力を身につけ、本紙制作で日本画の表現に昇華する力を身につける。この4段階それぞれで合評を行う。描く対象を取材し対象を活かし表現する事で自分の表現と向き合う。30号動物課題 50号風景課題を課す。</p>	隔年

コース専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	日本画Ⅱa	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>近代以降の日本画の系譜を理解し、ものを見る姿勢の系譜を実感しながら制作を行う。制作意図、姿勢に応じた日本画の素材や対象の写生を意識的に行い、100号以上の制作の準備が出来るようになり、大きな画面で自己表現と向き合うことが出来るようになる。また近代以前の動物の絵の系譜をスクラップブックにまとめ、ディフォルメをいかした動物制作を試みる。</p> <p>授業の概要</p> <p>講義：「近代以前に描かれた動物たち」「現代日本画の変遷について」</p> <p>演習：日本画の基本的な制作を通して表現の基礎、特に表現する意図と技法を考察し、技法研究を経て制作を構築する力を身につける。30号動物課題と100号自由課題を課す。動物課題では動物の写生や解剖学的な知見を得ながら表現したい事を明確にし、さらにディフォルメを行い制作する事で、制作意図を整理し、技法を選定し、技法研究を経て表現に至るプロセスを経験する。100号自由課題ではこれまでの制作での学びを通して自分で主題を見つけて、写生や写真などの資料収集や取材を行い、主体的な制作行程を構築し、表現を自分のものにする。</p>	隔年
コース専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	日本画Ⅱb	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>近代以降の日本画の系譜を理解し、ものを見る姿勢の系譜を実感しながら制作を行う。制作意図、姿勢に応じた日本画の素材や対象の写生を意識的に行い、100号以上の制作の準備が出来るようになり、大きな画面で自己表現と向き合うことが出来るようになる。また近代以前の植物画の系譜をスクラップブックにまとめ、視点をいだし研究し、それを活かした制作を試み、近代以降の制作との差異を実感しながら主体的に制作に取り組む。</p> <p>授業の概要</p> <p>講義：「近代以前に描かれた植物」「戦後日本画の変遷について」</p> <p>演習：日本画の基本的な制作を通して表現の基礎、特に表現する意図と技法を考察し、技法研究を経て制作を構築する力を身につける。30号植物課題と100号自由課題を課す。植物課題では植物の写生や植生などの取材を通して表現したい事を明確にし、制作意図を整理し、技法を選定し、技法研究を経て表現に至るプロセスを経験する。100号自由課題ではこれまでの制作での学びを通して自分で主題を見つけて、写生や資料収集や取材を行い、主体的な制作行程を構築し、表現を自分のものにする。</p>	隔年
コース専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	日本画Ⅲa	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>日本画絹本の古典技法を学ぶ事により、日本画の制作行程を見つめ直し、一つ一つの行程の意義を見いだす。そして古典作品から技法を類推できるようになる。</p> <p>授業の概要</p> <p>花鳥を絹本で制作し、日本画の古典技法を学ぶ。絹本の制作準備から絹の基本的な扱い方を学び、墨入れの考え方や絵具の発色のさせ方、重色の方法、裏彩色などの方法など絹本ならではの表現特性と道具の特性を深く理解しながら古典技法から学ぶ視点を育てる。また軸装することを通して空間と作品のあり方を考察するきっかけとし、近代以前の軸と空間のあり方への理解を深め、空間を異化する方法を学び、日本画の多様なあり方について学ぶ。</p>	隔年
コース専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	日本画Ⅲb	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>日本画紙本の古典技法を学び、特に発色のさせ方などに意識的になり、日本画の制作行程を見つめ直し、一つ一つの行程の意義を見いだす。そして古典作品から技法を類推できるようになる。</p> <p>授業の概要</p> <p>花鳥を紙本で制作し、日本画の古典技法を学ぶ。発色を考慮した墨入れや絵具と膠の量との関係、絵具の置き方による発色のさせ方などの描写の方法を学んでいく。紙本や絵具の特性を最大限に活かしながら表現する事を学び、古典技法から技法や技法に込められた考えを類推する力を育てる。また軸装することを通して空間と作品のあり方を考察するきっかけとし、近代以前の軸と空間のあり方の理解を深め、空間を異化する方法を学び、日本画の多様なあり方について学ぶ。</p>	隔年
コース専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	西洋画Ⅰa	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>静物画をコラージュをもとに描きます。様々な媒材を利用して油絵具の持っている表現の幅を身につけ、今後の制作活動に活かしていきます。様々なメディアが発達している現在ですが、実際にモノを見て描くということをしっかり学び、手わざによる表現を豊かにします。マチエール等を自分独自のものとし、描画に活かしていきます。</p> <p>授業の概要</p> <p>静物をスケッチし、木炭紙大のカルトンにコラージュします。コラージュする素材は各自用意し、出来るだけ幅の広い素材を用意しておいてください。そのコラージュをもとに、アクリル絵の具を下層描きとし、マチエールを豊かにした後、油絵具の特性を活かし、描画していきます。</p>	隔年

コース専門科目(芸術表現コース)	コース選択科目	西洋画Ⅰb	<p>授業の到達目標及びテーマ          人体の構造を把握します。また、様々なドローイングを行い自己表現への転換の足掛かりとします。様々なドローイングを経験することにより、豊かな表現力を身に着け、新しい絵画作品を見つけ出すことを目標とします。</p> <p>授業の概要          人物ヌードを前にし、固定ポーズからムービングなどのポーズを行い、鉛筆、木炭、水彩、パステル、コンテ等の描画素材で100枚ドローイングします。100枚のドローイングを行い、それをもとに油絵制作のために活かしていきます。油絵は今まで自己が行ってきた表現以外の表現に挑戦し、今後の自分の制作にいかしていきます。</p>	隔年
コース専門科目(芸術表現コース)	コース選択科目	西洋画Ⅱa	<p>授業の到達目標及びテーマ          美術史にある様々な支持体を実験し、習得します。また、古典技法である、テンペラ絵具と油絵具の混合技法を習得し、高い描写力を身に着けることを目標とします。</p> <p>授業の概要          様々な支持体(白亜地、エマルジョン地、和紙張り、ジェッソ地)を実習し、それぞれの特性をまず理解します。そのあと、その中から自分に合った支持体を選択し、テンペラ絵具と油絵具とテンペラ絵具の混合技法で制作していきます。テンペラ絵具と油絵具の混合技法は、細密描写表現に適しており、透明感のあるガラス質のものをモチーフに描きます。</p>	隔年
コース専門科目(芸術表現コース)	コース選択科目	西洋画Ⅱb	<p>授業の到達目標及びテーマ          人物モデルを前にして、油絵具の可塑性を活かした描画表現の習得を目標とします。数をこなすことによって、自分の欠点や長所を理解し、自己の表現に活かしていきます。水彩絵具などによるスケッチではなく、油絵具を用いたスケッチ(オイルスケッチ)を学ぶことで描画のスピードを上げ、描く技量をより高くします。</p> <p>授業の概要          15号のキャンバスを3枚用意しマスキングテープでその画面を4分割します。前半は学生たち自身でモデルをし、人物の顔を描く練習をします。12人の顔を1枚約30分で描き、描くポイント等を学びます。その後、ヌードモデルを15号のキャンバスに3枚描きます。はじめは白色絵具、黒色絵具、褐色絵具だけを用いたグリザイユ表現をし、後半は有色絵具を持ち良いグレース表現をしていきます。</p>	隔年
コース専門科目(芸術表現コース)	コース選択科目	西洋画Ⅲa	<p>授業の到達目標及びテーマ          西洋画における、伝統的で一番古くからある技法「フレスコ画」を習得します。普段油絵や水彩絵具等を使用し制作している学生に、絵画の歴史で一番古い技法のフレスコ画を習得する事で、より幅の広い自己の制作に活かしていきます。</p> <p>授業の概要          初期ルネサンス絵画の巨匠の作品の実際の大きさの模写を行う。漆喰が乾かないうちに制作していく。下絵を転写して、漆喰造りからすべて当時の方法を用い制作していく。</p>	隔年
コース専門科目(芸術表現コース)	コース選択科目	西洋画Ⅲb	<p>授業の到達目標及びテーマ          西洋画における、伝統的で一番古くからある技法「フレスコ画」を習得します。普段油絵や水彩絵具等を使用し制作している学生に、絵画の歴史で一番古い技法のフレスコ画を習得する事で、より幅の広い自己の制作に活かしていきます。</p> <p>授業の概要          西洋画Ⅲaで培った技法で、自分の作品を仕上げる。物語性を追求して、制作を行う。エスキースを提出し、下絵を描き、転写し、漆喰を制作描いていく。</p>	隔年
コース専門科目(芸術表現コース)	コース選択科目	彫刻Ⅰa	<p>授業の到達目標及びテーマ          彫刻作品として頭像を制作し、石膏像にしたあと、テラコッタや乾漆などの別素材にキャストする手順や技法を理解する。原型制作の技術としては、単にモデルと同じ形になるよう模するのではなく、彫刻作品として成立するために必要な、全身像における量、面、均衡、動勢などについて理解し、それらを作品に反映させる。等身大全身像作成のための基礎力を養う。</p> <p>授業の概要          授業2コマ180分間の内、始めの40分間は教員が講義を行う。残りの時間で制作を行い、教員が学生の作品に対し講義内容を踏まえた実技指導を個別に行う。学生は指定された自習時間や放課後の時間を使って学習したことや指導を受けた内容について、制作活動を行い確認する。教員は塑造による頭像制作の手順や技法を解説し、演習中の作品に造形的な観点からの指導を適宜行う。制作者は、塊と面と量感表現に努める。</p>	隔年
コース専門科目(芸術表現コース)	コース選択科目	彫刻Ⅰb	<p>授業の到達目標及びテーマ          彫刻作品としての等身大トルソ像の制作の手順や技法を理解する。その上で、単にモデルと同じ形になるよう模するのではなく、彫刻作品として成立するために必要な、全身像における量、面、均衡、動勢などについて理解し、それらを作品に反映させる。等身大全身像作成のための基礎力を養う。</p> <p>授業の概要          授業2コマ180分間の内、始めの40分間は教員が講義を行う。残りの140分で人物モデルの15分ポーズ8分休みで制作を行い、教員が学生の作品に対し講義内容を踏まえた実技指導を個別に行う。学生は指定された自習時間や放課後の時間を使って学習したことや指導を受けた内容について、制作活動を行い確認する。教員は塑造による等身大トルソ像の制作の手順や技法を解説し、演習中の作品に造形的な観点からの指導を適宜行う。制作者は、特に内的ムーブマンの表現と量感表現に努める。受講者は両足重心の像と片足重心の像の合計2作品を制作する。2作品目は石膏どりも行う。</p>	隔年

コース専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	彫刻Ⅱa	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>彫刻作品としての等身大立像の制作の手順や技法を理解する。その上で、単にモデルと同じ形になるように模倣するのではなく、彫刻作品として成立するために必要な量、面、均衡、動勢などについて、彫刻Ⅰa・Ⅰbの授業で学んだことを生かし、習作ではなく地面にしっかりと立ち、かつ創造性の高い作品を目指す。</p> <p>授業の概要</p> <p>授業2コマ180分間の内、始めの40分間は教員が講義を行う。残りの140分で人物モデルの15分ポーズ8分休みで制作を行い、教員が学生の作品に対し講義内容を踏まえた実技指導を個別に行う。学生は指定された自習時間や放課後の時間を使って学習したことや指導をうけた内容について、制作活動を行い確認する。教員は塑造による全身像の制作の手順や技法を解説し、実習中の作品に造形的な観点からの指導を適宜行う。受講者は作品の石膏どりも行う。</p>	隔年
コース専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	彫刻Ⅱb	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・彫刻作品としての等身大人物や動物などをモチーフにして塑像制作を計画的に行うことができる。</li> <li>・石膏、FRP、テラコッタ、シリコン、乾漆などに仕上げることを想定し、彫刻Ⅰa・Ⅰbの授業で学んだことを生かしながら、習作ではなく創造性の高い作品制作ができる。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <p>授業2コマ180分間の内、始めの40分間は教員が講義を行う。残り時間は教員が学生の作品に対し講義内容を踏まえた実技指導を個別に行う。学生は指定された自習時間や放課後の時間を使って学習したことや指導をうけた内容について、制作活動を行い確認する。教員は塑造による制作の手順や技法を解説し、実習中の作品に造形的な観点からの指導を適宜行う。受講者は作品の石膏どりも行う。</p>	隔年
コース専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	彫刻Ⅲa	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木彫の制作過程と基本概念を理解し説明できる。</li> <li>・木の性質を理解し、適切な木取りができる。</li> <li>・立体感や量感を意識しながらデッサンを描くことができる。</li> <li>・ノコギリ、ノミなどの木彫用道具を正しく使用でき、手入れができる。</li> <li>・荒取りを適切に行うことができる。</li> <li>・細部の表現を行うことができる。</li> <li>・テーマに沿った立体表現ができる。</li> <li>・合評会で自己作品のコンセプトや内容について解説し、他者の作品について適切に批評できる。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <p>これまで受講してきた「彫刻Ⅰ、Ⅱ」等で経験した塑造の学習をいかして木彫を行う。樟などの木材から、人物の頭像を制作する。材料となる木材の扱い方、道具の使い方、手入れの仕方を学び、制作の準備を整えた後、制作のすすめ方を学び、その手順を踏んで彫り進める。モデルはこれまでに自作した頭像を使用する。これまでの塑像制作で学んできた彫刻の要素（量感、塊、均衡、比例、動勢などに気をつけながら制作をおこなう。制作の最後には講評会を行なう。</p>	隔年
コース専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	彫刻Ⅲb	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木彫の制作過程と基本概念を理解し説明できる。</li> <li>・木の性質を理解し、適切な木取りができる。</li> <li>・素材となる木を生かしたテーマ設定ができる。</li> <li>・立体感や量感を意識しながらデッサンを描くことができる。</li> <li>・木を生かした表現を行うことができる。</li> <li>・テーマに沿った立体表現ができる。</li> <li>・ノコギリ、ノミなどの木彫用道具を正しく使用でき、手入れができる。</li> <li>・合評会で自己作品のコンセプトや内容について解説し、他者の作品について適切に批評できる。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <p>これまで受講してきた「彫刻Ⅰ、Ⅱ」等で経験した塑造の学習を生かして、木彫を行う。樟などの木材から、動物や抽象形態を制作する。材料となる木材の扱い方、道具の使い方、手入れの仕方はもちろんだが、素材となる木の性質を読み取って造形に生かしながら、これまでの塑像制作で学んできた彫刻の要素で量感、塊、構成、均衡、比例、動勢などにも配慮しながら制作をおこなう。制作の最後には講評会を行なう。</p>	隔年
コース表現専門科目（芸術）	コース選択科目	ミクストメディアⅠa	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>平面表現、写真表現、コラージュ表現の方法と技術や知識を立体表現と比較研究し、将来に向けた独自の表現活動を行うための思想形成に役立たせることを目標とする。</p> <p>授業の概要</p> <p>平面表現、写真表現、コラージュ表現における課題の後、それらを活かした立体に還元することを念頭に自由表現による作品制作の4つの課題で構成する。受講する学生個々と作品内容について意見交換を行うことで、作品の概念構築をはかる。各課題ごとに作品展示、プレゼンテーション、講評を行う。</p>	隔年
コース表現専門科目（芸術）	コース選択科目	ミクストメディアⅠb	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>映像表現、身体表現の方法と技術や知識を研究し、将来に向けた独自の表現活動を行うための思想形成に役立たせることを目標とする。</p> <p>授業の概要</p> <p>映像表現A・B、身体表現における課題の後、それらを活かした自由表現による作品制作の4つの課題で構成する。受講する学生個々と作品内容について意見交換を行うことで、作品の概念構築をはかる。各課題ごとに作品展示、プレゼンテーション、講評を行う。</p>	隔年

コース 表現専門 科目 (芸)	コース 選択 科目	ミクストメディアⅡa	授業の到達目標及びテーマ 立体表現、インスタレーション表現の方法と技術や知識を研究し、将来に向けた独自の表現活動を行うための思想形成に役立たせることを目標とする。 授業の概要 立体表現、インスタレーション表現における課題の後、それらを活かした自由表現による作品制作の3つの課題で構成する。受講する学生個々と作品内容について意見交換を行うことで、作品の概念構築をはかる。各課題ごとに作品展示、プレゼンテーション、講評を行う。	隔年
コース 表現専門 科目 (芸)	コース 選択 科目	ミクストメディアⅡb	授業の到達目標及びテーマ 学外での展覧会を学生自ら企画することで、大学内では対応できないような、表現活動の演習を行い、より実践的にディスカッションやプレゼンテーション能力を養い、将来、表現活動の思想形成に役立たせることを目標とする。 授業の概要 学外での自分たちの作品展を学生が主体となって作り上げる。教員の指導を受けながら、企画、実施、広報、会計、記録などを作品制作と並行して進めていく。作品展示、プレゼンテーション、講評を行い、後片付けまでを指導する。	隔年
コース 専門 科目 (芸 表現)	コース 選択 科目	ミクストメディアⅢa	授業の到達目標及びテーマ 世界的な美術動向と日本の差異を講義によって説きながら、受講者たちが美術家として立ち立つ地点を自らの力で獲得できることを目標とする。また、各自が発案する展覧会を企画・組織させ、プランニングシート(企画書)として具体化させることによって、バーチャルな学習から、現実的な展覧会を”能動的”に発案させ、実践できるまでの「現代美術(家・展)の作り方」をテーマとする。 授業の概要 ”物”(美術作品)の作り方から”事”(美術家・キュレーター)の作り方をインターナショナルな世界観を立脚点に、ナショナルリティーとしての日本性を兼ね備えた、本格的な美術家の在り方を説くことと同時に、世界に通用するための展覧会の作り方を受講者と共に考え具体的なプランニングを講義、ワークショップ、企画書製作、プレゼンテーションによってすすめる。	隔年
コース 専門 科目 (芸 表現)	コース 選択 科目	ミクストメディアⅢb	授業の到達目標及びテーマ 自ら決めた具体的なテーマに沿った、様々な表現媒体、表現手段の体験。各自の感性、思想に相応しい、表現素材と方法の選択による複数の試作(エスキース)を通じて、直感力を養う共に、それらを自己分析し作品概念を構築し。作品化する力を身につけることを目標とする。 授業の概要 テーマを全員で話し合い決定する。それに沿って写真表現、身体表現、身近な素材を使ったインスタレーション表現、言語表現による作品制作、作品展示、プレゼンテーション、講評を行う。 その中から各自が表現媒体を2つ以上選択し、それらを複合させた方法により、テーマに沿って試作(エスキース)を多数制作し、それらを自己分析、各自と意見交換し、作品を構想する。 中間講評を経て、作品制作と展示、プレゼンテーション、講評を行う。	隔年
コース 専門 科目 (芸 表現 コース)	コース 選択 科目	視覚伝達デザインⅠ	授業の到達目標及びテーマ ・タイポグラフィの基本概念(狭義と広義)を理解し説明できる。 ・視覚伝達の要素(図・画・字)と役割と構成について理論を踏まえ実践できる。 ・フォントや組版ルール、使い分けができ、高い機能性を伴う美しい文字組みができる。 ・基本を踏まえ、ロゴタイプなどの応用へ結びつけることができる。 ・自己の作品のコンセプトや内容を説得力をもって説明でき、他者の作品について適切に批評できる。 授業の概要 タイポグラフィの基礎と応用術を学ぶ。 視覚伝達に欠かせない「文字」を機能的で美しく駆使するための基本ルールから、モチーフとしての文字のアレンジまで、情報の取り扱いについての方法・作法を身に付ける。論理的な構成と確実な伝達を前提として、可能な応用展開を探る。	
コース 専門 科目 (芸 表現 コース)	コース 選択 科目	視覚伝達デザインⅡ	授業の到達目標及びテーマ ・タイポグラフィの基本概念を踏まえ、機能的かつ美しい編集・加工ができる。 ・視覚伝達の要素(図・画・字)と役割と構成について理論を踏まえ実践できる。 ・メディアを問わずの確で客観的な情報の編集と伝達ができる。 ・本やインターネットなどのマスメディアの役割や問題点を理解し、有効活用できる。 ・明解なコンセプトを築き、計画的・論理的な進行ができる。 ・自己の作品のコンセプトや内容を説得力をもって説明でき、他者の作品について適切に批評できる。 授業の概要 エディトリアルデザインを扱う。 「視覚伝達デザインⅠ」を踏まえ、情報を編集・加工し、総合的な伝達メディアとして完成させる。紙媒体、ネット媒体を問わず、見る者への興味を喚起し、理解しやすく、戸惑わせない手順を客観的に想定して、優れたコミュニケーションを図ることを目的とする。 視覚的工夫にとどまらず、見やすさや使われ方、タイトル、テキストに対する配慮も含む。	

コース専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	視覚伝達デザインⅢ	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ダイアグラム、インフォメーショングラフィックによって多様で複雑な情報を可視化し、より短時間で理解可能な伝達表現ができる。</li> <li>・内容・目的に応じた適切なメディアを選択・駆使できる。</li> <li>・有益なコンテンツを抽出・編集し、社会に提供することができる。</li> <li>・明解なコンセプトを築き、計画的・論理的な進行ができる。</li> <li>・自己の作品のコンセプトや内容を説得力をもって説明でき、他者の作品について適切に批評できる。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <p>ダイアグラム、インフォメーショングラフィックを中心に実践的に学ぶ。時間・位置・数量・概念的情報など、文章や画像だけでは難解な情報コンテンツを、より高度な表現で図解（可視化）し、より短時間で理解可能にする。報道・教育・生活などさまざまな場面で確実な理解を促すために必要な素材を数多く見だし、必要性・有効性を実感しながら実践する。</p>	
コース専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	コンテンツデザインⅠ	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>表現媒体、技法、にとらわれず表現形式を柔軟に横断できる発想力とそれを論理的に構築できる分析力の獲得。</p> <p>立案した発想の具現化にあたり、より適した媒体、形式、技法を逆算して取捨選択できる編集力の獲得。</p> <p>立案した発想を具現化し、それを社会に計画性をもって発信していく実践力と応用力の獲得。</p> <p>授業の概要</p> <p>講義・ワークショップ・課題制作・自由制作の4形式により構成。現代アートおよびデザイン実作品を論理的かつ構造的にひも解きながら制作へと繋げていく。モノのビジュアルをデザインするのではなく、それを感じ取る人間の知覚をデザインするという観点から、より柔軟かつ先鋭的な表現の可能性を探る。</p>	
コース専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	映像デザインⅠ	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに沿って企画、構成、演出を構想し、シナリオを作成できる。</li> <li>・撮影や照明等撮影のための機器、用具、材料の知識及び使用技術を修得する。</li> <li>・デジタル編集により、表現意図を明確にした映像の編集、合成、加工ができる。</li> <li>・優れた作品を鑑賞し、自ら作成することで映像表現の独自性と豊かさを理解できる。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <p>CMやPV等、映像表現を巧みに用いた作品を鑑賞し、構成や演出を理解した後、映像デザインにおいて企画力や構成力を身につけるために、演出方法やシナリオ作成の基本を学ぶ。次に撮影に必要なカメラ機材や照明技術を理解しシナリオに基づき個別かグループで撮影を行う。編集はPC上で写真、動画、イラスト、音、光、文字を素材とし、専用アプリケーションを用いる。その際、シナリオに沿った映像の編集、合成、加工等、映像効果を取り入れ、個性的な構成や演出を工夫する。最後に合評会を行い、映像デザインとしてメッセージの伝達や個性的な着想や表現ができていくかを相互評価する。</p>	
コース専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	情報デザインⅠ	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報社会における情報流通の現状と課題について理解し説明することができる。</li> <li>・Webデザインにおいて重要な伝達、交流、共有のための関連技術・サービスの基礎を理解し、技術動向を把握することができる。</li> <li>・上記の理解を踏まえ、情報を視覚化、構造化したWebコンテンツを制作し、制作作品のコンセプトや内容を解説することができる。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <p>今日の情報社会では、「情報爆発」と呼ばれるほど大量の情報が流通していて、それらを人間にとって理解しやすい形に組織化することが求められている。本授業では、Webデザインとその関連技術・サービスの参考事例の紹介から、基礎的な知識や技法を獲得し、テーマに応じたWebコンテンツを制作する。受講前にPC/Macの基礎的な操作能力を有していることが必要である。</p>	
コース表現専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	コミュニケーションデザイン論	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商業デザインにおける企画、宣伝、広告の現場を理解できる。</li> <li>・プロの現場における発想や構想の表現方法を知る。</li> <li>・発想表現や企画構想を理解できる。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <p>世の中のしくみや生活におけるコミュニケーションの重要性を知る。本講義ではデザインに必要な発想法や構想法として価値の転換や新規の価値について講義をし、新たな発見を促すマインドセットの可能性を講義する。本授業は集中講義である。</p>	隔年
コース表現専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	コミュニケーションデザイン演習	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商業デザインや宣伝、広告の現場を理解できる。</li> <li>・プロの現場における発想や構想表現を知る。</li> <li>・演習課題により、発想表現や企画構想を提示できる。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <p>世の中のしくみや生活におけるコミュニケーション。本授業ではデザインに必要な発想法や構想法として価値の転換や新規の価値について講義をし、新たな価値を生み出せるようなテーマに沿って演習を行う。本実習は集中講義である。</p>	隔年

コース 現専門 科目 (芸術 表 現 コ ー ス)	コース 選 択 科 目	地域ブランディング論	授業の到達目標及びテーマ ・メディアデザインによる地域ブランディングとその方略を理解できる。 ・メディア活用による事業構想の基礎理論と方法論を理解できる。 ・Appleのデザイン哲学やメディア活用法を理解できる。 授業の概要 質的に高度で独自性のあるAppleのデザイン哲学や活用法を講義し、ブランディングにおける価値創造の重要性と方法を知る。また、デザインやコンサルティングの現場で行ってきた地域ブランディングや価値創造の実践を紹介する。さらに、ブランディングと事業構想の関係性やメディアの活用を解説する。本授業は集中講義である。	隔年
コース 表 現 専 門 科 目 (芸術 表 現 コ ー ス)	コース 選 択 科 目	地域ブランディング演習	授業の到達目標及びテーマ ・地域ブランディングとメディアデザイン方略を理解できる。 ・事業構想の基礎理論と方法論を理解できる。 ・Appleのデザイン哲学やメディア戦略と活用法を理解できる。 授業の概要 Appleのデザイン哲学や活用法を講義し、ブランディングデザインにおける価値創造の重要性と方法を知る。実習として任意に選択した地域ブランディングに必要な要素を選び、特定地域のブランディングや事業構想を検討し提案する。本実習は集中講義である。	隔年
コース 専 門 科 目 (芸術 表 現 コ ー ス)	コース 選 択 科 目	メディアアート論	授業の到達目標及びテーマ ・メディア芸術の歴史を知ることができる。 ・メディア芸術の概要を知ることができる。 ・マルチメディアとテクノロジー、身体、空間におけるインタラクティブな関係と表現の可能性を理解できる。 授業の概要 メディア芸術の歴史や概要、代表的な作品の構想や狙いを講義し、メディア芸術の基礎を理解させる。国内外の豊富なメディア芸術における知見と大規模なメディア芸術関連のキュレーションの実績から今後のメディア芸術の可能性についても解説する。本授業は集中講義である。	隔年
コース 表 現 専 門 科 目 (芸術 表 現 コ ー ス)	コース 選 択 科 目	メディアアート演習	授業の到達目標及びテーマ ・メディア芸術の歴史を知ることができる。 ・メディア芸術の概要を知ることができる。 ・マルチメディアとテクノロジー、身体、空間をテーマにしたインタラクティブな関係を構想し作品化できる。 授業の概要 メディア芸術の歴史や概要、代表的な作品の構想や狙いを講義し、メディア芸術の基礎を理解させる。その後、演習として多様なメディアを用い、テーマに沿って作品をつくりあげる。	隔年
コース 専 門 科 目 (芸術 表 現 コ ー ス)	コース 選 択 科 目	染色工芸 I a	授業の到達目標及びテーマ ・浴衣の制作を通して、美しさと機能の関係を考察することを授業テーマとする。使うことの意味、美しいことの意味等を考え、意識出来ることを本授業の到達目標とする。 授業の概要 代表的な染色防染技法の中の絞り技法を用い「浴衣」の制作を行う。「浴衣」の歴史的背景から当時の防染法や文様を学び、小袖への興味へと繋げ、江戸期の染色文化の奥深さを知る。また、絞り技法についても理解を深めることはもちろん、「浴衣」の1反の直線裁ちによる服飾構成を理解し、文様との関係、機能としての「浴衣」について学び、機能と意匠の関係について考える契機とする。	隔年
コース 表 現 専 門 科 目 (芸術 表 現 コ ー ス)	コース 選 択 科 目	染色工芸 I b	授業の到達目標及びテーマ ・シルクスクリーン技法による作品制作を通して、染色工芸の多様な方向性を探ることを授業テーマとする。シルクスクリーン技法の習得、及びシルクスクリーン技法による染色工芸作品の可能性を提示することを授業到達目標とする。 授業の概要 自身が撮影した写真をモチーフにして、シルクスクリーン技法の中の感光法を用いて、複数のパネルの組み合わせによる作品の制作を行う。繰り返しの表現、色の重なりから生まれる効果、シルクスクリーン技法ならではの組み合わせが創る表情を学び、染色平面表現の多様な展開へと繋げる。	隔年
コース 表 現 専 門 科 目 (芸術 表 現 コ ー ス)	コース 選 択 科 目	染色工芸 II a	授業の到達目標及びテーマ ・蠟防染技法をより深く理解する努力を通して、染色平面表現の今後の展開が期待出来る形態創出による染色作品制作を授業テーマとする。蠟防染技法だからこそ生まれる形態を考察することで、蠟防染技法と染色意匠の関係について理解することを授業到達目標とする。また、本授業が卒業研究へと繋がることも目標とする。 授業の概要 蠟防染技法を用い染色平面表現のパネル大作制作を行う。染色意匠を意識した被染布、染料の選択、蠟の特性を生かした形態創出の試行錯誤を図り、蠟防染技法による染色平面表現の可能性を探る。	隔年

コース 現専門 コース目 （芸術表	コース 選択科目	染色工芸Ⅱb	授業の到達目標及びテーマ 型糊防染技法の完成度を高める努力を通して、防染技法から生まれる形態について考察を図ることを授業テーマとする。防染技法と染色意匠の関係を意識しながら、染色平面表現が行えるようになることを授業達成目標とする。また、本授業が卒業研究へと繋がることも目標とする。 授業の概要 型糊防染技法を用い染色平面表現のパネル大作制作に挑む。被染布の選択に始まり、染料の決定、そして、型糊防染技法の特性を生かした形態創出の試行錯誤を図り、型糊防染技法による染色平面表現の可能性を探る。	隔年
コース 現専門 コース目 （芸術表	コース 選択科目	染色工芸Ⅲa	授業の到達目標及びテーマ 織る、或いは編むことによる平面表現を通して現代の染色工芸活動の多様性を知る導入的役割を果たすことを授業テーマとする。織ることや編むことから生まれる表現活動の基礎的スキル、及び知識の習得を授業目標とする。 授業の概要 糸とフレームを用いた作品制作を通して、織ること、編むことの基本的なことを理解する。また、糸についても学び、表現素材としての役割、平面を創り出す役割を考察し、織ることの意味、編むことの意味を知る。この織る行為や編む行為による平面作品の制作実践から、素材の果たす役割を改めて感じ取り染色工芸平面表現の新たな展開模索の契機とする。	隔年
コース 現専門 コース目 （芸術表	コース 選択科目	染色工芸Ⅲb	授業の到達目標及びテーマ 綿、いろいろな種類の木綿糸による造形表現を通してファイバーアートへの興味へと繋げることを授業テーマとする。ファイバーアートへの理解はもちろんのこと、現代の染色造形活動について深く理解出来ることを授業目標とする。 授業の概要 綿やいろいろな形状をした木綿糸を用いた作品制作を行う。素材から感じ取れる自由な発想を大切に作品創りを心がける。素材から生まれる造形、素材が創り出す造形を意識する。また、この作品制作活動を通してファイバーアートにおける素材の意味、現代のファイバーアートと呼ばれている染色表現活動が生み出すものを感じ取り、染色工芸活動の多様性と繊維素材から生まれる表現を知る契機とする。	隔年
コース 専門 コース目 （芸術表	コース 選択科目	漆・木工芸Ⅰa	授業の到達目標及びテーマ 下地から塗りという髹漆（漆を塗ること）の基本技法と変わり塗りの技法を学ぶ。漆はほとんどの受講者にとって未知の素材であり、基礎技術を学ぶ中で素材と出会う授業である。 授業の概要 10枚程度の手板の制作を行う。まず、本堅地行程に従って下地から塗りまでの漆塗装行程を行い髹漆の基礎を修得する。中塗りが終わった後、呂色仕上げ、数種類の変り塗りを行う。幅広い変り塗りの技法を学ぶことにより柔軟な漆の用い方を体験し、素材の面白さや可能性について発見し、作品を発想する基礎を養成する。基本技法を学んだ経験をもとに、最後に自分の工夫を加えたオリジナルの変り塗りを制作する。週毎の課題制とする。	隔年
コース 表現 専門 コース目 （芸術	コース 選択科目	漆・木工芸Ⅰb	授業の到達目標及びテーマ 脱乾漆技法による立体制作方法、表現を学ぶ。技法を学ぶ中で、離型、抜け勾配、雌型/雄型の特性等の型特有の性質を理解し、型を介する乾漆の技法的・造形的特徴を捉える。また、量産を含むプロダクティブな思考、器と用についての考察も深める。 授業の概要 粘土による原型制作、石膏による型取りを用いた脱乾漆技法により器物を制作する。日常使いの器ではなく、特別な日に用いるハレの器をテーマとする。週毎の課題制とする。	隔年
コース 専門 コース目 （芸術表	コース 選択科目	漆・木工芸Ⅱa	授業の到達目標及びテーマ 発泡スチロールを胎とする漆造形方法、表現を学ぶ。発泡スチロールという安価な人口材を漆の胎として用いる経験は、その違和感と共に、伝統技法の中で留まりがちな視野を広げ、素材、技法に対する理解を深める効果がある。また、自身の表現についても合わせて思考し、作品構想力を高めることを目的とする。 授業の概要 発泡素材を漆造形の胎、もしくは脱乾漆技法の型として用いる方法は1960年代後半から行われ、それにより漆の表現は造形的に大きく幅が広がった。本授業では、発泡スチロールを胎とする方法により、用途を持たない漆立体造形を課題とし、造形技法を学ぶと同時に発想力を養う。	隔年
コース 表現 専門 コース目 （芸術	コース 選択科目	漆・木工芸Ⅱb	授業の到達目標及びテーマ 木材加工、漆造形手法、漆装飾技法等の学んだ基礎を基として、素材の面白さを見つけて発想し表現へと繋げる。課題の設定、制作方法の検討を学生自身が主体的に行い作品を制作する。 授業の概要 漆工芸、木工芸の中でも、漆造形、器物、装飾、塗り、家具等のさまざまある分野の中から、大きな方向性を定め、その分野において作品制作し、技法表現を深めていく。完成後、プレゼンテーションする。週毎の課題制とする。	隔年



コース専門科目(芸術表現)	コース選択科目	漆・木工芸Ⅲa	授業の到達目標及びテーマ 日本の漆芸作品を彩ってきた様々な装飾技法を学ぶことで、華やかな表現手段を獲得することが目的である。研出蒔絵、螺鈿(薄貝細工)、卵殻細工(うずら卵)を用いた装飾技法の基本工程を身につける。また、技法の修得と共に、それぞれの技法の歴史について幅広い知識を身につける。 授業の概要 漆工芸の装飾技法の中でも、特に研出蒔絵や螺鈿、卵殻細工等の基本的な技法及び表現を学ぶ。これらに共通する「研出し」の行程は、古くから行われる最も基本的な技法であり、装飾表現を考える上での基礎を成す方法である。授業では、それぞれの技法で作られた漆芸品の実物を見せながら、技法の特徴や地域性、歴史など解説する。また、技法を説明する際は、教員が実演を行って具体的に判りやすく説明を行う。	隔年
コース専門科目(芸術表現)	コース選択科目	漆・木工芸Ⅲb	授業の到達目標及びテーマ 日本の漆芸作品を彩ってきた様々な装飾技法を学ぶことで、華やかな表現手段を獲得することが目的である。平蒔絵、箔等を用いた装飾技法の基本工程を身につける。また、技法の修得と共に、それぞれの技法の歴史について幅広い知識を身につける。 授業の概要 漆工芸の装飾技法の中でも、特に平蒔絵技法、箔貼り等の基本的な技法及び表現を学ぶ。これらの技法は金属粉や箔の精錬に伴い、蒔絵技法が発展する中で生み出された技法である。簡明でありながら、かつ複雑な技法展開も可能であり、華やかな装飾表現には欠かすことのできない手法と言える。授業では、それぞれの技法で作られた漆芸品の実物を見せながら、技法の特徴や地域性、歴史など解説する。また、技法を説明する際は、教員が実演を行って具体的に判りやすく説明を行う。	隔年
コース専門科目(芸術表現)	コース選択科目	応用木工芸	授業の到達目標及びテーマ ・ 歪みや繊維の方向性などの木の特性、機械加工を含む木取りから製材といった加工の手順、鋸・鉋・鑿といった木工具の扱いや研ぎ等の手入れなど、木を組む加工をする際に必要な基礎技術、基礎知識を、実制作を通して学ぶ。 ・ 機能、構造上の強度を備えたものとしてデザインを考える。 ・ デザイン案を製図することができる。 授業の概要 木工家具をテーマとして、組む技法を扱う。無垢材を用いてツールを制作する。	
コース専門科目(芸術表現)	コース選択科目	金属工芸Ⅰa	授業の到達目標及びテーマ 課題の布目象嵌は、母材の鉄地に1mm間隔の中10本程度といった鑿(たがね)による大変細かい目切りを施したり、0.03mm厚の銀や銅の平金を用いたり、とても緻密な作業ですが、技法の理論と工程を理解するならば未経験者であってもきちんと完成する表現法です。金工の技法と表現を実践し、素材の特性や道具の重要性を理解します。 授業の概要 布目象嵌技法によるペーパーウエイトを制作します。掌サイズの軟鉄の母材に布目状の目切りを施し、各自デザインによる銀、銅の紋金(0.03mm厚)を嵌め込み(入嵌)、鑄付け、油焼き加工等を施し仕上げます。この手法は鉄の錆肌の油焼き色(焦げ茶～黒)に銀の白色、銅のピンク色が映え、味わいを持って表現されます。	隔年
コース専門科目(芸術表現)	コース選択科目	金属工芸Ⅰb	授業の到達目標及びテーマ 素材の特性および制作工程を理解し、ジュエリーとしての提案性や小空間における造形を思考しながら制作する。また、伝統技法の一端に触れることにより新たな表現の可能性やその価値について理解する。 授業の概要 銅と真鍮(共に1mm厚)、2種類の金属の組み合わせによる切嵌象嵌技法によってペンダントトップおよびブローチを制作します。切嵌象嵌とは薄い地金を切り透かし、その透しの間に他の金属を埋め込み溶接によって接合された表現です。また、最終工程の硫化によって真鍮は麦藁色、銅はやや紫をおびた黒に近い色に仕上がります。その2色のコントラストを踏まえデザインを考えます。	隔年
コース専門科目(芸術表現)	コース選択科目	金属工芸Ⅱa	授業の到達目標及びテーマ 真土(まね)(鋳型材)型鋳造法によりブロンズ作品を制作することで、原型素材の粘土と完成作品のブロンズとの素材変化を理解し、造形表現の幅を広げることが目標とします。 授業の概要 油粘土でレリーフ原型を制作し、真土(まね)(砂を粘土水で混練し焼成したもの)で鋳型を作ります。耐火煉瓦で窯を築き、薪による鋳型焼成を行います。金工室溶解炉でブロンズを溶解し、各自で鋳型に注湯します。仕上げ作業の後、着色を行い完成させます。真土型は古墳時代から変わらぬ鋳型製法です、古来より伝わる金属造形方法を体験し、表現の可能性を考察していきます。	隔年
コース専門科目(芸術表現)	コース選択科目	金属工芸Ⅱb	授業の到達目標及びテーマ ユニット構成をし、セラミックシェルモールド鋳造法によりブロンズ作品を制作することで、蠟素材が生み出す自由且つ、個性的な表現方法について理解し、造形表現の幅を広げることが目標とします。 授業の概要 「広がり」又は「凝縮」をイメージし、蠟板及び蠟棒でユニットを作り、そのユニットで構成し蠟原型を制作します。金属工芸Ⅱaと異なり現代的鋳造方法であるセラミックシェルモールド法で鋳型を作り、金工室電気炉で温度管理しながら脱蠟及び鋳型焼成を行います。金工室溶解炉でブロンズを溶解し、各自で鋳型に注湯します。仕上げ作業の後、着色を行い完成させます。イメージに合わせたユニットを構成する計画性を、今後の自身の制作にいかしてください。	隔年

コース 現専門 科目 (芸術 表 現 表)	コース 選 択 科 目	陶磁マーケティング	授業の到達目標及びテーマ ・マーケティングの基本的な原理を理解する。 ・講義中にてでくるマーケティングの専門用語を理解する。 ・陶磁をマーケティング観点から考察する力をみにつける。 ・肥前地区における陶磁器マーケティングの特徴について理解する。 授業の概要 陶磁器における製品戦略、価格戦略、流通戦略、コミュニケーション戦略と いったマーケティング要素の4Pを中心に講義を行う。有田、伊万里、波佐見、三 河内といった具体的な陶磁器産地を事例にあげ、その核戦略について説明を行 う。	
コ ー ス 表 現 専 門 科 目 (芸 術 表 現 表)	コ ー ス 選 択 科 目	陶磁器産業論	授業の到達目標及びテーマ ・陶磁器産業の基本特性を理解する。 ・わが国における代表的な陶磁器産地を比較して理解する。 授業の概要 陶磁器産業の全体像を歴史的、社会的、経済的な視点から概観するとともに、陶磁器 産業の産業特性を他産業と比較しながら考察する。また、わが国における代表的な陶磁 器産地(栃木県益子町、岐阜県多治見市・土岐市・瑞浪市、滋賀県信楽町、岡山県備前 市、佐賀県有田町、長崎県波佐見町など)をとりあげて、その産地特性を比較考察する。	
コ ー ス 専 門 科 目 (芸 術 表 現 表)	コ ー ス 選 択 科 目	釉薬化学概論	授業の到達目標及びテーマ 釉薬の沿革を学びその特徴と発展を理解し、その種類について把握する。 釉薬の魅力を発見する。 授業の概要 1. 釉薬の沿革(釉薬の役目、釉薬の歴史、釉薬の性質) 2. 釉薬の種類(焼成温度による釉薬の分類、塩基組成による釉薬の分類、焼成法 による分類) 3. 自然釉(自然釉原料の化学組成と調合) 4. 色釉(着色元素、鉄釉・黒釉・柿釉・鉄赤釉・青磁・砒青磁、銅釉・辰砂・釉 裏紅・トルコ釉) 5. 失透釉(酸化錫、酸化チタン、亜鉛) 6. 艶消し釉(バリウム、マグネシウム、亜鉛、タルク) 7. 化粧掛け 8. 上絵 9. 釉薬の調製	
コ ー ス 専 門 科 目 (芸 術 表 現 表)	コ ー ス 選 択 科 目	セラミック原料化学	授業の到達目標及びテーマ 本授業は各種セラミック原料を科学的観点から理解し、利用できるようになるこ とを目的とする。 授業の概要 本授業におけるセラミックは窯業製品や無機材料を意味し、金属元素と非金属 元素(主に酸素)との化合物全般を含む。多くの金属元素があり、その種類や数 によりセラミック原料特性が大きく変化する。本授業では、汎用される酸化物セ ラミックスについて次の内容を講義する。 1) 結晶構造と構成原理・一般酸化物、長石、粘土鉱物 2) ガラス・構造と製造法、鉱物の加熱による生成 3) 粉体・粒子の各特性(粒子径、表面積、形態)と評価方法 4) 粉体反応・異なるセラミックスの反応	
コ ー ス 専 門 科 目 (芸 術 表 現 表)	コ ー ス 選 択 科 目	セラミック焼成	授業の到達目標及びテーマ セラミック焼成に関わるプロセス技術とその背後にある科学を理解できる学 力を養う。 授業の概要 セラミック製品は原料粉末成形体の高温加熱(焼成)により製造される。本講 義ではセラミック焼成に関わる下記内容を教授する。 1) セラミック粉末の成形・加圧成型、鑄込み成型、ろくろ成形 2) セラミック原料の加熱変化・シリカ(相転移)、長石(分解)、粘土(脱 水、分解) 3) 混合粉末の加熱変化・シリカ-長石-粘土系混合粉末の加熱変化 4) 状態図・2成分系状態図の見方 5) 焼成炉・電気炉、還元炉(形状、耐火煉瓦、雰囲気) 6) 焼成体の特性・密度、組織、強度	
コ ー ス 専 門 科 目 (芸 術 表 現 表)	コ ー ス 選 択 科 目	衣食住文化論	授業の到達目標及びテーマ 生活におけるアートの意味を考えるための基盤づくりとして、生活科学の各分 野の基礎知識を修得している。さらに合理的で豊かな家庭生活を送るための方途 を考えることができる。 授業の概要 生活におけるアートの意味を考えるために必要となる生活科学の基本的事項を 学ぶ。衣生活分野では被服文化、被服材料学、被服衛生学、被服管理学につい て、食生活分野では栄養学と調理学について、住生活分野では住居や住生活につ いて、それぞれ基礎知識を得て、理解を深める。  (オムニバス方式/全15回)  (26 甲斐今日子/5回) 衣生活分野の被服文化、被服材料学、被服衛生学、被服管理学 (35 萱島知子/5回) 食生活分野の栄養学と調理学 (30 澤島智明/5回) 住生活分野の住居と住生活	隔年 オムニバス方式

コース専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	世界の中の肥前陶磁器	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>有田焼が生まれるに至るまでの中国、朝鮮半島と日本の関係をしっかりと学ぶ。また、江戸初期の日本とヨーロッパのつながりについて理解する。日本の歴史教育の欠点である「日本史と世界史」の乖離を埋め、21世紀の日本人としての基礎的な歴史、世界観を身につける。</p> <p>授業のテーマ 有田焼をはじめとする焼き物文化がいかに佐賀、長崎県に定着し、発展したか。そこに至るまでのような文化交流があり、その後有田焼が国内外に与えた影響を知り、未来の焼き物文化・産業としての窯業の将来像を描いていく。</p> <p>授業の概要</p> <p>有田焼が日本陶磁の最高峰であることは論を待たない。一方で産業としての有田焼はライフスタイル、消費者の嗜好の変化により、苦境に立たされている。また、有田焼は日本文化の中で突然変異として現れたものではなく、中国や朝鮮半島との長い交流の中で生まれ、大航海時代を経たヨーロッパにも影響を与えた。このように有田焼を単独で捉えるのではなく、美術史的、文化史的な視点はもちろん、経済やマーケティングの面からも俯瞰することによって多様な発展の可能性を探っていく。</p>	
コース専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	食と器	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>食と器の果たす役割を、食の基本を学ぶことを通じて理解する。</p> <p>授業の概要</p> <p>郷土料理は、自然風土の中で育まれた産物の旬を生かした料理や、加工・保存法の伝承に体験学習の知恵がある。そして家庭料理は、正しい食嗜好を養い、生涯の健康を守るための適量を食することの大切さを習慣付けるものである。郷土料理・家庭料理について、体験学習を通じて自然風土の中で育まれた産物の旬を生かした料理や、加工・保存法の伝承について理解させる。さらに現代の多様な生活環境における食について、科学的・効率的な対処の仕方を理解して食をコーディネートできる能力を身につけてもらう。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(37 野口和子/12回)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食文化</li> <li>2. 和食素材・郷土素材の調理操作</li> <li>3. 基本調味料・だし等の取扱い方</li> <li>4. 調理操作と器具の関わり方</li> <li>5. 料理の盛りつけと器の基本</li> <li>6. 食事のマナー</li> </ol> <p>(35 萱島知子/3回)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 調理実習</li> </ol>	隔年 オムニバス方式
コース専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	陶磁特別演習Ⅰ	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>肥前磁器の代表的様式の1つ、色鍋島のデザイン性について理解し、生産の現場に残る技術と伝統について学ぶ。</p> <p>鍋島文様を模倣し再構成することで、鍋島文様を現代のアイテムに対応させる。</p> <p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・有田町今右衛門窯の制作現場を見学し、生産の現場に残る技術と伝統を観察する。</li> <li>・今右衛門古陶磁美術館を見学し、肥前磁器の変遷と特徴を理解する。</li> <li>・重要無形文化財保持者14代今泉今右衛門先生による、色鍋島、もの作りについての講義</li> <li>・鍋島文様の模倣と再構成。</li> <li>・14代今泉今右衛門先生のスライドレクチャー及び、学生作品の講評</li> </ul>	隔年
コース専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	陶磁特別演習Ⅱ	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>肥前磁器の代表的様式の1つ柿右衛門様式について15代酒井田柿右衛門先生より解説を受け、その伝統的生産と現代における生産現場の姿を把握する。</p> <p>授業の概要</p> <p>有田町の柿右衛門窯を訪問し、伝統的技法による生産工程を観察する。</p> <p>15代酒井田柿右衛門先生による生産工程の解説と、伝統的もの作りについての講義</p> <p>柿右衛門様式のデザインの特徴についての考察</p> <p>柿右衛門様式の模倣と再構成実習</p> <p>15代酒井田柿右衛門先生のスライドレクチャーと学生の作品講評</p>	隔年
コース専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	陶磁成形技法Ⅰ	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>排泥鑄込み石膏型製作技術及び成形技術を習得するとともにテクスチャー加工のための道具や方法を工夫しバリエーション豊富なテクスチャーを施すことができるようになる。</p> <p>授業の概要</p> <p>陶磁器生産における石膏型を用いた量産技法の一つである排泥鑄込み成形法により同一形状の基本形態を制作する。その後、基本形態に様々なテクスチャーを施すことで同一形態でもテクスチャーの質や施し方により基本形態の見え方が変わることを学び、陶磁器表現におけるテクスチャーや質感に対する意識を養う。</p>	

コース専門科目(芸術表現コース)	コース選択科目	陶磁成形技法Ⅱ	授業の到達目標及びテーマ 通常のろくろ成形や紐づくりに囚われることなく、器から離れ、発想を柔軟にし、成形技法としてそれぞれの可能性を探るとともに、陶磁器制作における表現の幅を広げる。また、自主的な表現活動を行って行くための体質を芽生えさせる。 授業の概要 「やきもの」ほど、その制作工程の中で様々な表情を呈する素材はない。土という素材が見せる様々な表情、土の生理を感じながら生素地、半乾き、乾燥、焼成、土の水分量、土の細かさ粗さ、加工道具、加工方法など土の表情を探り、土の性質・特徴をサンプリングし将来の作品制作に向けて資料を作る。	
コース専門科目(芸術表現コース)	コース選択科目	陶磁成形技法Ⅲ	授業の到達目標及びテーマ さまざまな陶磁造形制作技法のうち、自己の造形表現にふさわしい方法を選択し、その特徴を駆使して造形物として表現する。それにより技法の特徴と素材の特徴更には、制作工程における工夫や気づきを誘発する。 授業の概要 自己の表現したいことを、他の学生や教員と議論しながら整理し、それに合った表現を選択する能力を身につける。また、実習によりさまざまな技法の習熟を図りながら、失敗をすることで、その限界も見極める。 ・アイデアの整理(ディスカッション) ・技法、過程の整理 ・素材の選択 ・技法、過程の工夫 ・制作、試行錯誤 ・プレゼンテーション  (オムニバス方式/全15回)  (23 湯之原 淳/8回) 主に、素材の選択、技法、過程の工夫、制作、試行錯誤担当 (9 田中 右紀/7回) 主にアイデア整理、技法過程の整理、プレゼンテーション担当	オムニバス方式
コース専門科目(芸術表現コース)	コース選択科目	陶磁技法特別演習	授業の到達目標及びテーマ 白磁による造形表現の試みを、重要無形文化財保持者前田昭博先生の自身の作品の発想の起点とその展開、制作の動機・過程を追体験し、その造形思想を遡行し理解する。そしてそこから自己の制作研究を省み、触発される部分を明確化する。 授業の概要 ・前田昭博先生の工房を訪問し、制作現場を観察と作品解説 ・制作の過程を理解する ・制作の意図、動機についてディスカッション ・前田昭博先生による造形演習 ・スライドレクチャー及び、学生作品の講評 ・学生によるプレゼンテーション	隔年
コース専門科目(芸術表現コース)	コース選択科目	装飾技法Ⅰ	授業の到達目標及びテーマ 肥前磁器の伝統的な下絵付け技法を用いて、時代に即応した伝統表現へ柔軟に対応できる人材の育成を目指す。肥前有田磁器の重要な特徴の1つ呉須による下絵付け技術習得のための基礎として、線描き筆、濃み筆、付け立て筆の使い方、使用実践、簡単な絵付け制作までを行う。 授業の概要 伝統的な下絵付けによる 1. 線描き(骨書き) 2. 濃み(べた塗り・グラデーション) 3. 付け立てなど、筆を用いた基礎技術	
コース専門科目(芸術表現コース)	コース選択科目	装飾技法Ⅱ	授業の到達目標及びテーマ 肥前陶磁の 伝統的な上絵付け技法を用いて、時代に即応した伝統表現へ柔軟に対応できる人材の育成を目指す。 「装飾技法Ⅰ」に引き続き、各種筆を持ちいた線描き、濃み、付け立て、金描について、技術の修練と共に、多様な用法についても習得していく。 授業の概要 伝統的な上絵付けによる 1. 線描き(骨書き)、 2. 濃み、 3. 付け立て 4. 金描きなど 5. 参考作品、古陶磁の鑑賞 6. 合同講評	

コース専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	装飾技法Ⅲ	<p>授業の到達目標及びテーマ 肥前陶磁の伝統的な下絵付け、上絵付けを基礎として、自己の選択したアイテムに自らのデザインする装飾図柄を施す。 伝統的絵付けとその応用・発展の中に、独自の絵付けの方向を見出す。下絵・上絵技法等の複数技法を併用することで、多様な表現を導き出す。</p> <p>授業の概要 ・先達の装飾図柄の資料収集と発表 ・自己の装飾図柄のための資料収集と発表 ・自己の装飾図柄の再編集 ・技法・素材選択 ・絵付け実習 ・制作試行錯誤 ・プレゼンテーション</p>	
コース専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	装飾技法特別演習	<p>授業の到達目標及びテーマ 海外や日本の様々な産地に残る装飾技法のうち、自己の表現に合う技法を複数選択し、その混合や分離抽出を行い、それぞれの個性が見えるオリジナルの表現技法の種を見出す。また造形技法の練り込み技術習得により、装飾技法との混合表現により更に多様性を探る。</p> <p>授業の概要 ・教員の装飾技法紹介 ・参考作品の装飾技法調査 ・練り込み技法実習 ・表現テーマの発表と技法選択 ・アイデア発表 ・装飾技法実験 ・テーマ作品制作 ・プレゼンテーション</p>	隔年
コース専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	ロクロ成形Ⅰ	<p>授業の到達目標及びテーマ 有田の伝統的な磁器物の水挽きロクロ成形により、決まった形の物を量産できる技術を修得する。有田のロクロの基本とされる、ハマと飯碗の製作を通して基礎を身につける。</p> <p>授業の概要 磁器土の土練りの習得し、ハマの作りによりロクロ成形における手の使い方、削り工程の芯を捉える技術を身につける。更に有田のロクロの基本となる飯碗の製作により、手と道具の使い方を習得し、揃いのものを量産できる技術を修得する。</p>	
コース専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	ロクロ成形Ⅱ	<p>授業の到達目標及びテーマ 有田の伝統的な磁器物の水挽きロクロ成形により、決まった形の物を量産できる技術を修得する。[ロクロⅠの飯碗の製作技術を応用した立ち物と平物を組み合わせ、その製作技術と器物のバランスの美意識を養う。</p> <p>授業の概要 カップ&amp;ソーサーの製作により、立ち物と平物の製作方法を習得し、揃いのものを量産できるようになる。取手は排泥鑄込み成形とし、乾燥接着の技術を学ぶ。</p> <p>・カップ&amp;ソーサーのデザインについて調査する ・自らのアイデアを製図する ・立ち物、平物のロクロ成形 ・取手の成形 ・加飾、焼成</p>	
コース専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	ロクロ成形Ⅲ	<p>授業の到達目標及びテーマ 伝統的な磁器物の水挽きロクロ成形により定まった形の器を量産出来る技術を習得する。商品として市場に流通させるには、定まった形状の器を一定の速さで歩留り良く作ることが大切で、各アイテムにつき、最低限の反復練習と、押さえておかなければならない成形上のポイントを身につける。</p> <p>授業の概要 1、磁土の土練り 2、飯碗の制作（成形、削り、仕上げ） 3、湯呑の制作（成形、削り、仕上げ） 4、皿ものの制作（成形、削り、仕上げ） 5、検品（自己検品と第三者の検品）</p>	
コース専門科目（芸術表現コース）	コース選択科目	ロクロ特別演習	<p>授業の到達目標及びテーマ 伝統的な肥前磁器のロクロ技法を習得し、自己の目標アイテムを制作する。肥前有田に継承される有田磁器のロクロ技術のうち、基本の飯碗、筒、皿物の段階を習得したもののうち、更に難易度の高い技術を要する、袋物、蓋物、細工物等のアイテムを自ら選択し、習得する。</p> <p>授業の概要 1、磁土の土練り 2、自己の目標アイテム設定（袋物、皿物、蓋物、細工物等） 3、目標アイテム制作 4、先達の作品観察、研究 5、講評</p>	

<p>コース専門科目（芸術表現コース）</p>	<p>コース選択科目</p>	<p>石膏型成型Ⅰ</p>	<p>授業の到達目標及びテーマ 石膏の基礎を学ぶ。石膏という素材を知り、その特性を利用した陶磁器の生産方法の基礎を学ぶ。 1. 型制作に必要な設備（石膏ろくろ）や道具（三角カンナ）を適正に取り扱うことができる。 2. 石膏素材を活用した造形（モデリング）ができる。 石膏型成型Ⅰでは、目的とする形をそれに応じた技法で石膏に移し変える技術を身につける。 課題では量産製品としての基本的な食器（碗）を製作する。 授業の概要 《Ⅰ機械ロクロ成形》 課題：回転体による「碗」を、機械ロクロ成形技法を用いて製作する。 1. 食器（碗）について、使用される状況や用途など観察力及び考察力を養う 2. 碗について、場面や意図に沿った食器制作の考え方の理解する 3. 排泥鑄込み技法について、石膏型製作と成形工程の技術習得と造形表現の基礎練習 4. 作業の自主性と計画性を習慣付ける</p>	
<p>コース専門科目（芸術表現コース）</p>	<p>コース選択科目</p>	<p>石膏型成型Ⅱ</p>	<p>授業の到達目標及びテーマ 石膏の基礎を多様な形態で体験する。石膏という素材を知り、その特性を利用した陶磁器の生産方法を学ぶと同時に、その用途に応じた形態を理解する。 1. 石膏素材を活用した造形（モデリング）ができる。 2. 型（原形、捨型、ケース型）の生産性や機能性が理解できる。 石膏型成型Ⅱでは、目的とする形をそれに応じた技法で石膏に移し変える技術を身につけると共に、中程度の量産を意識した各種石膏型における原型、捨型、ケース型の製作技術を習得する。（機械ロクロ型） 課題では量産製品としての基本的な食器（注器）を製作する。 授業の概要 排泥鑄込み成形の技術を習得するため、回転体による「注器」を、機械ロクロ成形技法を用いて製作する。 1. 食器（注器）について、使用される状況や用途など観察力及び考察力を養う 2. 中期について、場面や意図に沿った食器制作の考え方の理解する 3. 機械ロクロにおける石膏型製作と成形工程の技術習得と造形表現の基礎練習 4. 作業の自主性と計画性を養う</p>	
<p>コース専門科目（芸術表現コース）</p>	<p>コース選択科目</p>	<p>石膏型成型Ⅲ</p>	<p>授業の到達目標及びテーマ 石膏の基礎を、圧力成型技法を通して学ぶ。石膏という素材を知り、その特性を利用した陶磁器の生産方法を学ぶと共に、生産性や機能性を理解する。 1. 型（原形、捨型、ケース型）の生産性や機能性が理解できる。 2. 皿について、石膏型を利用した成形ができる。 3. 圧力鑄込みの特性を知る。 石膏型成型Ⅲを通して、目的とする形（皿）をそれに応じた技法で石膏に移し変える技術を身につけると共に、量産を意識した各種石膏型における原型、捨型、ケース型の製作技術を習得する。（圧力鑄込み型） 課題では量産製品としての基本的な食器（皿）を製作する。 授業の概要 圧力鑄込み成形技法を習得するため、非回転体の「皿」を、圧力成型技法を用いて製作する。 1. 食器（皿）について、使用される状況や用途など観察力及び考察力を養う 2. 食器（皿）について、場面や意図に沿った食器制作の考え方を理解する 3. 圧力鑄込み技法のための石膏型製作と成形工程の技術習得と造形表現の基礎を学ぶ 4. 作業の自主性と計画性を育てる</p>	
<p>コース専門科目（芸術表現コース）</p>	<p>コース選択科目</p>	<p>石膏型成型特別演習</p>	<p>授業の到達目標及びテーマ テーマ 「既成に捉われない石膏型成形の研究、開発」 求める原型を既成の技法から成形するのではなく、新たな素材、手段で制作する方法を考え出し、完成までのプロセスを探究し、背景を先取りした新たな造形を開発する。 到達目標 テーマに基づき、石膏を他の素材に置き換え、各自が見出した素材から鑄込み成形を行い焼成する。プロセスを通して段階ごとに可能性を見出し、完成度を上げて行く方法を学ぶ。発表と講評を行う。 授業の概要 ・石膏型成型の基本 ・作品にみる石膏型成型の例 ・制作テーマの決定 ・テーマを形にする方法 ・プロセスの特徴と応用 ・完成度のための試行 ・発表と講評</p>	<p>隔年</p>

コース専門科目(芸術表現)	コース選択科目	釉薬化学 I	<p>授業の到達目標及びテーマ 焼き物の個性、表情を最も左右する要素の1つである釉薬について組成、調合を学び、釉薬の基本を理解する。釉薬原料への理解と釉薬の種類、焼成温度と透明・失透・光沢・乳濁との関係などを知ると共に、ゼーゲル式で考える習慣を身につけ、釉調合を化学的に分類整理し、自ら釉の調整を行えるようにする。</p> <p>授業の概要 1. 釉薬の原料 2. 釉薬の組成 3. 釉薬の調合と熔融温度 4. 釉調合・白釉 5. ゼーゲル式の理解</p>	
コース専門科目(芸術表現)	コース選択科目	釉薬化学 II	<p>授業の到達目標及びテーマ 「釉薬化学 I」において学んだ焼き物の個性、表情を最も左右する要素の1つである釉薬についてその主成分であるガラスの科学(原料、構造、粘性、発色など)をさらに化学的に理解できる学力を養い、自らその制作、調整にあたる力をつける。</p> <p>授業の概要 釉薬とは陶磁器や瑠璃の表面をおおっているガラス質の部分のことで、本講義では次の事項について教授する。 1) 釉薬原料 2) 釉薬原料の加熱変化 3) ガラスにおける発色 4) 各種釉薬</p>	
コース専門科目(芸術表現)	コース選択科目	セラミック科学演習	<p>授業の到達目標及びテーマ セラミック科学に関する演習問題を解くことによりセラミックの理解を深めることを目的とする。肥前の陶磁器産地有田の産業の活性化に資する人材の養成を見据え、陶磁器分野やファインセラミクス分野において、調査・研究・開発・実験ができる基礎的素養を定着させる。</p> <p>授業の概要 次の項目について学生による回答および議論と演習を行う。 1) 結晶構造 2) 固体の反応/熱分解反応と固相反応 3) 状態図 4) 成形 4) 焼成 5) 強度</p>	
コース専門科目(芸術表現)	コース選択科目	セラミック科学実験	<p>授業の到達目標及びテーマ 実験を通し、セラミック科学の知識を確認する。肥前の陶磁器産地有田の産業の活性化に資する人材の養成を見据え、陶磁器分野やファインセラミクス分野において、調査・研究・開発・実験ができる基礎的素養を定着させる。</p> <p>授業の概要 以下の項目に関する実験を行う。 1) 結晶モデルの作成 2) 状態図の作成 3) 粉体反応によるセラミクス合成 4) 可塑成形 5) 鋳込み成型 6) 焼結実験 7) 強度測定 8) 色測定</p>	
コース専門科目(芸術表現)	コース選択科目	唐津焼演習	<p>授業の到達目標及びテーマ 肥前陶磁器の源流である唐津焼に遡り、古伊万里や古唐津など、桃山から江戸初期にかけての嗜好や造形の特徴を理解する。現代唐津焼作家の作陶を調べ、古唐津から導き出された造形思考と技術を捉え、現代肥前陶磁器の方向性を確認する。</p> <p>授業の概要 唐津焼の歴史を理解しその特徴について学ぶ。その上で、唐津焼作家の制作を見学し唐津焼の生産工程を学ぶと共に、材料・道具・窯・釉薬等の唐津焼の特性を理解する。また、それらを手作りする体験から唐津焼が求める造形性の一端に触れる。また、唐津焼の造形的特徴について、韓国・中国・日本の他産地からの影響を考えると共に、器を使う体験からディスカッションの後、レポートにまとめるかまたは、作品を提出してプレゼンテーションする。</p> <p>担当 (9 田中 右紀) 唐津焼の概要、歴史、古唐津の特徴、現代唐津焼作家の方向性について担当する。また、唐津焼生産現場取材についても担当する。計10回、主担当 (48 岡本 作礼) 現場の作り手として、古唐津・古唐津古窯の理解とそこに見出される唐津焼の技法について演習形式で担当する。計5回</p>	共同
コース表現専門科目(芸術)	コース選択科目	CAD/CAM I	<p>到達目標及びテーマ 陶磁器のデザインから製造に至るプロセスにおいて、従来の手法とCAD/CAMを利用した新たな手法を対比させ、CAD/CAM利用技術の意義と概要を広く範囲に学び、その基礎的な技術の習得を目標とする。また、これまでCAD/CAM技術で制作された参考例について学ぶ。</p> <p>授業の概要 CADソフトウェアを使って陶磁器デザインを行う手法について、初歩から簡易な形状を制作する技術を実践的に学ぶ。またデータから実体物へ出力する手法についても体験する。</p>	

コース 現専門 科目 (芸術表)	コース 選択 科目	CAD/CAM II	授業の到達目標及びテーマ 近年商品開発、生産工程に使用されるCAD/CAM技術を利用した陶磁器デザインの可能性について産地での利用例を学ぶと共に、自ら生産の工程と求められる製品について考察し、アイデアから製品へ具現化するまでの技術の習得を目標とする。 授業の概要 CAD/CAM技術の特徴と産地での利用方法の実際と可能性について学び、アイデアを生産の現場で生かすまでの工程を理解する。そしてCADソフトウェアを利用したアイデアの具現化法、高度な形状データ制作法、製品化するための型データ制作法と出力機器を利用した出力方法について、各段階を実践的に体験する。	
コース デザイン 専門 科目 (地域デ)	コース 基礎 科目	博物館概論	授業の到達目標及びテーマ 博物館学芸員として必要な基礎的な知識を身につけ、博物館が社会に果たす役割を理解することを目標とする。講義と調査を通して、博物館の課題を発見し、考えることができる力を身につける。 授業の概要 博物館について、西洋と日本における成立史を通して、社会における博物館の位置づけを学ぶ。現代の博物館の機能について、具体例を通して学び、基礎的な知識を理解する。博物館について実地調査を行い、現代日本における博物館について、理解し、課題について検討する。	
コース デザイン 専門 科目 (地域デ)	コース 基礎 科目	ランドスケープ	授業の到達目標及びテーマ 前半の講義ではランドスケープに関する基礎知識を修得し、後半の講義では建築物や公共空間などの都市空間に焦点をあて、魅力ある景観を形成・保全するための理論と方法を理解します。 授業の概要 ランドスケープの概念を、地理的視点・工学的視点・文化的視点・環境的視点などの様々な視点から理解すると共に、日本における「景観・風景」と欧米における「ランドスケープ」の違いを把握します。さらに、良好な景観を形成あるいは保全するための理論と方法を、日本と海外における街並み保全の事例や新たな都市景観創造の事例をケーススタディとして学びます。	
コース デザイン 専門 科目 (地域デ)	コース 基礎 科目	地域再生論	授業の到達目標及びテーマ 中心市街地とともに中山間地域においても地域再生（地域活性化）は今日的な重要な課題となっています。本講義では、地域再生を図るために必要な既存の関連学問分野を横断的に理解することを目指します。 授業の概要 地方の深刻な課題である「地域再生」をテーマとします。佐賀地域で育まれた風土・文化・自然を基盤とした持続力を有した地域の活性化が求められています。衰退の激しい佐賀市中心市街地や過疎化が進行した脊振の中山間地域の現状を正しく把握するとともに、各地で行われている実践的な活動を理解することにより、いかなる再生策が必要であるかを学びます。	
コース 専門 科目 (地域 デザイン コース)	コース 基礎 科目	ヘリテージマネジメント論	授業の到達目標及びテーマ 日本における史跡等記念物の保存管理や史跡整備の現状と課題を知り、それを通じてフィールドデザインの中でのヘリテージマネジメント意義について考える。アジア・世界の視点も踏まえたものを指向する。 授業の概要 日本における史跡等記念物については各地で保存管理の取り組みが行われており、それに関する保存管理計画書が策定されている。また、史跡等の活用、保護のために整備が行われた場合は整備報告書が刊行されている。これらを題材に史跡等の保存管理や整備の基本理念やその方法について説明する。また史跡等の保存管理や整備は町づくりや地域計画の策定と連動する側面が大きいので、その検討を通じて、ヘリテージマネジメントと地域やフィールドのデザインとの関連性を考える。アジア・世界の視点も踏まえた比較も試みる。  (オムニバス方式/全15回)  (13 重藤輝行/10回) 史跡等の保存管理や整備の基本理念やその方法を担当する。 (11 山崎 功/5回) アジア・世界の視点からの比較を担当する	オムニバス方式
コース デザイン 専門 科目 (地域デ)	コース 基礎 科目	地域マネジメント論	授業の到達目標及びテーマ ・地域マネジメントの基本原則を理解する。 ・わが国におけるまちづくり活動の具体的事例を比較考察する。 授業の概要 わが国は少子高齢化社会を迎えて地域活力は減退傾向にある。特に地方都市においてより深刻な状況である。本講義では、マーケティングや経営学の理論を援用しながら、地域活性化に向けた戦略や手法を考察していく。また、全国各地で実施されているまちづくり活動をとりあげて、その成功要因と失敗要因を分析し、地域にもっとも適したマネジメントは何かについて学生自らが考え、解決策を導き出す。	



コース専門科目(地域デザイン)	コース基礎科目	社会政策	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>テーマ：職業生活とポスト職業生活に区分し、それぞれのライフステージを支える経済政策の理論の初歩的枠組みを理解させる。</p> <p>到達目標：雇用社会の仕組みと歴史、それらに関連する政策と法律の基礎が理解できるようになる。</p> <p>授業の概要</p> <p>本講義は、人の人生を、職業生活と職業生活を終えた時期とに区分し、これら双方の時期を、雇用による生活の維持、社会保障による生活の維持とおさえた上で、雇用保障、労働時間＝非労働時間の管理、世代の再生産、生活水準、職業能力開発、年金政策、医療保険などの問題を取り上げ、初歩的な経済理論によりそれぞれの歴史と現状・課題を理解させるように努める。</p>	
コース専門科目(地域デザイン)	コース基礎科目	コミュニティビジネス	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>テーマ：一般的な企業活動の仕組みを理解した上で、今日重要性を増しているコミュニティ・ビジネスと呼ばれる新たな企業とは何かについて解説する。</p> <p>到達目標：これまで一般的にイメージされてきた企業活動とはことなる、小規模・半営利的・勤労者主導的企業の活動の仕組みと存在意義が理解できる。</p> <p>授業の概要</p> <p>今日では、地域を地盤とする小規模、営利の追求を必ずしも第一としない企業が社会経済活動の一翼を担うようになっている。それらの企業の存在は高齢・少子化が進む地方においては、住民の社会的・経済的ニーズがかつてとは変質し、より個別化・多様化し、きめ細やかさを求められるようになることによって、クローズアップされてきている。本講義では、そうした企業類型であるコミュニティ・ビジネスの資金面、人材育成、経営管理に焦点をあて、その存在意義と課題を理解させるように努める。</p>	
コース専門科目(地域デザイン)	コース基礎科目	美術史基礎	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>西洋、日本、東洋のそれぞれの美術史の大まかな流れがつかめるようになる。美術史の基本的な方法論について理解する。</p> <p>古今東西のさまざまな美術作品を通して、日本及び諸外国の美術文化について理解を深める。美術史の基本的な方法論についても学び、美術史研究や作品の鑑賞が効果的に行えるようにする。美術史の背景にある、宗教、政治、経済、人種の問題などにも光をあてることで、作品が社会を映す鏡であることを理解させる。</p> <p>授業の概要</p> <p>古今東西のさまざまな美術作品を通して、作品の見方、美術史とは何か、西洋と日本の世界観の違い等について講義する。それとともに、人々は何のために作品を生み出してきたか、という問題について、受講生に考えさせる契機とする。佐賀大学美術館で作品を鑑賞しながら講義する時間も設ける。</p>	
コース専門科目(地域デザイン)	コース基礎科目	Intercultural Communication and Art I (インターカルチュラル・コミュニケーションとアート I)	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>1. 芸術についての異文化コミュニケーションを図るための自他の文化についての知識の獲得とその技術向上。</p> <p>2. 異文化能力の向上。</p> <p>テーマ</p> <p>① 芸術に焦点を当てた他文化の人々に対するオープンマインドと好奇心の態度。</p> <p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・芸術について異なる文化の人々に英語を用いてインタビューを行い、価値を認め合うことを学び日誌にまとめ、独自の考察を加えレポートをまとめる。</li> <li>・博物館・美術館や他の組織の英語で書かれた文書を読み、要約し、発表する力をつけるため、プレゼンテーションを作成する。</li> </ul>	
コース専門科目(地域デザイン)	コース基礎科目	地域情報マネジメント演習	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>今日では地域情報は極めて多様化し、かつ大規模なデータが蓄積されつつあります。これらを扱うためのシステムとしてGIS(地理情報システム)が発達してきました。本演習では、GISに関する基礎的理解とコンピュータを用いた課題を通して、地域情報を地理学的に分析することを目指します。</p> <p>授業の概要</p> <p>この演習では、GISに関する基礎を理解するとともに、GISを用いて地域データの分析を実習形式で行います。コンピュータは学部の機器を利用し、インターネット上で提供される人口データや土地利用データ、地価などの地域データを入手し、GISによる基本的な分析を行い、その結果を考察することを学びます。</p>	
コース専門科目(地域デザイン)	コース基礎科目	フィールドデザイン演習 I	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>都市デザインやまちづくりを実践する上で重要なことは、現地における活動をとおして、対象とする地域を理解することであり、本演習では地域理解のための具体的なフィールドサーベイの方法の習得します。</p> <p>授業の概要</p> <p>課題の対象地となる地域においてフィールドサーベイを行います。都市デザイン分野におけるフィールドサーベイの対象は多岐の亙りますが、本演習では基本的に物的環境の理解に焦点を絞り、対象地における街並みデザインの特性や地域アイデンティティの読み取りを行い、フィールドサーベイの方法を習得します。</p>	

コース専門科目(地域デザイン)	コース基礎科目	エリアスタディー演習 I	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>アジア地域研究入門。九州・佐賀をはじめとした郷土・地域をアジア、国際社会とのかかわりのなかに実証的に再定置できること。高等学校日本史・世界史の知識を土台として、郷土史・地域史を、世界史のなかに再定置することのできる知識と考え方を身につけていること。アジア地域研究に必要な基礎的な知識をもとにアジア現地調査の計画を立案できること。</p> <p>授業の概要</p> <p>東南アジア地域研究を土台として、九州・佐賀をはじめとした郷土・地域をアジア、国際社会とのかかわりのなかに再定置し、広くアジア世界の政治・社会・文化の枠組みのなかに位置づける。アジア研究の入門として、卒業研究着手につながる基礎的な知識を習得してもらい、それを踏まえてアジアを対象とした模擬フィールド調査を計画してみる。</p>	
コース専門科目(地域デザイン)	コース基礎科目	経営・流通演習 I	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>①学生自らの関心・興味を学問的な問題意識へと高めることができる。 ②自分のもつ知識、関心をプレゼンテーションできる能力をみにつける。 ③問題に対する解決方法や分析方法を提案することができる</p> <p>授業の概要</p> <p>本ゼミナールでは企業のマーケティング活動を中心に研究する。具体的には学生自身の関心のあるケースを学生自身がもちより、報告することによって議論を深めたい。また、ケーススタディからマーケティングの基礎理論の修得するように指導する予定である。 マーケティング論に関する専門書を輪読する(レジュメ作成、報告、ゼミ生全員でディスカッションする) 機会があれば、市場調査やグループワークを行う。</p>	
コース専門科目(地域デザイン)	コース基礎科目	経営・流通演習 III	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>・経営学および流通論の基礎理論を修得する。 ・製造企業、流通企業、商店街組織、NPOなどの経営実態を調査・分析して報告することができる。</p> <p>授業の概要</p> <p>経営学および流通論に関する専門書をテキストに指定し、テキストの内容についてレジュメを作成し、プレゼンテーションを実施するという形式で講義をすすめる。また、実際の企業やNPOの経営現場を訪問し、経営実態を調査して、その内容を報告するという実践的な内容を随時取り入れる。</p>	
コース専門科目(地域デザイン)	コース基礎科目	コンテンツデザイン I	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>表現媒体、技法、にとらわれず表現形式を柔軟に横断できる発想力とそれを論理的に構築できる分析力の獲得。 立案した発想の具現化にあたり、より適した媒体、形式、技法を逆算して取捨選択できる編集力の獲得。 立案した発想を具現化し、それを社会に計画性をもって発信していく実践力と応用力の獲得。</p> <p>授業の概要</p> <p>講義・ワークショップ・課題制作・自由制作の4形式により構成。現代アートおよびデザイン実作品を論理的かつ構造的にひも解きながら制作へと繋げていく。モノのビジュアルをデザインするのではなく、それを感じ取る人間の知覚をデザインするという観点から、より柔軟かつ先鋭的な表現の可能性を探る。</p>	
コース専門科目(地域デザイン)	コース基礎科目	視覚伝達デザイン I	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>・タイポグラフィの基本概念(狭義と広義)を理解し説明できる。 ・視覚伝達の要素(図・画・字)と役割と構成について理論を踏まえ実践できる。 ・フォントや組版ルール、使い分けができ、高い機能性を伴う美しい文字組みができる。 ・基本を踏まえ、ロゴタイプなどの応用へ結びつけることができる。 ・自己の作品のコンセプトや内容を説得力をもって説明でき、他者の作品について適切に批評できる。</p> <p>授業の概要</p> <p>タイポグラフィの基礎と応用術を学ぶ。 視覚伝達に欠かせない「文字」を機能的で美しく駆使するための基本ルールから、モチーフとしての文字のアレンジまで、情報の取り扱いについての方法・作法を身につける。論理的な構成と確実な伝達を前提として、可能な応用展開を探る。</p>	
コース専門科目(地域デザイン)	コース基礎科目	映像デザイン I	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>・テーマに沿って企画、構成、演出を構想し、シナリオを作成できる。 ・撮影や照明等撮影のための機器、用具、材料の知識及び使用技術を修得する。 ・デジタル編集により、表現意図を明確にした映像の編集、合成、加工ができる。 ・優れた作品を鑑賞し、自ら作成することで映像表現の独自性と豊かさを理解できる。</p> <p>授業の概要</p> <p>CMやPV等、映像表現を巧みに用いた作品を鑑賞し、構成や演出を理解した後、映像デザインにおいて企画力や構成力を身につけるために、演出方法やシナリオ作成の基本を学ぶ。次に撮影に必要なカメラ機材や照明技術を理解しシナリオに基づき個別かグループで撮影を行う。編集はPC上で写真、動画、イラスト、音、光、文字を素材とし、専用アプリケーションを用いる。その際、シナリオに沿った映像の編集、合成、加工等、映像効果を取り入れ、個性的な構成や演出を工夫する。最後に合評会を行い、映像デザインとしてメッセージの伝達や個性的な着想や表現ができていくかを相互評価する。</p>	

コース専門科目(地域デザイン)	コース基礎科目	情報デザイン I	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 情報社会における情報流通の現状と課題について理解し説明することができる。</li> <li>・ Webデザインにおいて重要な伝達、交流、共有のための関連技術・サービスの基礎を理解し、技術動向を把握することができる。</li> <li>・ 上記の理解を踏まえ、情報を視覚化、構造化したWebコンテンツを制作し、制作作品のコンセプトや内容を解説することができる。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <p>今日の情報社会では、「情報爆発」と呼ばれるほど大量の情報が流通していて、それらを人間にとって理解しやすい形に組織化することが求められている。本授業では、Webデザインとその関連技術・サービスの参考事例の紹介から、基礎的な知識や技法を獲得し、テーマに応じたWebコンテンツを制作する。受講前にPC/Macの基礎的な操作能力を有していることが必要である。</p>	
コース専門科目(地域デザイン)	コース選択科目	キュレイトイング基礎	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>博物館資料を保存するため「予防保存」の概念と、資料の素材と劣化要因を特定することで、それを管理する保存科学的な理論と方法を学ぶ。博物館資料の専門性は、被災地の博物館支援や国際協力においても必要とされる実務であることを理解する。</p> <p>授業の概要</p> <p>博物館資料保存の概要、博物館収蔵品の素材、素材の劣化機構と要因、室内の温湿度管理、微生物管理、光放射と展示照明、美術品の保存修復、被災地の博物館支援、海外の博物館支援について講義する。</p>	
コース専門科目(地域デザイン)	コース選択科目	博物館経営論	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 博物館の経営と管理について、基本的な考え方を理解し、博物館活動の実践について、基礎的素養を身につけることを目標とする。</li> <li>・ 展示を中心とした博物館から、地域との連携や来館者サービスなどを重視した、利用者中心の博物館へと変化している博物館運営の現状を理解し、その課題について考察する力をつける。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 博物館の運営形態・組織、博物館関連法規を学ぶ。</li> <li>・ 地域と博物館の連携や市民との協働のあり方について、具体的な事例を通して学び、博物館の運営全般について考察する。</li> </ul>	
コース専門科目(地域デザイン)	コース選択科目	博物館資料論	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>博物館資料の定義を国際博物館協会や文化財保護法を比較と比較し、その違いや定義の広がり理解する。18世紀イギリスのCuriosity collection (珍奇収集)、大英博物館、メトロポリタン美術館、東京国立博物館(皇室博物館)の資料収集の変遷をたどる。またエコミュージアムなどの野外型博物館の資料保存も取り上げる。</p> <p>授業の概要</p> <p>博物館資料には有形遺産、文化的、自然的環境にある無形遺産があり、生きた伝統技術、伝承、民族芸能なども含まれ幅広く定義されており、多様な資料の在り方があることを概説する。</p>	
コース専門科目(地域デザイン)	コース選択科目	博物館展示論	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>学芸員となるために必要な、博物館展示に関する基礎的な知識の習得を目的とする。展示の歴史や展示理論を理解し、国内外の展示事例を通して、展示の諸形態や展示装置、実際の展示活動に必要な技術に関する実践的な知識を身につけることを目標とする。</p> <p>授業の概要</p> <p>博物館における展示の意義を理解するために、はじめに、博物館史の視野から、展示の事例をとりあげ、どのような変遷をたどってきたかを考察する。ついで、実際の展示手法を理解するために、博物館における展示装置の諸形態や設備について学ぶ。さらに、具体的な展示事例を学ぶことで、総合的に博物館展示について考察する視野を広げる。</p>	
コース専門科目(地域デザイン)	コース選択科目	博物館資料保存論(芸術と倫理を含む)	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>近現代における博物館資料保存の思想と歴史的展開、そして現代の理論と実践について学ぶ。芸術とそれに介入する保存修復の保存倫理的問題について考える。</p> <p>授業の概要</p> <p>近代における博物館資料の保存の礎であるイギリスのジョンラスキン、ウィリアム・モリス、ベアトリクス・ポターらの思想と活動を概略する。さらに作品のオリジナリティと真正性と、保存・修復・保護の課題について美学や保存修復学の論点から考察する。</p>	

<p>コース専門科目（地域デザインコース）</p>	<p>コース選択科目</p>	<p>博物館情報・メディア論</p>	<p>授業の到達目標及びテーマ          本科目は情報・メディアの意義と基礎的なデジタル画像構成を理解することを目的とする。博物館や美術館における情報・メディアの意義を学び、学芸員にとって必要なデジタル画像処理を講義と演習で理解する。演習ではIllustratorやPhotoshopを使って、デザイン素材画像や写真などを加工、補正、修正する技術を身につける。          授業の概要          博物館や美術館における情報・メディアの意義や歴史、情報通信技術（ICT）の活用事例を講義し、データベースや各種メディアを用いたデジタル・アーカイブスの理解を促す。また、情報発信の方法や管理、制作者や作品に関する著作権や知的財産、肖像権等に触れ、デジタルコンテンツにおける情報モラルの重要性も認識させる。          演習ではIllustratorやPhotoshopを用い、デザイン素材画像、写真加工、修正技術などを学び、これらのソフトを活用しながら、デジタル表現技術の基礎を身に付ける。講義と演習を通してこれらの機能理解と博物館業務に必要な画像生成・補正技術を養う。また、博物館とICTの利活用について参加者の企画力や構想力を高める思考法等のワークショップも行い、多様な博物館と情報・メディアの関連性を学ぶ。</p>	
<p>コース専門科目（地域デザインコース）</p>	<p>コース選択科目</p>	<p>博物館教育論</p>	<p>授業の到達目標及びテーマ          博物館の重要な機能の一つである博物館の教育普及について学ぶ。学芸員・キュレーターとして必要な博物館教育についての知識とスキルを身につける。具体的には、博物館教育の歴史、博物館エデュケーターの役割、博物館教育と学校教育の違いと連携、諸外国の博物館教育の状況などについて学ぶ。美術館での演習を取り入れ、実践的・具体的な博物館教育普及についてのスキルを高める。          授業の概要          博物館の重要な機能の一つである博物館の教育普及について学ぶ。具体的には、博物館教育の歴史、博物館エデュケーターの役割、博物館教育と学校教育の違いと連携、諸外国の博物館教育の状況などについて学ぶ。          （オムニバス方式/全15回）          （29 栗山裕至・34 和田 学/1回）（共同）          ガイダンス 授業の概要、成績評価の方法、その他についての説明          （29 栗山裕至/7回）          歴史、エデュケーターの役割、学校教育と博物館教育、佐賀大学美術館での演習          （34 和田 学/7回）          博物館と学校の連携、諸外国の博物館教育の状況</p>	<p>オムニバス方式 共同（一部）</p>
<p>コース専門科目（地域デザインコース）</p>	<p>コース選択科目</p>	<p>博物館学内実習</p>	<p>授業の到達目標及びテーマ          講義において学んだ博物館業務に関する知識や理論を元に、実技や体験を通して、学芸員に必要とされる知識・技能等の基礎を修得することを目標とする。学外の博物館施設の見学を通し、様々な博物館の運営形態を理解する。          授業の概要          学内施設と資料を利用した、博物館資料の取扱、および整理分類、保管に関する実務実習を行う。展示に関する一連の実務（企画・立案・制作・展示など）を体験する。あわせて学外の博物館施設の見学を実施する。          （オムニバス方式/全30回）          （2 浅田智子・16 藤巻美恵・7 吉住磨子・28 佐々木奈美子/6回）          ガイダンス。          課題発表、公開審査会          （2 浅田智子/8回）          資料の展示と取扱いについての実習（見学実習を含む）。          （16 藤巻美恵/8回）          資料の取扱いと保存・修復について（見学実習を含む）。          （7 吉住磨子、28 佐々木奈美子/8回）          佐賀大学美術館における実務実習（監視、受付、調書の取り方等）。</p>	<p>オムニバス方式 共同（一部）</p>
<p>コース専門科目（地域デザインコース）</p>	<p>コース選択科目</p>	<p>博物館学外実習</p>	<p>授業の到達目標及びテーマ          講義や学内実習で学んだことを、博物館の現場で実際に経験することで、博物館の理念や博物館業務に対する理解を深め、同時に、博物館資料の管理や展示作業、教育普及活動などの実務を行い、学芸員としての技能と社会意識を身につけ、学芸員となる基礎的な素養を身につけることを目標とする。          授業の概要          館外実習は学外の博物館施設で、博物館の指導の下、実施する。実習先により異なるが、期間は1週間から10日間、その間、博物館施設に出向き、実習先が組んだプログラムに則り、実習を行う。実習の前には学内において事前事後指導を行う。          ○（7 吉住磨子）美術館、博物館での実習における実習中の巡回・指導。学内での事前事後指導。          （2 浅田智子）美術館、博物館での実習における実習中の巡回・指導。学内での事前事後指導。          （16 藤巻美恵）美術館、博物館での実習における実習中の巡回・指導。学内での事前事後指導。          （28 佐々木奈美子）美術館、博物館での実習における実習中の巡回・指導。学内での事前事後指導。</p>	<p>共同</p>

コース デザイン専門 科目 （地域 デザイン コース）	コース 選択 科目	美術史Ⅰ	授業の到達目標及びテーマ ヨーロッパ初期近世の美術史の大まかな流れを理解できるようになる。作品分析のための美術史の方法論について知識を深め、美術史の論文が書けるための基礎的な力をつける。特に取り上げるのは、15～17世紀のイタリア美術史。17世紀のオランダ美術史。 授業の概要 ヨーロッパの美術史の根底にある「リアリズム」の観点から、中世ルネッサンスーマニエリスムーバロックの流れを捉える。時代、地域等により、「リアリズム」がどのように変化していったかを考える。適宜、近代と現代の美術史にも触れることで、現代的な「リアリズム」の展開にも注意を向ける。	
コース デザイン専門 科目 （地域 デザイン コース）	コース 選択 科目	美術史Ⅱ	授業の到達目標及びテーマ フランスを中心としたヨーロッパの19世紀美術を取り上げる。美術の歴史における大きな分節点となっている時代を理解し、様式の変遷を美術史の用語を使い、時代背景とともに説明できる力を身につける。 授業の概要 伝統的な絵画の主題から離れ、造形的な純粋性の追及へと向かう大きな流れをおっていく。フランスが絵画において他の国を圧倒していたこと、造形芸術においては絵画がその主流であったことから、フランス絵画の歴史を取り上げることとなるが、他の国の動向や、彫刻や建築といった芸術にも目配りをしながら、通史的に19世紀の芸術について講義を中心に授業を進める。	
コース デザイン専門 科目 （地域 デザイン コース）	コース 選択 科目	美術史Ⅲ	授業の到達目標及びテーマ 地域芸術として鍋島更紗、鍋島・佐賀錦、鍋島緞通とそれに影響を与えた東西のテキスタイルについて学ぶ。実物資料を観察して、デザイン、製作年代、製作技法などを理解し、地域芸術のテキスタイルとそれに影響を与えた外的要因を理解し、鑑識眼を養う。 授業の概要 佐賀の伝統的なテキスタイルに影響を与えたインド更紗、金襴、絨毯、タペストリーについて染織史の視点から講義する。大学所蔵資料や県立博物館などの実物資料を見学し、実物から学ぶ機会を作る。	
域 コース デザイン専門 科目 （地 域 デザイン コース）	コース 選択 科目	美術史演習	授業の到達目標及びテーマ 美術史の専門論文の作成のポイントを理解する。外国語で書かれた専門論文に慣れること。また、わかりやすい翻訳についても学ぶ。 授業の概要 "Burlington Magazine"や"Art Bulletin"などの欧米の専門雑誌に近年、発表された論文を読む。それによって、論文の展開の方法、方法論、資料の引用の方法などについての理解を深め、説得性のある論文の書き方について学ぶ。	
コース 専門 科目 （地域 デザイン コース）	コース 選択 科目	工芸理論	授業の到達目標及びテーマ 工芸の意味、工芸のたどった歴史を知ること、現代生活の中で工芸が果たす役割に気づき、より豊かな生活環境を築くために、これからの産業、とりわけプロダクトデザインがどうあるべきかに思考をつなげる。また、「工芸」「民芸」「クラフト」「プロダクト」「アート」「作家」などの言葉の背景にある歴史と思想についても主に、陶磁器、染色、木工、家具、生活空間などの素材をフィールドに理解する。 授業の概要 本授業では、「工芸」の言葉の意味、たどった歴史、その思想を学び、主要な工芸理論について解説します。 さまざまな素材による工芸表現の構造原理についても学びます。 ・豊かさとは ・「工芸」「民芸」「クラフト」「プロダクト」「アート」「作家」の言葉の背景 ・工芸の思想 ・プロダクトデザインの思想	
コース デザイン専門 科目 （地域 デザイン コース）	コース 選択 科目	キュレーター実務実践演習	授業の到達目標及びテーマ 博物館の学芸や運営管理に関わる実務を佐賀大学美術館と連携して実践的に学ぶこと目標とする。 授業の概要 大学所蔵資料、大学美術館所蔵資料、個人資料などを対象に、キュレーター業務を実践する。作品が収蔵される際のレジストレーション、作品調査票の作成、写真撮影、収蔵、輸送のための梱包、環境管理（室内の温湿度や微生物の検査と管理）、展示ケース、展示器具、照明、照明時間の管理、作品借用手続き、保険などを学ぶ。	

コース専門科目（地域デザインコース）	コース選択科目	キュレイトイング応用Ⅰ	<p>授業の到達目標及びテーマ 展覧会の企画から展示までを考える。現代思想に関わるテーマのもとで、一つの展覧会を行うトレーニングをする。特に企画立案、図録作成等についてのスキルを身につける。</p> <p>授業の概要 実際に開催されたポストコロナリズム、ジェンダー、戦争に関わる展覧会をとりあげ、展覧会の趣旨、内容等について批評しあう。次に、グループに分かれて、それらをテーマに一つの展覧会を企画する。図録（趣旨説明、作品解説等）も作成する。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>（11 山崎 功・7 吉住磨子・2 浅田智子/2回） ガイダンス：授業の概要、成績評価の方法、その他 プレゼンテーション：企画した展覧会のプレゼンテーションと講評会 （11 山崎 功/4回） コロナリズム、オリエンタリズム、エスノセントリズム （7 吉住磨子/5回） ジェンダー （2 浅田智子/4回） 戦争</p>	オムニバス方式 共同（一部）
コース専門科目（地域デザインコース）	コース選択科目	キュレイトイング応用Ⅱ	<p>授業の到達目標及びテーマ 授業は大きく2つに分かれる。前半は、美術品の科学的研究が美術技法史の解明、真贋の判定に果たす役割について学ぶ。分野横断的に協力し、新しい学説を提唱できる素地を養う。後半は、地域の現状および課題をリサーチした上で、その条件に沿ったアート・プロジェクトを企画し、他者へと提案する力を身につける。必ずしも展覧会形式に限らず、トーク・ワークショップ・参加型イベント等の形式も視野に入れつつ現実の条件に応じて適切な企画を立案できる柔軟さを養う。</p> <p>授業の概要 授業は大きく二つに分かれる。前半は、美術品の科学的研究が美術技法史の解明、真贋の判定に果たす役割について学ぶ。後半は、地域の現状及び課題をリサーチした上で、その条件に沿ったアート・プロジェクトを企画し、他者へと提案する力を身につける。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>（16 藤巻美恵・17 花田伸一/1回） ガイダンス。 （16 藤巻美恵/7回） 博物館資料の光学調査、素材の各種科学分析法を概説する。素材に適した調査方法、分析方法があるのを学ぶ。簡易な調査機器や分析機器は授業内でも活用する。 （17 花田伸一/7回） 受講生全体で一つおよび複数のチームを形成し、地域におけるアートプロジェクトの企画のシミュレーションを行う。調査、企画、提案、議論等を重ね、最終的な成果として企画書集をまとめる。</p>	オムニバス方式 共同（一部）
コース専門科目（地域デザインコース）	コース選択科目	アートプロデュース論	<p>授業の到達目標及びテーマ 美術展やアート・プロジェクトの企画実践のための準備段階として、その舞台裏でどのような業務が行われ、どのようなプロセスを経て実現されているかを知る。</p> <p>授業の概要 美術館・アートNPO・地方自治体の主催による美術展やアート・プロジェクトの事例を取り上げる。それらについて、企画調整・スケジュール管理・チーム編成・広報活動・展示設営・出版物作成・予算管理など、その舞台裏の業務やプロセスを具体的に紹介する。毎回、感想や質問をミニ・ペーパーに書き出し、提出すること。</p>	
コース専門科目（地域デザインコース）	コース選択科目	アートマネジメント特別講義	<p>授業の到達目標及びテーマ： 21世紀に入り大きく変化した美術を取り巻く世界を取り上げる。歴史的な文脈、美術、社会、経済など、領域をまたいで俯瞰する思考方法を学び、実践に落とし込む具体的な手法を身につける。</p> <p>授業の概要： アートマネジメントの現状を理解するために、最新の事例をもとに、産業としてのアートの構造を解説する。佐賀大学美術館など身近に存在する機関の広報、ファンディングの立案計画をシミュレーションすることで、実践力を養う。</p>	隔年
コース専門科目（地域デザインコース）	コース選択科目	アートプロデュース演習Ⅰ	<p>授業の到達目標及びテーマ 今世紀におけるアートプロデュースをめぐる最新の動向を知り、その現状や課題を把握する。それらの問題に対して自分の考えをまとめ、他人に伝える力、議論する力を身につける。</p> <p>授業の概要＞ コミュニティ・アート、リレーショナル・アート、アート・ツーリズム、ポリティカル・コレクティブ、ポスト・コロナリズム等、毎回一つのテーマに沿って、アートプロデュースに関連して近年発表された文献を取り上げ、輪読しながらディスカッションを行う。</p>	

コース デザイン 専門科目 (地域)	コース 選択科目	アートプロデュース演習Ⅱ	授業の到達目標及びテーマ 前世期から今世紀にかけてのアートプロデュースをめぐる歴史的な流れを知り、現代のアートプロデュース界の状況を社会の大きな動向の中で相対的に捉える視点を身に付ける。それらの状況に対し自分の考えをまとめ、論じる力を身に付ける。 授業の概要 パブリック・アート、企業メセナ、著作権、ジェンダー等、毎回一つのテーマに沿って、アートプロデュースに関する基礎的・概括的な文献を取り上げ、輪読しながらディスカッションを行う。	
コース デザイン 専門科目 (地域)	コース 選択科目	考古学Ⅰ	授業の到達目標及びテーマ 考古学における型式学、層位学、資料論、発掘調査法等の基本的な方法について学ぶ。考古学の研究の基本文献である学術論文、発掘調査報告書を理解し利用できる程度の理解を到達目標とする。 授業の概要 考古学における型式学、層位学、資料論、発掘調査法等の基本的な方法を、考古学史の展開とともに説明する。あわせて型式学、層位学、様々な発掘調査方法を用いた考古学的研究の現状を、墳墓遺跡、集落遺跡、生産遺跡等を題材として検討する。	
コース デザイン 専門科目 (地域)	コース 選択科目	考古学Ⅱ	授業の到達目標及びテーマ 日本の弥生時代・古墳時代・古代の社会政治組織、文化交流の解明に関する考古学的研究について学ぶ。それを通じて卒業研究等で、考古学から社会政治組織、文化交流等の問題を取り扱う能力を養う。 授業の概要 弥生時代・古墳時代・古代の社会政治組織や、東アジアを含む地域間の文化交流に関する考古学的研究をとりあげ、概説するとともに研究の展開を検討する。あわせて、九州北部を中心とした地域の考古学的資料についても説明を加える。	
コース デザイン 専門科目 (地域)	コース 選択科目	考古学Ⅲ	授業の到達目標及びテーマ 日本の縄文時代～弥生時代早期の文化、社会、交流の解明に関する考古学的研究について学ぶとともに、考古学的遺跡の保存と活用について知る。それを通じて卒業研究等で、考古学資料を取り扱う能力を養う。 授業の概要 縄文時代～弥生時代早期の文化、社会、交流に関する考古学的研究をとりあげ、概説するとともに研究の展開を検討する。あわせて、考古学的遺跡の保存と活用についても説明を加える。	
域 コース デザイン 専門科目 (地)	コース 選択科目	考古学演習Ⅰ (古代以前)	授業の到達目標及びテーマ 日本の古代以前を対象に、考古学的な研究論文、発掘調査報告書を検討し、その結果と今後の課題について発表し、学生、教員の間で討論を行って理解を深める。あわせてプレゼンテーションの方法やレポート、論文の作成方法についても学ぶ。 授業の概要 日本の古代以前を対象に、考古学的な研究論文、発掘調査報告書を調査し、その研究の展開と現状、今後の課題について学習する。	隔年
域 コース デザイン 専門科目 (地)	コース 選択科目	考古学演習Ⅱ (中世・近世)	授業の到達目標及びテーマ 日本の中世・近世を対象に、考古学的な研究論文、発掘調査報告書を検討し、その結果と今後の課題について発表し、学生、教員の間で討論を行い理解を深める。あわせてプレゼンテーションの方法やレポート、論文の作成方法についても学ぶ。 授業の概要 日本の中世・近世以前を対象に、考古学的な研究論文、発掘調査報告書を調査し、その研究の展開と現状、今後の課題について学ぶ。	隔年
コース デザイン 専門科目 (地域)	コース 選択科目	考古学実習Ⅰ (室内)	授業の到達目標及びテーマ 考古学研究のために屋内で行う基本的な作業である写真撮影、出土品の図化、各種図面の製図に関する技術を修得する。あわせて考古学における記録作成の意義や各種記録方法の特性についても理解を深める。 授業の概要 出土品の写真撮影を行い、カメラの操作方法や写真情報の管理について学ぶ。土器及び石器の実測図作成を行い図化の基本的な方法を学ぶ。さらに作成した実測図等を対象に製図を行い、製図ペンやコンピューターを利用した製図を学ぶ。	

域 コース デザイン 専門 科目 （地 域 デザ イン コース）	コース 選択 科目	考古学実習Ⅱ（野外）	授業の到達目標及びテーマ 考古学研究のために屋外で行う発掘調査に関する基本的な技術を修得する。あわせて発掘調査の基本的な計画の立案、環境の整備や機材の準備ができるような能力を養う。また、発掘調査によって得られる考古学的な資料や特性についても学ぶ。 授業の概要 屋外での遺跡の発掘作業、測量等記録作成作業を通じて、遺構の掘り下げや遺跡・遺構の測量図化、写真撮影の方法を体験的に学ぶ。	
コース 専門 科目 （地 域 デザ イン コース）	コース 選択 科目	コンテンツデザインⅡ	授業の到達目標及びテーマ ・アートディレクションにおける企画やワークフローが理解できる。 ・テーマに応じメディアの選択や組み合わせによる表現ができる。 ・コンテンツ制作におけるテクノロジーと表現を意識し制作できる。 授業の概要 コンテンツデザインにおいては、デジタルテクノロジーに限らず多様なメディアを用い、固定観念に縛られない制作方略が必要である。ここでは商業デザインにおいてアートディレクションの意義を捉え、実際の制作企画やワークフローや発想法を理解し、課題に応じた演習を行う。メディアの特徴を生かしてテクノロジーと表現を意識しながら独創的な作品を制作する。	
コース 専門 科目 （地 域 デザ イン コース）	コース 選択 科目	コンテンツデザインⅢ	授業の到達目標及びテーマ ・コンテンツブランディングとプロデュースの方法が理解できる。 ・企画、構想において思考法やイメージ生産を取り入れ適切に表現できる。 ・ブランディング対象に応じ、リアル、オンライン問わず、メディアとテクノロジーを主題とした作品を制作しプロデュース方策として提示できる。 授業の概要 コンテンツデザインは対象のブランディングやプロデュースを行う能力が必要であり、アイデアのストーリーやイメージを表現するために思考法やディスカッションを行う。課題に応じた演習として架空のクライアントからの案件とし各種メディアやテクノロジーを活用し斬新な作品を制作しブランディングやプロデュースの実践力を身につける。	
コース 専門 科目 （地 域 デザ イン コース）	コース 選択 科目	映像デザインⅡ	授業の到達目標及びテーマ ・アニメーションの歴史や構造、ワークフローを理解し説明することができる。 ・複合的にアプリケーションソフトを用いて平面アニメーション、立体アニメーション、プロジェクトマッピングの作品いずれかを制作する。 ・合評会で自己作品のコンセプトや内容について解説し、他者の作品について適切に批評できる。 授業の概要 参考作品を鑑賞し、アニメーションの視覚残像効果やコマの構造を説明し技術的理解を促す。その後、制作の概観や表現方法を講義し、演習形式でアニメーションを作成する。制作は平面、立体、プロジェクトマッピングの3種の領域から選択する。領域に合わせた作品内容の企画、構成を構想し、シナリオや絵コンテを作成する。PCによる素材生成、撮影、合成、編集、上映等の過程でグラフィックス、ムービーアプリケーションを複合的に扱う。最後は合評会を行い、アニメーションとしてメッセージの伝達や個性的な着想、技術的工夫が成されているかを相互評価する。 現在のアニメーションは、デジタル技術により幅の広い表現領域となっており、その概要を知ることと実際に制作することで技術と表現の特徴を理解させる。	
コース 専門 科目 （地 域 デザ イン コース）	コース 選択 科目	映像デザインⅢ	授業の到達目標及びテーマ ・3次元CGの制作フローと基本概念を理解し説明できる。 ・二次元と三次元を認識し形態や質感を意識しながらデッサンを描くことができる。 ・三面図作成方法を理解しIllustratorで作成できる。 ・Shadeの基本機能を用いて自由曲面モデリング、ポリゴンモデリングができる。 ・シェーディング、マッピング、レンダリングを理解し作品に適用できる。 ・ジョイントアニメーションを理解し作品に適用できる。 ・合評会で自己作品のコンセプトや内容について解説し、他者の作品について適切に批評できる。 授業の概要 3Dコンピュータグラフィックスの基本概念を養う為に手の鉛筆デッサンを行う。Illustratorを用い、三次元理解としてキャラクターデザインの三面図を作成する。次にShadeによりキャラクターを自由曲面モデリングで作成する。最終課題として鉛筆デッサンで描いた手をポリゴンでモデリングし、UVマッピングとジョイントアニメーションでデジタルデッサン作品として完成させる。CGは日常的にあらゆる場面で目にしており、PCを用いて生成する3DCG制作は、映像制作に関する基本的な概念と実世界の現象理解が必要である。その知識を元に汎用アプリケーション「Shade」を用いてモデリングからアニメーション・レンダリングまでの工程を演習し、3DCG制作の基礎を養うことを目的とする。	



コース専門科目(地域デザイン)	コース選択科目	情報デザインⅡ	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルメディア表現におけるコンピュータと人間の関係について理解し説明することができる。</li> <li>・デジタルメディア表現における技術動向を把握し、インタラクションに関するハード、ソフトを理解し説明することができる。</li> <li>・インタラクティブなコンテンツを制作し、制作作品のコンセプトや内容を解説することができる。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <p>情報機器が日常生活に普及し、ユーザと対話的なやりとりができるインタラクティブなコンテンツは特別なものではなくなった。本授業では、インタラクションの基礎的な知識や技法を獲得し、テーマに応じたインタラクティブな作品を制作する。受講前にPC/Macの基礎的な操作能力を有していることが必要である。プログラミングの基礎知識を有していることがのぞまれる。</p>	
デザイン専門科目(地域)	コース選択科目	情報デザインⅢ	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークショップデザインの必要性和効用を理解できる。</li> <li>・論理的な思考法により情報活用デザインができる。</li> <li>・ワークショップを主催し実践できる能力を身につける。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <p>課題解決を行うためやコミュニケーションを育むため各種のワークショップが行われている。ワークショップのいくつかや思考法を自分たちで経験し、子供から大人まで楽しめるオリジナルのワークショップを各種メディアやテクノロジーを用いて開発する。</p>	
コース専門科目(地域デザインコース)	コース選択科目	デザインプロジェクト演習	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアデザインに係る領域において、その表現がもたらす個人的、社会的機能を理解した上で事業構想を行うことができる。</li> <li>・グループにおける共有意識を持った上で作業工程、担当部署における役割を果たすことができる。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <p>各自が自分の課題を持ち、その解決に向けた取り組みを行う。課題に関しては個人的、社会的なものに限定せず、課題を省察し解決、提案に向けた取り組みをグループで行う。プロトタイプから成果物に繋がるプロセスを経験し各種メディアを駆使しながら制作を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(3 荒木博申/7回)</p> <p>課題設定を検討し、プロジェクト毎にチームを組み企画、設計する。思考や洞察、発想を大事にしながらアイデアを出していく。</p> <p>(19 杉本達應/7回)</p> <p>プロトタイプの種類ごとに制作を行い、技術、品質、分析、評価を理解する。最終成果作品として合評会を企画する。</p> <p>(3 荒木博申・19 杉本達應/1回) (共同)</p> <p>合評会、プレゼンテーション。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
コース専門科目(地域デザイン)	コース選択科目	メディアプレゼンテーション	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアデザインに必要な伝達能力に係る技法を理解できる。</li> <li>・メディアアートの知見や身体表現も含めた多様なメディア活用によりプレゼンテーションの幅を広げることができる。</li> <li>・合評会で自己作品のコンセプトや内容について解説、他者の作品について適切に批評できる。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <p>アーティストやデザイナーにとって必要な思考力、発想力、造形力を基に相手と対話することで企画力、構想力を身につけることができる。本授業ではメディア活用的手段としてプレゼンテーションを行う。映像、音響、身体、パフォーマンス、テクノロジー等、多様なメディアを用いながらコミュニケーションの源泉を示す「メディア」を意識した、作品としてのプレゼンテーションをつくりあげる。</p>	

コース専門科目（地域デザインコース）	コース選択科目	デザイン実践セミナー	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>デザイナーにおいて必要な実践力はクライアントの存在があり、問題解決や課題解決として分かりやすく提示でき、成果物としてグラフィックスやパッケージ、映像、プロダクト、構想提案ができることにある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デザイン思考により、クライアントから課題の掘り出しと共有ができる。</li> <li>・上記を基に解決モデルやプロトタイプのプロトタイプ提案ができる。</li> <li>・プロトタイプとして映像表現による成果物が提示できる。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <p>本授業では具体的な課題を地域や団体等のクライアントから提示されたことを想定し、グループ活動として課題の認識と共有、作業プロセスの分担、最終的提案までを実践していく。デザイナーやクリエイターとしてクライアントとのコミュニケーションを体験することで実際の作業をOJTとして身につけることができる。</p> <p>（オムニバス方式/全15回）</p> <p>（6 中村隆敏/7回）</p> <p>課題設定を検討し、デザイン解決法として、調査、ヒアリング、洞察、エディティングを理解しメディアやプロトタイプのプロトタイプ企画、設計する。</p> <p>（3 荒木博申/7回）</p> <p>プロトタイプの種類ごとに制作を行い、技術、品質、分析、評価を理解する。最終成果作品として合評会を企画する。</p> <p>（6 中村隆敏・3 荒木博申/1回）（共同）</p> <p>合評会、プレゼンテーション。</p>	オムニバス方式 共同（一部）
コース専門科目（地域デザインコース）	コース選択科目	コミュニケーションデザイン論	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商業デザインにおける企画、宣伝、広告の現場を理解できる。</li> <li>・プロの現場における発想や構想の表現方法を知る。</li> <li>・発想表現や企画構想を理解できる。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <p>世の中のしくみや生活におけるコミュニケーションの重要性を知る。本講義ではデザインに必要な発想法や構想法として価値の転換や新規の価値について講義をし、新たな発見を促すマインドセットの可能性を講義する。本授業は集中講義である。</p>	隔年
コース専門科目（地域デザインコース）	コース選択科目	コミュニケーションデザイン演習	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商業デザインや宣伝、広告の現場を理解できる。</li> <li>・プロの現場における発想や構想表現を知る。</li> <li>・演習課題により、発想表現や企画構想を提示できる。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <p>世の中のしくみや生活におけるコミュニケーション。本授業ではデザインに必要な発想法や構想法として価値の転換や新規の価値について講義をし、新たな価値を生み出せるようなテーマに沿って演習を行う。本実習は集中講義である。</p>	隔年
コース専門科目（地域デザインコース）	コース選択科目	地域ブランディング論	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアデザインによる地域ブランディングとその方略を理解できる。</li> <li>・メディア活用による事業構想の基礎理論と方法論を理解できる。</li> <li>・Appleのデザイン哲学やメディア活用法を理解できる。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <p>質的に高度で独自性のあるAppleのデザイン哲学や活用法を講義し、ブランディングにおける価値創造の重要性と方法を知る。また、デザインやコンサルティングの現場で行ってきた地域ブランディングや価値創造の実践を紹介する。さらに、ブランディングと事業構想の関係性やメディアの活用を解説する。本授業は集中講義である。</p>	隔年
コース専門科目（地域デザインコース）	コース選択科目	地域ブランディング演習	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ブランディングとメディアデザイン方略を理解できる。</li> <li>・事業構想の基礎理論と方法論を理解できる。</li> <li>・Appleのデザイン哲学やメディア戦略と活用法を理解できる。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <p>Appleのデザイン哲学や活用法を講義し、ブランディングデザインにおける価値創造の重要性と方法を知る。実習として任意に選択した地域ブランディングに必要な要素を選び、特定地域のブランディングや事業構想を検討し提案する。本実習は集中講義である。</p>	隔年
コース専門科目（地域デザインコース）	コース選択科目	メディアアート論	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メディア芸術の歴史を知ることができる。</li> <li>・メディア芸術の概要を知ることができる。</li> <li>・マルチメディアとテクノロジー、身体、空間におけるインタラクティブな関係と表現の可能性を理解できる。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <p>メディア芸術の歴史や概要、代表的な作品の構想や狙いを講義し、メディア芸術の基礎を理解させる。国内外の豊富なメディア芸術における知見と大規模なメディア芸術関連のキュレーションの実績から今後のメディア芸術の可能性についても解説する。本授業は集中講義である。</p>	隔年

コース デザイン 専門科目 (地域 デザイン コース)	コース 選択科目	メディアアート演習	授業の到達目標及びテーマ ・メディア芸術の歴史を知ることができる。 ・メディア芸術の概要を知ることができる。 ・マルチメディアとテクノロジー、身体、空間をテーマにしたインタラクティブな関係を構想し作品化できる。 授業の概要 メディア芸術の歴史や概要、代表的な作品の構想や狙いを講義し、メディア芸術の基礎を理解させる。その後、演習として多様なメディアを用い、テーマに沿って作品をつくりあげる。	隔年
コース 専門科目 (地域 デザイン コース)	コース 選択科目	地域史論Ⅰ	授業の到達目標及びテーマ 日本近世における地域史について基本的な知識と、史料分析の方法を学ぶ。あわせて史料の存在形態、取扱方法、調査法分析法について学ぶ。 授業の概要 日本近世における地域史について、佐賀などさまざまな地域の歴史資料をもとに、分析方法を学ぶ。また分析する歴史資料がどのように伝来し、現在遺されているのか、という歴史資料論についても論じる。伊藤は藩政史料をもとに佐賀藩などの政治や行政について、三ツ松は思想家の著作をもとに近世思想と地域社会の関係をとり上げる。  (オムニバス方式/全15回)  (31 伊藤昭弘/7回) 主に藩政史料をもとに佐賀藩などの政治や行政について検討する。 (36 三ツ松誠/8回) 主として思想家の著作をもとに近世思想と地域社会の関係をとり上げる。	オムニバス方式
域 デザイン 専門科目 (地域 デザイン コース)	コース 選択科目	地域史論Ⅱ	授業の到達目標及びテーマ 日本近現代における地域史について基本的・系統的な知識を修得するとともに、あわせて日本近現代地域史に関する史料の存在形態、博物館・資料館での展示や研究のための取り扱い方法、調査方法について、基本的な事項を理解する。 授業の概要 近現代日本社会の歴史を概説するとともに、近現代地域史の研究上の特徴、および具体的な地域社会の歴史の展開事例について、多くの史料を提示しながら検討する。	隔年
域 デザイン 専門科目 (地域 デザイン コース)	コース 選択科目	地域史論Ⅲ	授業の到達目標及びテーマ 日本中世における地域史について基本的・系統的に知識を修得するとともに、あわせて日本中世地域史に関する史料の存在形態、博物館・資料館での展示や研究のための取扱方法、調査法について基本的な事項を理解する。 授業の概要 中世日本社会の歴史を概説するとともに、中世地域史の研究上の特徴、および具体的な地域社会の歴史の展開事例について、多くの史料を提示しながら検討する。	隔年
コース デザイン 専門科目 (地域 デザイン コース)	コース 選択科目	アーカイブズ論	授業の到達目標及びテーマ 日本史等、文献資料を専門とする学芸員として必要な、資料やアーカイブズの取り扱い、資料の学術的な意義について、一般的な問題を理解するとともに、具体的な事例を通じて学ぶ。 授業の概要 アーカイブスの基本概念（記録、記録史料、組織と記録、出所、記録史料群の階層構造、公文書管理法など関連法令等）を講義するとともに、歴史資料の大半を占める紙媒体を中心に現代の電子記録までの種類・特質・資料保存・管理・調査研究の方法、自然災害への対策等を、博物館・文書館等の事例や実物を紹介しつつ、様々なアーカイブズ資料を物理的に保存・管理していくための原則・歴史・方法論等、科学的な考え方と方法を理解できるようにする。	
コース 専門科目 (地域 デザイン コース)	コース 選択科目	陶磁史	授業の到達目標及びテーマ テーマ ① は、「九州陶磁器の多様性を学ぶ」 ② は、「肥前磁器の海外輸出と最高権力者の器・鍋島焼を学ぶ」 ③ は、「これからの陶磁器を考える力を養う」 到達目標 ① 日本陶磁史の全体像を知り、さらに中国・朝鮮の陶磁器技術との交流にもとづく九州の陶磁器の多様性を学ぶ。 ② 日本初の磁器として誕生した肥前磁器の発展から海外輸出の実態を学ぶとともに、最高権力者の器としての鍋島焼を知る。 ③ 時代をリードする陶磁器がどのように生まれ、消えていくのかを知ることで、これからの陶磁器を考える力を養う。 授業の概要 焼物は人間にとって普遍的なモノであり、時代を映し出す鏡のようなものである。そうした視点で日本の陶磁史について時代を追って説明する。このうち、近世になると九州が主要な陶磁生産の地域となり、肥前磁器は世界に輸出されるとともに、最高権力者の器を作り出した歴史を概観する。	

コース専門科目（地域デザインコース）	コース選択科目	地域史演習	<p>授業の到達目標及びテーマ 日本中世および近現代史における地域史について基本的な知識と、史料分析の方法を修得するため、基本的な文献を読解するとともに、地域史に関する史料を取り扱って分析する。</p> <p>授業の概要 演習形式で行い、受講生は基本的な文献の読解、史料の分析を行い、授業時に発表して、討論する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(33 鬼嶋 淳/8回) 主として日本近現代史に関する領域を主に担当する。 (27 宮武正登/7回) 主として日本中世史に関する領域を主に担当する。</p>	オムニバス方式
コース専門科目（地域デザインコース）	コース選択科目	古文書読解演習	<p>授業の到達目標及びテーマ 演習形式で日本近世を中心とする古文書の読解をおこない、古文書読解の方法を修得する。あわせて古文書の資料としての取扱や、地域史の研究のための意義を学ぶ。</p> <p>授業の概要 演習形式で行い、受講生は基本的な文献の読解、史料の分析を行い、授業時に発表して、討論する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(31 伊藤昭弘/7回) 主に佐賀藩の藩政史料をテキストとして、藩の政治・行政のあり方を古文書を通して検討する。 (36 三ツ松誠/8回) 主として思想家の著作や書翰を用い、思想のあり方や思想家のネットワークを検討する。</p>	オムニバス方式
コース専門科目（地域デザインコース）	コース選択科目	風土と地理学	<p>授業の到達目標及びテーマ この講義では、地理学の基本的な思考力である「地理的見方・考え方」を培い、地域の文化を理解することのできる能力を養います。気候や地形に代表される自然環境と人々の暮らしはどのように関わってきたかを考えます。</p> <p>授業の概要 「地理的見方・考え方」の基礎を読図を行うことによって修得できるようにします。地形図に着色することにより土地利用図を作成し、当該地域の特性を読図を通して把握します。人々の生活と地域の自然環境の関係を地理学の考察方法を通して学びます。</p>	
コース専門科目（地域デザインコース）	コース選択科目	地域調査分析	<p>授業の到達目標及びテーマ 基本的な地理学の分析手法を通して、地域の姿を客観的に把握する力を養成することを目指します。官公庁における地域政策の立案や企業の市場分析などの基礎となる力を身につけることを目標とします。</p> <p>授業の概要 地域に関する多量の地理データをいかにまとめればよいかを基本に、地理データを収集し、地図化やグラフ化を行い、それらを分析するといった手法を学びます。さらに空中写真の判読を行います。</p>	
コース専門科目（地域デザインコース）	コース選択科目	都市空間論Ⅰ	<p>授業の到達目標及びテーマ 多くの都市で生じているジェントリフィケーションや衰退の著しい地方中心市街地の現状を把握し、中心市街地の今後のよりよい姿を考えてもらうことが目的です。いかにすれば地域が抱える諸課題を適切にとらえることができるのか、また、地域の既存資源を地域活性化に活かすことができるのか、という調査・企画立案能力の修得を目指します。</p> <p>佐賀市中心市街地では、空き店舗や空き地が増加し、大型店の撤退と郊外大型店の相次ぐ立地によって中心商店街の衰退が深刻化しています。これは全国の多くの中心市街地において共通して認められる現象です。本講義では、これまでに明らかにされてきた都市の特性を地理学や都市計画、社会学の知見を基に理解できることをめざします。</p> <p>授業の概要 変化の著しい現代の都市空間を地理学的な立場から解説するとともに、都市内のさまざまな要素の関連及び都市空間の変容を理論と事象の両側面から説明します。とくに身近な話題である「佐賀市中心市街地の活性化」を主要テーマとして取り上げ、現地観察を行うことによって佐賀市中心市街地が抱える課題を客観的に、かつ身近な問題としてとらえ直します。</p>	
コース専門科目（地域デザインコース）	コース選択科目	都市空間論Ⅱ	<p>授業の到達目標及びテーマ 都市空間論Ⅰで講義した内容（佐賀市中心市街地）をさらに詳細に学習するとともに、佐賀市中心市街地を取り巻く地方的特殊性（地域環境）を考慮し、佐賀独自の活性化に結びつく方策を見いだせることを目標とします。</p> <p>授業の概要 とくに身近な話題である「佐賀市中心市街地の活性化」を主要テーマとして取り上げ、中心市街地が抱える課題を客観的に、かつ身近な問題としてとらえ直し、討論を交えながら佐賀市中心市街地の課題の克服を検討します。</p>	

コース専門科目(地域デザインコース)	コース選択科目	フィールドワーク実習	<p>授業の到達目標及びテーマ フィールドワークを通じて地理学に関する知識と技術を修得し、卒業研究に向けて地域調査の基礎的な能力を身につけることを目標とします。</p> <p>授業の概要 フィールドワークは、地理学の最も基本的かつ重要な野外調査法です。現地に向向いて地域の社会・文化、自然環境などに触れ、土地利用調査や観察、聞き取り調査などを行います。授業では、フィールドワークの企画・立案、フィールドワークの実施、フィールドワークのまとめを実施し、地域調査に必要な技法の基礎を学びます。原則として夏季休業期間中に3泊4日程度のフィールドワーク実習を行います。</p>	
コース専門科目(地域デザインコース)	コース選択科目	都市・地域空間史	<p>授業の到達目標及びテーマ 日本および西洋の近代の都市デザインの歴史の変遷を把握し、現代の都市デザインの源泉となる計画・デザインの思想と手法を理解します。</p> <p>授業の概要 今後の都市デザインを考えるためには、これまで都市がどのような思想に基づき形成されてきたかを理解する必要があります。本講義では、日本および西洋の都市デザインの思想と手法を歴史的に整理しながら、都市デザインの変遷を把握します。特に、現代の都市計画・都市デザインの到達点を踏まえつつ、その歴史的背景を理解します。</p>	
コース専門科目(地域デザインコース)	コース選択科目	フィールドデザイン演習Ⅱ	<p>授業の到達目標及びテーマ 単なる都市・地域における物理的特徴を理解にとどまらず、地域の人々との交流を通じて、都市や地域の問題や課題を発見し、その解決に向けたデザイン提案を行う能力を養います。</p> <p>授業の概要 課題の対象地となる都市・地域において、与えられたテーマに基づき、フィールドサーベイを実践し、都市や地域の特色を読み取ります。また一方では、地域住民との対話・交流を通じて、都市や地域の問題・課題を発見し、最終的には、その解決に向けたデザイン提案を行います。作業はグループワークとし、グループ内でのディスカッションを通して提案のアイデアを熟成させ、公開聴会の場で案を発表します。</p>	
コース専門科目(地域デザインコース)	コース選択科目	文化財の保存と活用	<p>授業の到達目標及びテーマ 文化財の保存と活用に関する法令、制度や様々な種類の文化財の内容とその保存と活用の具体例、課題について理解する。あわせて地域の文化・芸術資源として文化財を保存、活用する意義について考えることができるようになる。</p> <p>授業の概要 文化財の保存と活用に関する法令、行政的な制度について説明する。また、文化財の種類別にその特徴と内容、地域における保存と活用の具体例、課題について検討する。あわせて、文化財を地域の文化・芸術資源として保存、活用する方法について、景観の保存、町並みの保全の問題も混じえて考える。</p>	
コース専門科目(地域デザインコース)	コース選択科目	ヘリテージマネジメント演習	<p>授業の到達目標及びテーマ 記念物を中心とした国内外の文化遺産の保存に関する文献の読解、発表、討論する。通じてヘリテージマネジメントの基本的な問題について理解することを目指す。それらを通じて、保存上の課題を抽出するとともに管理のための計画策定を行う能力を要請する。あわせて、プレゼンテーションや討論の方法について学ぶ。</p> <p>授業の概要 記念物を中心とした国内外の文化遺産のマネジメントの現状と課題、研究現況について、論文、保存管理計画策定報告書等の読解を通じて学ぶ。</p>	
コース専門科目(地域デザインコース)	コース選択科目	地域資源論	<p>授業の到達目標及びテーマ 近年では、地域固有の文化や民俗、自然環境を資源(商品化)とした地域振興が各地で行われています。こうした状況の中で、どのように地域資源が発見され、活用されているのか、また、地域が創造されていくのか、について学びます。</p> <p>授業の概要 地域資源の商品化をめぐる具体的な地域の動きや課題について、日本の農山漁村や海外の事例を通して、地域をめぐるまなざしや地域文化の再編、自然環境の改変などをトピックスとして解説します。</p>	隔年
コース専門科目(地域デザインコース)	コース選択科目	博物館の政治学	<p>授業の到達目標及びテーマ 博物館、美術館が「展示」という営みに特化した、近代固有のきわめて政治的な装置であることはすでに自明のことである。本講義は、博物館・美術館展示における「みせること」、「みること」、あるいは「みられること」の持つ多様な政治性について多角的な視点から考察する。博物館・美術館展示における「みせること」、「みること」、あるいは「みられること」の持つ多様な政治性について多角的に理解することができる。学芸員志望者のみならずクリエイター志望の学生が、自らが行おうとする「展示」のもつ政治性について意識できるようになる。</p> <p>授業の概要 「展示」という営みに特化した、近代固有のきわめて政治的な装置である博物館・美術館展示における「みせること」、「みること」、あるいは「みられること」の持つ多様な政治性についてアジア研究、歴史学、政治学、国際関係などの視点から考察する。「展示」のもつ政治性について、歴史的・政治学的な視点を踏まえ、実地の博物館見学などを通じて考えてもらう。</p>	

コース専門科目(コース)	コース選択科目	エリアスタディー演習Ⅱ	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>アジア地域研究入門。エリアスタディー演習Ⅰに引き続き受講することが望ましい。東南アジア地域研究を土台として、九州・佐賀をはじめとした郷土・地域をアジア、国際社会とのかかわりのなかに再定置し、広くアジア世界の政治・社会・文化の枠組みのなかに位置づける。高等学校日本史・世界史の知識を土台として、郷土史・地域史を、世界史のなかに再定置することのできる知識と考え方を身につけていること。アジア地域研究に必要な基礎的な知識をもとにアジア現地調査の計画を立案できること。</p> <p>授業の概要</p> <p>アジア研究の入門として、卒業研究着手につながる基礎的な知識を習得してもらおう。南アジア地域研究を土台として、九州・佐賀をはじめとした郷土・地域をアジア、国際社会とのかかわりのなかに再定置し、広くアジア世界の政治・社会・文化の枠組みのなかに位置づける。本演習Ⅱでは卒業研究着手に向けて、より実践的な課題の明確化をめざす。</p>	
コース専門科目(コース)	コース選択科目	美術品流通論	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・流通の基本的なしくみを理解する。</li> <li>・美術品における流通のしくみを理解する。</li> <li>・日本の美術品流通における特殊性、とくに商社の役割について理解する。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <p>流通の基本原理の理解を深めつつ、美術品流通の特殊性を理解することを本講義の目的とする。流通業者のもつ役割や消費者ニーズをどのように生産者がつかみ、流通させていくのかといった仕組みの理解を深められるようにケーススタディとして陶磁器流通をあげ説明する。陶磁器流通は日本の流通システムの独自性を反映した流通システムを構築してきたが、近年変化しつつある。その点を踏まえたうえで、近年増えつつある海外からの陶磁器流通もあわせて考察する。</p>	
コース専門科目(コース)	コース選択科目	ミュージアム・マーケティング	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケティング理論を理解する。</li> <li>・美術館運営における課題を発見し、解決するマーケティング力をみにつける。</li> <li>・日本の美術館運営の特殊性やキュレータの役割をマーケティングの視点から考察する力を養う。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <p>本授業はPBL (Product-Based Learning 課題解決型学習) を主に行う。受講生が実際に美術館運営の企画・立案することを目標に行う。日本の美術館運営の現状についての課題を受講生がみずから考えることを授業の目的とする。課題に対して展示会の開催、イベントの運営といった具体的なマーケティング戦略や集客戦略を考え、企画・立案し、プレゼンテーションを行うアクティブ・ラーニング型の授業を行う。</p>	
コース専門科目(コース)	コース選択科目	地域雇用政策論	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>テーマ：今日地方自治体の必須の政策として掲げられる地域雇用政策の理解と立案に必要な経済学・経営学・法律の基礎的な知識を講義する。</p> <p>到達目標：自治体レベルにおける雇用政策の立案に必要な知識の基礎が理解できる。</p> <p>授業の概要</p> <p>わが国では数年前まで、雇用政策は国の事業とされ、地方は企業誘致などで雇用を生み出すという体制がとられてきた。近年の中央と地方、都市と農山村の不均衡と格差の拡大により、そうした国と地方の分業体制が見直され、地方自治体にも雇用政策の策定が義務づけられるようになった。本講義では、自治体レベルでどのような雇用政策が立案され実施されているかを具体的に振り返りながら、地方における雇用創出の課題を探りたい。</p>	
コース専門科目(コース)	コース選択科目	経営・流通演習Ⅱ	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①学生自らの関心・興味を学問的な問題意識へと高めることができる。</li> <li>②自分のもつ知識、関心をプレゼンテーションできる能力をみにつける。</li> <li>③問題に対する解決方法や分析方法を提案することができる</li> </ol> <p>授業の概要</p> <p>卒業論文作成を中心としてゼミを行う。テーマの設定は各個人が自分の興味あるものから選定する。文献サーベイ、問題の設定など個別に指導を行う。ゼミ内においてはそれぞれの卒業論文をもとに報告を行い、討論する。</p>	
コース専門科目(コース)	コース選択科目	経営・流通演習Ⅳ	<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経営学および流通論の基礎理論を修得する。</li> <li>・製造企業、流通企業、商店街組織、NPOなどの経営実態を調査・分析して報告することができる。</li> </ul> <p>授業の概要</p> <p>経営学および流通論に関する専門書をテキストに指定し、テキストの内容についてレジュメを作成し、プレゼンテーションを実施するという形式で講義をすすめる。また、実際の企業やNPOの経営現場を訪問し、経営実態を調査して、その内容を報告するという実践的な内容を随時取り入れる。</p>	

コース専門科目 (地域デザイン)	コース選択科目	Critical Studies in Language and Image I (クリティカル・スタディーズ (言語とイメージ) I)	授業の到達目標及びテーマ 1. 異文化遭遇体験を通しての異文化能力の発達。焦点を当てるのは、学生に強い印象または長く影響を与える異文化遭遇体験である。これらの遭遇体験の根底にあるものを見出すうえで、学生はより深くその体験を認識しその自らの反応を省み、この過程を通して異文化能力を発達させる。 テーマ ① ナラティブ・アート (出来事の一場面や事象の各場面を一連の絵として描く表現方法) 授業の概要 ・ 芸術家が一場面を描くことによっていかにして物語を表現するのかを発見する。 ・ イメージを基にし異文化体験を再構成し、絵に表現するとともに英語による物語を創作していく。	
コース専門科目 (地域デザイン)	コース選択科目	Critical Studies in Language and Image II (クリティカル・スタディーズ (言語とイメージ) II)	授業の到達目標及びテーマ 1. 言語と芸術がアイデンティティ及び文化を表現するとともに隠しめることの理解。 テーマ ① 植民地時代後に論争を引き起こしたり発禁令が出た児童書に焦点をあてた児童文学における人種や性への固定化された価値観の研究。 授業の概要 ・ 子供の物語およびそのイラストを批判的に分析し、隠された真義やメッセージを英語で議論しながら見極めていく。 ・ 自身の価値観を内省しながら、ジェンダーと多様性について子供たちを教育するための絵本を学生それぞれで作成し批評し合う。	
コース専門科目 (地域デザイン)	コース選択科目	Critical Studies in Language and Image III (クリティカル・スタディーズ (言語とイメージ) III)	授業の到達目標及びテーマ 1. 異文化対話を促進するための博物館・美術館による教育的プログラムを研究しそれを作成できる能力の開発。 テーマ ① 博物館・美術館は一方的な歴史観を表現し国家のアイデンティティを伝えることもあるが、それが異文化対話のための空間でもあり得るとする立場の考察。 ② 一つの歴史的な出来事を、同時に多様な視点からの見方ができるようにするための展示・デザインの工夫。 授業の概要 ・ アイデンティティとプロパガンダを研究し、異なる文化からの訪問者がその視点から展示物をいかに受け止めるのかを英語での議論を通して考察を深めていく。 ・ 異文化対話を促進するための博物館・美術館による教育的プログラムを研究し、より発展させるための改善点を考えレポートを作成する。	
コース専門科目 (地域デザイン)	コース選択科目	Intercultural Communication and Art II (インターカルチュラル・コミュニケーションとアート II)	授業の到達目標及びテーマ 1. 芸術について異文化コミュニケーションを図るための、異なる言語と文化の橋渡しのための戦略と翻訳技術の習得。 テーマ ① 非英語圏同士の共通語としての英語における対話文を用いての、異文化理解戦略と翻訳技術の研究。 ② 他言語他文化背景の人々へ、「わび・さび」などの芸術に関する明確な概念の英語による表現。 授業の概要 ・ テーマに沿って、英語で行っていく授業展開そのものが異文化コミュニケーションの研修である。ここでは戦略と技術に焦点を当て論議していく。 ・ 英語圏以外の異文化圏の人々に共通語として英語を用いインタビューを行いレポートを作成する。	
コース専門科目 (地域デザイン)	コース選択科目	Intercultural Communication and Art III (インターカルチュラル・コミュニケーションとアート III)	授業の到達目標及びテーマ 1. 芸術に見られる様々な権力闘争の痕跡を見極めるための、批評的態度の発達。 テーマ ① 言語、イメージ、アイデンティティ、さらにはそれらの影響、また芸術や博物館のデザインなどの間の関係性。 ② 言語や芸術を通しての権力闘争の表現。 授業の概要 ・ 少数派の人々に焦点を当て、共通語としての英語を用いてインタビューするための方法論と実地演習。さらにその分析手法を検討し研究を行いレポートを作成していく。	

<p>コース専門科目 (地域デザイン)</p>	<p>コース選択科目</p>	<p>Art in Context (アート・イン・コンテキスト)</p>	<p>授業の到達目標及びテーマ 1. 言語と芸術が社会的な状況に反応し、さらにそれを形成することの理解。 テーマ ① いかにして、また何故に特定の芸術が特定の場所と時に同時に発展していったのか。 ② Antonio Gaudi やWilliam Morris のような芸術家において、経済、政治、エコロジー、そして宗教などから受けた影響と彼らのもたらした影響。 授業の概要 ・ケース・スタディの手法を用いて英語による討論を通してテーマに迫っていく。 ・多様な情報を結びつけることにより芸術が作りだされた過程を再構成し追体験をすることで芸術家の真の姿に迫る。 ・様々な外的影響に焦点を当てることで芸術家を選択して研究し、レポートする。</p>	
		<p>卒業研究</p>	<p>授業の到達目標及びテーマ 学部で修得した知識、方法論、技能を再確認し、作品や論文にまとめ、学部学修の集大成とする。各自のテーマやコンセプトを造形、イメージ、言葉を通して目に見える形で他者に伝えるための適切で効果的なプレゼンテーションの方法(展示、論文の書き方・発表など)についても学ぶ。 授業の概要 指導教員と相談の上、卒業研究のテーマは3年次の1月に決定する。4年次になってからは、前学期の始めに3年間で修得した学修のふり返しを行い、研究室単位あるいは個人単位で担当指導教員から指導を受ける。卒業研究の進め方は担当指導教員によって異なる。卒業研究発表は、佐賀大学美術館他で行う。</p>	

(注)

- 1 開設する授業科目の数に応じ、適宜枠の数を増やして記入すること。
- 2 私立の大学若しくは高等専門学校の出発定員に係る学則の変更の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合、大学等の設置者の変更の認可を受けようとする場合又は大学等の廃止の認可を受けようとする場合若しくは届出を行おうとする場合は、この書類を作成する必要はない。



## 案内図



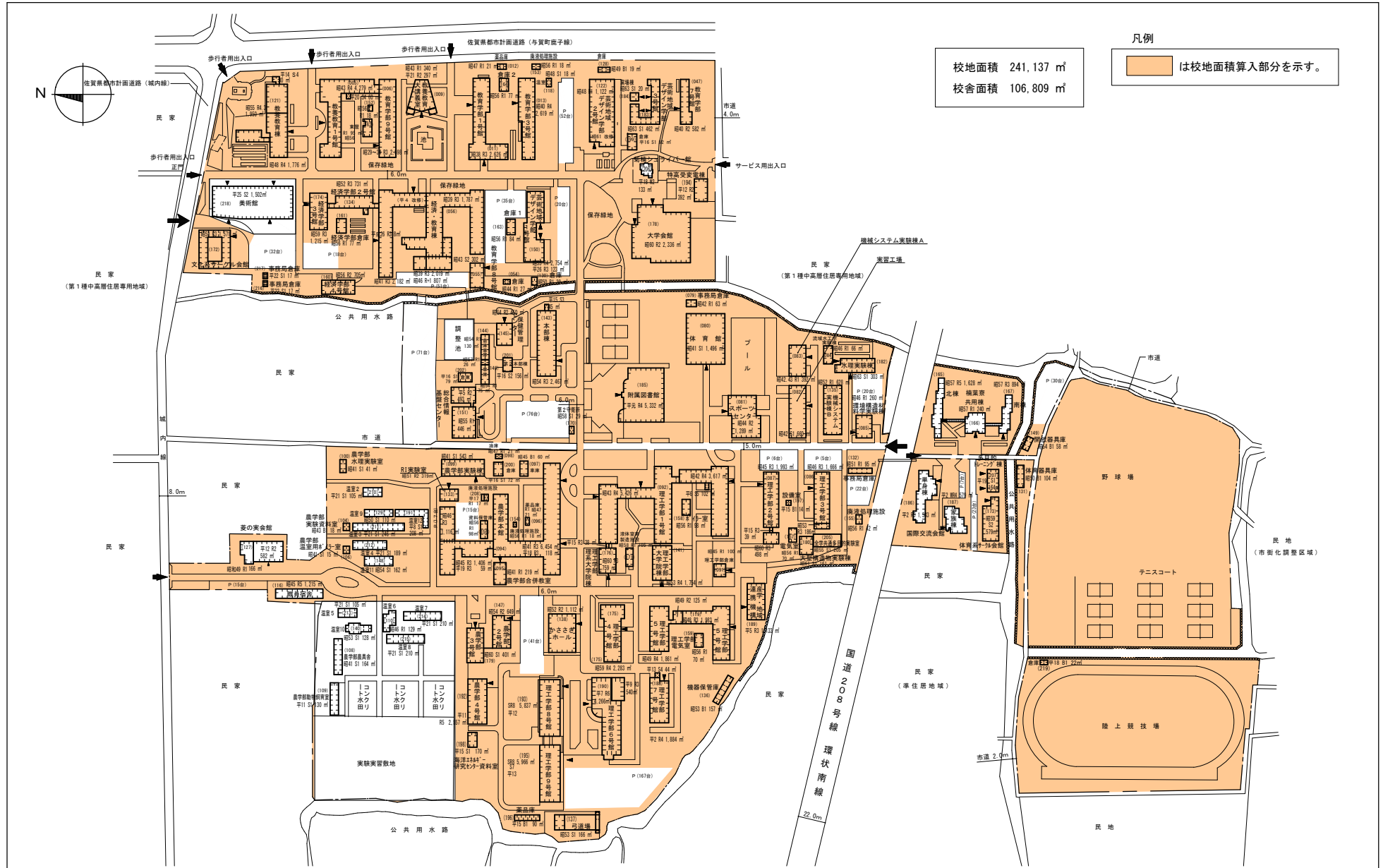
## 付近見取図



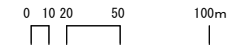
## 交通アクセス



配置図

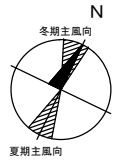


配置図 S=1/3,000



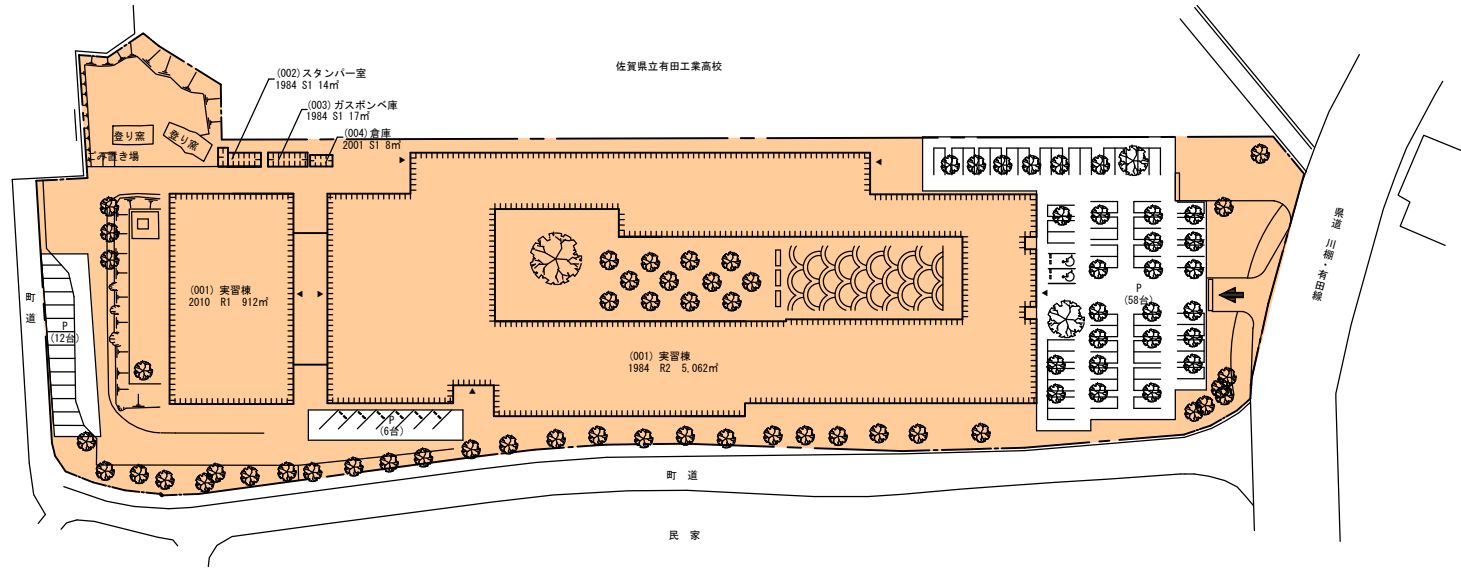
学部等名	団地番号	団地名	所在地	学校番号	学校名
教育学部、芸術地域デザイン学部、経済学部 農学部、理工学部	001	本庄町1	佐賀市本庄町1番地	0524	佐賀大学

配 置 図

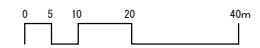


校地面積 11,300 m<sup>2</sup>  
校舎面積 6,013 m<sup>2</sup>

凡例  
 は校地面積算入部分を示す。



縮尺 S=1/1,000



敷地面積	建築面積	建物延面積	建ぺい率	容積率	全学生数	学部等名	団地番号	団地名	所在地	学校番号	学校名	作成年度
13,583m <sup>2</sup>	6,009m <sup>2</sup>	6,013m <sup>2</sup>	44.2%	44.3%		芸術地域デザイン学部	033	有田	西松浦郡有田町大野乙 2441-1	0524	佐賀大学	2014

目次

第1章 法人

第1節 総則（第1条・第2条）

第2節 運営組織（第3条－第7条）

第3節 役員及び職員等（第8条－第12条）

第2章 大学

第1節 大学の目的等（第13条－第16条）

第2節 組織（第17条－第23条の2）

第3節 運営組織（第24条－第26条）

第4節 職員組織等（第27条－第34条の2）

第3章 秘密保持の義務（第35条）

第4章 雑則（第36条）

附則

第1章 法人

第1節 総則

（法人の目的）

第1条 国立大学法人佐賀大学（以下「本法人」という。）は、佐賀大学（以下「本学」という。）を設置し、大学の教育研究に対する国民の要請にこたえるとともに、我が国の高等教育及び学術研究の水準の向上と均衡ある発展に寄与することを目的とする。  
（業務の範囲等）

第2条 本法人は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 本学を設置し、これを運営すること。
- (2) 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。
- (3) 本法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の本法人以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。
- (4) 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。
- (5) 本学における研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。
- (6) 本学における技術に関する研究の成果の活用を促進する事業であって国立大学法人法施行令（平成15年政令第478号）で定めるものを実施する者に出資すること。
- (7) 前各号の業務に附帯する業務を行うこと。

第2節 運営組織

（役員会）

第3条 本法人に、国立大学法人法（平成15年法律第112号。以下「法」という。）

第11条第2項の規定に基づき、役員会を置く。

2 役員会に関し、必要な事項は、別に定める。

（学長選考会議）

第4条 本法人に、法第12条第2項の規定に基づき、学長選考会議を置く。

2 学長選考会議に関し、必要な事項は、別に定める。

(経営協議会)

第5条 本法人に、法第20条第1項の規定に基づき、経営協議会を置く。

2 経営協議会に関し、必要な事項は、別に定める。

(教育研究評議会)

第6条 本法人に、法第21条第1項の規定に基づき、教育研究評議会を置く。

2 教育研究評議会に関し、必要な事項は、別に定める。

第6条の2及び第6条の3 削除

(委員会等)

第7条 本法人に、必要に応じ、委員会等を置くことができる。

2 委員会等に関し、必要な事項は、別に定める。

第3節 役員及び職員等

(役員)

第8条 本法人に、次の役員を置く。

学長

理事

監事

2 役員の職務は、国立大学法人法その他の法令の定めるところによるほか、別に定めるところによる。

3 役員の選考に関し、必要な事項は、別に定める。

(職員)

第9条 本法人に、次の職員を置く。

教授

准教授

講師

助教

助手

教頭

主幹教諭

教諭

養護教諭

栄養教諭

事務職員

教務職員

技術職員

その他必要な職員

2 職員の職務は、学校教育法（昭和22年法律第26号）その他の法令の定めるところによるほか、別に定めるところによる。

3 第1項に規定する職員のうち、教授、准教授、講師、助教、助手、教頭、主幹教諭、

教諭、養護教諭及び栄養教諭を教員という。

(教員組織)

第10条 本法人に、教員組織として講座を置く。

2 前項に掲げるもののほか、第11条の2、第11条の5から第11条の7、第18条の2及び第21条から第23条までに規定する組織に、教員組織を置く。

3 第12条により置かれる室に、教員組織を置くことができる。

4 教員組織に関し、必要な事項は、別に定める。

(事務組織)

第11条 本法人に、事務局その他の事務組織を置く。

2 事務組織に関し、必要な事項は、別に定める。

(産学・地域連携機構)

第11条の2 本法人に、産学・地域連携機構を置く。

2 産学・地域連携機構に関し、必要な事項は、別に定める。

(学長室)

第11条の3 本法人に、学長室を置く。

2 学長室に関し、必要な事項は、別に定める。

(理事室)

第11条の4 本法人に、理事室を置く。

2 理事室に関し、必要な事項は、別に定める。

(アドミッションセンター)

第11条の5 本法人に、アドミッションセンターを置く。

2 アドミッションセンターに関し、必要な事項は、別に定める。

(キャリアセンター)

第11条の6 本法人に、キャリアセンターを置く。

2 キャリアセンターに関し、必要な事項は、別に定める。

(国際交流推進センター)

第11条の7 本法人に、国際交流推進センターを置く。

2 国際交流推進センターに関し、必要な事項は、別に定める。

(教員免許更新講習室)

第11条の8 本法人に、教員免許更新講習室を置く。

2 教員免許更新講習室に関し、必要な事項は、別に定める。

(室)

第12条 本法人に、第11条の3、第11条の4及び第11条の8に定めるもののほか、室を置くことができる。

2 室に関し、必要な事項は、別に定める。

## 第2章 大学

### 第1節 大学の目的等

(大学の目的)

第13条 本学は、教育基本法（平成18年法律第120号）第7条の規定の趣旨にのっとり、国際的視野を有し、豊かな教養と深い専門知識を生かして社会で自立できる個

人を育成するとともに、高度の学術的研究を行い、さらに、地域の知的拠点として、地域及び諸外国との文化、健康、社会、科学技術に関する連携交流を通して学術的、文化的貢献を果たすことにより、地域社会及び国際社会の発展に寄与することを目的とする。

(自己評価等)

第14条 本学は、本学の教育研究水準の向上改善を図り、かつ、本学の目的及び社会的使命を達成するため、本学における教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行うとともに、本学の職員以外の者による検証を行い、その結果を公表する。

(情報の積極的な提供)

第15条 本学は、本学における教育研究活動等の状況について、刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって、積極的に情報を提供するものとする。

(教育内容等の改善のための組織的な研修等)

第16条 本学は、授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

## 第2節 組織

(学部)

第17条 本学に、次の学部並びに学科及び課程を置く。

教育学部

学校教育課程

経済学部

経済学科

経営学科

経済法学科

医学部

医学科

看護学科

理工学部

数理科学科

物理科学科

知能情報システム学科

機能物質化学科

機械システム工学科

電気電子工学科

都市工学科

農学部

応用生物科学科

生物環境科学科

生命機能科学科

芸術地域デザイン学部

芸術地域デザイン学科

2 学部並びに学科及び課程の目的，学部の入学定員，修業年限，教育課程，学生の入学，退学，卒業その他学生の修学上必要な事項は，別に定める。

(大学院)

第18条 本学に，大学院を置く。

2 大学院は，学術の理論及び応用を教授研究し，その深奥を究めて，文化の進展に寄与することを目的とする。

3 大学院の教員は，本学の教授，准教授，講師及び助教のうちから，各研究科ごとに定める大学院の教員としての資格基準を満たした者をもって組織する。

4 大学院に置く研究科及び専攻は，次のとおりとする。

学校教育学研究科（専門職学位課程）教育実践探究専攻

医学系研究科（修士課程） 医科学専攻

看護学専攻

（博士課程） 医科学専攻

工学系研究科（博士前期課程） 数理科学専攻

物理科学専攻

知能情報システム学専攻

循環物質化学専攻

機械システム工学専攻

電気電子工学専攻

都市工学専攻

先端融合工学専攻

（博士後期課程） システム創成科学専攻

農学研究科（修士課程） 生物資源科学専攻

地域デザイン研究科（修士課程） 地域デザイン専攻

5 大学院の研究科及び専攻の目的，入学定員，標準修業年限，教育課程，学生の入学，退学，修了その他学生の修学上必要な事項は，別に定める。

(全学教育機構)

第18条の2 本学に，全学教育機構を置く。

2 全学教育機構に関し，必要な事項は，別に定める。

(特別の課程)

第18条の3 本学は，文部科学大臣の定めるところにより，本学の学生以外の者を対象とした特別の課程を編成し，これを修了した者に対し，修了の事実を証する証明書を交付することができる。

(附属図書館)

第19条 本学に，附属図書館及びその分館を置く。

2 附属図書館及び分館に関し，必要な事項は，別に定める。

(美術館)

第19条の2 本学に，美術館を置く。

2 美術館に関し，必要な事項は，別に定める。

第20条 削除



(保健管理センター)

第21条 本学に、保健管理センターを置く。

2 保健管理センターに関し、必要な事項は、別に定める。

(共同利用・共同研究拠点)

第21条の2 本学に、共同利用・共同研究拠点として海洋エネルギー研究センターを置く。

2 海洋エネルギー研究センターに関し、必要な事項は、別に定める。

(学内共同教育研究施設)

第22条 本学に、次の学内共同教育研究施設を置く。

総合分析実験センター

総合情報基盤センター

低平地沿岸海域研究センター

シンクロトロン光応用研究センター

地域学歴史文化研究センター

2 学内共同教育研究施設に関し、必要な事項は、別に定める。

(学部附属の教育施設及び研究施設)

第23条 本学に、次の学部附属の教育施設及び研究施設を置く。

教育学部

附属幼稚園

附属小学校

附属中学校

附属特別支援学校

附属教育実践総合センター

医学部

附属病院

附属地域医療科学教育研究センター

附属先端医学研究推進支援センター

農学部

附属アグリ創生教育研究センター

2 前項の附属特別支援学校は、知的障害者に対する教育を行う。

3 学部附属の教育施設及び研究施設に関し、必要な事項は、別に定める。

### 第3節 運営組織

(教授会)

第24条 学部及び工学系研究科に、教授会を置く。

2 教授会に関し、必要な事項は、別に定める。

(研究科委員会)

第25条 研究科(工学系研究科を除く。)に、研究科委員会を置く。

2 研究科委員会に関し、必要な事項は、当該研究科において別に定める。

(委員会等)

第26条 本学に、必要に応じ、委員会等を置くことができる。

2 委員会等に関し、必要な事項は、別に定める。

#### 第4節 職員組織等

(副学長)

第27条 本学に、副学長若干人を置く。

2 副学長は、学長が指名する。

(学部長等)

第28条 学部に、学部長を置く。ただし、理工学部長にあつては次条第2項ただし書に定める工学系研究科長をもって充てる。

2 学部に、学部長を補佐する副学部長を置くことができる。

3 学部に置かれる学科に、学科長（理工学部を除く。）を置く。

4 前3項に規定する学部長等の選考の手續等に関し、必要な事項は、別に定める。

(研究科長等)

第29条 研究科に、研究科長を置く。

2 研究科長は、当該研究科の基礎となる学部の長をもって充てる。ただし、工学系研究科長は、工学系研究科の専任の教授のうちから選考する。

3 研究科長は、当該研究科に関する事項を掌理する。

4 工学系研究科に、研究科長を補佐する副研究科長を置く。

5 研究科に置かれる専攻に、専攻長を置くことができる。

6 第2項ただし書に規定する工学系研究科長及び前2項に規定する副研究科長等の選考の手續等に関し、必要な事項は、別に定める。

(全学教育機構長)

第29条の2 全学教育機構に、機構長を置く。

2 全学教育機構に、機構長を補佐する副機構長を置く。

3 前2項に規定する機構長等の選考の手續等に関し、必要な事項は、別に定める。

(附属図書館長)

第30条 附属図書館に、館長を置く。

2 附属図書館に、館長を補佐する副館長を置く。

3 前2項に規定する館長等の選考の手續等に関し、必要な事項は、別に定める。

(美術館長)

第30条の2 美術館に、館長を置く。

2 美術館に、館長を補佐する副館長を置く。

3 前2項に規定する館長等の選考の手續等に関し、必要な事項は、別に定める。

第31条 削除

(保健管理センター所長)

第32条 保健管理センターに、所長を置く。

2 保健管理センターに、所長を補佐する副所長を置くことができる。

3 前2項に規定する所長等の選考の手續等に関し、必要な事項は、別に定める。

(施設長等)

第33条 共同利用・共同研究拠点及び学内共同教育研究施設に、長（以下「施設長」という。）を置く。

2 共同利用・共同研究拠点及び学内共同教育研究施設に、施設長を補佐する副施設長を置くことができる。

3 前2項に規定する施設長等の選考の手續等に関し、必要な事項は、別に定める。

(学部附属の教育施設及び研究施設の長)

第34条 学部附属の教育施設及び研究施設（以下「附属施設」という。）に、長（以下「附属施設長」という。）を置く。

2 附属施設に、附属施設長を補佐する副附属施設長を置くことができる

3 前2項に規定する附属施設長等の選考の手續等に関し、必要な事項は、別に定める。

### 第3章 秘密保持の義務

(秘密保持の義務)

第35条 本法人の役員及び職員は、職務上知ることのできた秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。

### 第4章 雑則

(雑則)

第36条 この基本規則に定めるもののほか、組織及び運営に関し、必要な事項は、別に定める。

### 附 則

1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。

2 第17条第1項の規定に定めるもののほか、次の表に掲げる学部並びに学科及び課程は、平成16年3月31日に当該学部等に在学する者が在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

学 部	学 科 又 は 課 程
教 育 学 部	小学校教員養成課程
経 済 学 部	経済学科
	管理科学科
	経営学科
理 工 学 部	情報科学科
	電気工学科
	電子工学科

3 第18条第4項の規定に定めるもののほか、工学系研究科情報科学専攻は、平成16年3月31日に当該専攻に在学する者が在学しなくなるまでの間、存続するものとする。

附 則 (平成17年3月15日改正)

この規則は、平成17年4月1日から施行する。

附 則 (平成18年2月16日改正)

1 この規則は、平成18年4月1日から施行し、改正後の第22条第1項の規定のうち

総合情報基盤センターに関する部分は、平成18年2月1日から適用する。

- 平成18年3月31日に農学部に置かれている学科は、改正後の規定にかかわらず、平成18年3月31日において現に当該学科に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び平成18年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附 則（平成18年7月21日改正）

この規則は、平成18年8月1日から施行する。

附 則（平成19年2月7日改正）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成19年3月20日改正）

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成19年4月4日改正）

- この規則は、平成19年4月4日から施行し、平成19年4月1日から適用する。
- 改正後の第23条の規定による附属特別支援学校は、当分の間、通称として佐賀大学文化教育学部附属養護学校と称することができる。

附 則（平成19年9月20日改正）

この規則は、平成19年10月1日から施行する。

附 則（平成19年12月12日改正）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。ただし、第18条の2を加える改正規定及び第23条第1項の改正規定は、平成19年12月26日から施行する。

附 則（平成20年2月13日改正）

- この規則は、平成20年4月1日から施行する。
- 平成20年3月31日に医学系研究科博士課程に置かれている専攻は、改正後の第18条第4項の規定にかかわらず、平成20年3月31日において現に当該専攻に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び平成20年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学又は再入学する者が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附 則（平成20年3月12日改正）

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成21年2月20日改正）

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成21年3月19日改正）

この規則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則（平成21年12月24日改正）

この規則は、平成21年12月24日から施行する。

附 則（平成22年3月25日改正）

- この規則は、平成22年4月1日から施行する。
- 平成22年3月31日に工学系研究科及び農学研究科に置かれている専攻は、改正後の第18条第4項の規定にかかわらず、平成22年3月31日において現に当該専攻に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び平成22年4

月 1 日以降において 在学者の属する年次に転入学又は再入学する者が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附 則（平成 22 年 11 月 24 日改正）

この規則は、平成 22 年 11 月 24 日から施行する。

附 則（平成 23 年 3 月 23 日改正）

この基本規則は、平成 23 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 23 年 9 月 28 日改正）

この基本規則は、平成 23 年 10 月 1 日から施行する。

附 則（平成 24 年 3 月 28 日改正）

この基本規則は、平成 24 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 24 年 9 月 26 日改正）

この基本規則は、平成 24 年 10 月 1 日から施行する。

附 則（平成 25 年 2 月 27 日改正）

1 この基本規則は、平成 25 年 4 月 1 日から施行する。

2 平成 25 年 3 月 31 日に経済学部には置かれている課程は、改正後の第 17 条第 1 項の規定にかかわらず、平成 25 年 3 月 31 日において現に当該課程に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附 則（平成 25 年 6 月 26 日改正）

この基本規則は、平成 25 年 6 月 26 日から施行する。

附 則（平成 25 年 7 月 24 日改正）

この基本規則は、平成 25 年 8 月 1 日から施行する。

附 則（平成 26 年 3 月 26 日改正）

この基本規則は、平成 26 年 4 月 1 日から施行する。

附 則（平成 年 月 日改正）

1 この基本規則は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

2 平成 28 年 3 月 31 日に文化教育学部には置かれている課程は、改正後の第 17 条第 1 項の規定にかかわらず、平成 28 年 3 月 31 日において現に当該課程に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

3 平成 28 年 3 月 31 日に教育学研究科及び経済学研究科には置かれている専攻は、改正後の第 18 条第 4 項の規定にかかわらず、平成 28 年 3 月 31 日において現に当該専攻に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

目次

第1章 総則

第1節 趣旨及び目的（第1条・第2条）

第2節 学部（第3条）

第2章 学部通則

第1節 学年，学期，休業日，修業年限及び在学年限（第4条－第7条）

第2節 入学，転入学，編入学及び再入学（第8条－第15条）

第3節 教育課程及び履修方法（第16条－第21条）

第4節 単位の授与等（第22条－第27条）

第5節 休学，復学，退学，転学，転学部，転学科，転課程，派遣，留学及び除籍（第28条－第34条）

第6節 卒業及び教員の免許状授与の所要資格の取得（第35条－第37条）

第7節 賞罰（第38条・第39条）

第8節 学生証（第40条）

第9節 厚生施設（第41条）

第10節 科目等履修生，特別聴講学生及び研究生（第42条－第44条）

第11節 外国人留学生（第45条）

第12節 検定料，入学料，授業料及び寄宿料（第46条－第57条）

第13節 公開講座（第58条）

第3章 改正（第59条）

附則

第1章 総則

第1節 趣旨及び目的

（趣旨）

第1条 この学則は，国立大学法人佐賀大学基本規則（平成16年4月1日制定）第17条第2項の規定に基づき，佐賀大学（以下「本学」という。）の学部並びに学科及び課程の目的，学部の入学定員，修業年限，教育課程，学生の入学，退学，卒業その他学生の修学上必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第2条 本学は，教育基本法（平成18年法律第120号）第7条の規定の趣旨にのっとり，国際的視野を有し，豊かな教養と深い専門知識を生かして社会で自立できる個人を育成するとともに，高度の学術的研究を行い，さらに，地域の知的拠点として，地域及び諸外国との文化，健康，社会，科学技術に関する連携交流を通して学術的，文化的貢献を果たすことにより，地域社会及び国際社会の発展に寄与することを目的とする。

第2節 学部

（学部）

第3条 本学に、次の学部を置く。

教育学部

経済学部

医学部

理工学部

農学部

芸術地域デザイン学部

2 前項の学部置く学科又は課程の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学 部	学科又は課程	入学定員	3年次編入学定員	収容定員
教育学部	学校教育課程	120人		480人
	小 計	120人		480人
経済学部	経済学科	110人		440人
	経営学科	80人		320人
	経済法学科	70人		280人
	小 計	260人		1,040人
医学部	医学科	98人		588人
	看護学科	60人		240人
	小 計	158人		828人
理工学部	数理科学科	30人		120人
	物理科学科	40人		160人
	知能情報システム学 科	60人		240人
	機能物質化学科	90人		360人
	機械システム工学科	90人		360人
	電気電子工学科	90人		360人
	都市工学科	90人		360人
	(3年次編入学)		20人	40人
小 計	490人	20人	2,000人	
農学部	応用生物科学科	45人		180人
	生物環境科学科	60人		240人
	生命機能科学科	40人		160人
	(3年次編入学)		10人	20人
小 計	145人	10人	600人	
芸術地域デザイン学部	芸術地域デザイン学 科	110人		440人
	(3年次編入学)		5人	10人
	小 計	110人	5人	450人
合 計		1,283人	35人	5,398人

3 前項の学部及び当該学部に置く学科又は課程の目的は、各学部及び各学科又は各課程ごとに別に定める。

## 第2章 学部通則

第1節 学年，学期，休業日，修業年限及び在学年限  
(学年及び学期)

第4条 学年は，4月1日に始まり翌年3月31日に終わる。

2 学年を分けて，次の2学期とする。

前学期 4月1日から9月30日まで

後学期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第5条 休業日は，次のとおりとする。

(1) 日曜日及び土曜日

(2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日

(3) 開学記念日 10月1日

(4) 春季休業 4月1日から4月7日まで

(5) 夏季休業 8月1日から9月30日まで

(6) 冬季休業 12月25日から翌年1月7日まで

2 前項第4号から第6号までの規定にかかわらず，教育上必要がある場合は，教授会の議を経て，学長が休業日を変更することができる。

3 休業中でも必要に応じて見学又は実験実習等を課すことがある。

4 臨時休業については，その都度関係学部の教授会の議を経て，学長が定める。

(修業年限)

第6条 修業年限は，4年とする。ただし，第35条第2項の規定による場合は，3年以上4年未満とする。

2 前項本文の規定にかかわらず，医学部医学科にあつては，6年とする。

(在学年限)

第7条 在学年限は，8年とする。ただし，転入学，編入学又は再入学により入学した者は，第14条第2項の規定により定められた在学すべき年数の2倍に相当する年数を超えて在学することはできない。

2 前項本文の規定にかかわらず，医学部医学科にあつては，10年とする。ただし，1年次及び2年次の在学年限は，同一年次において2年を超えることができない。

第2節 入学，転入学，編入学及び再入学

(入学の時期)

第8条 入学の時期は，学年の始めとする。

2 前項の規定にかかわらず，後学期の始めに学生を入学させることができる。

(入学の資格)

第9条 本学に入学することのできる者は，次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1) 高等学校又は中等教育学校を卒業した者

(2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）



- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
- (4) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (5) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則（平成17年文部科学省令第1号）による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程（昭和26年文部省令第13号）による大学入学資格検定に合格した者を含む。）
- (8) 学校教育法（昭和22年法律第26号）第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、本学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
- (9) 本学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの  
（入学志願）

第10条 本学に入学を志願する者は、所定の期日までに、入学願書その他必要な書類に所定の検定料を添えて提出しなければならない。

（合格者の決定）

第11条 前条の入学を志願した者については、別に定めるところにより行う選考の結果に基づき、教授会の議を経て、学長が合格者を決定する。

（入学手続）

第12条 前条の規定に基づき合格の通知を受けた者は、所定の期日までに、誓約書その他所定の書類を提出するとともに、所定の入学料を納付しなければならない。ただし、入学料の免除の許可を受けようとする者は、入学料免除願の提出をもって入学料の納付に代えることができる。

（入学許可）

第13条 学長は、前条の入学手続を完了した者（入学料の免除又は徴収猶予を申請し、受理された者を含む。）に、入学を許可する。

（転入学、編入学及び再入学）

第14条 次の各号のいずれかに該当する者があるときは、教授会の議を経て、学期の始めに、学長が、相当年次に入学を許可することがある。

- (1) 他の大学（外国の大学を含む。）に在学中の者で転入学を志願するもの
- (2) 短期大学、高等専門学校、国立工業教員養成所又は国立養護教諭養成所を卒業した者で編入学を志願するもの
- (3) 学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）附則第7条に定める従前の規定による高等学校、専門学校又は教員養成諸学校等の課程を修了し、又は卒業した者で編入学を志願するもの

(4) 外国において、学校教育における14年の課程を修了した者で編入学を志願するもの

(5) 学校教育法第132条の規定による専修学校の専門課程を修了した者で編入学を志願するもの

(6) 学士の学位を有する者又は大学を退学した者で再入学を志願するもの

(7) 本学を除籍された者で同一学部にて再入学を志願するもの

2 転入学、編入学又は再入学を許可された者の在学すべき年数、履修科目及び修得単位数は、教授会の議を経て、学部長が認定する。

(転入学等の規定の準用)

第15条 転入学、編入学及び再入学の場合には、第10条から第13条までの規定を準用する。

### 第3節 教育課程及び履修方法

(教育課程の編成)

第16条 本学の教育課程は、次の教育科目をもって編成する。

教養教育科目

専門教育科目

2 教養教育科目は、大学入門科目、共通基礎科目、基本教養科目及びインターフェース科目に区分する。

3 共通基礎科目は、外国語科目、健康・スポーツ科目及び情報リテラシー科目に区分する。

4 専門教育科目の区分は、各学部の定めるところによる。

5 前項に定めるもののほか、専門教育科目として学部間共通教育科目の区分を設ける。

6 学部間共通教育科目の区分は、佐賀大学全学教育機構の定めるところによる。

(履修方法)

第17条 学生は、各学部の定める教育課程により、教養教育科目及び専門教育科目を履修しなければならない。

2 教養教育科目の授業科目、単位数及び履修方法は、佐賀大学教養教育科目履修規程(平成25年2月27日全部改正)及び各学部規則の定めるところによる。

3 専門教育科目の授業科目、単位数、授業時間数及び履修方法は、各学部規則及び佐賀大学学部間共通教育科目履修規程(平成25年2月27日制定)の定めるところによる。

4 前2項の規定による履修科目として登録できる単位数の上限等については、各学部の定めるところによる。

5 学生は、所定の教育課程以外の授業科目を履修することができる。

(全学共通の教育プログラム)

第17条の2 本学は、各学部の定める教育課程のほか、全学共通の教育プログラムによる教育課程を編成することができる。

2 全学共通の教育プログラムによる教育課程に関し、必要な事項は、別に定める。

(授業の方法)

第18条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 第1項の授業は、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

(成績評価基準等の明示等)

第18条の2 本学は、学生に対して、授業の方法及び内容並びに1年間の授業の計画をあらかじめ明示するものとする。

2 本学は、学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっては、客観性及び厳格性を確保するため、学生に対してその基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準にしたがって適切に行うものとする。

(単位の基準)

第19条 1 単位の授業科目は45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により単位数を計算するものとする。

(1) 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲の授業をもって1単位とする。

(2) 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲の授業をもって1単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学が定める時間の授業をもって1単位とすることができる。

(3) 一の授業科目について講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前二号に規定する基準を考慮して大学が定める時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらの学修の成果を評価して単位を授与することが適切と認められる場合には、これらに必要な学修等を考慮して、単位数を定めることができる。

(1年間の授業期間)

第20条 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

(授業期間)

第21条 各授業科目の授業は、15週にわたる期間を単位として行うものとする。ただし、教育上特別の必要があると認められる場合は、これらの期間より短い特定の期間において授業を行うことができる。

2 卒業論文、卒業研究、卒業制作及び経済学部の演習の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して、授業期間を定めることができる。

#### 第4節 単位の授与等

(成績の判定)

第22条 学生が一の授業科目を履修した場合には、成績判定の上、合格した者に対して所定の単位を与える。

2 成績は、秀・優・良・可・不可の評語をもって表わし、秀・優・良・可を合格とし、

不可は不合格とする。

(他の大学又は短期大学における授業科目の履修等)

第23条 教育上有益と認めるときは、第33条第1項による他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）との協議に基づき学生が当該他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位（授業時間数を定めた授業科目については、これに相当する時間数（以下第24条、第25条及び35条において同じ。））を、教授会の議に基づき、60単位を超えない範囲で、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 前項の規定は、学生が、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。

(大学以外の教育施設等における学修)

第24条 教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、教授会の議に基づき、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

2 前項により与えることができる単位数は、前条により本学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第25条 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生により履修した単位を含む。）を、教授会の議に基づき、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。

2 教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に行った前条第1項に規定する学修を、教授会の議に基づき、本学における授業科目の履修とみなし、単位を与えることができる。

3 前2項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、転入学、編入学等の場合を除き、本学において修得した単位以外のものについては、第23条及び前条第1項により本学において修得したとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(入学前に一定の単位を修得した者の修業年限の通算)

第26条 本学の学生以外の者が本学の科目等履修生として一定の単位（学校教育法第90条の規定により入学資格を有した後、修得したものに限る。）を修得した後に本学に入学する場合において、当該単位の修得により本学の教育課程の一部を履修したと認められるときは、修得した単位数その他の事項を勘案して教授会の議を経て学長が定める期間を修業年限に通算することができる。ただし、その期間は、本学の修業年限の2分の1を超えてはならない。

(長期にわたる教育課程の履修)

第27条 学生が、職業を有している等の事情により、修業年限を超えて一定の期間にわ

たり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を申し出たときは、各学部の定めるところによりその計画的な履修を認めることができる。

#### 第5節 休学，復学，退学，転学，転学部，転学科，転課程，派遣，留学及び除籍

##### (休学)

第28条 病気その他の事由によって継続して3月以上授業に出席できない者は、学長の許可を得て休学することができる。ただし、疾病の場合は、医師の診断書を添えなければならない。

2 休学期間は、1年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1年を限度として、その期間を延長することができる。

3 休学期間は、通算して2年を超えることができない。ただし、医学部医学科にあっては3年を超えることができない。

4 休学期間は、在学期間に算入しない。

##### (復学)

第29条 休学期間が満了するとき又は休学期間中にその事由が消滅したときは、学長に復学を願い出て、許可を受けなければならない。

##### (退学)

第30条 自己の都合により退学する者は、学長に願い出て、許可を受けなければならない。

##### (転学)

第31条 他の大学への入学又は転学を志願する者は、学長に願い出て、許可を受けなければならない。

##### (転学部，転学科及び転課程)

第32条 転学部，転学科又は転課程を志願する者があるときは、関係する学部の教授会の議を経て、学長が学期の始めに限り許可することがある。

2 転学部を許可された者の在学すべき年数，履修科目及び修得単位数は，転入する学部の教授会の議を経て，学部長が認定する。

3 転学科又は転課程を許可された者の在学すべき年数，履修科目及び修得単位数は，教授会の議を経て，学部長が認定する。

##### (派遣及び留学)

第33条 教育上有益と認めるときは、他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）との協議に基づき、当該他の大学又は短期大学の授業科目を履修させるため学生を派遣し、又は留学させることができる。

2 前項の派遣及び留学については、教授会の議を経て行うものとする。

3 派遣及び留学の期間は、在学期間に算入する。

4 派遣及び留学に関し、必要な事項は、別に定める。

##### (除籍)

第34条 次の各号のいずれかに該当する者は、教授会の議を経て、学長が除籍する。

(1) 第7条に定める期間在学して卒業できない者

(2) 病気その他で修業の見込がない者

(3) 入学料の免除若しくは徴収猶予を不許可とされた者又は一部の免除を許可された者であって、その納付すべき入学料を納付しない者

(4) 授業料の納付を怠り、督促を受けてもなお納付しない者

#### 第6節 卒業及び教員の免許状授与の所要資格の取得

(卒業の認定)

第35条 第6条第1項本文又は第2項に規定された期間以上在学し、第17条に規定された所定の単位を修得又は授業時間を履修した者には、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学位記を授与する。

2 本学（医学部医学科は除く。）に3年以上在学し、第17条に規定された所定の単位を優秀な成績で修得したと認められる者が、第6条第1項ただし書に定める修業年限で卒業を希望した場合には、別に定めるところにより、教授会の議を経て、学長が卒業を認定し、学位記を授与することができる。

3 前2項の規定により卒業の要件として修得すべき124単位のうち、第18条第2項の授業の方法により修得する単位数は60単位を超えないものとする。ただし、卒業の要件として修得すべき単位数が124単位を超える場合において、当該単位数のうち、第18条第1項の授業の方法により64単位以上を修得しているときは、同条第2項の授業の方法により取得する単位数は、60単位を超えることができるものとする。

(学位の授与)

第36条 卒業者には、学士の学位を授与するものとする。

2 学位には、専攻分野の名称を付記するものとする。

3 前項の専攻分野の名称は、別に定める。

(教員の免許状)

第37条 教員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）に定める所要の単位を修得しなければならない。

2 本学の学科又は課程において、当該所要資格を取得できる教員の免許状の種類は、別表に掲げるとおりとする。

#### 第7節 賞罰

(表彰)

第38条 学生として表彰に価する行為があった者は、学長が表彰することがある。

2 学生の表彰に関し、必要な事項は、別に定める

(懲戒)

第39条 本学の学則に違反し、又は学生としての本分に反する行為をした者は、教授会の議を経て、学長が懲戒する。

2 前項の懲戒の種類は、次のとおりとする。

(1) 退学

(2) 停学

(3) 訓告

3 停学期間（3月未満のものを除く。）は、第7条に規定する在学年限に含め、第6条に規定する修業年限に含めないものとする。

4 懲戒に関し、必要な事項は、別に定める。

#### 第8節 学生証

(学生証の交付)

第40条 入学を許可された者には、学生証を交付する。

#### 第9節 厚生施設

(厚生施設)

第41条 本学に、寄宿舍その他の厚生施設を置く。

2 厚生施設に関し、必要な事項は、別に定める。

#### 第10節 科目等履修生、特別聴講学生及び研究生

(科目等履修生)

第42条 本学の学生以外の者で一又は複数の授業科目を履修することを志願する者があるときは、正規課程の学生の学修に支障のない範囲で、選考の上、学長が学期の始めに科目等履修生として入学を許可することがある。

2 科目等履修生に関し、必要な事項は、別に定める。

(特別聴講学生)

第43条 他の大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）の学生で特定の授業科目を履修することを志願する者があるときは、当該他の大学又は短期大学との協議に基づき、学長が特別聴講学生として入学を許可することがある。

2 特別聴講学生に関し、必要な事項は、別に定める。

(研究生)

第44条 本学教員の指導を受けて、特定の専門的課題を研究することを志願する者があるときは、正規課程の学生の学修に支障のない範囲で、選考の上、学長が、原則として学期の始めに、研究生として入学を許可することがある。

2 研究生に関し、必要な事項は、別に定める。

#### 第11節 外国人留学生

(外国人留学生)

第45条 外国人で、大学において教育を受ける目的をもって入国し、本学に入学を志願する者があるときは、選考の上、学長が外国人留学生として入学を許可することがある。

2 外国人留学生に関し、必要な事項は、別に定める。

#### 第12節 検定料、入学料、授業料及び寄宿料

(検定料、入学料、授業料及び寄宿料)

第46条 検定料、入学料、授業料及び寄宿料の額は、別に定める。

2 第27条の規定に基づき、当該修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修して卒業することを認められた者（以下「長期履修学生」という。）から徴収する授業料の年額は、長期履修学生として、修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修することを認められた期間（以下「長期在学期間」という。）に限り、前項の規定にかかわらず、同項に規定する授業料の年額に当該修業年限に相当する年数を乗じて得た額を長期在学期間の年数で除した額（その額に10円未満の端数があるときは、これを切り上げるものとする。）とする。

(検定料の徴収)

第46条の2 検定料は、入学、転入学、編入学又は再入学の出願を受領するときに徴収するものとする。

(入学料の徴収)

第46条の3 入学料は、入学を許可するときに徴収するものとする。

(入学料の免除)

第47条 次の各号のいずれかに該当する特別な事情により入学料の納付が著しく困難であると認められる者に対しては、入学料の全部又は一部を免除することがある。

(1) 入学前1年以内において、入学する者の学資を主として負担している者(以下「学資負担者」という。)が死亡した場合又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けた場合

(2) 前号に準ずる場合であつて、学長が相当と認める事由がある場合

2 入学料の免除を希望する者は、所定の期日までに願ひ出て、許可を得なければならない。

(入学料の徴収猶予等)

第48条 入学料の徴収猶予は、本学に入学する者(科目等履修生及び研究生等を除く。)であつて、次の各号のいずれかに該当する場合に行うことができる。

(1) 経済的理由によつて納付期限までに納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合

(2) 入学前1年以内において、学資負担者が死亡し、又は入学する者若しくは学資負担者が風水害等の災害を受け、納付期限までに納付が困難であると認められる場合

(3) その他やむを得ない事情があると認められる場合

2 入学料の免除を願ひ出た者については、免除又は徴収猶予を許可し、又は不許可とするまでの期間、入学料の徴収を猶予する。

3 入学料の免除若しくは徴収猶予を不許可とされた者又は一部免除を許可された者は、所定の期日までに、所定の入学料を納付しなければならない。

4 次の各号のいずれかに該当するときは未納の入学料の全部を免除する。

(1) 入学料の免除又は徴収猶予を願ひ出た者が、第2項に規定する期間内において死亡した場合

(2) 入学料の免除若しくは徴収猶予を不許可とされた者又は一部免除を許可された者が、前項に規定する期間内において死亡した場合

(3) 第34条第3号の規定により除籍した場合

(授業料の徴収)

第49条 授業料の徴収は、各年度に係る授業料について、次の表の区分により徴収するものとする。この場合において、それぞれの期において徴収する額は、年額の2分の1に相当する額とする。

区 分	徴収の時期
前 期 ( 4月～9月)	4月1日から5月31日まで
後 期 (10月～3月)	10月1日から11月30日まで

2 前項の規定にかかわらず、学生の申出があつたときは、前期に係る授業料を徴収するときに、当該年度の後期に係る授業料を併せて徴収するものとする。



3 前2項の規定にかかわらず、科目等履修生、特別聴講学生及び研究生については、所定の期日までに授業料を徴収するものとする。

(入学の時期が学年の中途である場合における授業料の額及び徴収方法)

第49条の2 特別の事情により、入学の時期が学年の中途である場合に前期又は後期において徴収する授業料の額は、授業料の年額の12分の1に相当する額(その額に10円未満の端数があるときは、これを切り上げるものとする。)に入学した日の属する月から次の徴収時期前までの月数を乗じて得た額とし、入学の日の属する月に徴収するものとする。

(転入学、編入学及び再入学における授業料)

第50条 転入学、編入学又は再入学の場合は、その者の属する年次の在学者にかかる額と同額の授業料を納付しなければならない。

第51条 削除

第52条 削除

(休学期間の授業料等)

第53条 休学を許可されたときは、授業料の年額の12分の1に相当する額(その額に10円未満の端数があるときは、これを切り上げるものとする。)に休学当月の翌月から復学当月の前月までの月数を乗じた額を免除する。

2 学期の途中で、復学、転学、編入学又は再入学(以下「復学等」という。)を許可されたときは、授業料の年額の12分の1に相当する額(その額に10円未満の端数があるときは、これを切り上げるものとする。)に復学等の日の属する月から次の徴収の時期前までの月数を乗じて得た額を復学等の当月末日までに納付しなければならない。

(学年の途中で卒業する場合における授業料)

第53条の2 特別の事情により、学年の途中で卒業する者から徴収する授業料の額は、授業料の年額の12分の1に相当する額(その額に10円未満の端数があるときは、これを切り上げるものとする。)に在学する月数を乗じて得た額とし、前期の徴収の時期(在学期間の末日が前期の徴収の時期の末日前である場合は、当該在学期間の末日まで)に徴収するものとする。ただし、卒業する月が後期の徴収の時期以後であるときは、後期の在学期間に係る授業料は、後期の徴収の時期(在学期間の末日が後期の徴収の時期の末日前である場合は、当該在学期間の末日まで)に徴収するものとする。

(除籍及び退学の場合の授業料)

第54条 除籍又は退学の場合は、その者が在籍していた学期までの授業料を納付しなければならない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、それぞれ当該各号に掲げる未納の授業料を免除することができる。

(1) 授業料の未納を理由として除籍した場合 未納の授業料の全額

(2) 授業料の徴収猶予又は分納を許可された者が、その願い出により退学を許可された場合 退学の翌月以降納付すべき授業料の全額

(3) 死亡又は行方不明のため除籍した場合 未納の授業料の全額

(長期履修学生に係る授業料及び徴収方法の特例)

第54条の2 長期履修学生が、学年の途中で卒業する場合に徴収する授業料の額は、第46条第2項の規定により定められた授業料の年額の12分の1に相当する額(その額

に10円未満の端数があるときは、これを切り上げるものとする。)に在学する月数を乗じて得た額とし、前期の徴収の時期(在学期間の末日が前期の徴収の時期の末日前である場合は、当該在学期間の末日まで)に徴収するものとする。ただし、卒業する月が後期の徴収の時期以後であるときは、後期の在学期間に係る授業料は、後期の徴収の時期(在学期間の末日が後期の徴収の時期の末日前である場合は、当該在学期間の末日まで)に徴収することができるものとする。

- 2 長期履修学生が、長期在学期間を短縮することを認められた場合には、当該短縮後の期間に応じて、第46条第2項の規定により算出した授業料の年額に当該者が在学した期間の年数(その期間に1年に満たない端数があるときは、これを切り上げるものとする。以下同じ。)を乗じて得た額から当該者が在学した期間(学年の中途にあつては、当該学年の終了までの期間とする。以下同じ。)に納付すべき授業料の総額を控除した額を、長期在学期間の短縮を認めるときに徴収するものとする。ただし、当該短縮後の期間が修業年限に相当する期間の場合には、第46条第1項に規定する授業料の年額に当該者が在学した期間の年数を乗じて得た額から当該者が在学した期間に納付すべき授業料の総額を控除した額を徴収するものとする。

(授業料の免除)

第55条 第48条第4項第3号に該当する場合において、授業料が未納であるときは、未納の授業料の全部を免除することがある。

- 2 学業優秀で学資の支弁困難な者及び風水害等特別の事情により学資の支弁に支障を生じた者に対しては、願い出により審査の上、授業料の全部又は一部を免除することがある。

(授業料の徴収猶予及び月割分納)

第55条の2 次の各号に掲げる事由がある者については、願い出により、当該期分の授業料の徴収を猶予し、又は月割分納を許可することがある。

- (1) 経済的理由によって納付期限までに授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合
- (2) 行方不明の場合
- (3) その者又は学資負担者が風災害等の災害を受け、納付期限までに授業料の納付が困難と認められる場合
- (4) その他やむを得ない事情により納付期限までに授業料の納付が困難と認められる特別の事情がある場合

(寄宿料)

第56条 寄宿料は、毎月所定の期日までに納付しなければならない。

- 2 第34条第3号及び第4号に該当する場合において、寄宿料が未納であるときは、未納の寄宿料の全部を免除することがある。

(既納の検定料、入学料、授業料及び寄宿料)

第57条 既納の検定料、入学料、授業料及び寄宿料は、返還しない。

- 2 前項の規定にかかわらず、入学者選抜において、出願書類等による選抜(以下「第1段階目の選抜」という。)を行い、その合格者に限り学力検査その他による選抜(以下「第2段階目の選抜」という。)を行ったときに、第1段階目の選抜で不合格になった

者及び個別学力検査等出願受付後に大学入試センター試験受験科目の不足等による出願無資格者であることが判明した者に対しては、所定の期日までに当該者から申出があった場合に限り、既納の検定料のうち、別に定める第2段階目の選抜に係る額に相当する額を返還する。

- 3 第1項の規定にかかわらず、第49条第2項の規定により授業料を納付した者が、後期分授業料の徴収時期前に休学又は退学した場合には、納付した者の申出により後期分の授業料に相当する額を返還する。

### 第13節 公開講座

(公開講座)

第58条 本学に、地域社会の教育文化の向上に資するため、公開講座を開設することができる。

- 2 公開講座に関し、必要な事項は、別に定める。

### 第3章 改正

(改正)

第59条 この学則の改正は、教育研究評議会において構成員の3分の2以上の賛成がなければならない。

### 附 則

- 1 この学則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 国立大学法人の成立の際現に国立学校設置法の一部を改正する法律（平成15年法律第29号）附則第2項の規定により平成15年9月30日に在学する者が在学しなくなる日までの間存続するものとされた佐賀大学及び佐賀医科大学に在学する者（次項において「在学者」という。）に係る卒業するために必要であった教育課程の履修は、本学において行うものとし、本学は、そのため必要な教育を行うものとする。この場合における教育課程の履修その他当該学生の教育に関し、必要な事項は、平成16年3月31日において現に適用されていた教育課程の履修その他当該学生の教育に関する規程等に定めるところによる。
- 3 この学則施行後、第14条の規定に基づき、在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者に係る教育課程の履修その他当該学生の教育に関し、必要な事項は、理工学部機械システム工学科に転入学、編入学又は再入学する者を除き、前項の規定を準用する。

附 則（平成16年7月20日改正）

この学則は、平成16年7月20日から施行する。

附 則（平成17年5月20日改正）

この学則は、平成17年5月20日から施行し、平成17年4月1日から適用する。

附 則（平成17年9月27日改正）

この学則は、平成17年9月27日から施行する。

附 則（平成17年12月16日改正）

この学則は、平成17年12月16日から施行する。

附 則（平成18年2月16日改正）

- 1 この学則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 平成18年度から平成20年度までの農学部の収容定員は、改正後の第3条第2項の規定にかかわらず、次の表のとおりとする。

学 部	学 科	平成18年度	平成19年度	平成20年度
農学部	応用生物科学科	45人	90人	135人
	生物環境科学科	60人	120人	180人
	生命機能科学科	40人	80人	120人
	(3年次編入学)			10人

- 3 平成18年3月31日に農学部に置かれている学科は、改正後の規定にかかわらず、平成18年3月31日において現に当該学科に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び平成18年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 4 平成18年3月31日において現に農学部に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び平成18年4月1日以降において在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成18年12月4日改正）

この学則は、平成18年12月4日から施行する。

附 則（平成19年2月16日改正）

この学則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則（平成19年4月20日改正）

- 1 この学則は、平成19年4月20日から施行し、平成19年4月1日から適用する。
- 2 平成19年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者についての、改正後の第22条第2項の規定の適用に関しては、なお従前の例による。

附 則（平成19年12月21日改正）

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則（平成20年12月19日改正）

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 平成21年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成21年3月19日改正）

- 1 この学則は、平成21年4月1日から施行する。
- 2 改正後の第3条第2項の規定にかかわらず、平成21年度から平成31年度までの医学部医学科、医学部及び全学部の入学定員は、次の表のとおりとする。

入学定員	平成21年度	平成22年度～平成29年度	平成30年度～平成31年度
医学部医学科	100人	106人	104人
医学部	160人	166人	164人
全学部	1,310人	1,316人	1,314人

- 3 改正後の第3条第2項の規定にかかわらず、平成21年度から平成36年度までの医学部医学科、医学部及び全学部の収容定員は、次の表のとおりとする。

収容定員	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
医学部医学科	575人	586人	597人	608人	619人
医学部	835人	846人	857人	868人	879人
全学部	5,535人	5,546人	5,557人	5,568人	5,579人

収容定員	平成26年度	平成27年度 ～ 平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
医学部医学科	630人	636人	634人	632人	624人
医学部	890人	896人	894人	892人	884人
全学部	5,590人	5,596人	5,594人	5,592人	5,584人

収容定員	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度
医学部医学科	616人	608人	600人	594人
医学部	876人	868人	860人	854人
全学部	5,576人	5,568人	5,560人	5,554人

附 則（平成22年3月25日改正）

この学則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則（平成22年10月27日改正）

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（平成22年11月24日改正）

この学則は、平成22年11月24日から施行する。

附 則（平成24年3月28日改正）

- この学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 平成24年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成24年11月14日改正）

- この学則は、平成25年4月1日から施行する。
- 平成25年3月31日において現に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学、編入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

附 則（平成25年2月27日改正）

- この学則は、平成25年4月1日から施行する。
- 改正後の第3条第2項の規定にかかわらず、平成25年度から平成27年度までの経済学部各学科、経済学部及び全学部の収容定員は、次の表のとおりとする。

収容定員		平成25年度	平成26年度	平成27年度
経済学部	経済学科	110人	220人	330人
	経営学科	80人	160人	240人

	経済法学科	70人	140人	210人
経済学部		260人	520人	780人
全学部		4,708人	4,968人	5,228人

3 改正後の第3条第2項及び別表の規定にかかわらず、平成25年3月31日において現に経済学部在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

4 改正後の第7条第2項ただし書の規定にかかわらず、平成25年3月31日において現に医学部医学科の1年次又は2年次に在学する者の在学年限については、なお従前の例による。

附 則（平成 年 月 日改正）

1 この学則は、平成27年4月1日から施行する。

2 平成27年度から平成36年度までの医学部看護学科、医学部及び全学部の収容定員は、改正後の第3条第2項の規定にかかわらず、次の表のとおりとする。

収容定員	平成27年度	平成28年度 ～ 平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
医学部看護学科	250人	240人	240人	240人	240人
医学部	886人	876人	874人	872人	864人
全学部	5,266人	5,516人	5,514人	5,512人	5,504人

収容定員	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度
医学部看護学科	240人	240人	240人	240人
医学部	856人	848人	840人	834人
全学部	5,496人	5,488人	5,480人	5,474人

附 則（平成 年 月 日改正）

1 この学則は、平成28年4月1日から施行する。

2 平成28年度から平成36年度までの教育学部学校教育課程、教育学部、芸術地域デザイン学部芸術地域デザイン学科、芸術地域デザイン学部及び全学部の収容定員は、改正後の第3条第2項の規定にかかわらず、次の表のとおりとする。

収容定員		平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度
教育学部	学校教育課程	120人	240人	360人	480人	480人
芸術地域デザイン学部	芸術地域デザイン学科	110人	220人	330人	440人	440人
	（3年次編入学）			5人	10人	10人
	計	110人	220人	335人	450人	450人

全学部	4,746人	4,976人	5,209人	5,442人	5,434人
-----	--------	--------	--------	--------	--------

収容定員		平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度
教育学部	学校教育課程	480人	480人	480人	480人
芸術地域デザイン学部	芸術地域デザイン学科	440人	440人	440人	440人
	(3年次編入学)	10人	10人	10人	10人
	計	450人	450人	450人	450人
全学部		5,426人	5,418人	5,410人	5,404人

- 3 改正後の第3条第2項及び別表の規定にかかわらず、平成28年3月31日において現に文化教育学部に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

別表(第37条第2項関係)

学 部	学科又は課程	教員免許状の種類	免許教科の種類
教育学部	学校教育課程	小学校教諭1種免許状	
		中学校教諭1種免許状	国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 保健体育, 技術, 家庭, 英語
		高等学校教諭1種免許状	国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 音楽, 書道, 保健体育, 家庭, 英語
		特別支援学校教諭1種免許状(知的障害者)(肢体不自由者)(病弱者)	
		幼稚園教諭1種免許状	
経済学部	経営学科	高等学校教諭1種免許状	商業
理工学部	数理科学科	中学校教諭1種免許状	数学
		高等学校教諭1種免許状	数学
	物理科学科	中学校教諭1種免許状	理科
		高等学校教諭1種免許状	理科
	知能情報システム学科	中学校教諭1種免許状	数学
		高等学校教諭1種免許状	数学, 情報
	機能物質化学科	中学校教諭1種免許状	理科
		高等学校教諭1種免許状	理科, 工業
	機械システム工学科	高等学校教諭1種免許状	工業
電気電子工学科			
都市工学科			
農学部	応用生物科学科	中学校教諭1種免許状	理科
	生物環境科学科	高等学校教諭1種免許状	理科, 農業
	生命機能科学科		
芸術地域デザイン学部	芸術地域デザイン学科	中学校教諭1種免許状	美術
		高等学校教諭1種免許状	美術, 工芸



○変更事由を記載した書類

【佐賀大学学則】

1 変更事由

平成28年4月1日付けで教育学部及び芸術地域デザイン学部を設置することに伴い、当該学部を佐賀大学学則上に規定するため、所要の改正を行うものである。

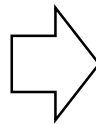
なお、既設の文化教育学部は、平成28年3月31日付けで廃止する。

2 変更点

学則第3条表において、新設学部の追加及び廃止学部の削除を行う。

※組織の変更状況は、次表のとおり。

学部	学科又は課程
文化教育学部 【廃止】	学校教育課程 国際文化課程 人間環境課程 美術・工芸課程
経済学部	経済学科 経営学科 経済法学科
医学部	医学科 看護学科
理工学部	数理科学科 物理科学科 知能情報システム学科 機能物質化学科 機械システム工学科 電気電子工学科 都市工学科
農学部	応用生物科学科 生物環境科学科 生命機能科学科



学部	学科又は課程
教育学部 【新設】	学校教育課程
経済学部	経済学科 経営学科 経済法学科
医学部	医学科 看護学科
理工学部	数理科学科 物理科学科 知能情報システム学科 機能物質化学科 機械システム工学科 電気電子工学科 都市工学科
農学部	応用生物科学科 生物環境科学科 生命機能科学科
芸術地域デザイン学部 【新設】	芸術地域デザイン学科

国立大学法人佐賀大学基本規則改正案・現行対照表

(改正理由)

教育学部，芸術地域デザイン学部，学校教育学研究科及び地域デザイン研究科の設置に伴い，所要の改正を行うものである。

改 正 案	現 行
<p>(学部) 第17条 本学に，次の学部並びに学科及び課程を置く。 <u>教育学部</u>     <u>学校教育課程</u></p> <p>経済学部     経済学科     経営学科     経済法学科</p> <p>医学部     医学科     看護学科</p> <p>理工学部     数理科学科     物理科学科     知能情報システム学科     機能物質化学科     機械システム工学科     電気電子工学科     都市工学科</p> <p>農学部     応用生物科学科     生物環境科学科     生命機能科学科</p> <p><u>芸術地域デザイン学部</u>     <u>芸術地域デザイン学科</u></p>	<p>(学部) 第17条 本学に，次の学部並びに学科及び課程を置く。 <u>文化教育学部</u>     <u>学校教育課程</u>     <u>国際文化課程</u>     <u>人間環境課程</u>     <u>美術・工芸課程</u></p> <p>経済学部     経済学科     経営学科     経済法学科</p> <p>医学部     医学科     看護学科</p> <p>理工学部     数理科学科     物理科学科     知能情報システム学科     機能物質化学科     機械システム工学科     電気電子工学科     都市工学科</p> <p>農学部     応用生物科学科     生物環境科学科     生命機能科学科</p>

2 学部並びに学科及び課程の目的，学部の入学定員，修業年限，教育課程，学生の入学，退学，卒業その他学生の修学上必要な事項は，別に定める。

(大学院)

第18条 本学に，大学院を置く。

2～3 (略)

4 大学院に置く研究科及び専攻は，次のとおりとする。

学校教育学研究科（専門職学位課程）教育実践探究専攻

医学系研究科（修士課程）

医科学専攻

看護学専攻

(博士課程)

医科学専攻

工学系研究科（博士前期課程）

数理科学専攻

物理科学専攻

知能情報システム学専攻

循環物質化学専攻

機械システム工学専攻

電気電子工学専攻

都市工学専攻

先端融合工学専攻

(博士後期課程)

システム創成科学専攻

農学研究科（修士課程）

生物資源科学専攻

地域デザイン研究科（修士課程） 地域デザイン専攻

5 大学院の研究科及び専攻の目的，入学定員，標準修業年限，教育課程，学生の入学，退学，修了その他学生の修学上必要な事項は，別に定める。

(学部附属の教育施設及び研究施設)

第23条 本学に，次の学部附属の教育施設及び研究施設を置く。

教育学部

附属幼稚園

附属小学校

附属中学校

2 学部並びに学科及び課程の目的，学部の入学定員，修業年限，教育課程，学生の入学，退学，卒業その他学生の修学上必要な事項は，別に定める。

(大学院)

第18条 本学に，大学院を置く。

2～3 (略)

4 大学院に置く研究科及び専攻は，次のとおりとする。

教育学研究科（修士課程）

学校教育専攻

教科教育専攻

経済学研究科（修士課程）

金融・経済政策専攻

企業経営専攻

医学系研究科（修士課程）

医科学専攻

看護学専攻

(博士課程)

医科学専攻

工学系研究科（博士前期課程）

数理科学専攻

物理科学専攻

知能情報システム学専攻

循環物質化学専攻

機械システム工学専攻

電気電子工学専攻

都市工学専攻

先端融合工学専攻

(博士後期課程)

システム創成科学専攻

農学研究科（修士課程）

生物資源科学専攻

5 大学院の研究科及び専攻の目的，入学定員，標準修業年限，教育課程，学生の入学，退学，修了その他学生の修学上必要な事項は，別に定める。

(学部附属の教育施設及び研究施設)

第23条 本学に，次の学部附属の教育施設及び研究施設を置く。

文化教育学部

附属幼稚園

附属小学校

附属中学校

附属特別支援学校  
附属教育実践総合センター  
医学部  
附属病院  
附属地域医療科学教育研究センター  
附属先端医学研究推進支援センター  
農学部  
附属アグリ創生教育研究センター

- 2 前項の附属特別支援学校は、知的障害者に対する教育を行う。
- 3 学部附属の教育施設及び研究施設に関し、必要な事項は、別に定める。

附 則（平成 年 月 日改正）

- 1 この基本規則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成28年3月31日に文化教育学部には置かれている課程は、改正後の第17条第1項の規定にかかわらず、平成28年3月31日において現に当該課程に在学する者（以下「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。
- 3 平成28年3月31日に教育学研究科及び経済学研究科に置かれている専攻は、改正後の第18条第4項の規定にかかわらず、平成28年3月31日において現に当該専攻に在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者が在学しなくなる日までの間、存続するものとする。

附属特別支援学校  
附属教育実践総合センター  
医学部  
附属病院  
附属地域医療科学教育研究センター  
附属先端医学研究推進支援センター  
農学部  
附属アグリ創生教育研究センター

- 2 前項の附属特別支援学校は、知的障害者に対する教育を行う。
- 3 学部附属の教育施設及び研究施設に関し、必要な事項は、別に定める。

佐賀大学学則改正案・現行対照表

(改正理由)

教育学部及び芸術地域デザイン学部の設置に伴い、所要の改正を行うものである。

改 正 案					現 行				
(学部) 第3条 本学に、次の学部を置く。 <u>教育学部</u> 経済学部 医学部 理工学部 農学部 <u>芸術地域デザイン学部</u>					(学部) 第3条 本学に、次の学部を置く。 <u>文化教育学部</u> 経済学部 医学部 理工学部 農学部				
2 前項の学部置く学科又は課程の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。					2 前項の学部置く学科又は課程の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。				
学 部	学科又は課程	入学定員	3 年次編入 学定員	収容定員	学 部	学科又は課程	入学定員	3 年次編入 学定員	収容定員
教 育 学 部	学校教育課程	120人		480人	文化教育学部	学校教育課程	90人 60人 60人 30人	20人	360人
	小 計	120人		480人		国際文化課程			240人
経済学部	(略)	(略)	(略)	(略)		人間環境課程			240人
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	美術・工芸課程	120人			
芸術地域デザ イン学部	芸術地域デザイン学科 (3年次編入学)	110人	5人	440人 10人	(3年次編入学)	40人	小 計	240人	1,000人
	小 計	110人	5人	450人	経済学部	(略)		(略)	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)	(略)

合 計	1,283人	35人	5,398人
-----	--------	-----	--------

3 前項の学部及び当該学部に置く学科又は課程の目的は、各学部及び各学科又は各課程ごとに別に定める。

附 則（平成 年 月 日改正）

- 1 この学則は、平成28年4月1日から施行する。
- 2 平成28年度から平成36年度までの教育学部学校教育課程、教育学部、芸術地域デザイン学部芸術地域デザイン学科、芸術地域デザイン学部及び全学部の収容定員は、改正後の第3条第2項の規定にかかわらず、次の表のとおりとする。

収容定員		平成28年度	平成29年度	平成30年度
教育学部	学校教育課程	120人	240人	360人
	芸術地域デザイン学科	110人	220人	330人
デザイン学部	(3年次編入学)			5人
	計	110人	220人	335人
全学部		4,746人	4,976人	5,209人

収容定員		平成31年度	平成32年度	平成33年度
教育学部	学校教育課程	480人	480人	480人
	芸術地域デザイン学科	440人	440人	440人

合 計	1,283人	35人	5,398人
-----	--------	-----	--------

3 前項の学部及び当該学部に置く学科又は課程の目的は、各学部及び各学科又は各課程ごとに別に定める。

デザ イン 学部	(3年次編入学)	<u>10人</u>	<u>10人</u>	<u>10人</u>
	計	<u>450人</u>	<u>450人</u>	<u>450人</u>
全学部		<u>5,442人</u>	<u>5,434人</u>	<u>5,426人</u>

収容定員		平成34年度	平成35年度	平成36年度
教育 学部	学校教育課程	<u>480人</u>	<u>480人</u>	<u>480人</u>
芸術 地域 デザ イン 学部	芸術地域デザ イン学科	<u>440人</u>	<u>440人</u>	<u>440人</u>
	(3年次編入学)	<u>10人</u>	<u>10人</u>	<u>10人</u>
	計	<u>450人</u>	<u>450人</u>	<u>450人</u>
全学部		<u>5,418人</u>	<u>5,410人</u>	<u>5,404人</u>

3 改正後の第3条第2項及び別表の規定にかかわらず、平成28年3月31日において現に文化教育学部<sub>に</sub>在学する者（以下この項において「在学者」という。）及び在学者の属する年次に転入学又は再入学する者については、なお従前の例による。

別表(第37条第2項関係)

学 部	学科又は課程	教員免許状の種類	免許教科の種類
教育学部	学校教育課程	小学校教諭1種免許状	
		中学校教諭1種免許状	国語, 社会, 数学, 理科, 音楽, 保健体育, 技術, 家庭, 英語
		高等学校教諭1種免許状	国語, 地理歴史, 公民, 数学, 理科, 音楽, 書道, 保健体育, 家庭, 英語
		特別支援学校教諭1種免許状(知的障害者)(肢体不自由者)(病弱者)	
		幼稚園教諭1種免許状	
		経済学部	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)
芸術地域デザイン学部	芸術地域デザイン学科	中学校教諭1種免許状	美術
		高等学校教諭1種免許状	美術, 工芸

別表(第37条第2項関係)

学 部	学科又は課程	教員免許状の種類	免許教科の種類
文化教育学部	学校教育課程	小学校教諭1種免許状	
		中学校教諭1種免許状	数学, 理科, 音楽
		高等学校教諭1種免許状	数学, 理科, 音楽, 情報
		特別支援学校教諭1種免許状(知的障害者)(肢体不自由者)(病弱者)	
	幼稚園教諭1種免許状		
	国際文化課程	中学校教諭1種免許状	国語, 社会, 英語
		高等学校教諭1種免許状	国語, 書道, 地理歴史, 公民, 英語
	人間環境課程	中学校教諭1種免許状	保健体育, 技術, 家庭
高等学校教諭1種免許状		保健体育, 家庭, 工業	
美術・工芸課程	中学校教諭1種免許状	美術	
	高等学校教諭1種免許状	美術, 工芸	
経済学部	(略)	(略)	(略)
(略)	(略)	(略)	(略)



## 佐賀大学芸術地域デザイン学部（仮称）教授会規程

（平成 年 月 日制定）

（趣旨）

第1条 佐賀大学教授会規則（平成16年4月1制定）の規定による佐賀大学芸術地域デザイン学部（仮称）教授会（以下「教授会」という。）の組織、権限、運営等については、この規程の定めるところによる。

（組織）

第2条 教授会は、専任の教授、准教授、講師及び助教をもって組織する。

（審議事項）

第3条 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり、当該事項を審議し、意見を述べるものとする。

（1）学部長候補者の選考に関する事項

（2）教員候補者の選考に関する事項

（3）教育課程の編成に関する事項

（4）学生の入学、卒業及び課程の修了並びに学位の授与に関する事項

（5）学生の懲戒に関する事項

2 教授会は、前項に規定するもののほか、学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び学長等の求めに応じ、意見を述べることができる。

（議長）

第4条 教授会に議長を置き、学部長をもって充てる。

2 議長は、教授会を主宰する。

3 議長に事故があるときは、あらかじめ議長が指名した教授が、その職務を代行する。

（議事日程の通知等）

第5条 教授会の審議事項等は、あらかじめ通知するものとする。ただし、緊急の場合は、この限りでない。

2 議長は、教育研究評議会その他の諸般の事項を教授会に報告するものとする。

3 各種の委員は、委員会その他の関連事項を教授会に報告するものとする。

（議事）

第6条 教授会は、構成員の3分の2以上の出席がなければ、議事を開き、議決をすることができない。

2 教授会の議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。ただし、教授会が特に必要があると認めた事項については、3分の2以上の多数をもって議決しなければならない。

（議事録）

第7条 議事その他必要な事項は、議事録に記載し、次回以降の教授会において、その内容

を確認するものとする。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、教授会に関し、必要な事項は、教授会が別に定める。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

設置の趣旨等を記載した書類

佐賀大学

芸術地域デザイン学部

目 次 (頁)

<b>I 学部設置の趣旨及び必要性</b>	-----	1
1 芸術地域デザイン学部設置の趣旨及び必要性		
(1) 社会的背景		
(2) 芸術地域デザイン学部設置の必要性		
(3) 地域からの要請と佐賀大学の資源		
2 教育上の目的		
3 学生のニーズ及び就職市場における必要性		
<b>II 学部・学科等の特色</b>	-----	11
1 基本的な理念		
(1) 全学的な改革の中心となる学部としての役割		
(2) 「手わざ」と「本物・フィールド」を軸とした教育研究		
(3) 学部・学科等の構成と入学定員		
(4) 各コースの特色		
<b>III 学部, 学科等の名称及び学位の名称</b>	-----	17
1 学部, 学科の名称		
2 学位の名称		
<b>IV 教育課程の編成の考え方及び特色</b>	-----	19
1 教育課程編成の考え方		
(1) ディプロマポリシー		
(2) カリキュラムポリシー		
(3) 教養教育科目と専門科目の編成と実施体制		
2 カリキュラムの特徴		
(1) 協調性やコミュニケーション能力を修得するための科目		
(2) 国際社会で活躍するために必要な能力や感覚を修得するための科目		
(3) 地域密着型の科目		
(4) 他学部開講履修推奨科目		
(5) 全学施設の有効利用 (総合大学の強みを生かした施設利用)		
(6) 大学コンソーシアム授業		
<b>V 教員組織の編成の考え方及び特色</b>	-----	29

<b>VI 教育方法，履修指導方法及び卒業要件</b>	-----	3 4
1 授業の形式		
2 教育の実施体制		
3 教育・指導の方法		
4 成績の評価		
(1) 1年次コア科目の成績評価		
(2) 3年次コア科目の成績評価		
5 履修指導方法		
6 卒業要件		
<b>VII 施設，設備等の整備計画</b>	-----	3 9
<b>VIII 入学者選抜の概要</b>	-----	4 0
1 芸術地域デザイン学部のアドミッションポリシー		
2 一般入試		
3 AO入試		
4 推薦入試・編入学入試		
5 留学生・その他の入試		
<b>IX 取得可能な資格</b>	-----	4 5
<b>X 実習の具体的計画</b>	-----	4 6
1 実習前の理論系科目の設定		
2 実習の具体的内容		
(1) 地域創生フィールドワーク		
(2) 有田キャンパスプロジェクト		
(3) 国内外芸術研修		
(4) 博物館実習（学外実習）		
(5) 教育実習		
<b>X I 企業実習や海外語学研修など学外研修の計画</b>	-----	6 0
<b>X II 編入学の具体的計画</b>	-----	6 1
<b>X III 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画</b>	-----	6 2

<b>XIV 多様なメディアの高度利用</b>	-----	6 2
1 実施場所, 実施方法及び学則における規定		
2 佐賀大学ネット授業		
3 今後の展開		
<b>XV 管理運営</b>	-----	6 5
1 学部長選考方法等と教授会の役割の明確化		
2 人事・給与システムの弾力化の方向性		
3 学部運営の基本方針		
4 学外機関及び学内機関との連携強化		
<b>XVI 自己点検・評価について</b>	-----	6 6
1 実施体制		
2 実施方法等		
3 評価結果の活用・公表		
<b>XVII 情報の公表</b>	-----	6 7
<b>XVIII 教育内容等の改善を図るための組織的な取組</b>	-----	6 9
<b>XIX 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制</b>	-----	6 9
1 教育課程内の取組について		
2 教育課程外の取組について		
3 適切な体制の整備について		

# I 学部設置の趣旨及び必要性

## 1 芸術地域デザイン学部設置の趣旨及び必要性

### (1) 社会的背景

#### 1) 国の施策の方向性 -芸術と地方創生-

我が国は、文化芸術振興基本法に基づき文化芸術立国の実現を目指し、平成23年2月に「文化芸術の振興に関する基本的な方針（第3次基本方針）」（文化庁）において、1) 文化芸術活動に対する効果的な支援、2) 文化芸術を創造し、支える人材の充実、3) 子どもや若者を対象とした文化芸術振興策の充実、4) 文化芸術の次世代への確実な継承、5) 文化芸術の地域振興、観光・産業振興等への活用、6) 文化発信・国際文化交流の充実という六つの重点戦略を打ち出している。

また、平成26年3月に「文化芸術立国中期プラン」（文化庁）を策定し、日本が世界の文化芸術の交流のハブを目指すことを宣言している。このような文化芸術立国の実現は、人々が心豊かな生活を実現する上で不可欠であり、かつ創造的な経済活動の源泉として大きな意義を持つものとして期待されている。

それに加えて、社会の様々な場面（文化事業、企業営利活動、学校教育、地域社会、国際交流）で、アーティスティックな能力の発揮が求められている。経済産業省は「デザインは、直接かつ分かりやすく視覚に訴えるものであり、コンセプト、技術、品質、サービス等、ブランド確立に必要な他の要素を簡潔に表現するための重要な手段」として、産業界のみならず社会貢献の分野においてもデザインを戦略的に活用することを推進している。そしてその担い手となるのは、アーティスティックな能力やデザイン力を備えた人材である。

ところがここで問題となるのは、芸術の素養や視点を備えていても、社会活動、経済活動、そして実際の生活の中で、それをある場所やある素材とリンクさせて様々な目的に合わせて有効につかいうる総合的な芸術の能力を持った人材がごく限られているという現状である。

その背景の一つには、既存の芸術系学部や芸術業界が、表現・技術のスキルアップを重視してきたために芸術と異分野、とりわけ産業との有機的繋がりが疎かになってしまった現実がある。文化芸術立国を目指す日本において求められる真の人材とは、芸術的感性や視点を有するとともに、その他の学問・実利分野に精通し、実践力を発揮して、芸術を総合的にマネジメントし、プロデュースすることができる人材である。

一方、我が国では急速な人口減少、超高齢化、人的・物的資源の東京一極集中などが大きな課題となっている。特に地方においては現役世代全体の人口が減少し、地域経済の活力を奪い、地域コミュニティの衰退が生じている。これに対し、なすべきことは、人口減少に伴う地域の変化に柔軟に対応するとともに、地方から都市部に向けたこれまでの一方的な人の流れを、都市から地方へと向け変えることである。平成26年「まち・ひと・しごと創生法案」及び「地域再生法の一部を改正する法律案」の地方創生関連2法案が成立し、全国知事会は提言「地方創生のための提言～地方を変える・日本が変わる～」を打ち出すなど、地方創生を目指して日本全体が動き出している。

## 2) 佐賀県の課題と地方創生への動き

佐賀県も地方に所在するいくつかの県同様、人口減少、少子高齢化、景気の低迷、中心市街地の空洞化、佐賀らしい田園景観の喪失、良好な自然環境の悪化など、様々な課題に直面している。それらの課題の解決を目指して、佐賀県は今も、地方創生のための魅力ある地域づくりの取り組みに着手している。特に、次世代産業や地域型産業の育成として高品質な県産品プレミアムブランドや、多彩で豊富な観光資源といった佐賀の魅力を向上させる試みやデジタルコンテンツ産業の県内への集積・定着を重要な施策として位置付けている。

そうした中で佐賀県が抱える地域型産業の重要な課題として、400年の歴史を持つ有田焼をはじめとする陶磁器産業が近年大きく低迷していることがあげられる。佐賀県は、就業者に占める伝統的工芸品従事者の割合及び県内総生産（名目）に占める伝統工芸産業の年生産額の割合が大きいため、陶磁器産業の低迷は、解決されるべき課題となっている。

すなわち、有田焼のリブランディングによる海外での新たな販路開発などの活性化策が、佐賀県の最優先の課題である。有田焼創業400年事業を契機に、佐賀県と協働することで有田焼を活性化することは、地域振興の有力なモデルになり得るのである。

## 3) 佐賀大学が果たすべき役割 「芸術を基盤とした地域創生」

そして、このような状況の中で佐賀大学が今正に取り組むべき課題とは、地域創生について研究を重ね、地域に貢献すること、そして何よりも地域創生に貢献することのできる人材の養成である。そして、総合大学でしかできない地域創生に貢献する人材の養成とは、学問分野としての専門性と教育研究分野の多様性を学生に提供することである。佐賀大学は総合大学のこのような強みを生かし、柔軟性や汎用性をもった人材を養成し、佐賀県のみならず、様々な地域で地域創生に貢献できる人材を輩出していかなければならない。



本学は、諸分野にわたる教育研究を礎にし、豊かな自然溢れる風土や諸国との交流を通して育んできた独自の文化や伝統を背景に、地域と共に未来に向けて発展し続ける大学を目指してきた（大学憲章、佐賀大学中長期ビジョン[2008～2015]）。あわせて様々な課題の解決とともに、特色・強みを伸長させる機能強化に取り組み、主体的に大学改革を進めている。

そして、平成24年6月に公表された「大学改革実行プラン」を受け、地域に必要とされる、「佐賀の大学」を目指して、COC（Center of Community）構想に軸足を置く大学改革をスタートさせた。具体的には、COC構想の実現に向け、共同申請した西九州大学と共に自治体と連携して「佐賀における地（知）の拠点整備事業～文部科学省：地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）～」に取り組み、地域を志向した教育・研究・社会貢献活動を強力に推進している。**（資料1 佐賀県における産学官包括連携協定事業、佐賀における地（知）の拠点整備事業）**

さらに、平成25年6月に発表された国立大学改革の基本方針としての「今後の国立大学の機能強化に向けての考え方」を踏まえ、教員養成機能を強化するとともに、文化教育学部の国際文化課程、人間環境課程及び美術・工芸課程については、全学的な視野に立って改編を進めることを本学のミッションの再定義において宣言した。

この全学的視野に立った改編の柱となる本学の文化教育学部美術・工芸課程は、昭和28年、教育学部に特別教科(美術・工芸)教員養成課程（通称「特美」）が設置されたことに始まる。その後、平成元年の教育学部総合文化課程造形文化コースを経て、教育学部の文化教育学部への改組に伴い、平成8年に美術・工芸課程が設置され、現在に至っている。

その60年を超える歴史の中で、中学・高校の美術科教員として地域の美術教育に貢献する人材を養成することはもちろん、多くの優秀な画家や工芸家、大学・短期大学等の教員、美術館学芸員を輩出している。在学生・卒業生には、特美の設置以来、地方展だけでなく全国規模の公募展やコンクールあるいは国際的なコンクール等で華々しい活動を展開している者も少なくない。

平成25年秋には佐賀大学と佐賀医科大学の統合10周年を迎えることを記念し、本庄キャンパス正門整備事業の一つとして、大学正門前に美術館建設が計画されたが、これはこのような美術・工芸教室の歴史と実績が基となり、実現されたものである。このようにして平成25年10月に、国立総合大学で初の美術館が設置された。現在、佐賀大学美術館は開館1年半で6万人を超える来場者を迎え、多くの地元住民に親しまれている。本学は今後も佐賀大学美術館を活用し、地域の人々

に文化芸術の機会に触れる機会を提供し、アートを通じた地域の活性化に寄与していく。

## (2) 芸術地域デザイン学部設置の必要性

現在、国と地方自治体が取り組む地方創生の目標に、芸術分野の様々な実績を有する地方国立大学が、芸術を武器に参加することには大きな必然性がある。国や国民の負託に応えることは国立大学に課されたミッションである。そして、芸術を通してこの事業に取り組むことによって、国が目指す文化芸術立国の理念を佐賀という地方において実現していく。正に「芸術で地域を拓き、芸術で世界を拓く」人材の養成こそが、佐賀大学に求められている。

すなわち、地方国立大学である佐賀大学に新学部を設置する目的はここにある。名称に冠するデザインという言葉は、単なる造形という意味のデザイン(=表現)にとどまらず、新たな協働を設計構築し、地域、まちづくりをする(=マネジメント)という意味も含む。

ここで言うマネジメントとは、地域をデザインするために、地域と人、モノ、情報の連携や接続をはかることである。そして、地域デザインとは、地域社会において新たな協働を構想し、それを設計構築していくこと、わかりやすく言えば、地域の資源と地域の文化的、歴史的、地理的特性を活かして、それを地域の活性化や地域創生に繋げていくことである。

そして本学は美術・工芸の蓄積された実績、総合大学としての強みを活かし、さらには有田窯業大学校等との連携を通じて、芸術で地域をデザインする特色ある芸術系学部として、平成28年4月に「芸術地域デザイン学部」を設置する。**(資料2 佐賀大学芸術地域デザイン学部構想)**

芸術地域デザイン学部の設置によって、本学はCOC構想の実現及び地方大学としての機能強化を図るとともに、地域創生や文化芸術立国の実現、日本文化の国際的な発信のための普遍的、かつ汎用性のある方法論として「芸術を基盤とした地域創生のための佐賀大学モデル」を構築する。このように、本学部の目指す地域創生とは、佐賀県内のみをフィールドとするのではなく、広く北部九州地方、そして九州全域、そして日本全国へと射程を広げていくビジョンの下にある。

ところで佐賀県内高校の大学進学者(過去3年間)のうち、県外進学は約85%にものぼる。あわせて、過去3年間の本学卒業の就職者のうち、県外就職は約71%にものぼる。これは佐賀県からの若年人口の流出を表している。今回設置する芸術地域デザイン学部は、佐賀県唯一の国立大学に初めてできる芸術系学部として、制作者の養成ばかりではなく、さらに地域の問題に向き合い、地域の問題を自分たちの手で解決し、地域活性化につなげる人材をも養成するという理念を持つ。また本学部の開設

は、これまで県外へ流失していた若者を郷里へ定着、又は回帰させる大きな動機付けにもなる。すなわち新学部を設置は、今正に、国が最重要施策として取り組んでいる地方創生に呼応したものである。**（資料3 佐賀県からの若年層流出状況）**

### （3）地域からの要請と佐賀大学の資源

佐賀は、東アジアと近接し、大陸文化の窓口として歴史的、文化的に重要な役割を果たしてきた。また、佐賀には、吉野ヶ里遺跡をはじめとする貴重な歴史的遺跡や、伊万里・有田焼などのやきもの文化が根付いている。加えて、佐賀には世界遺産の指定を目指している九州・山口の近代化産業遺産群や、棚田などが形成する美観地区も多数存在する。有明海と玄界灘という性格のまったく異なる二つの海に面している点も佐賀の大きな地理的特徴の一つである。このように多様性に富んだ地理や歴史によって形成される恵まれた自然や風土を有効に利用し、よりよい生活を求めて佐賀の人々は努力を重ねてきた。そして、佐賀大学もまたアカデミックな視点から、それらについて研究を重ね、人々の生活の質の向上や産業の発展に寄与してきた。

また本学は佐賀大学美術館をはじめ、これまでの実績を踏まえた確かな教育・研究・社会貢献資源があり、地域の地（知）の拠点として確立すべく事業を展開している。

しかしながら、広範な地域の自治体・企業等から本学に寄せられる要請は多種多様であり、現在の文化教育学部の教育研究組織がその全てに応えることは困難であった。ミッションの再定義等で明らかとした強み・特色や社会的役割をより一層果たすには、まず、全学的な組織再編を検討することが必要であった。そこで学長のリーダーシップのもと、「組織再編基本構想検討PT（平成25年11月）」を設置し、特に以下の点を踏まえて全学的な組織再編構想をまとめた。そして、芸術を基盤とした地域創生のための「芸術地域デザイン学部」を設置することになり、新学部設置には地域から大きな期待が寄せられている。**（資料4 学部設置についての要望）**

#### 1) 有田焼の次代100年を担う人材育成への要請

佐賀県は、平成28年に有田焼（肥前磁器）創業400年を迎える機会に、次の100年を支えるやきもの人材育成を目指して、佐賀県立有田窯業大学校の4年制大学化構想を打ち出した。

本学はこの基本的な考え方に賛同し、佐賀県と連携して具体的な検討・準備に着手し基本合意書を締結したところである。平成26年5月には具体的な準備検討組織として、佐賀大学と佐賀県との実務者連絡協議会を設置した。現在はずでにその中で有田窯業大学校教員の佐賀大学への移行、校地及び全面改修後の施設の無償譲渡を協議している段階である。**（資料5 佐賀県と佐賀大学との連携に関する基本合意書、佐賀大学と佐賀県との実務者連絡協議会要項）**

「伊万里・有田焼」は佐賀県における重要な地場の伝統産業であり、国の伝統的工芸品の指定を受けている。佐賀県は平成25年から有田焼創業400年事業に取り組んでおり、「有田焼のイノベーション」「有田焼のリブランディング」「世界で活躍する人材の集積・育成」という3つの視点で事業を展開しているが、この事業を今後担っていく人材の養成は、肥前窯業圏の磁器に関する技術の修得等を中心とした有田窯業大学校と共に本学がその機能を果たすことが求められている。**(資料6 佐賀県 オランダとの連携等による『プラットフォームの形成』プロジェクト)**

その根拠となる背景としては、唐津市の要請を受け、平成20年から本学が実施した「戦略的発想能力を持った唐津焼産業人材養成事業～佐賀大学『ひと・もの作り唐津』プロジェクト～」(文部科学省科学技術戦略推進費採択)での成功事例がある。唐津で実施した、伝統工芸である陶器「唐津焼」の産業振興・人材の育成手法等を、有田においても展開していくことを佐賀県及び地元有田町は期待している。

## 2) 佐賀地域の伝統産業界・文化財保護関連分野からの要請

佐賀周辺の他の伝統産業からも、これと同様の要請がある。佐賀県及び筑後川を挟んで佐賀と接する福岡県筑後地方は、佐賀錦、大川組子、久留米餅、そして久留米籃胎漆器など、重要な伝統工芸品を産する地帯である。**(資料7 佐賀県周辺の伝統工芸・伝統産業)**

伝統工芸の技術の継承、後継者育成、新たな技術力とデザイン力に裏打ちされた伝統工芸品のリノベーションや経営戦略、さらには国内・国際的なブランド力の向上などに大学の様々な知的資源を投入し実践することが、地域社会からより一層求められている。

具体的には、市民団体及び佐賀県知事からの直接の要請を受け、平成26年4月に佐賀県の伝統的織物である佐賀錦を対象とする「佐賀錦研究所」を立ち上げ、大学と地域のコラボレーションによる伝統産業の保存と人材養成に着手したところである。佐賀大学美術館における「佐賀錦、鹿島錦展」の開催(平成26年9月)、佐賀錦の技能保持者や実務家を講師に招いた佐賀錦の実践実習科目の開講(平成26年10月から)、また、本学教員による佐賀錦のデザインや技法に関わる研究への着手など、既に活発な活動を展開している。

また、佐賀錦に続き、福岡県大川市の伝統産業である大川組子の振興と発展を目指した同様の研究所設立の準備も進めている。これは、大川組子の事業組合及び大川市から、本学へ直接の協力要請があったことを発端としている。

伝統産業に限らず、佐賀地域の文化的・歴史的資源の保存・活用への協力も、大学に求められている。佐賀県には国及び佐賀県が管理する吉野ヶ里遺跡や佐賀県が世界遺産への登録を目指す三重津海軍所跡・明治日本の産業革命遺産群など、我が国の重要な文化的・歴史的遺産群が集積する。

現在、これらの保存・修復・再生に留まらず、地域資源としての価値を再発見し、活用・発信・流通させる人材の確保が課題になっている。文化教育学部人間環境課程などがこの人材育成の役割の一部を担っているが、実践的に貢献できる人材を継続的に輩出するには至っていないため、その機能強化を図る必要がある。地域創生を芸術の面から担う、芸術的技能と経営的視点を兼ね備えた人材の不足は、ここでも問題となっている。

こうした文化的・歴史的資源の保存・活用にあたっては、デジタル表現技術が大きな役割を担うが、現状は、多くの産業等においてICT技術の利活用が十分に なされているとは言い難い。保存におけるデジタルアーカイブや、活用におけるプレゼンテーション、CG・WEB表現技術などは、本学の「デジタル表現技術者養成プログラム」や「地域環境コンテンツデザイン研究所」において人材育成や産学官連携の実績を積んできた。今後は、こうした伝統的産業分野でのさらなるデジタルコンテンツ普及が求められており、それを担う人材の育成も課題となっている。

その他、佐賀市呉服本町商店街・柳町でのアートイベント「呉福万博」、小城市におけるアートイベント「天山アートフェスタ in小城」「佐賀市市民芸術祭」「有田現代アートガーデンプレイス」など、本学には、学生が地域の文化芸術振興に積極的に関わってきた実績もある。

### 3) 企業からの期待

地域創生のためには、地域産業を活性化し、雇用を生み出すことで、人やものを地域に呼び込む方法が最も有効である。それによって高齢化率上昇に歯止めがかかり、人口構造が若返ることで経済が好況となる。新学部の設立がそのような正の連鎖を生む契機となることは、地域の企業がそろって期待するところである。新学部は、近未来において、この連鎖のダイナミズムを他県から佐賀県への企業誘致に繋げることも視野に入れる。

新学部の教育内容については、後述するが、新学部では、地域密着型の実習科目を学部のコア科目として設定する。そのような科目においては、企業や自治体の協力を得て、様々なプロジェクトに取り組む。企業と行うものとしては、たとえば、観光化プロジェクト（鉄道、バス会社、マスコミ、陶磁器会社、製菓会社

等), ブランディングプロジェクト(陶磁器会社, 酒蔵, 製菓会社, その他地元の名産品を扱う会社等)などを計画している。

#### 4) 全学協力体制

佐賀大学は, 低平地及び海浜台地に関わる研究において, 佐賀大学の低平地沿岸海域研究センターと海浜台地生物環境研究センター(現アグリ創生教育研究センター)をそれぞれ研究拠点として, 前身を含めていずれも20年以上の実績を有している。また, 近年では文理工の教員が共同で「歴史地区に住む災害弱者の災害対応のための研究」を佐賀市と隣接する鹿島市をフィールドとして行うなど, 佐賀大学は地元の地理や自然に関わる研究を積極的に行っている。このように地域の課題に向き合い, 長い研究実績を誇る。

新学部を設置に際しては全学的な支援体制を構築している。まず, 地域づくり, まちづくりを含む地域および空間等の計画・デザイン分野は, 昭和45年設置の理工学部土木科を前身とする都市工学科が教育・研究してきた領域である。特に平成18年に「都市環境基盤コース」, 「建築・都市デザインコース」の2コース制を導入してからは, 「建築デザイン学・建築環境工学」分野を中心に, 歴史的町並みや集落ならびに地域施設等の計画設計, 防災を含む持続可能な計画手法等の研究を行ってきた。これらの蓄積を踏まえ, 当該分野が協力して, 新学部における広義のデザインに関する教育・研究を支える役割を果たす。新学部では, 総合大学の強みを活かして他学部で開講される授業科目の履修を推奨しているが, この分野においては, 他学部開講履修推奨科目として, 「建築・都市デザイン特別講義」等を設定する(表1 他学部開講履修推奨科目一覧)。

経済・経営分野は, 昭和41年に設置された経済学部が教育・研究してきた領域である。新学部における, マネジメントに関する教育・研究を支える役割を果たす。具体的には, 経済学部から芸術経営・流通論を専門とする教員と, 労働経済を専門とする教員それぞれ1名を新学部へ配置替えする。また, 経済学部で開講される経営組織, 企業経営に関わる科目を他学部開講履修推奨科目として設定する。(Ⅳ 教育課程の編成の考え方及び特色)(Ⅴ 教員組織の編成の考え方及び特色)

( 表1 他学部開講履修推奨科目一覧 )

科目名	開講部局	対象学年
Breakthroughs in the Modern Age	全学	1～4
セラミックスの不思議	全学	1～4
地域の環境	全学	1～4
映画製作	全学	1～4
芸術論 (音楽)	全学	1～4
芸術論 (美学)	全学	1～4
哲学・倫理学	全学	1～4
画像へのアプローチ	全学	1～4
映画製作	全学	1～4
情報メディア論	教育	1～4
映像表現	全学	1～4
プログラミング表現	全学	1～4
プロデューサー原論	全学	1
Web 表現	全学	1
アントレプレナーシップ I, II	全学	2～3
環境経営学	全学	1～4
情報科教育法 I, II	教育	1～4
情報と職業	教育	3～4
経営組織論	経済	2～4
企業経営入門	経済	3～4
解剖・生理学	医	2～4
アーバンデザイン	理工	2
建築・都市デザイン特別講義 (まちなか I)	理工	2
情報ネットワーク	理工	3～4
データ構造とアルゴリズム	理工	2～4
画像情報処理	理工	3～4
地域資源論	農	2～4
地域ビジネス開発論	農	2～4
観光人類学	農	2～3

また、佐賀県窯業技術センターとともに、佐賀県における伝統産業等の材料工学の研究機能の役割を担ってきたのは、昭和41年設置の理工学部化学科を前身とする機能物質化学科の「電子セラミックス材料工学」分野である。今回の改編を機会に、有田ニューセラミックス研究会とも連携を強化し、新学部におけるセラミック工学に関する教育・研究を支える役割を果たす。この分野の教員が提供する他学部開講履修推奨科目「セラミックスのふしぎ」は、特に陶磁器・ファインセラミックスに関心のある学生にとって、材料工学の視点から、より専門的な内容を教授するものである。

工学系研究科2分野からも、経済学部同様に新学部へ教員を配置換えすることとしており、学部設置後の重要な人的ネットワークとして、他学部開講履修推奨科目の設定、拡充をはじめ、教育研究活動における学部間連携機能を発揮することを見込んでいる。

## 2 教育上の目的 —芸術を通じた地域創生のための人材養成—

芸術地域デザイン学部の教育上の目的は、「芸術を通じた地域創生のための人材」、地域社会において「芸術で地域を拓く人材」、国際社会で活躍する「芸術で世界を拓く人材」を養成することである。

その人材養成に向けて本学部は、個人の表現能力を重視していたこれまでの文化教育学部美術・工芸課程の教育から次元を転換し、マネジメントやセラミック、都市デザイン等の異なる要素を新たに加え、佐賀地域を志向した「芸術を基盤とした地域創生のための佐賀大学モデル」による人材養成を行う。文化芸術立国の実現のためには、どうしても経営や科学を加味した視点から文化芸術を多面的、総合的に捉え、地域創生の方法論と実践の往還による教育を行う必要がある。よって本学部のカリキュラムには、そのような分野の科目を配置する。**(設置計画書Ⅳ)**

本学部は、芸術を基盤とした地域創生を目指していることから、組織として研究対象とする学問分野は、美術関係及び経済学関係とする。そして、その研究成果をさらに学部教育にフィードバックすることにより、教育上の目的を果たす。

## 3 学生のニーズ及び就職市場における必要性

本学部への高校生のニーズを確認するため、本学の進学説明会に参加した高校等を対象にアンケート調査を実施し、本学部への志願者を十分に確保できる結果を得ている。自由記述として「芸術に様々な方向から関わることのできる人が増えるのはいいと思います」や「国立大学で非常に数が少ない芸術学部なので注目している」、「他の芸術大学や美術大学とは一味違って、とても興味を持ちました。地域の活性化に直接関係できるのでいいと思います」等の意見が出されている。

また、本学部への就職市場における必要性を確認するため、本学卒業生の採用実績のある企業及び関連機関等を対象にアンケート調査、実地調査及び求人状況調査を実施し、本学部卒業生への採用意欲が十分に確認できる結果を得ている。自由記述として、「ビジネス環境が多様に変化する中、従来の価値観に捉われない自由な発想が可能な人材が求められる」や「企業としての情報発信ツールのデザインの重要性やブランド構築において、必要な人材を輩出するのではないかとの期待あり」等の意見が出されている。**(設置申請書 12 学生確保の見通し等を記載した書類に詳述)**



## Ⅱ 学部，学科等の特色

### 1 基本的な理念

#### (1) 全学的な改革の中心となる学部としての役割

芸術地域デザイン学部においては、中央教育審議会答申『我が国の高等教育の将来像』の提言する「高等教育の多様な機能と個性・特色の明確化」の中の「特定の専門的分野（芸術，体育等）の教育・研究」と「社会貢献機能（地域連携，産学官連携，国際交流等）」の2つに重点を置く。

「特定の専門的分野(芸術，体育等)の教育・研究」は、芸術地域デザイン学部の基本理念「芸術で地域を拓く」と「芸術で世界を拓く」人材育成に、「社会貢献機能（地域連携，産学官連携，国際交流等）」は、佐賀大学の基本理念の「地域と共に未来に向けて発展し続ける大学を目指す」と、佐賀の地域に必要とされる「佐賀の大学」を目指して、COC（Center of Community）構想に重点を置いた大学改革に対応するものである。

これを踏まえ、本学部が行う事業を本学が既に実施している「佐賀県における産学官包括連携協定事業～6者協定事業～」及び「地（知）の拠点整備事業選定取組『コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーションプロジェクト』」における新たな軸として位置付け、全学体制で取り組む。**（資料1）**

佐賀大学では、地域社会と連携し、地域を志向した教育・研究を推進することを第2期中期目標に掲げている。そのため、地域の振興も視野に入れた、地域を志向する新たな教育課程の開発を目指しており、地域との連携・協働を学部の理念や特色の一つとする芸術地域デザイン学部の開設は、そのような目標達成に向けた大きな柱になる。具体的には、中央教育審議会答申にある教育の質的転換に対応して、「地域創生フィールドワーク」，「有田キャンパスプロジェクト」（これらの科目の詳しい内容については後述）など学生が地域の課題解決に参加することで、実践力・協働する力を養うカリキュラムを編成している。

また、成績評価においては、複数の教員による成績評価方法，授業に関わった企業や自治体の実務家等を評者に加えた公開審査，教務委員会による成績の審議などを実施することにより、厳格な成績評価体制を構築する。なお、将来的には、このような成績評価方法を、全学的な評価体制へと波及させていく。他にも芸術地域デザイン学部では、入試（個別試験において発想を見る試験を導入等）や教務（コースナンバリング制の導入）において、他学部在先駆けた改革を行うが、いずれの改革も全学に広げていく。

## (2) 「手わざ」と「本物・フィールド」を軸とした教育研究

学部の理念として、「芸術で地域を拓き、芸術で世界を拓く」を掲げる芸術地域デザイン学部は、人文科学、社会科学、自然科学の諸学問から学び、さらに実践的な能力を修得することを教育の柱とする。そしてテクノロジーとともに「手わざ」を重視することも本学部の理念の特徴である。

ここで言う「手わざ」とは、実際に身体と感覚をつかう作業、と定義する。「手わざ」は、60年の歴史を有する佐賀大学美術・工芸教室の実績に裏付けられた伝統でもある。芸術地域デザイン学部においても、佐賀大学美術・工芸教室の伝統を継承発展させ、「手わざ」を土台とした伝統と革新のバランスを教育理念に据える。

さらに、「手わざ」に加えて「本物・フィールド」の重視、そして「専門性とジェネラルな能力の両立」を目指す。ここで言う「本物」とは、文字どおり本当の物、すなわち、にせ物やつくり物ではない真正の資料や素材、と定義する。佐賀大学美術館には数は多いとは言えないが、歴史的、芸術的に価値のある作品や資料(=本物)が所蔵されており、美術・工芸教室(講座)の教員、学生等が制作した美術・工芸品が展示される機会も多い。そのような実物資料に恵まれた環境の中での博物館実習等を予定している。

さらに、大学の周辺の施設(佐賀県立美術館・博物館、佐賀県立佐賀城本丸歴史館、佐賀県立九州陶磁文化館等)との連携、佐賀県内のフィールドに存在する豊富な文化・歴史・地理的資源の活用、フィールドでの創作活動によって、本物の価値をもとに、地域で実践する能力を養う「手わざ」と「本物・フィールド」の重視は、学部全体に通底する考え方である。

総合大学に集積された経済・経営、化学、工学、医学、思想、歴史などの知の資源を「手わざ」と「本物・フィールド」を軸に結びつけた教育研究の方法は、芸術を核とした領域横断的な取組のモデルとなる。そしてそれは、「芸術を基盤とした地域創生のための佐賀大学モデル」の説得力を強めるものである。なぜなら、芸術という一つの限られた領域の中だけで芸術を学ぶのではなく、これらの多様な学問を学ぶことで、地域創生に適用できる実践的、機能的な芸術の方法論を学び、現代社会が抱える問題と地域創生の理論を、説得力をもって結びつけることが可能となるからである。

## (3) 学部・学科等の構成と入学定員

### 1) 学部・学科・コースの構成

本学部の体制は1学部1学科とする。

上述した理念は、芸術地域デザイン学部芸術地域デザイン学科に通底する学部全体の理念である。それを全学生に対して教授するために、コース横断的・融合的なカリキュラム編成とし、その機動性を高めるために1学部1学科の体制をとる。また、芸術表現による地域創生の手法と、地域を芸術的手法によりデザインしていくという手法の違いによって、また、これらの2つが学問研究としての専門性を深めていくために、芸術表現コース及び地域デザインコースの2コース制とする。

2つのコースは、以上のような考え方にに基づき、アドミッションポリシーを分け、入試を別々に行う。それぞれのコースが養成する人材像は、芸術表現コースが、「芸術を自ら創造・表現し、地域創生に貢献する人材」、地域デザインコースが、「文化芸術を支え、新たな付加価値を生み出し、地域創生に貢献する人材」である。2コースの学生たちが、相互に関連し合うことで、2つの手法が磨かれ、時に融合されることで、地域創生にとって効果的な第3の手法が生まれることも期待される。

なお、芸術表現コースには、美術・工芸の要素、そして、工芸の中でも特に有田の地と強く結びついた陶磁器・ファインセラミックスの2つの要素が含まれる。一方、地域デザインコースには、キュレーション要素、フィールドデザイン要素、そして、デザインの中でも特に、地域の情報をコンテンツ化し、デザインする地域コンテンツデザイン要素の3つの要素を含む。これらの要素は、学生のキャリアの形成に必要な指導（履修モデルの明示など）においては、「分野」として表す。

## 2) 入学定員

( 表2 芸術地域デザイン学部の入学定員 )

学部名	学科名	コース名
芸術地域デザイン学部 (110名)	芸術地域デザイン学科 (110名)	芸術表現コース (55名)
		地域デザインコース (55名)

芸術地域デザイン学部の入学定員は、110名とする(表2 芸術地域デザイン学部の入学定員)。コース別の内訳(人数)については、次のように考える。母体となる文化教育学部美術・工芸課程(30名)の過去5年間の平均志願倍率は、

4.8倍を超えている。また、地域デザインコースへの入学が見込まれる人間環境課程（60名）及び国際文化課程（60名）の志願倍率はそれぞれ約4倍、新課程全体では5年間の平均志願倍率は4.2倍を確保している。また、平成26年8月に実施した、佐賀県内及び福岡を初めとする九州各県の高校を対象に行ったアンケート調査（1次調査）によると、有効回答者数6,410名のうち「進学したい」「進路の一つとして考えたい」が、896名（14.8%）に及んだ。また、平成27年1月には、本学部で学修できる内容と卒業後のキャリアイメージを丁寧に説明し、第2次調査を行った（対象は佐賀県内の公立高校7校普通科）。それによると、有効回答者数259名のうち「進学したい」と回答した高校生は、73名（28.2%）に及んだ。

「進路の一つとして考えたい」まで含めると144名（55.6%）であった（**設置申請書11 学生確保の見通し等を記載した書類**）。

以上のデータに加え、歴史と恵まれた施設環境を有する有田校地で行う陶磁器・ファインセラミックスの教育・研究に対する全国的な期待、そして、佐賀県からは、陶磁器・ファインセラミックスの教育・研究に対して、現在の有田窯業大学校4年生課程の1学年の定員である10名以上の定員確保の要請を受けていること、以上のことを総合的に判断し、芸術表現コースの定員を55名とする。

一方、文化教育学部における学芸員の課程を履修する学生は例年20名前後である。加えて、文化教育学部美術・工芸課程において、地域のアートプロジェクト等に参加する学生は、近年、急激に増加しており（在学中、ほぼ全ての学生が地域のワークショップ等に参加）、アートマネジメントに対する関心は確実に高まっている。平成26年12月に佐賀大学で開催されたフィールドデザインシンポジウム（芸術地域デザイン学部に配置予定の教員5名がシンポジストとして登壇）には、地元の高中生ら150名以上の聴衆が集まったことから、この分野に対する関心の高さが窺える。また、文化教育学部国際文化課程において、芸術学、地域史を専攻する学生は、毎年10～20名を数える。同じく人間環境課程において都市地理学、考古学を専攻する学生はあわせて約10名である。さらに、地域コンテンツデザインの要素を入れ込んだ地域デザインコースには、造形的なデザインの学修を希望する学生の入学も見込めるものと判断する。加えて、本学部と競合する九州の同種の大学学部学科の有無等を考慮し、地域デザインコースの定員を55名とする。

以上のような構成により、学部全体の定員を1学年あたり110名とし、他にこれまでの入学者選抜の実績等から3年次編入枠（定員5名）を設ける。（**Ⅷ 入学者選抜の概要**）

#### (4) 各コースの特色

上述したように、養成する人材像の違いから、コースを2つに分ける。すなわち、芸術を自ら創造・表現し、地域創生に貢献する人材を養成する芸術表現コースと、文化芸術を支え、新たな付加価値を生み出し、地域創生に貢献する人材を養成する地域デザインコースの2つを配置する。

##### 1) 芸術表現コース

本コースは、60年以上の歴史を有する美術・工芸課程の伝統を基盤とし、既存概念にとらわれることなく社会に対して高い問題意識を持ち、芸術を通して地域や世界と共有される新たな芸術の価値の創造に貢献する人材養成を目指す。

また、主に有田校地で行われる、陶磁器・ファインセラミックスの教育・研究は、本学の窯芸教育の歴史と陶磁器・ファインセラミックスを通じた大学と地域の連携事業の実績をもってスタートし、理工学部の材料工学に関する教育研究機能を活用し、陶磁器・ファインセラミックスの表現や知識を活かして地域創生に貢献する人材を養成する。

以上のように、本コースには、要素として美術・工芸と有田セラミックの2つが含まれる。有田セラミックが担う窯芸は、工芸の1分野であるものの、歴史的にも、地理的（有田校地をメインキャンパスとする）にも、地域に密着した教育研究分野として、美術・工芸からは独立させて1分野とする。

美術・工芸分野の考えられる進路としては、企業（製造、サービス、食品、インテリア、服飾、等）、販売（デパート、小売）、造形作家、教員等である。

有田セラミック分野の考えられる進路としては、企業（陶磁器・ファインセラミックス、食品、製品等）、販売（デパート、小売）、陶芸家、教員等である。

##### 2) 地域デザインコース

本コースでは、地域の有形無形の遺産や資料・資源をキュレーション（＝芸術、経営、科学などの知識やスキルを駆使して、地域の有形無形の遺産や資料を企画、管理、運営等すること）し、人、もの、場と繋げることによって、地域をデザインしていく人材の養成を目指す。

本コースは、博物館・美術館や文化施設等において、地域資源の中でも、特に様々な作品や資料（＝もの）を対象とし、それらを地域創生に繋げていくキュレーション分野、空間的な広がりのある様々な場＝フィールドを対象とするフィールドデザイン分野、そして地域資源に関わる情報をデザイン（視覚伝達、情報、コンテンツ、映像）の手法を通して、視覚化したり、発信したりする地域コンテンツデザイン分野の3つの分野によって編成される。

キュレーション分野の考えられる進路としては、博物館・美術館、ギャラリー、販売（デパート、小売、画廊）、貿易、マスコミ（新聞社、出版社、TV局）、自治体の文化財保護、観光、まちづくり部署等である。

フィールドデザイン分野の考えられる進路としては、自治体のまちづくり、都市計画、文化財保護、観光部署等、博物館・美術館、企業（建築・設計、都市プランナー、不動産）等である。

地域コンテンツデザイン分野の考えられる進路としては、企業（広告、情報、マーケティング、コンピューター、家具、インテリア等）、映像クリエイター、マスコミ（新聞社、TV局）等である。

### Ⅲ 学部、学科等の名称及び学位の名称

#### 1 学部、学科の名称

学部、学科の名称は、「芸術地域デザイン学部 芸術地域デザイン学科」とする。

本学部の名称において、「デザイン」は単に造形的なデザインという意味にとどまらず、新たな協働を設計構築し、地域、まちづくりをすることという意味も含む。

そして、本学部の「デザイン」には、工学的、科学的、あるいは環境学的なデザインというよりも、「芸術的なデザイン」という意味をもつものとして、学部名称に「芸術」を冠する。

地域をアーティスティックな視点や方法論によってデザインしていく人材を養成する学部・学科として、また、日本にオンリーワンの学部として、芸術地域デザイン学部という名称とする。名称に「地域」をつけることで、高校生をはじめ、一般の人々にとっても、より学部・学科の趣旨や設置目的がわかりやすく伝えられる。

英訳：The Faculty of Art and Regional Design

The department of Art and Regional design

#### 2 学位の名称

芸術表現コース

「学士（芸術）」

英訳：Bachelor of Fine Arts

地域デザインコース

「学士（地域デザイン）」

英訳：Bachelor of Art and Regional Design

養成する人材像はコースによって異なるので、学位名称はコースごとに定める。芸術表現コースの学位名称（英訳）に使用する「” Fine Arts”」は、一般的に造形芸術を表す語であり、この学位名称をもつ大学は英語圏の大学に数多く存在する。一方、地域デザインコースの学位名称をコース名からそのまま英訳すると「” Regional Design”」となるが、英語で「” Regional Design”」というと、一般的には工学系の地域デザインが想起されるため、「” Art and Regional Design”」として、本学部の地域デザインは「芸術を通じた地域デザイン」であることを示す（表3 海外の大学における同一又は類似の学位名称）。

本学部の地域デザインコースとまったく同じ学位名称をもつ大学は国内外に存在しないが、芸術表現系の学部の学位名称（“Bachelor of art and design” など）や工学

系の学部の学位名称（” Bachelor of Regional and Urban Design” など）として、海外の大学の名称に類似のものは多数存在する。これらのことから、二つの学位名称はともに国際的通用性を有していると言える。

**(表 3 海外の大学における同一又は類似の学位名称)**

本学部の学位名	学位名	大学名	国名
芸術表現コース Bachelor of Fine Arts	Bachelor of Fine Arts (同一名称)	Auckland University of Technology	ニュージーランド
		School of Art and Design	ニュージーランド
		Penny Stamps School of Art	アメリカ合衆国
地域デザインコース Bachelor of Art and Regional Design	Bachelor of Art and Design	Birmingham City University	英国
		University of Leeds	英国
	Bachelor of Regional and Urban Design	Southern Cross University	オーストラリア
	Bachelor of Regional and Town Planning	The University of Queensland	オーストラリア



## IV 教育課程の編成の考え方及び特色

### 1 教育課程編成の考え方

本学の学士課程教育は、教養教育と専門教育とを柱とし、「佐賀大学学士力」に沿って編成する。**(資料8 佐賀大学学士力、養成する人材像と特色ある教育カリキュラム (体系図))**

さらに、授業科目に番号を付し、分類することで学習の段階や順序等を表し教育課程の体系的性を明示する仕組み（コースナンバリング制）を導入する。また、カリキュラムマップにより、学生にも教育課程の体系的性をわかりやすく明示する。**(資料9 カリキュラムマップ (コースナンバー付))**

本学部が導入するコースナンバリング制は、学士力とディプロマポリシーをコースナンバリングに反映させたものであり、これにより、学生ひとりひとりに学士力がより体系的・計画的に修得される道筋が構築される。このようなコースナンバリング制の実施（佐賀大学方式コースナンバリング制）は、全国的に見ても新しい試みである。本学では、芸術地域デザイン学部での実施に次いで、このシステムを速やかに他学部にも波及させていく。**(資料10 学位授与の方針と学士力及び教育課程編成・実施の方針対応表)**

#### (1) ディプロマポリシー

芸術地域デザイン学部は、以上のような教育課程編成の考え方に基づき教育を行う。そして、学部学科のディプロマポリシー、2つのコースのディプロマポリシーをそれぞれ次のように定める。

##### 1) 芸術地域デザイン学部芸術地域デザイン学科のディプロマポリシー

###### ①基礎的な知識と技能

芸術とそれを取り巻く諸学問の基礎的な理論・知識・技能を身につけ、それを地域創生・地域貢献に活かしていくことができる。

###### ②課題発見・解決能力

芸術と人間のかかわりについての問題意識をもち、芸術が人間社会に対してなしうることを、身近な環境の中から発見する能力を身につけている。

###### ③個人と社会の持続的発展を支える力

芸術や言葉を媒介としたコミュニケーションによって、よりよい社会の形成に貢献できる能力を身につけている。

##### 2-1) 芸術表現コースのディプロマポリシー

###### ①基礎的な知識と技能

芸術表現の基礎とそれを支える技法や素材に対する知識を身につけ、それを地域創生・地域貢献に活かしていくことができる。

②課題発見・解決能力

美術の造形やデザインが人間社会にどのような影響を与えることができるかについて問題意識をもち、それらを追及していく強い意志をもっている。

③個人と社会の持続的発展を支える力

美術を通してよりよい社会の形成に寄与していく強い意志をもっている。

2-2) 地域デザインコースのディプロマポリシー

① 基礎的な知識と技能

地域デザインの基礎的な理論と実践力を身につけ、それを地域創生・地域貢献に活かしていくことができる。

②課題発見・解決能力

芸術活動を通して、人間社会にどのような積極的な意味を見出していけるかを考え、それらを追求していく強い意志をもっている。

③個人と社会の持続的発展を支える力

芸術活動を通してよりよい社会の形成に寄与していく強い意志をもっている。

(2) カリキュラムポリシー

本学部は、以上のようなディプロマポリシーに掲げる知識や能力を身につけさせるため、次のようなカリキュラムポリシーを掲げ、カリキュラムの編成を行う。

1) 芸術表現コースのカリキュラムポリシー

①健全で潤いのある地域社会の構築に関わる一員として、社会科学、人文科学、自然科学の幅広い教養とコミュニケーション力、情報活用能力等のスキルを身につける。

②主体性、積極性、協調性、発想力、企画力、リーダーシップなどの特性を身につける。

③独自の芸術表現とそれを支える技術、美術の歴史や素材・技法に関する知識、経営的な視点を持ち、美術を多面的・総合的に捉える能力を身につける。

④優れた芸術表現を通して、地域の活性化に寄与できる方法論を身につける。

2) 地域デザインコースのカリキュラムポリシー

①健全で潤いのある社会の構築に関わる社会の一員として、社会科学、人文科学、自然科学の幅広い教養とコミュニケーション力、情報活用能力等のスキルを身につける。

- ②主体性，積極性，協調性，発想力，企画力，リーダーシップなどの特性を身につける。
- ③地域デザインの理論と実践力，芸術の歴史や素材・技法に関する知識，経営的な視点を持ち，芸術を多面的・総合的に捉える能力を身につける。
- ④優れた地域デザインの能力を駆使し，芸術を通して地域の活性化に寄与できる方法論を身につける。

### (3) 教養教育科目と専門科目の編成と実施体制

以上の各カリキュラムポリシーに基づき，教養教育科目と専門教育科目を体系的，順次的に配置し，年間に履修可能な科目数の上限を設定し，4年間かけて履修するよう教育課程を編成する。個々の授業科目に対する学生の十分な学修時間の確保の観点から，各学期の履修単位の上限は22単位とし，GPAによる成績優秀者には10単位以内での，上限を超える履修を認める。この数値は，文化教育学部における経験を基とし，学生が無理なく授業科目を履修できる最適の数値として採用する。

また，カリキュラムマップを作成するとともに，コースナンバリングを行い，授業科目の学習段階や順序等の体系性を明示し，学生がレベルや専門を勘案して授業科目を履修，能力形成のための学習の蓄積を計画できるようにする。**(資料9)**

#### 1) 教養教育科目の編成及び実施体制

本学の教養教育は，平成25年度から教養教育の責任部局である全学教育機構によって実施・運営されている。本学の教養教育では，中央教育審議会の答申「新しい時代における教養教育の在り方について」(平成14年)を受け，幅広い視野から物事を捉え，高い倫理性に裏打ちされた的確な判断を下すことができる人材の養成を目指し，また，グローバル化や科学技術の進展など社会の激しい変化にも対応しうる統合された知の基盤を形成すべく構成と内容を定めている。

具体的には，全学教育機構は，共通基礎科目(外国語，健康・スポーツ科目，情報リテラシー科目等)の他，基本教養科目の各分野(自然科学と技術の分野，文化の分野，現代社会の分野)及びインターフェース科目からなる教養教育科目を設定する。

インターフェース科目には現代社会の諸課題と接続する視点をもった異文化理解コースや環境コースなどがあり，インターフェース科目を通して，現代的な課題を発見・探求し，問題解決につながる協調性と指導力，多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力，持続的な学習力と社会への参画力，そして，高い倫理観と社会的責任感を修得させる。

全学教育機構が開講する、初修外国語の修得は博物館・美術館の学芸員、文化施設等の職員、そして、国際的な視野をもったフィールドデザインの専門家に必要な資質となるので、地域デザインコースでは教養教育科目の文化の分野から、「フランスの言語と文化Ⅰ・Ⅱ」、「中国の言語と文化Ⅰ・Ⅱ」、「ドイツの言語と文化Ⅰ・Ⅱ」、「朝鮮の言語と文化Ⅰ・Ⅱ」のいずれかの4単位を1年次に必修とする。さらに語学力を伸ばそうとする学生については、これに接続するインターフェース科目の履修を推奨する。英語と初修外国語の修得を通じて、日本の文化芸術を世界に発信するための基礎的な語学力とグローバルな感覚を養う。また、芸術表現コースでは美術、工芸の教員免許を取得しやすいように「体育実技Ⅰ・Ⅱ」を必修とする。

## 2) 専門科目の編成及び実施体制

### 専門科目編成の方針

学生が学部の人材養成像とコースの養成像に求められる能力を基礎から応用まで修得していくことができるよう、カリキュラムの体系性と順次性に配慮し、教育課程を編成する。そのために、まず、教育課程全体を、学部共通科目、コース基礎科目、そしてコース選択科目の大きく3つに分け、教育課程の体系性を明確にする。3つの科目群の中には、芸術に関わる科目を中心に配置し、その他に、地域デザインに関わる科目、マネジメント科目、アートと科学に関わる科目、歴史科目、異文化コミュニケーション科目などを配置する。本学部では、マネジメントを「新たな協働を設計構築し、地域、まちづくりをすること」、換言すれば、「地域をデザインするために、地域と人、モノ、情報の連携や接続をはかること」と定義している。「芸術を通じた地域創成のための人材」を養成するという本学部の設置目的を実現するためには、地域資源の効果的な利用や活用において、地域社会を構成する人やものの流れとその仕組みについて理解を深めることは、不可欠であるため、教育課程において芸術を補完するものとしてマネジメント科目を配置する。そして、特に地域デザインコースにおいては、マネジメントの知識や手法を地域資源の活用・利用に活かすことのできる能力が、体系的・順次的に修得できるよう、マネジメント科目を学部共通科目ーコース基礎科目ーコース選択科目を通して配置する。

また、2年次においては、コース基礎科目、コース選択科目の比重を大きくし、3年次以降は専門科目の履修を中心とすることで、段階的に専門教育科目へと展開していく仕組みである。なお、年次が進行してからも、コースを横断して他の分野や他のコースの科目を履修できるカリキュラム構成としている。これによって、学生は専門性とジェネラルな能力の両方を修得することが可能となる。

## ① 学部共通科目

1年次の学部共通科目においては、芸術表現と地域デザインの理論と実践の導入―基礎となる科目として、学生全員が週2回3コマ通して行うコア科目「芸術表現基礎」及び「地域デザイン基礎」を配置する。2つの科目の中では、素材に直接に触れ、手わざをつかった感覚を体験させることや、実際の地域資源を体感することを重要とみなす。1年次には、コア科目と並び、「流通論」と「アートマーケティング」を選択必修科目として配置する。博物館・美術館、画廊・アートフェアなど、美術品の流通についての知識が必要な場で働くことを希望する学生や、作家を希望する学生には、アートマーケティングを履修させる。また、デザイン概念について学び、デザインの発想を導くための科目「デザイン発想論」と、デザインの現場には欠かすことのできないデジタル表現の基礎を学ぶ「デジタル表現基礎」を1年次の必修とする。

また、1年次及び2年次選択必修「文化経済論」「アートマネジメント」「地域再生デザイン学」では、マネジメントをそれぞれ文化経済、アート、そしてまちづくりという各論の中で学ぶ。卒業後の進路や職種に応じて、科目の選択を行う。

一方、社会に出て、市場経済の主体として活動することの意味を学ぶため、また、地域の中で社会に積極的に関わり、職業人としての高い意識を育むために必要とされる労働経済の観点から見たキャリア教育として、「職業キャリア論」を配置する。

1～2年次で学んだ以上のことを、プロジェクトベースの実践的科目である3年次コア科目「有田キャンパスプロジェクト」「地域創生フィールドワーク」「国内外芸術研修」の中で実践的に学ぶことにより、地域デザインの応用力をつける

**(資料11 コア科目のシラバス)**。なお、3年次コア科目への導入科目として、「芸術文化・地域創生論」を2年次後期に配置する。3年次コア科目は、有田、有田以外の国内のフィールド、そして、海外のフィールドと言う3種類を学びの場の選択肢とする。卒業後の進路や職種に応じて、科目の選択を行う。

また、芸術の表現や地域をデザインしていく時に必要な倫理や法律を学ぶために2年次必修科目「知的財産権学」を配置する。

上記以外の学部共通科目としては、上述の科目編成の方針に則り、「比較オリエンタリズム研究」「キーコンセプト イン アート」「アートと科学」を選択必修科目として配置する。

## ② コース基礎科目

### i. 芸術表現コース

芸術表現コースの人材養成に必要とされる知識やスキルを修得させるために、コース基礎科目を配置する。

芸術表現コースにおいては、様々な素材をつかった芸術表現の造形的な基礎を「芸術表現 AB」（1年次）や「デザイン基礎」（2年次）によって修得させるとともに、美術史・工芸史の理論と知識を、「美術史基礎」「工芸理論」「現代美術概論」（2～3年次いずれかを選択必修）によって修得させる。また、空間把握力を鍛えるために「図法」を、美術・工芸の素材や材料についての基礎的知識を修得させるためには「材料学」を、それぞれ2年次の必修科目とする。また、「美術品流通論」（2年次必修）を通して、生産者が、流通業者のもつ役割や消費者ニーズをどのようにつかみ、美術品を流通させていくかについて学ぶ。これによって、消費社会における生産者としての芸術表現者の意識を育む。

#### ii. 地域デザインコース

地域デザインコースの人材養成に必要とされる知識やスキルを修得させるために、コース基礎科目を配置する。具体的には、コース基礎科目の必修として博物館概論（1年次）、ランドスケープ（1年次）、地域再生論（2年次）、ヘリテージマネジメント論（2年次）、地域マネジメント論（3年次）を置く。これらの科目を通して、具体的な進路・職種の中で、必要とされる知識を修得していく。すなわち、博物館・美術館、地域の文化施設、そして自治体の文化行政部署などで働く際に必要なキュレーションやフィールドデザインの基本的な知識を積み重ねていく。

専門性をさらに深め、希望する卒業後の進路・職種に必要な能力を修得させるために、「地域情報マネジメント演習」「フィールドデザイン演習Ⅰ」「エリアスタディー演習Ⅰ」「経営・流通演習Ⅰ」「経営流通演習Ⅲ」のいずれかから2科目を履修させる。そして、「コンテンツデザインⅠ」「視覚伝達デザインⅠ」「映像デザインⅠ」「情報デザインⅠ」から1科目を選択履修させることによって、地域の情報を発信していくために必要なデザインスキルの修得を図る。

また、「コミュニティビジネス」「社会政策」（2年次選択必修）においては、社会経済の構造を理解した上での、個人の職業キャリア観の形成、または、初歩的な経済理論による地域の現状と課題の把握等について学修させる。

#### iii. コース選択科目

専門性の深化と、卒業後の進路・職種に必要とされる能力の修得のために、芸術表現コースと地域デザインコースに、それぞれコース選択科目を配置する。学芸員や文化施設の専門職員を希望する学生にとっては、コース選択科目に配置された学芸員資格に必要な科目の履修だけでは、学芸員の専門性の修得が十分でないと判断されるので、自由選択科目（後述）として、「キュレーティング応用

I」 「キュレーティング応用Ⅱ」 「アートプロデュース論」などの科目履修を推奨する。

また、地域コンテンツデザイン分野の学生は、コース選択科目に配置された情報、コンテンツ、映像の各デザイン分野の科目を履修することにより、専門性を深化させていく一方で、キュレーション分野とフィールドデザイン分野の学生は、それらのデザイン科目を履修することで、地域資源の集約、アーカイブ化、情報発信などに活かしていけるスキルを修得していく。

### 3) 自由選択科目

全学部の特設教育科目の中から各自の興味にしたがって選択できる科目として設定している。

### 4) 卒業研究

4年間の集大成として、学生の興味・関心に応じたテーマを自主的に発展させていくために、「卒業研究」を配置する。4年次前期の早い時期には、芸術をつかった地域創生に貢献する人材として、1～3年次で学んだマネジメントの知識や手法を生かして、卒業研究に着手することができるよう、経済・経営分野の教員による授業を行う。「卒業研究」においては、学生各自で課題を設定して最終学年の1年間をかけて調査・研究や制作を行い、その課題について掘り下げ、卒業研究（論文あるいは作品）としてまとめる。

## 2 カリキュラムの特徴

### (1) 協調性やコミュニケーション能力を修得するための科目

1年次と3年次のコア科目においては、協働作業を多く取り入れる。また、授業の開講時以外の時間帯にも作業場を開放することにより、学生同士が触れ合い、議論し合う時間を多くする工夫がされている。このようにして能動的な学修時間を確保し、増やすことにより、学生のコミュニケーション力や協調性などを鍛え、学生が主体的に課題に取り組む姿勢を身につけさせる。（なお、VI-3も参照）。

### (2) 国際社会で活躍するために必要な能力や感覚を修得するための科目

「芸術で世界を拓く人材」養成のために、外国語（教養教育科目の共通基礎科目の「英語A～D」）、語学を含む外国の文化・文学の科目（教養教育科目の基本教養科目の文化の分野から「アジアの文化・文学」、または「欧米の文化・文学」）、英語による講義・演習科目（「Key Concepts in Art」「Art in Context」

「Intercultural Communication and Art I～III」 「Critical Studies in Language

and Image I~III)], 国際的な感覚を養い, 知見を広める科目 (「比較オリエンタリズム研究」「美術史I~III」「美術史演習」「エリアスタディー演習I~II」), そして, 海外での研修科目 (「国内外芸術研修」) を配置している。

また, 以上のような科目の配置に加え, 本学部には海外の美術館・博物館でキャリアを積んだ教員, 国際的に活躍するクリエイター・美術家などを常勤及び非常勤講師として配置し, 国際的な活動に必要な実践的スキルを学ぶことが可能である。

なお, 芸術地域デザイン学部と単位互換などの協定締結が計画されている大学は, ハレ芸術デザイン大学 (ドイツ), チュラロンコン大学 (タイ王国), 韓京大学 (大韓民国) などである。また, 大学間協定あるいは学部 (文化教育学部) 間協定を既に結んでいる漢南大学デザイン学部や国民大学校 (いずれも大韓民国) との協定関係はしかるべき手続きを踏んだ上で, 芸術地域デザイン学部へ継承されることになる。このような海外の教育研究機関との交流の一環として, 交換留学制度の導入が計画されている。

### (3) 地域密着型の科目

地域創生に貢献する人材養成のために, 地域へ積極的に入り込み, 地域が抱えるアクチュアルな課題に向き合い, 地域の人とともに課題解決方法を考える地域密着型の授業を配置している (表4 地域密着型の科目一覧)。

(表4 地域密着型の科目一覧)

科目区分	科目名	必・選	形態	単位	学年	備考
学部共通科目	地域デザイン基礎 (デザイン)	必修	演習	2	1	佐賀県内の地域資源を使った演習
	地域デザイン基礎 (マネジメント)	必修	演習	2	1	同上
	地域デザイン基礎 (フィールドワーク)	必修	演習	2	1	同上
	芸術表現基礎 (工芸)	必修	演習	2	1	同上
	アートマーケティング	選択必修	講義	2	1	有田, 伊万里の事例を使用
	アートマネジメント	選択必修	講義	2	1	北部九州地方の文化施設の事例使用
	地域再生デザイン学	選択必修	講義	2	2	日本と英国における地域の中心市街地における再生に向けた取り組みを事例とする
	芸術文化・地域創生論 (国内外地域プロジェクト事例研究)	必修	講義	2	2	北部九州地方における, アートを通じた地域活性化の事例を使用
	有田キャンパスプロジェクト	選択必修	実習	6	3	有田の地域資源を用いて, 有田の人々とともに考える芸術を通じた地域創生を課題とする
	地域創生フィールドワーク	選択必修	実習	6	3	佐賀県内の地域資源を用いた演習。1年次コア科目の応用, 実践



	国内外芸術研修	選択必修	実習	4	3	海外のアートによる町おこしの事例視察含む
芸術表現 コース科	陶磁マーケティング	選択	講義	2	3	有田, 伊万里, 波佐見, 三河内地区の事例を使用
	陶磁器産業論	選択	講義	2	3	同上
地域デザイン コース科目	地域再生論	必修	講義	2	2	佐賀市中心市街地や佐賀の脊振の中山間地域で, 地域再生のために行われている実践的な活動を事例とする
	地域マネジメント論	必修	講義	2	3	日本の地方都市における地域マネジメントの事例を使用
	コミュニティビジネス	選択必修	講義	2	2	地域のコミュニティビジネスの資金面, 人材育成, 経営管理に焦点をあてる
	フィールドデザイン演習Ⅰ	選択必修	演習	2	2	佐賀市におけるフィールドサーベイを含む演習
	博物館学内実習	選択必修	実習	2	1	佐賀県内の芸術・歴史遺産を利用した実習を含む
	キュレイトング応用Ⅱ	選択	講義	2	2	地域の現状及び課題をリサーチした上で, その条件にあったアートプロジェクトを企画する演習を含む
	デザイン実践セミナー	選択	演習	2	3	具体的な課題を地域のクライアントから提示されたことを想定し行う演習科目
	地域ブランディング演習	選択	演習	1	23	メディアを活用した地域ブランディング
	都市空間論Ⅰ	選択	講義	2	2	佐賀市中心市街地の活性化を主要テーマとする
	都市空間論Ⅱ	選択	講義	2	3	同上
	フィールドワーク実習	選択	実習	2	2	佐賀の事例を使用
	フィールドデザイン演習Ⅱ	選択	演習	2	3	同上
	文化財の保存と活用	選択	講義	2	2	文化財の保存と活用について。吉野ヶ里遺跡などの事例使用
	ヘリテージマネジメント演習	選択	演習	2	2	国内外の文化遺産のマネジメントの現状と課題
	卒業研究	必修	—	6	4	1～3年次に学んだマネジメントの知識・手法の振り返りのための授業を含む。各地域の事例紹介も含む。

#### (4) 他学部開講履修推奨科目

芸術が様々な分野でどのように機能しているかを知るため, また, 芸術を他の分野から捉えることにより, 芸術に対する視野を大きく広げるために, 他学部(医, 理工, 農, 教育, 経済), 全学教育機構で開講される科目のうち, 上で述べた本学部の教育目標や教育内容に合致するものを, 他学部等開講履修推奨科目とし, 学生に提供する。具体的には, 通常の芸術系学部では教育される機会の少なかった, 芸術と自然科学との関わりを明らかにする科目(「解剖学」「生理学」等), 経済・経営についての知識を得る科目(「経営組織論」「企業経営入門」「経営管理論」「地域経済論」「流通産業論」等), 地域の振興や観光に関わる科目(「観光人類学」「地域資源論」等), また, 本学部が教育する分野とリンクする科目(「情報ネットワーク」など情報関連科目,

「建築・都市デザイン特別講義（まちなかⅠ）」等を他学部等開講履修推奨科目とする（表1）。

（5）全学施設の有効利用（総合大学の強みを生かした施設利用）

総合大学の強みを最大限に生かし、「芸術表現基礎」「地域デザイン基礎」「地域創生フィールドワーク」「国内外芸術研修」「博物館実習」等の科目において、実習の場として、教育学部附属学校・園，医学部附属病院，地域学歴史文化研究センター，美術館，農学部附属アグリ創生教育研究センターなどを利用する。また，公開審査会や成果発表の場としても，美術館やその他の全学施設を利用する。

（6）大学コンソーシアム授業

他大学における授業科目の履修等については，佐賀にある6つの大学の間での情報交換を積極的に行い，優れた部分を共有することで効率よく改革を進めていくことを目的として立ち上がった「大学コンソーシアム佐賀」の大学教育部会におけるシステムを利用する。具体的には，eラーニングを活用した同期型遠隔授業やネット授業を用いて，6大学間での単位互換の実施を行う。

## V 教員組織の編成の考え方及び特色

専任教員の体制は、カリキュラムの実施に必要な、教授、准教授、講師とする（表2）。全学的な組織再編によって、芸術地域デザイン学部の教育内容と教育研究分野とが合致し、かつ実績のある学内の教員を結集させる。一方、新たな教育研究を展開する分野については、新規採用により配置する計画である。とりわけ陶磁器・ファインセラミックス分野については、現在の有田窯業大学校の窯芸（造形、プロダクトデザイン、装飾成形）分野の教員を佐賀大学専任教員として平成29年度から採用することと、セラミック工学の教員を配置替えすることにより、教育実施体制を充実させる。

専任教員の組織は、学内の人的資源を有効活用することから考え、文化教育学部の美術・工芸課程9名、人間環境課程2名（都市地理学、考古学・ヘリテージマネジメント）、国際文化課程2名（エリアスタディー、インターカルチュラル・コミュニケーション）、そして学校教育課程1名（映像デザイン）を選抜した。これに加え、工学系研究科から2名（セラミック工学、都市デザイン）と経済学部から2名（労働経済学、芸術経営・流通論）が本学部に配置換えとなる計画である。さらに、芸術地域デザイン学部の特色でもある新しい教育研究分野5ポスト（ミクストメディア、情報デザイン、コンテンツデザイン、アートキュレイトイング、アートプロデュース）については新規公募を行い、教員の採用が内定している。また、マネジメント科目の充実のため1名（経営・流通）及び定年予定教員の後任1名（染色工芸）も内定している。

以上のような教員組織の編成の考え方に加え、教員の資質としては、次のような点を重視した。すなわち、表現者（作家）として優秀な実績を有すること、また、実務家としての経験を有すること、そして、本学部の理念に則り、芸術を科学的、また経営的な視点から捉える教育を実践するために必要な人材であることである。実務家とは、理論や方法論だけを知識として有する者ではなく、理論的な裏づけをもちながら、実践的な経験のある者、具体的には、企業、自治体、NPO法人などでクライアントや地域住民の要請や課題に応じて、デザインの制作に従事したり、地域創生業務に関わったりした経験のある者、キュレーター、学芸員、文化財保護行政職員の経験がある者、そして、窯元や工房において制作のみならず、販売、広報などに携わった経験のある者などを指す。

芸術表現コースに配属される教員のうち、7名は国内外の権威のある公募展等における輝かしい入選・入賞歴をもった作家でもある。また、両コースのデザイン分野の2名の教員は、インディペンデントデザイナー（グラフィックデザイン）として、また、企業のデザイナー（情報デザイン）としての豊富な実務経験を有する。また、もう1名のメディアデザイン（映像デザイン）の教員は、高校における豊富な教職経験を有し、大学教員となっても佐賀県教育委員会及び佐賀県のデジタルコンテンツ事業との強い関係を維持し、地域におけるメディアデザイン教育や、デジタルコンテンツ事業の指導的な役割を果

たしている。

一方、地域デザインコースのキュレーション分野を担当する教員のうち4名（美術史、博物館学、アートキュレイティング、アートプロデュース）は、国内外の美術館・博物館において学芸員や研究員の実務経験をもっている。また、考古学・ヘリテージマネジメント担当の教員も、教育委員会において地域の遺跡の調査発掘や文化財保護行政、文化行政に従事した経験を有し、フィールドデザイン分野の教員のうち都市デザインの教員は、1級建築士として実務の経験を有する。

科学的、また経済・経営的な視点から捉える科目を中心となって担当するのは、次の分野の教員である。科学的な視点からは、セラミック工学（セラミック分野の科目のみならず、学部共通科目「アートと科学」を担当）、アートキュレイティング（資料保存と修復に関わる科目を担当）の科目。経済・経営的な視点からは、経済学（コミュニティビジネスや社会政策に関わる科目を担当）、経営・流通（流通や文化経済に関わる科目を担当）アートプロデュース（アートマネジメントに関わる科目を担当）、そして芸術経営・流通論（アートマーケティングに関わる科目を担当）。このうち本学には、アートキュレイティングと経営・流通やアートプロデュースをそれぞれ担当できる教員がいなかったため新規採用とした。また、他の3科目の担当者としては、工学系研究科と経済学部にも所属する3名の教員を配置替えする。

専任教員27名の職階は、教授16名、准教授7名、講師4名であり、教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に十分な構成になっている。特に実習科目においては、授業の円滑な実施と教員負担の軽減のために、TAやRAを積極的に活用し、授業補助を担当させる。一方、年齢は、30代3名、40代9名、50代13名、60代2名というバランスのとれた構成であり、加えて本学の教育職員の定年は65才であることから、内1名は完成年度には定年を迎えるが、特任教員として継続雇用する予定であるため教育研究水準の維持向上及び教育研究の活性化に支障が生じる危険性は低い。**（資料12 国立大学法人佐賀大学教育職員定年規程）（資料13 国立大学法人佐賀大学契約職員就業規則）**

また、性別の内訳は、男性22名、女性5名（19%）である。また、教員の出身大学（学位）は、国内外の様々な大学にわたっており、このうち、博士号取得者は12名（44%）である。

さらに、学内協力体制の構築により、他の部局（教育学部、工学系研究科、地域学歴史文化センター）に所属する教員を学内非常勤講師とし、また、他部局での開講科目のうち、特に本学部生の履修を推奨する科目を「他学部等開講履修推奨科目」と位置付けることにより、学内の優秀な人的資源を最大限に活用する。

( 表5 佐賀大学芸術地域デザイン学部 教員組織表 )

No.	専門分野	職階	年齢	学位	実務経験等
1	染色工芸	教授	64	学士(教育)	
2	彫刻	教授	48	修士(教育学)	
3	西洋画	准教授	40	修士(美術)	
4	日本画	准教授	39	博士(芸術学)	
5	漆・木工芸	准教授	35	博士(美術)	
6	視覚伝達デザイン	教授	59	修士(デザイン学)	インディペンデントデザイナー
7	ミクストメディア	教授	54	芸術学修士	
8	窯芸・造形	教授	50	修士(芸術)	陶磁器(自営)
9	セラミック工学	教授	51	博士(工学)	
10	窯芸・造形	講師	52	教育学修士	
11	窯芸・プロダクトデザイン	講師	38	修士(デザイン学)	陶磁器商社
12	窯芸・装飾成形	講師	50	教育学士	
13	映像デザイン	教授	54	博士(学術)	
14	情報デザイン	准教授	40	修士(学際情報学)	福博印刷デザイナー
15	コンテンツデザイン	准教授	41	修士(美術)	
16	美術史	教授	53	博士(美術史)	金沢卯辰山工芸工房学芸員
17	博物館学	教授	59	修士(Master of Arts)	ブリヂストン美術館学芸員 慶応大学アートセンターキュレーター
18	アートキュレイティング	准教授	45	博士(学術)	メトロポリタン美術館研究員
19	アートプロデュース	准教授	43	学士(文学)	北九州市立美術館学芸員 インディペンデントキュレーター
20	都市地理学	教授	56	理学博士	
21	エリアスタディー	教授	50	修士(法学)	
22	都市デザイン	教授	50	博士(工学)	1級建築士
23	労働経済	教授	62	博士(経済学)	
24	経営・流通	教授	56	博士(学術)	
25	芸術経営・流通論	教授	46	博士(商学)	
26	考古学・ヘリテージマネジメント	教授	48	修士(文学)	福岡県教育庁(考古学, 文化・文化財保護行政)
27	インターカルチュラル・コミュニケーション	准教授	47	博士(教育)	
28	染色工芸(後任) H29～	准教授	30	修士(教育学)	

実践的なスキルに関する分野の科目は、学外非常勤講師によって補強する。学外非常勤講師は、学部全体で 30 数名となり、いずれも斯界の第一線で活躍する講師たちである。

特に陶磁器分野における学外非常勤講師は、有田が生んだ日本を代表する伝統と歴史のある窯元の当主を務める陶芸家たちで、非常勤講師の中でも、「特別講師」と位置づけられる。このような超一流の複数の陶芸家から教育を受けられるカリキュラムは、他の国公立大学の芸術系学部においてはほとんど例がなく、本学部の教員組織、カリキュラムの大きな特色の一つである。

教員組織のもう一つの特色として、地域の芸術創造とそのための人材養成に資するという学部の理念に基づき、専任講師のみならず、非常勤講師においても、実務の経験を有する自治体の職員などを「実務家教員」ないしは「実務家アドバイザー」として、以下の表にある科目において積極的に講義や実習に参画させる。

**【実務家教員・実務家アドバイザーが担当・参画する主な科目】**

陶磁器分野の非常勤講師には、以下の表に示した科目以外にも担当者として実務家が含まれる（表 6 実務家教員・実務家アドバイザー担当科目一覧）。3, 4, 5 の科目はシラバス添付。（資料 11）

( 表6 実務家教員・実務家アドバイザー担当科目一覧 )

No.	科目名	年次	実務家・実務家アドバイザー	関わり方
1	知的財産権学	2	弁理士	担当者
2	世界の中の肥前陶磁器	3	新聞社社長	担当者
3	地域創生フィールドワーク	3	自治体町おこし部署職員, 町おこし NPO 代表, 地元企業家, 他	公開審査会の審査員として参画 (中間報告会, 最終審査会)
4	有田キャンパスプロジェクト	3	有田町窯業関係者, 有田町職員 町おこし NPO 代表, その他	公開審査会の審査委員として参画 (中間報告会, 最終審査会)
5	国内外芸術研修	3	美術館学芸員 (海外調査経験豊富)	(特別講演, 成果発表会の評者)
6	陶磁特別演習 I	2, 3	<b>特別講師</b> 今泉今右衛門	担当者
7	陶磁特別演習 II	2, 3	<b>特別講師</b> 酒井田祐右衛門	担当者
8	コミュニケーションデザイン論	3	電通クリエイティブアートディレクター	担当者
9	地域ブランディング論	3	元日経デザイン編集長, 「意と匠研究所」所長	担当者
10	メディアアート論	3	東京都現代美術館学芸員	担当者
11	アートマネジメント特別講義	3	Art Gallery オーナー, 国際的アートプロデューサー	担当者
12	コミュニケーションデザイン演習	3	電通クリエイティブアートディレクター	担当者
13	地域ブランディング演習	3	元日経デザイン編集長, 「意と匠研究所」所長	担当者
14	メディアアート演習	3	東京都現代美術館学芸員	担当者

## VI 教育方法，履修指導方法及び卒業要件

芸術表現コース及び地域デザインコースの科目区分，単位数，配当年次等は教育課程等の概要及び履修モデルのとおり。（設置申請書2 教育課程等の概要）（資料14 学部履修モデル（4パターン））

### 1 授業の形式

講義，演習，実習を設定する。講義は教科書，参考図書，教員の作成する資料等の説明を中心に行う。

受講者の数については，学部共通の授業，コース共通の授業等，多人数の講義は110名程度の受講者数になる。多人数の講義は，特に学生の教育効果にばらつきが生じるため，シラバスでの授業予定の提示，授業終了時の次回授業内容の詳述・予告，事前のテキスト配布，オフィスアワー及び学習アドバイザー制度の活用等により対応する。

演習は，少人数で特定のテーマに関する調査，調査結果の報告，議論，講読等を行う。15～20名前後の学生数を想定している。

実習は，芸術表現，マネジメントに関する知識や技術について学ぶ。内容は，実際の作品制作，博物館・フィールド等で実物を用いて行う実証的学習や体験学習などである。1教員あたり，7～20名前後の学生数を想定している。

### 2 教育の実施体制

授業科目の教育内容ごとに，その分野の授業を行うのに適した専門性を有する教員が担当するよう教員を配置する。必要に応じてTAが授業を補助し，より円滑で充実した授業を実現する。

また，授業科目の順次性に留意し体系的な知識や理論，技術を学べるように，授業科目の学年配当を工夫する。あわせて，学生や受験生，様々なステークホルダーにも分かりやすいように，科目にはコースナンバリングを適用する。

### 3 教育・指導の方法

実習による実践的学習や体験学習と講義による知識の獲得とをバランスよく組み合わせ学習成果を高める。また，少人数の学生グループごとに指導教員(チューター)を配置し，ラーニング・ポートフォリオ，GPAを活用して，きめ細かな履修指導や学習支援を行う。

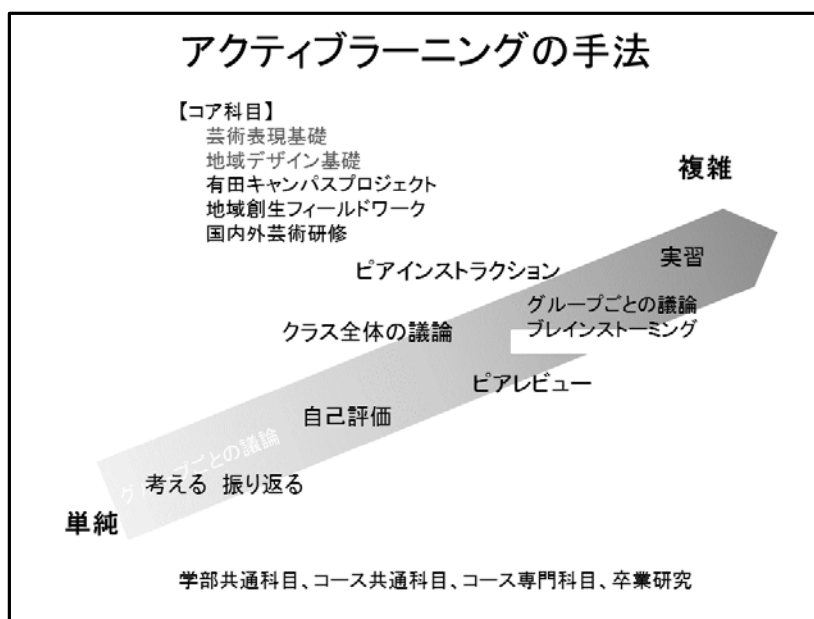
また，講義，演習，実習のいずれにおいても，教員側からの一方通行の授業になることを避け，学生の能動的な学習態度を形成するために，eラーニングを利用した反転学習や，グループディスカッションを積極的に導入し，アクティブラーニングやeラーニングなどの新たな教育方法を取り入れる。この方法を採用することで，学生の認知的，倫理的，社会的な能力，教養，知識，経験を含めた汎用的能力の育成をはかる。学生の



主体的かつ能動的な学びを実現するためにも、アクティブラーニングの手法を積極的に取り入れる（**図1 佐賀大学におけるアクティブラーニングの手法**）。

具体的には、グループワーク、ディスカッション、二人で組になり議論を行うピアワーク（ピアインストラクション、ピアレビュー）、ブレインストーミング（集団発想法）などを積極的に取り入れることで、学生の主体性や能動性が磨かれるとともに、学生同士や学生と教員のコミュニケーションが盛んになることで、学習進捗度、理解度の把握とそれによる授業の計画や内容の修正を容易にする。

（ **図1 佐賀大学におけるアクティブラーニングの手法** ） \*高等教育開発室作成



実習、演習形式の授業では、1年次学部共通科目である「芸術表現基礎」「地域デザイン基礎」の履修により経験した協働作業、学生同士の議論、能動的な学習を基礎に、学生のコミュニケーション力や協調性を鍛え、学生が主体的に課題に取り組む姿勢を発展させる。このような能力を3年次の必修の実習である地域創生フィールドワーク、有田キャンパスプロジェクト、国内外芸術研修によって、社会において実践する能力にまで高める。

また、実習に入る前には、必ず理論的な知識を教授し、理論的に裏付けられた実習を行う。

このような芸術地域デザイン学部における新たな教育方法、実習・演習による実践力の形成の仕組みを、全学的な取組へとフィードバックさせる。

一方、教員のFD研修会への参加を義務付けることとティーチング・ポートフォリオの活用で、教育の質の向上を目指す。また、FD研修の一環として、公開授業やオムニバス授業における教員同士の授業の参観などを実施する。

## 4 成績の評価

各授業科目の学習内容，到達目標，成績評価の方法・基準を学習要項(シラバス)により学生に周知し，それに則した厳格な成績評価を実施する。複数の教員が担当する学部共通科目やコース基礎科目においては，複数の教員による採点評価方法を導入する。また，学生の求めに応じ，成績評価の根拠資料の提示や説明を義務付ける。

### (1) 1年次コア科目の成績評価

学部共通必修(選択必修)科目のうち，「芸術表現基礎」「地域デザイン基礎」(1年次前期)，「地域創生フィールドワーク」(3年次通年)，「有田キャンパスプロジェクト」(3年次通年)，「国内外芸術研修」(3年次前期)をコア科目とする。

1年次のコア科目の審査方法は，担当教員(学部教員全員)が，分野別に6グループに分かれ，それぞれのグループで成績を出し，それらをトータルしたものを成績案として，教務委員会に提案し，教務委員会が成績の妥当性について審議する。

### (2) 3年次コア科目の成績評価

3年次のコア科目の成績評価の方法は，公開審査を基本とする(図2 **芸術地域デザイン学部における組織的な成績評価の仕組み**)。審査会の評者は，科目を担当する複数の教員の他に，学外の実務家(自治体職員，NPO法人職員，企業人)と地域住民(有田町町民，小城市民，三養基町町民等)によって構成されるが，学外者の意見は，公開審査の意義を踏まえて最大限に尊重し，厳格な成績判定を行う。審査会では，学生がグループに分かれて成果発表を行い，それに対して評者は，その場でコメントを行う。

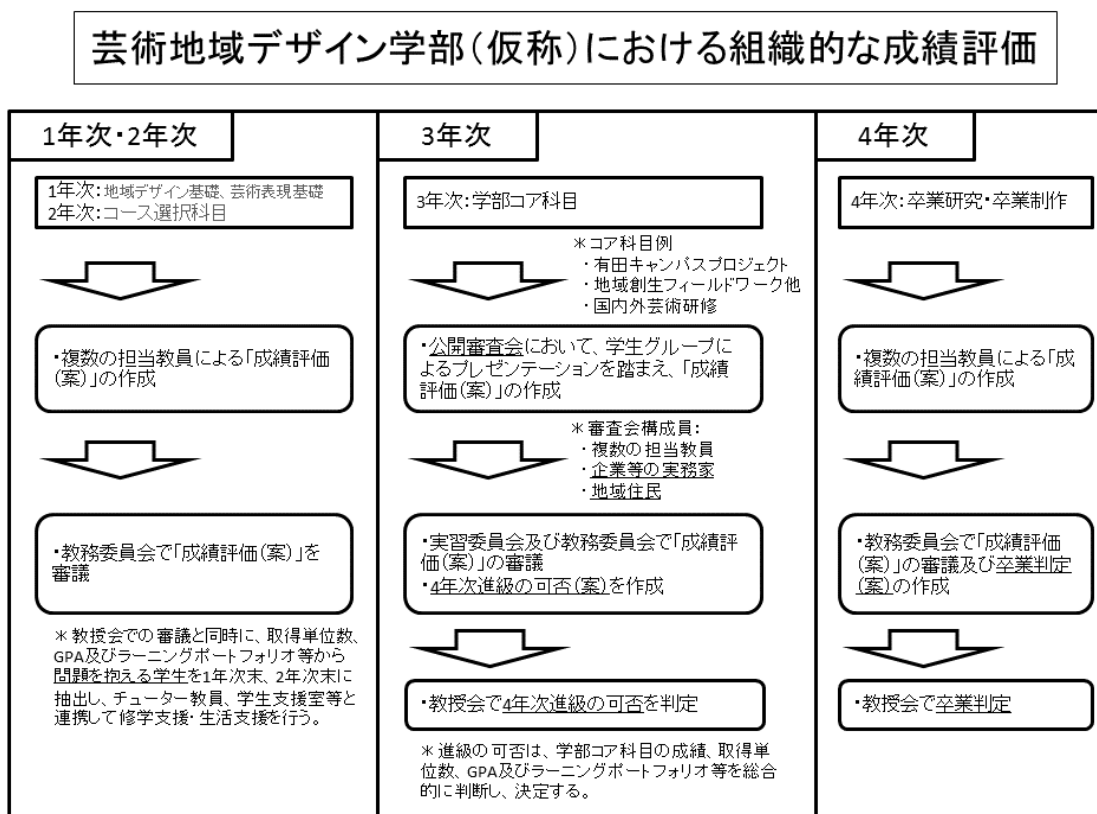
審査会后，評者は会議を開き，そこで成績評価(案)を作成し，評価理由をつけて本学部の教務委員会に提案する。教務委員会は，実習委員会を組織し，実習委員会は，1年次及び3年次のコア科目，博物館実習，そして教育実習の成績評価(案)の妥当性を判断するなど実習の成績評価に関わることを担当する。実習委員会は，その他，実習全般についての業務を担当する。評価対象は学生個人とし，グループの中での役割・取組状況等を総合的に判断する。

教務委員会において，担当教員は学生の授業への取組，プレゼンテーションなどをもとに，成績評価(案)を提案する。教務委員会は，このようにして提案されたコア科目の成績評価(案)が妥当であるかどうかを判断する。また，教授会は，各学生のGPAやラーニング・ポートフォリオ等のチェックと，卒業研究着手のために必要な単位(74単位)が履修されているかどうか等を総合的に判断し，各学生の3年次から4年次への進級を判定する。

このようにして，学士力が確実に修得されているかどうか組織的に判断される仕組みを構築する。そして，本学においては，芸術地域デザイン学部が先駆けて行うこの

ような成績評価の方法を、やがて全学的な成績評価の方法にまで拡大させていく。

( 図2 芸術地域デザイン学部における組織的な成績評価の仕組み )



## 5 履修指導方法

GPA とラーニング・ポートフォリオによって学習成果を可視化する仕組みをつくり、なおかつ、教員はこれらを指導のための材料とする。あわせてコースナンバリング制を活用し、個々の学生の知識の修得、能力の形成の積み上げを指導する。具体的には、前学期終了後、学生全員の GPA を教員全員でチェックし、問題がある学生に対しては、複数の教員が面談を行い、問題の所在を確認し、後期においては学年担任あるいは担当教員（2年次以降）が中心となってその学生がカリキュラムマップに沿って学士力を身につけているかどうかをチェックし、学習支援にあたる。

4単位取得を必修とする英語に関しては、1年前期、2年後期に原則として全員に TOEIC の受験を義務づけ、学修状況の可視化を図る。また、1年前期の成績を習熟度別クラス編成に利用し、2回目は英語の授業成績に反映させるとともに、3年以降の自発的な TOEIC のレベルの向上を促す。

## 6 卒業要件

卒業要件は下記の表のとおりである（表7 芸術地域デザイン学部 卒業要件）。

（表7 芸術地域デザイン学部 卒業要件）

コース名	教養教育科目							専門教育科目					合計				
	共通基礎科目		基本教養科目			共通教職科目		学部共通科目	コース基礎科目	コース選択科目	自由選択科目	卒業研究		小計			
大学入門科目	外国語科目	英語	情報リテラシー科目	情報基礎	自然科学と技術の分野	文化の分野	現代社会の分野						インターフェース科目		体育実技 I	体育実技 II	小計
芸術表現	2	4	2		12		8	1	1	30	34	22	20	12	6	94	124
地域デザイン	2	4	2		16(うち4単位は文化の分野 同一名称の「文化と言語」I・IIを必修)		8	0	0	32	34	20	20	12	6	92	124

卒業研究は時間外に設定するが、1年間の履修とし、論文、制作、論文・制作成果の発表等によって適切に評価する。卒業研究の成果は佐賀大学美術館での展示等を通じて、広く学内外に公開する。

## VII 施設、設備等の整備計画

### ―校舎等施設の整備計画―

現在、本学においては、新課程の廃止を踏まえた文化教育学部再編を計画しており、今回の芸術地域デザイン学部の設置のほか、教職大学院、教育学部及び地域デザイン研究科の設置を目指している。これらを踏まえ、当該建物が配置されている本庄キャンパス文系地区については、全学教育機構を含め、総合的にゾーニングを見直す。

ゾーニングの見直しに際し、分散配置されている各部局のスペースの集約化を図ることで、教育研究活動の活性化を促すとともに、教員・学生等が集い、交流しやすい環境づくりを第一の目標として計画を行った。

本学部の芸術表現コースの主な教育研究のための施設としては、本庄キャンパスの「文化教育学部4号館」「文化教育学部5号館」「文化教育学部6号館」、さらに有田キャンパス（現有田窯業大学校）を予定している。

文化教育学部4号館は、近年、耐震改修も含めた機能改善改修が完了した建物である。現在の文化教育学部「美術・工芸課程」の活動拠点であり、美術・工芸に関する教員研究室、演習室、講義室、リフレッシュルーム、屋外制作スペースも備えており、本学部の本館としての条件を満たしている。

文化教育学部5号館は情報処理室を備えた施設であり、文化教育学部6号館は、窯芸教室・木工教室等として現在使用されるなど、現在の施設を大規模改修することなくスムーズに本学部の施設として運用できる環境は整っている。

また、平成25年度に開館した「佐賀大学美術館」を学芸員養成のための展覧会の企画・運営等の実践的な教育研究スペースとして活用する。

さらに、有田キャンパスとして予定している現有田窯業大学校は、本学部の実習の場として活用する。本施設はロクロ成形等ができる成形室、陶磁器焼成を行う窯室の他、スタジオ、コンピューター室、施釉室、講堂等から構成される。これらの施設を十分に活用し、次代を担う作家を養成すると共に、創作をビジネスに繋げる経営感覚を持った人材を育てるとともに研究開発をする場としても活用し、窯業を支える拠点とする。

## VIII 入学者選抜の概要

### 1 芸術地域デザイン学部のアドミッションポリシー

芸術地域デザイン学部は、創造性や高い技能をもち、新しい芸術表現を実現できる人材、また、地域が有する問題や状況に芸術を手段として柔軟に対応し、芸術を社会に紹介したり、芸術で社会を活性化したりできる人材の養成を目的とする。この目的を達成するために、本学部が求める学生像は以下のとおり。

#### 芸術地域デザイン学部芸術地域デザイン学科のアドミッションポリシー

1. 幅広い基礎的学力、芸術の表現や芸術のマネジメントに高い関心を持っている人
2. 芸術の知識・技能・手法、そして実践力・協働する力を総合的に高め、地域社会に貢献したいと考える人

#### 芸術表現コースのアドミッションポリシー

1. 高校で習得すべき基礎的学力と芸術についての知識、また、自らの手による描写力、発想力など芸術表現に関わる基本的な能力を有する人
2. 専門分野の内容を学習するために必要な読解力、論理的思考力、分析力、考察力などを有する人
3. 地域社会が抱える問題に関心があり、芸術表現を通じて地域社会を機能的に繋げていける企画力、発想力、表現力等を有する人
4. 主体的にものごとに取り組み、積極的に行動できる人
5. 意欲的かつ継続的な芸術の研究や自主的な芸術の活動を目指す人
6. 将来、企業で美術に関わる仕事をする者、美術・工芸作家、造形・セラミック技術者、デザイナー、美術・工芸の販売や流通に関わる仕事、中学校・高等学校の美術教員、また、広くメディアに関わる仕事を志望する人

#### 地域デザインコースのアドミッションポリシー

1. 高校で習得すべき基礎的学力と発想力、また、地域社会が抱える問題についての基礎的な知識を有する人
2. 専門分野の内容を学習するために必要な読解力、論理的思考力、分析力、考察力などを有する人
3. 国内に限らずグローバルな視点で情報収集、情報発信できる一定の語学力を有する人
4. 地域社会が抱える問題に関心があり、芸術を通じて地域社会を機能的に繋げて

いける企画力，発想力，表現力等を有する人

5. 主体的にものごとに取り組み，積極的に行動できる人
6. 意欲的かつ継続的な芸術の研究や自主的な芸術の活動を目指す人
7. 将来，キュレーター（学芸員）やアートコーディネーターとなることを，また，自治体・企業等で文化振興，文化財保存やまちづくり等に携わる仕事を志望する人

この入学者受け入れの方針に基づき，以下のように多様な入試を実施する。（資料 15 入学者選抜方法一覧）

中央教育審議会答申「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育，大学教育，大学入学者選抜の一体的改革について」では，高等学校教育，大学教育，大学入学者選抜が一体となった高大接続改革が謳われており，特に，大学入学者選抜においては，「確かな学力」の3要素である「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」を多面的・総合的に評価することが求められている。

こうした大学入学者選抜改革に対応するために，一般入試の個別試験（後期日程）及び特別入試のAO入試において多面的・総合的な評価手法を先行して導入し，「大学入学希望者学力評価テスト（仮称）」の検討状況等を踏まえながら，前期日程等を含めた本学部入試制度全体の改革を実施していく。

## 2 一般入試

個別試験（前期日程）では，芸術表現コースにおいて，実技検査（描写表現）と実技検査（発想表現）の選択制を導入することで，「芸術についての知識，また，自らの手による描写力，発想力など芸術表現に関わる基本的な能力」（アドミッションポリシーの1）を評価する。地域デザインコースでは，海外の文献や情報及び国内外の古文書等を読み解くための基本的な能力である「専門分野の内容を学習するために必要な読解力，論理的思考力，分析力，考察力」（アドミッションポリシーの2）と「国内に限らずグローバルな視点で情報収集，情報発信できる一定の語学力」（アドミッションポリシーの3）を総合問題によって評価する。総合問題は，従来の国語と英語の学力検査に代えて，文章（英文を含む）や資料（図表，写真，絵，地図など）を題材に，読解力，論理的思考力，分析力，考察力を問うものである。

個別試験（後期日程）では，芸術表現コース及び地域デザインコース両方において，単に知識や技術を評価するだけではなく，発想力やプレゼンテーション能力を評価する試験を導入することで，学生の思考力・判断力・表現力などを評価するとともに，地

域創生や地域デザインに関わる強い関心の有無や適性を見抜く。

一方、芸術表現コースの個別試験（後期日程）の「実技」では、表現力、技術、また、オリジナリティーなど時間（5～6 時間）をかけて判定するとともに、多様な能力をもった学生を発掘するために、選択科目の幅を広げる。

また、地域デザインコースの個別試験（後期日程）では、「問題解決・提案力テスト」を導入し、地域や社会に関する課題や事象に対する解決策や提案を、文章や図表、絵などにより、簡潔にB3用紙にまとめさせることで、企画力、発想力、表現力等を含む問題解決能力及び提案力を総合的に評価する。本物・フィールドを素材に実践するための発想力・コミュニケーション能力、手わざに対する関心をもった学生を選抜する。

いずれの問題でも、コンセプトとアイデア（独創性、発想力）、そしてそれをわかりやすく他者に伝える能力（プレゼンテーション能力）、具体的には、論理性、語彙の使い方などを評価基準とする。芸術表現コースの発想をみる試験においては、これらの判定基準に加え、造形的な表現能力、絵や字の見せ方、具体的には、絵や文字の大きさ、バランス、色の使い方なども重要なポイントとする。

また、設問は、地域や現代社会に対する関心や問題意識の有無が見抜けるようなテーマを設定する。

### 3 AO入試

本学部の教育活動を活性化させるためには多様な人材の確保が必要である。AO入試では、各コースのリーダー的存在として活躍できる学生を獲得するために、出願要件に高いハードルは設けずに門戸を広く開放し、多種多様な高校からの出願を可能にする。

また、教科・科目から判断される基礎学力とは異なる主体性や表現力及び行動力等を重視する多面的・総合的評価を実施することで、前掲の中教審答申の考え方を踏襲する。なお、地域デザインコースで導入する「特色加点」は、「主体性・多様性・協働性」を評価する従来にはなかった新しい考え方であり、大学入試改革を意識した挑戦的な試みである。この考え方は、他の学部も含めた全学的な導入も想定しており、同コースでの検証結果を踏まえて、今後の展開が期待されるものである（表8,表9）。



( 表 8 芸術地域デザイン学部芸術表現コースAO入試 )

評価方法	概要	評価する能力や適性	中教審答申が示す 学力要素との対応
プレゼンテーション	出来上がった作品を言葉によって他者にわかりやすく伝えられるかどうかを評価。	理解力, 企画力, 発想力, 主体性, 表現力, 学習意欲, コミュニケーション能力など	「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」 「主体性・多様性・協働性」
理解力・伸長力評価	模擬授業を受講し, 作品を制作, プレゼンテーションさせる一連の課題に取り組み, その結果を総合的に評価する。	表現力, 理解力, 企画力, 発想力など	「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」 「主体性・多様性・協働性」
書類審査 (調査書, ポートフォリオ, 自己推薦書他)	高校時の活動実績を評価する。自らの活動を書類によって効果的にプレゼンテーションさせ評価する。	主体性, 協働性, 多様性, 行動力, 書類によるプレゼンテーション力, 志望動機, 学習意欲など	「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」

( 表 9 芸術地域デザイン学部地域デザインコースAO入試 )

評価方法	概要	評価する能力や適性	中教審答申が示す 学力要素との対応
プレゼンテーション	与えられた資料を分析・考察した小論文及びその説明のためのプレゼンテーション資料を作成させる。そのコンセプトや特徴について, 他者に言葉によって伝える。	理解力, 企画力, 発想力, 主体性, 表現力, コミュニケーション能力など	「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」 「主体性・多様性・協働性」
理解力・伸長力評価	小論文を作成, プレゼンテーションをさせる一連の課題に取り組み, その結果を総合的に評価する。	表現力, 理解力, 応用力, コミュニケーション能力など	「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」 「主体性・多様性・協働性」
書類審査 (調査書・自己推薦所)	高校時の学修状況, 生活状況, 志望動機等を評価する	志望動機, 学習意欲など	「主体性・多様性・協働性」
特色加点	高校時の活動実績 (特に地域での活動) を総合得点に加点して評価する。外部資格試験等も評価の対象とする。	主体性, 協働性, 多様性, 行動力, 志望動機, 学習意欲など	「主体性・多様性・協働性」

#### 4 推薦入試・編入学入試

多様な能力や適性をもった学生やグローバル社会に対応する高いコミュニケーション能力をもった学生を集めるため, 推薦入試, 編入学入試を実施する。

推薦入試については, 提出書類と実技試験 (芸術表現コース), によって評価する。提

出書類は、調査書、自己推薦書及びポートフォリオ（作品集、活動報告書）等とする。

編入学生に対しては、入試の書類審査を重視し、大学、短期大学などの成績のみならず、活動内容（地域創生に関わるボランティア活動などを加点として評価するなど）を評価の対象にする。また、3年次のコア科目の一つである地域創生に関わる「地域創生フィールドワーク」等を必修化するなど、編入学生用のカリキュラムを用意する。このようにして、編入学生の学士力の保証を行う。**(X II 編入学の具体的計画を参照)**

特定の分野に強い関心を持ち、その向上に夢を賭けて卓越した力を磨いている学生や、グローバルな課題に積極的に向き合う活力のある学生、身近な地域の課題に徹底的に向き合い考え抜いて行動する学生など、これまでの知識や技術のみによって評価される入試では切り捨てられてきたタイプの学生の能力ややる気を見出し、学生の夢と希望を芽吹かせるため、これらの入試においても、一般入試同様、新しい入試内容と方法が検討されているところである。

社会人については、特に編入学生として入学を積極的に受け入れる。ここで言う社会人とは、大学、短期大学、高等専門学校を卒業し、就職したり、作家等の自営業を営んだりして一定の経験を積んだ者、または、大学、短期大学、高等専門学校を卒業し、仕事に就いた後、(定年)退職し、学び直しを希望する者等と定義する。

## 5 留学生・その他の入試

留学生については、十分な日本語能力、基礎学力、そして明確な入学動機や意欲を持っているかどうかを選抜の基準とする入試を行い、受け入れる。なお、留学生の入学後の支援については、学部が国際課及び国際交流推進センターと連携しながら行っていく。本学には、留学生用寮(49室)がある他、国際課が留学生に対して大学周辺の安価な住居を斡旋紹介している。また、留学生には担当教員と学生チューターが配置され、就学・生活両面における支援体制を確立している。

科目等履修生や聴講生等については、科目等履修生や聴講生等を希望する理由などを記した申請書を履修・聴講を希望する授業科目の担当教員に提出し、担当教員の内諾を得た後、教務委員会、教授会の議を経て承認される。教室の収容人数や教員の指導の限界等を考慮し、受け入れる科目等履修生や聴講生等は、1科目について1～3名を限度とする。ただし、学外での実習を含む科目については、実習先の確保の点から、原則として科目等履修生や聴講生を受け入れない。

芸術地域デザイン学部は、芸術で地域を活性化する場合の方法論として、芸術表現と地域デザインを重要とみなし、両方の素養と視点をもった人材養成を目指している。この理念を実現するために、1年次の「芸術表現基礎」「地域デザイン基礎」と3年次の「地域

創生フィールドワーク」,「有田キャンパスプロジェクト」,「国内外芸術研修」など,全員の学生が協働して行う学部共通実習科目がカリキュラムの大きな柱となる。本学部が1学部となっているのは,上述した理由に加え,このようなコース横断的・融合的なカリキュラムを実施する際の機動性を高めるためである。

一方,入学時には,多様な資質をもった人材を集めるために,芸術表現コースと地域デザインコースで入試を別々とする。これは,専門性とジェネラルな素養の両方をもった人材養成を目指す学部全体の別の理念に呼応するものでもある。

## IX 取得可能な資格

取得可能な資格は以下の表のとおり(表10 芸術地域デザイン学部で取得可能な資格)。教員免許については,芸術表現コースで中学美術,高校美術・工芸の課程認定を受ける。本学部全体の学生に対して,取得が可能なようにカリキュラムを編成する。教員免許は国家資格であり,資格取得のために,追加科目を履修する必要はない。

博物館学芸員資格取得のために必要な科目を地域デザインコースのコース基礎科目とコース選択科目を中心に配置する。博物館学芸員の資格は,国家資格であり,博物館や美術館を受験したり,就職したりするときに必要不可欠なものである。博物館学芸員の資格取得のために追加科目の履修は要しない。

( 表10 芸術地域デザイン学部で取得可能な資格 )

コース名	取得できる資格・取得できる受験資格
芸術表現コース	・教員免許(中学美術,高校美術・工芸)【国】・博物館学芸員【国】
地域デザインコース	・博物館学芸員【国】

\*【国】は国家資格

## X 実習の具体的計画

芸術地域デザイン学部では、特徴のあるいくつかの実習を行うが、なかでも、本学部のコア科目である3年次の選択必修科目、「地域創生フィールドワーク」、「有田キャンパスプロジェクト」、「国内外芸術研修」は、学部の理念を体現する科目である（表9）。

また、「博物館実習」は、特にキュレーションに関心のある学生の重要な科目の一つであるとともに、学芸員資格取得を目指すその他の学生も履修可能な実習科目である。一方、「教育実習」は美術・工芸の中学及び高校免許取得のために必要な実習である。

なお、実習を円滑に実施するため、また、適正な成績評価を行い、実習の教育効果を高めるために実習委員会を組織する。実習委員会は担当教員と実習に関わる自治体や企業等によって構成される。

### 1 実習前の理論系科目の設定

3年次のコア科目である実習に入る前、2年次後期には「**芸術文化・地域創生論（国内外地域プロジェクト事例研究）**」を学部必修科目として配置し、3年次コア科目で扱う地域創生の問題の現状把握と実習の方法論について理論的に学ぶ。これによって、学生が実習に円滑に取り組むことができるようにする。これ以外にも、1年次の「芸術表現基礎」、「地域デザイン基礎」（理論と実習）や「アートマネジメント」「文化経済論」「地域再生デザイン学」（3科目より選択必修）（理論）は、これら3年次の実習の事前実習的な位置づけの科目として必修とする（図3）。

また、3年次コア科目を履修する前に履修を推奨する科目を設定し、1～2年次の学期初めに行う教務オリエンテーション時にそれを説明し、履修指導を行う（表11

**芸術地域デザイン学部3年次コア科目一覧**）。国内外芸術研修では、外国語を使用することが必須であるので、1年次の教務オリエンテーションにおいて、3年次のコア科目について説明する際に、国内外芸術研修を履修予定の学生は外国語（英語、初修外国語）の学習に注力するよう促す。また、全学教育科目として開講される外国文化や外国語科目の履修も国内外芸術研修の事前履修推奨科目とする。また、後述するように国内外芸術研修の中には、外国語指導が含まれている。

コア科目の最後のセッションにおいては、プレゼンテーションや総仕上げのレポート作成などを行うことで、理論（「芸術文化・地域創生論」等）→実習→理論（省察）の往還が完成し、学生の能力形成を確実なものとする。

博物館実習（学外実習）については、博物館法に則り必要な科目（博物館学関係科目他）を履修し、さらに学内実習を履修後に実施するよう、カリキュラムを設定している。また、教育実習については、全学的に履修方法が確立されており、それに則り教育実習の事前、事後指導などを行う。

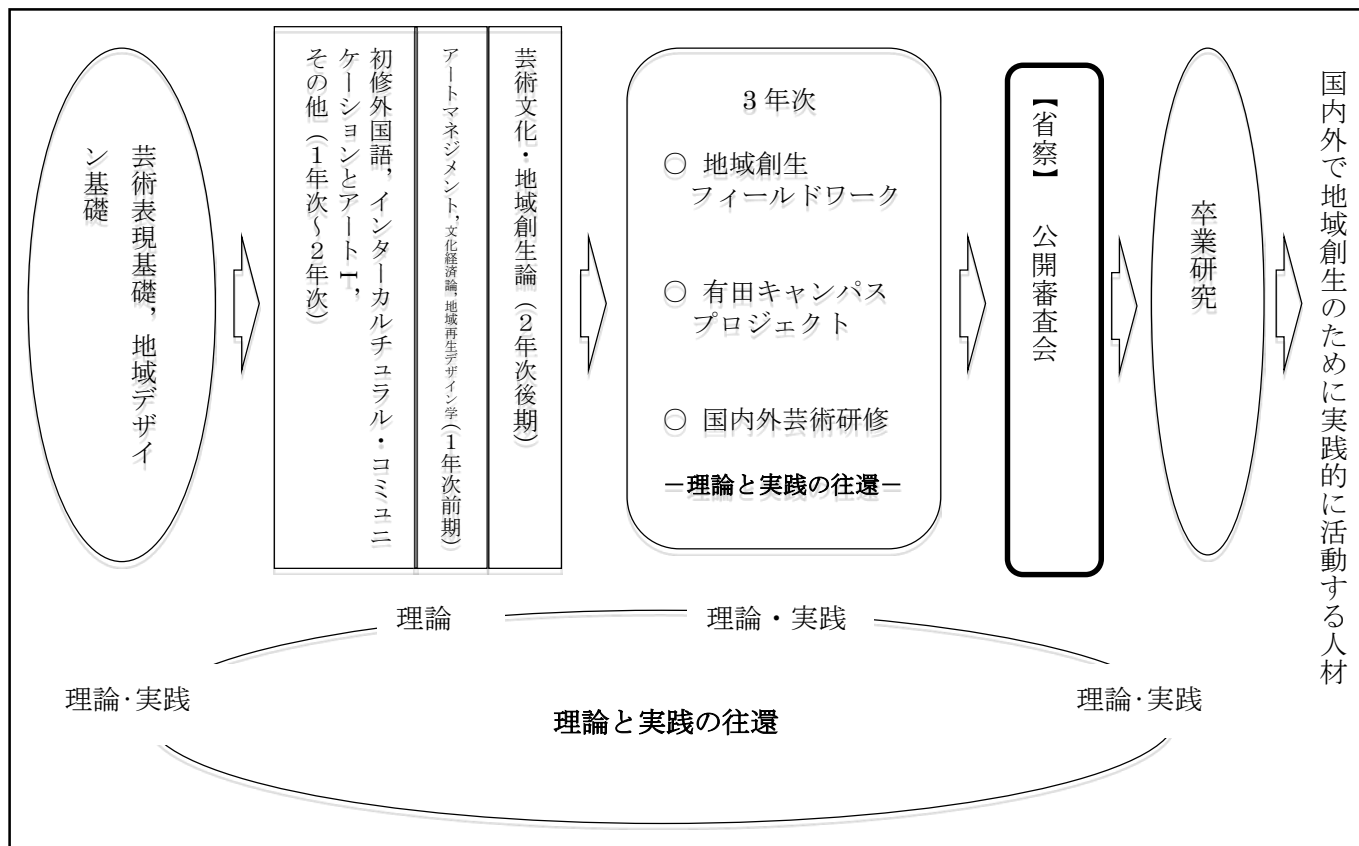
( 表 11 芸術地域デザイン学部3年次コア科目一覧 )

科目名	単位数	学生数 (概数)	担当教員数	事前実習科目として位置づける科目 (必修)
				3年次コア科目履修以前に履修しなければならない科目 (太字) 及び履修を推奨する科目
地域創生フィールドワーク	6	75名 (15×5)	17名	芸術表現基礎, 地域デザイン基礎, アートマネジメント, 文化経済論, 地域再生デザイン学, 芸術文化・地域創生論,
有田キャンパスプロジェクト	6	20名	5名	芸術表現基礎, 地域デザイン基礎, アートマネジメント, 文化経済論, 芸術文化・地域創生論, 地域再生デザイン学, 1, 2年次の窯芸の演習科目
国内外芸術研修	4	15名	5名	芸術表現基礎, 地域デザイン基礎, アートマネジメント, 文化経済論, 地域再生デザイン学, 芸術文化・地域創生論, 初修外国語, インターカルチュラル・コミュニケーションとアートI, 美術史基礎, 博物館学概論, 博物館資料保存論, エリアスタディー演習I等

地域創生フィールドワークと有田キャンパスプロジェクトのそれぞれの履修者は、文化経済論、アートマネジメント、地域再生デザイン学のうちから1科目(2単位)を履修すること(選択必修)、一方、国内外芸術研修の履修者は、これらの科目のうちから2科目(4単位)を履修すること(選択必修)と定めている。これらの科目は3年次コア科目(実習)を自律的に行うために必要な力を担保するための重要科目である。

芸術地域デザイン学部の全教員が、3つのコア科目のいずれか1つか2つを担当する。教員の配置は、教員の専門分野と想定される学生数とを勘案して決定するが、実際の学生数によっては、TA及びRA、そして非常勤のアシスタントを配置する。そのようにして、教員の負担が過重にならないよう配慮する。

( 図3 1年次コア科目から3年次コア科目への流れ～理論と実践の往還～ )



## 2 実習の具体的内容

### (1) 地域創生フィールドワーク (資料 11)

#### ①実習の目的

地域の地理や文化・芸術資源を学生がチームを組んで継続的に調査し、実質的なフィールドワークの能力を修得しながら、地域の協力を得て地域資源を活かした企画を現地で展開する。そして、それらの活動を様々な形で情報発信する。これらの実習を通して、地域創生のために必要な実践的な能力を修得する(表 12 実習先, 実習協力自治体・団体等の確保の状況)。

#### ②実習の方法と自治体等との連携体制の構築

学生は、5グループ(1グループ10～15人)に分かれ、1グループに2名以上の担当教員が配置される。30回(1回3コマ授業)の授業のうち、2回をフィールドワークに充てる。フィールドワークの前は、準備(ガイダンス, グループ分け, フィールドワークの理論, 計画の立案作成, 計画のプレゼンテーション, フィールドワークの現地プレゼンテーションの準備, 現地での制作の準備, 広報等)に23週、フィール

ドワークの後は5週をあて、フィールドワークの分析、記録、プレゼンテーション準備、公開審査会でもあるプレゼンテーションを行う。

本学（特に文化教育学部）は、これまで様々な連携事業を通して、佐賀県や地元の諸団体・機関と強い繋がりを有してきた。それによって、本実習の実施においては、そのような自治体、諸団体等から人的（実務家として、授業・成績評価に参画）及び物的（プレゼンテーションの場所や宿泊施設の提供など）な支援が得られる関係を構築している。連携協力先とは、実習の内容、期間、宿泊所の提供等について承諾を得ている。また、自治体や諸団体、そして企業の間にも、今後、必要に応じて積極的にパイプを形成していく。（**ⅩⅨ 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制**）

（ 表 12 実習先、実習協力自治体・団体等の確保の状況 ）

実習先 グループ 1～5(1 グループ 10～15 名)	実務家(自治体、NPO法人等)、地域住民	実務家、地域住民の実習への関わり	宿泊先(無償提供)
1. 佐賀東地域(吉野ヶ里遺跡を含む) 三養基町 (Ⅲ～Ⅴ校時。フィールドワークは現地集合。大学から現地までJR利用で約1時間)	佐賀県教育委員会  三養基町役場企画調整課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・吉野ヶ里遺跡等における調査指導</li> <li>・中間講評会(第10週)への参加</li> <li>・公開審査会への参加・成績評価</li> </ul>	四季彩の丘みやき(三養基町)
2. 小城地域 (Ⅲ～Ⅴ校時。フィールドワークは現地集合。大学から現地までJR利用で約50分)	小城商工会議所 佐賀県商工会議所 佐賀県市長会 NPO 法人天山ものづくり塾 理事長 room design factory	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天山アートフェスタ等への企画に対する助言</li> <li>・中間講評会(第10週)への参加</li> <li>・公開審査会への参加・成績評価</li> </ul>	小城市内公共施設
3. 有田地域(Ⅲ～Ⅴ校時。フィールドワークは、大学-有田シャトルバス利用で1.5時間弱)	有田商工会議所 九州陶磁文化館 佐賀県市長会 有田焼窯業所社長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源の活用についての助言・実地指導</li> <li>・中間講評会(第10週)への参加</li> <li>・公開審査会への参加・成績評価</li> </ul>	有田町所有民家
4. 唐津地域(Ⅲ～Ⅴ校時。フィールドワ	唐津市役所 佐賀県市長会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源の活用についての助言・実地指導</li> </ul>	唐津市内公共施設, ある

ークは、大学-唐津 大学所有バス利用 で約 1. 5 時間)	名護屋城博物館 カフェ Luna (唐津市)	・ 中間講評会 (第 10 週) への参加 ・ 公開審査会への参加・成 績評価	いは唐津市 所有民家
5. 佐賀市内 (Ⅲ～Ⅴ 校時。フィールドワ ークは、現地集合。 大学から現地まで 自転車利用で 10 分 ～20 分)	佐賀市民芸術祭 佐賀県立美術館・博物館 佐賀県商工会議所 NPO 法人まちづくり機構ユ マニテ佐賀 NPO 法人まちづくり研究所 副理事長 公共財団法人佐賀市文化振 興財団	・ 佐賀市芸術祭等の企画 に対する助言 ・ 中間講評会 (第 10 週) への参加 ・ 公開審査会への参加・成 績評価	宿泊なし

シラバスに記載されているグループ 6 の大分県竹田市については、履修者が 75 名を超えた場合に合宿形式で実施。竹田市長からは実習の協力への内諾を得ている。なお、竹田市は九州の中で地域創生に関わる独自の事業に着手している自治体の一つで、「地域創生フィールドワーク」以外の実習やその他の科目においても、竹田市からは本学部との連携による地域創生プロジェクトに対する期待が寄せられている。

### ③実習水準の確保の方策と実習前の準備

学生は、1 年次の必修科目「芸術表現基礎」と「地域デザイン基礎」において、地域創生に関わるフィールドワークの理論と手法の基礎について修得している。また、同じ科目において共同制作や共同作業の経験も十分に積んでいる。

異なるグループの間で実習レベルを一定に保つためには、担当教員が定期的にミーティングを行い、担当グループの状況等について報告しあうことで、実習内容等を適宜、調整する。1 ヶ月に 1 度は担当者ミーティングを行い、各グループの進捗状況等について報告をしあう。担当教員は、メールあるいは直接に、関係者に適宜、その報告を行う。

実習時の事故等に備え、実習生には全員「学生教育研究災害傷害保険」に加入させる。フィールドワークには、担当の教員 2 名が必ず付き添い、事故の防止に努める。また、担当者は、佐賀大学安全衛生委員会が編集・発行する「安全の手引き」を参考とし、特に制作や野外の作業については、細心の注意を払う。

### ④事前・事後における指導計画

「芸術文化・地域創生論 (国内外地域プロジェクト事例研究)」を事前指導と位置



づける。公開審査会における履修者の成果発表を事後指導と位置づける。

#### ⑤教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

芸術表現コースと地域デザインコースの中から選ばれた本授業の担当教員が中心となって、学内・学外（フィールドワーク）における実習を指導する。グループごとの担当者は、シラバスを参照。

また、TAやRAを積極的に活用する。

#### ⑥実習施設における指導者の配置計画

学外施設等における実習においては、担当教員が必ず付き添い、指導あるいは指導の補助及び安全確保にあたる。グループごとの担当者は、添付シラバスを参照。

#### ⑦成績評価体制及び単位認定方法

本実習の成績評価の方法は、公開審査を基本とする。審査会の評者は、科目を担当する複数の教員の他に、本実習に関わった学外の実務家（自治体職員、NPO法人職員、企業人）によって構成されるが、学外者の意見は、公開審査の意義を踏まえて最大限尊重し、成績判定を行う。審査会では、学生がグループに分かれて成果発表を行い、それに対して評者がコメントする。

審査会后、評者は成績評価（案）を作成し、評価理由をつけて実習委員会に提案する。実習委員会は成績の妥当性を審議し、最終的には教務委員会によって成績評価の判定が行われる。実習委員会は、この他にも実習の円滑な実施のために実習についてのさまざまな事項について実習先との調整役を果たす。

### (2) 有田キャンパスプロジェクト (資料 11)

#### ①実習の目的

本実習は、有田サテライトキャンパスの施設を活用して学生一人一人が規格外の作品を制作し、その作品を有田町内で発表する実習である。特に窯芸・ファインセラミックスに関心のある学生以外の学生が窯芸の技術を用いた制作を行うことによって新しい表現方法が生まれることが期待されると同時に、多様な分野の学生の主体的な制作・展示を地域住民や地域の美術・工芸関係者が支援することによって、地域に新たな創作のきっかけや交流が生まれることを目指す。具体的には、有田町をステークホルダーとし、作品のプランニング、制作、発表、展示に至る一連のプロセスを、有田の自治体、窯業関係者、窯業関係施設関係者、地域住民と関わりながら展開することで、自律的に創造する制作者を育成する。(表 13)。

②実務家，有田窯業関係者，有田地域住民等の本授業への具体的な関わり (表 13)

実習の担当者及び実習のグループ分け	実務家(自治体，地元窯業関係者・窯業関係施設，NPO法人等)，地域住民等	実務家，地域住民の授業への関わり	宿泊先(無償提供) 有田への移動
<p>芸術表現コース有田セラミック分野教員4名その他。</p> <p>受講生は20名前後となることを想定。</p>	<p>有田焼窯業所社長</p> <p>九州陶磁文化館学芸員</p> <p>有田窯業技術センター 研究員</p> <p>有田商工会議所</p> <p>NPO法人まちづくり機構 ユマニテ佐賀</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1週目：有田市内の窯業関係施設(有田焼窯業所社長，九州陶磁文化館，有田窯業技術センター等)を見学し，窯業家，研究員，学芸員から説明。</li> <li>・2週目：プランニングのためのミーティング(実務家，地域住民代表全員参加)</li> <li>・3週目以降：公開制作(実務家，地域住民は自由に見学，助言)。制作の様子は，大学HPでも公開する。</li> <li>・中間講評会(第6～7週)への参加</li> <li>・公開審査会(最終プレゼンテーション)(第30週)への参加・成績評価。評者 有田焼窯業所社長，九州陶磁文化館学芸員，有田窯業技術センター研究員，有田町商工会議所，その他</li> </ul>	<p>有田町所有民家(有田町から無償提供の内諾)。</p> <p>有田サテライトキャンパスへの移動は，大学－佐賀間を走行するシャトルバス(1日3本運行予定。無料)にて，1.5時間弱。</p>

③自治体等との連携体制

6者協定の連携機関等をはじめとする自治体等には，本実習の内容，期間等について了解を得ており，実習に係る連携体制を構築している(資料1)。

④実習水準の確保の方策と実習前の準備

学生は，1年次の必修科目「地域デザイン基礎」「芸術表現基礎」において，地域創生に関わるフィールドワークの理論と手法の基礎を学び，1～3年次には，陶磁器の造形や素材に関わる科目，陶磁器の歴史や流通に関わる科目を履修している。また，「地域デザイン基礎」「芸術表現基礎」において共同制作や共同作業の経験も十分に積んでいる。

「有田キャンパスプロジェクト」は、それらの科目で学んだ内容と経験を生かし、有田という生きたフィールドで、長期間にわたり、しかも地域の人たちの声に耳を傾けながら、芸術をつかって地域創生を試行するために行う他に類のない科目である。実習時の事故等に備え、実習生には全員「学生教育研究災害傷害保険」に加入させる。フィールドワークには、担当の教員 2 名が必ず付き添い、事故の防止に努める。また、担当者は、佐賀大学安全衛生委員会が編集・発行する「安全の手引き」を参考とし、特に制作や野外の作業については、細心の注意を払う。

#### ⑤事前・事後における指導計画

「芸術文化・地域創生論（国内外地域プロジェクト事例研究）」を事前指導と位置づける。公開審査会における履修者の成果発表を事後指導と位置づける。

#### ⑥教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

本授業は、芸術表現コースの陶磁器・ファインセラミックスを担当する教員が中心となって担当する。教員全員で指導し、実習中の巡回にも全員であたる。また、TA やRAを積極的に活用する。

#### ⑦実習施設における指導者の配置計画

有田キャンパスに常駐する 3 名以上の教員のうちの 2～3 名が、実習先の施設に同行する。履修者の数が 35 名以上になった場合には、さらに 1～2 名の教員を配置する。

#### ⑧二つの校地の学生の移動

有田キャンパスプロジェクトをはじめとして、有田の校地で実施される科目を履修する学生が確実に授業を受講できるようにするために、有田で開講される科目の前後は十分な移動時間をとり、学生がバスを利用して本庄と有田両方の校地を行き来することが可能なようにシャトルバスの時刻表を決定する（有田発 7：35，11：45，18：30，本庄発 7：35，12：05，18：00）。

また、有田校地のⅢ，Ⅳ，Ⅴ限は、20 分遅れでの開始とするなど、本庄で開講される科目と有田で開講される科目が難なく履修できることを十分に考えた上で、時間割を作成する。（XⅢ 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画）（資料 19）

#### ⑨成績評価体制及び単位認定方法

本実習の成績評価の方法は、公開審査を基本とする。審査会の評者は、科目を担当する複数の教員の他に、学外の実務家（自治体職員，NPO法人職員，企業人）と地

域住民（有田町民）によって構成されるが、学外者の意見は、公開審査の意義を踏まえて最大限尊重し、厳格な成績判定を行う。審査会では、学生がグループに分かれて成果発表を行い、それに対して評者は、その場でコメントを行う。

審査会后、評者は成績評価（案）を作成し、評価理由をつけて本学部の実習委員会に提案する。実習委員会は成績の妥当性を審議し、最終的には教務委員会によって成績評価の判定が行われる。実習委員会は、この他にも実習の円滑な実施のために実習についてのさまざまな事項について実習先との調整役を果たす。

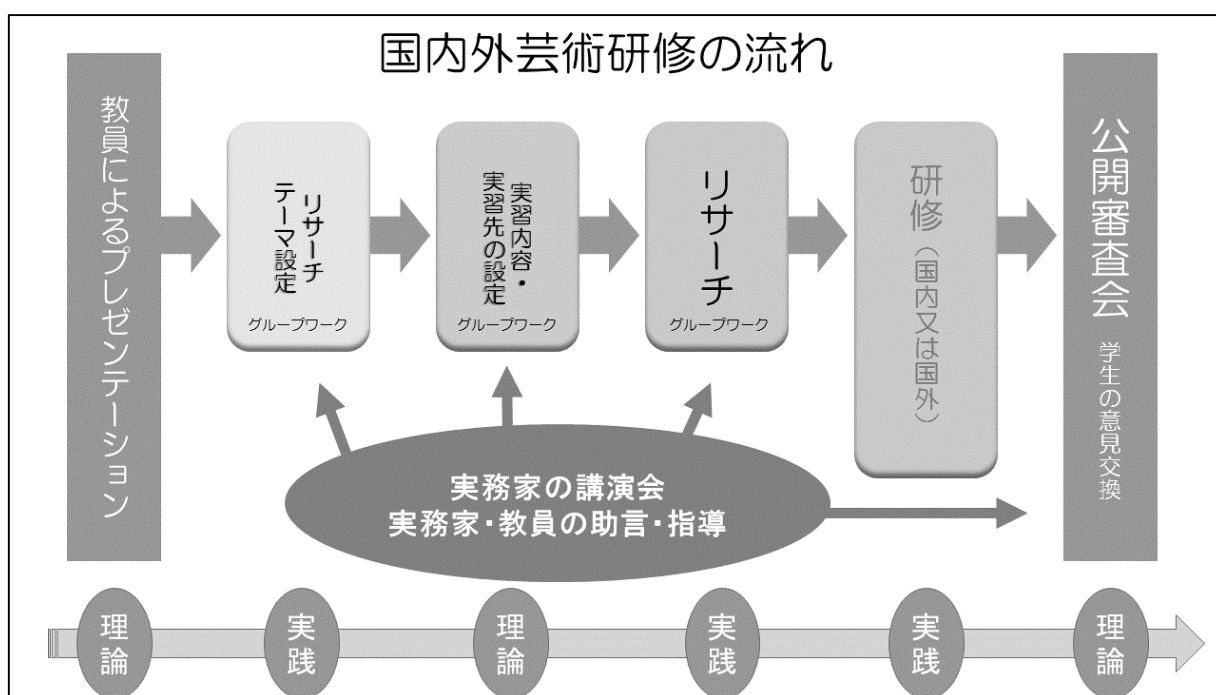
### （3）国内外芸術研修 （資料 11）（図 4 国内外芸術研修の流れ）

#### ①実習の目的

3年次の選択必修科目である「国内外芸術研修」では、国内あるいは国外への研修を実施する。実習の目的は、芸術作品を生み出した歴史について学習し、歴史的遺物を生み出した環境に実際に触れることで、芸術の歴史・作品について他者へ説得力を持って伝えることができるようになること、また作品と作品を生み出した歴史的背景の関係をすることにより、自身の作品の社会的機能について高い意識を持つこと、技法や素材の扱いに習熟することなどである。

3年次前期に、事前講義・実習を行い、夏季休業期間を利用して、国内外で学外研修（10日前後）を行う。また、研修後は、公開審査会を行う。本実習が、学生の在学中あるいは卒業後の留学や海外における就職に対する意識拡大の契機になる。

（ 図 4 国内外芸術研修の流れ ）



## ②実習の特徴

本実習の大きな特徴の一つは、国内外の文化や歴史を学びながら、実習の目的に沿って、実習の内容や実習先を学生自身が主体的にグループワークによって組み立てていく点にある。実習に必要な事務的業務（宿泊手配等）も学生が主体的に行う。

これによって、学生の主体性、自律性、協調性などを培うことを目的とする。初めに担当教員 5 名が専門とする研究分野やフィールドワークの手法などをプレゼンテーションし、学生はそれを糸口として、①問題提起（テーマ設定）→②実習内容と実習先の決定→③メールによる実習先との交渉→④日程や宿泊予約など→⑤実習→⑥報告会、プレゼンテーション、という一連の流れをグループワークによって作り上げていく。①②の間には、国内外においてリサーチやアートイベントの豊富な経験を有する外部講師の講演、担当教員の指導助言を行う（図 4）。

- ・教員 1（アメリカ東海岸の美術館・博物館及び上野の国立西洋美術館等の国内の美術館との連携体制を有す。英語の指導が可能）  
テーマ：アメリカの美術館と日本の美術館の機能や特徴の相違や類似について
- ・教員 2（日本における学芸員経験があり、ベトナム、カンボジアにおける美術施設でのリサーチ経験が豊富。他にもフランス、オーストラリアをフィールドとした研究実績が豊富。英語、仏語の指導が可能）  
テーマ：東南アジアと日本が過去の戦争をどのように表象しているかについて
- ・教員 3（東南アジア、特にインドネシアをフィールドとした研究者。英語、インドネシア語等の指導が可能）  
テーマ：ヨーロッパとアジアはお互いをどのように表象してきたかについて
- ・教員 4（英語を母語とし、複数の国や地域で英語・仏語の教員経験を有す。異文化コミュニケーションを専門とする。英国、スペインの大学等との共同研究実績を有す。英語、仏語、日本語の指導が可能）  
テーマ：同一の国の中で違った民族・文化・芸術・言語をもった人々がどのように共存してきたかについて
- ・教員 5：（西洋近世美術史、特にイタリア宗教美術及び日本のキリシタン美術を専門とする。英語、伊語の指導が可能）  
テーマ：キリスト教のアジアにおける受容と東西のキリスト教美術の相違や類似について

### ③実習を国内外に分ける意義

学生の興味関心に応じて、実習先は大別して国内と国外に分かれるが、研修前の授業においては履修者全員が国内外の歴史・文化について学び、両者を相対的に見る視点を培い、学外研修により、それをより堅固なものにすることが本実習の目指すところである。そのために、国内実習を選択する学生にも外国の歴史・文化・語学についての科目を履修するよう指導する(表8)。そして、研修後に行う公開審査会の場で、国内外それぞれの実習地で学んだ学生の意見を交換させることにより、さらにその視点を豊かで確かなものとする。

### ④実習水準の確保と実習前の準備

学生は本実習に入る2年次後期までに、外国語、外国の歴史・芸術・文化、アートマネジメントなどの科目を履修済みである(表8)。特に「芸術文化・地域創生論(国内外地域プロジェクト事例研究)」は本実習の事前指導と位置づけられる。担当教員は、最初の授業が始まるまでに学生の履修済み科目を確認し、本実習を履修するために不足していると思われる事項があれば、授業の中に講義や課題として随時取り入れていくことで、一定水準の実習を確保することに努める。本実習の国外研修は、語学の習得を目的とするものではないが、外国語(英語)のスピーキングスキルの習得を重要とみなす。そのために、本実習の担当者一人である英語を母語とする教員による学習の機会を7~8コマ設ける。また英語以外の他の外国語(インドネシア語、仏語、伊語等)については、それらの外国語に通じた教員が英語と同じ時間をかけて指導を行う。(資料11 国内外芸術研修シラバス)

また、実習はグループに分かれて行うが、実習内容レベルの平等性を担保するため、教員が定期的に担当グループの様子や、実習計画について報告しあい、実習内容について調整を行う。

実習時の事故等に備え、「学生教育研究災害傷害保険」の外に、国外実習に行く学生には、海外旅行保険にも加入させる。また、保健管理センターと連携し学生に実習前の体調管理を徹底させる。実習には、担当の教員2名が必ず付き添い、学生の安全管理に努める。人数が10名以上となる場合は、同行する教員を増員する。

### ⑤実習先との連携体制

実習先の決定後、学生は担当教員の指導の下で実習先とメールを使って密に連絡を取り合い、実習内容等について打ち合わせを重ね、円滑に実習を実施するための準備を行う。宿泊の手配なども学生が主体的に行う。

### ⑥実習に同行する担当教員

本実習は教員 5 名が担当する。実習の期間は 10 日前後とする。学生は 7～15 名のグループに分かれ、1 グループに 1～3 名の教員が同行する。履修者が 20 名以上になる場合は、さらにもう 1 名の教員を配置し、実習に同行させる。

### ⑦成績評価体制及び単位認定方法

成績評価は、実習後の公開審査会における成果発表をもとに行う。審査会の評者は、科目を担当する複数の教員の他に、講演会を行った外部講師を含む。審査会では、学生がグループに分かれて成果発表を行い、それに対して評者は、その場でコメントを行う。また、成果発表は大学のウェブサイト又はパネル展示によって、学内外に公開する。

審査会后、評者は成績評価（案）を作成し、評価理由をつけて本学部の実習委員会に提案する。実習委員会は成績の妥当性を審議し、最終的には教務委員会によって成績評価の判定が行われる。実習委員会は、この他にも実習の円滑な実施のために実習についてのさまざまな事項について実習先との調整役を果たす。**(VI 教育方法, 履修指導方法及び卒業要件, 4. 成績の評価を参照)**

#### (4) 博物館実習 (学外実習)

##### ①実習の目的と実習先の確保

本実習の目的は、博物館学芸員となるために必要な実践的スキルと知識を学外の博物館や美術館において学芸員の指導の下で学ぶことである。文化教育学部では、九州を中心とする国公立の博物館・美術館 50 館以上で「博物館実習」(学外実習)の実績があるが、特に下表の各館においては、過去 25 年以上の間、本学の学生を毎年 1～5 名の実習生として受け入れてきた実績がある。芸術地域デザイン学部においても、これらの施設を実習館の中心と位置づける。

学芸員資格取得を希望する学生の実習先は安定的な確保が必要となるため、佐賀県立博物館・美術館、吉野ヶ里歴史公園内の資料館等から実習生受け入れの内諾(毎年の実習の受け入れ人数、受け入れ期間など)を得ている。さらに実習生の数や出身地に応じて、適宜、実習先の開拓につとめる。また、実習先は学生の実家か下宿先に近い場所にある館とする**(表 14 実習先の確保の状況)**。

( 表 14 実習先の確保の状況 )

館名	所在地
九州国立博物館	福岡県太宰府市石坂 4-7-2
佐賀県立博物館・美術館	佐賀市城内 1-15-13
佐賀県立九州陶磁文化館	佐賀県西松浦郡有田町戸杓 3100-1
福岡県立美術館	福岡市天神 5-2-1
吉野ヶ里遺跡公園内展示館	佐賀県吉野ヶ里町, 佐賀県神埼市
長崎県美術館	長崎市出島町 2 番 1 号
熊本県立美術館	熊本市中央区二の丸 2
熊本工芸館	熊本市中央区千葉城町 3-35
鹿児島市立美術館	鹿児島市城山町 4-36
宮崎県立美術館	宮崎市船塚 3-210

### ②実習水準の確保（学内実習の方法）と実習先との連携体制

学外実習に行く前には、学内実習を 60～90 時間実施し、十分な実習準備に当たる。学内実習は、地域デザインコースの博物館学、アートキュレイトイング、美術史を担当する教員 3 名及び佐賀大学美術館実習担当学芸員 1 名が中心となって担当する。また、同美術館の学芸員 2～3 名が、指導の補助にあたる。学外実習が始まってからは、博物館実習担当の教員 4 名と実習先が連絡を密にし、連携体制を確立することで、実習水準の確保に努める。

実習中、実習生は「博物館実習ノート」を毎日記し、実習先の担当学芸員に提出し、学芸員は実習生に対する所見を記し、翌朝、実習生に返却する。実習生はそれを学びとして、実習を続行する。「博物館実習ノート」は、実習終了後、実習館から博物館実習担当教員に実習生に対する成績評価とともに郵送される。博物館実習担当教員はそれを成績評価のための一つの材料とする。実習中は、担当教員 4 名が実習先を巡回し、実習生の実習状況を把握する。

また、実習中は、教務課が窓口となり、大学は実習先と連絡をとりあい、問題が発生した場合は、教務課が担当教員に連絡をし、担当教員が対応する。佐賀県立博物館・美術館、九州陶磁文化館と佐賀大学美術館（「博物館実習」担当学芸員を配置）は、実習について適宜、報告・研修会等を開催する。研修会には、九州大学総合研究博物館、西南学院大学博物館、九州産業大学美術館等も参加することがある。なお、実習時の事故等に備え、実習生には「学生教育研究災害傷害保険」へ加入させる。

### ③事前・事後における指導計画

実習生は、「博物館実習」（学外実習）に行く前に、大学における「博物館実習」（学



内実習)を60時間~90時間、また、博物館法に定められた博物館学関連の授業を履修し、博物館実習(学外実習)に必要な基礎的知識や技能を身につける。「博物館実習」(館内実習)は、2段階(1年次と2年次)に分け、それぞれの段階で及第点に達しない学生に対しては、補講を行うなどして、学生のレベルアップにつとめる。また、「博物館実習」(学外実習)終了後には、事後指導を行う。事後指導の中で「博物館実習」(学外実習)について実習生に口頭で報告をさせ、実習の中身について確認をする。さらに、学芸員履修課程の総まとめとして実習生には、レポートを課し、学芸員として必要な知識や技能が身についているかどうかを検証する。

#### ④成績評価体制及び単位認定方法

担当教員は、「博物館実習ノート」、実習先から提出される博物館実習評価、事後指導への取り組み、レポートから成績評価(案)を実習委員会に提出し、実習委員会は成績評価の妥当性について審議した後、最終的には教務委員会が最終評価を決定する。実習委員会は、この他にも実習の円滑な実施のために実習についてのさまざまな事項について実習先との調整役を果たす。

なお、地域創生フィールドワークにおいても、佐賀県立博物館・美術館、吉野ヶ里歴史公園、小城市内、佐賀市内各所を利用する。考古学実習Ⅱ他においても、吉野ヶ里歴史公園等が実習先として利用される。学外で実施するいずれの実習においても、教員が同行して、指導し、実習への取り組み状況、提出されたレポート等の課題に基づいて、成績を評価し、単位を認定する。

また、これら学外での実習については、本学と佐賀県、佐賀県市長会、佐賀県町村会、佐賀県商工会議所連合会、佐賀県商工会連合会との間の「佐賀県における産学官包括連携協定」(いわゆる6者協定)に基づいて地域の関係機関の協力を得ながら進める計画である。(資料1)

#### (5) 教育実習

芸術地域デザイン学部では、中学校の美術及び高校の美術・工芸の免許を取得することが可能である。免許取得のために、教育職員免許法に基づき、免許取得のために所定の期間(4年次に中学校は3週間、高校は2週間)、教育実習を行う。実習前には、美術・工芸に関わる専門科目を修めるが、そのうち教科に関わる科目は他学部開講授業を履修する。学部間において、そのために必要な協力体制は構築されている。

(資料16 地域からの教育実習への協力状況)

## X I 企業実習や海外語学研修など学外研修の計画

### ①実習の内容「国内外芸術研修」(資料 11)

国内外芸術研修の目的は、芸術作品を生み出した歴史について学習し、歴史的遺物を生み出した環境に実際に触れることで、芸術の歴史・作品について他者へ説得力を持って伝えることができるようになること、また作品と作品を生み出した歴史的背景の関係をすることにより、自身の作品の社会的機能について高い意識を持つこと、技法や素材の扱いに習熟することなどである。この目的のために、国内外における約 10 日間の実習を行う。

### ②実習のための危機管理

実習時の事故等に備え、「学生教育研究災害傷害保険」の外に、国外実習に行く学生には、国外旅行保険にも加入させる。また、保健管理センターと連携し学生に実習前の体調管理を徹底させる。実習には、担当の教員 2 名が必ず付き添い、学生の安全管理に努める。人数が 10 名以上となる場合は、同行する教員を増員する。

研修中の安全確保については、研修前のガイダンスや研修中に毎日行うミーティングにおいて、学生に十分な注意を促す。また、万が一、学生が事故・事件等に遭ったときのために、研修に同行する教員から学部長、学長、学生生活課及び国際課、学生の保護者への連絡網を作っておく。また、国内外芸術研修を履修する学生には、国際交流推進センターによる「佐賀大学留学予定者対象危機管理研修」の受講を義務づけ、海外での危機管理と安全対策について十分な情報を提供する。(資料 17 佐賀大学危機管理に伴う緊急連絡網)

また、担当教員—学生—国際交流推進センターの関係を密にし、センターから海外渡航についての助言を常に得られる体制を構築する。

### ③国外実習のための経済支援

「国内外芸術研修」に必要な経費は学生の自己負担とする。入学時の教務オリエンテーションにおいて、「国内外芸術研修」の趣旨や実習にかかる経費について学生に周知し、履修を希望する学生には準備を促す。また、「佐賀大学学生海外研修支援事業」や「佐賀大学校友会国際交流奨励交付金制度」を活用することにより、学生の経費負担の軽減を図る。

### ④移動について

研修の移動は鉄道、飛行機、バスなどを組み合わせて行うが、国外研修は、空港(福岡、関空、成田、羽田のいずれか)での現地集合・解散を原則とし、一方、国内研修は、最初の研修地での現地集合と、最後の研修地での現地解散を原則とする。

## X II 編入学の具体的計画

芸術地域デザイン学部は、大学、短期大学、高等専門学校卒業生や社会人などを対象として、平成30年度から3年次編入学生を受け入れる。編入学生の入学については、短大などで芸術地域デザインに関わる分野の科目を履修していること、あるいは、その分野におけるボランティア活動などの十分な実績を有していることを入学基準の一つとする。

本学部の編入学試験と関連性が高いと思われる文化教育学部人間環境課程（生活・環境・技術選修）及び美術・工芸課程の過去5年間の編入学者の実績人数を根拠の一つとして、定員を学部全体で5名とする計画である（表15 文化教育学部人間環境課程，美術・工芸課程の編入学状況）。（設置申請書12 学生確保の見通し等を記載した書類 資料6に詳細）

（表15 文化教育学部人間環境課程，美術・工芸課程の編入学状況）

課程名等	H22	H23	H24	H25	H26	計
人間環境課程（生活・環境・技術選修）	3	4	6	5	6	24
美術・工芸課程	4	4	1	2	2	13
計	7	8	7	7	8	37

\*佐賀大学入試統計より。入学年度の実績数。

### ア 既修得単位の認定方法

履修単位の認定方法として、教養教育科目の単位は一括認定するが、インターフェース科目は、佐賀大学の教養教育科目の中でも最も特徴のあるものであるため、編入学生に対しては、入学後に履修させる。また、専門教育科目、卒業研究、自由選択科目については、2コースともに3～4年次に履修すべき科目単位数を定め、履修させる。

なお、編入学生の一括単位認定（案）は別表のとおり。（資料18 編入学の既修得単位認定・履修モデル）

### イ 履修指導方法・教育上の配慮

編入学生の学士力の担保と編入学生が問題なく授業についていけるための仕組みとしては、編入学生のフォローアップのための教員チームを組織し、その中から編入学生1名に2名以上のチューターをつけ、チューターは、他の教員と連携しながら、編入学生の経歴や高校卒業後の学習歴に鑑み、編入学生が卒業するまでのフォローアップに努める。また、学士力については、芸術地域デザイン分野での科目履修や活動実績の有無を合格判定基準の一つとすること、それに加えて、1年次の必修科目で

ある「地域デザイン基礎」のうち、フィールドワーク（2単位）を編入学生の必修科目とすることによって担保する。

また、教員は編入学生の補修プログラムをつくり、学習支援にあたる。また、1～2年生の科目の中から4～6単位を必修科目とすることによっても学士力の担保につなげる。

編入学生の履修モデルは別添のとおり（資料18）。

### XIII 2以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

陶磁器・ファインセラミックス分野の教員5名のうち、4名は主として有田の校地で教育研究にあたる。一方、残りの1名は本庄キャンパスに研究室を構えるが、有田の校地においても教育研究にあたる。また、5名全員が2か所の校地を往来し、学生指導他が可能となるよう、時間割を設定している。また、陶磁器・ファインセラミックス分野以外の教員が有田の校地へ移動する場合を考慮し、時間割を設定している。（資料19 芸術表現コース時間割（2以上の校地の移動確認））

2つの校地を行き来する学生への配慮として、時間割にあうように2校地間に一日3往復のシャトルバスを走らせるとともに、学生の体力的な負担も考えて時間割を設定し、有田の3時限目以降は他のキャンパスの授業開始時間から20分遅れで開始する。

陶磁器・ファインセラミックス分野の教員用の研究室・控室を2つの校地両方に用意するとともに、他の分野の教員についても、有田の校地に共同準備室・控室を用意する。また、本庄の校地にも陶磁器・ファインセラミックスの教育研究が可能な教室を配置し、学生の便宜をはかる。

（設置申請書5 2以上の校地において教育を行う場合のそれぞれの校地ごとの状況）

（設置申請書6 2以上の校地において教育研究を行う場合のそれぞれの校地ごとの教員の勤務状況）

### XIV 多様なメディアの高度利用

本学では全国の国立大学に先駆けて、平成14年度より、単位が取得できるVOD（Video On Demand）型のフルeラーニング「ネット授業」を開講している。ネット授業では、大学の講義をインターネットに接続されたPCから視聴できるようにし、ネットを通じての小テスト、レポート、対面授業等を通じて、成績を評価し、単位を認定している。

ネット授業以外にも、本学では平成 18 年度から全学生・全教職員が利用できるリメディアル教育用の教材を提供し、平成 19 年度から全学履修用の学習管理システム（LMS：Learning Management System）を管理・運営している。これまでの LMS の開発・管理・運用や VOD コンテンツの開発で培ってきた技術や経験を活かし、同期型遠隔授業、LMS の利活用の促進など、様々な ICT の推進を行っている。

本学部では、このように既に構築されたメディア授業システムを基本教養科目や、学部で実施する専門科目で最大限に利用することにより、学習に対する学生の便宜を図る。

## 1 実施場所、実施方法及び学則における規定

実施場所は、総合情報基盤センターや図書館、学部整備の情報演習教室であり、時間と場所を選ばず学習可能である。また無線 LAN により、学内では学生個人の PC やタブレットでも視聴が可能である。さらに自宅においてもインターネットへの接続可能ならば学習が可能である。

実施方法は、平成 14 年度から単位取得できる科目として、全国の国立大学に先駆けて VOD 型ネット授業を学士課程の教養教育科目に導入した。独自の学習管理システムの開発と学内スタジオでの講義コンテンツ制作は、本学の e ラーニング実践の特色にもなっている。

インターネットを活用して、WEB 上からのダウンロードにより資料を配布し、WBT で小テスト、WEB 上での質問と回答掲示、さらに WEB 上からレポート提出などを行える等、全てを WEB 上で賄うことができる。

具体的には、学習管理システム（LMS）を利用することで、ログイン後、講義の概要説明、資料配布、掲示板、談話室、質問、FAQ、学習進捗管理などに利用している。評価は最終回に教室で試験を行うことにしている。

なお学則における規定は、以下のとおり。

### 佐賀大学学則/第 2 章 学部通則/第 3 節 教育課程及び履修方法

(授業の方法)

第 18 条 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

2 前項の授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

3 第 1 項の授業は、外国において履修させることができる。前項の規定により、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させる場合についても、同様とする。

また、大学の教務上の処理について、ネット授業は従来の対面講義となんら異なるところはないが、講義室で教員が行うことをWEB上で全て行うので、受講手続きや管理体制が若干異なる。

## 2 佐賀大学ネット授業

本学が実施するフルeラーニング「ネット授業」は、以下の点から平成十三年文部科学省告示第五十一号の要件を満たすものと考えている。

- ・毎回の授業の実施に当たって、設問回答を準備し、さらに確認テストを行う。
- ・各科目についてメンターを設置し、添削指導、質疑応答の体制を整えているほか、学生の意見交換の機会を確保している。
- ・「ネット授業」は、時間と場所を問わず開講できる。
- ・1～2分おきにクリックを要するなど、受講確認の仕組みを備えている。
- ・確認テストを必須としている。
- ・個人認証は大学の統合認証システムでアカウント登録している。
- ・定期的なスクリーニング(対面授業とネット講義を混ぜたハイブリッドラーニング)で確認する。
- ・講義は90分であるのに対し、ネット授業は授業に要する時間が30分程度多い。もちろん、理解するためには、止めてメモし、分らないところは何度も繰り返して視聴するので、2～3時間以上かかる。

## 3 今後の展開

なお、有田キャンパスという遠隔地での教育を行う本学部においては、今後の展開として以下のとおり計画しており、多様なメディアを積極的に活用していく。

- ・有田キャンパスにおいて特に全学教育機構が開講する教養教育科目の履修が可能となる。有田キャンパスにはPC演習室が設置されているほか、学生個人のPCでも受講が可能であり、学習環境の整備に効果を発揮する。
- ・LMSやポートフォリオ機能を活用することで、学部専門科目である1年次の「芸術表現基礎」・「地域デザイン基礎」や3年次「地域デザインフィールドワーク」の授業においては、アクティブラーニングが可能となる。グループや授業担当者との情報共有、活動の履歴、作品の記録(ポートフォリオ)など、評価に関わる部分でeラーニングやLMSは重要な教育環境である。
- ・eラーニングを用いることで、調査、編集、創作、評価等、授業や研究活動において、学生の主体的な学びの姿勢や積極性、情報活用力を高めることができる。
- ・反転学習として動画ベースのコンテンツを予習として準備することにより、授業内容の知識部分や基本理解を促し、授業では演習、実習、議論、協働による学びを深

めることができる。

- ネット授業の教育の質を上げるため、スクーリングを実施する。これにより教員の負担は増えるが、学生の学習時間は増加し、また教育効果も高まるため、単位の実質化・教育の質保証が図られる。科目内容に応じて回数及び時期を調整し、学生が知識を深める仕掛けを行う。
- 現在開講している「有田焼入門」や「映画入門」は、本学部の特徴的な科目でもあり、スクーリングを実施する。さらにネット授業のコンテンツを活用して予習を行うことで、教室で議論する反転授業等を行う時間を確保し、アクティブラーニングの展開を推進する。

## X V 管理運営

### 1 学部長選考方法等と教授会の役割の明確化

「大学のガバナンス改革の推進について」（審議まとめ）（平成 25 年 12 月 24 日：中央教育審議会大学分科会組織運営部会）にあるように、学部長には、全学の方針と学部との間の調整役としての役割が求められる。そのため、学長のビジョンや大学の経営方針を共有し、適切な役割を果たせる人材が任命される必要がある。そのことから、本学では学部長にふさわしい人材を選考する仕組みとして、複数の学部長候補者を立て、最終的には学長指名により、学部長を選出する方法を検討している。また、学部長としての業績評価も学長が行うこととし、その仕組みについて規程等を整備する。

学部教授会の役割については、学校教育法の改正等に伴い、その審議事項を教育課程編成、学生の身分、学位授与、教員の研究業績審査等に限定し明確化する方向で規程を整備する。

学部の評価に関して、2 年に一度行う外部評価においては、地域、社会、実務家等の有識者からなる外部評価委員による第三者評価を導入し、そこから得られた意見や提案を学部運営に反映させることで、地域、社会、実業界等と有機的なつながりをもった大学の運営体制を構築する。

### 2 人事・給与システムの弾力化の方向性

本学では全学的な方針として新たに採用する教育職員に原則として年俸制を適用する方針である。本学部に新規で採用する専任教員についても、これを適用する。

### 3 学部運営の基本方針

本学では学部の効率的・効果的な運営のため、管理運営のあり方の見直しを予定して

いる。また、本学の企画・評価部門の中核に位置するIR室の客観的なデータをもとに、教職員の意識改革をはかることで、迅速な合意形成のもと学部活性化を促す施策を検討している。時代の変化に迅速に対応できる機動性と柔軟性に富んだ学部運営を実現することが必要であり、そのためには、下記の事項に積極的に取り組んでいく。

- ①法人本部との連携強化や地域から意見を吸い上げる体制を構築する。
- ②外部評価の実施、教育情報等の公表により、透明性の高い学部運営を図る。
- ③産学官連携による受託研究、寄附講座など、外部資金の導入を図る。
- ④教育研究活動の活性化を図るため、教員の任期制、年俸制、裁量労働制や、兼職・兼業の弾力化、新たな業績評価制度など、適切な各種人事制度を導入する。

#### 4 学外機関及び学内機関との連携強化

学部設置の最終的な目標は、教育・研究・社会貢献活動により、佐賀大学が立地している地域の活性化である。そのため佐賀県をはじめ、地域の行政機関や産業界との連携強化による協働体制の構築に努めるとともに学内のあらゆる組織との連携強化も不可欠であると考えている。

具体的には、西九州大学や県内の自治体との連携事業「佐賀における地（知）の拠点整備事業～文部科学省：地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）～」に積極的に関わり、地域を志向した教育・研究・社会貢献活動を推進する。また、「佐賀県における産学官包括連携協定事業～6者協定事業～」にも、産学・地域連携機構をはじめ各学部・研究科などあらゆる学内組織との連携により積極的に取り組んでいく。

## XVI 自己点検・評価について

### 1 実施体制

本学の大学評価業務を一元的に扱い、評価の充実と効率化に資するため、「佐賀大学評価室」（以下「評価室」という。）を設置しており、平成21年12月に設置した学長、理事、学長補佐等から構成される中期目標・中期計画実施本部（以下「実施本部」という。）と連携して自己点検・評価作業を行い、大学の活性化、改善に向けた自己点検・評価に関する企画・立案及び推進を実施している。

### 2 実施方法等

各部局等は、毎年度、本学の年度計画を達成するための部局における実行計画を策定し、本学の中期目標・中期計画の達成に向けて取り組んでおり、実施本部において、部局における実行計画の進捗を管理している。



また、各部局等は、各部局等の目的を達成するための諸活動について、改善を図ることを目的として、部局等自己点検・評価を実施する。それとともに、学外者による検証と意見聴取を実施している。一方、部局等評価（外部評価を含む）の結果における改善すべき事項及び課題等については、速やかに改善策の検討を行い、実行に移すこととしている。

### 3 評価結果の活用・公表

本学は、平成21年度に実施された学校教育法に基づく認証評価の評価結果において指摘された「改善を要する点」を踏まえ、入学定員の適正な管理等に取り組んでいる。

また、国立大学法人法に基づく国立大学法人評価（中期目標期間評価及び年度評価）の評価結果について、評価室による分析を行い、課題として指摘を受けた事項の改善に向け取り組んでいる。

認証評価及び国立大学法人評価に係る報告書及び評価結果については、本学ウェブサイトにおいて公表している。また、各部局等が自己点検・評価に基づき作成した自己点検・評価書についても、外部評価とあわせて、本学ウェブサイトにおいて公表している。

## XVII 情報の公表

### —大学としての情報提供—

本学では、インターネット上に大学の公式ウェブサイトを設けており、大学の理念と中期目標や計画などの大学が目指している方向性を発信するとともに、カリキュラム、シラバス、学則等の各種規程や定員、学生数、教員数などの大学の基本情報を公開している。具体的な公表項目の内容等と公開しているウェブサイトアドレスは以下のとおりである。（(1)～(9)：<http://www.saga-u.ac.jp/koukai/education.html>）

- (1) 大学の教育研究上の目的に関すること
  - ・学部及び大学院の教育研究上の目的を記載。
- (2) 教育研究上の基本組織に関すること
  - ・学部学科（課程）及び講座、また大学院課程及び専攻毎の基本組織を記載。
- (3) 教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること
  - ・専任教員数・男女別・職（区分）別の人数、また年齢構成、教員の業績を記載。
- (4) 入学者に関する受入方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関

すること

- ・学部及び大学院それぞれの入学者受け入れ方針，入学者数，収容定員，在 학생数，進路状況，就職先を記載。
- (5) 授業科目，授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること
  - ・オンラインシラバス及び学年歴を記載。
- (6) 学修（HPでは「学習」と記載）の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること
  - ・学習の成果に係る評価，卒業・修了の認定基準，取得可能な学位を記載。
- (7) 校地，校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること
  - ・キャンパス及び運動施設等の概要，課外活動の状況，リフレッシュスペース，交通手段等を記載。
- (8) 授業料，入学料その他の大学が徴収する費用に関すること
  - ・授業料及び入学料，学生寮（楠葉寮）に関する費用，課外施設利用料を記載。
- (9) 大学が行う学生の修学，進路選択及び心身の健康等に係る支援（HPでは「支援状況」と記載）に関すること
  - ・チューター及び学生アドバイザー等の各種修学支援，授業料免除及び奨学金等の各種生活支援，相談窓口及び障害者支援等を記載。
- (10) その他
  - (a) 教育上の目的に応じ学生が習得すべき知識及び能力に関する情報（佐賀大学の教育方針について・学士力・3つの方針）  
(<http://www.sc.admin.saga-u.ac.jp/kyouikuhousin.html>)
  - (b) 佐賀大学規則集  
(<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/>)
  - (c) 学部・研究科の設置等に関する情報  
(<http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/setti/index.html>)
  - (d) 中期目標・中期計画に関する資料  
(<http://www.saga-u.ac.jp/koukai/mokuhyokeikaku.html>)
  - (e) 大学の評価に関する資料
    - ・中期目標期間評価・年度評価に関する資料  
(<http://www.saga-u.ac.jp/koukai/nendojisseki.html>)
    - ・自己点検・評価，認証評価等の評価に関する資料  
(<http://www.saga-u.ac.jp/hyoka/gakugai/hyouka.htm>)
  - (f) 佐賀大学の取り組み  
本学における各種活動の中で，特色ある事業や特にアピールしていく活動等について，その概要や実績等をわかりやすく紹介することを目的として公開している。

(<http://www.saga-u.ac.jp/koho/torikumi/>)

## XVIII 教育内容等の改善を図るための組織的な取組

芸術地域デザイン学部では、組織的な授業改善の体制を構築し、以下のような取組により、授業の硬直化を排し、時代の変化に即した教育方法と教育内容の改善に取り組む。

### 学部の FD 委員会活動

- FD 委員会を設定する。FD 委員会は学部の FD 活動に率先して取組むとともに、全学の FD 委員会と学部の連携役を務める。
- 新任・昇任教員の FD 研修会の実施（4 月，10 月）
- FD 講演会を開催。教員は全員参加（秋季か冬季）
- 公開授業の実施（全開講科目）
- TA を利用した授業実施の促進
- 第三者による適正な成績評価のチェック
- 学外の FD 講演会，研修会への参加（FD 委員中心）

### 全学の FD 委員会主導による活動

- 学生による授業評価アンケートの実施（8 月，2 月）
- ティーチング・ポートフォリオ（TP）講習会への参加による TP の実質化。教員は順次全員参加。
- e ラーニングを利用した授業実施の促進
- オンラインシラバスのチェックと修正の実施，集計（年度末）
- FD 講演会への参加。
- 学外の FD 講演会，研修会への参加（全学 FD 委員）

## XIX 社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

芸術地域デザイン学部における学生の就職支援のための具体的な計画は以下のとおりである。

### 1 教育課程内の取組について

教養科目では、「大学入門科目」(1年次前期)にて、教員が就職についての心構えや学内外の支援体制について詳しく教授する。さらに本学キャリアセンター専任教員が担当する「キャリアデザイン」(1年次後期)にて、自己のキャリアデザインの方法とキャリアをデザインするために必要な知識を学ばせるとともに、就職内定者やOB・OGを招くなど実践的な授業を展開する。本科目では、就職後自分たちを取り巻く労働環境や社会で求められる力、ワークライフバランスといった知識の習得に加え、実際に自己分析ができ、自己のキャリアビジョンを描いた上で充実した大学生活を送れるようになることまでを到達目標としており、未来履歴書及び行動計画の作成を行うこととしている。(資料20 「キャリアデザイン」シラバス)

また、専門科目では、「知的財産権学」「アートマネジメント特別講義」(3年次)に、それぞれ、アーティストとして自営するための法的知識、アートマーケットの経済的な仕組みなどの内容を含み、アーティストとして、またアートマネジメントに携わるものとして必要とされる知識や情報を教授する。

## 2 教育課程外の取組について

2～3年次には、学生に2週間以上のインターンシップへの参加を促すとともに、インターンシップ先の開拓のために、教員が企業や自治体を訪問する。具体的な職種・職場としては、マネジメント力を鍛えるもの(新聞社事業部、テレビ局、ラジオ局、出版社)、専門的技術や知識を活かすもの(美術館、ギャラリー、デザイン会社、工房等)やコミュニケーション能力を活かすもの(接客、観光等)などを計画している。

現在、インターンシップ先として内諾を得ているか、インターンシップ受け入れを要請中か、または、これから要請予定の自治体や企業は以下のとおりである。

[自治体]佐賀県庁、佐賀市役所、有田町、小城市、三養基町、その他

[マスコミ]佐賀テレビ、佐賀新聞社、FM佐賀、西日本新聞社事業部(福岡)、毎日新聞社事業部(福岡、北九州)、読売新聞社(福岡)、朝日新聞社(福岡)、テレビ西日本(福岡)、TVQ九州放送(福岡)、FM福岡(福岡)、cross fm(北九州)、LOVE FM(福岡)、エヌオー出版(福岡)、リビング北九州(北九州)、アヴァンティ北九州(北九州)

[商業施設](株)キャナルエンターテインメントワークス(福岡)、リバーウォーク北九州事業部、株式会社井筒屋(北九州)、ハウステンボス(長崎)

[企業メセナ系]アサヒビール技術文化財団(東京)、財団法人文化・芸術による福武振興財団(香川)

[メーカー・販売]株式会社資生堂企業文化部(東京)、シャボン玉石けん株式会社(北九州)、九州画財(北九州)、ベスト電器(福岡)

[観光・宿泊]ハウステンボス(長崎)、千草ホテル(北九州)

[施工・イベント制作会社] (株) ハダ工芸社 (福岡), 株式会社ツカサ創研 (福岡),  
[美術館, 博物館, 文化施設] 佐賀県立美術館, 佐賀県立博物館, 佐賀県立本丸歴史館,  
佐賀県立名護屋城博物館, 佐賀県立吉野ヶ里歴史公園, 佐賀県立九州陶磁文化館,  
アルカス佐世保 (長崎), 長崎県立歴史博物館, 九州国立博物館, 福岡アジア美術  
館, 福岡市美術館, 福岡県立美術館, 北九州市立美術館, 直方谷尾美術館, 織田廣  
喜美術館, 田川市美術館, 石橋美術館, 熊本市現代美術館, 熊本県立美術館, 大分  
県立美術館, 大分市美術館, 長崎県美術館, 鹿児島市立美術館

### 3 適切な体制の整備について

就職支援のために, キャリアセンターや同窓会組織による学生の就職に対する支援体制を充実させる。同窓会組織に関しては, 佐賀大学同窓会 (全学の同窓会) と就職に関する意見交換会を行い, 連携体制を強固にし, 同窓生からの就職支援を得るとともに, 母体となる文化教育学部同窓会「佐賀大学有朋会」とも同様に連携を取ることとしている。また, 半世紀以上の歴史を有する文化教育学部美術・工芸課程の同窓会とも連携体制を築く。また, キャリアセンター, 就職委員会, そして男女共同参画推進室と協働し, 学外から卒業生, 大学や企業のキャリアアドバイザー等を招いて就職講演会を実施し, 学生がキャリアデザインの描き方, 就職活動の具体的な助言を得る機会を作る。

また, 6者協定を利用し, 佐賀県, 佐賀市等の自治体の協力によるインターンシップ体制をより強化する。

就職活動においては, 専門的な知識・技能のみならず, 一般教養技能も必要とされることから, 情報リテラシー (ワープロソフトや表計算ソフトの操作技術や表現技術等) などの科目を開設することにより, 就職活動が円滑に行えるようサポートを行う。

また, 教員全員が企業や佐賀以外の自治体を訪問することにより, 芸術地域デザイン学部の周知徹底をはかるとともに, 採用動向, 地域のニーズ等の把握に努める。また, 就職支援に対する教員の意識改革のための研修会を積極的に実施する。

従来の芸術系学部は, 芸術の専門職養成 (芸術家やデザイナー) を重視した教育を行ってきた。しかし, 近年は, 芸術系学部においても, 一般職 (公務員や一般企業の社員) への就職を希望する者が増えてきており, 佐賀大学芸術地域デザイン学部も, そのような現状に対応していかなければならない。すなわち, 限られた範囲の専門家養成ではなく, 大学で身に付けた芸術やデザインに関する知識や技能を, 一般職においても広く活用できる人材養成を行っていくことが芸術地域デザイン学部の使命である。

卒業生が芸術の専門職種と一般職種の両方で芸術文化を普及・コーディネートする役割を担い, さらに産業の再生や発展, 地域経済の活性化に貢献する。そのことによって, 本学はその社会的な役割を果たし, その存在感をより大きなものとする。

## 設置の趣旨等を記載した書類 資料目次

	ページ番号
資料 1 : 佐賀県における産学官包括連携協定事業, 佐賀における地(知)の拠点整備事業	1
資料 2 : 佐賀大学芸術地域デザイン学部構想	5
資料 3 : 佐賀県からの若年層流出状況	6
資料 4 : 学部設置について要望	10
資料 5 : 佐賀県と佐賀大学との連携に関する基本合意書, 佐賀大学と佐賀県との実務者連絡協議会要項	19
資料 6 : 佐賀県 オランダとの連携等による『プラットフォームの形成』プロジェクト	25
資料 7 : 佐賀県周辺の伝統工芸・伝統産業	28
資料 8 : 佐賀大学学士力, 養成する人材像と特色ある教育カリキュラム(体系図)	32
資料 9 : カリキュラムマップ(コースナンバー付)	34
資料 10 : 学位授与の方針と学士力及び教育課程編成・実施の方针对応表	36
資料 11 : コア科目のシラバス	40
資料 12 : 国立大学法人佐賀大学教育職員定年規程	66
資料 13 : 国立大学法人佐賀大学契約職員就業規則	67
資料 14 : 学部履修モデル	68

資料 15	:	入学者選抜方法一覧	72
資料 16	:	地域からの教育実習への協力状況	73
資料 17	:	佐賀大学危機管理に伴う緊急連絡網	75
資料 18	:	編入学の既修得単位認定・履修モデル	76
資料 19	:	芸術表現コース時間割（2以上の校地の移動確認）	79
資料 20	:	「キャリアデザイン」シラバス	81

# 第II期 (H24～26年度) 佐賀県における産学官包括連携協定事業～6者協定事業～

第I期 6者協定事業  
協定締結 H20.10 ～ H24.3

創成期的な時期から新たな展開へ

第II期 6者協定事業  
H24.4 ～ H27.3 **3カ年**

基本方針 I. リーディング事業の設定 II. 協定に基づく四分野からなる事業の推進<H25年度・18事業>

H26.4～

## 教育・文化・生涯学習 及び人材育成

自動車産業人材育成事業

廃止

異業種交流講座  
(若手職員提案交流事業の包含)

青年期性教育の充実事業

大学との人事交流事業

歴史文化研究協力事業 ★

鍋島ルネサンス事業

佐賀偉人伝出版事業 ★

## 地域振興及び産業振興

高齢者のための街なか再生事業 ★

有明海のワイズユースに関する事業 ★★

廃止

日韓海峡圏研究機関相互交流事業

佐賀県産業人材確保プロジェクト

### リーディング事業

豊かな暮らしに“さがのお茶”活用事業 ★★

ものづくりアジア研究会 ★

佐賀デジタルコンテンツ推進事業 ★  
(佐賀の若者映像文化拠点プログラムの再編・拡充) ★

地域ICT利活用モデル構築事業 ★

## 情報化社会の構築

## リーディング事業

6者協定事業の中でも、産学官が広く連携する事業であり、特に先導的な役割を担うことが期待される。

## 地域医療及び福祉の向上

### リーディング事業

認知症総合サポート事業 ★

前向き子育て「トリプルP」

総合型地域スポーツクラブを拠点とした健康増進・スポーツ振興事業 ★

地(知)の拠点整備事業(H25年度～29年度との連携強化) ★  
地域志向型研究プロジェクト(所)との連携強化 ★

第III期に向けた事業の整理と新規事業の企画・立案



佐賀県における産学官包括連携協定書

佐賀県、佐賀県市長会、佐賀県町村会、佐賀県商工会議所連合会、佐賀県商工会連合会及び国立大学法人佐賀大学は、佐賀県の発展等のため連携協力することに合意し、次のとおり協定を締結する。

(目的)

第1条 この協定は、佐賀県、佐賀県市長会、佐賀県町村会、佐賀県商工会議所連合会、佐賀県商工会連合会及び国立大学法人佐賀大学(以下「6者」という。)が多様な分野で連携協力し、佐賀県の発展と人材育成に寄与することを目的とする。

(連携・協力事項)

第2条 6者が、連携協力する事項は、次のとおりとする。

- (1) 教育・文化・生涯学習及び人材育成
  - (2) 地域振興及び産業振興
  - (3) 情報化社会の構築
  - (4) 地域医療及び福祉の向上
  - (5) その他相互に連携・協力が必要と認められる事項
- (協議)

第3条 6者は、この協定に基づく連携・協力の具体的内容及び成果の利用条件その他必要な事項について、定期的に国立大学法人佐賀大学地域貢献連絡協議会において協議するものとする。

(連絡調整窓口)

第4条 6者は、前条によるもののほか、第2条に掲げる連携・協力事項の円滑な進展を図るため、それぞれに連絡調整窓口を設置し、適宜協議するものとする。

(情報保護)

第5条 6者は、この協定に基づく連携・協りに当たり知り得た情報について、事前に関係機関の同意を得た情報以外の情報を第3者に対して、開示又は漏洩してはならない。

(有効期間)

第6条 この協定の有効期間は、協定書締結の日から3年間とする。ただし、有効期間が満了する日の2月前までに、6者のいずれかからも改廃の申出がないときは、更に3年間更新するものとし、その後も同様とする。

(雑則)

第7条 この協定に定めのない事項又はこの協定の運用に関し疑義が生じた場合は、6者協議の上、決定するものとする。

この協定の締結を証するため、協定書6通作成し、6者署名の上、各自1通を保管するものとする。

平成20年10月10日

佐賀県佐賀市城内一丁目1番59号

佐賀県知事

吉川 康

佐賀県佐賀市城内一丁目5番14号

佐賀県市長会 会長

横尾 俊彦

佐賀県佐賀市城内一丁目5番14号

佐賀県町村会 会長

田中 源一

佐賀県佐賀市松原一丁目2番35号

佐賀県商工会議所連合会 会長

指山 弘養

佐賀県佐賀市松原一丁目2番35号

佐賀県商工会連合会 会長

陳内 孝雄

佐賀県佐賀市本庄町1番地

国立大学法人佐賀大学長

長谷川 昭

# 国立大学法人 佐賀大学・学校法人永原学園 西九州大学

(連携自治体：佐賀県、佐賀市、神崎市、唐津市、小城市、嬉野市、鹿島市、吉野ヶ里町)

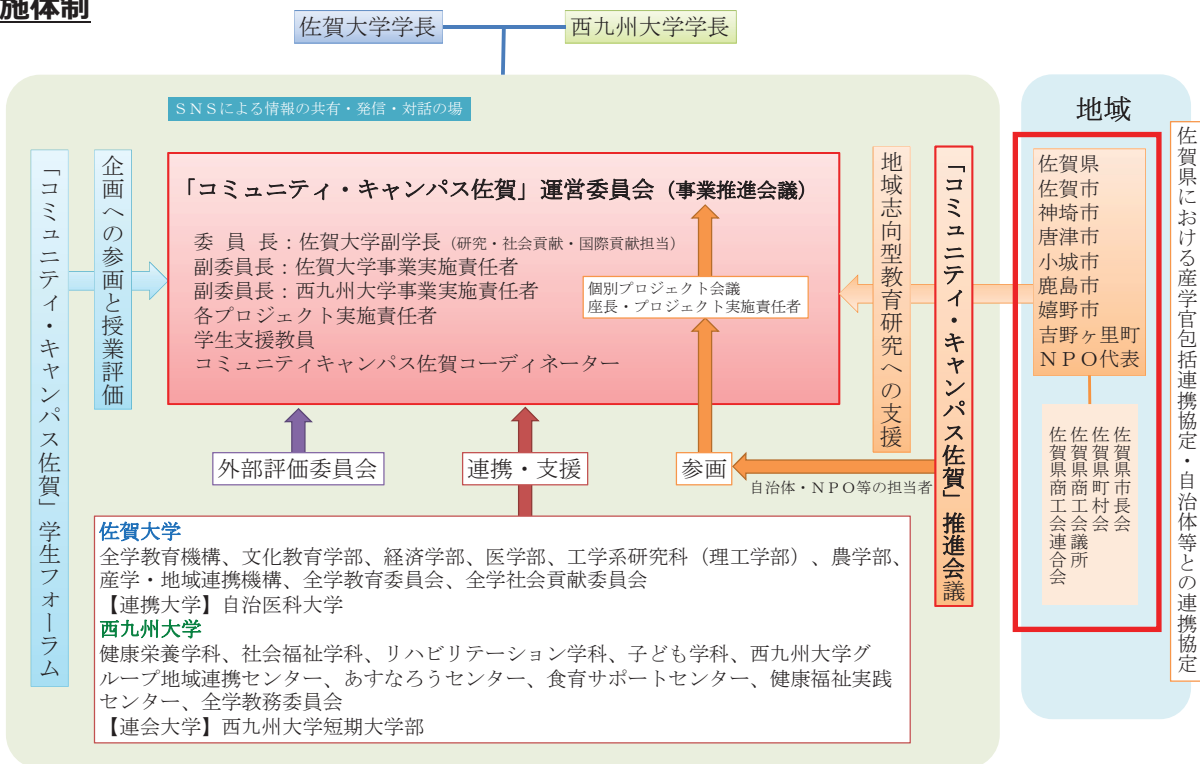


## コミュニティ・キャンパス佐賀 アクティベーション・プロジェクト

### プロジェクトの概要

佐賀大学と西九州大学は、佐賀県全域をキャンパスと位置づけ、学生・教職員による実践的な教育・研究を通して、地(佐賀県域)と知(教育研究)のアクティベーション(活性化)を進めることで、佐賀の地における知の拠点としての機能を強化します。このプロジェクトは、佐賀県、佐賀市、神崎市、唐津市、小城市、嬉野市、鹿島市、吉野ヶ里町の1県6市1町と連携し、両大学とも地域での学修機会を増加させる教育カリキュラムの改革を行い、事業の実効性と持続性のある全学的なプロジェクトとして推進します。

### 実施体制



**「運営委員会」と「推進会議」の役割**

**運営委員会**

地(知)の拠点整備事業「コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト」の実施に関し、必要事項を審議するために設置。委員長、副委員長、各プロジェクト代表者などが集まり、隔月1回開催。プロジェクト実施に関する企画の立案・推進に関することや、自治体等との連携推進に関すること等を審議する。

**推進会議**

連携自治体(佐賀県、佐賀市、神崎市、唐津市、小城市、鹿島市、嬉野市、吉野ヶ里町)担当者及び両大学事業実施責任者、NPO関係者等が集まり、隔月1回開催。地域のニーズに対応した教育研究の推進についてや、地域と大学間の積極的な連携・対話の推進に関すること等を審議。H26年5月には自治体関係者等約100名が集まる拡大推進会議を開催。

### シンポジウム・フォーラム等の実施

文部科学省 地(知)の拠点整備事業  
佐賀大学・西九州大学  
『コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト FD・SDフォーラム』  
～地域で学び、地域とともに成長する教育～

- ◆日 程：平成26年1月31日(金) 13:30～17:00
- ◆会 場：マリトピア
- ◆概 要：佐賀大学と西九州大学による地(知)の拠点形成に向けた取り組みを推進するため、自治体やNPO、市民等と連携した、地域を志向する教育・研究の活性化と社会貢献あり方についてのフォーラムを開催し知見を深めた。基調講演には北九州市立大学地域創生学群学群長の眞鍋和博教授を迎え、「地域における実践型教育の展開ーPBLとSLの融合ー」をテーマに、地域での実践的な活動を重視した実習と演習を組み込んだ教育について講演いただいた。本フォーラムは、佐賀大学・西九州大学のFD(Faculty Development)・SD(Staff Development)研修会を兼ねて実施し、約100名が参加した。

### 2014年度シンポジウム開催

文部科学省 地(知)の拠点整備事業  
コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクトシンポジウム2014  
学生ー市民ー産学官の協働による地域創生

- ◆日 程：平成26年12月20日(土) 13:30～17:00
- ◆会 場：佐賀県生涯学習センター アバンセ
- ◆概 要：「学生ー市民ー産学官の協働で地域創生」をテーマに、地域を志向した教育・研究の活性化・社会貢献のあり方について、滋賀県立大学名誉教授・柴田いづみ氏による基調講演やパネルディスカッションで考えます。パネルディスカッションには学生代表も参加。会場では全12事業のブースを開設し、学生が事業の内容を説明します。
- ◆一般参加歓迎(参加料無料)

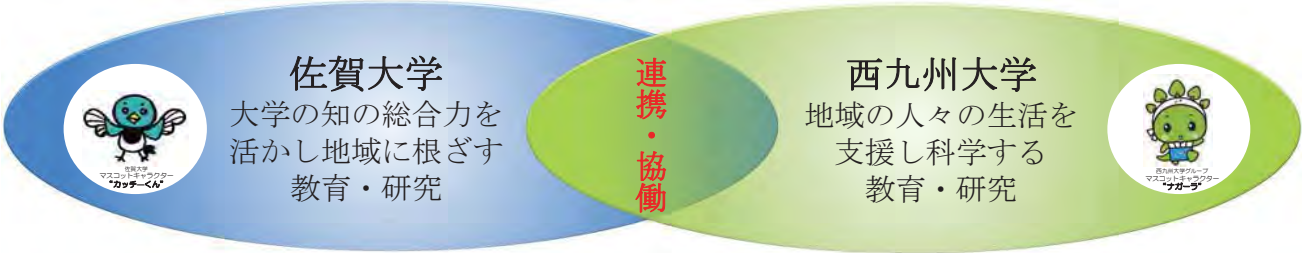


# 国立大学法人 佐賀大学・学校法人永原学園 西九州大学

(連携自治体：佐賀県、佐賀市、神崎市、唐津市、小城市、嬉野市、鹿島市、吉野ヶ里町)



## コミュニティ・キャンパス佐賀 アクティベーション・プロジェクト



### 佐賀大学プログラム

#### A) 学生参画による調査・交流・活動を通じた地域創成プログラム (全学教育機構)

社会人基礎力を養成する教養教育のインターフェース科目「地域創成学プログラム」を中心に、地域コミュニティや中山間地域の活性化に関連する地域課題の解決に取り組む。



西九州大学プロジェクトと連携

#### B) 学生参画による調査・対話・活動を通じた環境保全プログラム (全学教育機構)

社会人基礎力を養成する教養教育のインターフェース科目「地域環境の保全と市民社会」・「有明海学」プログラムを中心に、里山や有明海を中心とした地域環境の保全に関連する地域課題の解決に取り組む。



#### C) 地域の高齢者および子どものヘルスプロモーション・プログラム (文化教育学部)

学生の実践力育成と地域の発達障がい児を含む子どもと中高齢者の健康増進に寄与することを目的に、地域で運動指導を実施。地域における健康への取り組みを活性化する。



#### D) 地域との連携による地域経済政策の立案プログラム (経済学部)

地域の経済・社会問題の調査研究を通して、その解決を提案する実践力を養成する。地域課題の抽出は「佐賀県地域経済研究会」との連携により実施し、その成果は公開講座等で学生自らが報告し、地域に還元する。



#### E) 離島・山間地域における保健医療とQOL向上プログラム (医学部)

地域医療実習、及び他大学との合同夏期実習の教育実績を基盤とした保健医療教育を実施。人的ネットワーク形成、地域に触れることで地域の保健医療充実のための人材を育成する。



佐賀県

**連携自治体が抱える諸課題**

- ・中心市街地の活性化
- ・地域コミュニティの再生
- ・離島・中山間地域活性化
- ・地域産業の振興
- ・地域医療・保健の向上及び充実
- ・環境保全
- ・食育・子育て支援
- ・まちなかでの安心生活実現

#### F) 地域空間再生デザイン・プログラム (理工学部)

地域再生において重要な「地域空間デザイン」について、特に対象地の空間的特質や課題を捉えた計画設計、及びデジタルデザインへ展開ができる人材を育成し、地域の活性化に応用する。



西九州大学プロジェクトJ-Lと連携

#### G) アグリ医療の振興・機能性食品の開発プログラム (農学部・医学部)

農業の多面的機能に着目して、生物を通じたアグリ医療や総合的職能教育モデルを開発・実践する医農連携、及び産学連携の実習を含めたカリキュラムを構築し、地域の福祉と産業の振興に貢献する。



西九州大学プロジェクトH-Kと連携

### 西九州大学プログラム

#### H) 介護(認知症)予防事業に着目したリハビリテーション教育プログラム

学生と教員が連携自治体において実施する心身機能調査→認知症等の早期発見、参加学生の修学意欲、地域社会への参画意識の醸成。



佐賀大学プロジェクトGと連携

#### I) 保健・医療・福祉・子育て支援体制の充実プログラム

専門職業人(栄養・福祉・リハビリ・子ども教育)の育成を、地域課題解決型授業を実施することで実現→特定検診受診率UP作戦、食育事業の展開等。



#### J) 「街なかサポーター」活動を通じた安心生活づくり

健康者のみならず、障がいをもたれた方など地域で暮らす全ての人が相互に関わる“場”や“機会”を創出できる人材「街なかサポーター」を育成。



佐賀大学プロジェクトA-Fと連携

#### K) 産学官連携による機能性食品の開発プロジェクト

学生自らがチーフプロデューサーとなり、地域の生産者や企業とチームを組み、佐賀の地域性や食品のもつストーリーに着目した大学発食品開発を行う。



佐賀大学プロジェクトGと連携

#### L) 地域社会と連携した交通UDプロジェクト

連携自治体の中心市街地を対象に地域の交通インフラが抱える課題を発見するための実地調査を行い、原因解明、解決策を考えるための地域活動やワークショップを実施。



佐賀大学プロジェクトFと連携

# 「佐賀大学芸術地域デザイン学部」構想～芸術を通じた地域創生のための人材養成～

## ①佐賀地域における課題

- 有田焼、佐賀錦はじめ九州の伝統産業の再生・リノベーション  
(芸術的技能と経営的視点を兼ね備えた人材の養成)
- 産業・文化の後継者育成、新たな技術力・デザイン力
- 文化的資源の保存・活用、文化・芸術に親しむ機会確保
- 国内・国際的ブランド力の向上、観光的価値の向上

全国共通の課題  
「地方創生」

本学の強み・特色を生かした対応

## ②国・地域等の施策

- 世界に誇る「文化芸術立国」実現ー2020年文化芸術交流のハブ化ー
- 世界のセラミッククリエイト人材育成拠点化構想 (佐賀県)  
「有田創業400年の次の100年を担う人材の育成を目指して」
- 佐賀県総合計画 (佐賀県)、佐賀市文化振興基本計画 (佐賀市)
- 文化遺産を活かした地域活性化事業 (経産省)

推進

## ③地域と本学の資源

- 美術・工芸、経済・経営、デジタル表現、医、工、農の実績

- 佐賀大学美術館



- 『陶都』有田・唐津



- 佐賀・鹿島錦、大川組子

- 吉野ヶ里遺跡

- 幕末佐賀藩の歴史遺産

### 『佐賀大学芸術地域デザイン学部』 ～芸術を通じた地域創生のための人材養成～

#### 1. 芸術表現コース

芸術を自ら創造・表現し、地域創生に貢献する人材の養成

佐賀県立有田窯業  
大学校との連携

#### 2. 地域デザインコース

文化芸術を支え、新たな付加価値を生み出し地域創生に貢献する人材の養成

#### — 総合大学の強み —

教育・経営・医療・セラミック工学・都市工学・農(食)・デジタル表現等総合大学の強みを発揮し、各分野への還元、異分野融合による新展開、さらに地域社会への生涯学習機会の提供

学部運営の基盤	○ガバナンス機能の強化 学長による学部長選考 教授会役割の明確化	○人事給与システムの改革 新たに採用される教員に 年俸制を導入	佐賀大学版 IR
	人材・技術・情報提供		

連携事業  
人的交流  
共同研究

現場の要望

人材・技術  
・情報提供

## 外部組織との関連性

- 佐賀県における産学官包括連携協定
- 佐賀県農林水産商工本部・佐賀県文化課  
(有田焼創業400年事業推進グループ)
  - 佐賀市文化振興課・佐賀市文化振興財団
  - ハレ芸術デザイン大学(独)、デザインアカデミー(蘭)
  - ヨーロピアンセラミックワークセンター(蘭)

技術指導  
人的交流

- 自治体等のまちづくり担当課
- 地区の商工会議所・観光協会
  - 佐賀県窯業技術センター、九州陶磁文化館
  - 陶磁器・工芸品等伝統産業組合・団体
  - 史跡・遺跡等の文化的資源保存協会、他

教育的  
な効果

社会的  
な効果

## 期待される効果

### 【芸術を通じた地域創生のための人材養成】

- 地域社会において『芸術で地域を拓く』人材の養成
- 国際社会で活躍する『芸術で世界を拓く』人材の養成
- 社会人の学び直しなど生涯教育による、地域活性化人材の養成

- アート視点から、地域社会の課題解決、産業の発展・活性化に寄与できる人材の供給  
= 『芸術を基盤とした地域創生のための佐賀大学モデル』確立
- 地方の国立大学として、教育・研究の成果を活用  
= COC機能の発揮と地(知)の拠点の実現





## 佐賀県からの若年層流出状況

【流出先】佐賀県内高校の大学への進学者数  
(平成24年4月入学者)

合計				男子			女子				
	進学先大学の所在地	実人数	県内大学進学者における割合		進学先大学の所在地	男子実人数	県内男子大学進学者における割合		進学先大学の所在地	女子実人数	県内女子大学進学者における割合
1	福岡	1,356	39.3%	1	福岡	759	39.0%	1	福岡	597	39.6%
2	佐賀	522	15.1%	2	佐賀	237	12.2%	2	佐賀	285	18.9%
3	長崎	234	6.8%	3	東京	152	7.8%	3	長崎	119	7.9%
4	東京	221	6.4%	4	長崎	115	5.9%	4	熊本	82	5.4%
5	熊本	180	5.2%	5	熊本	98	5.0%	5	東京	69	4.6%
6	神奈川	91	2.6%	6	神奈川	55	2.8%	6	神奈川	36	2.4%
7	京都	83	2.4%	7	大分	54	2.8%	7	京都	35	2.3%
8	山口	83	2.4%	8	山口	51	2.6%	8	広島	35	2.3%
9	大分	79	2.3%	9	大阪	49	2.5%	9	山口	32	2.1%
10	大阪	70	2.0%	10	京都	48	2.5%	10	兵庫	29	1.9%
11	広島	69	2.0%	11	鹿児島	46	2.4%	11	大分	25	1.7%
12	鹿児島	64	1.9%	12	広島	34	1.7%	12	宮崎	22	1.5%
13	宮崎	55	1.6%	13	宮崎	33	1.7%	13	大阪	21	1.4%
14	兵庫	49	1.4%	14	埼玉	26	1.3%	14	鹿児島	18	1.2%
15	岡山	35	1.0%	15	愛知	21	1.1%	15	岡山	17	1.1%
16	埼玉	34	1.0%	16	滋賀	20	1.0%	16	愛知	12	0.8%
17	愛知	33	1.0%	17	兵庫	20	1.0%	17	埼玉	8	0.5%
18	滋賀	28	0.8%	18	千葉	19	1.0%	18	千葉	8	0.5%
19	千葉	27	0.8%	19	岡山	18	0.9%	19	滋賀	8	0.5%
20	奈良	15	0.4%	20	沖縄	11	0.6%	20	奈良	6	0.4%
21	沖縄	15	0.4%	21	北海道	10	0.5%	21	茨城	4	0.3%
22	北海道	12	0.3%	22	奈良	9	0.5%	22	石川	4	0.3%
23	高知	12	0.3%	23	高知	9	0.5%	23	静岡	4	0.3%
24	静岡	10	0.3%	24	静岡	6	0.3%	24	沖縄	4	0.3%
25	茨城	7	0.2%	25	栃木	5	0.3%	25	島根	3	0.2%
26	栃木	7	0.2%	26	岐阜	5	0.3%	26	徳島	3	0.2%
27	岐阜	7	0.2%	27	鳥取	5	0.3%	27	愛媛	3	0.2%
28	徳島	7	0.2%	28	群馬	4	0.2%	28	高知	3	0.2%
29	石川	6	0.2%	29	徳島	4	0.2%	29	北海道	2	0.1%
30	島根	6	0.2%	30	香川	4	0.2%	30	宮城	2	0.1%
31	群馬	5	0.1%	31	岩手	3	0.2%	31	栃木	2	0.1%
32	鳥取	5	0.1%	32	茨城	3	0.2%	32	岐阜	2	0.1%
33	香川	5	0.1%	33	長野	3	0.2%	33	秋田	1	0.1%
34	愛媛	4	0.1%	34	島根	3	0.2%	34	群馬	1	0.1%
35	岩手	3	0.1%	35	石川	2	0.1%	35	富山	1	0.1%
36	長野	3	0.1%	36	青森	1	0.1%	36	山梨	1	0.1%
37	宮城	2	0.1%	37	新潟	1	0.1%	37	三重	1	0.1%
38	富山	2	0.1%	38	富山	1	0.1%	38	香川	1	0.1%
39	山梨	2	0.1%	39	山梨	1	0.1%	39	青森	0	0.0%
40	三重	2	0.1%	40	三重	1	0.1%	40	岩手	0	0.0%
41	青森	1	0.0%	41	和歌山	1	0.1%	41	山形	0	0.0%
42	秋田	1	0.0%	42	愛媛	1	0.1%	42	福島	0	0.0%
43	新潟	1	0.0%	43	宮城	0	0.0%	43	新潟	0	0.0%
44	和歌山	1	0.0%	44	秋田	0	0.0%	44	福井	0	0.0%
45	山形	0	0.0%	45	山形	0	0.0%	45	長野	0	0.0%
46	福島	0	0.0%	46	福島	0	0.0%	46	和歌山	0	0.0%
47	福井	0	0.0%	47	福井	0	0.0%	47	鳥取	0	0.0%
	その他				その他				その他		
	計	3,454	100.0%		計	1,948	100.0%		計	1,506	100.0%

※文部科学省『平成24年度学校基本調査(速報)』より算出。

平成24年度 都道府県別 大学・短大進学状況  
旺文社 教育情報センター

佐賀県内高校からの県外進学者(3ヶ年平均)

$$\{ (3,454 + 3,540 + 3,501) - (522 + 522 + 527) \} \div (3,454 + 3,540 + 3,501) \\ \doteq 0.8503 \quad \text{【 約85% 】}$$

佐賀県内高校の大学への進学者数＜流出先＞  
 (平成25年4月入学者)

合計				男子			女子				
	進学先大学の所在地	実人数	県内大学進学者における割合		進学先大学の所在地	男子実人数	県内男子大学進学者における割合		進学先大学の所在地	女子実人数	県内女子大学進学者における割合
1	福岡	1,359	38.4%	1	福岡	733	37.1%	1	福岡	626	40.0%
2	佐賀	522	14.7%	2	佐賀	264	13.4%	2	佐賀	258	16.5%
3	東京	310	8.8%	3	東京	201	10.2%	3	長崎	116	7.4%
4	熊本	234	6.6%	4	熊本	138	7.0%	4	東京	109	7.0%
5	長崎	228	6.4%	5	長崎	112	5.7%	5	熊本	96	6.1%
6	京都	108	3.1%	6	神奈川	68	3.4%	6	京都	58	3.7%
7	神奈川	98	2.8%	7	京都	50	2.5%	7	広島	45	2.9%
8	広島	85	2.4%	8	大阪	44	2.2%	8	神奈川	30	1.9%
9	山口	70	2.0%	9	広島	40	2.0%	9	兵庫	30	1.9%
10	大阪	68	1.9%	10	山口	40	2.0%	10	山口	30	1.9%
11	大分	66	1.9%	11	大分	39	2.0%	11	大分	27	1.7%
12	兵庫	55	1.6%	12	岡山	28	1.4%	12	大阪	24	1.5%
13	岡山	44	1.2%	13	兵庫	25	1.3%	13	岡山	16	1.0%
14	鹿児島	36	1.0%	14	鹿児島	23	1.2%	14	宮崎	14	0.9%
15	宮崎	35	1.0%	15	宮崎	21	1.1%	15	鹿児島	13	0.8%
16	埼玉	29	0.8%	16	千葉	20	1.0%	16	沖縄	11	0.7%
17	千葉	26	0.7%	17	埼玉	19	1.0%	17	埼玉	10	0.6%
18	滋賀	26	0.7%	18	滋賀	19	1.0%	18	愛知	9	0.6%
19	愛知	22	0.6%	19	愛知	13	0.7%	19	滋賀	7	0.4%
20	沖縄	19	0.5%	20	高知	10	0.5%	20	千葉	6	0.4%
21	高知	12	0.3%	21	石川	8	0.4%	21	山梨	4	0.3%
22	石川	10	0.3%	22	沖縄	8	0.4%	22	北海道	3	0.2%
23	北海道	7	0.2%	23	群馬	5	0.3%	23	岐阜	3	0.2%
24	島根	7	0.2%	24	静岡	5	0.3%	24	島根	3	0.2%
25	香川	7	0.2%	25	北海道	4	0.2%	25	香川	3	0.2%
26	山梨	6	0.2%	26	鳥取	4	0.2%	26	石川	2	0.1%
27	群馬	5	0.1%	27	島根	4	0.2%	27	徳島	2	0.1%
28	静岡	5	0.1%	28	香川	4	0.2%	28	高知	2	0.1%
29	鳥取	5	0.1%	29	愛媛	4	0.2%	29	青森	1	0.1%
30	愛媛	5	0.1%	30	茨城	3	0.2%	30	茨城	1	0.1%
31	茨城	4	0.1%	31	富山	3	0.2%	31	栃木	1	0.1%
32	岐阜	4	0.1%	32	奈良	3	0.2%	32	新潟	1	0.1%
33	奈良	4	0.1%	33	栃木	2	0.1%	33	奈良	1	0.1%
34	徳島	4	0.1%	34	新潟	2	0.1%	34	鳥取	1	0.1%
35	栃木	3	0.1%	35	山梨	2	0.1%	35	愛媛	1	0.1%
36	新潟	3	0.1%	36	和歌山	2	0.1%	36	岩手	0	0.0%
37	富山	3	0.1%	37	徳島	2	0.1%	37	宮城	0	0.0%
38	和歌山	2	0.1%	38	岩手	1	0.1%	38	秋田	0	0.0%
39	青森	1	0.0%	39	宮城	1	0.1%	39	山形	0	0.0%
40	岩手	1	0.0%	40	秋田	1	0.1%	40	福島	0	0.0%
41	宮城	1	0.0%	41	岐阜	1	0.1%	41	群馬	0	0.0%
42	秋田	1	0.0%	42	青森	0	0.0%	42	富山	0	0.0%
43	山形	0	0.0%	43	山形	0	0.0%	43	福井	0	0.0%
44	福島	0	0.0%	44	福島	0	0.0%	44	長野	0	0.0%
45	福井	0	0.0%	45	福井	0	0.0%	45	静岡	0	0.0%
46	長野	0	0.0%	46	長野	0	0.0%	46	三重	0	0.0%
47	三重	0	0.0%	47	三重	0	0.0%	47	和歌山	0	0.0%
	その他				その他				その他		
	計	3,540	100.0%		計	1,976	100.0%		計	1,564	100.0%

※文部科学省『平成25年度学校基本調査(速報)』より算出。

平成25年度 都道府県別 大学・短大進学状況  
 旺文社 教育情報センター

佐賀県内高校の大学への進学者数＜流出先＞  
 (平成26年4月入学者)

合計				男子			女子				
	進学先大学の所在地	実人数	県内大学進学者における割合		進学先大学の所在地	男子実人数	県内男子大学進学者における割合		進学先大学の所在地	女子実人数	県内女子大学進学者における割合
1	福岡	1,390	39.7%	1	福岡	756	38.3%	1	福岡	634	41.5%
2	佐賀	527	15.1%	2	佐賀	258	13.1%	2	佐賀	269	17.6%
3	東京	286	8.2%	3	東京	183	9.3%	3	長崎	115	7.5%
4	長崎	231	6.6%	4	長崎	116	5.9%	4	東京	103	6.7%
5	熊本	188	5.4%	5	熊本	110	5.6%	5	熊本	78	5.1%
6	京都	92	2.6%	6	神奈川	55	2.8%	6	京都	48	3.1%
7	神奈川	75	2.1%	7	京都	44	2.2%	7	広島	34	2.2%
8	山口	74	2.1%	8	大分	43	2.2%	8	山口	32	2.1%
9	広島	73	2.1%	9	山口	42	2.1%	9	大分	24	1.6%
10	大分	67	1.9%	10	鹿児島	42	2.1%	10	兵庫	23	1.5%
11	鹿児島	59	1.7%	11	広島	39	2.0%	11	神奈川	20	1.3%
12	大阪	52	1.5%	12	埼玉	34	1.7%	12	大阪	20	1.3%
13	埼玉	47	1.3%	13	大阪	32	1.6%	13	鹿児島	17	1.1%
14	岡山	42	1.2%	14	岡山	26	1.3%	14	岡山	16	1.0%
15	兵庫	41	1.2%	15	千葉	25	1.3%	15	埼玉	13	0.9%
16	千葉	35	1.0%	16	宮崎	19	1.0%	16	千葉	10	0.7%
17	宮崎	27	0.8%	17	滋賀	18	0.9%	17	愛知	9	0.6%
18	愛知	26	0.7%	18	兵庫	18	0.9%	18	宮崎	8	0.5%
19	滋賀	25	0.7%	19	愛知	17	0.9%	19	滋賀	7	0.5%
20	岐阜	11	0.3%	20	静岡	8	0.4%	20	茨城	6	0.4%
21	静岡	11	0.3%	21	北海道	7	0.4%	21	山梨	6	0.4%
22	北海道	10	0.3%	22	石川	7	0.4%	22	岐阜	5	0.3%
23	茨城	10	0.3%	23	沖縄	7	0.4%	23	奈良	4	0.3%
24	石川	10	0.3%	24	岐阜	6	0.3%	24	北海道	3	0.2%
25	山梨	9	0.3%	25	高知	6	0.3%	25	新潟	3	0.2%
26	奈良	9	0.3%	26	岩手	5	0.3%	26	石川	3	0.2%
27	高知	9	0.3%	27	奈良	5	0.3%	27	静岡	3	0.2%
28	沖縄	8	0.2%	28	茨城	4	0.2%	28	鳥取	3	0.2%
29	鳥取	6	0.2%	29	栃木	4	0.2%	29	高知	3	0.2%
30	岩手	5	0.1%	30	群馬	4	0.2%	30	徳島	2	0.1%
31	和歌山	5	0.1%	31	長野	4	0.2%	31	山形	1	0.1%
32	栃木	4	0.1%	32	和歌山	4	0.2%	32	富山	1	0.1%
33	群馬	4	0.1%	33	宮城	3	0.2%	33	和歌山	1	0.1%
34	新潟	4	0.1%	34	山梨	3	0.2%	34	島根	1	0.1%
35	長野	4	0.1%	35	三重	3	0.2%	35	愛媛	1	0.1%
36	島根	4	0.1%	36	鳥取	3	0.2%	36	沖縄	1	0.1%
37	徳島	4	0.1%	37	島根	3	0.2%	37	青森	0	0.0%
38	愛媛	4	0.1%	38	愛媛	3	0.2%	38	岩手	0	0.0%
39	宮城	3	0.1%	39	秋田	2	0.1%	39	宮城	0	0.0%
40	三重	3	0.1%	40	徳島	2	0.1%	40	秋田	0	0.0%
41	秋田	2	0.1%	41	香川	2	0.1%	41	福島	0	0.0%
42	香川	2	0.1%	42	福島	1	0.1%	42	栃木	0	0.0%
43	山形	1	0.0%	43	新潟	1	0.1%	43	群馬	0	0.0%
44	福島	1	0.0%	44	青森	0	0.0%	44	福井	0	0.0%
45	富山	1	0.0%	45	山形	0	0.0%	45	長野	0	0.0%
46	青森	0	0.0%	46	富山	0	0.0%	46	三重	0	0.0%
47	福井	0	0.0%	47	福井	0	0.0%	47	香川	0	0.0%
	その他				その他				その他		
	計	3,501	100.0%		計	1,974	100.0%		計	1,527	100.0%

※文部科学省『平成26年度学校基本調査(速報)』より算出。

平成26年度 都道府県別 大学・短大進学状況  
 旺文社 教育情報センター

佐賀大学 学部就職者数

年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
卒業者数	1408	1349	1379	1311	1437	1321	1359	1412	1357	1365
就職者数	842	818	838	871	929	815	876	922	889	924
うち佐賀県内就職者数	195	166	173	204	216	233	248	271	246	286
佐賀県内就職者の割合	23.2	20.3	20.6	23.4	23.3	28.6	28.3	29.4	27.7	31.0

※学部 … 文化教育学部、経済学部、医学部、理工学部、農学部

佐賀大学からの県外就職者（3ヶ年平均）

$$\frac{\{ (922+889+924) - (271+246+286) \}}{(922+889+924)} \\ \div 0.706 \quad \underline{\text{【 約71% 】}}$$



## 芸術地域デザイン学部設置を要望する機関 一覧

1. 佐賀県	11. 佐賀県中小企業団体中央会
2. 佐賀県教育委員会	12. 佐賀県工業連合会
3. 佐賀市	13. 有田商工会議所
4. 嬉野市	14. 佐賀県商工会議所連合会
5. 鹿島市	15. 株式会社佐賀共栄銀行
6. 神埼市	16. 株式会社佐賀新聞社
7. 吉野ヶ里町	17. 株式会社サガンドリームス
8. 有田町	
9. 佐賀県町村会	
10. 佐賀県商工会連合会	

\*特に本学部との関連のある自治体・機関からの要望書を添付

政 第 1 7 5 2 号 の 1  
平 成 2 7 年 3 月 1 3 日

国立大学法人 佐賀大学

学 長 佛 淵 孝 夫 様

佐賀県知事 山 口 祥 義



芸術地域デザイン学部の設置について（要望）

日本は、人口減少局面に入っており、それが進行すると、地域経済は縮小し、地域社会の様々な基盤の維持が困難となります。

佐賀県においても、人口減少の克服が喫緊の課題となっており、中でも、人口流出に歯止めをかけることが重要です。特に、本県では大学進学時に人材が流出しており、若者が地元に着定していない要因の一つとなっています。

また、西暦 2016 年の有田焼創業 400 年を契機として、佐賀県内の陶磁器産業が次の 100 年にも栄えるような人材、技術、文化などの基盤を強化することが求められています。

貴大学において構想発表された「芸術地域デザイン学部」を設置されることにより、大学が「地域課題の解決機関」、「地域への人材供給機関」となることができ、佐賀県の創生に大きく寄与するものと期待されます。

是非とも、「芸術地域デザイン学部」の設置を実現されますよう、強く要望いたします。

（担当 政策監グループ）

設置予定の芸術地域デザイン学部について（要望）

このたび、佐賀大学が平成28年4月に設置を目指されておられる芸術地域デザイン学部は、芸術を通じた地方創生のための人材養成を目的とした学部であり、芸術表現コースと芸術マネジメントコースの二つのコースを設けられ、伝統的な芸術の表現や技術、あるいは芸術の理論のみではなく、むしろデジタルでグローバルな現代世界にふさわしい、芸術のマネジメントという新しい概念・方法による教育を施すことが計画されています。このことは、非常に魅力的であり県内高等学校からの進学希望者の増加が見込まれ、若者の地元定着という成果につながるものと大いに期待しているところです。

そこで、一つ要望ですが、文化教育学部美術・工芸課程においては、特別教科（美術・工芸）教員養成課程の伝統があり、これまで美術・工芸の教科において多くの教員を輩出され、その教員の資質も高く評価されております。その機能を芸術地域デザイン学部で承継していただくとともに、さらにカリキュラムを充実して機能強化していただき、地方創生を担える教育者としての資質の育成にも特段のご配慮を願いたします。

つきましては、この要望を設置計画に反映していただきますよう、よろしくお取り計らいください。

平成27年3月5日

国立大学法人佐賀大学  
学長 佛淵 孝夫 様

佐賀県教育委員会  
委員長 池田 英雄



佐市企政第127号  
平成27年 3月 3日

文部科学大臣 様

佐賀市長 秀島敏行



### 芸術地域デザイン学部の設置について

佐賀大学と本市は、平成19年に相互協力協定を締結し、それまでの協力関係をさらに深めながら様々な連携事業を実施してまいりました。平成25年からは地（知）の拠点整備事業がはじまり、学生が積極的に地域活動に関わっていただいております。

このたび、佐賀大学が平成28年4月に設置を目指している芸術地域デザイン学部については、これまでの連携に加え、新たな分野における大学・学生のまちづくりへの関わりが生まれるとともに、この学部で学ぶ学生が卒業後に本市の芸術・産業の発展やまち・ひと・しごとの創生に寄与する貴重な人材となることに大きな期待を寄せております。

本市としましても、学部の設置については、「第2次佐賀市総合計画」等において産学官の連携の取組方針に位置付けられており、積極的な活用を考えております。

については、本市のまち・ひと・しごと創生の実現に向けてさらなる協働体制により取り組めますので、よろしくお取り計らいくださるようお願いいたします。



有まち第362号  
平成27年3月5日

文部科学大臣 殿

有田町長 山口 隆 敏



### 芸術地域デザイン学部の設置について（要望）

このたび、国立大学法人佐賀大学が平成28年4月に設置を目指している芸術地域デザイン学部については、窯業を主産業とする本町にとって、伝統を継承し新しい技術・製品を創造していく人材の育成、産業の活性化等に重要な役割を果たしていただくものと考えております。そこで育成される学生は、卒業後は有田町の魅力あるまちづくりや産業の活性化に寄与し、喫緊の課題である地方創生を推進する貴重な人材として大きな期待を寄せているところです。

また、その人材育成のために、地元を教材とした演習や実習等には、場所の提供や職員を講師として派遣するなど物的・人的支援により、全面的に協力したいと考えております。

ついでには、地方創生の実現に向けて、協働体制により取り組めますので、よろしくお取り計らいくださるよう要望いたします。

佐賀県町村発第 70 号  
平成 27 年 3 月 10 日

文部科学大臣  
下村 博文 殿

佐賀県町村会  
会長 武村 弘正



佐賀大学芸術地域デザイン学部の設置について（要望）

佐賀大学は、県内唯一の国立大学であり、県内各地域の若者に対する高等教育の場として重要な役割を担ってきており、県内外へ多くの人材を輩出するとともに、こうした人材は県内の産業・文化・行政・教育など様々な分野において大きな貢献を果たしてきています。

このたび、佐賀大学では、平成 28 年 4 月に芸術地域デザイン学部の新設をめぐっておられますが、当学部において育成される学生は、卒業後は佐賀県の魅力ある街づくりや本県の産業の活性化に寄与する人材となるものと大きな期待を寄せているところです。

また、新設学部で取り組まれる演習や実習などの研究活動においても、県内各地の様々な資源や市街地などを活用したフィールドワークが想定されており、地元自治体としても、こうした取り組みが、産学官金労言の連携による地方創生を進めるうえで、重要な役割を果たしていくものと確信しています。

現在、佐賀県内では佐賀大学を中心とした産学官の 6 者協定を締結し、これに基づき様々な事業に取り組んできておりますが、今回の芸術地域デザイン学部の新設は、地方創生の実現に向けて、その一翼を担う佐賀大学と地方自治体がさらに連携を深めていく新たな契機になるものと考えます。

つきましては、佐賀大学芸術地域デザイン学部の設置をぜひ実現していただき、地域社会の未来づくりに貢献していただきますよう、強く要望いたします。

平成27年3月3日

佐賀大学長 殿

佐賀県商工会連合会  
会長 飯盛 康



### 芸術地域デザイン学部の設置について（要望）

このたび、佐賀大学が平成28年4月に設置を目指している芸術地域デザイン学部において育成される学生は、卒業後は地元企業に就職して産業の活性化に寄与し、喫緊の課題である地方創生を推進する貴重な人材として大きな期待を寄せているところです。

また、その人材育成のためには、地元を教材とした演習・実習等への講師派遣やインターンシップの受け入れなど、全面的に連携・協力したいと考えております。

ついでには、地方創生の実現に向けて連携・協力を深めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお取り計らいくださるよう要望いたします。

平成27年3月9日

佐賀大学長 殿

佐賀県中小企業団体中央会  
会長 内田 健



### 芸術地域デザイン学部の設置について（要望）

佐賀県における商工業は、中小企業が企業数とともに従業員においてもその太  
宗を占める等佐賀県経済の基盤を成し、地域経済を支えているところですが中小  
企業は、単に経済活動の主体ということだけではなく、地域雇用の場の提供、様々  
な地域活動支援等、地域にとっても大変重要な役割を担っているところです。

こうした中、貴大学が、平成28年4月を目途に設置が進められている芸術地  
域デザイン学部において育成される学生は、卒業後に地元企業で産業の活性化に  
寄与していく貴重な人材として、社会経済環境の急速な変化に直面する県内中小  
企業への支援機関として期待するところであり、設置が実現した暁には当中央会  
としても人材育成のために必要な連携協力を行って参りたいと考えています。

つきましては、貴大学において計画どおり芸術地域デザイン学部を設置される  
ことを要望いたします。



平成27年3月6日

国立大学法人佐賀大学  
学長 佛 淵 孝 夫 様

佐賀県工業連合会  
会長 中 村 敏 郎



### 芸術地域デザイン学部の設置について（要望）

このたび、佐賀大学が平成28年4月に設置を目指している芸術地域デザイン学部において育成される学生は、卒業後は地元企業に就職して産業の活性化に寄与し、喫緊の課題である地方創生を推進する貴重な人材として大きな期待を寄せているところです。

また、その人材育成のためには、地元を教材とした演習・実習等への講師の派遣やインターンシップの受け入れなど、全面的に連携・協力したいと考えております。

尚、当工業連合会では平成22年4月から現在まで佐賀大学理工学部と「工業系高度人材育成コンソーシアム佐賀」の産学連携により佐賀大学理工学部の視察や学生へ価値ある講座を行っております。

ついては、地方創生の実現に向けて協連携・協力を深めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお取り計らいくださるよう要望いたします。

## 佐賀県と佐賀大学との連携に関する基本合意書

～ 有田窯業大学校の4年制大学化等に向けて ～

佐賀県（以下「甲」という。）と国立大学法人佐賀大学（以下「乙」という。）は、有田焼創業400年を契機として、県内陶磁器産業が次の100年にも栄えるような人材、技術、文化などの基盤を強化することにより、地域振興はもとより県勢発展に資するため、佐賀県立有田窯業大学校（以下「有田窯業大学校」という。）、佐賀県窯業技術センター（以下「窯業技術センター」という。）及び佐賀県立九州陶磁文化館（以下「九州陶磁文化館」という。）の機能強化について、次のとおり合意し、ここに、基本合意書を締結する。

（有田窯業大学校の4年制大学化）

第1条 甲と乙は、連携して、有田窯業大学校の4年制大学化を目指し、その具体的な検討・準備に着手する。

（窯業技術センター及び九州陶磁文化館の機能強化）

第2条 甲は、乙と連携して、窯業技術センター及び九州陶磁文化館の機能強化について、検討を行う。

（その他）

第3条 この合意書に定めのない事項又はこの合意書について疑義が生じたときは、この合意書締結の趣旨に基づき、甲乙協議のうえ、解決を図るものとする。

この合意書の締結を証するため、本書2通を作成し、甲乙署名のうえ、各自1通を保有する。

平成25年11月15日

甲 佐賀県

佐賀県知事

古川 康

乙 国立大学法人佐賀大学

学長

藤淵 孝夫

## 国立大学法人佐賀大学と佐賀県有田町との相互協力協定書

国立大学法人佐賀大学と有田町とは、相互の発展をめざして幅広い分野で協力するために、ここに協定を締結する。

1. 両者は次の事項について協力する。

- 1) 教育・文化・生涯学習及び人材育成
- 2) 地域振興及び産業振興の向上
- 3) 情報化社会の構築
- 4) 地域医療及び福祉の向上
- 5) その他相互に連携・協力が必要と認められる事項

2. 協力の形式及び協力の成果の利用方法等については、各々の課題に応じて両者間で協議する。

3. この協力協定が効果あるものとなるよう、定期的に協議の場を持って推進を図る。

4. この協定は両者の代表が署名した日に発効し、以後3年間有効とする。ただし、佐賀大学又は有田町からの異議申し立てがない場合は、3年ごとに自動的に更新されるものとする。

5. 本協定書は2通作成され、いずれも正文とする。

平成17年4月25日

佐賀県有田町長

藤原啓一郎

国立大学法人 佐賀大学長

長谷川照



佐賀大学文化教育学部と佐賀県立有田窯業大学校における連携・協力協定書

佐賀大学文化教育学部と佐賀県立有田窯業大学校（以下「両者」という。）は、相互に連携し、協力することについて、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は、両者が、相互に連携・協力し、もって教育研究の活性化及び教育課程の充実を図ることを目的とする。

（連携・協力事項）

第2条 両者が連携・協力する事項は、次のとおりとする。

- (1) 教職員の交流
- (2) 学生の交流
- (3) 講義、実習等の受講及び単位の相互認定
- (4) 施設・設備等の相互利用
- (5) 展示会等の共同開催
- (6) その他両者が必要と認める事項

（連絡会議）

第3条 両者は、第1条に規定する目的を推進するため、連絡会議を設置する。

2 連絡会議に関し必要な事項は、別に定める。

（有効期間）

第4条 この協定書は、協定書締結の日から効力を生じるものとし、両者の一方又は双方から連携・協力の終了を申し入れない限り、その効力は、継続するものとする。

（雑則）

第5条 この協定書に定めるもののほか、連携・協力の在り方等について必要な事項は、両者が協議して定めるものとする。

2 この協定書に定める事項に疑義が生じた場合、両者が協議してその解決を図るものとする。

この協定書は、2通作成し、両者がそれぞれ1通を保管するものとする。

平成20年8月11日

佐賀市本庄町1番地  
佐賀大学文化教育学部長

西松浦郡有田町大野乙2441-1  
佐賀県立有田窯業大学校長

上野 景三

西村 四郎 昭雄

佐賀大学文化教育学部と佐賀県立有田窯業大学校との連絡会議要項

(平成20年8月11日制定)

(趣旨)

第1 この要項は、佐賀大学文化教育学部と佐賀県立有田窯業大学校における連携・協力協定書(平成20年8月11日締結)第3条第2項の規定に基づき、佐賀大学文化教育学部と佐賀県立有田窯業大学校との連絡会議(以下「連絡会議」という。)に関し、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2 連絡会議は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 佐賀大学文化教育学部委員
  - ア 副文化教育学部長
  - イ 美術・工芸講座教員 若干人
  - ウ 事務長
  - エ 文化教育学部長が推薦する者
- (2) 佐賀県立有田窯業大学校委員
  - ア 副校長
  - イ 教務部教員 若干人
  - ウ 総務課長
  - エ 大学校長が推薦する者

(会議)

第3 連絡会議は、相互の連携・協力を円滑に推進するため、随時開催する。

2 連絡会議に議長を置き、委員の互選により選出する。

(委員以外の者の出席)

第4 連絡会議が必要と認めるときは、連絡会議に委員以外の者を出席させることができる。

(事務)

第5 連絡会議の事務は、議長が所属する組織が行う。

(雑則)

第6 この要項に定めるもののほか、連絡会議の運営に関し必要な事項は、連絡会議が別に定める。

附 則

この要項は、平成20年8月11日から実施する。

## 佐賀大学と佐賀県との実務者連絡協議会要項

(平成26年 5月12日制定)

### (設置)

第1 佐賀県と佐賀大学との連携に関する基本合意書（平成25年11月15日締結）に基づく佐賀県立有田窯業大学校（以下「窯業大学校」という。）の4年制大学化として、窯業大学校を佐賀大学芸術学部（仮称）（以下「芸術学部」という。）に組み入れる具体的な事項を協議するため、また、佐賀大学と佐賀県窯業技術センター（以下「技術センター」という。）及び佐賀県立九州陶磁文化館（以下「文化館」という。）との連携強化策を検討するため、佐賀大学と佐賀県との実務者連絡協議会（以下「連絡協議会」という。）を設置する。

### (協議事項)

第2 連絡協議会は、次に掲げる事項を協議する。

- (1) 窯業大学校の取扱いに関する事
- (2) 芸術学部の内容に関する事
- (3) 佐賀大学と技術センター及び文化館との連携強化策に関する事
- (4) その他附随して協議すべき事項

### (組織)

第3 連絡協議会は次に掲げる者をもって構成する。

- (1) 佐賀大学総務部長
- (2) 佐賀大学財務部長
- (3) 佐賀大学環境施設部長
- (4) 佐賀大学学務部長
- (5) 佐賀大学学術研究協力部長
- (6) 佐賀大学総務部総務課長
- (7) 佐賀大学総務部企画評価課長
- (8) 佐賀大学学務部教務課長
- (9) 佐賀県統括本部総括政策監
- (10) 佐賀県農林水産商工本部理事（有田焼創業400年事業推進グループリーダー）
- (11) 佐賀県立有田窯業大学校副校長
- (12) 佐賀県統括本部政策監（企画担当）
- (13) 佐賀県農林水産商工本部有田焼創業400年事業推進監

(議長)

第4 連絡協議会に議長を置き，議長は互選により選出する。

2 議長は，連絡協議会を主宰する。

(会議)

第5 連絡協議会は，必要に応じて開催する。

2 議長は，必要に応じて連絡協議会に構成員以外の者を出席させ，意見を聴くことができる。

(事務)

第6 連絡協議会に関する事務は，佐賀大学総務部企画評価課及び佐賀県統括本部政策監グループが協働して処理する。

(雑則)

第7 この要項に定めるもののほか，連絡協議会の運営に関し必要な事項は，連絡協議会が定める。

附 則

この要項は，平成26年5月12日から実施する。



## 佐賀県「有田焼創業400年事業」における 『オランダとの連携等による「プラットフォーム」の形成』プロジェクト (2016/ project)

<http://arita-episode2.jp/ja/index.html>  
<http://www.2016arita.com/>

佐賀県農林水産商工本部  
有田焼創業400年事業推進グループ

## 有田焼創業400年事業

### 目的

有田焼創業400年を機に、次の100年に向けた有田焼の新たな発展の第一歩となるよう、海外展開をはじめ、新たな市場開拓などに取り組むとともに、併せて、観光や文化など他の分野とも連携し、佐賀ブランドの確立や佐賀県のプレゼンスの向上を図る。

### 事業内容

#### 市場開拓

##### 海外市場の開拓

- メゾン・エ・オブジェへの出展
- ミラノ国際博覧会におけるPR 等

##### 新たな市場の開拓

- 「食」とのコラボによる新たな市場開拓
- 「ライフスタイル」分野における新たな市場開拓



#### 産業基盤整備

##### 人材集積・育成

- オランダとの連携等による「プラットフォーム」の形成 (2016/project)

##### 技術・デザイン力の向上

- 世界に通用するデザイン開発機能の強化 等

##### 伝統技術の継承・磨き上げ

- 有田焼の歴史的・学術的価値の再検証



#### 情報発信

##### 国内外への情報発信

- 各種媒体を活用した国内外への情報発信 等

##### 焼き物文化等の発信

- 九州陶磁文化館コレクション巡回展
- 首都圏における焼き物文化の発信 等





## 『オランダとの連携等による「プラットフォーム」の形成』プロジェクト

## 目的

平成25年11月1日にオランダ王国大使館と締結した「クリエイティブ産業の連携に関する協定」をベースに、海外でも評価され、必要とされる有田焼を提供し続けるため、柳原照弘氏をクリエイティブ・ディレクターとして、海外のクリエイターが集積する「プラットフォーム」を形成する。



Creative Director

柳原照弘氏

## 事業概要

## 1. 人的交流

デザイナー、生産者、教育機関等の交流を行う。

- ・県機関（窯大等）とオランダデザインアカデミー等の交流

## 2. 商品開発

世界に発信できる新しい有田焼ブランドの開発を行う。

- ・オランダを中心とする世界各国のトップデザイナーと、有田の生産者が、世界を魅了する有田焼を製作する。

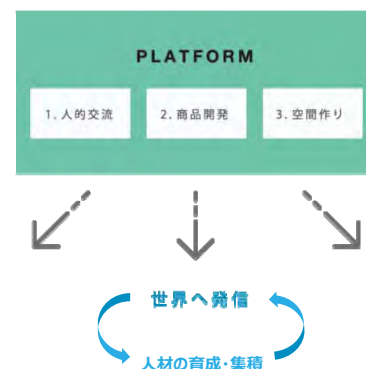
## 3. 空間作り

世界のクリエイターが集う聖地を目指す。

- ・有田へわざわざ訪れたいくなるような滞在型ワークショップや交流の場を作り出し、世界中のクリエイターが訪れる聖地を目指す。
- ・まちづくりを担う地元町と連携しながら、窯大の機能強化をはじめ、プラットフォームにおけるハブ機能の整備、強化を推進していく。

## &lt; 事業フレーム &gt;

世界のクリエイターが集積するプラットフォームの形成



## 【参加事業者】

川副青山、錦右工門陶苑、久保田稔製陶所、香蘭社、幸右工門、瀬兵、徳永製陶所、畑萬陶苑、深海三龍堂、藤巻製陶、宝泉窯、まるぶん、百田陶園、山忠、ヤマト陶磁器、藍土（窯元メーカー10社、商社6社）

3

## 佐賀県とオランダ王国大使館とのクリエイティブ産業の交流に関する協定式

## 日時

平成25年11月1日（金曜日）10時30分～13時00分

## 場所

オランダ大使館（〒105-0011東京都港区芝公園3-6-3）

## 参加者

日本国 佐賀県知事  
オランダ王国 駐日オランダ王国特命全権大使

## オランダのデザイン



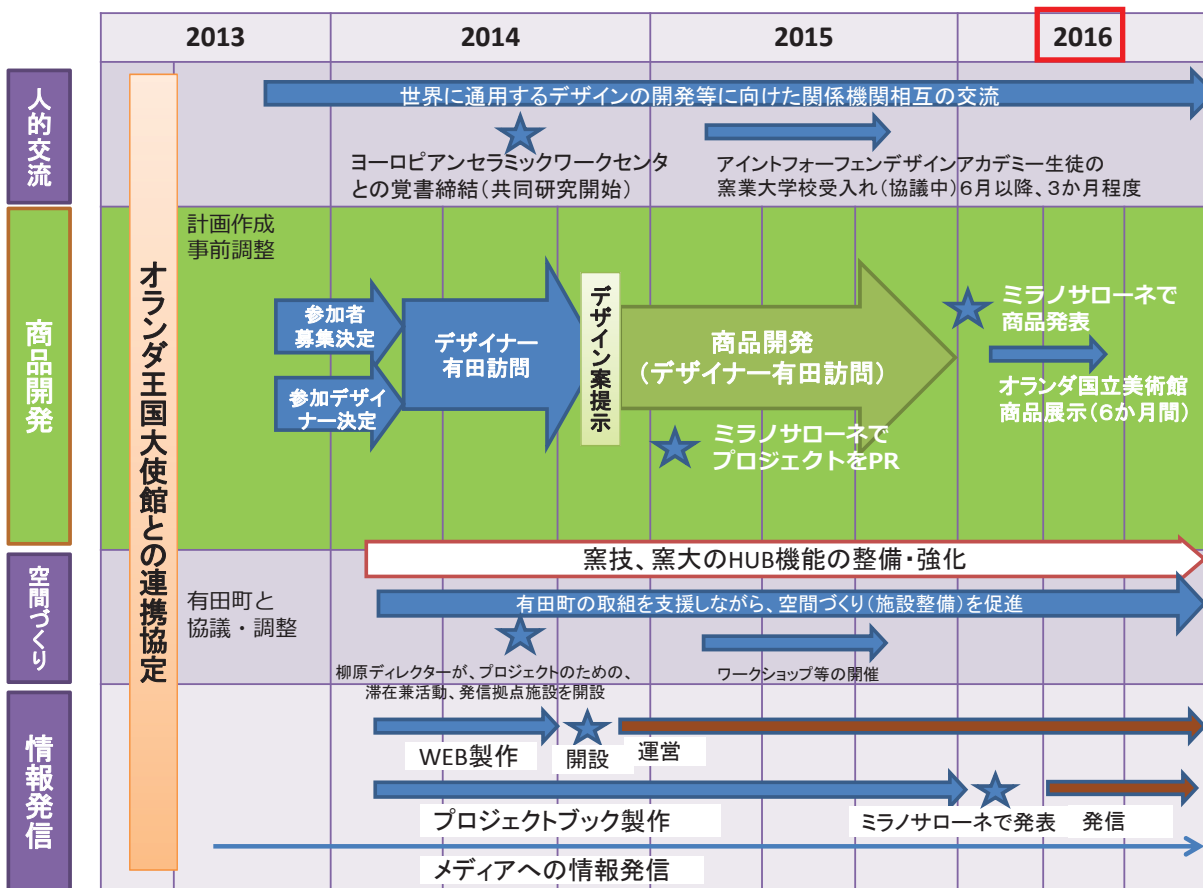
## 有田焼のものづくり

## 内容

「1616/Arita Japan」の開発がきっかけとなり、有田焼創業400年を迎える佐賀県と、「ダッチデザイン」で世界のデザインの中心的存在であり、歴史的にも有田焼との繋がりが深いオランダ王国と手を組み、ものづくりとデザインが交わる「プラットフォーム」を創り、世界に発信していくことで合意し、連携協定を締結する。

- （1）オランダ王国のデザインと有田焼のものづくりの連携によるクリエイティブ産業の活性化を図るため、両国・地域間の人的交流や教育・学術・研究機関相互の交流などを推進する。
- （2）上記の交流を機に、広く文化施策や産業施策などにおいても相互交流を推進する。





## プロジェクトの目標<達成イメージ>

### 1年目ー 2014年

- ・このプロジェクトが世界のデザイナーの中で認知され出す。(デザイナー、PR、雑誌での発信を中心に)
- ・プロジェクトのベースとして、関係者が集まって議論できる環境(場所)を有田町内に作り一体となる。
- ・デザイナーが来訪し、宿泊、ワークショップ、議論をするための最低限の施設を準備する。
- ・プロジェクトの関係者が共通の達成イメージを持ち、自発的に議論をしていける状況になる。

### 2年目ー 2015年

- ・国内、海外でのビジネス展開の枠組みを組み立てる。(海外の提携先、ビジネスモデル作成)
- ・プロジェクトをオープンな形で発言し、WEB、エルデコなどの媒体及びデザイナーのネットワークで、プロジェクトが世界に広まる。
- ・新商品群のクオリティの基準をプロジェクト関係者で話し合い、明確にしていく。
- ・16事業者以外も集まれる仕組み、環境を作る。(プラットフォームのきっかけづくり)
- ・ワークショップや講演会を通じて、プロジェクトを参加事業者以外の住民にも公開していく。

### 3年目ー 2016年

- ・2016/project、有田の新ブランド名が欧州で認知され、広まっている。(4月のミラノサローネでは新商品が期待感をもって受け入れられ、多くの来場者。)
- ・展示後から新製品、OEMの受注が始る。→ビジネスとして受注ができる状態ができています。

### 4年目ー以降

- ・有田、伊万里のプラットフォームが本格稼働し、多くのデザイナーやデザイン関係者を受け入れる。
- ・新たな「世界的な統一ブランド」として、新商品が国内、海外で展開している。

### 【3 伝統産業】

#### 伝統的工芸品

「伊万里・有田焼」

「唐津焼」

#### (1) 指定製品の概要

「伝統的工芸品産業の振興に関する法律」により、昭和52年に「伊万里・有田焼」が、また昭和63年に「唐津焼」がそれぞれ伝統工芸品として国の指定を受け、それぞれの産地において振興計画に基づき、後継者育成事業、需要開拓事業等の各種振興事業に取り組んでいる。

いずれも本県を代表する伝統産業であり、「伊万里・有田焼」は、約400年の古い伝統のもとに育てられ永い歴史を経て今日に至っているが、海外においては古伊万里の名称で、国内においては伊万里焼、有田焼の名称で一般に親しまれ使用されてきた。磁器としては日本で最も古いとされており、華麗なる赤絵の発祥の地として永く栄えてきた。

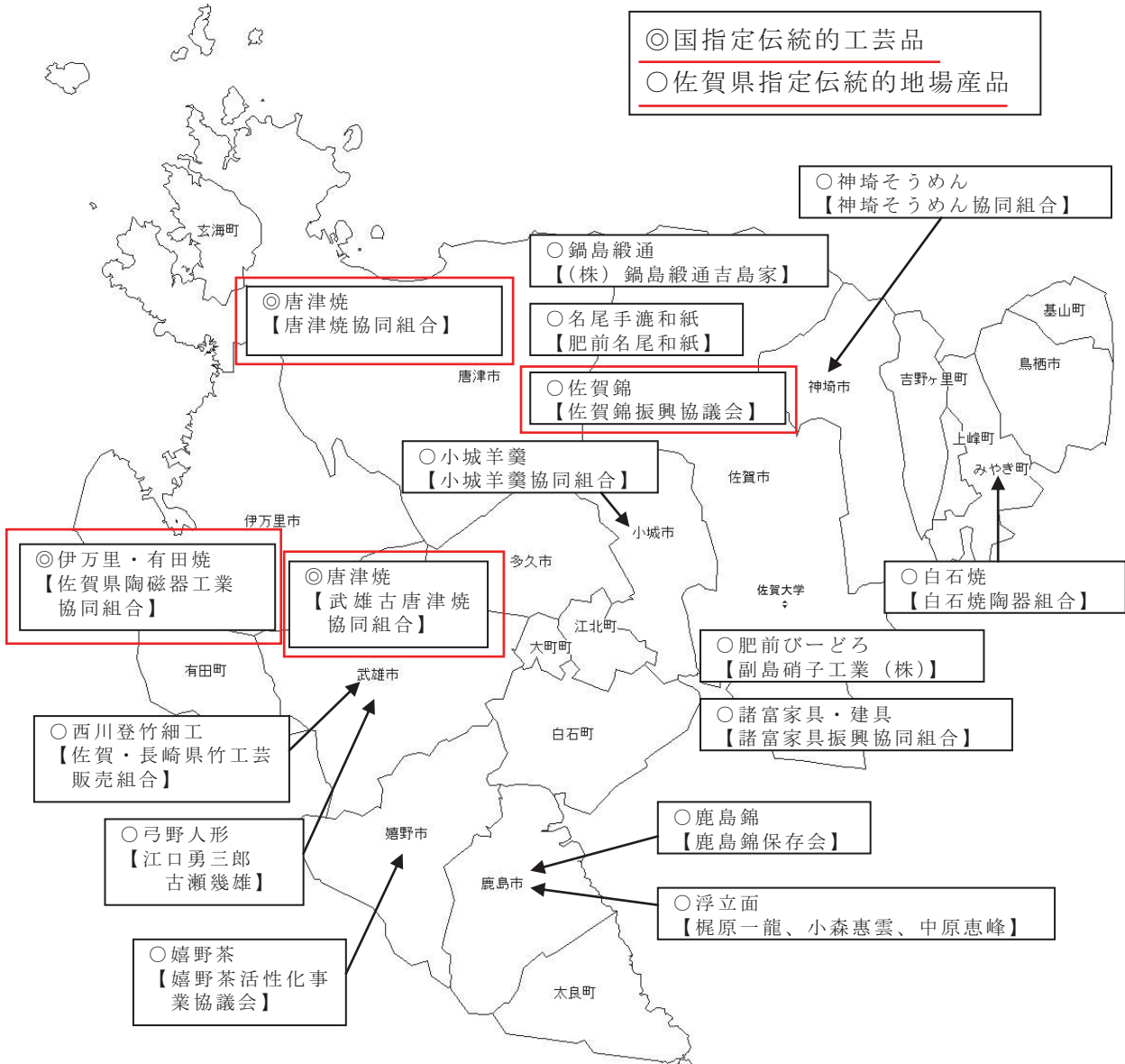
また、古くから「一楽、二萩、三唐津」と茶人に親しまれてきた唐津焼は、渋みのある土味と素朴な作調が特徴であり、製品も種類が多く変化に富んでいるのが特徴である。

#### (2) 産地の現状と課題

伊万里・有田焼産地は、企業集積度も高く、流通体制も整備されているが、生産品目が日用食器や割烹食器に偏った産業構造となっており、長引く景気低迷、個人消費の伸び悩み等により、厳しい状況が続いている。今後は伝統的な高級和飲食器産地としての特長を生かしながら、製品の高付加価値化、エクステリア製品や建材などの景観材料やファインセラミックス製品の開発・応用、窯業廃棄物を使ったりサイクル商品の開発など新分野進出への積極的な取組による多様な製品展開を通じた産地活性化が求められている。

唐津焼については、生産者が小規模分散しており、流通面でも伊万里・有田焼に比べて立ち遅れがみられ流通体制の整備とともに、産地の核となる施設造りや観光客の受け入れ体制整備など産地をあげての体制づくりが求められている。

■佐賀県のご伝統工芸品及び伝統的地場産品産地分布 (図2-1-16)



## 県指定伝統的

### 地場産品

「嬉野茶」

「小城羊羹」

「鹿島錦」

「神埼そうめん」

「佐賀錦」

「白石焼」

「諸富家具・建具」

「名尾手漉和紙」

「鍋島緞通」

「西川登竹細工」

「肥前びどろ」

「浮立面」

「弓野人形」

### (3) 県指定制度の趣旨・概要

佐賀県内には、国の伝統的工芸品として指定を受けている「伊万里・有田焼」及び「唐津焼」の他、伝統的な技術・技法を受け継ぐ優れた工芸品でありながら産地規模が小さい等のために国指定の対象外となっているものが数多く見られる。また、工芸品以外においても、佐賀県の歴史と風土に培われ、地域の生活文化として定着している伝統的な食品も県内に散在している。

これらの伝統的な地場産品の産地を取り巻く環境は、国内市場の産地間競争激化や消費者ニーズの多様化、さらには後継者の減少など厳しい状況にある。

また、一方では、個性化、多様化し、ゆとりと潤いのある生活が求められる近年において、こうした地域の産品に対する感心も高まり、その重要性が再認識されてきている。

このような状況を踏まえ、平成5年度において国指定の対象とならない県内伝統的地場産品に対する指定制度を創設し、産業としての発展を図ることを目的に、一定要件のもと7品目について「佐賀県指定伝統的地場産品」として指定を行った。(平成5年10月19日付け第1次指定分)

更に、平成14年度には一部指定要件を緩和し、新たに6品目の追加指定を行った。(平成15年3月31日付け第2次指定分)

また、郷土が誇る伝統的地場産品として、県指定を表す認定マークを制定したのをはじめ、県の各種広報事業を通じて、広く県内外に向けてその普及・PRを行うとともに、需要開拓のための各種物産展等の情報の提供や参加経費の助成を行うなど、伝統的地場産品の支援に努めているところである。

### (4) 指定産品の概要一欄

「佐賀県指定伝統的地場産品」として指定を受けた13品目については、表2-1-5のとおりである。



# もくじ

- 1p ..... はじめに
- 2p ..... 本書の読み方

## ● 経済産業大臣指定伝統的工芸品

- 3p ..... ① 博多織
- 4p ..... ② 博多人形 ③ 小石原焼
- 5p ..... ④ 上野焼 ⑤ 久留米緋
- 6p ..... ⑥ 八女福島仏壇 ⑦ 八女提灯

## ● 福岡県知事指定特産民工芸品

- 7p ..... ⑧ 孫次夙 ⑨ 八朔の馬 ⑩ 津屋崎人形
- 8p ..... ⑪ 福岡積層工芸ガラス ⑫ 博多曲物 ⑬ 博多鉢
- 9p ..... ⑭ 博多張子 ⑮ 博多独楽 ⑯ もうそ
- 10p ..... ⑰ 杷木五月節句幟 ⑱ 英彦山がらがら ⑲ 棕櫚箒
- 11p ..... ⑳ 久留米おきあげ ㉑ 籃胎漆器 ㉒ 城島鬼瓦
- 12p ..... ㉓ 筑後和傘 ㉔ 鍋島緞通 ㉕ 八女手漉和紙
- 13p ..... ㉖ 八女石灯ろう ㉗ 八女竹細工 ㉘ 八女矢
- 14p ..... ㉙ 八女和ごま ㉚ 赤坂人形 ㉛ きじ車
- 15p ..... ㉜ 掛川 ㉝ 大川総桐箆筒 ㉞ 大川彫刻
- 16p ..... ㉟ 大川組子 ㊱ 柳川まり ㊲ 柳川神棚

## ● 県内工芸品の新たな試み・コラボ作品

- 17p ..... INORI、博多テックスLLP(有限責任事業組合)、  
ナッティーラビット、小石原ポタリー、COCCIO
- 18p ..... サルエルパンツ、久留米緋日傘、小型仏壇、  
提灯バッグ、MAKIE HAGAKI

## ● 県内工芸品の制作実演・体験ができる工房

- 19p ..... KITE HOUSEまごじ、井上工房、博多織工房 白南風、  
有限会社マルティグラス、筑前津屋崎人形巧房、  
森博多織株式会社、天平工房
- 20p ..... 英彦山がらがら鈴類窯元、まごころ工房 棕櫚の郷、  
一の瀬焼窯元、きじ車みやもと、大川一刀彫館、  
木下木芸、古賀神棚店、ハラダ手芸店

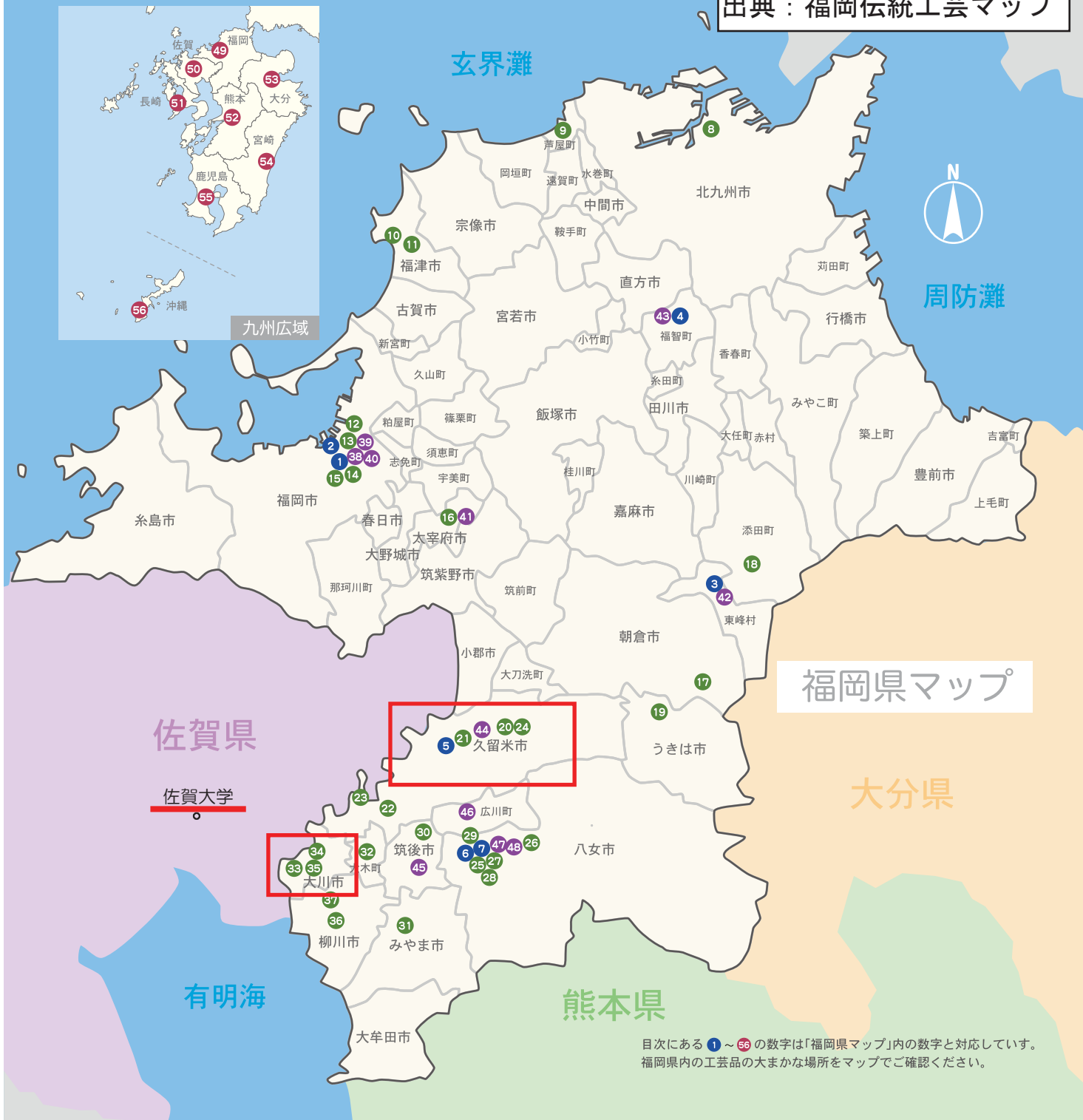
## ● 工芸品関連施設(県内市町村)

- 21p ..... ㉟ アクロス福岡 匠ギャラリー
- 22p ..... ㊳ はかた伝統工芸館 ㊴ 「博多町家」ふるさと館
- 22p ..... ㊵ 太宰府館 ㊶ 小石原焼伝統産業会館
- ㊷ 上野の里ふれあい交流会館(陶芸館)
- ㊸ 久留米地域地場産業振興センター
- ㊹ 筑後市郷土資料館 ㊺ 広川町産業展示会館
- ㊻ 八女伝統工芸館 ㊼ 八女手すき和紙資料館

## ● 九州沖縄各県工芸品関連施設

- 23p ..... ㊽ 福岡県庁展望室・物産観光展示室
- ㊾ 佐賀県産業振興センター
- ㊿ 長崎県伝統工芸品展示場「ながさき匠の館」
- ㊽ 熊本県伝統工芸館
- 24p ..... ㊽ 別府市竹細工伝統産業会館
- ㊾ 佐土原歴史資料館「鶴松館」
- ㊿ 奄美の里
- ㊽ 那覇市伝統工芸館

出典：福岡伝統工芸マップ



福岡県マップ

目次にある ①～⑤⑥ の数字は「福岡県マップ」内の数字と対応しています。  
福岡県内の工芸品の大まかな場所をマップでご確認ください。

## 「佐賀大学学士力」について

「佐賀大学 学士力」とは、佐賀大学の学士課程で学習する学生が、卒業までに身につける能力を定めたものです。佐賀大学では、学士力に示した能力を学生に身につけさせることを目指し、教育を行っています。

### 佐賀大学 学士力

佐賀大学では、基礎的及び専門的な知識と技能に基づいて課題を発見し解決する能力を培い、個人として生涯にわたって成長し、社会の持続的発展を支える人材を養成する。そのために、佐賀大学の学士力を次のとおり位置づける。

#### 1. 基礎的な知識と技能

##### (1) 文化と自然

世界を認識するための幅広い知識を有機的に関連づけて修得し、文化（芸術及びスポーツを含む）的素養を身につけている。

##### (2) 現代社会と生活

健全な社会や健康な生活に関する種々の知識を修得し、生活の質の向上に役立てることができる。

##### (3) 言語・情報・科学リテラシー

① 日本語による文書と会話で他者の意思を的確に理解できるとともに、自らの意思を表現し他者の理解を得ることができる。英語を用いて、専門分野の知識を修得でき、自己の考えを発信できる。初修外国語を用いて、簡単な会話ができ平易な文章を読み書きできる。

② 情報を収集し、その適正を判断でき、適切に活用・管理できる。

③ 科学的素養を有し、合理的及び論理的な判断ができる。

##### (4) 専門分野の基礎的な知識と技法

専門分野において、基本概念や原理を理解して説明でき、一般的に用いられている重要な技法に習熟している。

#### 2. 課題発見・解決能力

##### (1) 現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力

現代社会における諸問題を多面的に考察し、その解決に役立つ情報を収集し分析できる。

##### (2) プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力

専門分野の課題を発見し、その解決に向けて専門分野の基礎的な知識と技法を応用することができる。

##### (3) 課題解決につながる協調性と指導力

課題解決のために、他者と協調・協働して行動でき、また、他者に方向性を示すことができる。

#### 3. 個人と社会の持続的発展を支える力

##### (1) 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力

文化や伝統などの違いを踏まえて、平和な社会の実現のために他者の立場で物事を考えることができる。また、自然環境や社会的弱者に配慮することができる。

##### (2) 持続的な学習力と社会への参画力

様々な問題に積極的に関心を持ち、自主的・自律的に学習を続けることができる。自己の生き方を考察し、主体的に社会的役割を選択・決定し、生涯にわたり自己を活かす意欲がある。

##### (3) 高い倫理観と社会的責任感

高い倫理観を身につけ社会生活で守るべき規範を遵守し、自己の能力を社会の健全な発展に寄与しうる姿勢を身に付けている。

#### 備考

1. 各項目の実施組織および実施方法は、別に定める。
2. 各項目に対応する授業科目の数・単位数は、学部が定めるところによる。

# 芸術地域デザイン学部「養成する人材像と特色ある教育カリキュラム」

## 養成する人材像

芸術表現力、芸術的発想力、企画力を身につけ、地域資源に新たな付加価値を見出し、魅力ある地域の創生に資する人材を養成する。また、佐賀大学で学んだノウハウを携えて、九州のみならず国内外の多くのフィールドで地域創生を実現させることのできる人材を養成する。さらに、伝統産業に限らず、様々な産業(企業)に新たな発想力を展開することのできる人材の養成を目指す。

## 特色あるカリキュラム

○新しい(コンセプトによる)芸術系学部: 経営的な視点、科学的な視点を重要視するカリキュラム ○総合大学の強み: 多分野、他領域から総合的・多角的に芸術を捉えるカリキュラム ○自治体や企業が参画する実践型授業により、地域の課題発見・問題解決能力を鍛錬するカリキュラム

特色ある入試

芸術表現コースは表現力、地域デザインコースは発想力と企画力

芸術表現コース

地域デザインコース

学内施設でのワークショップ(美術館、附属学校園等)

1年次	2年次	3年次	4年次	人材像
<p>芸術表現A (日本画, 西洋画, 彫刻)</p> <p>芸術表現B (窯芸, 染色工芸, 漆・木工芸)</p> <p>総合大学の強みを活かした初年次教育 =文理医芸の融合, 領域横断する力</p> <p>①大学入門科目 ②芸術表現基礎(3科目)、地域デザイン基礎(3科目) ③芸術・地域文化, デザイン発想に関わる科目 ④グローバルな視点に関わる科目 ⑤マネジメントに関わる科目</p> <p>ランドスケープ 博物館概論 博物館学内実習 美術史基礎 風土と地理学</p>	<p><b>芸術表現コース科目</b></p> <p>各専門(日本画, 西洋画, 彫刻, 染色工芸, 漆・木工芸, ミクストメディア)基礎, 各専門Ⅰa・Ⅰb, 金属工芸Ⅰa・Ⅰb, 各専門Ⅱa・Ⅱb, 金属工芸Ⅱa・Ⅱb, 視覚伝達デザイン各専門概論</p> <p>釉薬科学概論, セラミック原料化学, セラミック焼成, 衣食住文化論, 世界の中の肥前陶磁器, 食と器, 陶磁特別演習Ⅰ・Ⅱ, 各専門(陶磁成型技法, 装飾技法, ロクロ成形, 石膏型成型)Ⅰ・Ⅱ・特別演習, 釉薬科学, 唐津焼演習, 美術品流通論</p> <p><b>コア科目</b></p> <p>芸術文化・地域創生論 (国内外地域プロジェクト事例研究)</p> <p><b>地域デザインコース科目</b></p> <p>各専門(コンテンツデザイン, 映像デザイン, 情報デザイン)Ⅰ・Ⅱ, プロジェクト演習, コミュニケーションデザイン論, コミュニケーションデザイン演習, メディアアート論, メディアアー実習</p> <p>キュレイトング基礎, 博物館展示論, 美術史Ⅰ・Ⅱ・演習, アートプロデュース演習Ⅰ, 美術品流通論, デザイン基礎, 博物館学内実習, 考古学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・演習Ⅰ・実習Ⅰ, 地域史論Ⅰ・Ⅱ, アーカイブズ論, キュレーター実務実践演習, キュレイトング応用Ⅰ・Ⅱ, アートプロデュース論, 陶磁史</p> <p>地域マネジメント演習, フィールドデザイン演習Ⅰ, ヘリテージマネジメント演習, エリアスタディー演習Ⅰ, 経営・流通演習Ⅰ・Ⅲ, 考古学, 地域史論, 都市空間論Ⅰ, 都市・地域空間史, ヘリテージマネジメント論, フィールドワーク実習, インターカルチュラル・コミュニケーションとアートⅠ, クリティカル・スタディーズⅠ</p>	<p>各専門Ⅰa・Ⅰb, 金属工芸Ⅰa・Ⅰb, 各専門Ⅱa・Ⅱb, 金属工芸Ⅱa・Ⅱb, 各専門Ⅲa・Ⅲb, 各専門概論</p> <p>陶磁マーケティング, 衣食住文化論, 食と器, 陶磁特別演習Ⅰ・Ⅱ, 各専門Ⅲ・特別演習, 釉薬化学Ⅱ, セラミック科学演習, セラミック科学実験, 唐津焼演習, CAD/CAMⅠ・Ⅱ, 陶磁器産業論</p> <p><b>理論と実践の往還</b></p> <p>有田キャンパスプロジェクト 地域創生フィールドワーク 国内外芸術研修</p> <p><b>理論と実践の往還</b></p> <p>メディアプレゼンテーション, デザイン実践セミナー, デザインプロジェクト演習 各専門Ⅲ, , 地域ブランディング論, 地域ブランディング実習</p> <p>美術史Ⅲ, アートプロデュース演習Ⅱ, 地域調査分析, 地域史論Ⅲ, 地域史演習, 考古学演習Ⅱ・実習Ⅱ, アートマネジメント特別講義, キュレーター実務実践実習, 古文書解読演習, 博物館学外実習</p> <p>都市空間論Ⅱ, 博物館の政治学, 地域資源論, フィールドデザイン演習Ⅱ, エリアスタディー演習Ⅱ, 経営・流通演習Ⅱ, ミュージアム・マーケティング, クリティカル・スタディーズⅡ・Ⅲ, インターカルチュラル・コミュニケーションとアートⅡ・Ⅲ, 地域雇用政策論, 経営・流通演習Ⅱ・Ⅳ</p>	<p>卒業認定</p> <p>卒業研究審査</p> <p>調査・研究プレゼンテーション審査</p> <p>卒業制作</p> <p>卒業課題研究</p> <p>公開審査</p>	<p>企業</p> <p>作家</p> <p>美術教員</p> <p>窯業</p> <p>陶芸家</p> <p>企画会社</p> <p>マスコミ関係</p> <p>デジタルコンテンツクリエイター</p> <p>Webデザイナー</p> <p>アートコーディネーター</p> <p>デパート</p> <p>博物館</p> <p>自治体</p> <p>まちづくり観光</p> <p>旅行会社</p>

地域資源に新たな付加価値を加え、魅力ある地域を創生



芸術表現コースにおける教育目標を達成するための授業科目の流れ(カリキュラムマップ)

学位授与の方針	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期	
1 基礎的な知識と技能	(1)芸術・歴史・思想・自然科学・現代社会と生活に関する授業科目を履修・修得し、それらの知識を基に、美術・工芸分野の専門家として創作活動やその他の活動を通じ、地域創生に携わることができる。	基本教養科目 (自然科学と技術の分野)							
		基本教養科目 (文化の分野)							
		基本教養科目 (現代社会の分野)							
	(2)言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目を履修・修得し、美術・工芸分野の専門家として必要な柔軟な思考力と実践能力を有する。コミュニケーションスキルや情報収集・分析力を有し、モラルに則ってそれらを効果的に活用することができる。	英語A C13-83.01	英語B C13-83.02	英語C C13-83.03	英語D C13-83.04				
		情報基礎概論 C13-00.01	デジタル表現基礎 A13-177						
		基本教養科目 (自然科学と技術の分野)							
			Key Concepts in Art (キーコンセプト) A14-180						
		地域デザイン基礎(デザイン) A14-174	デザイン発想論 A14-177	工芸理論 A14-275	芸術文化・地域創生論 (国内外地域プロジェクト事例研究) A14-270				
		地域デザイン基礎(マネジメント) A14-171	デジタル表現基礎 A13-177	図法 A14-270	デザイン基礎 A14-274				
		地域デザイン基礎(フィールドワーク) A14-130	職業キャリア論 A14-133	製図 A21-270	材料学 A21-257				
		芸術表現基礎(絵画) A14-172	芸術表現A (日本画) A14-172	西洋画概論 A14-272	日本画概論 A14-272				
		芸術表現基礎(彫刻) A14-171	芸術表現A (西洋画) A14-172	彫刻概論 A14-271	現代美術概論 A14-270				
		芸術表現基礎(工芸) A14-175	芸術表現A (彫刻) A14-171	彫刻基礎 A14-171	日本画基礎 A14-172				
		流通論 A14-133	芸術表現B (窯芸) A14-175	西洋画基礎 A14-172	ミクストメディア基礎 A14-171				
		アートマネジメント A14-170	芸術表現B (染色工芸) A14-175	日本画Ⅰa A14-272	日本画Ⅱa A21-372	日本画Ⅰb A14-272	日本画Ⅱb A21-372		
			芸術表現B (漆・木工芸) A14-175	西洋画Ⅰa A14-272	西洋画Ⅱa A21-372	西洋画Ⅰb A14-272	西洋画Ⅱb A21-372		
			美術史基礎 A14-170	彫刻Ⅰa A14-271	彫刻Ⅱa A21-371	彫刻Ⅰb A14-271	彫刻Ⅱb A21-371		
			アートマーケティング A14-133	ミクストメディアⅠa A14-271	ミクストメディアⅡa A21-371	ミクストメディアⅠb A14-271	ミクストメディアⅡb A21-371		
			文化経済論 A14-233	視覚伝達デザインⅠ A14-277	コンテンツデザインⅠ A14-277	視覚伝達デザインⅡ A21-277			
			比較オリエンタリズム研究 A14-122	映像デザインⅠ A14-277	情報デザインⅠ A14-277				
			Key Concepts in Art (キーコンセプト) A14-180	染色工芸概論 A14-275	漆・木工芸概論 A14-275				
				染色工芸基礎 A14-175	漆・木工芸基礎 A14-175				
				染色工芸Ⅰa A14-275	染色工芸Ⅱa A21-375	染色工芸Ⅰb A14-275	染色工芸Ⅱb A21-375		
				漆・木工芸Ⅰa A14-275	漆・木工芸Ⅱa A21-375	漆・木工芸Ⅰb A14-275	漆・木工芸Ⅱb A21-375		
				金属工芸Ⅰa A14-275	金属工芸Ⅱa A21-275	金属工芸Ⅰb A14-275	金属工芸Ⅱb A21-275		
				窯芸基礎 A14-275	応用木工芸 A14-275				
				セラミック原料化学 A14-275	世界の中の肥前陶磁器 A22-259	陶磁マーケティング A21-233	陶磁器産業論 A21-333		
				セラミック成形化学 A14-275	陶磁史 A21-221	衣食住文化論 A21-259			
				陶磁成形技法Ⅰ A14-275	陶磁成形技法Ⅱ A21-275	唐津焼演習 A22-275			
				装飾技法Ⅰ A14-275	装飾技法Ⅱ A21-275	CAD/CAMⅠ A14-375	CAD/CAMⅡ A21-375	学部共通科目	
				ロクロ成形Ⅰ A14-275	ロクロ成形Ⅱ A21-275				コース基礎科目
				石膏型成型Ⅰ A14-275	石膏型成型Ⅱ A21-275	セラミック科学実験 A21-375			コース選択科目
				陶磁化学Ⅰ A14-257	セラミック焼成 A14-275	セラミック科学演習 A21-375	陶磁化学Ⅱ A21-357		自由選択科目
	2 課題発見・解決能力	美術の造形やデザインが人間社会にどのような影響を与えることができるかについて問題意識をもち、それらを追及していく強い意志をもっている。	大学入門科目Ⅰ C21-10.01	デザイン発想論 A14-177	インターフェース科目 C30-02.00	インターフェース科目 C30-02.00	インターフェース科目 C30-02.00	インターフェース科目 C30-02.00	
		地域デザイン基礎(デザイン) A14-174	職業キャリア論 A14-133	工芸理論 A14-275	芸術文化・地域創生論 (国内外地域プロジェクト事例研究) A14-270				
		地域デザイン基礎(マネジメント) A14-171	アートマーケティング A14-132	知的財産権学 A33-232	デザイン基礎 A14-274	衣食住文化論 A21-259			
		地域デザイン基礎(フィールドワーク) A14-130	文化経済論 A14-232	アートと科学 A21-275	美術品流通論 A21-233	陶磁マーケティング A21-233			
		芸術表現基礎(絵画) A14-172	比較オリエンタリズム研究 A14-121	西洋画概論 A14-272	地域再生デザイン学 A21-251				
		芸術表現基礎(彫刻) A14-171		彫刻概論 A14-271	日本画概論 A14-272				
		芸術表現基礎(工芸) A14-175		視覚伝達デザインⅠ A14-277	現代美術概論 A14-270	視覚伝達デザインⅡ A21-277	視覚伝達デザインⅢ A23-377		
		アートマネジメント A14-170		映像デザインⅠ A14-277	コンテンツデザインⅠ A14-277				
		流通論 A14-133		コミュニケーションデザイン論 A31-377	情報デザインⅠ A14-277	地域ブランディング論 A31-377	メディアアート論 A31-377		
				コミュニケーションデザイン演習 A31-377		地域ブランディング演習 A31-377	メディアアート演習 A31-377		
				染色工芸概論 A14-275	漆・木工芸概論 A14-275				
				食と器 A21-259	日本画Ⅱa A21-372	日本画Ⅱb A21-372			
					西洋画Ⅱa A21-372	西洋画Ⅱb A21-372			
					彫刻Ⅱa A21-371	彫刻Ⅱb A21-371			
					染色工芸Ⅱa A21-375	染色工芸Ⅱb A21-375			
					漆・木工芸Ⅱa A21-375	漆・木工芸Ⅱb A21-375			
					ミクストメディアⅡa A21-371	ミクストメディアⅡb A21-371			
					金属工芸Ⅱa A21-375	金属工芸Ⅱb A21-375			
						彫刻Ⅲa、Ⅲb A23-371	日本画Ⅲa、Ⅲb A23-372		
						染色工芸Ⅲa、Ⅲb A23-375	西洋画Ⅲa、Ⅲb A23-372		
						漆・木工芸Ⅲa、Ⅲb A23-375	ミクストメディアⅢa、Ⅲb A23-371		
					陶磁史 A14-275				
					世界の中の肥前陶磁器 A22-259				
					陶磁特別演習Ⅰ A22-275		陶磁特別演習Ⅱ A22-275		
					陶磁成形技法Ⅱ A21-275	陶磁成形技法Ⅲ A23-375			
					装飾技法Ⅱ A21-275	装飾技法Ⅲ A23-375		学部共通科目	
					ロクロ成形Ⅲ A21-275	ロクロ成形Ⅳ A23-375		コース基礎科目	
					石膏型成型Ⅲ A21-275	石膏型成型Ⅳ A23-375		コース選択科目	
					装飾技法特別演習 A22-275	陶磁技法特別演習 A22-275		自由選択科目	
					石膏型成型特別演習 A22-275	ロクロ特別演習 A22-275		卒業研究 A33-370	
3 個人と社会の持続的発展を支える力		美術を通してよりよい社会の形成に寄与していく強い意志をもっている。	地域デザイン基礎(デザイン) A14-174	デザイン発想論 A14-177	インターフェース科目 C30-02.00	インターフェース科目 C30-02.00	インターフェース科目 C30-02.00	インターフェース科目 C30-02.00	
			地域デザイン基礎(マネジメント) A14-171	職業キャリア論 A14-133	知的財産権学 A33-232	地域再生デザイン学 A21-251			学部共通科目
			地域デザイン基礎(フィールドワーク) A14-130	文化経済論 A14-233		美術品流通論 A21-233	有田キャンパスプロジェクト A32-375		コース基礎科目
			アートマネジメント A14-170	アートマーケティング A14-133		芸術文化・地域創生論 (国内外地域プロジェクト事例研究) A14-270	地域創生フィールドワーク A33-330		コース選択科目
		比較オリエンタリズム研究 A14-122				国内外芸術研修 A33-370		自由選択科目	
			Key Concepts in Art (キーコンセプト) A14-180	コミュニケーションデザイン論 A31-377		地域ブランディング論 A31-377		メディアアート論 A31-377	
標準修得単位数	20	20	18	19	18	17	7	5	

地域デザインコースにおける教育目標を達成するための授業科目の流れ(カリキュラムマップ)

学位授与の方針	1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期	
1 基礎的な知識と技能	(1) 芸術・歴史・思想・自然科学・現代社会と生活に関する授業科目を履修・修得し、それらの知識を基に、美術・工芸分野の専門家として創作活動やその他の活動を通じ、地域創生に携わることができる。								
	基本授業科目(自然科学と技術の分野)								
	基本授業科目(文化の分野)								
	基本授業科目(現代社会の分野)								
	英語A C13-83.01	英語B C13-83.02	英語C C13-83.03	英語D C13-83.04					
	基本授業科目(第二外国語科目群)								
	情報基礎概論 C13-00.01	デジタル表現基礎 A13-177							
	基本授業科目(自然科学と技術の分野)								
		Key Concepts in Art (キーコンセプト・イン・アート) A14-180							
	地域デザイン基礎(デザイン) A14-174	デザイン発想論 A14-177	知的財産権学 A33-232	芸術文化・地域創生論(国内外地域プロジェクト事例研究) A14-270					
	地域デザイン基礎(マネジメント) A14-171	デジタル表現基礎 A13-177	工芸理論 A14-275	地域再生デザイン学 A21-251					
	地域デザイン基礎(フィールドワーク) A14-130	職業キャリア論 A14-133	アートと科学 A21-275						
	芸術表現基礎(絵画) A14-172		映像デザイン I A14-277	情報デザイン I A14-277					
	芸術表現基礎(彫刻) A14-171		視覚伝達デザイン I A14-277	コンテンツデザイン I A14-277					
	芸術表現基礎(工芸) A14-175								
		博物館概論 A14-170	博物館概論(博物館学Ⅱ) A14-270	博物館資料論(博物館学Ⅲ) A14-270					
			博物館資料保存論(芸術と倫理を含む) A14-170	博物館展示論 A14-270					
			キュレイトング基礎 A22-270	博物館情報・メディア論 A14-270					
			キュレイトング応用 I A23-270	博物館教育論 A14-270					
			キュレイトング応用 II A23-270	キュレイトング応用 II A23-270					
	美術史基礎 A14-170	美術史 I A21-270	美術史 II A21-270	美術史 III A21-370					
アートマネジメント A14-170		アートプロデュース論 A21-270		アートマネジメント特別講義 A21-270					
		考古学 I A21-221	考古学 II A21-221						
		考古学 III A21-221							
		地域史論 I A21-221	地域史論 II A21-221				地域史論 III A21-221		
		アーカイブズ論 A21-221	陶磁史 A21-221						
地域再生論 A14-129	ランドスケープ A14-151	都市・地域空間史 A21-251	都市空間論 I A21-229	地域資源論 A21-230			都市空間論 II A21-329		
ヘリテージマネジメント論 A21-230	風土と地理学 A21-129	文化財の保存と活用 A14-130		博物館の政治学 A21-231					
	比較オリエンタリズム研究 A14-122								
流通論 A14-133	文化経済論 A14-233	社会政策 A14-233	美術品流通論 A21-233	ミュージアム・マーケティング A21-333					
地域マネジメント論 A21-333	アートマーケティング A14-133	コミュニケーションビジネス A14-233		地域雇用政策論 A21-333			学部共通科目		
							コース基礎科目		
							コース選択科目		
							自由選択科目		
2 課題発見・解決能力	芸術活動を通して、人間社会にどのような積極的な意味を見出しているかを考え、それらを追求していく強い意志をもっている。	大学入門科目 I C21-10.01	デザイン発想論 A14-177	インターフェース科目 C30-02.00	インターフェース科目 C30-02.00	インターフェース科目 C30-02.00	インターフェース科目 C30-02.00		
		地域デザイン基礎(デザイン) A14-174	職業キャリア論 A14-133	工芸理論 A14-275	芸術文化・地域創生論(国内外地域プロジェクト事例研究) A14-270				
		地域デザイン基礎(マネジメント) A14-171	流通論 A14-133	知的財産権学 A33-232					
		地域デザイン基礎(フィールドワーク) A14-130	アートマーケティング A14-133	アートと科学 A21-275					
		芸術表現基礎(絵画) A14-172	文化経済論 A14-233						
		芸術表現基礎(彫刻) A14-171							
		芸術表現基礎(工芸) A14-175		コミュニケーションデザイン論 A31-377	地域ブランディング論 A31-377				
		アートマネジメント A14-170		コミュニケーションデザイン演習 A31-377	地域ブランディング演習 A31-377				
			博物館概論 A14-170	地域再生論 A14-129					
		ランドスケープ A14-151		ヘリテージマネジメント論 A21-230					
				地域マネジメント論 A21-333					
			博物館学内実習 A31-170	キュレーター実務実践演習 A23-270	博物館学外実習 A31-270				
				美術史演習 A23-270					
				アートプロデュース演習 I A22-270	アートプロデュース演習 II A22-270				
				考古学演習 I (古代以前) A22-221	考古学実習 II (野外) A22-221	考古学演習 III (中世・近世) A22-221			
				デザインプロジェクト演習 A32-377	映像デザイン II A21-277	映像デザイン III A23-377	メディアアート論 A31-377		
					情報デザイン II A21-277	情報デザイン III A23-377	メディアアート演習 A31-377		
					コンテンツデザイン II A21-277	コンテンツデザイン III A23-377			
					メディアプレゼンテーション A23-377	デザイン実践セミナー A22-374			
				地域史演習 A22-221	古文書解読演習 A23-221				
		フィールドワーク実習 A23-229	フィールドデザイン演習 I A22-251	フィールドデザイン演習 II A22-351					
		地域情報マネジメント演習 A22-229	地域調査分析 A21-229				学部共通科目		
	比較オリエンタリズム研究 A14-122	ヘリテージマネジメント演習 A22-230	エリアスタディー演習 I A22-230	エリアスタディー演習 II A22-330			コース基礎科目		
			経営・流通演習 I A22-233	経営・流通演習 II A22-333	経営・流通演習 III A21-333		コース選択科目		
			経営・流通演習 III A22-233				自由選択科目		
			Intercultural Communication and Art I (インターカルチュラル・コミュニケーションとアート I) A23-280	Intercultural Communication and Art II (インターカルチュラル・コミュニケーションとアート II) A23-280	Intercultural Communication and Art III (インターカルチュラル・コミュニケーションとアート III) A23-380				
3 個人と社会の持続的発展を支える力	芸術活動を通してよりよい社会の形成に寄与していく強い意志をもっている。	地域デザイン基礎(デザイン) A14-174	デザイン発想論 A14-177	インターフェース科目 C30-02.00	インターフェース科目 C30-02.00	インターフェース科目 C30-02.00	インターフェース科目 C30-02.00		
		地域デザイン基礎(マネジメント) A14-171	職業キャリア論 A14-133	知的財産権学 A33-232	地域再生デザイン学 A21-251				
		地域デザイン基礎(フィールドワーク) A14-130	アートマーケティング A14-133	芸術文化・地域創生論(国内外地域プロジェクト事例研究) A14-270	有田キャンパスプロジェクト A32-375				
			文化経済論 A14-233		地域創生フィールドワーク A33-330				
		比較オリエンタリズム研究 A14-122			国内外芸術研修 A33-370			学部共通科目	
			地域再生論 A14-129					コース基礎科目	
			ヘリテージマネジメント論 A21-230					コース選択科目	
				地域マネジメント論 A21-333				自由選択科目	
		アートマネジメント A14-170		コミュニケーションデザイン論 A31-377	地域ブランディング論 A31-377			メディアアート論 A31-377	
				Key Concepts in Art (キーコンセプト・イン・アート) A14-180				卒業研究 A33-370	
							卒業研究 A33-370		
標準修得単位数	20	20	18	19	18	17	7	5	

# 芸術地域デザイン学部学位授与の方針と学士力及び教育課程編成・実施の方針 対応表

		教育課程編成・実施の方針: (1) 効果的な学習成果を挙げるために、教養教育科目と専門教育科目を順次的・体系的に配置した4年間の教育課程を編成する。					
		(2) 教養教育については、以下の科目を配置する。		(3) 地域で活躍する人材となるために必要な素養、知識、技術を身につけるべく、芸術表現コースでは以下のように分類された専門教育科目を配置する。			
標準履修年次	標準履修年次	○基礎的な知識と技能の分野	○課題発見・解決能力の分野	○個人と社会の持続的発展を支える力	標準履修年次		
		① 教養教育科目において、外国語科目、健康・スポーツ科目、情報リテラシー科目、文化・自然科学に関する授業科目(基本教養科目)を必修および選択必修とすることができるように配置する。	② 教養教育における言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目(大学入門科目Ⅰ)と、現代的な課題を発見・探求し、問題解決につながる協働性や指導力を身につけるための科目(インターフェース科目)を選択して学ぶ。	③ 個人と社会の持続的発展を支える力		④ 基礎的な知識と技能	⑤ 課題発見・解決能力
1	1	○基礎的な知識と技能の分野	○課題発見・解決能力の分野	○個人と社会の持続的発展を支える力	○基礎的な知識と技能	○課題発見・解決能力	○個人と社会の持続的発展を支える力
		① 教養教育科目において、外国語科目、健康・スポーツ科目、情報リテラシー科目、文化・自然科学に関する授業科目(基本教養科目)を必修および選択必修とすることができるように配置する。	② 教養教育における言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目(大学入門科目Ⅰ)と、現代的な課題を発見・探求し、問題解決につながる協働性や指導力を身につけるための科目(インターフェース科目)を選択して学ぶ。	③ 個人と社会の持続的発展を支える力	④ 基礎的な知識と技能	⑤ 課題発見・解決能力	⑥ 個人と社会の持続的発展を支える力
		① 言語・情報・科学リテラシー: 情報処理科目(学部共通科目(必修・選択)を配置し、言語・情報・科学リテラシーに関する知識を身につけさせる。	② 専門分野の基礎的な知識と技能: 以下の学部共通科目(必修および選択)、コース基礎科目(必修および選択)、およびコース選択科目、自由選択科目を配置して、専門的な知識と技能を身につけさせる。	③ 基礎的な知識と技能	④ 基礎的な知識と技能	⑤ 課題発見・解決能力	⑥ 個人と社会の持続的発展を支える力
		① 現代の課題を見出し、解決の方法を探る能力: 以下の学部共通科目(必修および選択)、コース基礎科目(必修および選択)、およびコース選択科目、自由選択科目および卒業制作を配置し、現代的な課題を見出し、解決の方法を探る能力を身につけさせる。	② 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力、持続的な学習力と社会への参画力: 以下の学部共通科目(必修および選択)、コース基礎科目(必修および選択)、およびコース専門科目(選択)、自由選択科目以下の学部共通科目(必修および選択)、コース基礎科目(必修および選択)、およびコース選択科目、自由選択科目を配置し、多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力と、持続的な学習力及び社会への参画力や現代的な課題を身につけさせる。	③ 基礎的な知識と技能	④ 基礎的な知識と技能	⑤ 課題発見・解決能力	⑥ 個人と社会の持続的発展を支える力
2	2	○基礎的な知識と技能の分野	○課題発見・解決能力の分野	○個人と社会の持続的発展を支える力	○基礎的な知識と技能	○課題発見・解決能力	○個人と社会の持続的発展を支える力
		① 教養教育科目において、外国語科目、健康・スポーツ科目、情報リテラシー科目、文化・自然科学に関する授業科目(基本教養科目)を必修および選択必修とすることができるように配置する。	② 教養教育における言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目(大学入門科目Ⅰ)と、現代的な課題を発見・探求し、問題解決につながる協働性や指導力を身につけるための科目(インターフェース科目)を選択して学ぶ。	③ 個人と社会の持続的発展を支える力	④ 基礎的な知識と技能	⑤ 課題発見・解決能力	⑥ 個人と社会の持続的発展を支える力
		① 言語・情報・科学リテラシー: 情報処理科目(学部共通科目(必修・選択)を配置し、言語・情報・科学リテラシーに関する知識を身につけさせる。	② 専門分野の基礎的な知識と技能: 以下の学部共通科目(必修および選択)、コース基礎科目(必修および選択)、およびコース選択科目、自由選択科目を配置して、専門的な知識と技能を身につけさせる。	③ 基礎的な知識と技能	④ 基礎的な知識と技能	⑤ 課題発見・解決能力	⑥ 個人と社会の持続的発展を支える力
		① 現代の課題を見出し、解決の方法を探る能力: 以下の学部共通科目(必修および選択)、コース基礎科目(必修および選択)、およびコース選択科目、自由選択科目および卒業制作を配置し、現代的な課題を見出し、解決の方法を探る能力を身につけさせる。	② 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力、持続的な学習力と社会への参画力: 以下の学部共通科目(必修および選択)、コース基礎科目(必修および選択)、およびコース専門科目(選択)、自由選択科目以下の学部共通科目(必修および選択)、コース基礎科目(必修および選択)、およびコース選択科目、自由選択科目を配置し、多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力と、持続的な学習力及び社会への参画力や現代的な課題を身につけさせる。	③ 基礎的な知識と技能	④ 基礎的な知識と技能	⑤ 課題発見・解決能力	⑥ 個人と社会の持続的発展を支える力
3	3	○基礎的な知識と技能の分野	○課題発見・解決能力の分野	○個人と社会の持続的発展を支える力	○基礎的な知識と技能	○課題発見・解決能力	○個人と社会の持続的発展を支える力
		① 教養教育科目において、外国語科目、健康・スポーツ科目、情報リテラシー科目、文化・自然科学に関する授業科目(基本教養科目)を必修および選択必修とすることができるように配置する。	② 教養教育における言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目(大学入門科目Ⅰ)と、現代的な課題を発見・探求し、問題解決につながる協働性や指導力を身につけるための科目(インターフェース科目)を選択して学ぶ。	③ 個人と社会の持続的発展を支える力	④ 基礎的な知識と技能	⑤ 課題発見・解決能力	⑥ 個人と社会の持続的発展を支える力
		① 言語・情報・科学リテラシー: 情報処理科目(学部共通科目(必修・選択)を配置し、言語・情報・科学リテラシーに関する知識を身につけさせる。	② 専門分野の基礎的な知識と技能: 以下の学部共通科目(必修および選択)、コース基礎科目(必修および選択)、およびコース選択科目、自由選択科目を配置して、専門的な知識と技能を身につけさせる。	③ 基礎的な知識と技能	④ 基礎的な知識と技能	⑤ 課題発見・解決能力	⑥ 個人と社会の持続的発展を支える力
		① 現代の課題を見出し、解決の方法を探る能力: 以下の学部共通科目(必修および選択)、コース基礎科目(必修および選択)、およびコース選択科目、自由選択科目および卒業制作を配置し、現代的な課題を見出し、解決の方法を探る能力を身につけさせる。	② 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力、持続的な学習力と社会への参画力: 以下の学部共通科目(必修および選択)、コース基礎科目(必修および選択)、およびコース専門科目(選択)、自由選択科目以下の学部共通科目(必修および選択)、コース基礎科目(必修および選択)、およびコース選択科目、自由選択科目を配置し、多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力と、持続的な学習力及び社会への参画力や現代的な課題を身につけさせる。	③ 基礎的な知識と技能	④ 基礎的な知識と技能	⑤ 課題発見・解決能力	⑥ 個人と社会の持続的発展を支える力
4	4	○基礎的な知識と技能の分野	○課題発見・解決能力の分野	○個人と社会の持続的発展を支える力	○基礎的な知識と技能	○課題発見・解決能力	○個人と社会の持続的発展を支える力
		① 教養教育科目において、外国語科目、健康・スポーツ科目、情報リテラシー科目、文化・自然科学に関する授業科目(基本教養科目)を必修および選択必修とすることができるように配置する。	② 教養教育における言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目(大学入門科目Ⅰ)と、現代的な課題を発見・探求し、問題解決につながる協働性や指導力を身につけるための科目(インターフェース科目)を選択して学ぶ。	③ 個人と社会の持続的発展を支える力	④ 基礎的な知識と技能	⑤ 課題発見・解決能力	⑥ 個人と社会の持続的発展を支える力
		① 言語・情報・科学リテラシー: 情報処理科目(学部共通科目(必修・選択)を配置し、言語・情報・科学リテラシーに関する知識を身につけさせる。	② 専門分野の基礎的な知識と技能: 以下の学部共通科目(必修および選択)、コース基礎科目(必修および選択)、およびコース選択科目、自由選択科目を配置して、専門的な知識と技能を身につけさせる。	③ 基礎的な知識と技能	④ 基礎的な知識と技能	⑤ 課題発見・解決能力	⑥ 個人と社会の持続的発展を支える力
		① 現代の課題を見出し、解決の方法を探る能力: 以下の学部共通科目(必修および選択)、コース基礎科目(必修および選択)、およびコース選択科目、自由選択科目および卒業制作を配置し、現代的な課題を見出し、解決の方法を探る能力を身につけさせる。	② 多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力、持続的な学習力と社会への参画力: 以下の学部共通科目(必修および選択)、コース基礎科目(必修および選択)、およびコース専門科目(選択)、自由選択科目以下の学部共通科目(必修および選択)、コース基礎科目(必修および選択)、およびコース選択科目、自由選択科目を配置し、多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力と、持続的な学習力及び社会への参画力や現代的な課題を身につけさせる。	③ 基礎的な知識と技能	④ 基礎的な知識と技能	⑤ 課題発見・解決能力	⑥ 個人と社会の持続的発展を支える力

## 芸術地域デザイン学部 芸術表現コース

## 学位授与の方針

### 1. 基礎的な知識と技能

- (1) 芸術・歴史・思想・自然科学・現代社会と生活に関する授業科目を履修・修得し、それらの知識を基に、美術・工芸分野の専門家として創作活動やその他の活動を通じ、地域創生に携わることができる。
- (2) 言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目を履修・修得し、美術・工芸分野の専門家として必要な柔軟な思考力と実践能力を有する。コミュニケーションスキルや情報収集・分析力を有し、モラルに即ってそれらを効果的に活用することができる。
- (3) 芸術表現の基礎とそれを支える技法や素材に対する知識を身につけ、それを地域創生・地域貢献に活かしていくことができる。

- 基本教養科目・健康スポーツ科目
- 基本教養科目
- 基本教養科目
- 基本教養科目
- 外国語科目・情報リテラシー科目
- 外国語科目
- 外国語科目
- 基本教養科目
- 大学入門科目
- インターフェース科目
- インターフェース科目
- インターフェース科目
- インターフェース科目

- 学部共通科目(必修)
- 学部共通科目(必修)
- 学部共通科目(必修)
- 学部共通科目(必修)
- 学部共通科目(必修)
- 学部共通科目(必修)
- 学部共通科目(必修)
- 学部共通科目(必修)
- 学部共通科目(必修)
- 学部共通科目(必修)
- 学部共通科目(必修)
- 学部共通科目(必修)
- 学部共通科目(必修)
- 学部共通科目(必修)

- 学部共通科目(必修・選択)、コース基礎科目(必修)
- 学部共通科目(必修・選択)、コース基礎科目(必修)、コース選択科目
- コース選択科目
- 自由選択科目
- 学部共通科目(必修・選択)
- 学部共通科目(選択)、コース基礎科目(必修・選択)、コース選択科目
- コース選択科目
- 卒業制作、コース基礎科目(選択)、コース選択科目(選択)、自由選択科目
- 学部共通科目(必修・選択)
- 学部共通科目(必修・選択)、コース選択科目
- 学部共通科目(選択)、コース選択科目
- 卒業制作、コース基礎科目(選択)、コース選択科目(選択)、自由選択科目

- 1
- 2
- 3
- 4
- 1
- 2
- 3
- 4
- 1
- 2
- 3
- 4
- 1
- 2
- 3
- 4

		教育課程編成・実施の方針：(1)効果的な学習成果を挙げるために、教養教育科目と専門教育科目を順次的・体系的に配置した4年間の教育課程を編成する。							
		(2)教養教育については、以下の科目を配置する。	(3)地域で活躍する人材となるために必要な素養、知識、技術を身につけるべく、地域デザインコースでは以下のように分類された専門教育科目を配置する。						
標準履修年次	標準履修年次	○基礎的な知識と技能の分野	○課題発見・解決能力の分野	○個人と社会の持続的発展を支える力	○基礎的な知識と技能	○課題発見・解決能力	○個人と社会の持続的発展を支える力		
		①教養教育科目において、外国語科目、健康・スポーツ科目、情報リテラシー科目、文化・自然科学と技術・現代社会に関する授業科目(基本教養科目)を必修および選択必修として幅広く履修できるように配置する。	②教養教育における言語・情報・科学リテラシーに関する教育科目は初年次から開講し、基礎的な汎用技能を修得した上で、専門課程における発展的な学習へと繋げる。	高等学校と大学との接続を図るための授業科目(大学入門科目Ⅰ)と、現代的な課題を発見・探求し、問題解決につながる協調性と指導力を身につけるための科目(インターフェース科目)を選択して学ぶ。	①言語・情報・科学リテラシー：情報処理科目学部共通科目(必修・選択)を配置し、言語・情報・科学リテラシーに関する知識を身につけさせる。	②専門分野の基礎的な知識と技能：以下の学部共通科目(必修および選択)、コース基礎科目(必修および選択)、およびコース選択科目、自由選択科目を配置して、専門的な知識と技能を身につけさせる。	①現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力：以下の学部共通科目(必修および選択)、コース基礎科目(必修および選択)、およびコース選択科目、自由選択科目および卒業制作を配置し、現代的な課題を見出し、解決の方法を探る能力を身につけさせる。	①多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力、持続的な学習力と社会への参画力：以下の学部共通科目(必修および選択)、コース基礎科目(必修および選択)、およびコース専門科目(選択)、自由選択科目以下の学部共通科目(必修および選択)、コース基礎科目(必修および選択)、およびコース選択科目、自由選択科目を配置して、多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力と、持続的な学習力及び社会への参画力や現代的な課題を身につけさせる。	
芸術地域デザイン学部 地域デザインコース		1			デジタル表現基礎、Key Concepts in Art(キーコンセプトインアート)	地域デザイン基礎(デザイン)A14-174、地域デザイン基礎(マネジメント)A14-171、地域デザイン基礎(フィールドワーク)A14-130、芸術表現基礎(絵画)A14-172、芸術表現基礎(彫刻)A14-171、芸術表現基礎(工芸)A14-175、博物館概論A14-170、アートマネジメントA14-170、ランドスケープA14-151、流通論 A14-133、デザイン発想論A14-177、デジタル表現基礎A13-177、職業キャリア論A14-133、美術史基礎A14-170、地域再生論A14-129、風土と地理学A21-129、ヘリテージマネジメント論A21-230、比較オリエンタリズム研究A14-122、文化経済論A14-233、アートマーケティングA14-133、地域マネジメント論A21-333、Key Concepts in Art(キーコンセプトインアート) A14-180	大学入門科目Ⅰ C21-10.01、地域デザイン基礎(デザイン)A14-174、地域デザイン基礎(マネジメント)A14-171、地域デザイン基礎(フィールドワーク)A14-130、芸術表現基礎(絵画)A14-172、芸術表現基礎(彫刻)A14-171、芸術表現基礎(工芸)A14-175、アートマネジメント A14-170、博物館概論A14-170、ランドスケープA14-151、デザイン発想論A14-177、職業キャリア論A14-133、流通論A14-133、アートマーケティングA14-133、文化経済論A14-233、地域再生論A14-129、ヘリテージマネジメント論A21-230、地域マネジメント論A21-333、博物館学内実習A14-170	地域デザイン基礎(デザイン)A14-174、地域デザイン基礎(マネジメント)A14-171、地域デザイン基礎(フィールドワーク)A14-130、アートマネジメントA14-170、デザイン発想論A14-177、職業キャリア論A14-133、アートマーケティングA14-133、文化経済論A14-233、比較オリエンタリズム研究A14-122、地域再生論A14-129、ヘリテージマネジメント論A21-230、地域マネジメント論A21-333、Key Concepts in Art(キーコンセプトインアート) A14-180	1
		2			知的財産権学A33-232、芸術文化・地域創生論(国内外地域プロジェクト事例研究)A14-270、工芸理論A14-275、地域再生デザイン学A21-251、アートと科学A21-275、映像デザインⅠA14-277、視覚伝達デザインⅠA14-277、情報デザインⅠA14-277、コンテンツデザインⅠA14-277、博物館経営論(博物館学Ⅱ)A14-270、博物館資料論(博物館学Ⅲ)A14-270、博物館資料保存論(芸術と倫理を含む)A14-170、博物館展示論A14-270、キュレイトング基礎A22-270、博物館情報・メディア論A14-270、博物館教育論A14-270、キュレイトング応用ⅠA23-270、キュレイトング応用ⅡA23-270、美術史ⅠA21-221、美術史ⅡA21-270、アートプロデュース論A21-270、考古学ⅠA21-221、考古学ⅡA21-221、考古学ⅢA21-221、地域史論ⅠA21-221、地域史論ⅡA21-221、アーカイブズ論A21-221、陶磁史A21-221、都市・地域空間学A21-251、都市空間論ⅠA21-229、文化財の保存と活用A14-130、社会政策A14-233、美術品流通論A21-233、コミュニケーションA14-233、Critical Studies in Language and ImageⅠ(クリティカル・スタディーズ(言語とイメージ)Ⅰ)A23-280	工芸理論A14-275、芸術文化・地域創生論(国内外地域プロジェクト事例研究)A14-270、知的財産権学A33-232、デザイン基礎A14-274、アートと科学A21-275、コミュニケーションデザイン論A31-377、コミュニケーションデザイン演習A31-377、キュレーター実務実践演習A23-270、美術史演習A23-270、アートプロデュース演習ⅠA22-270、考古学演習Ⅰ(古代以前)A22-221、考古学実習Ⅰ(室内)A22-221、デザインプロジェクト演習A32-377、フィールドワーク実習A23-229、フィールドデザイン演習ⅠA22-251、地域情報マネジメント演習A22-229、ヘリテージマネジメント演習A22-230、エアスタディー演習ⅠA22-230、経営・流通演習ⅠA22-233、経営・流通演習ⅢA22-233、Intercultural Communication and ArtⅠ(インターカルチュラル・コミュニケーションとアートⅠ)A23-280	知的財産権学A33-232、地域再生デザイン学A21-251、芸術文化・地域創生論(国内外地域プロジェクト事例研究)A14-270、コミュニケーションデザイン論A31-377	2	
		3			美術史ⅢA21-370、アートマネジメント特別講義A21-270、地域史論ⅢA21-221、地域資源論A21-230、都市空間論ⅡA21-329、博物館の政治学A21-231、ミュージアム・マーケティングA21-333、地域雇用政策論A21-333、Art in Context(アート・イン・コンテキスト)A14-270、Critical Studies in Language and ImageⅡ(クリティカル・スタディーズ(言語とイメージ)Ⅱ)A21-280、Critical Studies in Language and ImageⅢ(クリティカル・スタディーズ(言語とイメージ)Ⅲ)A21-380	地域ブランディング論A31-377、地域ブランディング演習A31-377、博物館学外実習A31-270、アートプロデュース演習ⅡA22-270、考古学実習Ⅱ(野外)A22-221、考古学演習Ⅱ(中世・近世)A22-221、映像デザインⅡA21-277、映像デザインⅢA23-377、情報デザインⅡA21-277、情報デザインⅢA23-377、コンテンツデザインⅡA21-277、コンテンツデザインⅢA23-377、メディアプレゼンテーションA23-377、デザイン実践セミナーA22-374、地域史演習A22-221、古文書解読演習A23-221、フィールドデザイン演習ⅡA22-351、地域調査分析A21-229、エアスタディー演習ⅡA22-330、経営・流通演習ⅡA22-333、経営・流通演習ⅣA21-333、Intercultural Communication and ArtⅡ(インターカルチュラル・コミュニケーションとアートⅡ)A23-280、Intercultural Communication and ArtⅢ(インターカルチュラル・コミュニケーションとアートⅢ)A23-380	有田キャンパスプロジェクトA32-375、地域創生フィールドワークA33-330、国内外芸術研修A33-370、地域ブランディング論A31-377	3	
		4			自由選択科目	メディアアート論 A31-377、メディアアート演習 A31-377、卒業研究 A33-370、自由選択科目	メディアアート論 A31-377、卒業研究 A33-370、自由選択科目	4	
学位授与の方針	1 基礎的な知識と技能	(1)芸術・歴史・思想・自然科学・現代社会と生活に関する授業科目を履修・修得し、それらの知識を基に地域デザイン分野の専門家として創作活動やその他の活動を通じ、地域創生に携わることができる。	1 基本教養科目・健康スポーツ科目					1	
			2 基本教養科目					2	
			3 基本教養科目					3	
			4					4	
		(2)言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目を履修・修得し、地域デザイン分野の専門家として必要な柔軟な思考力と実践能力を有する。コミュニケーション・スキルや情報収集・分析力を有し、モラルに則ってそれらを効果的に活用することができる。	1 外国語科目・情報リテラシー科目	学部共通科目(必修)				1	
		2 外国語科目					2		
		3 基本教養科目					3		
		4					4		
		(3)地域デザインの基礎とそれを支える方法や資源に対する知識を身につけ、それを地域創生・地域貢献に活かしていくことができる。	1		学部共通科目(必修・選択)、コース基礎科目(必修)			1	
		2		学部共通科目(必修・選択)、コース基礎科目(必修・選択)、コース選択科目			2		
		3		コース選択科目			3		
		4		自由選択科目			4		
2 課題発見・解決能力	地域デザインが人間社会にどのような影響を与えているかについて問題意識をもち、それらを追及していく強い意志をもっている。	1 大学入門科目		学部共通科目(必修・選択)			1		
		2 インターフェース科目		学部共通科目(選択)、コース基礎科目(必修・選択)、コース選択科目			2		
		3 インターフェース科目		コース選択科目			3		
		4		卒業制作、コース基礎科目(選択)、コース選択科目(選択)、自由選択科目			4		
3 持続的個人発展と社会への参画	地域デザインを通してよりよい社会の形成に寄与していく強い意志をもっている。	1			学部共通科目(必修・選択)		1		
		2			学部共通科目(必修・選択)、コース選択科目		2		
		3			学部共通科目(選択)、コース選択科目		3		
		4			卒業制作、コース基礎科目(選択)、コース選択科目(選択)、自由選択		4		



芸術地域デザイン学部 芸術表現コース		佐賀大学学士力																		
		1. 基礎的な知識と技能					2. 課題発見・解決能力			3. 個人と社会の持続的発展を支える力										
		(1)文化と自然	(2)現代社会と生活	(3)言語・情報・科学リテラシー			(4)専門分野の基礎的な知識と技法	(1)現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力	(2)プロフェッショナルとして課題を発見・解決する能力	(3)課題解決につながる協調性と指導力	(1)多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力	(2)持続的な学習力と社会への参画力	(3)高い倫理観と社会的責任感							
		世界を認識するための幅広い知識を有機的に関連づけて修得し、文化(芸術及びスポーツを含む)的素養を身につけている。	健全な社会や健康な生活に関する種々の知識を修得し、生活の質の向上に役立てることができる。	① 日本語による文書と会話で他者の意思を的確に理解できるとともに、自らの意思を表現し他者の理解を得ることができる。英語を用いて、専門分野の知識を修得でき、自己の考えを発信できる。初修外国語を用いて、簡単な会話ができる。平易な文章を読み書きできる。	② 情報を収集し、その適正を判断でき、適切に活用・管理できる。	③ 科学的素養を有し、合理的及び論理的な判断ができる。	専門分野において、基本概念や原理を理解して説明でき、一般的に用いられている重要な技法に習熟している。	現代社会における諸問題を多面的に考察し、その解決に役立つ情報を収集し分析できる。	専門分野の課題を発見し、その解決に向けて専門分野の基礎的な知識と技法を応用することができる。	課題解決のために、他者と協調・協働して行動でき、また、他者に方向性を示すことができる。	文化や伝統などの違いを踏まえて、平和な社会の実現のために他者の立場で物事を考えることができる。また、自然環境や社会的弱者に配慮することができる。	様々な問題に積極的に関心を持ち、自主的・自律的に学習を続けることができる。自己の生き方を考察し、主体的に社会的役割を選択・決定し、生涯にわたり自己を活かす意欲がある。	高い倫理観を身につけ社会生活で守るべき規範を遵守し、自己の能力を社会の健全な発展に寄与する姿勢を身につけている。							
学位授与の方針	1. 知識と技能	(1)芸術・歴史・思想・自然科学・現代社会と生活に関する授業科目を履修・修得し、それらの知識を基に美術・工芸分野の専門家として創作活動やその他の活動を通じ、地域創生に携わることができる。	◎	◎																
		(2)言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目を履修・修得し、美術・工芸分野の専門家として必要な柔軟な思考力と実践能力を有する。コミュニケーション・スキルや情報収集・分析力を有し、モラルに則ってそれらを効果的に活用することができる。			◎	◎	◎													
		(3)芸術表現の基礎とそれを支える技法や素材に対する知識を身につけ、それを地域創生・地域貢献に活かしていくことができる。						◎												
	2. 応用能力	美術の造形やデザインが人間社会にどのような影響を与えることができるかについて問題意識をもち、それらを追及していく強い意志をもっている。							◎	◎	◎									
	3. 持続的発展を支える力	美術を通してよりよい社会の形成に寄与していく強い意志をもっている											◎	◎			◎			

芸術地域デザイン学部 地域デザインコース			佐賀大学学士力																			
			1. 基礎的な知識と技能					2. 課題発見・解決能力			3. 個人と社会の持続的発展を支える力											
			(1)文化と自然	(2)現代社会と生活	(3)言語・情報・科学リテラシー			(4)専門分野の基礎的な知識と技法	(1)現代的課題を見出し、解決の方法を探る能力	(2)プロフェッショナルとして課題を発見し解決する能力	(3)課題解決につながる協調性と指導力	(1)多様な文化と価値観を理解し共生に向かう力	(2)持続的な学習力と社会への参画力	(3)高い倫理観と社会的責任感								
			世界を認識するための幅広い知識を有機的に関連づけて修得し、文化(芸術及びスポーツを含む)的素養を身につけている。	健全な社会や健康な生活に関する種々の知識を修得し、生活の質の向上に役立てることができる。	① 日本語による文書と会話で他者の意思を的確に理解できるとともに、自らの意思を表現し他者の理解を得ることができる。英語を用いて、専門分野の知識を修得でき、自己の考えを発信できる。初修外国語を用いて、簡単な会話ができて平易な文章を読み書きできる。	② 情報を収集し、その適正を判断でき、適切に活用・管理できる。	③ 科学的素養を有し、合理的及び論理的な判断ができる。	専門分野において、基本概念や原理を理解して説明でき、一般的に用いられている重要な技法に習熟している。	現代社会における諸問題を多面的に考察し、その解決に役立つ情報を収集し分析できる。	専門分野の課題を発見し、その解決に向けて専門分野の基礎的な知識と技法を応用することができる。	課題解決のために、他者と協調・協働して行動でき、また、他者に方向性を示すことができる。	文化や伝統などの違いを踏まえて、平和な社会の実現のために他者の立場で物事を考えることができる。また、自然環境や社会的弱者に配慮することができる。	様々な問題に積極的に関心を持ち、自主的・自律的に学習を続けることができる。自己の生き方を考察し、主体的に社会的役割を選択・決定し、生涯にわたり自己を活かす意欲がある。	高い倫理観を身につけて社会生活で守るべき規範を遵守し、自己の能力を社会の健全な発展に寄与する姿勢を身につけている。								
学位授与の方針	1 知識と技能	(1)芸術・歴史・思想・自然科学・現代社会と生活に関する授業科目を履修・修得し、それらの知識を基に、地域デザインの専門家として創作活動やその他の活動を通じ、地域創生に携わることができる。	◎	◎																		
		(2)言語・情報・科学リテラシーに関する授業科目を履修・修得し、地域デザインの専門家として必要な柔軟な思考力と実践能力を有する。コミュニケーション・スキルや情報収集・分析力を有し、モラルに則ってそれらを効果的に活用することができる。			◎	◎	◎															
		(3)地域デザインの基礎とそれを支える方法や資源に対する知識を身につけ、それを地域創生・地域貢献に活かしていくことができる。						◎														
学位授与の方針	2 応用能力	地域デザインが人間社会にどのような影響を与えることができるかについて問題意識をもち、それらを追及していく強い意志をもっている。								◎	◎	◎										
		3 持続的個人と社会を支える力	地域デザインを通してよりよい社会の形成に寄与していく強い意志をもっている												◎	◎				◎		

## コア科目のシラバス（授業計画）

- 1 芸術表現基礎（絵画）
- 2 芸術表現基礎（工芸）
- 3 芸術表現基礎（彫刻）
- 4 地域デザイン基礎（デザイン）
- 5 地域デザイン基礎（マネジメント）
- 6 地域デザイン基礎（フィールドワーク）
- 7 地域創生フィールドワーク
- 8 有田キャンパスプロジェクト
- 9 国内外芸術研修

授業科目名： 芸術表現基礎（絵画）	必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： ○小木曾誠・吉住磨子・田中右紀・石崎誠和・荒木博申・小瀬村貴哉・柳健司
			担当形態： 複数 クラス分け
授業形態	演習		
開講時期	前学期		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>鉛筆や水彩の基本的な技術を学びながら絵画の基本である素描を経験する。対象を見だし、思考し、そしてテーマを発見していく素描のプロセスと視点を学び、創作の基礎を経験する。さらに版表現としてアウトプットすることを学び、素描や手わざによる思考やそのプロセスを表現として昇華させることを学ぶ。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業では、まずさまざまな素描とその歴史の講義を受け、その後実際に対象をみて鉛筆で描写を行う。鉛筆のいろいろな使い方と対象の観察の方法を学ぶことにより自己の描写力と観察力が変容するプロセスを経験する。</p> <p>次に色の三原色を使ってさまざまな色を作ることを選び、構内で写生を行う。普段見慣れている構内の風景の中から場を切り取り形や色を発見して行くプロセスを経験する。</p> <p>さらにこれらの素描や写生をもとに、版表現を体験する。版を作り、インクをのせ、プレスで刷るという手順や、紙を表にするまではどのように仕上がるかが予想出来ないなどの豊かな表現性などの、「版表現」のアナログの側面とデジタルとの違いを感じ多くの示唆を得る。</p> <p>(担当教員：○小木曾誠・吉住磨子・田中右紀・石崎誠和・荒木博申・小瀬村貴哉・柳健司)</p> <p>授業は以下の専門分野を中心に担当者全員で指導、評価する。(○は主担当)</p> <p>○小木曾誠：素描に関する講義、平面表現、色彩表現、全般的な素描活動、版画活動を指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・吉住磨子：素描に関する講義、合評に関わる活動時に指導する。</li> <li>・田中右紀：素描に関する講義、全般的な素描活動、版画活動を指導する。</li> <li>・石崎誠和：素描に関する講義、平面表現、色彩表現、全般的な素描活動、版画活動を指導する。</li> <li>・荒木博申：平面表現、色彩表現にかかる造形活動と合評に関わる活動時に指導する。</li> <li>・土屋貴哉：平面表現、色彩表現にかかる造形活動と合評に関わる活動時に指導する。</li> <li>・柳健司：平面表現、素材間をまたぐ造形活動と合評に関わる活動時に指導する。</li> </ul>			



<p>第1回 さまざまな素描</p> <p>第2回 形を見つけるワークショップ（鉛筆、木炭）</p> <p>第3回 形を見つける演習 課外演習：各共通基礎部屋をさまざまな形の素描で埋める</p> <p>第4回 合評</p> <p>第5回 色や形を見つけるワークショップ（水彩）</p> <p>第6回 色や形を見つける演習 課外学習：各共通基礎共通部屋をさまざまな色と形の素描で埋める</p> <p>第7回 合評</p> <p>第8回 時間を捉える写生ワークショップ</p> <p>第9回 時間を捉える写生演習 課外演習：写生各1枚</p> <p>第10回 合評</p> <p>第11回 版画制作ワークショップ</p> <p>第12回 これまでの素描や写生を版画にする演習 講義と図案の決定</p> <p>第13回 版画制作 版の制作</p> <p>第14回 版画制作 刷り</p> <p>第15回 版画制作 合評</p> <p>8月1日～8日美術館で展示（平成28年度）</p>
<p>テキスト</p> <p>使用しない</p>
<p>参考書・参考資料等は適宜紹介する。</p>
<p>成績評価の方法と基準</p> <p>課題への主体的な関わり方、素描の力（着彩を含む）、版表現への取り組みなど課題ごとに評価し、4つの課題の評価を合算する。</p>

授業科目名： 芸術表現基礎（工芸）	必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： ○田中右紀・田中嘉生・井川健・柳健司・藤巻美恵・西島博樹
			担当形態： 複数 クラス分け
授業形態	演習		
開講時期	前学期		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>工芸で用いられる多様な素材に触れ、その特性を理解しながら発想を養い、加工する方法を学び、考えを形にする。素材を扱う視点を得る事やものを作るときのプロセスを経験し、さらに、自分が制作した作品をプレゼンテーションすることにより、アウトプットする基本的な能力を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業はアイデアを出す→形にする→プレゼンテーションする、というプロセスを「素材」を切り口にして行う。まず、素材に触れる・素材の可能性を探求するワークショップを行い、素材との出会いと発見を通して、テーマに沿って柔軟に構想を展開させる。次に、プロトタイプを制作して構想を固め、コストパフォーマンスを含め制作の計画を立てる。教員によるプランニング確認の後、作品制作を行う。その中で、道具の使用を伴う手による加工を通して、素材を造形へと結びつける制作活動の基礎を学ぶ。最後に制作した作品についてプレゼンテーションを行う。</p> <p>(担当教員：○田中右紀・田中嘉生・井川健・柳健司・藤巻美恵・西島博樹)</p> <p>授業は以下の専門分野を中心に担当者全員で指導、評価する。(○は主担当)</p> <p>○田中右紀：立体表現、空間表現、土、木材を使った造形活動とプレゼンテーション方法について指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・田中嘉生：平面表現、色彩表現、布等を使った染織関係材料にまつわる造形活動について指導する。</li> <li>・井川健：立体表現、プロダクト制作、木材を使った造形活動について指導する。</li> <li>・柳健司：立体表現、平面表現、素材間をまたぐ造形活動とプレゼンテーション方法について指導する。</li> <li>・藤巻美恵：平面表現、色彩表現、布等を使った染織関係材料にまつわる造形活動とプレゼンテーション方法について指導する。</li> <li>・西島博樹：造形活動におけるコストについて指導する。</li> </ul>			
授業計画			

第1回 課題内容、活動の進め方などについてのガイダンス。  
第2回 素材ガイダンス。素材に触れるワークショップ。素材の特性について考える。  
第3回 素材の可能性を探るワークショップ。自分と素材との関わりを探る。  
第4回 素材を活かすワークショップ。素材の扱いに関わる道具の扱いについて学ぶ。  
第5回 素材を活かすワークショップ。素材の加工による特性の変化について学ぶ。  
第6回 素材から得た発想を発展、展開させ作品プランを立てる。プロトタイプ制作。  
第7回 プランニング、制作計画（コスト面を含む）確認。  
第8回 関わりを形にする。制作活動1 土台を作る。  
第9回 関わりを形にする。制作活動2 構造を作る。  
第10回 関わりを形にする。制作活動3 造形を加える。  
第11回 関わりを形にする。制作活動4 装飾する。  
第12回 関わりを形にする。制作活動5 仕上げ。  
第13回 プレゼンテーション準備。  
第14回 プレゼンテーション（各教室にて展示活動）。  
第15回 プレゼンテーション（各教室にて口頭発表）。講評。  
優秀作品については、オープンキャンパス期間中に佐賀大学美術館で展示発表する。

テキスト 必要に応じて適宜配布する。

参考書・参考資料等は適宜紹介する。

成績評価の方法と基準

- ・課題への主体的な関わり方、プランニング力、プレゼンテーション力などを総合的に評価する。
- ・形や色彩、材料などを単に自己の感覚のまま用いるのではなく、他者に対しても共感が得られるように工夫したか。
- ・制作の順序を考え、見通しをもって表現できたか。
- ・木、土、紙、布といった素材を、技法・道具を適切に選択・使用し、加工することができたか。

授業科目名： 芸術表現基礎（彫刻）	必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： ○柳健司・田中右紀・徳安和博・井川健・小木曾誠
			担当形態： 複数 クラス分け
授業形態	演習		
開講時期	前学期		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>ものを見る基本的な姿勢を身につけ、フィールドワークの理論と手法の基礎をもとに場を見る力を養い、素材や場の魅力を引き出し、協働して作品制作に取り組み新たな場を作り上げる事ができるようになる。またプレゼンテーションの技法を応用し、発表することを通して主体的にアウトプットする基本的な能力を養う。平成28年度は、「本来見えないものを可視化する」をテーマに多角的に彫刻作品（立体造形作品やインスタレーション作品を含む）を制作する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業ではテーマに沿って共同制作（1チーム6～9人程度）を行い、制作プランの立案から制作、プレゼンに至るプロセスを制作リーダーや場の使用交渉や制作分担、素材調達、素材特性分析、スケジュール管理、プレゼンテーションの設計、発表など、いろいろな役割において経験しながら一つの造形と発表へと結実させる。これらの課題を通して芸術を実体験し、柔軟な思考を持ち主体的な創造性と協同で生み出す力を育む。</p> <p>（担当教員：○柳健司・田中右紀・徳安和博・井川健・小木曾誠）</p> <p>授業は以下の専門分野を中心に担当者全員で指導、評価する。（○は主担当）</p> <p>○柳健司：立体表現、平面表現、素材間をまたぐ造形活動とプレゼンテーション方法について指導する。  ・田中右紀：立体表現、空間表現、土、木材を使った造形活動とプレゼンテーション方法について指導する。  ・徳安和博：塑造的立体表現、木材を使った造形活動とプレゼンテーション方法について指導する。  ・井川健：立体表現、漆、木材を使った造形活動について指導する。  ・小木曾誠：平面表現、色彩表現とプレゼンテーション方法について指導する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回 本授業の到達目的、活動の進め方などについてのガイダンス  チーム制作についての例などを講義</p> <p>第2回 テーマ 「本来見えないものを見えるようする」複数の次元を含む彫刻作品（立体造形作品やインスタレーション作品を含む）プランニング演習</p>			

- 第3回 資料収集 プランニング演習 役割分担  
第4回 共同制作プランニング 中間講評  
第5回 共同制作プランニング修正  
第6回 グループ制作 材料収集  
第7回 グループ制作 材料の加工など  
第8回 グループ制作 グループ内での中間講評会を行い、改良点を見出す。  
第9回 グループ制作 改良作業  
第10回 グループ制作 完成に向けた制作  
第11回 グループ制作 作品完成 プレゼン方法の検討  
第12回 展示作業（佐賀大学美術館または大学構内の自然空間など）プレゼン資料の制作  
第13回 プレゼンテーション（佐賀大学美術館）  
第14回 プレゼンテーション（佐賀大学美術館又は屋外設置場所）  
第15回 プレゼンテーション（屋外設置場所）

テーマに応じてテキストを適宜配布

参考書・参考資料等は適宜紹介する。

#### 成績評価の方法と基準

課題への主体的な関わり方、プランニング力、プレゼンテーション力などを総合的に評価する。

- ・形や色彩、材料などを単に自己の感覚のまま用いるのではなく、他者に対しても共感が得られるように工夫したか。
- ・制作の順序を考え、見通しをもって表現できたか。
- ・作品の意図を正確に把握し、粘土、砂、石、和紙、木、竹などの材料から適切なものを選択し組み合わせ、切る、削る、彫る、塗る、接着するといったいろいろな技法や用具を適切に選び、使うことができたか。

授業科目名： 地域デザイン基礎（デザイン）	必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 荒木博申・中村隆敏・小瀬村貴哉・杉本達應・山下宗利・重藤輝行・山崎功・Houghton Stephanie Ann・花田伸一・山口夕妃子・西島博樹・藤巻美恵・有馬隆文 担当形態：複数 クラス分け
授業形態	演習		
開講時期	前学期		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>地域社会からコンテンツ（テーマ例：熱気球大会、シュガーロード、農産物、佐賀錦など）を発掘し、調査・取材して独自の切り口で魅力を引き出し、プレゼンテーションすることを通して、デザインに不可欠なアイデアの発想方法、イメージを形にする基本的な方法を学ぶ。</p> <p>ものを見る基本的な姿勢を身につけ、場を見る力を養い、アートマネジメント、コスト、流通、経営の知識や手法を生かした効果的なデザイン戦略について学び、さらに、ブランディングの基礎を経験する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>授業では、5～6人のチームを編成し、テーマに沿ってコンテンツの抽出から調査・取材、ディスカッション、プレゼンテーションに至るプロセスを役割分担の中で経験しながら客観的魅力の発見と発表に結実させる。これらの課題を通して芸術やデザインとの接点を見いだし、流通や発信を視野に入れながら柔軟な思考を持ち主体的な創造性と協働で生み出す力を育む。</p> <p>（担当教員：○荒木博申・中村隆敏・小瀬村貴哉・杉本達應・山下宗利・重藤輝行・山崎功・Houghton Stephanie Ann・花田伸一・山口夕妃子・西島博樹・藤巻美恵・有馬隆文）</p> <p>授業は以下の専門分野を中心に担当者全員で指導、評価する。（○は主担当）</p> <p>○荒木博申：全体統括、ガイダンス等を担当しグループ毎の授業効果を適宜判断しながら進めていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中村隆敏：まとめとしてのプレゼンテーションと評価の検討を行い円滑なディスカッションをサポートする。</li> <li>・小瀬村貴哉：プレゼンテーションにおける方策や技術を支援し、効果的なディスカッションができるようサポートする。</li> <li>・杉本達應：プレゼンテーションの作法やメディアの活用などを支援し、ディスカッションや発表のサポートを行う。</li> </ul>			

- ・山下宗利：地理的なフィールドワークを指導する。
- ・重藤輝行：文化遺産に関するフィールドワークを指導する。
- ・山崎功：地域とアジア・世界に関わるフィールドワークを指導する。
- ・Houghton Stephanie Ann：地域から世界へと繋がるフィールドづくりについて指導する。
- ・花田伸一：アートマネジメントの手法を活かした地域づくりに関するフィールドワークを指導する
- ・山口夕妃子：経営・マネジメントに関するフィールドワークについて指導する。
- ・西島博樹：コスト・流通に関するフィールドワークについて指導する。
- ・藤巻美恵：平面表現、色彩表現、地域での造形活動とプレゼンテーションの方法について指導する。
- ・有馬隆文：都市に関するフィールドワークについて指導する。

#### 授業計画

- 第1回 ガイダンス（到達目的、活動の進め方など）
- 第2回 基調講話：「地域の魅力と課題」主幹教員または外部講師
- 第3回 課題設定とチーム分け、役割分担及びディスカッション（当初計画） 資料検索・収集へ
- 第4回 調査・取材（コンテンツの抽出から交渉へ）
- 第5回 調査・取材（交渉から取材へ）
- 第6回 ディスカッション（課題の発見）
- 第7回 調査・取材（課題に対する調査）
- 第8回 調査・取材（課題から客観的魅力的発見へ）
- 第9回 ディスカッション（魅力の明文化）
- 第10回 プレゼン技法・作法について
- 第11回 まとめとプレゼン準備（取材した素材の精選）
- 第12回 まとめとプレゼン準備（ICT機器等を活用したプレゼン資料作成）
- 第13回 プレゼンテーション（前半グループ）
- 第14回 プレゼンテーション（後半グループ）
- 第15回 ディスカッション（総括）

#### テキスト

使用しない。

#### 参考書・参考資料等

適宜紹介する。

#### 学生に対する評価

- 課題への主体的な関わり方、プランニング力、プレゼンテーション力などを総合的に評価する。
- ・課題の主旨、価値を理解し、客観性・計画性・論理性のもとに説得力のあるまとめとプレゼンテーションに至っているか。
- ・ユーモアや新たな視点が盛り込まれているか。

・リーダーシップ、協調性等。



授業科目名： 地域デザイン基礎（マネジメント）	必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： ○山口夕妃子・花田伸一・浅田智子・赤津隆・西島博樹・富田義典 担当形態：複数 クラス分け
授業形態	講義・演習		
開講時期	前学期		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>経営学の基本的な理論や知識を学び、地域や芸術におけるマネジメント課題と解決方法をみにつけることを到達目標とする。前半は講義形式で身近な商品やサービスを事例として挙げながら、それらを周りを取り巻く経済・経営環境を理解することを目標とする。講義の後半は、具体的な課題をもとにマネジメント能力・マーケティング思考をみにつけることを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、地域の企業の商品、サービスに焦点を当て、そこで抱える課題を経営・マーケティングという視点から解決する方法を模索する。</p> <p>講義の前半は企業や消費者の理解をするために基本的な経営、マーケティングの用語や理論を中心とする。後半はPBL型教育を実践し、マネジメントの理論を活用しながら、課題発見、課題解決能力をみにつける。具体的には地域をグループごとに選択し、それぞれの地域にある資源（歴史、文化、芸術、産業など）を再発見し、今抱える課題に対してその資源を活用した地域活性化の提案や地域ブランディングを行い新しいビジネスモデルの構築を学ぶ。</p> <p>演習ではテーマに沿ってフィールドワーク（1チーム9，10人の12チーム程度）を行う。</p> <p>（担当教員：○山口夕妃子・花田伸一・浅田智子・赤津隆・西島博樹・富田義典）</p> <p>授業は以下の専門分野を中心に担当者全員で指導、評価する。（○は主担当）</p> <p>○・山口夕妃子：経営・マーケティングについて指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西島博樹：経営・流通について指導する。</li> <li>・富田義典：経済について指導する。</li> <li>・浅田智子：地域におけるミュージアムなどの施設を活かした地域づくりに関するフィールドワーク指導する。</li> <li>・花田伸一：アートを活かした地域づくりに関するフィールドワークを指導する</li> <li>・赤津隆：地域における新製品の研究開発に関するフィールドワークを指導する</li> </ul>			
<p>授業計画</p> <p>1回目． ガイダンスとコース・グループ分け、マネジメントとは？</p>			

- 2回目． 企業における所有・経営と労働
- 3回目． 組織とは？企業を取り巻く環境/研究開発
- 4回目． 消費者とは？顧客ニーズと市場創造/ドメインの定義
- 5回目． STPとマーケティング戦略
- 6回目． 地域マネジメント
- 7回目． 芸術マネジメント/中間テスト
- 8回目． 課題発見1（歴史、文化、芸術、産業などの背景の理解と課題を探す）
- 9回目． 課題発見2（歴史、文化、芸術、産業などの背景の理解と課題を探す）
- 10回目． 地場産業視察・ヒアリング
- 11回目． 商業施設視察 ・ヒアリング
- 12回目． 自治体視察・ヒアリング
- 13回目． プレゼンテーション準備
- 14回目． プレゼンテーションと討論
- 15回目． プレゼンテーションと総括

テキストは各担当者により講義に際して指示する。

参考書・参考資料等は適宜紹介する。

成績評価の方法と基準

- ・ マネジメントに関する知識・理論が修得できたのか筆記試験の実施 30%
- ・ 課題への主体的な関わり方、収集した情報の整理分析力、プレゼンテーション力などを総合的に評価する。 70%

授業科目名： 地域デザイン基礎（フィールドワーク）	必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： ○山下宗利・重藤輝行・山崎功・ホートン・有馬隆文・吉住磨子・浅田智子・花田伸一・西島博樹・富田義典・山口夕妃子・中村隆敏・杉本達應 担当形態：複数 クラス分け
授業形態	演習		
開講時期	前学期		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>文化・歴史・地域資源を再生・保護・活用し、フィールドをデザインするにあたっての、フィールド調査の基本的な姿勢を身につけ、場を見る力を養う。文化・歴史・地域資源を活用したフィールドの魅力を引き出し、フィールドと人やものをつなげるマネジメントの手法を身につけ、協働して新たな場を作り上げる事ができるようになる。またプレゼンテーションの技法を学び、発表することを通して主体的にアウトプットする基本的な能力を養う。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>フィールドワーク演習ではテーマに沿ってフィールドワーク（1チーム9～10人の12チーム程度）を行う。訪問する調査地域において地域の置かれている現状を把握してその課題を見つけるとともに、施設等の入館者数やスタッフの配置と業務、予算、実施する事業等の運営・経営面や地域経済との関連についても調べ、それをふまえて討議をすすめる。これらを通して、より実質的な郷土の文化・歴史資源を再生・保護・活用したフィールドの魅力を引き出すフィールドデザインプランの立案、プレゼンテーションを行う。</p> <p>（担当教員：○山下宗利・重藤輝行・山崎功・Houghton Stephanie Ann・有馬隆文・吉住磨子・浅田智子・花田伸一・西島博樹・富田義典・山口夕妃子・中村隆敏・杉本達應）</p> <p>授業は以下の専門分野を中心に担当者全員で指導、評価する。（○は主担当）</p> <p>○山下宗利：地理学的なフィールドワークを指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重藤輝行：文化遺産（ヘリテージマネジメント）に関するフィールドワークを指導する。</li> <li>・山崎功：地域とアジア・世界に関わるフィールドワークを指導する。</li> <li>・ホートン：地域から世界へと繋がるフィールドづくりについて指導する。</li> <li>・有馬隆文：都市に関するフィールドワークについて指導する。</li> <li>・吉住磨子：地域・芸術資源に関するフィールドワークを指導する。</li> <li>・浅田智子：地域におけるミュージアムのあり方に関するフィールドワークを指導する。</li> </ul>			

- ・花田伸一：アートを活かした地域づくりに関するフィールドワークを指導する
- ・西島博樹：経営学の視点から地域活性化に関するフィールドワークについて指導する。
- ・富田義典：産業構造・雇用構造の変化と地域活性化について指導する。
- ・山口夕妃子：経営・マネジメントに関するフィールドワークについて指導する。
- ・中村隆敏：まとめとしてのプレゼンテーションと評価の検討を行い円滑なディスカッションをサポートする。
- ・杉本達應：プレゼンテーションの作法やメディアの活用などを支援し、ディスカッションや発表のサポートを行う。

#### 授業計画

- 1回目． ガイダンスとコース・グループ分け、フィールドワークの意義
- 2回目． フィールドワークの企画と準備1：調査対象地域の設定
- 3回目． フィールドワークの企画と準備2：文献・地図・史料の収集と整理
- 4回目． フィールドワークの企画と準備3：地形図・空中写真・空間データ、統計データの利用と分析
- 5回目． フィールドワークの企画と準備4：テーマ設定と発表
- 6回目． フィールドワークの企画と準備5：フィールドワーク実施計画と調査項目の検討
- 7回目． フィールドワークの実施1：フィールド資源、地理情報の調査  
フィールドを取り巻く環境（社会的、自然的、文化的、歴史的）の観察調査
- 8回目． フィールドワークの実施2：フィールド資源、地理情報の調査  
フィールドを取り巻く環境（社会的、自然的、文化的、歴史的）の聞き取り調査
- 9回目． フィールドワークの実施3：フィールド資源、地理情報の調査  
フィールド資源の観察や測定による記録
- 10回目． フィールドワークの実施4：フィールド資源、地理情報の調査  
フィールド資源の内容調査（材質、時代、意義）
- 11回目． フィールドワークの実施5：フィールド資源、地理情報の調査  
フィールド資源と地域諸事象との統合化
- 12回目． フィールドワークのまとめ1：収集データの分析1
- 13回目． フィールドワークのまとめ2：プレゼンテーション準備
- 14回目． フィールドワークのまとめ3：プレゼンテーションと討論
- 15回目． フィールドワークのまとめ4：プレゼンテーションと総括

テキストは各担当者により講義に際して指示する。

参考書・参考資料等は適宜紹介する。

#### 成績評価の方法と基準

フィールドワーク課題への主体的な関わり方、収集した情報の整理分析力、プレゼンテーション力

などを総合的に評価する。

- ・フィールド調査にあたり、事前の基礎的な情報収集をふまえ、事前の課題設定を的確に行えたか。
- ・フィールドワーク成果を的確に整理分析し、課題を明確に提示できたか。

授業科目名： 地域創生フィールドワーク	選択必修科目	単位数： 6単位	担当教員名： ○山下宗利・荒木博申・中村隆敏・徳安和博・小木曾誠・石崎誠和・井川健・柳健司・杉本達應・鳥谷さやか・湯之原淳・三木悦子・重藤輝行・花田伸一・西島博樹・山口夕妃子・有馬隆文 担当形態： 複数 クラス分け
授業形態	実習		
開講時期	通年		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>地域の地理的諸要素や文化・芸術資源を学生がチームを組んで継続的に調査し、実践的なフィールドワークの能力を修得しながら、地域との協働によって地域資源を活かした企画を計画することができるようになる。計画から現地で実際に展開するまでのさまざまなプロセスを、いろいろな役割で経験し、地域と協働しながら企画を実現する事ができるようになる。また、それらの活動を様々な形で情報発信し、地域創生のために必要な実践的な能力を習得する。実践後は取り組みを客観的に分析し、理論を補完し今後の新たな実践に活かす思考プロセスを持つ事が出来るようになる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学生は6グループ（1グループ10～15人程度 芸術表現、地域デザインコース学生混成）、6地域に分かれて実施する。担当する地域を決定後にフィールドワークの準備を行い、地図や各種データ、史料、または地域の取り組みを調査、検討し、その後にフィールドワークを実施する（フィールドワークは、実施場所や内容によって、授業時間内に実施する場合もあれば、夏季・冬季休業期間中に集中的に実施する場合もある）。また、フィールドワーク実施中は、地域の取り組みなどの説明を受け、人の動きや経済的な効果などを学び、企画立案していく。その後にコンセプトの明確化や場の設定や展示制作物の準備など現地展開に向けて現地協力者とコンタクトをとりながら現地展開に向けて協力して実現する。それらのプロセスをWebやソーシャルメディア等を活用して広報に繋げて人の流れを作る。現地展開後は合同プレゼンテーションで発表し総括する。</p> <p>（担当教員：○山下宗利・荒木博申・中村隆敏・徳安和博・小木曾誠・石崎誠和・井川健・柳健司・杉本達應・鳥谷さやか・湯之原淳・三木悦子・重藤輝行・花田伸一・西島博樹・山口夕妃子・有馬隆文）</p>			

授業は以下の専門分野を中心に担当者全員で指導、評価する。（○は主担当）

○山下宗利:地理的なフィールドワークおよび地域に応じた企画展示ワークショップ指導を担当する。

・荒木博申:プレゼンテーションにおける方策や技術を支援し、効果的なディスカッションができるようサポートし、地域に応じた企画展示を指導する。

・中村隆敏:クリエイティブ人材育成事業やアートイベントにおける繋がりから学生らと自治体、事業者との連携を促し、フィールドにおける機会を与え指導・支援を行う。

・徳安和博:地域が求める芸術資源について、学生のフィールドワークと作品制作企画展示を主に担当する。

・小木曾誠:西洋画または平面作品のインスタレーションまたは地域に応じた企画展示ワークショップ指導を担当する。

・石崎誠和:日本画または平面作品のインスタレーションまたは地域に応じた企画展示ワークショップ指導を担当する。

・井川健:学生の制作発表計画や地域の要望を考慮し、制作指導、発表活動の援助、指導等を行う。

・柳健司:立体表現、平面表現、素材間をまたぐ造形活動と地域に応じた企画展示の指導を担当する。

・杉本達應:プレゼンテーションの作法やメディアの活用などを支援し、ディスカッションや発表のサポートを行う。

・鳥谷さやか:染織のインスタレーションまたは学生の制作発表計画や地域の要望を考慮し、制作指導、発表活動の援助、指導等を行う。

・湯之原淳:窯芸作品のインスタレーションおよび地域に応じた企画展示ワークショップ指導を担当する。

・三木悦子:窯芸作品のインスタレーションおよび地域に応じた企画展示ワークショップ指導を担当する。

・重藤輝行:文化遺産に関するフィールドワークおよび地域に応じた企画展示ワークショップ指導を担当する。

。

・花田伸一:地域でアートを生み出すことや、地域づくりにつながるネットワーク構築を指導する。

・西島博樹:地域ブランドの構築を用いた地域活性化について指導する。

・山口夕妃子:経営・マネジメントの観点からの地域に応じた企画展示の指導を担当する。

・有馬隆文:都市に関する観点から地域に応じた企画展示の指導を担当する。

授業計画 (①3校時、②4校時、③5校時)

クラス1 (10～15人)

佐賀東地域:吉野ヶ里遺跡等出土品の調査、吉野ヶ里歴史公園内の文化的遺産とそのマネジメントの調査、来園者動向等の調査し、新たな視点で魅力を見だし、効果的な発信を考え、公園施設または吉野ヶ里町内において発表を企画する。またみやき町四季彩の丘では、施設を活用した企画やみやき町と協力した企画を立て発表を行う。

外部実務協力者:三養基町役場企画調整課、佐賀県教育委員会

宿泊対応施設：四季彩の丘みやき

クラス2（10～15人）

小城地域：NPO法人天山ものづくり塾と協力して小城駅から、room design factoryや小城商店街や小柳酒造酒蔵を使用した天山アートフェスタを開催する。あるいは地域学歴史文化研究センターの小城市との共同プロジェクトへ参画する。

外部実務協力者：NPO法人天山ものづくり塾 小柳酒造株式会社 room design factory

クラス3（10～15人）有田地域：有田町内の地理情報・地域資源等のフィールドワークを行い、有田町内や窯元において企画を展開する。または九州陶磁文化館との展示等の共同事業、肥前 陶磁の調査を行い、その魅力の発信や発表を行う。

外部実務協力者：有田商工会議所 佐賀県町村会（有田町） 李荘窯業所 徳永陶磁器（幸楽窯）

宿泊対応施設：有田サテライトキャンパス、有田町民家 幸楽レジデンス宿舎

クラス4（10～15人）唐津地域：唐津プロジェクトの取り組みを学び唐津市内において展覧会を企画することや名護屋城博物館・唐津市教委等との共同事業を考案し、地理情報・地域資源のフィールドワークを行いながら企画を展開する。

外部実務協力者：唐津市役所 カフェLuna 名護屋城博物館

クラス5（15～20人）佐賀市街地（佐賀県立博物館美術館・佐賀城本丸歴史館等を含む）：市民芸術祭に展覧会を企画する事や呉服万博（佐賀市中心市街地で行われている展覧会）を企画すること、または、各博物館美術館での展示企画に参加する。佐賀市街地の他、長崎街道やその周辺の文化遺産をフィールドワークに拠って発掘しながら新たな企画を立ち上げていく。

外部実務協力者：佐賀県立美術館・博物館 NPO法人まちづくり機構ユマニテさが理事長）NPO法人まちづくり研究所、佐賀市民芸術祭

クラス6（10～15人）竹田市：竹田市と連携してアートインレジデンスを通して地域との関わりの中で制作し展覧会を企画し発信していく。地域協力隊と連動してフィールドワークを行い竹田市の魅力を発見し企画を発信する。

外部実務協力者：竹田市企画情報課

宿泊対応施設：アートインレジデンスバンク

第1回 ①ガイダンスとコース・グループ分け

②フィールドワークの企画と準備1：調査対象地域の設定

③フィールドワークの企画と準備2：文献・地図・史料の収集と整理



- 第2回 ①現地展開の計画作成 資料収集 現状分析  
 ②現地展開の計画作成 SNSでの情報発信の立ち上げ  
 ③現地展開の計画作成( テーマ設定 問題設定)
- 第3回 ①フィールドワーク現地展開の分析 現地協力者との打ち合わせ  
 ②フィールドワーク現地展開の分析 地域の人へのインタビューおよび素材集め  
 ③フィールドワーク現地展開の計画修正
- 第4回 ①現地展開の計画発表1 グループ10分  
 ②現地展開の計画発表1 グループ10分  
 ③現地展開の計画討論
- 第5回 ①②③フィールドワークまたは現地展開の計画討論修正
- 第6回 ①②③現地展開のための渉外 (各地域で外部実務協力者への渉外)
- 第7回 ①現地展開の準備制作 役割分担タイムスケジュール作成  
 ②現地展開の準備制作 チーム制作 素材の選定  
 ③現地展開の準備制作 チーム制作 素材の加工方法考察

※外部評価委員によるSNSなどによる情報発信のチェックを行う。

- 第8回 ①②③現地展開の準備制作 (設備品の準備)
- 第9回 ①②③現地展開の準備制作 (実施施設内の準備)
- 第10回 ①②③現地展開の準備制作 (設備品の搬入等)
- 第11回 ①②③現地展開の準備制作 (制作開始)
- 第12回 ①②③現地展開の準備制作 (制作環境の調整、改善等)
- 第13回 ①②③現地展開の準備制作 (制作)
- 第14回 ①②③現地展開の準備制作 (制作及びレポート準備)
- 第15回 ①②③現地展開のプレゼンテーション準備

現地展開計画(グループ)及びレポートの提出

※外部評価委員によるSNSなどによる情報発信のチェックを行う。

- 第16回 ①現地展開の準備タイムスケジュール修正  
 ②③現地展開の準備制作
- 第17回 ①②③現地展開の準備制作 (広報計画の策定)
- 第18回 ①②③現地展開の準備制作 (完成)
- 第19回 ①現地展開広報媒体制作計画作成  
 ②③現地展開広報媒体制作
- 第20回 ①②③現地展開の広報 (担当地域周辺)
- 第21回 ①②③現地展開の広報 (担当地域外、マスメディア等)

第22回	①②③現地展開の現地設置（作品などの搬入作業）
第23回	①②③現地展開の現地設置（展示作業）
第24回	①②③現地展開（展覧会または現地発表会開催）
第25回	①②③現地展開（展覧会または現地発表会開催、撤去搬出作業）
第26回	①②③活動分析 記録（記録用の素材収集）
第27回	①②③活動分析 記録（集めた素材の整理、編集）
第28回	①②③活動分析 記録（記録の完成）
第29回	①②③最終プレゼンテーション準備
第30回	①②③現地展開制作合同最終プレゼンテーション講評会 : 大講義室1グループ15分

外部評価委員：佐賀県教育委員会文化財課 佐賀県町村会 三養基町役場企画調整課 小城商工会議所NPO法人  
 天山ものづくり塾 小柳酒造株式会社 room design factory 有田商工会議所 李荘窯業所 徳永陶磁器  
 (幸楽窯) 唐津市役所 カフェLuna NPO法人まちづくり機構ユマニテ佐賀 トネリコカフェ 佐賀市民芸  
 術祭実行委員会 竹田市企画情報課

合同プレゼンテーション終了後、地域創生交流会

テキスト

地域に応じて随時配布する

参考書・参考資料等

地域の資料を適宜準備する

成績評価の方法と基準

制作の計画づくりから、プレゼンテーション、展示までのプロセスと分析、まとめのそれぞれへの取り組みを評価し合算する。

授業科目名： 有田キャンパスプロジェクト	選択必修科目	単位数： 6単位	担当教員名： ○田中右紀・小瀬村貴哉・赤津隆・甲斐広文・西島博樹
			担当形態： 複数教員
授業形態	実習		
開講時期	通年		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>芸術の表現活動と同時に陶磁器産業地である肥前有田地域を表現と発表の場として捉え直すフィールドワークを実践し素材や場の魅力を引き出しながら作品や製品制作に取り組み、新たな場を作り上げ、発信する事ができる。</p> <p>有田での制作や発表の実践で地域と関わり協働することで、芸術表現や製品開発による地域との関わりを実体験し、柔軟な思考と主体的な創造性で社会に働きかける力を育む。</p> <p>作品・製品のプランニング、制作、発表に至るプロセスを理論的に構築し、地域と協働し制作を進める力を養い、さらに自己の実践を客観的に分析し、理論を補完することで今後の新たな実践に活かす思考プロセスを持つ事が出来る。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>窯業とは異なる分野の学生、または窯業専攻生と他専攻の学生がチームを組み共通のテーマを見いだし、佐賀県立窯業技術センターや有田サテライトキャンパス施設を活用して、本庄キャンパス教室では制作できない規格外の制作や製品開発、サイトスペシフィックな作品制作を行う。制作物は有田町内で展示発表を行い、展示に際してはフィールドワークにより作者自らが展示する場を見いだし、展示のプレゼンテーションの後展示する。</p> <p>産地に対して美術・アイデア・科学技術・経営学等を複合し何が出来るのかを提示するとともに、そのプロセスにおいて地域と関わり、新たな切り口を発掘する。展覧会開催後は記録、分析を行い最終合同プレゼンテーションで発表を行い総括する。</p> <p>(担当教員：○田中右紀・小瀬村貴哉・赤津隆・甲斐広文・西島博樹)</p> <p>授業は以下の専門分野を中心に担当者全員で指導、評価する。(○は主担当)</p> <p>○ 田中右紀:学生の制作発表計画や地域の要望を考慮し、制作指導、発表活動の援助、指導等を行う。</p> <p>・小瀬村貴哉:学生の制作発表計画や制作指導、メディアの活用の方法や発表活動の援助指導を行う。</p> <p>・赤津 隆:窯業技術面の特に材料分析に関する部分を指導する。</p> <p>・甲斐広文:窯芸制作における技術面の指導援助を行う。</p>			

・西島博樹:地域産業リサーチ、フィールドワーク、プランニング等の指導を行う。

授業計画 (①3校時、②4校時、③5校時)

前学期

第1回 ①ガイダンス (有田サテライトキャンパス施設見学)

②フィールド調査 (有田地域)

③ 地域の人との交流やインタビューによる素材収集、体験、観察

外部実務協力者: 寺内信二 (有限会社李荘窯業所社長)

第2回 ①制作の計画作成 フィールドや素材の整理 現状分析 問題定義

②制作の計画作成 SNSでの情報発信の立ち上げ

③制作の計画作成( テーマ設定)

第3回 ①②③プレゼンテーション1人10分 討論 プラン修正

第4回 ①マケット制作 テーマに対しての提案

②③マケット制作 素材選定、選択方法

第5回 ①②③マケット制作

第6回 ①②③マケットに対する中間講評 討論

第7回 ①②③現地展開のための渉外 (各地域で外部実務協力者への渉外)

第8回 ①②③現地展開の準備 (設備品の準備)

第9回 ①②③現地展開の制作開始 (施設内の準備)

第10回 ①②③現地展開の準備および制作 (設備品の搬入等)

第11回 ①②③現地展開の準備および制作 (制作開始)

第12回 ①②③現地展開の準備および制作 (制作環境の調整、改善等)

第13回 ①②③現地展開の準備および制作 (制作)

第14回 ①②③現地展開の準備および制作 (制作及びレポート準備)

第15回 ①②③現地展開の広報計画作成

※制作および現地展開計画及びレポートの提出

後学期

第16回 ①現地展開の準備タイムスケジュールの検証と修正

②③現地展開の準備および制作 (展示計画の作成)

第17回 ①②③現地展開の準備および制作 (広報計画の策定)

第18回 ①②③現地展開の準備および制作 (完成)

第19回 ①②③現地展開広報媒体作成

第20回 ①②③現地展開の広報 (担当地域周辺)

第21回 ①②③現地展開の広報 (担当地域外、マスメディア等)

第22回 ①②③現地展開の現地設置 (作品などの搬入作業)

第23回 ①②③現地展開の現地設置（展示作業）  
第24回 ①②③展覧会開催  
第25回 ①②③展覧会（撤去、搬出作業等）  
第26回 ①②③活動分析 記録（記録用の素材収集）  
第27回 ①②③活動分析 記録（集めた素材の整理、編集）  
第28回 ①②③活動分析 記録（記録の完成）  
第29回 ①②③最終プレゼンテーション準備  
第30回 ①②③現地展開制作最終プレゼンテーション  
合同プレゼンテーション終了後、地域創生交流会

テキスト

学生の専門に応じて適宜配布する。

参考書・参考資料等は適宜紹介する。

成績評価の方法と基準

現地展開の計画づくりから、プレゼンテーション、展示までのプロセスと分析、まとめのそれぞれへの取り組み、チームとしての取り組みを評価し合算する。

授業科目名： 国内外芸術研修	選択必修科目	単位数： 4単位	担当教員名： ○吉住磨子，浅田智子，山崎功，藤巻美恵，S. A. ホートン
			担当形態： 複数 クラス分け
授業形態	実習		
開講時期	前期		
<p>授業の到達目標及びテーマ</p> <p>芸術作品を生み出した歴史について学習したり，歴史的遺物を生み出した環境に実際に触れたりすることによって，芸術の歴史や芸術作品をより説得力をもって他者へ伝えることができるようになる。それとともに，作品と作品を生み出した歴史的背景の関係を知ることにより，自分自身の作品の社会的機能について高い意識をもつようになる。また，実際の資料（美術作品，歴史的遺構，自然）に触れることで，技法や素材の扱いについて習熟することができるようになる。</p> <p>受講者各自が，国際的・協働的視点をもって創作活動や学術的研究に向かえるようになる。また，グループワーク式の形式の授業を受講することによって，受講者の能動性や主体性が養われる。さらに，異文化理解の視点をもって，学ぶことにより，ものごとの普遍性と差異の両方を理解するようになる。加えて，事前・事後演習・講義（特別講義，講演，集中講義）模擬調査をもとに各自の創作活動や学術研究につながる調査体験計画を立案できるようになることを意図し，本講義を開講する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>国内外の芸術関連施設やヒストリックサイトなどに出かけていき，そこで，実物資料に触れたり，歴史的遺物の活用方法について学んだりする。本実習を通じて，芸術表現や芸術マネジメントの活動に国際的・海外地域比較・協働の視点を取り入れるための方法を学んでいく。また，現地調査体験の機動的な実践計画の立案，実施と自己評価をできるようになる。実習を効果的に実施するため，実務家を招聘した講演会を行う。具体的な実習のやり方は次のとおり。教員5名がそれぞれの専門分野のプレゼンテーションを行う。それに対して，学生は7～8名でグループを作り，実習目的や実習内容をグループごとに約3ヶ月かけて決定していく。実習先として予定しているのは，次の国や地域のさまざまな施設や歴史的文化財など。</p> <p>（担当教員：○吉住磨子，浅田智子，山崎功，藤巻美恵，S. A. ホートン）○は主担当</p> <p>実習期間中（15回から27回）以外は，金曜日のⅢ，Ⅳ，Ⅴ校時に行う。実習期間中は，8～10時間／日の実習を行う。</p> <p>第1回：ガイダンス（実習の狙い，成績評価の方法などについて説明。経費，安全管理について。国内外芸</p>			

術実習実施の方法、対象地域に関わる概要説明1) ガイダンス (実習の狙い、成績評価の方法などについて説明。経費、安全管理について。国内外芸術実習実施の方法、対象地域に関わる概要説明1) 担当：吉住、浅田、山崎、藤巻、ホートン

第2回：事前講義 (海外実習実施の方法、対象地域に関わる教員のプレゼンテーション1内容は美術館、戦争の表象、アジアの表象) 担当：同上

第3回：事前講義 (海外実習実施の方法、対象地域に関わる教員のプレゼンテーション2 内容は異文化コミュニケーション、日本とヨーロッパにおけるキリスト教受容と宗教美術) 担当：同上

第4回：グループワーク (グループ分け、グループに分かれて実習計画の立案) 担当：吉住、浅田

第5回：グループワーク (同上、研修の日程決め、実習先とのコンタクト開始) 担当：吉住、浅田

第6回：特別講演会 (実務家による講演会、意見交換) 担当：吉住、浅田、山崎、藤巻、S.A. ホートン

第7回：グループワーク (グループに分かれて実習の計画立案) 担当：吉住、浅田、

第8回：グループワーク (同上、中間発表会の用意) 担当：吉住、浅田

第9回：中間発表会 (実習計画の発表、ディスカッション、教員によるコメント) 担当：吉住、浅田、山崎、藤巻、S.A. ホートン

第10回：グループワーク (グループに分かれて実習計画の修正)、英語の指導 (スピーキングやメールの書き方など) 担当：山崎、藤巻、ホートン

第11回：グループワーク (実習に関わる準備、資料収集)、英語の指導 (旅行に必要な英会話など) 担当：同上

第12回：グループワーク (実習に関わる準備、資料収集・資料の読み込み1)、英語の指導、その他の外国語の指導、担当：吉住、浅田、山崎

第13回：グループワーク (実習に関わる準備、資料収集・資料の読み込み2)、英語の指導、担当：山崎、藤巻、ホートン

第14回：実習の最終チェック (実習中の諸注意ほか) 担当：同上

第15回：実習1日目 (目的地への移動。ミーティング) 担当：吉住、浅田、山崎、藤巻、ホートン

第16回：実習2日目 (実習1。ミーティング) 全体ミーティングとグループミーティング担当：同上

第17回：実習3日目 (実習2。ミーティング) 体調のチェック、担当：同上

第18回：実習4日目 (実習3。ミーティング)、レポート作成・提出、担当：同上

第19回：実習5日目 (実習4。ミーティング)、レポートをもとに全員でディスカッション、担当：同上

第20回：実習6日目 (実習5。ミーティング) 体調のチェック、担当：同上

第21回：実習7日目 (実習6。ミーティング) 学生による実習先でのインタビュー、担当：同上

第22回：実習8日目 (実習7。ミーティング) 担当教員による講義、担当：同上

第23回：実習9日目 (実習8。実習中間報告会) 担当：同上

第24回：実習10日目（実習9。ミーティング）反省会，体調のチェック 担当：同上  
第25回：実習11日目（実習10。グループミーティング）担当：同上  
第26回：実習12日目（実習11。ミーティング）反省会 担当：同上  
第27回：実習13日目（実習12。帰佐） 担当：同上  
第28回：成果報告・公開審査会1，口頭発表，学生によるディスカッション，評者によるコメント 担当：同上，実務家（第6回特別講演会講師）  
第29回：成果報告・公開審査会2，口頭発表，学生によるディスカッション，評者によるコメント，他の参加者からのコメント，担当：同上  
第30回：成果報告のまとめ1（パネル展示かWebをつかったプレゼンテーション，準備作業を含む）担当：吉住，浅田  
第31回：成果報告のまとめ2（パネル展示かWebをつかったプレゼンテーション）担当：山崎，藤巻  
第32回：成果報告のまとめ3（パネル展示かWebをつかったプレゼンテーション，後片付けを含む）担当：ホートン

テキスト  
使用しない

参考書・参考資料等は適宜紹介する。

#### 成績評価の方法と基準

実習への取り組み（60パーセント）、口頭プレゼンテーション（40パーセント）によって評価する。

#### その他

実習先によって異なるが、実習費用は一人だいたい8～35万円（自己負担）。国外実習を選択する人は、国際交流推進センターや佐賀大学校友会の海外研修支援制度を利用すること。本実習を履修する人は、必ず旅行保険に加入しておくこと。経費や安全管理については、ガイダンス時に詳しく説明する。また、国際交流推進センターによる「佐賀大学留学予定者対象危機管理研修」（5月実施予定）を受講すること。受講生は2年次後期の「芸術文化・地域創生論」を必ず履修していること。また、本科目を受講する以前に履修を推奨する科目については、1年次及び2年次の教務ガイダンスの時に説明する。

研修の移動は鉄道，飛行機，バスなどを組み合わせて行うが，国外研修の場合は，空港での現地集合・解散を原則とし，一方，国内研修の場合は，最初の研修地での現地集合と，最後の研修地での現地解散を原則とする。



佐賀大学 規程集

[トップページに戻る](#)

[最上位](#) > [第13編 就業規則](#)

国立大学法人佐賀大学教育職員定年規程

(平成16年4月1日制定)

(趣旨)

第1条 国立大学法人佐賀大学教育職員就業規程(平成16年4月1日制定。)第9条の規定に基づく国立大学法人佐賀大学の専任の教授、准教授、講師、助教及び助手(以下「大学教員」という。)の定年は、この規程の定めるところによる。

(定年及び退職の日)

第2条 大学教員の定年は、年齢65年とする。

2 大学教員の定年による退職の日は、定年に達した日の属する学年の末日とする。

(規程の改正)

第3条 この規程の改正は、教育研究評議会において、構成員の3分の2以上が出席し、出席者の過半数の同意を得なければならない。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則(平成19年3月22日改正)

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

## 国立大学法人佐賀大学契約職員就業規則

(平成21年3月11日制定)

## 第1章 総則

(目的)

第1条 この規則は、国立大学法人佐賀大学職員就業規則（平成16年4月1日制定。以下「職員就業規則」という。）第2条第2項の規定に基づき、国立大学法人佐賀大学（以下「本学」という。）に勤務する職員（国立大学法人佐賀大学臨時職員就業規則（平成16年4月1日制定。以下「臨時職員就業規則」という。）の適用を受ける職員を除く。以下「契約職員」という。）の勤務条件及び服務規律その他就業に関する基本的事項を定めるものとする。

(中略)

(契約職員の種類)

第3条 契約職員の種類は、フルタイム雇用職員とする。ただし、前条第1号に規定する教育職員のうち、特任教員及び寄附講座等教員については、フルタイム雇用職員又は時間雇用職員の2種類とする。

(以下、略)

<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/582.html>

## 国立大学法人佐賀大学契約職員給与規程

(平成21年3月23日制定)

## 第1章 総則

(目的)

第1条 この規程は、国立大学法人佐賀大学契約職員就業規則（平成21年3月11日制定。以下「契約職員就業規則」という。）第20条の規定に基づき、国立大学法人佐賀大学（以下「本学」という。）に所属する契約職員の給与に関する事項を定めるものとする。

(中略)

## 第3章 特任教員

(本給)

第10条 特任教員の本給は、採用時におけるその者の職名及び学校教育法（昭和22年法律第26号）による4年制の大学の卒業相当の学歴を取得した時以後の経験年数を基にした区分（以下この条において「経験年数区分」という。）に応じて、それぞれ次の表に掲げる号俸の額とする。

## (1) 特任教員（フルタイム雇用職員）の給与表（月額）

	経験年数区分（大学4卒後）	号俸	本給額（月額）			
			特任助教	特任講師	特任准教授	特任教授
満65歳未満の者	3年未満	1	313,000円			
	3年以上6年未満	2	350,000円			
	6年以上9年未満	3	408,000円	429,000円		
	9年以上12年未満	4	450,000円	475,000円	508,000円	
	12年以上15年未満	5	471,000円	517,000円	554,000円	
	15年以上18年未満	6	496,000円	550,000円	571,000円	604,000円
	18年以上21年未満	7	513,000円	579,000円	588,000円	638,000円
	21年以上24年未満	8	525,000円	604,000円	604,000円	658,000円
	24年以上27年未満	9	533,000円	617,000円	617,000円	688,000円
	27年以上30年未満	10	542,000円	625,000円	629,000円	708,000円
	30年以上33年未満	11	550,000円	633,000円	642,000円	729,000円
	33年以上	12	558,000円	646,000円	654,000円	754,000円
		13			667,000円	771,000円
		14			675,000円	792,000円
	満65歳以上の者		352,000円	368,000円	398,000円	506,000円

## (2) 特任教員（時間雇用職員）の給与表（時間給）

(中略)

2 前項の規定にかかわらず、雇用期間を更新した特任教員について、更新日前の号俸より上位の号俸を受けることとなる経験年数区分に達した場合の本給は、更新日以後に当該上位の号俸の額とすることができる。

3 前2項の規定にかかわらず、職名の異動を伴って雇用期間を更新した特任教員の本給は、更新日以後の職名において更新日前の号俸と同じ号数の号俸の額とする。

4 前3項の規定にかかわらず、特任教員の本給を決定する場合において、特段の事情があるときには、その者の本給を、前2項の規定により適用を受ける号俸の2号俸上位又は2号俸下位の範囲内の号俸の額に決定することができる。

5 前4項で決定された本給以外の諸手当（超過勤務手当、休日給及び宿日直手当は除く。）は支給しない。

6 前5項の規定にかかわらず、学長が別段の措置を講ずる必要があると認める場合には、その者の本給を個別に定めることができる。

(他の規程の準用)

第11条 特任教員（フルタイム雇用職員）の給与に関する事項については、この規程に定めるもののほか、職員給与規程第37条から第40条まで、第42条及び第46条の規定を準用する。

2 特任教員（時間雇用職員）の給与に関する事項については、この規程に定めるもののほか、臨時職員給与規程第14条第2項及び第15条の規定を準用する。

(以下、略)

<https://kiteikanri2011.admin.saga-u.ac.jp/doc/rule/584.html>

例:芸術表現コースで、伝統工芸(木工)のデザイナーを目指す学生の履修モデル

科目/履修学年、学期		授 業 科 目 名										単位数	合計			
		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期							
教養教育科目	教養教育科目必修	大学入門科目 I	2											2	30	
		英語A	1	英語B	1	英語C	1	英語D	1					4		
		スポーツ実習 I	1	スポーツ実習 II	1									2		
		情報基礎概論	2											2		
	教養教育科目選択必修				実験化学 I	2	経済学	2	会計学	2	伝統工芸と匠	2		12		
							経営学	2			情報メディアと倫理	2				
						インターフェース科目 地域創生学 I	2	インターフェース科目 地域創生学 II	2	インターフェース科目 地域創生学 III	2	インターフェース科目 地域創生学 III	2	8		
学部共通科目	学部共通科目必修	地域デザイン基礎(デザイン)	2	デジタル表現基礎	2	知的財産権学	2	芸術文化・地域創生論 (国内外地域プロジェクト事例研究)	2					22	34	
		地域デザイン基礎(マネジメント)	2	デザイン発想論	2											
		地域デザイン基礎(フィールドワーク)	2													
		芸術表現基礎(絵画)	2													
		芸術表現基礎(彫刻)	2													
		芸術表現基礎(工芸)	2													
	学部共通科目選択必修				職業キャリア論	2										
			流通論	2		アートと科学	2							12		
			アートマネジメント	2												
									有田キャンパスプロジェクト	3	有田キャンパスプロジェクト	3				
コース基礎科目	コース基礎科目必修			芸術表現A(日本画)	2	図法	2	材料学	2					20	22	
				芸術表現A(西洋画)	2			デザイン基礎	2							
				芸術表現A(彫刻)	2			美術品流通論	2							
				芸術表現B(窯芸)	2											
				芸術表現B(染色工芸)	2											
			芸術表現B(漆・木工芸)	2												
	コース基礎科目選択必修					工芸理論	2						2			
コース選択科目	コース選択科目選択							漆・木工芸概論	2					20	20	
						漆・木工芸 I a	4	漆・木工芸 II a	4	漆・木工芸 I b	4	漆・木工芸 II b	4			
						コミュニケーションデザイン論	1					メディアアート論	1			
他学部開講履修推奨科目 自由選択科目						衣食住文化論	2	CAD/CAM I	2				12	12		
					製図	2		漆・木工芸 III b	2		地域経済論	2	観光人類学(農)	2		
卒業研究											卒業研究	3	卒業研究	3	6	6
標準修得単位数		22	20	20	23	15	13	6	5	124	124					

例:芸術表現コースで、有田の大手陶磁器企業への就職を目指す学生の履修モデル

科目／履修学年、学期		授 業 科 目 名										単位数 合計				
		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期							
教養教育科目	教養教育科目 必修	大学入門科目 I	2											2	30	
		英語A	1	英語B	1	英語C	1	英語D	1					4		
		スポーツ実習 I	1	スポーツ実習 II	1									2		
		情報基礎概論	2											2		
	教養教育科目 選択必修				実験化学 I	2			会計学	2	伝統工芸と匠	2				12
								セラミックスの不思議	2	法律学	2	情報メディアと倫理	2			8
学部共通科目	学部共通科目 必修	地域デザイン基礎(デザイン)	2	デジタル表現基礎	2	知的財産権学	2	芸術文化・地域創生論 (国内外地域プロジェクト事例研究)	2						22	
		地域デザイン基礎(マネジメント)	2	デザイン発想論	2											
		地域デザイン基礎(フィールドワーク)	2													
		芸術表現基礎(絵画)	2													
		芸術表現基礎(彫刻)	2													
		芸術表現基礎(工芸)	2													
	学部共通科目 選択必修			職業キャリア論	2										12	
		流通論	2	文化経済論	2				アートと科学	2						
									有田キャンパスプロジェクト	3	有田キャンパスプロジェクト	3				
コース基礎科目	コース基礎科目 必修		芸術表現A (日本画)	2	図法	2	材料学	2						20		
			芸術表現A (西洋画)	2			デザイン基礎	2								
			芸術表現A (彫刻)	2			美術品流通論	2								
			芸術表現B (窯芸)	2												
			芸術表現B (染色工芸)	2												
		芸術表現B (漆・木工芸)	2													
コース基礎科目 選択必修					工芸理論	2								2		
コース選択科目	コース選択科目 選択				釉薬化学概論	2	セラミック原料化学	2	世界の中の肥前陶磁器	2				20		
										陶磁マーケティング	2					
							陶磁特別演習 I	2	衣食住文化論	2						
				石膏型成型 I	2	石膏型成型 II	2	石膏型成型 III	2	石膏型成型特別演習	2					
他学部開講履修推奨科目 自由選択科目				装飾技法 I	2	セラミック焼成	2			CAD/CAM I	2	地域経済論	2	12		
				製図	2											
				コミュニケーションデザイン論	1			地域ブランディング論	1							
卒業研究										卒業研究	3	卒業研究	3	6		
標準修得単位数		20	22		20	21		20		13	5	3	124	124		

例：地域デザインコースで、地域の情報を発信する企業（マスコミ）への就職を目指す学生の履修モデル

科目／履修学年、学期		授 業 科 目 名										単位数	合計						
		1年前期		1年後期		2年前期		2年後期		3年前期				3年後期		4年前期		4年後期	
教養教育科目	教養教育科目 必修	大学入門科目Ⅰ	2														2	32	
		英語A	1	英語B	1	英語C	1	英語D	1										4
		情報基礎概論	2																2
	教養教育科目 選択必修						デジタル表現技法	2	画像へのアプローチ	2	情報メディアと倫理	2							16
		基本教養科目(第二外国語科目群) ※	2	基本教養科目(第二外国語科目群) ※	2	Web 表現	2	映像表現	2	デジタルメディア・デザイン	2								8
学部共通科目	学部共通科目 必修	地域デザイン基礎(デザイン)	2	デジタル表現基礎	2	知的財産権学	2	芸術文化・地域創生論 (国内外地域プロジェクト事例研究)	2									22	
		地域デザイン基礎(マネジメント)	2	デザイン発想論	2														
		地域デザイン基礎(フィールドワーク)	2																
		芸術表現基礎(絵画)	2																
		芸術表現基礎(彫刻)	2																
		芸術表現基礎(工芸)	2																
	学部共通科目 選択必修		職業キャリア論	2															12
		アートマネジメント	2	アートマーケティング	2														
			Key Concepts in Art (キーコンセプトインアート)	2															
								地域創生フィールドワーク	3	地域創生フィールドワーク	3								
コース基礎科目	コース基礎科目 必修		博物館概論	2	ヘリテージマネジメント論	2											10	20	
			ランドスケープ	2	地域再生論	2			地域マネジメント論	2									
	コース基礎科目 選択必修		美術史基礎	2	コミュニティビジネス	2	地域情報マネジメント演習	2									10		
専攻科目	コース選択科目						コンテンツデザインⅠ	2										20	
					フィールドワーク実習	2	情報デザインⅠ	2											
					地域再生デザイン学	2	デザインプロジェクト演習	2	メディアプレゼンテーション	2	デザイン実践セミナー	2							
										情報デザインⅡ	2	地域資源論	2						
												コンテンツデザインⅡ	2						
他学部開講履修推奨科目 自由選択科目			博物館学内実習	1	映像デザインⅠ	2			地域ブランディング論	1	キュレイトイング基礎	2	地域経済論	2			12	12	
								コミュニケーションデザイン論	1					都市経済論	2				
卒業研究													卒業研究	3	卒業研究	3	6	6	
標準修得単位数			21		20			22			19		17		15		5	124	124

※「アジアの文化・文学」、「欧米の文化・文学」

例：地域デザインコースで、イベント関連企業への就職を目指す学生の履修モデル

科目／履修学年、学期		授 業 科 目 名										単位数 合計								
		1年前期	1年後期	2年前期	2年後期	3年前期	3年後期	4年前期	4年後期											
教養教育科目	教養教育科目 必修	大学入門科目Ⅰ	2											2	32					
		英語A	1	英語B	1	英語C	1	英語D	1					4						
		情報基礎概論	2											2						
	教養教育科目 選択必修			コミュニケーション論	2							西洋史	2	16						
		基本教養科目(第二外国語科目群) ※	2	基本教養科目(第二外国語科目群) ※	2			ジャーナリズムの現在	2			伝統工芸と匠	2	8						
学部共通科目	学部共通科目 必修	地域デザイン基礎(デザイン)	2	デジタル表現基礎	2	知的財産権学	2	芸術文化・地域創生論 (国内外地域プロジェクト事例研究)	2					22	34					
		地域デザイン基礎(マネジメント)	2	デザイン発想論	2															
		地域デザイン基礎(フィールドワーク)	2																	
		芸術表現基礎(絵画)	2																	
		芸術表現基礎(彫刻)	2																	
		芸術表現基礎(工芸)	2																	
	学部共通科目 選択必修		職業キャリア論	2																
		アートマネジメント	2	Key Concepts in Art (キーコンセプトインアート)	2	流通論	2							12						
				文化経済論	2															
									国内外芸術研修	4										
コース基礎科目	コース基礎科目 必修		博物館概論	2	地域再生論	2			ヘリテージマネジメント論	2			10	20						
			ランドスケープ	2					地域マネジメント論	2										
	コース基礎科目 選択必修		美術史基礎	2	コミュニティビジネス	2	情報デザインⅠ	2					10							
コース選択科目	コース選択科目 選択				キュレイトイング基礎	2	博物館資料論(博物館学Ⅲ)	2					20	20						
					博物館経営論(博物館学Ⅱ)	2	博物館展示論	2												
					博物館資料保存論(芸術と倫理を含む)	2	博物館情報・メディア論	2												
			博物館学内実習	1	博物館学内実習	1	博物館教育論	1	博物館学外実習	1										
									アートマネジメント特別講義	2										
							キュレーター実務実践演習	2												
他学部開講履修推奨科目 自由選択科目					アートプロデュース論	2	アートプロデュース演習Ⅰ	2	アートプロデュース演習Ⅱ	2	社会教育概論Ⅰ(教育)	2	12	12						
卒業研究											観光人類学(農)	2	地域経済論(経済)	2	卒業研究	3	卒業研究	3	6	6
標準修得単位数			21	22	20	22			17		12		7	3	124	124				

※「アジアの文化・文学」、「欧米の文化・文学」

## 芸術地域デザイン学部 入学試験概要

学科・コース	一 般 入 試											特 別 入 試						私費外国人留学生入試			3 年 次 編 入 学					
	前 期 日 程							後 期 日 程				AO入試			推薦入試 I			私費外国人留学生入試			3 年 次 編 入 学					
	募集人員	センター試験		個別学力検査		配点計	募集人員	センター試験		個別学力検査		配点計	募集人員	教科等	配点	募集人員	教科等	配点	募集人員	教科等	配点	募集人員	教科等	配点		
芸術地域デザイン学科	芸術表現コース	33	3科目型	国語、 (地歴・ 公民、数 学、理科 から1科 目)、 外国語 【3教科3 科目】	500 点			実技 検査	500 点	1,000 点	12		国語、 (地歴・ 公民、数 学、理科 から1科 目)、 外国語 【3教科 3科目】	500 点	実技 検査	300 点	800 点	6	書類 審査・ 実技 検査・ 面接	1,000 点	4	書類 審査・ 実技 検査・ 面接	1,000 点	若干 人	未 定	未 定
	地域デザインコース	25	5科目型	国語、 (地歴・ 公民から 1科目)、 数学、 理科、 外国語 【5教科5 科目】	700 点	総合 問題	400 点	1,100 点	15		国語、 (地歴・ 公民から 1科目)、 数学、 理科、 外国語 【5教科 5科目】	600 点	問題 解決・ 英語 提案 力 テ ス ト	400 点	1000 点	15	小 論 文・ 適 性 検 査	1000 点	—	—	—	若 干 人	未 定	未 定	未 定	未 定

## 地域からの教育実習への協力状況

## X 実習の具体的計画（教育実習）

No.	実習施設名	所在地	授業科目毎の受入れ可能人数
1	佐賀市立 成章中学校	佐賀市成章町7番1号	1～2名
2	城南中学校	佐賀市南佐賀一丁目20番1号	1～2名
3	昭栄中学校	佐賀市昭栄町1番7号	1～2名
4	城東中学校	佐賀市巨勢町大字牛島242番地	1～2名
5	城西中学校	佐賀市本庄町本庄1021-1	1～2名
6	城北中学校	佐賀市高木瀬西3-1-50	1～2名
7	金泉中学校	佐賀市久保泉町大字上和泉2361番地	1～2名
8	芙蓉中学校	佐賀市蓮池町大字小松1000番地	1～2名
9	鍋島中学校	佐賀市鍋島一丁目19番1号	1～2名
10	諸富中学校	佐賀市諸富町大字徳富2058の3	1～2名
11	大和中学校	佐賀市大和町大字東山田3554番地1	1～2名
12	松梅中学校	佐賀市大和町大字松瀬2090番地1	1～2名
13	富士中学校	佐賀市富士町大字古湯2735番地	1～2名
14	北山中学校	佐賀市富士町大字中原342番地2	1～2名
15	三瀬中学校	佐賀市三瀬村三瀬2789	1～2名
16	川副中学校	佐賀市川副町大字鹿江710番地	1～2名
17	東与賀中学校	佐賀市東与賀町大字下古賀1127番地1	1～2名
18	思斉中学校	佐賀市久保田町大字新田1217番地	1～2名
19	佐賀県立 佐賀西高等学校	佐賀市城内1丁目4番25号	1～2名
20	佐賀東高等学校	佐賀市南佐賀3丁目11-15	1～2名
21	佐賀北高等学校	佐賀市天佑二丁目6番1号	1～2名
22	致遠館高等学校	佐賀市兵庫北四丁目1番1号	1～2名
23	佐賀大学 文化教育学部 附属中学校	佐賀市城内1丁目14番4号	

※佐賀大学文化教育学部と佐賀市教育委員会は、平成20年12月24日に「佐賀大学文化教育学部と佐賀市教育委員会との教育実習に関する協定」を締結している。



佐賀大学文化教育学部と佐賀市教育委員会との教育実習に関する協定書

佐賀大学文化教育学部と佐賀市教育委員会（以下「両者」という。）は、教育実習の実施に関して、次のとおり協定を締結する。

（目的）

第1条 この協定は、両者が連携・協力し、佐賀大学における教育実習の質的水準の向上を図るとともに、教育実習生を受け入れる小学校及び中学校（以下「実習校」という。）における教育の充実・発展に寄与することを目的とする。

（連携・協力事項）

第2条 両者が連携・協力する事項は、次のとおりとする。

- (1) 実習校における教育実習の実施に関すること。
- (2) 実習校の教育の充実・発展に関すること。
- (3) その他両者が必要と認める事項

（教育実習協議会）

第3条 両者は、第1条に規定する目的を推進するために、教育実習協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

2 協議会に関し必要な事項は、別に定める。

（有効期間）

第4条 この協定書は、協定書締結の日から効力を発するものとし、両者の一方又は双方から連携・協力の終了を申し入れない限り、その効力は、継続するものとする。

（雑則）

第5条 この協定書に定めるもののほか、必要な事項については、両者が協議して定めるものとする。

2 この協定書に定める事項に疑義が生じた場合は、両者が協議してその解決を図るものとする。

この協定書は、2通作成し、両者が署名の上、それぞれ1通を保管するものとする。

平成20年12月24日

佐賀市本庄町1番地  
佐賀大学文化教育学部長

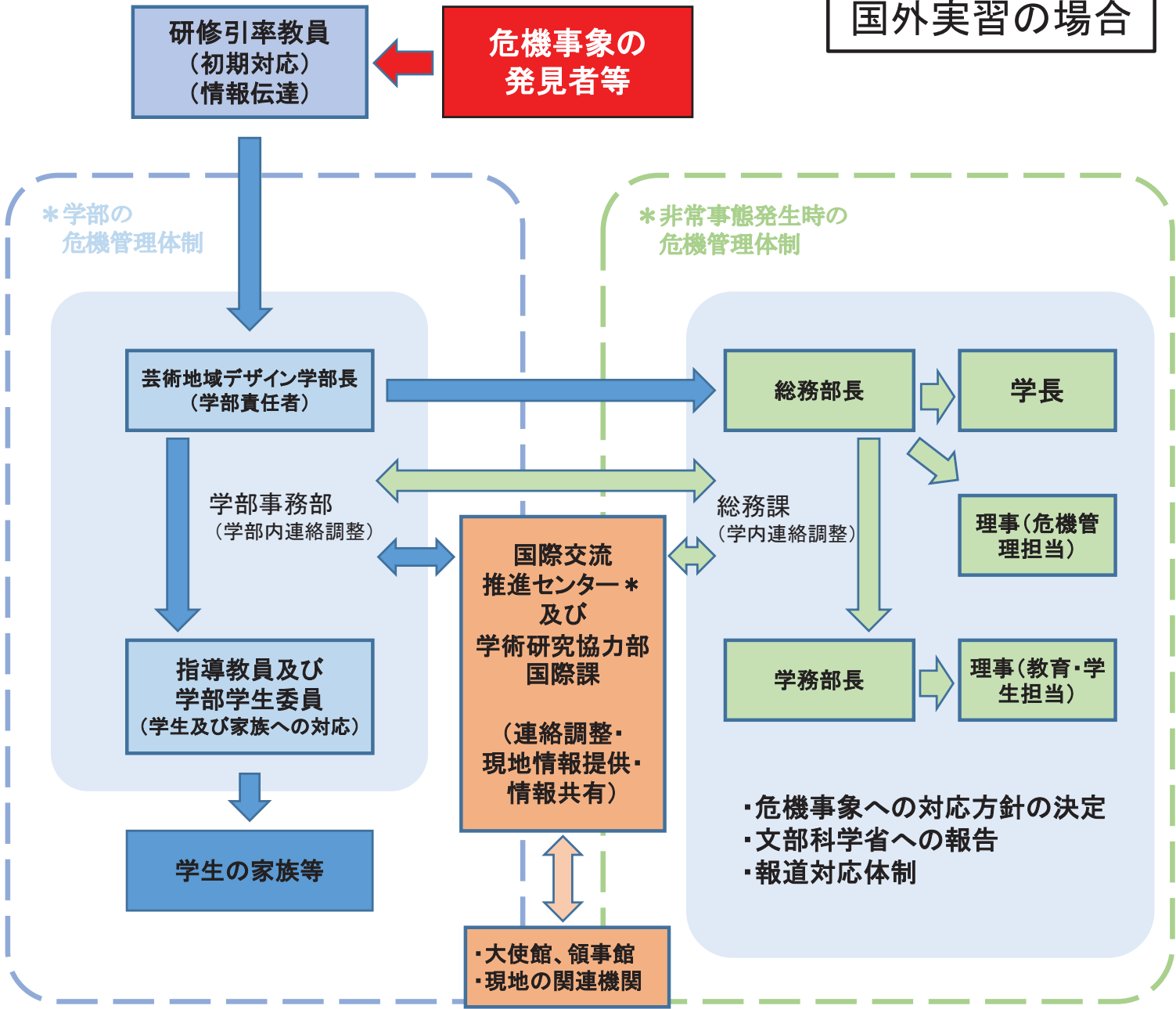
上野 景三

佐賀市大財3丁目11番21号  
佐賀市教育委員会教育長

田部井 洋文

佐賀大学芸術地域デザイン学部『国内外芸術研修』  
－ 危機管理に伴う緊急連絡網－

国外実習の場合



\* 国際交流推進センター長は理事(国際交流担当)

## 編入学 既修得単位認定について

科目	教養教育科目								専門教育科目					卒業研究	自由選択科目	計
	大学入門科目Ⅰ	共通基礎科目		基本教養科目	インターフェース科目	共通教職科目		学部共通科目		専門科目						
		外国語科目	情報リテラシー科目			体育実技Ⅰ	体育実技Ⅱ	必修科目	選択科目	コース基礎科目		コース選択科目				
										英語	情報基礎概論	必修科目	選択科目			
コース																
芸術表現コース	2	4	2	12	8	1	1	22	12	20	2	20	6	12	124	
(一括認定単位)	2	4	2	10	0	1	1	14	0	16	2	8	0	2	62	
地域デザインコース	2	4	2	16	8	0	0	22	12	10	10	20	6	12	124	
(一括認定単位)	2	4	2	12	8	0	0	18	0	6	0	6	0	4	62	

※

※) 地域デザイン基礎、芸術表現基礎に相当する分を認定

例：芸術表現コースで、有田の大手陶磁器企業への就職を目指す3年次編入学生の履修モデル

科目／履修学年、学期								要履修単位数		
		3年前期		3年後期		4年前期		4年後期		単位数
教養教育科目	教養教育科目 必修								0	10
									0	
									0	
				情報メディアと倫理	2					
	教養教育科目 選択必修								0	
		インターフェース科目 地域創生学Ⅰ	2	インターフェース科目 地域創生学Ⅱ	2	インターフェース科目 地域創生学Ⅲ	2	インターフェース科目 地域創生学Ⅲ	2	
								0		
学部共通科目	学部共通科目 必修	知的財産権学	2	職業キャリア論	2					8
				デジタル表現	2					
				デザイン発想論	2					
	学部共通科目 選択必修	流通論	2	文化経済論	2	アートと科学	2			12
		有田キャンパスプロジェクト	3	有田キャンパスプロジェクト	3					
コース基礎科目	コース基礎科目 必修		材料学	2				美術品流通論	2	4
	コース基礎科目 選択必修								0	
コース選択科目	コース選択科目	釉薬化学概論	2			世界の中の肥前陶磁器	2			12
								陶磁特別演習Ⅰ	2	
		石膏型成型Ⅰ	2	石膏型成型Ⅱ	2	石膏型成型Ⅲ	2			
他学部開講履修推奨科目 自由選択科目	製図	2			地域経済論	2			10	
	装飾技法Ⅰ	2	セラミック焼成	2						
	地域ブランディング論	1			コミュニケーションデザイン論	1				
卒業研究					卒業研究	3	卒業研究	3	6	6
標準修得単位数		18		21		14		9	62	62

例：地域デザインコースで、イベント関連企業への就職を目指す3年次編入学生の履修モデル

科目／履修学年、学期								要履修単位数			
		3年前期		3年後期		4年前期		4年後期		単位数	合計
教養教育科目	教養教育科目 必修								0	4	
									0		
									0		
		アジアの文化・文学	2	情報メディアと倫理	2				4		
	教養教育科目 選択必修								0		
									0		
学部共通科目	学部共通科目 必修		デジタル表現基礎	2	知的財産権学	2			4	16	
	学部共通科目 選択必修	アートマネジメント	2	Key Concepts in Art (キーコンセプトインアート)	2	流通論	2				12
				文化経済論	2						
		国内外芸術研修	4								
コース基礎科目	コース基礎科目 必修		博物館概論	2					4	14	
		地域マネジメント論	2								
	コース基礎科目 選択必修	映像デザインⅠ	2	コンテンツデザインⅠ	2	地域情報マネジメント演習	2				10
		視覚伝達デザインⅠ	2	情報デザインⅠ	2						
コース選択科目	コース選択科目	映像デザインⅡ	2	映像デザインⅢ	2					14	
		メディアプレゼンテーション	2	デザイン実践セミナー	2						
						メディアプレゼンテーション	2				
		コミュニケーションデザイン論	1			地域ブランディング論	1				
		コミュニケーションデザイン演習	1			地域ブランディング演習	1				
他学部開講履修推奨科目 自由選択科目	自由選択科目	アートプロデュース論	2	アートプロデュース演習Ⅰ	2	アートプロデュース演習Ⅱ	2			8	
						地域経済論(経済)	2				
卒業研究					卒業研究	3	卒業研究	3	6	6	
標準修得単位数			22		20		17	3	62	62	

芸術地域デザイン学部 前期学期時間割(案)							
	I 9:50~10:20	II 10:30~12:00	III 13:00~14:30	IV 14:40~16:10	V 16:20~17:50	VI 18:00~19:30	
1年	芸術表現コース	流通論 学部必修 110人 西島博樹	スポーツ実習Ⅰ 芸術表現 必修 本庄開講	芸術表現基礎(彫刻) 手習室での時間 一年生は他の校地は開講できない	芸術表現基礎(工芸) 手習室での時間 一年生は他の校地は開講できない	地域デザイン基礎(デザイン) 手習室での時間 一年生は他の校地は開講できない	本庄キャンパス
	地域デザイン						
2年	芸術表現コース	工学基礎選 必修 本庄開講 田中右起 N2中開講	芸術表現基礎(彫刻) 手習室での時間 一年生は他の校地は開講できない	芸術表現基礎(工芸) 手習室での時間 一年生は他の校地は開講できない	地域デザイン基礎(デザイン) 手習室での時間 一年生は他の校地は開講できない		本庄キャンパス
	地域デザイン	アートと科学 学部必修 本庄有田で毎年交互開講 N2本庄	ロクロ成形Ⅰ 甲斐	唐津焼染 有田開講 岡本作礼			有田キャンパス 本庄キャンパスへの途中移動は不要
3年	芸術表現コース	セラミック科学実習 有田開講 赤津隆	陶磁マーケティング 有田開講 山口夕起子	石膏型成型Ⅰ 三木悦子			有田キャンパス 本庄キャンパスへの途中移動は不要
	地域デザイン	アートマネジメント 学部必修 有田開講 赤津隆	アートマネジメント実習Ⅰ 山下	アートプロデュース 有田開講 田中右起	アートプロデュース実習Ⅱ 花田		本庄キャンパス
1年	芸術表現コース	英語A 本庄開講	英語A 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	本庄キャンパス
	地域デザイン	英語A 本庄開講	英語A 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	本庄キャンパス
2年	芸術表現コース	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	本庄キャンパス
	地域デザイン	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	本庄キャンパス
3年	芸術表現コース	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	本庄キャンパス
	地域デザイン	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	本庄キャンパス

芸術地域デザイン学部 後学期時間割(案)							
	I 9:50~10:20	II 10:30~12:00	III 13:00~14:30	IV 14:40~16:10	V 16:20~17:50	VI 18:00~19:30	
1年	芸術表現コース	デザイン発想論 学部必修 荒木、小瀬村 110人	スポーツ実習Ⅱ 芸術表現 必修 本庄開講	芸術表現基礎(彫刻) 手習室での時間 クラスA20人	芸術表現基礎(工芸) 手習室での時間 クラスA20人	芸術表現基礎(デザイン) 手習室での時間 クラスA20人	本庄キャンパス
	地域デザイン						
2年	芸術表現コース	セラミック焼成 赤津隆 有田開講	セラミック焼成 赤津隆 有田開講	ロクロ成形Ⅱ 甲斐			有田キャンパス 本庄キャンパスへの途中移動は不要
	地域デザイン	キュレーター実務実習 藤巻	美術品流通論 山口	美術史実習 吉住	考古学実習Ⅰ 藤巻	博物館学内実習 学部必修 浅田・藤巻・佐々木・吉住	本庄キャンパス
3年	芸術表現コース	セラミック科学実習 有田開講 赤津隆	陶磁マーケティング 有田開講 山口夕起子	石膏型成型Ⅰ 三木悦子			有田キャンパス 本庄キャンパスへの途中移動は不要
	地域デザイン	アートマネジメント 学部必修 有田開講 赤津隆	アートマネジメント実習Ⅰ 山下	アートプロデュース 有田開講 田中右起	アートプロデュース実習Ⅱ 花田		本庄キャンパス
1年	芸術表現コース	英語A 本庄開講	英語A 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	本庄キャンパス
	地域デザイン	英語A 本庄開講	英語A 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	本庄キャンパス
2年	芸術表現コース	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	本庄キャンパス
	地域デザイン	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	本庄キャンパス
3年	芸術表現コース	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	本庄キャンパス
	地域デザイン	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	英語B 本庄開講	本庄キャンパス

芸術地域デザイン学部 前学期時間割(案)									
	I 8:50~10:20	II 10:30~12:00	III 13:00~14:30	IV 14:40~16:10	V 16:20~17:50	VI 18:00~19:30			
木	1年	芸術表現コース	基本教養科目	基本教養科目	地域デザイン基礎 (マスタント) O山夕紀子・ 花田伸一・ 浅田智子・ 赤津隆・ 西島博樹・ 富田義典	地域デザイン基礎 (マスタント) O山夕紀子・ 荒木博樹・ 重藤輝行・ 山崎功・ ホートン・ 有馬隆文・ 吉住磨子・ 浅田智子・ 花田伸一・ 山夕紀子・ 中村隆敏・ 杉本達彦・ 西島博樹・ 富田義典	地域デザイン基礎 (マスタント) O山夕紀子・ 荒木博樹・ 重藤輝行・ 山崎功・ ホートン・ 有馬隆文・ 吉住磨子・ 浅田智子・ 花田伸一・ 山夕紀子・ 中村隆敏・ 杉本達彦・ 西島博樹・ 富田義典	本庄キャンパス	
		地域デザインコース	初級外国語	初級外国語					
	2年	芸術表現コース	基本教養科目②	基本教養科目③	図法 コース基礎必修 三木 甲斐 本庄開講	英語C 本庄開講 h29年度開講	自由選択科目等	有田セラミック専攻の学生は、全学教養科目の履修や、学部、コース共通の必修科目履修のために日本キャンパスにいる。 有田キャンパスへの途中移動はない。	
		地域デザインコース	基本教養科目②	基本教養科目③		英語C 本庄開講 h29年度開講	自由選択科目等		
	3年	芸術表現コース	インターフェースⅢ 本庄開講	自由選択科目等	自由選択科目等	自由選択科目等	自由選択科目等	本庄キャンパス	
		地域デザインコース	インターフェースⅢ 本庄開講	自由選択科目等	自由選択科目等	自由選択科目等	自由選択科目等	本庄キャンパス	
		地域デザインコース	インターフェースⅢ 本庄開講	自由選択科目等	自由選択科目等	自由選択科目等	自由選択科目等	本庄キャンパス	
	金	1年	芸術表現コース	情報基礎概論 山下、角、小野	大学入門科目	地域デザイン基礎 (マスタント) 手塚重喜の時間 一年生は他の授業は履修できない	地域デザイン基礎 (マスタント) 手塚重喜の時間 一年生は他の授業は履修できない	地域デザイン基礎 (マスタント) 手塚重喜の時間 一年生は他の授業は履修できない	本庄キャンパス
			地域デザインコース	情報基礎概論 山した、角、小野		地域デザイン基礎 (マスタント) 手塚重喜の時間 一年生は他の授業は履修できない	地域デザイン基礎 (マスタント) 手塚重喜の時間 一年生は他の授業は履修できない	地域デザイン基礎 (マスタント) 手塚重喜の時間 一年生は他の授業は履修できない	
2年		芸術表現コース	応用木工芸 井川	自由選択科目等	自由選択科目等	自由選択科目等	自由選択科目等	本庄キャンパス	
		地域デザインコース	社会政策 コース基礎必修 富田義典	考古学演習Ⅰ(隔年) 重藤	コレイティング応用Ⅰ 山崎・ 倉住・浅田			有田キャンパス 本庄キャンパスへの途中移動は不要	
3年		芸術表現コース	応用木工芸 井川	自由選択科目等	自由選択科目等	自由選択科目等	自由選択科目等	本庄キャンパス	
		地域デザインコース	国内外芸術研修 ○吉住磨子・山崎功・浅田智子・ 藤巻美恵・ホートン	有田キャンパスプロジェクト ○田中右紀・小瀬村貴哉・赤津隆・甲斐広文・西島博樹	両科目共に、実習内容に応じて本庄キャンパスや有田キャンパスに移動し、活動する				
		地域デザインコース		地域創生フィールドワーク ○山下宗利・荒木博樹・中村隆敏・徳安和博・小木曾誠・石崎誠和・井川健・柳健司・杉本達彦・鳥谷さやか・湯之原淳・三木悦子・重藤輝行・花田伸一・山夕紀子・有馬隆文・西島博樹					

芸術地域デザイン学部 後学期時間割(案)									
	I 8:50~10:20	II 10:30~12:00	III 13:00~14:30	IV 14:40~16:10	V 16:20~17:50	VI 18:00~19:30			
木	1年	芸術表現コース	基本教養科目	基本教養科目	芸術表現A (日本語) 石崎 クラスA20人	芸術表現A (西語) 小本曾 クラスC20人	芸術表現A (英語) 徳安 クラスB20人	本庄キャンパス	
		地域デザインコース	初級外国語	初級外国語					
	2年	芸術表現コース	基本教養科目⑤	基本教養科目⑥	英語D 本庄開講 h29年度開講 TOEIC	英語D 本庄開講 h29年度開講 TOEIC	材料科学 コース基礎必修 本庄開講 赤津隆	有田セラミック専攻の学生は、全学教養科目の履修や、学部、コース共通の必修科目履修のために日本キャンパスにいる。 有田キャンパスへの途中移動はない。	
		地域デザインコース	基本教養科目⑤	基本教養科目⑥	芸術文化・地域創生論 (国内外地域プロジェクト事例研究) 学部必修 本庄開講 花*伸一	英語D 本庄開講 h29年度開講 TOEIC	博物館情報・ メディア論 学部必修 杉本		
	3年	芸術表現コース	インターフェースⅣ 本庄開講	自由選択科目等	自由選択科目等	自由選択科目等	自由選択科目等	本庄キャンパス	
		地域デザインコース	インターフェースⅣ 本庄開講	自由選択科目等	自由選択科目等	自由選択科目等	自由選択科目等	本庄キャンパス	
		地域デザインコース	インターフェースⅣ 本庄開講	自由選択科目等	自由選択科目等	自由選択科目等	自由選択科目等	本庄キャンパス	
	金	1年	芸術表現コース	自由選択科目等	自由選択科目等	自由選択科目等	自由選択科目等	自由選択科目等	本庄キャンパス
			地域デザインコース	自由選択科目等	自由選択科目等	自由選択科目等	自由選択科目等	自由選択科目等	本庄キャンパス
2年		芸術表現コース	自由選択科目等	自由選択科目等	自由選択科目等	自由選択科目等	自由選択科目等	本庄キャンパス	
		地域デザインコース	文化経済論 コース基礎必修 西島博樹	プロジェクト演習 荒木、杉本	博物館教育論 学部必修 栗山、和田			本庄キャンパス	
3年		芸術表現コース	自由選択科目等	自由選択科目等	自由選択科目等	自由選択科目等	自由選択科目等	本庄キャンパス	
		地域デザインコース	現代美術概論 隔年 協賛大学芸術基礎	有田キャンパスプロジェクト ○田中右紀・小瀬村貴哉・赤津隆・甲斐広文・西島博樹	両科目共に、実習内容に応じて本庄キャンパスや有田キャンパスに移動し、活動する				
		地域デザインコース		地域創生フィールドワーク ○山下宗利・荒木博樹・中村隆敏・徳安和博・小本曾誠・石崎誠和・井川健・柳健司・杉本達彦・鳥谷さやか・湯之原淳・三木悦子・重藤輝行・花田伸一・山夕紀子・有馬隆文・西島博樹					

キャンパスごとの授業時間

授業時間(本庄・鍋島)	
I	8:50 ~ 10:20
II	10:30 ~ 12:00
昼休	
III	13:00 ~ 14:30
IV	14:40 ~ 16:10
V	16:20 ~ 17:50

授業時間(有田)	
I	8:50 ~ 10:20
II	10:30 ~ 12:00
昼休	
III	13:20 ~ 14:50
IV	15:00 ~ 16:30
V	16:40 ~ 18:10

開講年度	2014	開講時期	後期
科目コード	G1340003		
科目名	キャリアデザイン		
教員(所属)	森田 佐知子(キャリアセンター)		
単位数	2		
学士力番号	1 (2)		
曜/限 追記	水曜日 2限目		
形式	講義		
講義概要	<p>現在は自分でキャリアをデザインしていく時代と言われています。でもなぜ自分でキャリアをデザインしていかなければいけないのでしょうか。そしてどのようにしてキャリアをデザインしていけばよいのでしょうか。</p> <p>この講義では上記について考える上で指針となるような、キャリアデザインの方法とキャリアをデザインするために必要な知識を学ぶことを目的としています。</p> <p>また講義の中盤では、内定者や佐賀大学各学部の OBOG をお招きし、就職活動の際どのように考えて活動したのか、社会に出てからどのように自分のキャリアをデザインしたのか、大学生活でやっておくべきことや身につけておくべきことなどをお話してもらいます。</p> <p>講義の後半は、学習してきた知識や先輩の講話などを参考に自分自身の将来についても考えていきます。</p> <p>この講義を通じて、自分のキャリアを自分でデザインすることの重要性を学び、それをこれからの大学生活に活かしてくれることを期待します。</p>		
開講意図	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ大学においてキャリアデザインを学ぶ必要があるのかを理解し、自分自身でキャリアをデザインしていく方法とそのために必要となる知識について学ぶ。</li> <li>・自分自身の現状とキャリアビジョンを踏まえ未来履歴書を作成することにより、これからの大学生活をより充実したものにする。</li> </ul>		
到達目標	<p>①以下の知識を習得し、自分自身でキャリアをデザインしていくことに活かせるようになる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就職後に自分たちを取り巻く労働・雇用環境</li> <li>・社会で求められる力(社会人基礎力等)</li> <li>・大学においてなぜキャリアデザインを学ぶ必要があるのか</li> <li>・仕事とは何か、社会にはどんな働き方があるのか、職業研究の方法とポイント</li> <li>・業界、企業、組織とは何か、代表的な業界の構造、業界研究・企業研究の方法とポイント</li> <li>・ワークライフバランスについて、働き方の多様化と雇用形態</li> <li>・企業の採用活動について、就職活動について、先輩の就職先について、転職について</li> </ul> <p>②内定者および佐賀大学各学部の OBOG の講話から、進路選択時のキャリアデザインや社会に出てからのキャリアデザインの事例を学び、自分のキャリアデザインにおいて参考にすることができる。</p> <p>③自己分析の方法を理解し、その方法を使って今の自分を分析することができる。</p>		



	④①～③を踏まえ、自分のキャリアビジョンを描き、これからの大学生活をより充実させることができるようになる。																																																
聴講	1, 2年生																																																
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内定者や佐賀大学のOG・OBの方はみなさんの一番身近なロールモデル(良いお手本)です。質疑応答の時間を設けますので、ぜひ積極的に質問をしてください。</li> <li>・講義では、毎回講義のレジュメをライブキャンパスにアップロードしますので、必ず印刷して持参してください。</li> </ul>																																																
授業計画	講義計画の詳細は、開講時に提示する。なお、受講者の理解度により授業以外の学習を変更することがある。																																																
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>内容</th> <th>授業以外の学習</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクションー現代社会とキャリアデザイン</td> <td>キャリアとは何か、について自分なりに調べて授業に臨むこと。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>キャリアデザインの考え方</td> <td>前回の講義内容について復習しておくこと。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>仕事について知る</td> <td>大学生と社会人の違いについて自分の意見をまとめて授業に臨むこと。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>業界・企業・組織について知る</td> <td>前回の講義内容について復習しておくこと。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ワークライフバランスについて知る</td> <td>自分はどんな人生を送りたいか自分の意見をまとめて授業に臨むこと。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>就職活動について知る</td> <td>前回の講義内容について復習しておくこと。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>就活内定者の報告会</td> <td>就活内定者の報告を聞き、印象に残ったこと、疑問点等をまとめておくこと。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>OB・OGによるロールモデルの提供(1)</td> <td>OB・OGの講話を聞き、印象に残ったこと、疑問点等をまとめておくこと。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>OB・OGによるロールモデルの提供(2)</td> <td>OB・OGの講話を聞き、印象に残ったこと、疑問点等をまとめておくこと。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>佐賀大学出身者の経営者の会(きずなの会)メンバーによる講話</td> <td>佐賀大学出身者の経営者の講話を聞き、印象に残ったこと、疑問点等をまとめておくこと。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ゲストスピーカーの講話から学ぶキャリアデザイン</td> <td>第7回～第10回の講話を聞き、印象に残ったこと、疑問点等をまとめておくこと。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>自分について知る(1)</td> <td>小さいころからこれまでどんなことに興味を持ち、どんなことに取り組んできたか、をまとめて授業に臨むこと。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>自分について知る(2)</td> <td>将来したいことや大学生活でしたいことをまとめて授業に臨むこと。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>未来履歴書・大学生活の過ごし方(行動計画)のグループ内発表、充実した大学生活を過ごすために</td> <td>未来履歴書と行動計画を発表できる準備をして授業に臨むこと。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>授業のまとめ、アンケート</td> <td>これまでの授業で学んだこと、考えたことについて復習しておくこと。</td> </tr> </tbody> </table>	回	内容	授業以外の学習	1	イントロダクションー現代社会とキャリアデザイン	キャリアとは何か、について自分なりに調べて授業に臨むこと。	2	キャリアデザインの考え方	前回の講義内容について復習しておくこと。	3	仕事について知る	大学生と社会人の違いについて自分の意見をまとめて授業に臨むこと。	4	業界・企業・組織について知る	前回の講義内容について復習しておくこと。	5	ワークライフバランスについて知る	自分はどんな人生を送りたいか自分の意見をまとめて授業に臨むこと。	6	就職活動について知る	前回の講義内容について復習しておくこと。	7	就活内定者の報告会	就活内定者の報告を聞き、印象に残ったこと、疑問点等をまとめておくこと。	8	OB・OGによるロールモデルの提供(1)	OB・OGの講話を聞き、印象に残ったこと、疑問点等をまとめておくこと。	9	OB・OGによるロールモデルの提供(2)	OB・OGの講話を聞き、印象に残ったこと、疑問点等をまとめておくこと。	10	佐賀大学出身者の経営者の会(きずなの会)メンバーによる講話	佐賀大学出身者の経営者の講話を聞き、印象に残ったこと、疑問点等をまとめておくこと。	11	ゲストスピーカーの講話から学ぶキャリアデザイン	第7回～第10回の講話を聞き、印象に残ったこと、疑問点等をまとめておくこと。	12	自分について知る(1)	小さいころからこれまでどんなことに興味を持ち、どんなことに取り組んできたか、をまとめて授業に臨むこと。	13	自分について知る(2)	将来したいことや大学生活でしたいことをまとめて授業に臨むこと。	14	未来履歴書・大学生活の過ごし方(行動計画)のグループ内発表、充実した大学生活を過ごすために	未来履歴書と行動計画を発表できる準備をして授業に臨むこと。	15	授業のまとめ、アンケート	これまでの授業で学んだこと、考えたことについて復習しておくこと。
	回	内容	授業以外の学習																																														
	1	イントロダクションー現代社会とキャリアデザイン	キャリアとは何か、について自分なりに調べて授業に臨むこと。																																														
	2	キャリアデザインの考え方	前回の講義内容について復習しておくこと。																																														
	3	仕事について知る	大学生と社会人の違いについて自分の意見をまとめて授業に臨むこと。																																														
	4	業界・企業・組織について知る	前回の講義内容について復習しておくこと。																																														
	5	ワークライフバランスについて知る	自分はどんな人生を送りたいか自分の意見をまとめて授業に臨むこと。																																														
	6	就職活動について知る	前回の講義内容について復習しておくこと。																																														
	7	就活内定者の報告会	就活内定者の報告を聞き、印象に残ったこと、疑問点等をまとめておくこと。																																														
	8	OB・OGによるロールモデルの提供(1)	OB・OGの講話を聞き、印象に残ったこと、疑問点等をまとめておくこと。																																														
	9	OB・OGによるロールモデルの提供(2)	OB・OGの講話を聞き、印象に残ったこと、疑問点等をまとめておくこと。																																														
	10	佐賀大学出身者の経営者の会(きずなの会)メンバーによる講話	佐賀大学出身者の経営者の講話を聞き、印象に残ったこと、疑問点等をまとめておくこと。																																														
	11	ゲストスピーカーの講話から学ぶキャリアデザイン	第7回～第10回の講話を聞き、印象に残ったこと、疑問点等をまとめておくこと。																																														
	12	自分について知る(1)	小さいころからこれまでどんなことに興味を持ち、どんなことに取り組んできたか、をまとめて授業に臨むこと。																																														
	13	自分について知る(2)	将来したいことや大学生活でしたいことをまとめて授業に臨むこと。																																														
14	未来履歴書・大学生活の過ごし方(行動計画)のグループ内発表、充実した大学生活を過ごすために	未来履歴書と行動計画を発表できる準備をして授業に臨むこと。																																															
15	授業のまとめ、アンケート	これまでの授業で学んだこと、考えたことについて復習しておくこと。																																															

成績評価の方法と基準	成績は、出席状況、授業への貢献度、当日ブリーフレポートおよび最終レポートにより評価する。 出席状況を重視するので、特別な理由のない欠席はしないこと。		
開示試験問題	なし		
開示方法	開示しない。		
教科書	資料名		版
	著者名	発行所名・発行者名	出版年
	備考(巻冊:上下等)		ISBN
	特になし。毎回講義のレジメをライブキャンパスにアップロードするので、必ず印刷して持参すること。		
参考図書	資料名		版
	著者名	発行所名・発行者名	出版年
	備考(巻冊:上下等)		ISBN
	各講師がその都度、紹介する。		
	働くひとのためのキャリア・デザイン	初版	
	金井壽宏		PHP 研究所 2002
	456961941X または、978-4569619415		
	キャリアデザイン入門[I]基礎力編(日経文庫)	初版	
	大久保幸夫		日本経済新聞社 2006
	4532110963 または、978-4532110963		
	キャリアデザイン入門[II]専門力編(日経文庫)	初版	
	大久保幸夫		日本経済新聞社 2006
	4532110971 または、978-4532110970		
WORK SHIFT ワーク・シフト	初版		
リンダ・グラットン		プレジデント社 2012	
4833420163 または、978-4833420167			
オフィスアワー	毎週水曜日の第3校時に設定する。		

## 学生の確保の見通し等を記載した書類

### 1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

#### (1) 学生の確保の見通し

##### ① 定員充足の見込み

芸術地域デザイン学部の中核となる佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程では、編入学を除いた入学者選抜において、過去5年間平均で4.8倍を超えるなど高い入学志願倍率を確保しており、志願者数は過去5年間平均で約145名である（資料1参照）。

また、本学部はまちづくりや地域における文化振興等の教育内容も大きな柱としており、これまでこれらの教育機能を担ってきた文化教育学部国際文化課程及び人間環境課程の志願状況も考慮する必要があるが、こちらもそれぞれ4.1倍と250名、3.9倍と234名の志願倍率、志願者数を確保している。上記3課程全体、いわゆる新課程全体で見た場合でも4.2倍と530名と志願倍率、志願者数を確保している。

なお、新課程全体の学生定員150名から、110名への減を構想した設置申請である（表1）。

【表1：佐賀大学文化教育学部の新課程における学生定員／収容定員】

（佐賀大学文化教育学部）		（佐賀大学芸術地域デザイン学部）	
課程名	学生定員／収容定員	コース名	学生定員／収容定員
国際文化課程	60名／240名	芸術表現コース	55名／240名
人間環境課程	60名／240名	地域デザインコース	55名／200名
美術・工芸課程	30名／120名		
計	150名／600名	計	110名／440名

本学部は、佐賀県との連携により、佐賀県立有田窯業高等学校の4年制課程（定員10名）の発展的位置付けである「有田セラミック分野」を芸術表現コースに設置する。これにより、現在の佐賀県立有田窯業高等学校の4年制課程を志望する学生層が、新たに本学部を志望することが予想される。なお、本有田セラミック分野に対する地元窯業界や佐賀県の期待は高く、佐賀県卒の設定を要請されている（H26.12.18 佐賀大学と佐賀県との実務者連絡協議会にて）。また、地元自治体である佐賀県は、政府への政策提案の第一項目として本学部設置構想の推進を挙げており、県からの期待も大きい（資料2参照）。

これまでの志願倍率の状況及び地元からの期待に加え、「文化芸術立国中期プラン」（文部科学省、平成26年3月）や「クールジャパン政策について」（経済産業省、平成26年12月）等、政府方針の理念に合致する教育内容を備えた学部であるが、新しい教育研究内容を備えた新学部を設置するため、より直接的な学生確保の見通しを立てることを目的として、佐賀県及び九州各県の高校向けにアンケート調査を実施した（資料3、資料4参照）。

(以下、調査時の学部名称は全て「芸術学部(仮称)」である。)  
「芸術学部(仮称)」設置に関するニーズ調査のため、佐賀県をはじめとする九州7県の高等学校を対象にアンケート調査を実施した(1次調査)。その結果、「芸術学部(仮称)」への進学希望については、「進学したいと思う」が97名(1.6%)、「進路の1つとして考えたい」が799名(13.2%)であった。本調査は、一般の高校生を対象にした調査であり、芸術分野を進路先として考える生徒が一部にすぎないことはある程度予想された。その中で、「進学したいと思う」と「進路の1つとして考えたい」が896名であったことは、潜在的な志願者層を含め一定の志願者が存在することが示されたと考えている。

一般的な高校生は、「絵を書く、物を作る、特別な才能を持った人が行く」というように、芸術に関する学部を特殊な学部として認識しており、1次調査の自由記述欄からも進路考慮対象外と考えている様子がみられる。そのため1次調査は、高校生が既存の学部として芸術学部(仮称)への進学意向を判断したものと考え、本学部における芸術表現コースへのニーズを示したものと捉えている。

一方、本学の「芸術地域デザイン学部」には、作品制作などの技術的な要素が中心となる芸術表現コースだけでなく、芸術分野でのマネジメント力やコーディネート力を養成する地域デザインコースも設置する予定であり、普通科を中心とした一般的なカリキュラムで学習してきた高校生を主なターゲット層として想定している。つまり、同分野に対する理解の促進が受験者の母集団を大きくすることに繋がるものと考えられる。

高校教員を対象としたアンケートでは、「芸術学部(仮称)」を特色ある学部と評価した者が274名(79.2%)を占め、生徒に進学を薦めるかどうかについては、「薦めたい」が76名(22%)、「候補として検討したい」が235名(67.9%)であり、一定の評価が得られた。

また、本調査の分析結果から、「芸術学部(仮称)」に対する認識及び志願者確保に向けた情報発信では以下の点が重要であることが示された。高校生が進路先を選ぶ基準として重視するものは、「自分が目指す職業との関連性」と「勉強したい学問分野があること」であった。また、仮に芸術学部へ進学する場合を想定しても、「卒業後の進路先」を最も重視している。高校教員も生徒に薦める上で「卒業後のキャリア」と「教育内容やカリキュラム」を重要事項として挙げている。つまり、大学で学ぶ内容だけでなく、将来的な職業との関連性を十分に伝えられなければ、受験生や生徒を指導する高校教員にとって魅力のない学部と映ってしまう可能性は否定できない。以上のことから、学部で学ぶ内容と卒業後のキャリアイメージは、新学部の広報活動にとって不可欠な点である。

今回の調査により、芸術分野の志願者層は限定的であるものの、極端に小さな母集団ではなく、芸術分野に対する一般的なイメージが「絵を書く、物を作る、特別な才能を持った人が行く」といった特殊なものであることから、普通科を中心とした一般的なカリキュラムで学習してきた高校生も受験者集団として想定する場合、学べる内容と卒業後のキャリアイメージを丹念に周知する必要があることが示された。こうした現状と課題を踏まえた対応策が求められる。

このアンケート分析から、本学部の教育内容をより正確に広報する必要性を認識したため、再度佐賀県内の高校を訪問し、直接新学部の教育内容等に関して、特に地域デザインコースについて説明を行い、アンケート調査(2次調査)を実施した。郵送により行

った1次調査と異なり、2次調査は既存の芸術系学部とは異なる教育研究分野を備えた新たなコースであるため、地域デザインコースについて紹介するパンフレットを用いて、丁寧な説明を行った。その結果、進学希望については、「進学したいと思う」が73名（28.2%）、「進路の1つとして考えたい」が71名（27.4%）と、非常に高い評価が得られた（資料4参照）。

高校生の本学部への進学意向を実人数ベースで見ると、1次調査の結果から芸術表現コース定員55名に対し97名が進学意向を示しており、志願倍率は1.76倍となった。また、2次調査の結果から地域デザインコース定員55名に対し73名が進学意向を示しており、志願倍率は1.33倍となった。

平成26年度学校基本調査における各地域の大学進学希望者数を基に、両コースの進学希望割合（「進学したいと思う」の1.6%と28.2%）を掛け合わせたところ、佐賀県のみで芸術表現コースが55名、地域デザインコースが490名となる。芸術表現コースは、コース定員の55名と同数であるが、同コースの母体である文化教育学部美術・工芸課程には、佐賀県に留まらず九州内外から志願者が集まっており（表2）、特に志願者の多い福岡県まで含めると、芸術表現コースに409名の志願者が想定できる。

なお、ここで示した進学希望者数は、あくまでアンケートの割合から想定される人数であり、実際に高校生が本学を志望するかは、2次調査の結果からも、今後の入試広報及び高大連携事業の展開にかかっていると考えている。

以上のことから、本学部への志願者は充分確保できると判断している。

【表2：佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程の志願者出身県】

地域	県名	志願者数
—	佐賀県	20
九州 (佐賀県以外)	福岡県	53
	長崎県	7
	熊本県	10
	大分県	4
	宮崎県	9
	鹿児島県	11
	沖縄県	1
小計（九州（佐賀県以外））		95
九州外	栃木県	2
	千葉県	2
	山口県	4
	徳島県	1
小計（九州外）		9

\*平成26年度佐賀大学一般選抜前期日程・後期日程入学試験状況より

\*センター試験学生受験地域より出身県を推定

## ②定員充足の根拠となる調査結果の概要

上記①に記載したとおり、本学部の母体となる組織は一定の志願倍率を確保し、定員を充足させてきたが、新たな教育内容を備えた学部設置であるため、高校向けにアンケート調査を2度に渡って実施しており、詳細は別添のとおりである(資料3,資料4参照)。

### 【芸術学部（仮称）設置に関するニーズ調査（高校生と高校教員向け）（1次調査）】

＊芸術表現コースに関するニーズ調査

- ・対象 佐賀県はじめ九州各県の高校 166校（高校生 10,200名，教員 585名）  
＊高校生数及び教員数は、アンケート総配布枚数
- ・時期 平成26年8月
- ・設問 佐賀大学に「芸術学部（仮称）」が設置された場合、進学したいと思うか，  
（抜粋） 他

### 【芸術学部（仮称）設置に関するニーズ調査（高校生向け）（2次調査）】

＊地域デザインコースに関するニーズ調査

- ・対象 佐賀県内の高校 7校（高校生 259名）
- ・時期 平成27年1月
- ・設問 佐賀大学に「芸術学部（仮称）」が設置された場合、進学したいと思うか，  
（抜粋） 他

## (2) 学生確保に向けた具体的な取組状況

上記(1)に記載したとおり、学生を確保できる見込みが立ったところだが、より優秀で意欲ある学生を多数確保するため、本学アドミッションセンター等と連携し、次のような学生確保に向けた取り組みを実施した。

### ①佐賀大学オープンキャンパスでの広報

県内を中心に来学する高校生及び高校教員を対象に、本学部が予定している教育内容を直接説明し、広報活動を行った。なお平成26年8月に実施したオープンキャンパスの参加者は5,367名となり過去最高の人数であった(資料5参照)。

### ②パンフレット等の作成

芸術学部（仮）の設置を予定としている旨のパンフレットを3万部作成し、県内外の高校、関係機関等に配布したほか、高校生向けに毎年作成・配付している2015年度版佐賀大学案内にて、特設ページを設け広報活動を行った。

### ③夢ナビライブ2014での広報

(株)フロムページが主催し開催された夢ナビライブ2014福岡会場にて、来場した高校生等を対象に直接広報活動を行った。なお平成26年10月開催の福岡会場の来場者数は12,046名(フロムページ発表)。

### ④高校への出前授業等での広報

佐賀県、熊本県等の高校からの要請を受けて実施する本学の出前事業において、新学部  
の教育内容等を併せて説明し、広報活動を行った。

また、今後は次のような取り組みを計画しており、これらの取組を通じて、より優秀  
で意欲ある学生確保を行うこととしている。

⑤多様な入学試験の実施

一般入試だけでなく、推薦入試、AO入試及び3年次編入学を実施し、本学部を志望  
する多様な学生の受験機会を確保する。編入学試験については、これまでの文化教育  
学部美術・工芸課程及び人間環境課程の生活・環境・技術選修の志願状況等を踏まえ  
て実施する（資料6参照）。

⑥佐賀大学美術館の活用

毎年実施している文化教育学部美術・工芸課程の卒業制作展にて、新学部設置と連動  
した広報活動を予定している。その他、美術館で開催する各種イベントにて新学部設  
置と連動したイベントを予定している。なお、本学の美術館は平成25年10月の開館  
後、平成26年10月には来館者5万人を超えたところである。

⑦高校訪問の強化

新たな高大連携の取り組みとして、九州全域及び西日本を中心に、本学部の教育研究  
内容に合致する地場産業（やきもの産業等）を有する全国各地域を訪問し、直接高校  
生及び教員、さらに保護者向けに本学部の教育内容等の説明会の開催を予定している。

⑧有田焼創業400年記念事業との連携

「佐賀大学と佐賀県との実務者連絡協議機会」（平成26年5月12日設置、構成員：佐  
賀大学総務部長（議長）、佐賀県統括本部総括政策監、佐賀県農林水産商工本部理事（有  
田焼創業400年事業推進グループリーダー）、他）において、佐賀県が実施する有田焼  
創業400年事業の一環として、新学部設置のキックオフイベント（仮）の協議を行っ  
ている。有田セラミック分野の母体である佐賀県立有田窯業高等学校を会場とする案や、  
地元有田町で毎年ゴールデンウィークに開催される有田陶器市（第111回となる平成  
26年の来場者数124万人：有田商工会議所発表）と連動して実施する予定であり、本  
学を進学先と考えてこなかった層にも広くアピールする予定である。

⑨海外の協力大学等との連携

現在有田窯業高等学校の連携大学であるハレ芸術大学（ドイツ）と、新たに学生交流  
についての協定内容の協議を開始しているほか、本学が学生交流協定等を結んでいる  
ハノイ国家大学（ベトナム）等、海外の協定締結大学との連携の促進、短期留学プロ  
グラムの留学生等の確保に向け広報活動を展開する予定である。

## 2. 人材需要の動向等社会の要請

### (1) 人材の養成に関する目的その他教育研究上の目的（概要）

芸術地域デザイン学部（仮称）では、教育研究を通じて、佐賀県をはじめとする周辺  
地域の芸術活動が活性化すること、文化レベルが向上すること、魅力ある地域づくりが  
ものや人を引き付けること、それが地域経済の発展や雇用の拡大につながっていくこと

で、「芸術を基盤とした地方創生のための佐賀大学モデル」を確立し、そのモデルを全国へ展開することを目指すものである。

## (2) 上記(1)が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

本学部が養成する人材は社会からの要請、特に地域社会からの要請を踏まえたものであり、中核となる文化教育学部美術・工芸課程の近年の就職状況は概ね90%以上を維持している。また、文化教育学部国際文化課程及び人間環境課程でも、概ね90%を超える就職率を維持しているほか、上記3課程全体、いわゆる新課程全体で見た場合でも90%を超える高い就職率を維持している(資料7参照)。

新しい教育研究内容を備えた新学部の設置であることを踏まえ、より客観的に本学部に対する人材需要を確認するため、企業及び関連機関等を対象に、アンケート調査(1次調査)を実施した。詳細は別添のとおりである(資料8参照)。

### 【芸術学部(仮称)設置に関するニーズ調査(企業向け)(1次調査)】

- ・対象 佐賀大学卒業生の採用実績のある企業等 1,208社・団体
- ・時期 平成26年8月～9月
- ・設問 佐賀大学「芸術学部(仮称)」卒業生に対する採用意向、他(抜粋)

1次調査の結果、「芸術学部(仮称)」を卒業した学生に対する採用意向は、有効回答のあった335社のうち、「採用してみたい」だけで56社(16.7%)、「採用を検討してみたい」まで含めると226社(67.4%)に上ることが分かった。佐賀大学の学生の採用実績がある企業を対象に実施されたものであり、かつ、「芸術学部(仮称)」に興味を持った企業からの回答が多いと推測されるが、この点を考慮しても、佐賀・九州、そして関東、近畿を中心とした産業界から、一定の採用ニーズが存在することが確認された。

詳しく見てみると、当初想定していた芸術関連の業種だけでなく、ほとんどの業種において「採用してみたい」、「採用を検討してみたい」と回答した企業が半数を超えており、中でも、医療・福祉業で33.3%、情報通信業で30.0%、その他で17.3%、製造業で16.9%、サービス業で12.5%の企業が「採用してみたい」と回答していた。この結果から、芸術関連以外の業種においても、潜在的な採用ニーズが一定以上存在していることが明らかとなった。

採用したい理由として、芸術学部ならではの発想力・新しい視点を活かした仕事への期待が寄せられ、さらにこれらの意見は、製造業や情報通信業、卸売・小売業、サービス業など、芸術関連以外の業種より多く寄せられた。すでに佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程を卒業した学生が、製造業にて販促物や名刺・パンフレット等のデザイン担当として活躍しているといった事例もあり、今後も幅広い業種の中で活躍を期待できることが分かった。これらは、本学部が養成する人材像、また卒業生の活躍を期待するフィールドと合致しており、本学部の教育内容が社会の需要を適切に反映したものであることを裏付けるものと考えている。



併せて、本学部が就職先として特に期待する企業・団体からの人材需要を確認し、本学部の教育内容等に対する率直な意見を聴取するため、事業内容・業種等が本学部と関連の深い企業・自治体等を対象に、訪問調査（2次調査）を実施した。詳細は別添のとおりである（資料9参照）。

【芸術学部（仮称）設置に関するニーズ調査（訪問調査）（2次調査）】

- ・対象 芸術学部（仮称）と密接に関連する機関（企業） 19機関（企業）
- ・時期 平成26年5月～9月
- ・設問 佐賀大学「芸術学部（仮称）」に期待する人材育成，地域連携・振興，他
- ・備考 その他，佐賀大学経営協議会等での意見交換等を抜粋

訪問した機関からは「設置を予定している各分野は，地域が求める人材育成についてバランスがとれた内容であると考えられる。具体的に県庁が最も求めている人材は，佐賀県の情報発信が出来る人材である」（佐賀県人事委員会事務局長）や，「採用する側としては『独自性を持ったユニークな人材』という期待感を持たせる」（サガテレビ），さらに「異物と異物を連携させていく能力を備えていれば，企業でも通用する汎用力といえる。」（佐賀銀行文化財団事務局長）等の肯定的な意見があった。

また，「学生が佐賀県立美術館・博物館が企画展を開催する場合に企画から展示までに参画し実践力を身につけていく機会を提供したい。さらには，学芸員の経験と学生の感性が交流できる場を設定することによって，互いがWin-Winの関係になっていくことが出来れば，新学部の大きな武器（特徴）となる。」（佐賀県庁文化課長）や「芸術学部のフィールドマネジメント分野の学生が参加してくれば，まさしく専門的な内容を勉強したスタッフが増えることになり心強い。大学としては地域に育ててもらいたいという思いもあるだろうが，そこはお互いにメリットをもってやれるのではないか。佐賀市と佐賀大学はCOO構想のもと連携しているが，その推進力にもなり得るのではないか。」（佐賀市企画政策課）等の今後の協力関係の構築を期待させる発言があり，地域からの人材需要と新学部構想が，多くの部分で合致することが確認出来た。

さらに本学への求人状況から，本学部に関する人材需要を計るべく求人状況調査（3次調査）を行った。本学に届く求人票は一年間に約2,910件であるが，この件数にアンケート調査による業種別採用意欲を乗じると，「採用してみたい」（16.7%）だけでも約486件，「採用を検討してみたい」（67.4%）まで含めると約1,961件に上ることが分かった。本学卒業生を採用候補とする企業のうち，アンケート結果から特に本学部の卒業生を採用候補と捉えることを期待できる企業数が相当数あることが分かった。

また，本学部が主な就職先として捉えている業種に属する企業等から，どの程度本学に求人が届いており，本学部で身に付ける付加価値と企業の事業内容が合致するかを調査したところ，一年間に平均して707社から求人票が届いていることが分かった（表3）（資料10参照）。これは，本学部側が就職先として想定する企業，卒業生の活躍を期待できるフィールドを備えた企業等から，現に相当数の求人票が届いていることを示して

いる。この他、公募により採用活動を行う自治体等も主な就職先の一つと想定していることから、さらに多くの就職先が存在するものと考えられる。

【芸術地域デザイン学部（仮称）関連の求人状況調査（3次調査）】

- ・対象 本学へ届いた企業等からの求人票 9,077 件
- ・時期 平成 24 年～平成 26 年度
- ・事項 求人票記載の事業内容、職種、仕事内容等から、芸術地域デザイン学部（仮称）が就職先として捉える企業からの求人かどうかを調査

【表 3：芸術地域デザイン学部（仮称）関連の求人状況調査（求人数順）】

No.	新学部の主な就職先・業種	求人（社） （H24～26 年度）	求人（社） （3 ヶ年平均）
1	デザイン関係（グラフィック、プロダクト、ファッション、インダストリアル他）	172	57
2	不動産関係	65	22
3	コンピュータ（Web デザイン、システムエンジニア他）	634	211
4	コンサルティング（建築、都市デザイン、流通他）	144	48
5	イベント（自治体・企業による商品PR、芸術アミューズメント他）	73	24
6	マーケティング（流通、販売他）	505	168
7	映像（TV局、企業）	25	8
8	マスコミ（新聞社、出版社他）	65	22
9	美術館・博物館（考古学発掘調査員を含む）	55	18
10	販売（百貨店、アパレル・ファッション関係、食品他）	89	30
11	その他（旅行業、観光業、食品関係等）	294	98
	計	2,121	707

\*3 ヶ年平均は H24～26 年度の値を 3 で除し、小数点第 1 位で四捨五入したもの。そのため各項目の計と総計の数値は整合しない。

以上の調査結果等から、本学部構想は社会的、地域的な人材需要の動向等を十分に踏まえたものであると考えている。

また、各種調査結果の分析等を踏まえ、今後は次のような取り組みを計画しており、この取り組みを通じて、学生の進路選択の確保、人材需要の動向把握及び教育内容の改善を行うこととしている。

- ①企業に対するプロモーションの観点では、「芸術地域デザイン学部」の学生は、芸術を専門としながらも、日々の活動の中で同級生や先輩後輩、教員等との協働作業を多く経験し、その中で、粘り強さや実践力、企画力、コミュニケーション力といった総合的な力を培う、ということへの理解を促す。

- ②進路先開拓の観点では、芸術関連以外の業種における卒業生の活躍イメージを具体的かつ分かりやすく伝えることで、幅広い業種から求人を獲得する。
- ③学生に対しては、様々な業種で活躍のフィールドがあることを伝え、学生の職業選択に関する視野を広げていくこと、そして社会人としての基盤となるジェネリックスキルと、芸術学部ならではの力を、学生生活を通じて身につけるようキャリアセンターと連動して丁寧に指導する。
- ④学部運営の観点では、授業の公開審査会の実施、関連団体との意見交換や外部評価の実施などを通して、社会からの人材需要の把握に努め、それらを教育内容等に反映させる。

## — 資 料 目 次 —

### 1. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況 関係資料

資料1	： 佐賀大学文化教育学部 平均定員充足率計算表 (H22～H26)	1/72
資料2	： 佐賀県政策提案「佐賀大学の教育研究機能の充実・強化について」	2/72
資料3	： 佐賀大学「芸術学部（仮称）」設置に関するニーズ調査 －高校生と高校教員向けアンケート調査分析－【1次調査】	5/72
資料4	： 佐賀大学「芸術学部（仮称）」設置に関するニーズ調査 －高校生アンケート調査分析－【2次調査】	28/72
資料5	： 佐賀大学オープンキャンパスの参加者数 (H21～26)	33/72
資料6	： 佐賀大学文化教育学部編入学試験状況表 (H22～26)	34/72

### 2. 人材需要の動向等社会の要請 関係資料

資料7	： 文化教育学部就職率変遷 (H23～25)	35/72
資料8	： 佐賀大学「芸術学部（仮称）」設置に関するニーズ調査 －企業向けアンケート調査分析－【1次調査】	36/72
資料9	： 芸術学部（仮称）設置に関するニーズ調査（訪問調査） ～地域の意見（概要）～【2次調査】	59/72
資料10	： 求人状況調査（分野に対応する事業内容）【3次調査】	72/72

平均入学定員充足率計算表(佐賀大学文化教育学部)

資料1

学部／研究科等名	学科／課程／専攻等名	項目	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	入学定員に対する各平均比率
学士課程 文化教育学部	文化教育学部_全体 (編入学を除く)	志願者数	1,044	1,101	1,019	1,121	1,022	4.42
		合格者数	286	281	288	288	280	1.18
		入学者数	254	253	253	255	252	1.05
		入学定員	240	240	240	240	240	
		入学定員充足率	1.05	1.05	1.05	1.06	1.05	
	学校教育課程_全体	志願者数	442	484	512	290	429	4.79
		合格者数	108	103	103	105	104	1.16
		入学者数	101	95	95	95	94	1.06
		入学定員	90	90	90	90	90	
		入学定員充足率	1.12	1.05	1.05	1.05	1.04	
	学校教育課程 教育学、教育心理学選修	志願者数	104	82	115	70	111	4.82
		合格者数	25	25	26	25	24	1.25
		入学者数	23	20	22	21	21	1.07
		入学定員	20	20	20	20	20	
		入学定員充足率	1.15	1.00	1.10	1.05	1.05	
	学校教育課程 障害児教育選修	志願者数	94	69	62	27	42	6.52
		合格者数	12	11	10	11	10	1.19
		入学者数	10	10	10	11	10	1.13
		入学定員	9	9	9	9	9	
		入学定員充足率	1.11	1.11	1.11	1.22	1.11	
	学校教育課程 教科教育選修	志願者数	135	222	222	99	150	3.93
		合格者数	47	44	44	47	45	1.07
		入学者数	45	43	42	43	43	1.02
		入学定員	42	42	42	42	42	
		入学定員充足率	1.07	1.02	1.00	1.02	1.02	
	学校教育課程 理科選修	志願者数	23	48	38	38	59	5.87
		合格者数	8	8	8	8	12	1.25
入学者数		8	7	7	7	7	1.02	
入学定員		7	7	7	7	7		
入学定員充足率		1.14	1.00	1.00	1.00	1.00		
学校教育課程 数学選修	志願者数	57	31	41	39	45	6.08	
	合格者数	9	9	9	9	8	1.25	
	入学者数	8	9	8	8	8	1.16	
	入学定員	7	7	7	7	7		
	入学定員充足率	1.14	1.28	1.14	1.14	1.14		
学校教育課程 音楽選修	志願者数	29	32	34	17	22	5.36	
	合格者数	7	6	6	5	5	1.16	
	入学者数	7	6	6	5	5	1.16	
	入学定員	5	5	5	5	5		
	入学定員充足率	1.40	1.20	1.20	1.00	1.00		
新課程_全体	志願者数	602	617	507	831	593	4.20	
	合格者数	178	178	185	183	176	1.20	
	入学者数	153	158	158	160	158	1.04	
	入学定員	150	150	150	150	150		
	入学定員充足率	1.02	1.05	1.05	1.06	1.05		
国際文化課程	志願者数	189	272	197	344	248	4.16	
	合格者数	73	75	74	78	72	1.23	
	入学者数	60	62	64	61	63	1.03	
	入学定員	60	60	60	60	60		
	入学定員充足率	1.00	1.03	1.06	1.01	1.05		
人間環境課程	志願者数	288	181	160	339	205	3.90	
	合格者数	73	72	75	72	70	1.20	
	入学者数	61	65	64	68	63	1.06	
	入学定員	60	60	60	60	60		
	入学定員充足率	1.01	1.08	1.06	1.13	1.05		
美術・工芸課程	志願者数	125	164	150	148	140	4.84	
	合格者数	32	31	36	33	34	1.10	
	入学者数	32	31	30	31	32	1.03	
	入学定員	30	30	30	30	30		
	入学定員充足率	1.06	1.03	1.00	1.03	1.06		
文化教育学部 3年次編入学	志願者数	76	78	76	74	71	3.75	
	合格者数	19	18	19	21	22	0.99	
	入学者数	15	17	17	19	20	0.88	
	入学定員	20	20	20	20	20		
	入学定員充足率	0.75	0.85	0.85	0.95	1.00		

※集計に、編入学は含まれていない。

# 佐賀大学の教育研究機能の充実・強化について

文部科学省

## 【提案・意見内容】

地域経済の活性化、地域産業の振興のためには、地域の大学が持つ人的・物的・知的財産を最大限に活用することが必要です。

また、現在、佐賀大学においては、地域の活性化等に資するとともに、21 世紀における国際的な課題等にも対応した様々な取組が展開されており、今後、これらの取組を更に発展させるためには、同大学における教育研究機能の充実・強化が必要です。

## 【具体的な提案事項】

- (1) 佐賀大学が芸術学部（仮称）設置構想を実現できるよう配慮すること。
- (2) 佐賀大学における新たな教育研究の推進のため、下記事業を選定し、教育研究機能の充実・強化を図ること。
  - ① 地（知）の拠点整備事業（コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト）の推進
  - ② 全国共同利用海洋エネルギー研究センターにおける実証研究の推進
  - ③ シンクロトン光活用の広域連携を用いた次世代イノベーション技術開発と人材育成
  - ④ ハブ型ネットワークによる有明海地域共同観測プロジェクト
  - ⑤ 地域・国際連携による農業版MOT教育プログラム
  - ⑥ 大学間発達障害支援ネットワークの構築と幼保専門職業人の養成
- (3) 超急性期医療や救命救急医療など佐賀県の地域医療の要請に応えるとともに、高度医療・最先端医療への対応、教育・研究機能の強化等のため、手術室の増室、救命救急センターの拡充、関節外科センターの設置、横断・集学的がん診療体制の整備をはじめとする附属病院の再整備を行うこと。
- (4) 国立大学法人運営費交付金については、極端な競争原理や成果主義に陥ることなく、とりわけ地方の国立大学にあっては、その地域における知的拠点として、人材養成という最も根幹的な部分を役割として担っていることを踏まえ、大学の教育、研究の基礎を支える基盤的な交付金として、十分な予算を確保すること。

## 【当県の現状と課題】

### (1) 芸術学部設置構想の実現

- 本構想は、当県の伝統的地場産業である陶磁器産業の振興を図るために設置されている佐賀県立有田窯業大学校を4年制大学化し、「有田セラミック専攻」を含む芸術表現コースなどを置く芸術学部（仮称）の設置を目指すものである。（平成28年4月）
- 佐賀県窯業技術センターや佐賀県立九州陶磁文化館とも連携し、創業400年を迎える有田焼の世界展開を支える人材を育成し、世界的な窯業の拠点化を目指す。

## (2) 教育研究機能の充実・強化

### ① 地（知）の拠点整備事業（コミュニティ・キャンパス佐賀アクティベーション・プロジェクト）の推進

- 佐賀大学と西九州大学は、佐賀県全域をキャンパスと位置付け、学生・教職員による実践的な教育研究を通して、地（佐賀県域）と知（教育研究）のアクティベーションを進めることで、佐賀の地における知の拠点としての機能を強化する。
- この目的を実現するため、両大学の教育・研究シーズを集約し、佐賀県域が抱える地域課題としての中心市街地・離島・山間地域の活性化、地域産業の振興とコミュニティの再生、地域医療・保健・福祉の向上、子どもの教育支援、高齢者の健康改善および地域環境の保全等の解決に向けた12の教育研究プロジェクトを推進する。

### ② 全国共同利用海洋エネルギー研究センターにおける実証研究の推進

- エネルギー問題及び環境問題が我が国をはじめ国際的な緊急の課題として取り上げられている中、近年、その有効な解決策の一つとして海洋エネルギーに大きな期待が寄せられている。
- このような状況の中、佐賀大学海洋エネルギー研究センターにおいては、全国共同利用・共同研究拠点として、また、国際的な研究拠点として、海洋エネルギーに関する学術的、実証的研究を行っているところであり、この研究が、新たな学術研究の推進とともに、国際的な課題であるエネルギー問題及び環境問題の解決に結びつくことが期待できる。

### ③ シンクロトン光活用の広域連携を用いた次世代イノベーション技術開発と人材育成

- 本事業は、大学の教育研究機能を核とした佐賀県との連携や九州大学をはじめとした九州地域の大学及び国内外の研究機関との連携協力協定を基に、広域連携と共同利用・共同研究を強化して、シンクロトン光利用の最先端科学技術の開発と太陽光電池などの機能性ある半導体光ナノバイオの社会的課題解決型デバイス研究をはじめとした、シンクロトン光を活用した次世代に繋がる先端的なイノベーション技術の開発研究を展開するとともに、将来の地域及び日本・世界を支える人材を育成するものである。
- 持続発展社会の実現及び地域活性化のために、新産業創出、地域産業の高度化、地域に根ざした科学技術の振興を目的とした佐賀県のシンクロトン光事業を学術的立場から支援・協力するとともに、シンクロトン光を利用した最先端のイノベーション開発研究を通じた人材育成が必要となっている。

### ④ ハブ型ネットワークによる有明海地域共同観測プロジェクト

- 本事業は、佐賀大学をハブとして有明海沿岸4県の大学が連携して、月昇交点運動による潮汐振幅変化の影響を含め、有明海の環境変動に関する調査・研究を実施し、有明海の環境変動機構の解明・環境再生策の検討を行うとともに、真の有明海環境再生に向けて地域の研究者・市民・行政・事業者が連携して取り組むことができるような仕組み作りを検討する。
- 有明海の環境異変問題は、佐賀県のみならず、有明海周辺の市民、行政等からの強い要請がある研究課題であり、その解決に大きな期待が寄せられている。

### ⑤ 地域・国際連携による農業版MOT教育プログラム

- 本事業は、佐賀大学農学研究科修士課程の副コースである「農業技術経営管理学コース」及び

農学研究科に併設した「特別の課程（農業技術経営管理士養成講座）」を基盤として、大学間・国際間の連携によって教育コンテンツ（ケースメソッド）の共同開発・活用を進め、教育研究拠点の形成を目指すための教育改革プログラムである。

- 本事業を通じて、大学院教育の質的向上（実質化）を図り、農業の再生、農業の国際化への対応、農業経営等、佐賀県の主要産業の一つである農業の喫緊の課題に対応できる、高い倫理観・使命感・企業家精神に根差した高度な専門職業人（農業技術経営管理者）を養成し、地域振興に貢献する。

#### ⑥ 大学間発達障害支援ネットワークの構築と幼保専門職業人の養成

- 本事業は、幼児教育の専門職業人を目指す学生の専門性を向上させることにより、発達障害のある幼児がニーズにあった支援を幼稚園や保育所で受けることができることを目指すものであり、地域の課題である「発達障害のある幼児に対する確かな支援力をもつ幼保専門職業人を養成」を行うものである。

#### (3) 附属病院の再整備

- 医学部附属病院は、佐賀県保健医療計画において、超急性期医療・先進医療（高度医療）を担う医療機関と位置付けられ、がん、脳卒中、急性心筋梗塞等の4疾病や、救急医療を始めとする5事業等において地域医療の中心的機能を担うことが期待されている。また、地域医療に貢献する良き医療人を養成するためには、臨床実習を始めとする院内教育の更なる充実が必要不可欠となっている。
- 手術室数の不足や集中治療部病床の不足、救命救急センターの施設上の課題、教育スペースの不足等の喫緊の課題があり、手術室の増室、集中治療病床の増床、救命救急センター病棟と外来の位置的統合、関節外科センターと総合移動能力測定室の設置、先進総合機能回復センターの設置、がん診療部門の拡充整備（光学医療診療部や外来化学療法室の充実、オンコロジーセンターの設置等）、教育等施設の拡充・整備（研修センターの設置等）などのうち一部完了したものもあるが、平成29年度の完了を目指している病院再整備事業においてこれらを実現する必要がある。

#### (4) 国立大学法人運営費交付金の配分

- 佐賀大学は卒業生の多くが佐賀県内で教員・医師等として働き、地域の教育を担う総合大学として、大きな役割を果たしている。
- また、地域に根ざした研究拠点として、シンクロトン光の研究、有明海環境問題に関する研究、地域学（佐賀学）の創出や情報発信など地域の経済、文化に関わる活動によって地域に貢献するとともに、先端医療や救急医療を担う地域医療の中核を担っている。
- それぞれの大学が自ら不断の努力を続けることは当然のことではあるが、地域の人材養成に多大な貢献をしてきており、直ちには効果がみえにくい文化系・教員養成の大学、また、大学が取り組む地道な研究活動に対して配慮されるべきである。
- 国立大学法人運営費交付金の配分に当たっては、国立大学法人が安定的な運営の下で地域において果たしている機能や役割を発揮できるように十分考慮するべきである。

**佐賀大学**  
**「芸術学部(仮称)」設置に関するニーズ調査**  
**－高校生と高校教員向けアンケート調査分析－**  
【1次調査】

分析：佐賀大学アドミッションセンター





## 【総括】

「芸術学部（仮称）」設置に関するニーズ調査のため、佐賀県をはじめとする九州7県の高等学校を対象にアンケート調査を実施した。その結果、「芸術学部（仮称）」への進学希望については、「進学したいと思う」が97名（1.6%）、「進路の1つとして考えたい」が799名（13.2%）、「進学しようとは思わない」が3,849名（63.4%）、「分からない」が1,329名（21.9%）であった。本調査は、一般の高校生を対象にした調査であり、芸術分野を進路先として考える生徒が一部にすぎないことはある程度予想された。その中で、「進学したいと思う」と「進路の1つとして考えたい」が896名であったことは、潜在的な志願者層を含め一定の志願者が存在することが示された。

一般的な高校生は、「絵を書く、物を作る、特別な才能を持った人が行く」というように、芸術に関する学部を特殊な学部として認識しており、進路考慮対象外と考えている様子がみられる。しかし、「芸術学部（仮称）」には、絵を描いたり、作品を制作するなどの技術的な要素が中心となる芸術表現コースだけでなく、芸術分野でのマネジメント力やコーディネート力を養成する芸術マネジメントコースも設置される予定であり、普通科を中心とした一般的なカリキュラムで学習してきた高校生を主なターゲット層として想定している。つまり、同分野に対する理解の促進が受験者の母集団を大きくすることに繋がるものと考えられる。なお、本調査で、この部分を把握できなかったのは、芸術マネジメントコースの紹介文として提示した内容の具体性が欠けていた点が原因の1つと思われる。一方、高校教員を対象としたアンケートでは、「芸術学部（仮称）」を特色ある学部と評価した者が274名（79.2%）を占め、生徒に進学を薦めるかどうかについては、「薦めたい」が76名（22%）、「候補として検討したい」が235名（67.9%）であり、一定の評価が得られた。

また、本調査の分析結果から、「芸術学部（仮称）」に対する認識及び志願者確保に向けた情報発信では以下の点が重要であることが示された。高校生が進路先を選ぶ基準として重視するものは、「自分が目指す職業との関連性」と「勉強したい学問分野があること」であった。また、仮に芸術学部へ進学する場合を想定させても、「卒業後の進路先」を最も重視している。高校教員も生徒に薦める上で「卒業後のキャリア」と「教育内容やカリキュラム」を重要事項として挙げている。つまり、大学で学ぶ内容だけでなく、将来的な職業との関連性が十分に伝えられなければ、受験生や彼らを指導する高校教員にとって魅力のない学部と映ってしまう可能性は否定できない。以上のことから、学部で学ぶ内容と卒業後のキャリアイメージは、新学部の広報活動にとって不可欠な点である。

今回の調査により、芸術分野の志願者層は限定的であるものの、極端に小さな母集団ではないということ。芸術分野に対する一般的なイメージが「絵を書く、物を作る、特別な才能を持った人が行く」といった特殊なものであること。普通科を中心とした一般的なカリキュラムで学習してきた高校生も受験者集団として想定するならば、学べる内容と卒業後のキャリアイメージを徹底的に周知する必要があることが示された。こうした現状と課題を踏まえた対応策が求められる。

## ■ 調査概要

「芸術学部（仮称）」を設置するにあたり、高校生ニーズを把握するために、高校生と進路指導を担当する教諭を対象としたアンケート調査を実施した。調査方法は以下の通りである。

（調査方法）

実施時期：2014年8月8日～同月下旬まで

調査対象高校と手続き：表Aの通り

表A. 調査対象高校と手続き

地域	高校数	手続き（郵送返却）
佐賀県	20校	学校長宛に依頼 生徒向け：40名クラス4クラス程度 教員向け：1高校につき3名程度
福岡県	63校	佐賀大学の進学説明会参加校へ依頼 生徒向け：40名クラス1クラス程度 教員向け：1高校につき3名程度  ※同一高校から教員が複数参加している場合は、各々に依頼
長崎県	15校	
熊本県	29校	
大分県	21校	
宮崎県	7校	
鹿児島県	11校	
合計	166校（のべ195校，県内20校，県外175校） 生徒総配布枚数：10,200，教員：総配布枚数：585	

注. 依頼高校には進学実績のトップ校，中堅校，専門高校など多様な高校が含まれる。

## ■ 回収結果

表B. 回収結果

地域	回収高校数（のべ数）	回収数（生徒）	回収数（教員）	回収率
佐賀県	13校	1,803	38	生徒向け <u>62.8%</u>
福岡県	30校	1,081	84	
長崎県	12校	443	32	
熊本県	19校	700	51	
大分県	13校	458	35	
宮崎県	4校	140	12	教員向け <u>59.5%</u>
鹿児島県	2校	71	6	
その他*1	34校	1,714	90	
合計	127校	6,410	348	

\*1…回収先が分からなかったもの

注. 回収高校には進学実績のトップ校，中堅校，専門高校など多様な高校が含まれる。

## 高校生向けアンケート分析結果

### 1. 回答者の属性

回収数 6,410 件のアンケートのうち、6,374 件を有効回答として扱った。表 2 以降については、無回答を除外して集計しているため、図表別の集計値に若干の差が生じる。

表 1. 回答者の性別と学年

	1 年生	2 年生	3 年生	無回答	合計
男子	941(46%)	1,645(43%)	186(38%)	6(67%)	2,778(44%)
女子	1,104(54%)	2,180(57%)	298(61%)	3(33%)	3,585(56%)
無回答	5(0%)	4(0%)	2(0%)	0(0%)	11(0%)
合計	2,050	3,829	486	9	6,374

%は、各学年の性別の割合

表 2. 回答者の在籍クラス（コース）

	文系クラス	理系クラス	未定及びその他	合計
男子	819(36%)	997(56%)	865(40%)	2,681
女子	1437(64%)	785(44%)	1273(60%)	3,495
合計	2,256	1,782	2,138	6,176

### 【分析結果】

回答者の男女比は、男子が 44%、女子が 56%と女子の比率が少し多いものの、おおよそ半々の比率の回答を得ることをできた（表 1）。学年は、1 年生が 32.2%、2 年生が 60.1%、3 年生が 7.6%であった（表 1）。これは「芸術学部（仮称）」の募集開始が 2016 年 4 月を予定していることから、受験対象者となる 2 年生以下を中心に回答を依頼しているためである。なお、本調査では、3 年生の回答を排除しているわけでないため 3 年生の回答も一定数存在する。一方、回答者の所属するクラス（コース）は、文系クラスが 36.5%、理系クラスが 28.9%、未定及びその他が 34.6%であった（表 2）。

以上のことから、性別、学年、在籍クラス（コース）とも、バランスのとれた割合で回答を得ることができたと言える。

## 2. 高校卒業後の希望進路及び進路先として関心のある分野

高校卒業後に回答者がどのような進路選択を考えているかを把握するために、「高校卒業後に希望している進路」及び「進路先として関心のある分野（3つ以内を選択）」を尋ねた。

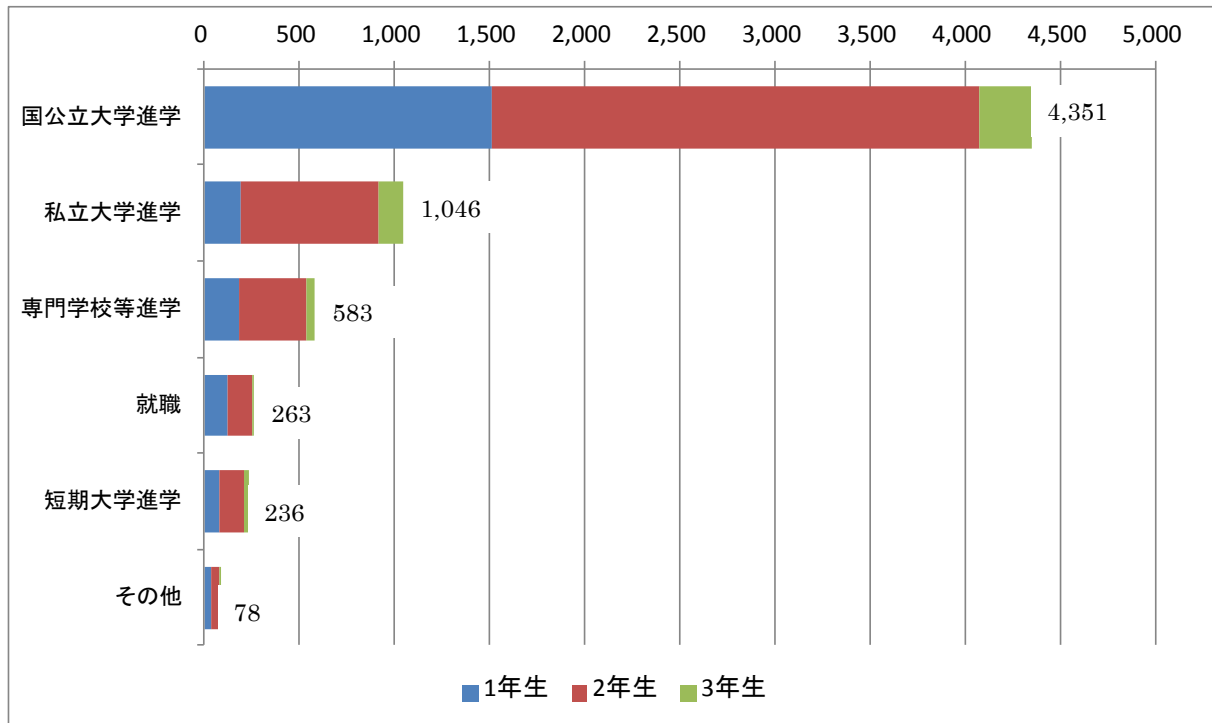


図 1. 高校卒業後に希望している進路

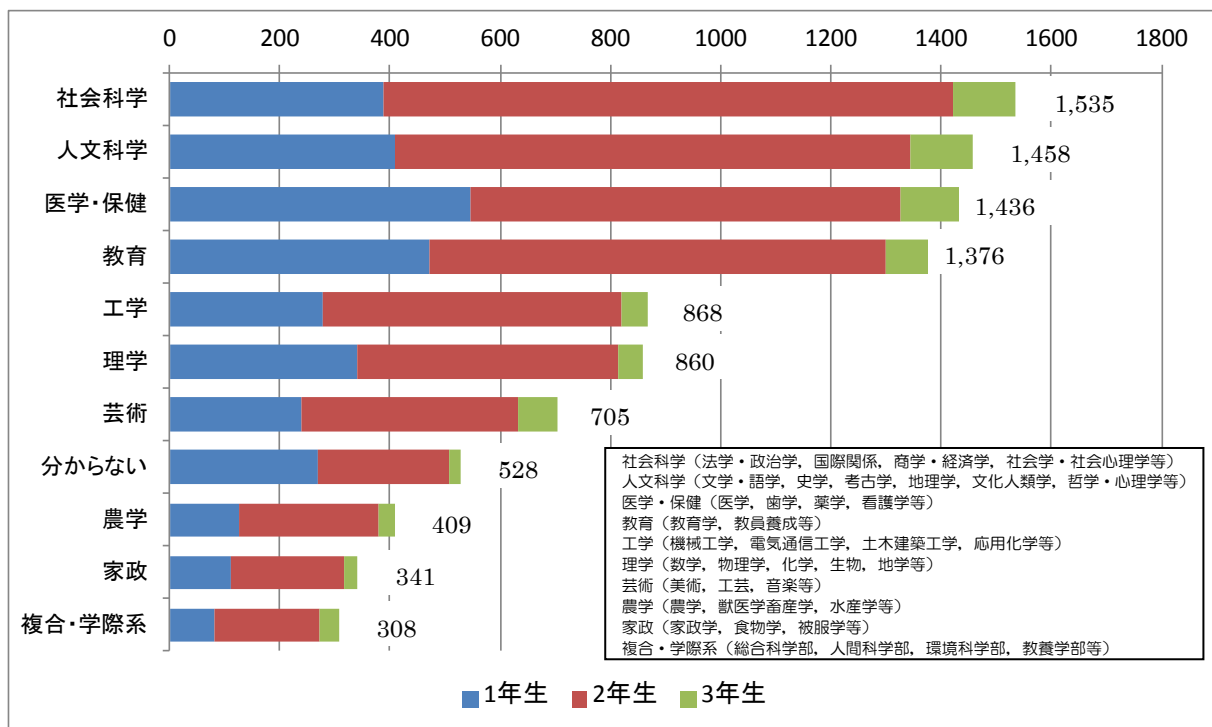


図 2. 進学先として関心のある分野（3つ以内を選択）

### 【分析結果】

「高校卒業後に希望している進路」では、4,351名（66.4%）が国公立大学、1,046名（16.0%）が私立大学の進学を希望しており、全体の82.3%が4年制大学の進学を希望している（図1）。

一方、「進路先として関心のある分野（3つ以内を選択）」では、社会科学と人文科学の分野が上位を占めており、文系クラスの回答者が多いことが起因していると思われる。芸術分野は705名が関心のある分野として挙げており、一定の高校生から支持されている傾向がみられる。

### 3. 進路先を選ぶ基準として重視しているもの

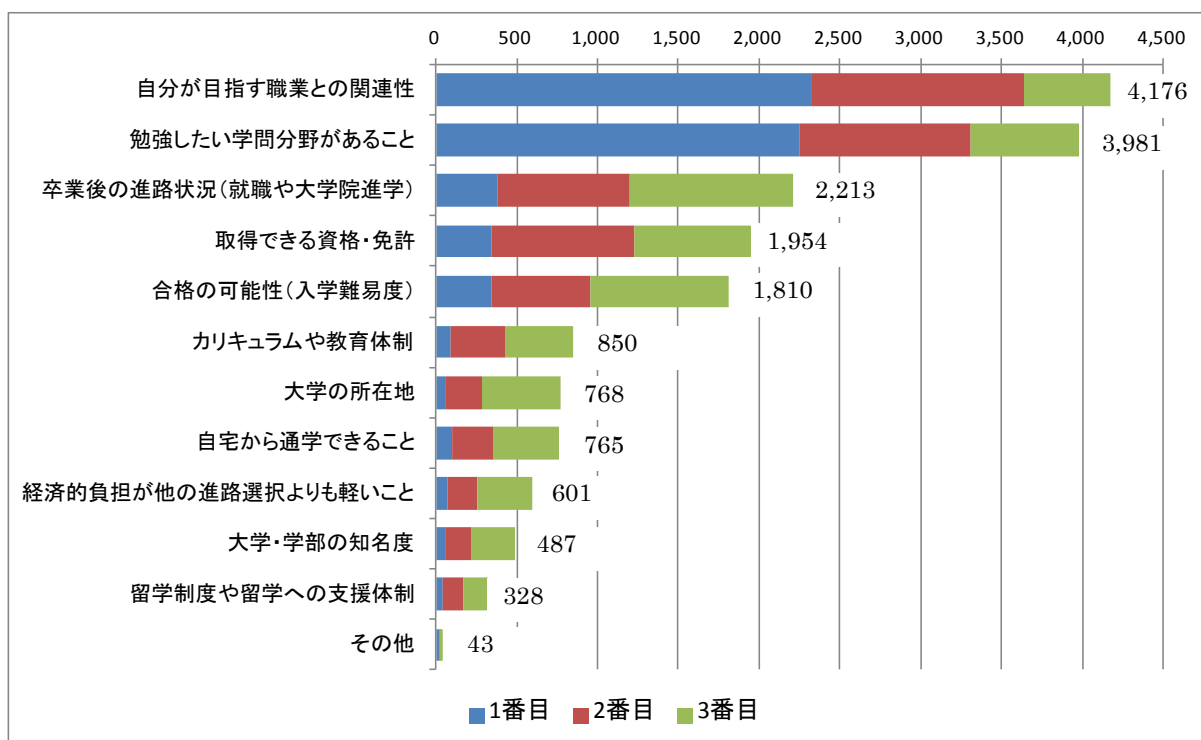


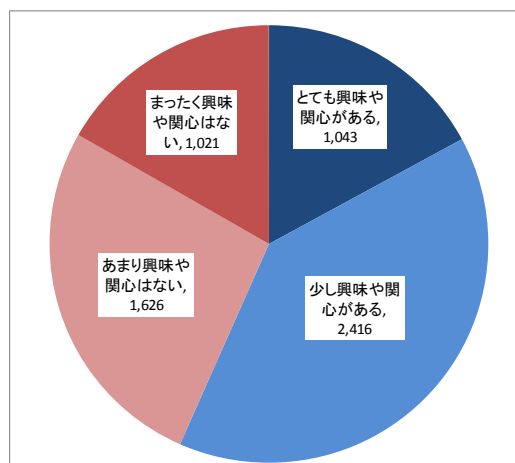
図3. 進路先を選ぶ基準として重視しているもの（気持ちの強い順に3つ以内を選択）

### 【分析結果】

「進路先を選ぶ基準として重視しているもの」では、「自分が目指す職業との関連性」が最も多く、「勉強したい学問分野があること」が続く。特に、両項目は気持ちの強い順に回答した際、1番目に多く選ばれている。このことから、職業との関連性や学問分野の内容が分かりにくい学部であると判断された場合、受験生にとって魅力のない学部として認識される可能性が高く、学部で学ぶ内容と卒業後のキャリアイメージは、新学部広報にとって特に重点的に情報発信すべき内容であるといえる。

#### 4. 芸術一般（芸術，工芸，音楽など）に対する興味・関心

芸術一般に対する高校生の認識を尋ねた。



性別	とても興味や関心がある	少し興味や関心がある	あまり興味や関心はない	まったく興味や関心はない
男子	298(11.3%)	953(36.0%)	792(29.9%)	604(22.8%)
女子	743(21.5%)	1459(42.3%)	831(24.1%)	415(12.0%)

図 4. 芸術一般（美術，工芸，音楽など）に興味や関心はあるか

#### 【分析結果】

「とても興味や関心がある」（17.1%）、「少し興味や関心がある」（39.6%）であり、芸術一般に対して 56.6%の者が一定の興味や関心を持っている。特に、女子においてその割合が高かった（男子：47.3%，女子：63.8%）。

#### 5. 「芸術学部」と聞いて思い浮かぶ印象

「芸術学部」という学部名に対する印象について尋ねた。代表的な意見を以下にまとめる。

#### 【代表的な印象（数が多かったもの）】

いつも絵を描いているイメージ，油絵，デッサン	技術やセンスがないと難しそう
楽器演奏をする，変わった人が多そう	芸術関係の仕事に就きたい人が行くところ
様々な感性を持った人が集まる	個性が強い，自由なイメージ
作品を作ったりする，彫刻をしたりするところ	趣味でやってそうなイメージ
生まれ持った才能がある人が行く	就職が難しそう
画家や芸術家になる人たちが行くところ	入学するのが難しそう
絵がうまい人たちが行くところ	美の追究
特別な学部，珍しい学部	普通科出身の人が少ない
自分には縁のない学部，別世界	文化系の人が多そう
お金がかかりそう	まったく分からない
おしゃれな感じ，かっこいい，楽しそう	あまり学力が高くない，勉強しなくていい

#### 【分析結果】

高校生は、「芸術学部」を特殊な学部として認識しており、自分にはあまり関係ないと考えている様子がみられる。新設学部には、「芸術マネジメントコース」という普通科を中心とした一般的なカリキュラムで学習した高校生を受験母集団と想定する分野もあるため、芸術学部の一般的イメージだけで表される学部でないことを周知することが、一定の受験者集団を確保するための重要な前提となる。

## 6. 芸術学部を仮に選ぶ場合に重要だと思う事項

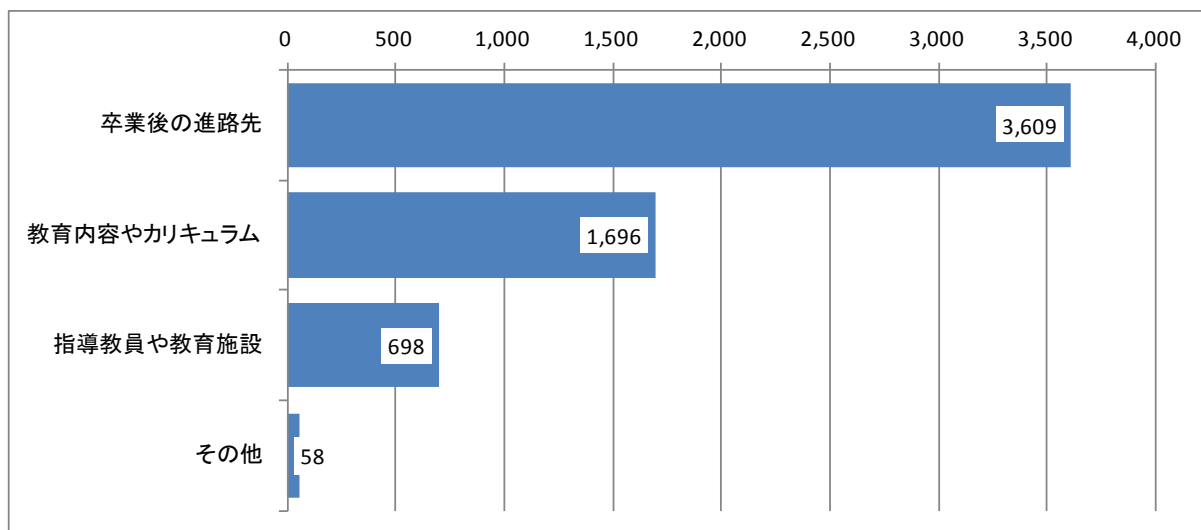


図 5. 仮に進学先として芸術分野の学部を選ぶ場合、どのような点が重要だと思うか

### 【分析結果】

前節で分析した「芸術学部と聞いて思い浮かぶ印象」でも、多くの回答者が卒業後の進路の不安を挙げていたが、本項目でも「卒業後の進路先」を挙げるものが約6割を占めた。したがって、高校生に特殊な学部として認識されがちな芸術学部に興味や関心を持ってもらうためには、卒業後の進路について明確に示していく必要がある。

## 7. 佐賀大学の「芸術学部（仮称）」に対する認識

以下の特色を読んでもらい、佐賀大学の「芸術学部（仮称）」についての認識を尋ねた。

### 佐賀大学の「芸術学部（仮称）」の特色

芸術学部は、アートを創造する「芸術表現コース」と、アートをコーディネートできる人材を育成する「芸術マネジメントコース」で構成されます。

#### 1. 教育内容やカリキュラム

- [1] 芸術家や作家だけでなく、芸術をコーディネートできる人材を育成します。
- [2] 伝統的な芸術表現だけでなく、デジタルコンテンツなどの最先端の表現技術も学びます。

#### 2. 指導者や教育設備

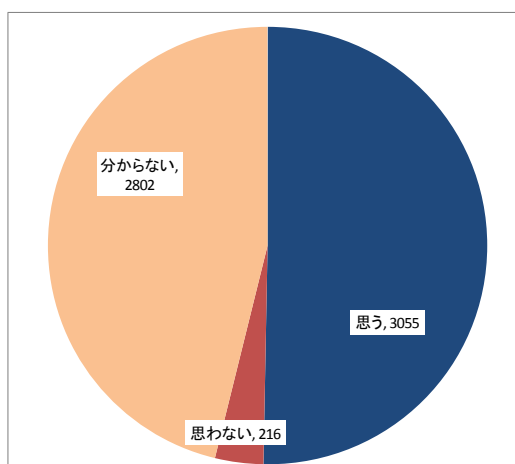
- [1] 世界最高の水準の教育研究施設を持つ有田キャンパスで学ぶことができます。
- [2] 人間国宝や芸術院会員など超一流の講師陣の授業が受けられます。

#### 3. 想定している卒業後のキャリア

- 芸術表現コース：作家、業界関係、民間企業（広報・企画担当、デザイナー等）など
- 芸術マネジメントコース：学芸員、アートコーディネーター、公務員、観光関連業、マスコミなど



## ■ 特色ある学部だと思うか



性別	思う	思わない	分からない
男子	1,223(46.4%)	128(4.9%)	1,287(48.8%)
女子	1,827(53.4%)	88(2.6%)	1,509(44.1%)

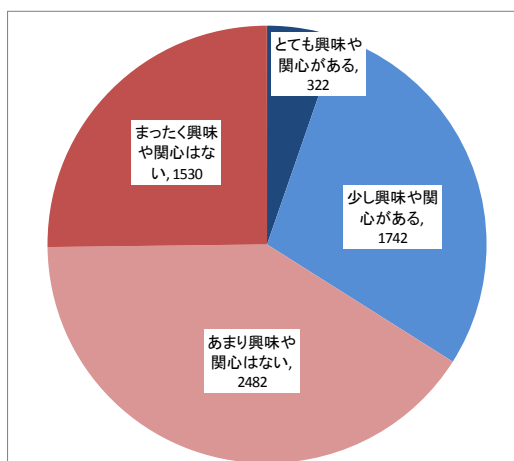
芸術一般に対する興味や関心	思う	思わない	分からない
とても興味関心がある	655(63.3%)	35(3.4%)	345(33.3%)
少し興味関心がある	1,285(53.6%)	66(2.8%)	1,048(43.7%)
あまり興味や関心がない	766(47.5%)	40(2.5%)	808(50.1%)
まったく興味や関心はない	347(34.2%)	74(7.3%)	594(58.5%)

図 6. 佐賀大学が設置を目指している「芸術学部（仮称）」は、特色のある学部だと思うか

### 【分析結果】

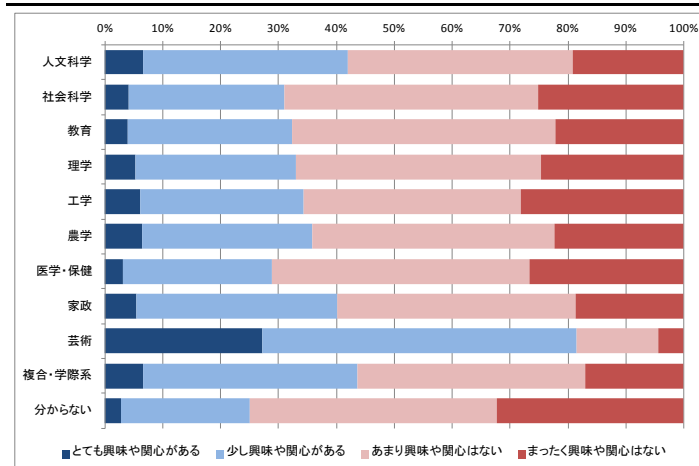
特色ある学部と回答した者は 50.3%, 特色がないとしたものは 3.6%であったが、「分からない」と回答した者が 46.1%を占め、特色を具体的に伝えることの難しさが示された。性別では女子の方が特色あると回答している割合が多い (53.4%)。また、「芸術一般に対する興味や関心」の高い者ほど特色ある学部と捉えている傾向がみられることから、芸術に対する親和性が重要な点であるといえる。

## ■ 興味や関心はあるか



性別	とても興味や関心がある	少し興味や関心がある	あまり興味や関心はない	まったく興味や関心はない
男子	120(4.6%)	602(22.8%)	1057(40.1%)	858(32.5%)
女子	201(5.9%)	1137(33.2%)	1420(41.4%)	670(19.5%)

図 7. 佐賀大学の「芸術学部（仮称）」に興味や関心はあるか



### 【分析結果】

「とても関心がある」が 322 名 (5.3%), 「少し興味や関心がある」が 1,742 名 (28.7%) と合わせて 2,064 名 (34%) が、何かしら関心を持っていることが示された。特に、女子による関心の高さがみられる。志望分野別にみると「芸術」を志願する者の関心が最も高いものの、「複合・学際系」「人文科学」「家政」の志願者においても 4 割程度が関心を示していることが分かる。

## ■ 進学したいと思うか

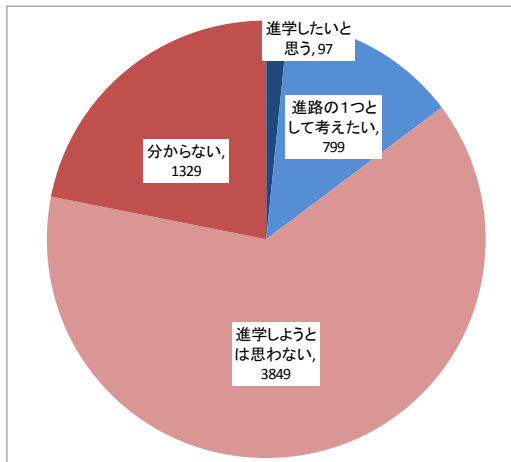
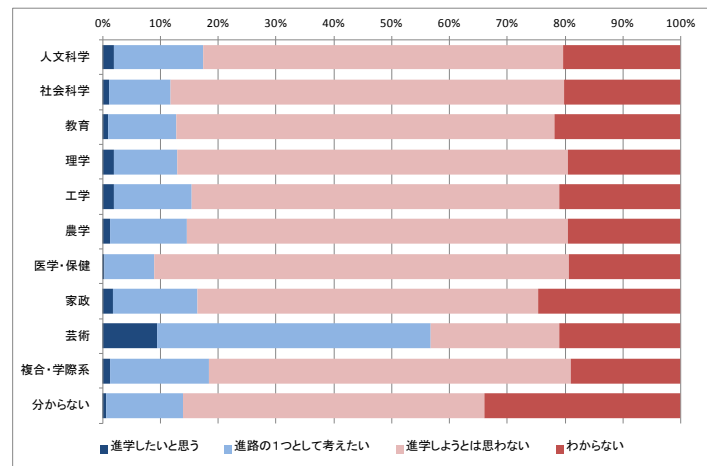


図 8. 佐賀大学に「芸術学部（仮称）」が設置された場合、進学したいと思うか

性別	進学したいと思う	進路の1つとして考えたい	進学しようとは思わない	わからない
男子	40(1.5%)	292(11.1%)	1,718(65.1%)	587(22.3%)
女子	57(1.7%)	503(14.7%)	2,125(62.0%)	741(21.6%)



芸術学部への興味・関心	進学したいと思う	進路の1つとして考えたい	進学しようとは思わない	わからない	合計
とても興味や関心がある	84	164	32	40	320
少し興味や関心がある	11	541	709	480	1741
あまり興味や関心はない	2	88	1861	529	2480
まったく興味や関心はない	0	6	1245	279	1530
合計	97	799	3847	1328	6071

### 【分析結果】

「進学したいと思う」が97名（1.6%）、「進路の1つとして考えたい」が799名（13.2%）、「進学しようとは思わない」が3,849名（63.4%）、「分からない」が1,329名（21.9%）であった。回答者の志望分野別では、「芸術分野」において、「進路の1つとして考えたい」まで含めて55%程度が関心を寄せるものの、他の分野を希望する者からの進学希望は20%に満たない。なお、芸術学部への興味・関心を持つ者ほど、進学先として関心を寄せる傾向があることから、芸術分野への興味・関心を喚起することが進学意欲を喚起する前提となることが示された。

本調査は、一般の高校生を対象にした調査であり、芸術分野を進路先として考える者が限定的であることはある程度予想された。その中で、「進学したいと思う」と「進路の1つとして考えたい」が896名存在することは、潜在的な志願者層を含め一定の志願者が存在することが示唆される。5節の分析では、「絵を書く、物を作る、特別な才能を持った人が行く」といったイメージが「芸術学部」の印象として抱かれている。新設予定の「芸術学部（仮称）」には、芸術マネジメントの分野も含まれており、こうした分野を受験生に浸透させることが志願者層を拓げるための重要な施策だと考えられる。

## ■ 「芸術学部」という学部名に対する印象からみた「芸術学部（仮称）」

5 節で分析した「芸術学部」という学部名に対する印象の違いによって、本学が設置する「芸術学部（仮称）」を考える上で示唆される点を分析した。まず、「芸術学部」に対する印象について、以下の基準にもとづき 5 つのカテゴリーに分類して集計した。

カテゴリー	記述文に含まれる要素	該当件数
肯定的印象	高度な、専門性の高い、楽しい、良い、優れた、充実、感性の鋭い、独創的な、個性的な、上手、高いレベル、技を高める、スペシャリスト、個性重視、珍しい、極める など	1,385
否定的印象	厳しい、難しい、就職が無い、絵だけ、勉強ができない、面倒、堅苦しい、趣味、無理など	526
肯否定の価値を含まない印象	絵を描く、デザイナー、イラストレーター、製作、絵が上手い人のための学部、静か、アニメ、ゲーム、才能ある一部の人、技術が必要	3,211
イメージできない	わからない、不明、イメージできない	333
無回答	—	863

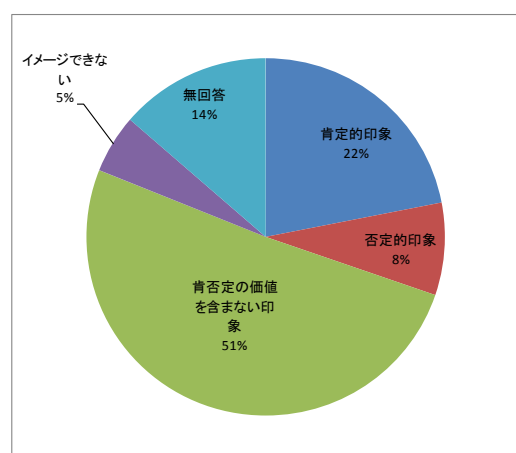
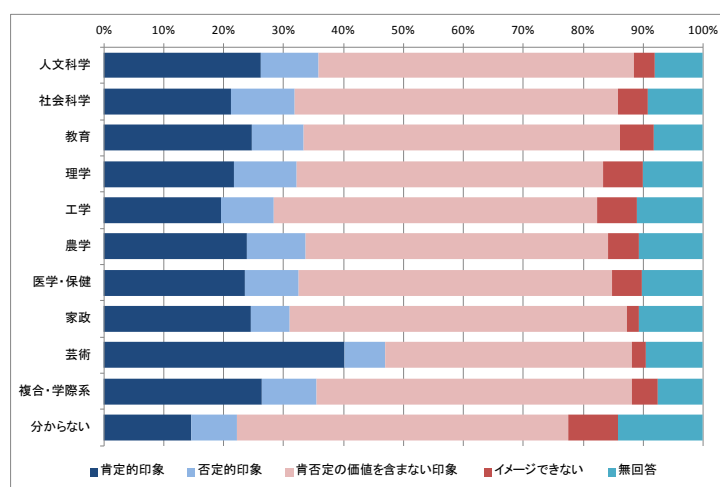


図 9.芸術学部（学部名）に対する印象



### 【分析結果】

「芸術学部」という学部名に対する印象について 1,385 名（22%）の回答者が肯定的な印象を持ち、否定的な印象は 526 名（8%）に留まった。2 節で尋ねた進学先として関心のある分野別でも、芸術分野に関心がある者は 40%と割合が高いものの、他の分野においても約 20%程度の回答者が肯定的に捉えている傾向がみられた。このことから、「芸術学部」に対して、高校生は自分にはあまり関係ない特殊な学部として認識している傾向があるものの、否定的な印象を持っているわけではないことが示された。

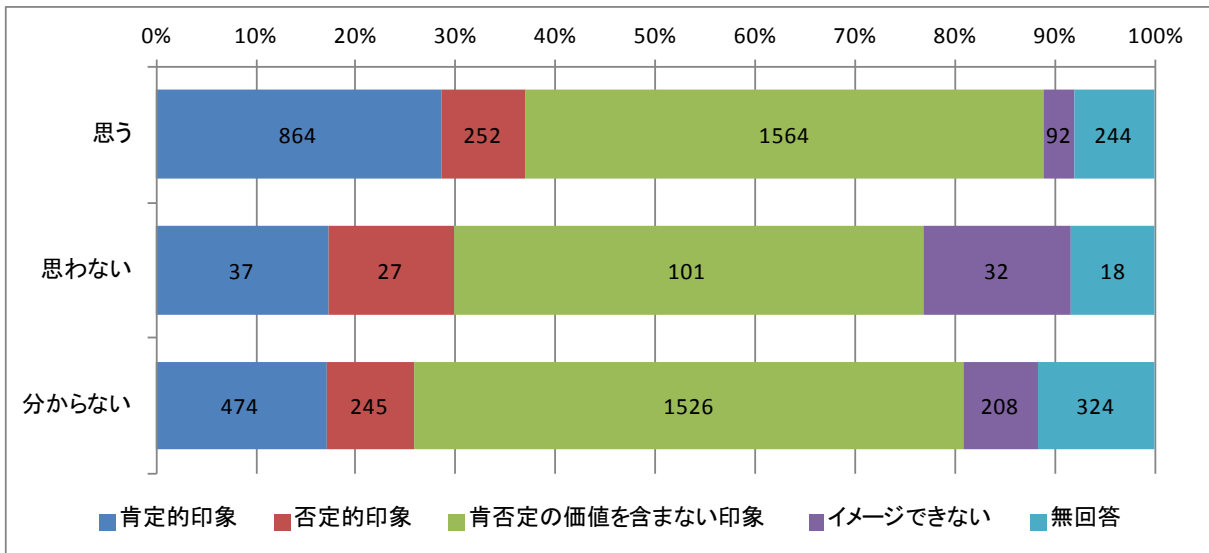


図 10. 「芸術学部（仮称）」を「特色ある学部」と思うかどうかでみた「芸術学部」の印象

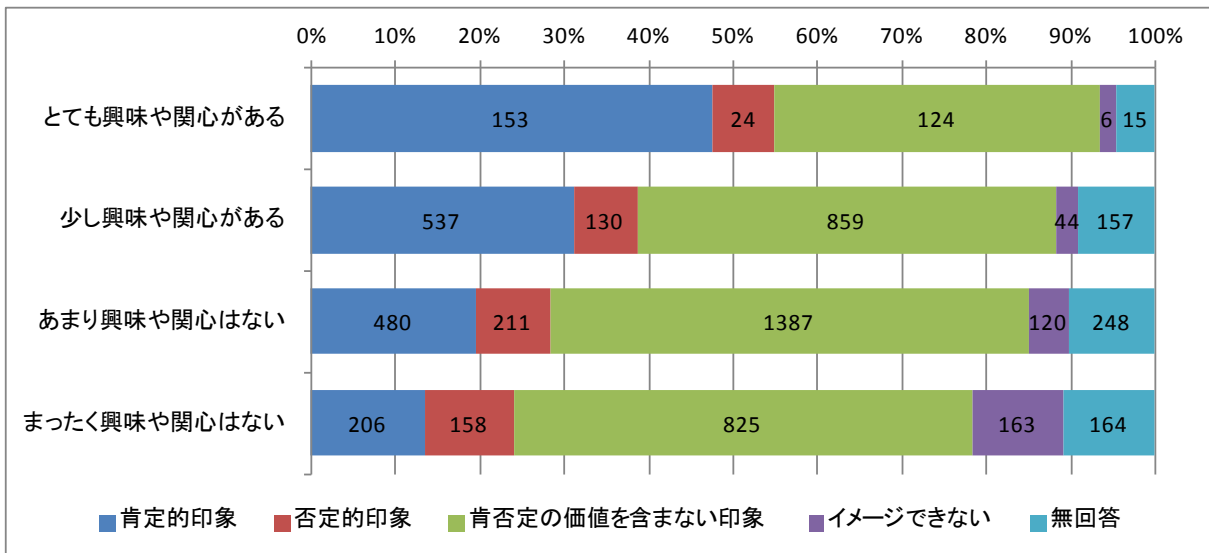


図 11. 「芸術学部（仮称）」に対する興味・関心の程度別にみた「芸術学部」の印象

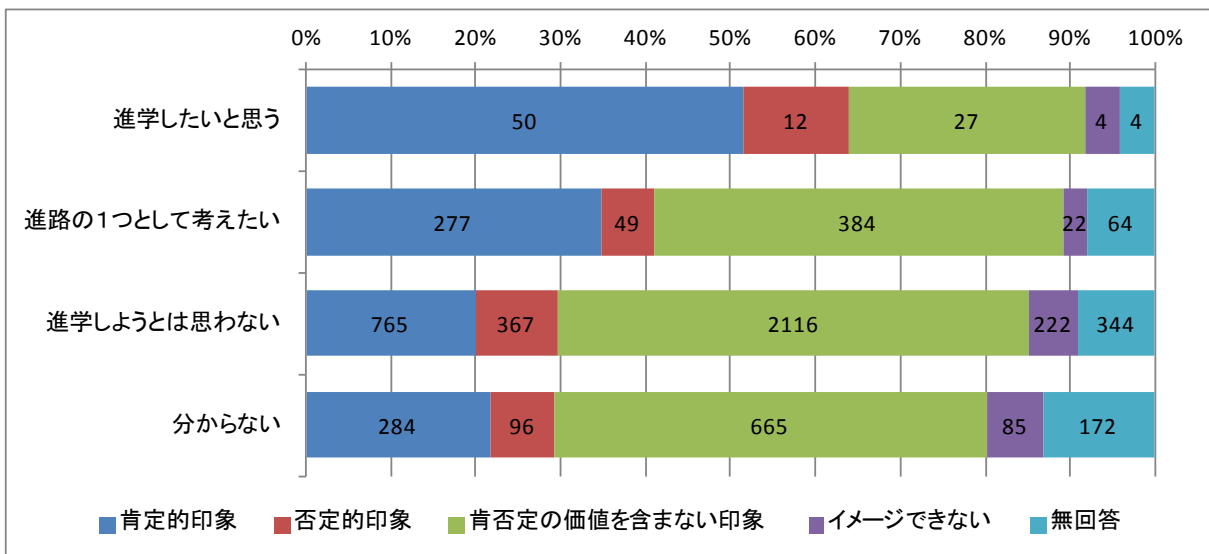


図 12. 「芸術学部（仮称）」に対する進学意思の有無別にみた「芸術学部」の印象

## 【分析結果】

「芸術学部」という学部名に対する印象と設置予定の「芸術学部（仮称）」に対する認識の関係性について分析した結果、次のような傾向がみられた。

### ◆ 「芸術学部（仮称）」を特色ある学部であると考えerかどうかで見た場合（図 10）

「芸術学部（仮称）」を「特色ある学部だと思う」と考える回答者のうち 864 名（28.6%）が、「芸術学部」という学部名に対して肯定的印象を持っている一方で、「特色ある学部だと思わない」「わからない」と応える回答者においても 17%程度が肯定的な印象を持っている。また、「特色ある学部だと思う」と考える回答者の中には、「芸術学部」という学部名に対して否定的印象を持っている者が 252 名（8.4%）存在しており、「芸術学部」という一般的な名称には否定的な印象を持つものの、本学が設置を検討している「芸術学部（仮称）」に対しては、「特色がある」と考える者がいることを示している。

### ◆ 「芸術学部（仮称）」に対する興味・関心の程度で見た場合（図 11）

「芸術学部（仮称）」に対する興味・関心が高い場合、「芸術学部」という学部名に対して肯定的な印象を持っていることから（とても興味・関心がある 153 名<47.5%>、少し興味・関心がある 537 名<31.1%>）、「芸術学部」に対して肯定的な印象を持つ者ほど、「芸術学部（仮称）」に対して興味・関心を抱いていると解釈できる。一方、「芸術学部（仮称）」に対する興味・関心は高くないものの、「芸術学部」に対して肯定的な印象を持っている回答者が、「あまり興味・関心がない」で 480 名（19.6%）、「興味・関心がない」で 206 名（13.6%）おり、「芸術学部（仮称）」に対する興味・関心を喚起できる可能性を持つ潜在的な生徒層が存在していることを示唆している。

### ◆ 「芸術学部（仮称）」に対する進学意思の有無で見た場合（図 12）

「芸術学部（仮称）」に対して進学意思がある者は、「芸術学部」という学部名に対して肯定的な印象を持っている（進学したいと思う 50 名<51.5%>、進学先の 1 つとして考えたい 277 名<34.8%>）。一方、「芸術学部（仮称）」に対する進学意欲は高くないものの、「芸術学部」という学部名に対しては肯定的な印象を持っている回答者は、「進学しようとは思わない」で 765 名（20.1%）、「わからない」で 284 名（21.8%）おり、「芸術学部（仮称）」に対する進学意欲を喚起しやすい潜在的な生徒層が存在することを示唆している。この構造は、「芸術学部（仮称）」に対する興味・関心と同じであり、まずは、「芸術学部（仮称）」に対する興味・関心を促すことを通して、進学したいと思う層を拡大することが重要であると考えられる。

## 高校教員向けアンケート分析結果

### 1. 回答者の属性

回収数 348 件のアンケートのうち、347 件を有効回答として扱った。

表 1. 回答者の高校種別と設置形態

	普通科	専門系	その他	無回答	合計
公立	175	24	21	0	220
私立	83	3	4	0	90
無回答	24	8	4	1	37
合計	282	35	29	1	347

### 2. 佐賀大学の「芸術学部（仮称）」に対する認識

以下の特色を読んでもらい、佐賀大学の「芸術学部（仮称）」についての認識を尋ねた。

#### 佐賀大学の「芸術学部（仮称）」の特色

芸術学部は、アートを創造する「芸術表現コース」と、アートをコーディネートできる人材を育成する「芸術マネジメントコース」で構成されます。

#### 1. 教育内容やカリキュラム

- [1] 芸術家や作家だけでなく、芸術をコーディネートできる人材を育成します。
- [2] 伝統的な芸術表現だけでなく、デジタルコンテンツなどの最先端の表現技術も学びます。

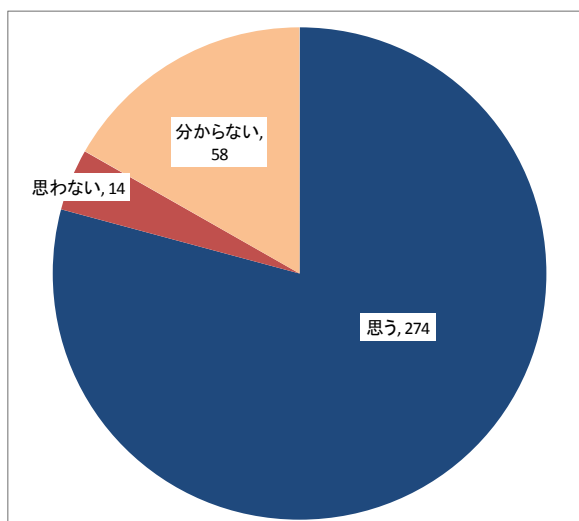
#### 2. 指導者や教育設備

- [1] 世界最高の水準の教育研究施設を持つ有田キャンパスで学ぶことができます。
- [2] 人間国宝や芸術院会員など超一流の講師陣の授業が受けられます。

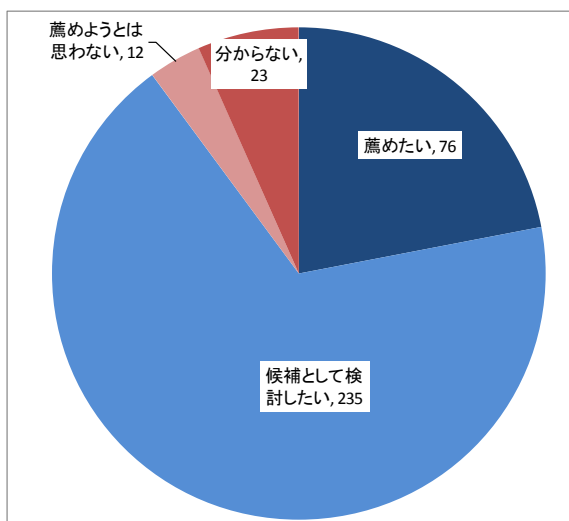
#### 3. 想定している卒業後のキャリア

- 芸術表現コース：作家、窯業関係、民間企業（広報・企画担当、デザイナー等）など
- 芸術マネジメントコース：学芸員、アートコーディネーター、公務員、観光関連業、マスコミなど

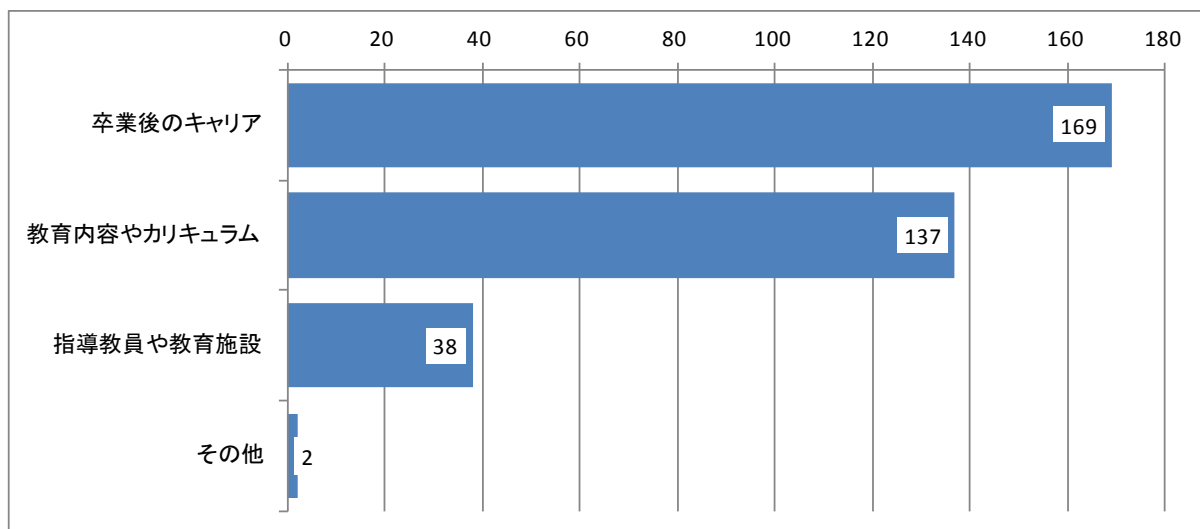
■ 特色ある学部だと思うか



■ 生徒に進学を薦めたいと思うか



■ 生徒に進学を薦めるとしたら、どのような点を重視するか



【分析結果】

特色ある学部と回答した者は 79.2%を占め、多くの高校教員からは特色のある学部として認識されたことが示された。生徒に進学を薦めるかどうかについては、「薦めたい」が 22%、「候補として検討したい」が 67.9%であり、一定の評価が得られた。一方、生徒に「芸術学部（仮称）」を薦める上で重視する点として「卒業後のキャリア」と「教育内容やカリキュラム」が挙げられた。特に、芸術学部という分野を考慮したときに、卒業後のキャリアは進路指導する立場の高校教員にとって重要な情報であることを意味しており、こうした情報を積極的に発信していくことの重要性が示された。

## 「芸術学部（仮称）」に対する意見

カテゴリー	回答内容
芸術学部（仮称）設置への期待	元々、佐賀大学文化教育学部美術工芸課程は、九州の国公立美術系学部志望の生徒には人気が高く、教育の質も高いイメージがある。「学部」として芸術系課程を編成し直すとのこと、必ずその人気は上昇するだろうと感じる。本校の生徒にも薦めたい。
	佐大は以前から美術系講師の現場（県下の高校）への派遣などに貢献されていて佐賀県における美術系教育に大きく寄与されています。芸術学部としてのさらなる発展を切に願っております。
	佐大は特美の時代から実績があられるので、芸術に関心があり、実力がある生徒には薦めたいと思います。
	特設美術科の時代より良い教育がなされており、国立大学で非常に数が少ない芸術学部なので注目している。学生の卒業後の就職についても十分に配慮と努力をしてほしい。
	地方でこのような学部を創設されるのは魅力的です
	より生徒の選択肢と進路実現への道が広がり、期待しております。ニーズに合ったカリキュラム（IT化）を希望致します。
	名実ともに特色ある学部となることを期待しています。
	公立の芸術系、という意味では良いと思います
	佐賀という地の利を生かして、特色のある学部を新設して下さい。大変期待しています。
	就職、卒業を想定した活動について強力なサポートがあるとしたら学生にとって質実、大変魅力的ではないかと思ひます。非常に期待させていただいております。
	新設されることをお聞きし、楽しみにしております。芸術系に進む生徒の選択肢が増えることをよろこんでおります。
	他の大学には見られないようなすばらしい学部になることをご祈念申し上げます。
	職人的な分野を大学教育にどう組みこんでいくか、という点に興味があります。
	学部設置に向けては、どのような希望（需要）が多かったのでしょうか？新しい学部設置が佐賀大学を更に活気づけてくれることを期待します。
	貴学に学部が増え、益々充実すると考えます。専門的な学びができることを期待します。
	芸術というとイコール創作活動と思われがちだが、「見るのが好き」「自分では作らないが興味がある」といった生徒たちの広い窓口となしてほしい。芸術に様々な方向から関わることができる人が増えるといいと思います。
	芸術に関心の高い生徒はいるが、九州には芸術系の大学が少なく、卒業後のキャリアを心配して、他の進路を選ぶ場合も少なくない。地元の国立で学部ができることは心強い。芸術マネジメントコースの需要（志望者及び卒業後の職種）がどの程度あるのかやや不安ですが、待望の地元国立大芸術学部。期待しています。
	卒業生の活躍を期待しています。おもしろい学部だと思います。
	アジアや九州を基盤とした、研究や情報の発信ができたと思います。また、外部への開放も期待します。
	九州ではとてもおもしろい取り組みだと思っています。がんばって下さい。
九州の中でも特色のある学部となられることを期待しております。	
九州初の国立大芸術学部。期待していますし生徒にもしっかり紹介しています。頑張ってください。	
生徒の需要・進路指導の見通し	希望する生徒は多いと思います。
	芸術系に進みたいと考える生徒でネックになるのは経済面だと思うので、国立大に専門の学部ができるのはありがたい（選択肢が増えるため）
	特色があり、芸術系の学部への進学を希望する生徒には大変いいと思います。
	本校では音楽を学びたいという生徒がもともと多く、来年度芸術コース（美術・書道）も設置予定ですので関心は高いです。（生徒もそういう生徒が多少増えると思います）
	本校は総合学科ですが、美術教育に力を入れており、卒業後の進学先として、貴大学を考えていきたいと思ひます。よろしくお祈りします。
	公立の芸術学部が九州内に少ない中での開設は生徒の進路選択の可能性を広げるのに、とても有難いことだと思います。
	正直に申し上げますと、佐賀大学「芸術学部」と結びつきませんでした。しかし、実績、教育内容については評判もよく、生徒に関しては魅力ある学部のようなです。
	水野さんや佐藤可士和さんなどのアートディレクターが注目をあびているので、デザイン等に興味を持ち、あこがれている人は多いのでは？



	<p>高校時代（大学入学前）に専門的に芸術教育を受けている必要がどの程度あるかによって、生徒の指導のし方が変わってくると思います。</p> <p>本校にはデザイン科がありますので、生徒に積極的に薦めていきます。ますますのご発展をお祈り致します。</p> <p>本当にその道をめざす強い気持ちを抱きつづけてきた人以外へ勧めることがとまどう。職として本当に生計を立てていける技術として活かせるか？</p> <p>芸術学部志望の生徒は少ないのですが、それ以外の生徒に勧めてよいものかどうか迷っています。</p> <p>芸大を第1志望にしている生徒がいたら、紹介しようと思います。</p> <p>大学として精力的に展開されている印象を持っており、2年生担任ですが、貴学（他学部ですが）を勧めております。</p> <p>卒業後のキャリアが具体的に想像し難いのですが、興味を持つ生徒は多くいると思います。窯業など特色ある内容であると感じています。</p> <p>私のクラスにも、志望している生徒がいます。美術の教員を目指しているわけではなく、純粋に芸術について学びたいと思っている生徒にとっては、この学部が新設されるのはとてもありがたいです。ぜひ、教育内容やカリキュラムなどの情報をいただきたいです。デジタルに関するクリエイティブな職業を目指す生徒は、専門学校を選択するので、そのような分野がしっかり大学で学べるというのは良いことだと思う。ただし、専門性が高いので、卒業後の進路保障（つまり就職）がしっかりしていないと不安です。</p> <p>やたら横文字外来語を使わないで何を追求する学部か誰にも（子供から老人まで）わかる名前にして欲しい。</p> <p>既存の芸術学とは違うことをアピールする名前が良いと思います。</p> <p>芸術学部だと音楽もある印象を受けます。特美のイメージ、伝統の認識はまだ周囲にあると思いますので、美術が前面に出ているものがよいのではないのでしょうか。</p> <p>芸術学部と聞くと少し特殊なイメージを持ちます。一般教養も身につけさせるようなシステムを希望します。（一般学部とリンクさせるような）</p> <p>シンプルで学ぶ内容がイメージし易い学部名にして下さい。</p> <p>「芸術学部」という名称だと、マネジメントの側面が見えにくいように感じます。</p> <p>「芸術創造学部」はいかがでしょう</p>
学部名称について	<p>「アートをコーディネートできる」という内容が、生徒達にはイメージしにくいと思うので、具体的な内容など、情報提示を工夫してもらいたい</p> <p>アートをコーディネートとは具体的にどういうことなのか分からない</p> <p>内容が少々わかりにくいと思います。基本的に今までと同じく自分がアーティストとして作品をつくるイメージです。かといって良い名称は思い浮かばずすみません。</p> <p>具体的にどのようなことが学べるのかがよくわかりません。</p> <p>内容についてもっと詳しく知りたいです。</p> <p>具体的に有田キャンパスを利用するのが何年次からなのか、どのような形態になるのかのカリキュラムを見たい。</p> <p>芸術マネジメントコースのイメージが伝わりにくいので、パンフレット等の紹介の方法がポイントになると思います。将来的映像制作などのコースが増えてくると魅力を増してくると思います。</p>
芸術学部（仮称）の内容について	<p>佐賀大の工芸と有田窯業大学校では求めるキャリア像がアーティスト（工芸家）／分業制の技術者の違いがあると認識していますが、新しいコースではどのようなヴィジョンになるのでしょうか？</p>
有田との関連性	<p>有田キャンパス＝有田焼を連想させますが、窯業関係に重きをおいているのでしょうか</p> <p>有田キャンパスというのが、それだけで特色が表れていると思います</p> <p>有田と本庄と、学生にとって教育環境としてどのように関わり合うのかを知りたいです。</p> <p>いろいろな情報を発信していただきたいと思います。</p> <p>芸術学部と今までの文化教育学部との相違点を知りたい。新設した目的も含めて教えていただきたい。</p>
情報発信について	<p>文面だけでは、少々わかりにくいので、写真や図などがあればと思いました。デジタルアートについては計画があるのでしょうか？</p> <p>生徒が内容を理解しやすい案内があるとよいです</p> <p>他大学がもっている芸術学部との違いを明確に、また、佐賀という地域性をどう扱うのかについてもっと説明があるといいかと思っています。</p> <p>見学会などありましたらお知らせ下さい。</p> <p>取得できる免許があれば教えてほしい</p>

	卒業後想定されるキャリアとして観光関連業の具体的職種や、コンピューター関係の仕事我希望する理系の生徒に薦められる学部が詳しく知りたいところです。
	卒業後の就職が重要と考えます。
	卒業後の就職先など、芸術学部で学んだ内容は生徒にとってどう生かされるかが、心配である。
	卒業後の進路が不明確な点が心配なところです。近くに芸術学部を持つ大学が少ないので、助かるのは助かるのですが、やはり就職は心配です。
	卒業後の進路が気になります。
	卒業後の進路保障について期待します。
	卒業生の進路について注目しています。
	就職先をどのように確保できるではないですか。
	資格や免許がどんなものがあるのかを知りたい(卒業後)
	就職までサポートされる体制がありうるのか、教育学部系の美術・音楽との違いは何か、気になるところです。
	就職に苦戦するのではないかと心配しております。
	(質問と異なりますが)卒業後のキャリアに「作家」とあるのは、アニメーション、CG、映像作家・・・幅があるように思われるのですが、具体的にはどれを指すのでしょうか
	アートコーディネーターについて具体的な立場を知りたい(所属など)、企業なのか、美術館勤務なのか
	卒業後に想定されるキャリアの中に作家や窯業関係(作家のこと?)とあるのですが、いわゆる芸大と同じようにこのコースのカリキュラムが組まれるのでしょうか?特色を見ると、後半に芸術(アート)全般を学ぶ、というイメージなので、想定されるキャリアの先頭に”作家”が並ぶと、かえって特色をつかみにくい気がします。
	卒業後にどんな職につけるのか、夢を見せてほしい
卒業後の進路・支援やイメージ	芸術学部卒業後の進路保障が最重要だと思いますので具体的に進路先の確保をお願いします。
	芸術系希望者の大学への門が広がって良いとは思いますが、出口の方が心配です。工学や農学もアートが必要な時代ですが学部間の交流はできるのでしょうか。有田では無理?素晴らしい美術館があるのでより充実し、レベルアップして良いと思います。
	芸術系に興味・関心のある生徒にとっては、1つの候補となると思いますが、卒業後のキャリアについては、少し不安なところがあります。
	難易度、卒業後のキャリアが気になっています
	芸術学ほど本人の才能でその後の進路(卒業後の進路)が左右される学部はないと考えます。佐賀大学さまはどのように学生の就職をバックアップされる予定ですか?
	芸術マネジメントを学ぶことは興味深いですが、就職先をどう探していくのが難しいのではないかと感じている
	芸術やスポーツを進路に考える生徒は多いが、厳しい世界だと思います。卒業後の進路について、非正規・非常勤での採用はなく、正規・常勤での採用の開拓をお願いしたいです。また、その状況を高校にも伝えていただきたいです。(卒業生出た後)
	佐賀という地域性や古くからのイメージを活かして、窯業を学びそれを卒業後のキャリアにつなげられれば、生徒も興味を持つ(進学を希望する)かと思われます。
	就職先があるのかどうか保護者の知りたいことだと思います。
	就職に関する情報が、進路選択において影響力が強いと感じています。特に今は生徒よりも保護者の考え、判断が強いようです。保護者を含む学部説明会等の実施を考えていくべきかと思っています。
	説明会に参加させていただき、地域の特色を生かされた魅力的な学科だと考えました。自分の担当クラスにも芸術系の学部を目指す生徒がおりますが、施設、カリキュラム、指導教員の他、どうしても出口の就職のことが気になってしまいます。卒業後のキャリアが具体的になってくれば生徒にも保護者にもさらに志望が明確になってくると思います。(新学科ですので年数はかかりますが・・・)
	どのような入試なのか?(センター重視?実技?)
入試について	入試で実技を要する場合、志望者が激減する。受験しやすくする配慮をして下さると助かります。
	入試で重視する点、どのような対策を高校側がすればよいか教えて頂けるとありがたいです
	実績のある生徒だけでなく広く募集をして欲しい。

	<p>推薦入試の検討をお願いします</p> <p>専門の教科，特に実技の内容に興味があります。</p> <p>美術に興味・関心の高い生徒は，専門学校（デザイン系）へ多く進学しています。センター試験利用での受験では合格が厳しいかも知れませんが，AO，推薦入試等があればチャレンジさせたいと思います。もちろんできる限り学力を付ける様に指導していきます。本校には芸術コースがあり，かなりレベルの高い生徒がいます。推薦入試（センターを課さない）を実施していただけたらと思います。</p> <p>受験・進学に必要な教科・科目を早く発表して欲しい（芸術の選択条件やセンターテストの科目等）。高2に進級する時点で選択が必要になるため。</p> <p>メディア関係にも実技試験が実施されるが，コンピュータ関係には実技は課さないでほしい。</p> <p>芸術マネジメントコースで地歴で受験できるようにしてもらおうと趣旨にあう特色ある生徒が入ると思います。</p> <p>センター試験との兼ね合いがどのようになるのでしょうか。できればAO，推薦（センターをかさない）を充実させて頂けるとありがたいです。</p>
提案・希望	<p>「地域性」と「グローバル化」のバランスを踏まえた研究活動の実践が図られますよう，希望します。</p> <p>もっと窯業に特化した方がよい。</p> <p>高大連携の芸術のイベントを増やしてほしい</p> <p>現状に即しつつ，真に美しいもの大切なものを見究められる審美眼ある人々を育てていただけるといいと思います。</p> <p>他の芸術学部との違い，単に技術を身につけるだけではないところを目指して下さい。</p> <p>美術・工芸という分野が濃すぎて他分野が薄く見えてしまいます。「有田セラミック専攻」となると，それをやるというある程度の覚悟が必要になるので，全体的にもう少し柔軟性があっても良いのかと感じました。</p>
少し様子を見たい	<p>以降の動向に注目していきたいと考えております。</p> <p>上記のコンセプトをもった学部が，西日本には国公立では少ないのでその取組と卒業後の進路などを注視させていただきたいと思っています</p> <p>国立大学の芸術学部は珍しいので，今後どうなるのか気になります。</p> <p>実績がはっきりするまでは生徒にすすめられない。そのため，卒業生がでるまではこちらからは生徒にすすめないと思う。</p> <p>希望する生徒が出たら，あらためてお話を伺いに行きたいと考えております。</p>
懸念・否定論	<p>この時期になぜ？と思います。何を目指されているのか，見えません。</p> <p>魅力を感じません（申し訳ないけど）</p>

# 佐賀大学「芸術学部（仮称）」に関するアンケート調査（生徒用）

## 【調査の目的】

佐賀大学では新しい芸術学部(仮称)の設置を検討しています。その中で、進学を希望する高校生の意識について調査することになりました。以下の質問に皆さんの率直な意見をお答えください。なお、ご回答いただいた情報は、新設計画の資料作成の目的以外で利用することはありません。ご協力お願いいたします。

佐賀大学 学長

【Q1】 性別： 1. 男子 ・ 2. 女子 学年： \_\_\_\_\_ 年生

【Q2】 現在、在籍しているクラスまたはコース

1. 文系クラス（コース） 2. 理系クラス（コース） 3. 未定及びその他（ \_\_\_\_\_ ）

【Q3】 高校卒業後に希望している進路（5と6を選んだ方は、この質問で終了です）

1. 国公立大学進学 2. 私立大学進学 3. 短期大学進学  
4. 専門学校等進学 5. 就職 6. その他（ \_\_\_\_\_ ）

【Q4】 進学先として関心のある分野（下記から3つ以内を選択。「分からない」場合は、「11」に○をつける）

1. 人文科学（文学・語学，史学，考古学，地理学，文化人類学，哲学・心理学等）
2. 社会科学（法学・政治学，国際関係，商学・経済学，社会学・社会心理学等）
3. 教育（教育学，教員養成等）
4. 理学（数学，物理学，化学，生物，地学等）
5. 工学（機械工学，電気通信工学，土木建築工学，応用化学等）
6. 農学（農学，獣医学畜産学，水産学等）
7. 医学・保健（医学，歯学，薬学，看護学等）
8. 家政（家政学，食物学，被服学等）
9. 芸術（美術，工芸，音楽等）
10. 複合・学際系（総合科学部，人間科学部，環境科学部，教養学部等）
11. 分からない

【Q5】 進路先を選ぶ基準として重視しているもの（気持ちの強い順に、[回答欄]へ数字を記入）

- |                   |                         |
|-------------------|-------------------------|
| 1. 勉強したい学問分野があること | 2. カリキュラムや教育体制          |
| 3. 自分が目指す職業との関連性  | 4. 卒業後の進路状況（就職や大学院進学）   |
| 5. 取得できる資格・免許     | 6. 留学制度や留学への支援体制        |
| 7. 大学・学部の知名度      | 8. 大学の所在地               |
| 9. 自宅から通学できること    | 10. 経済的負担が他の進路選択よりも軽いこと |
| 11. 合格の可能性（入学難易度） | 12. その他（ _____ ）        |

【回答欄】 [1 番目] \_\_\_\_\_ [2 番目] \_\_\_\_\_ [3 番目] \_\_\_\_\_

裏面もあります



# 佐賀大学「芸術学部（仮称）」に関するアンケート調査（高校教員用）

## 【調査の目的】

佐賀大学では新しい芸術学部(仮称)の設置を検討しています。その中で、進学を希望する高校生の意識について調査することになりました。以下の質問に皆さんの率直な意見をお答えください。なお、ご回答いただいた情報は、新設計画の資料作成の目的以外で利用することはいたしません。ご協力お願いいたします。

佐賀大学 学長

【Q1】 ご所属の高校についてお答えください。

- 【高校の種別】 1. 普通科の高校 ・ 2. 専門系の高校 ・ 3. その他( )  
【設置形態】 1. 公立 ・ 2. 私立 ・ 3. その他( )

佐賀大学の「芸術学部（仮称）」の特色を踏まえて、以下の質問にお答えください。

## 佐賀大学の「芸術学部（仮称）」の特色

芸術学部は、アートを創造する「芸術表現コース」と、アートをコーディネートできる人材を育成する「芸術マネジメントコース」で構成されます。

### 1. 教育内容やカリキュラム

- [1] 芸術家や作家だけでなく、芸術をコーディネートできる人材を育成します。
- [2] 伝統的な芸術表現だけでなく、デジタルコンテンツなどの最先端の表現技術も学びます。

### 2. 指導者や教育設備

- [1] 世界最高の水準の教育研究施設を持つ有田キャンパスで学ぶことができます。
- [2] 人間国宝や芸術院会員など超一流の講師陣の授業が受けられます。

### 3. 想定している卒業後のキャリア

- 芸術表現コース：作家、窯業関係、民間企業（広報・企画担当、デザイナー等）など
- 芸術マネジメントコース：学芸員、アートコーディネーター、公務員、観光関連業、マスコミなど

【Q2】 佐賀大学が設置を目指している「芸術学部（仮称）」は、特色のある学部だと思いますか（1つだけ○）。

( 1. 思う ・ 2. 思わない ・ 3. 分からない )

【Q3】 佐賀大学に「芸術学部（仮称）」が設置された場合、生徒に進学を薦めたいと思いますか（1つだけ○）。

- 1. 薦めたい
- 2. 候補として検討したい
- 3. 薦めようとは思わない
- 4. わからない

【Q4】 「芸術学部（仮称）」を生徒に勧めるとしたら、どのような点を重視しますか（1つだけ○）。

- 1. 教育内容やカリキュラム
- 2. 卒業後のキャリア
- 3. 指導教員や教育施設
- 4. その他( )

【Q5】 「芸術学部（仮称）」について、ご意見等ございましたらお聞かせください。

[ ]

ご協力ありがとうございました

**佐賀大学**  
**「芸術学部(仮称)」設置に関するニーズ調査**  
**－高校生向けアンケート調査分析－**

【2次調査】

分析：佐賀大学アドミッションセンター

## ■ 調査概要

(調査方法)

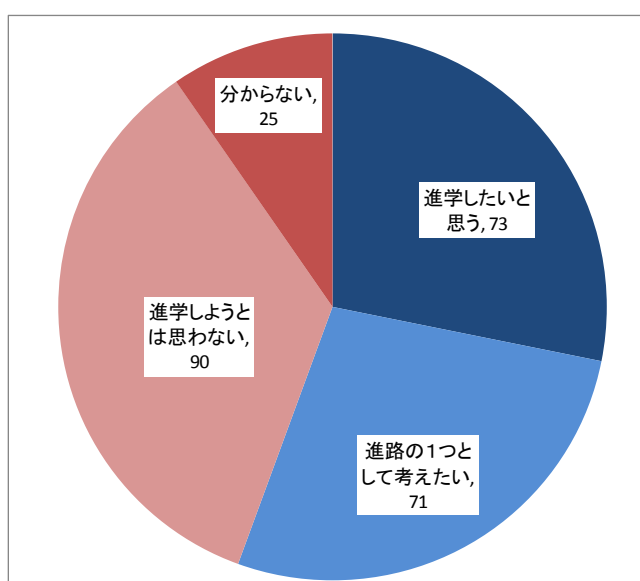
実施時期：2012年1月下旬

調査対象高校：佐賀県内の公立高等学校7校の2年生（文系）261名

有効回答数：259（無回答の多かった2名を除く）

実施方法：本学職員が調査校を訪問し、芸術マネジメントコースを中心とした説明を行った後、アンケートの実施と回収を行った。

Q.佐賀大学に「芸術学部（仮称）」が設置された場合、進学したいと思いますか（1つだけ○）



項目	人数	割合(%)
進学したいと思う	73	28.2
進路の1つとして考えたい	71	27.4
進学しようとは思わない	90	34.7
分からない	25	9.7
合計	259	

⇒ 「進学したいと思う」は 28.2%

アンケートの結果から想定される各地域の進学希望者数

地域	大学進学希望者(A)	文系想定人数(B)	想定進学希望者数(C)
福岡	22,129	11064.5	3120.189
佐賀	3,476	1738	490.116
長崎	5,733	2866.5	808.353
熊本	7,196	3598	1014.636
大分	4,737	2368.5	667.917
宮崎	4,620	2310	651.42
鹿児島	6,302	3151	888.582
その他	509075	254537.5	71779.575

(A)「平成26年度学校基本調査」より作成（ファイル名：sy0226）

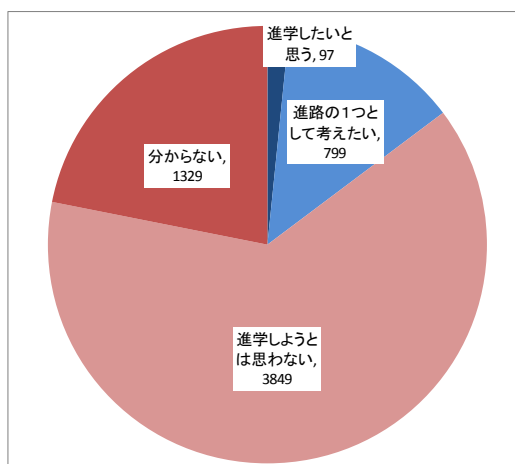
(B) (A)を2で除したもの。「理系文系進路選択に関わる意識調査(国立教育政策研究所2012.10)」より、文系と理系の志願者の割合は6:4を下回る程度と想定されるため、5:5として算定

(C)「進学したいと思う(28.3%)」を(B)に掛け合わせた数

⇒ 以上のことより、「芸術マネジメントコース」は、一定数の志願者ニーズが存在すると言える。



■ 進学したいと思うか（前回の調査：「芸術表現コース」として想定）



項目	人数	割合 (%)
進学したいと思う	97	1.6
進路の1つとして考えたい	799	13.2
進学しようとは思わない	3849	63.4
分からない	1329	21.9

⇒ 「進学したいと思う」は 1.6%

アンケートの結果から想定される各地域の進学希望者数

地域	大学進学希望者(A)	想定進学希望者数(B)
福岡	22,129	354.064
佐賀	3,476	55.616
長崎	5,733	91.728
熊本	7,196	115.136
大分	4,737	75.792
宮崎	4,620	73.92
鹿児島	6,302	100.832
その他	509075	8145.2

(A) 「平成 26 年度学校基本調査」より作成（ファイル名：sy0226）

(B) 「進学したいと思う（1.6%）」を（A）に掛け合わせた数

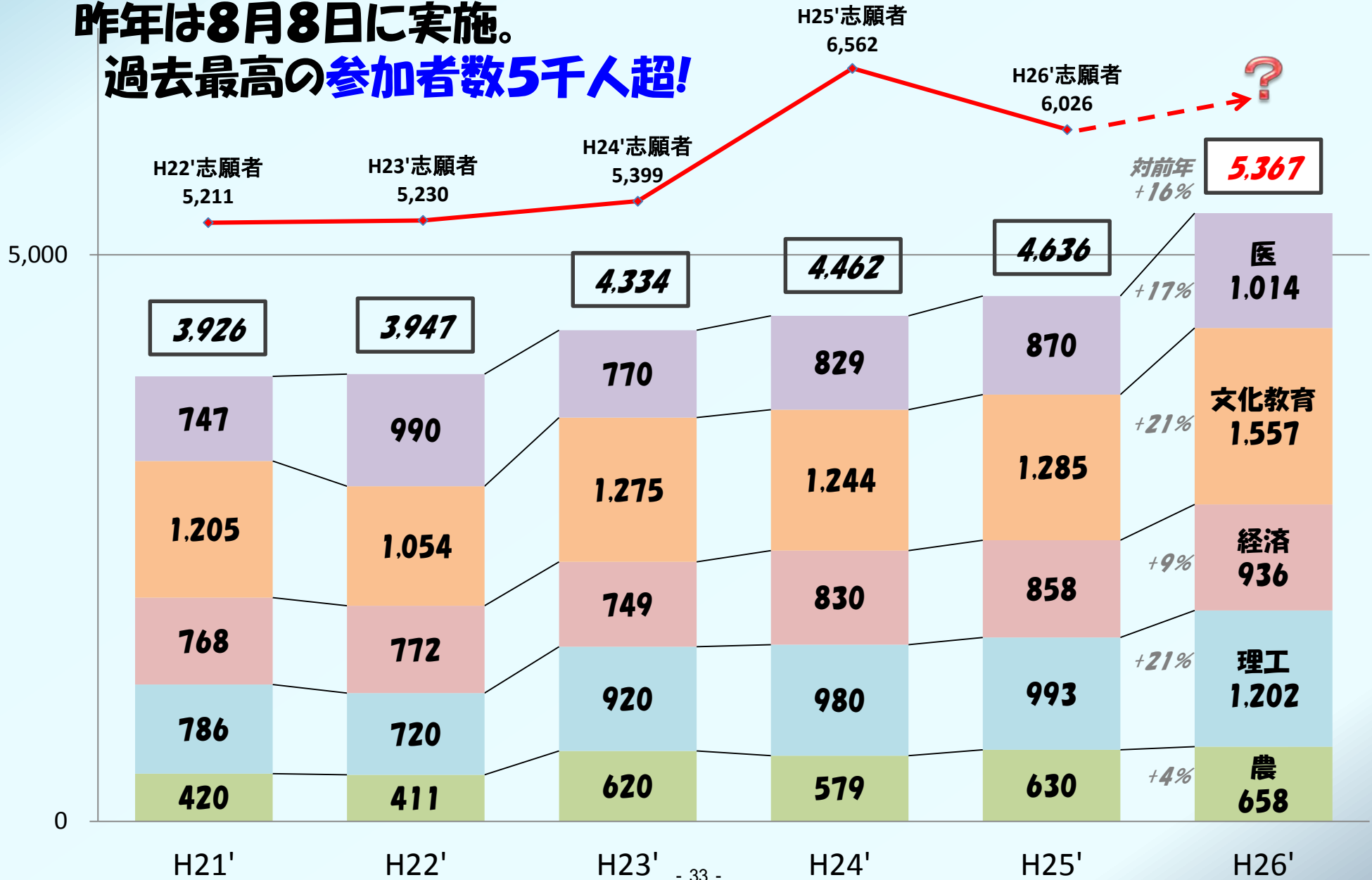
⇒ 以上のことより、「芸術表現コース」は、一定数の志願者ニーズが存在すると言える。

(補足) 広報活動によって内容を十分に伝えることの重要性 (自由記述から)

ご意見等	性別
佐賀県の地域活性化は、中学生の時から思っていたので、進学してみたいなと思いました。おつかれさまです。	女子
私は学芸員になりたかったのですが絵などが描けないので諦めていました。でも今回新設されるキュレーター専攻などで描けなくてもなれるということがわかってよかったです。	女子
いろんな工夫がされてあってすごいと思う。	女子
ほかの大学にはないことが学べるので良い学科だなと思いました。	女子
とても分かりやすかった。魅力的だし、必要な学部だと思う。	女子
わたしは美術じゃないけど、「Arita」はすごくおもしろそうだなと思いました。	女子
芸術学部に新たなジャンルが増えることはとてもうれしいです。	女子
絵を描くだけの学部だと思っていたけど、それ以外にも色々な専攻があると分かり、興味深いと思いました。	女子
説明くださったおかげで、自分が思っていたことと違ったので、分かりやすかったです。	女子
進路で迷っていた時に、「芸術学部」の話聞いて、とても魅力を感じ進学したいなと思いました。他にはない学部なので、ぜひ設置してほしいです。	女子
説明のおかげで前と印象が変わり、行ってみたいと思った。	女子
結構芸術学部は専門学校などがあるので、そういうところにも負けないくらいのカリキュラムとなっているのかなと思った。	女子
芸術学部は今まで自分には全く関係ないと思っていたけど、今日の話聞いてイメージが良く変わった。	女子
今までの芸術学部に対するイメージが大きくかわった。	女子
勉強だけではなく、また違った一面を勉強できるのはいいと思う。	女子
地域と接点を持てるというのはとても興味深いなと思いました。	女子
とても楽しそうな学部だと思いました。とても興味があります。	女子
芸術と国際関係の組み合わせがあつたらいいと思った。	女子
会社や社会が求めている人材を育成できるのはすごくいいと思った。	女子
おもしろそうなところだと思った。毎日が楽しそうです。	女子
他の芸術大学や美術大学とは一味違って、とても興味を持ちました。地域の活性化に直接関係できるのでいいと思います。	女子
社会に求められる能力を育成していける学部ができるのは、佐賀大学の大きな特徴になると思います。色々な分野で少しでもそういう育成をとり入れて頂けたらうれしいです。	女子
外国人の講師を呼んだり、留学生を受けつけたり国際的な学部になれば魅力的。	男子
まちおこしのために考えていくのはとても興味をもちました。	男子
素晴らしいと思います。	男子
考えていたよりも多くの視点から学習できそうだった。	男子
最初は考えもしなかったけど私は地元に残るので伊万里のことを広められるときいて将来何をしたいかなどまだきめてないので興味があった。	男子
地元で1300年ぐらい続いている豊作を祈る国の重要無形文化財の伝統舞俗があるので興味をもった。	男子
卒業後の進路などが詳しく分からず不安な点があるが、一期生がいい所へ進めれば、自然と人は集まると思います。	男子



昨年(2025年)は8月8日に実施。  
過去最高の参加者数5千人超!



編入学試験状況表(入試統計平成22年度～平成26年度より抜粋)

学部	課程, 選修	平成22年度				平成23年度				平成24年度				平成25年度				平成26年度				
		志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者	志願者	受験者	合格者	入学者	
文化教育学部 募集定員20名	国際文化課程	日本・アジア文化選修	17	17	4	3	21	20	4	4	12	12	4	3	18	16	4	4	12	12	4	3
		(高専)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
		(短大)	(16)	(16)	(3)	(2)	(19)	(18)	(3)	(3)	(11)	(11)	(3)	(3)	(16)	(14)	(4)	(4)	(10)	(10)	(4)	(3)
		(その他)	(1)	(1)	(1)	(1)	(2)	(2)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(0)	(2)	(2)	(0)	(0)	(2)	(2)	(0)	(0)
		欧米文化選修	19	18	5	4	20	19	4	3	18	17	4	4	22	22	6	5	26	24	6	5
		(高専)	(1)	(1)	(1)	(0)	(1)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
	(短大)	(16)	(15)	(4)	(4)	(17)	(16)	(4)	(3)	(18)	(17)	(4)	(4)	(18)	(18)	(4)	(4)	(20)	(20)	(6)	(5)	
	(その他)	(2)	(2)	(0)	(0)	(2)	(2)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(4)	(4)	(2)	(1)	(6)	(4)	(0)	(0)	
	人間環境課程	生活・環境・技術選修	19	18	4	3	9	8	4	4	25	25	6	6	17	17	5	5	19	19	6	6
		(高専)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
		(短大)	(18)	(18)	(4)	(3)	(9)	(8)	(4)	(4)	(22)	(22)	(4)	(4)	(17)	(17)	(5)	(5)	(18)	(18)	(6)	(6)
		(その他)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(3)	(3)	(2)	(2)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(1)	(0)	(0)
		健康福祉・スポーツ選修	12	12	2	1	15	15	2	2	17	16	4	3	8	8	4	3	10	10	4	4
		(高専)	(1)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(1)	(1)	(1)	(1)
	(短大)	(10)	(10)	(2)	(1)	(13)	(13)	(1)	(1)	(12)	(11)	(3)	(3)	(7)	(7)	(3)	(2)	(8)	(8)	(2)	(2)	
	(その他)	(1)	(1)	(0)	(0)	(2)	(2)	(1)	(1)	(4)	(4)	(1)	(0)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	
美術・工芸課程	美術・工芸選修	9	9	4	4	13	12	4	4	4	4	1	1	9	9	2	2	4	4	2	2	
	(高専)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
	(短大)	(9)	(9)	(4)	(4)	(8)	(8)	(1)	(1)	(3)	(3)	(1)	(1)	(9)	(9)	(2)	(2)	(4)	(4)	(2)	(2)	
	(その他)	(0)	(0)	(0)	(0)	(5)	(4)	(3)	(3)	(1)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)	
計		76	74	19	15	78	74	18	17	76	74	19	17	74	72	21	19	71	69	22	20	

注1 ( )は内数である。

注2     は、芸術地域デザイン学部(仮称)との関連が深い課程, 選修である。

## 佐賀大学文化教育学部就職率変遷(学校教育課程除く)

(就職統計より作成)

(単位:%)

	平成23年度			平成24年度			平成25年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
国際文化課程	75.0	93.0	91.5	100.0	93.3	93.6	100.0	97.4	97.7
人間環境課程	89.3	95.8	92.3	82.8	91.3	86.5	100.0	88.9	94.7
美術・工芸課程	100.0	92.9	93.5	100.0	93.3	94.4	100.0	85.7	87.0
計	88.6	93.7	92.3	85.3	92.8	90.6	100.0	91.9	94.4

※就職率＝就職者数/(就職者数＋未就職者数)×100

※各年度とも5月1日現在の数値

**佐賀大学**  
**「芸術学部(仮称)」設置に関するニーズ調査**  
**－企業向けアンケート調査分析－**  
【1次調査】

分析:佐賀大学キャリアセンター

## 1. 企業の採用希望について

「芸術学部（仮称）」設置に関するニーズ調査のため、佐賀大学の学生を採用した実績のある企業を対象にアンケート調査を実施した。その結果、「芸術学部（仮称）」を卒業した学生に対する採用希望は、「採用してみたい」16.7%、「採用を検討してみたい」50.7%、「あまり採用したいと思わない」23.3%、「採用したいと思わない」4.2%となった。本調査は、佐賀大学の学生の採用実績がある企業を対象に実施されたものであり、かつ、「芸術学部（仮称）」に興味を持った企業からの回答が多いと推測されるが、この点を考慮しても、佐賀・九州、そして関東、近畿を中心とした産業界から、一定の採用ニーズが存在することが確認された。

## 2. 卒業生の進路先について

当初想定していた芸術関連の業種だけでなく、ほとんどの業種において「採用してみたい」、「採用を検討してみたい」と回答した企業が半数を超えており、中でも、医療・福祉業で33.3%、情報通信業で30.0%、その他で17.3%、製造業で16.9%、サービス業で12.5%の企業が「採用してみたい」と回答していた。この結果から、芸術関連以外の業種においても、潜在的な採用ニーズが一定以上存在していることが明らかとなった。

## 3. 企業が「芸術学部（仮称）」の学生に求める力について

「芸術学部（仮称）」で身につく力のうち、採用したい人材が備えてほしい能力は、「実践力」、「粘り強さ」、「柔軟性」、「発想力」の4項目が上位にあがった。「実践力」や「発想力」は、企業が学生に求める力として他の調査では上位にあがらない力であり、芸術学部の学生に求められる特有の力であると考えられる。一方「粘り強さ」や「柔軟性」はいわゆるジェネリックスキルとして企業が学生に求める力として一般的にあげられる力である。このことから、「芸術学部（仮称）」の卒業生には、いわゆるジェネリックスキルと呼ばれる総合的・汎用的力と、芸術学部ならではの「実践力」や「発想力」が求められていることが明らかとなった。

また採用したい人材が備えてほしい能力については芸術関連以外の業種と芸術関連の業種において大きな差異は見られなかったことより、学生の進路希望に関わらず、これらの力を育成することが就職という観点においては重要であると考えられる。

## 4. 卒業生活躍のフィールドについて

卒業生の活躍フィールドとしては、各種デザインや表現力を活かした仕事、そして芸術学部ならではの発想力・新しい視点を活かした仕事への期待が多かった。さらにこれらの意見は、製造業や情報通信業、卸売・小売業、サービス業など、芸術関連以外の業種より多く寄せられた。すでに佐賀大学文化教育学部美術・工芸課程を卒業した学生が、製造業にて販促物や名刺・パンフレット等のデザイン担当として活躍しているといった事例もあり、今後も幅広い業種の中で活躍を期待できることが分かった。

また、文化財保護・学芸員、アートに関するコーディネーター、創造性や企画力、街づくりなど、各専攻の教育特色となる分野に関する具体的な採用ニーズを確認することもできた。

## 5. 今後の課題

「芸術学部（仮称）」の卒業生を採用したいと思わない理由は、「業種が異なる」、「大学での学びと業務内容にギャップがある」といった意見が多数であった。また一部ではあるが、芸術系学生に対するイメージからくる不安・懸念の声もあった。

企業に対するプロモーションの観点では、「芸術学部（仮称）」の学生は、芸術を専門としながらも、日々の活動の中で同級生や先輩後輩、教員等との協働作業を多く経験し、その中で、粘り強さや実践力、企画力、コミュニケーション力といった総合的な力を培う、ということへの理解を促す必要がある。進路先開拓の観点では、芸術関連以外の業種における卒業生の活躍イメージを具体的かつ分かりやすく伝えることで、幅広い業種から求人を獲得することが大きなポイントとなると考えられる。

学生に対しては、様々な業種で活躍のフィールドがあることを伝え、学生の職業選択に関する視野を広げていくこと、そして社会人としての基盤となるジェネリックスキルと、芸術学部ならではの力を、学生生活を通じて身につけるよう指導することが重要であると考えられる。



# 調査概要

## 1. 調査目的

「芸術学部（仮称）」を設置するにあたり、企業のニーズを把握するためにアンケート調査を実施した。調査方法は以下のとおりである。

## 2. 調査方法

調査対象

○過去過去3年間に佐賀大学の学生を採用した実績のある企業	995社
○美術関係も手がける出版社	32社
○ウェブデザイン関係企業	7社
○オークション会社	22社
○同業団体	5団体
○美術品関係運送業者	2社
○広告代理店	42社
○美術館	55館
○行政・自治体	39機関
○デザイン関係団体	9団体

調査方法：郵送調査

調査実施時期：2014年8月～9月

## 3. 調査項目（抜粋）

- ・ 属性（所在地・従業員規模・業種・新卒採用実績）
- ・ 「芸術学部（仮称）」で身につく力のうち採用したい人材が備えてほしい力
- ・ 「芸術学部（仮称）」の教育特色のうち魅力を感じる項目
- ・ 「芸術学部（仮称）」の社会的必要度
- ・ 「芸術学部（仮称）」卒業生に対する採用意向

## 4. 回収結果

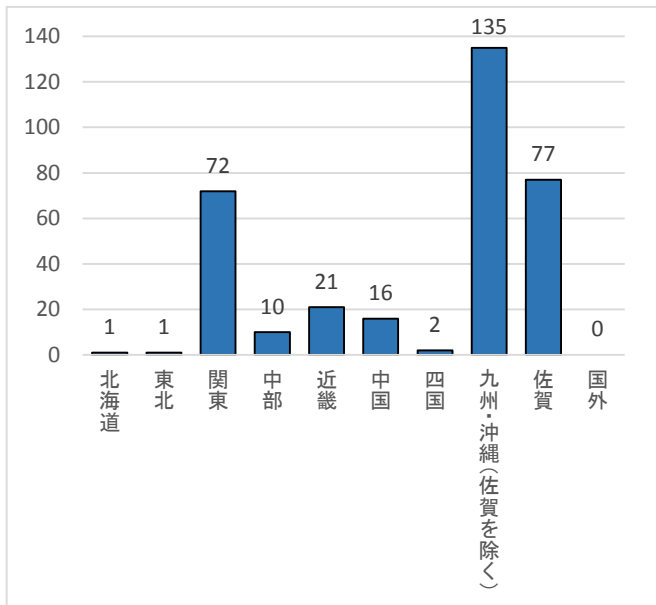
回収数：336社（有効回答数：335） 総合的な回収率 27.7%

所在地	送付数	回収数	回収率 (%)
北海道	3	1	33.3
東北	5	1	20.0
関東	374	72	19.3
中部	45	10	22.2
近畿	101	21	20.8
中国	52	16	30.8
四国	8	2	25.0
九州（佐賀を除く）	429	135	31.5
佐賀	191	77	40.3
計	1,208	335	27.7

# 属性

## ■本社（本部）所在地

問1-2 貴社（機関）の本社（本部）所在地について、当てはまる番号に1つ○をつけてください。



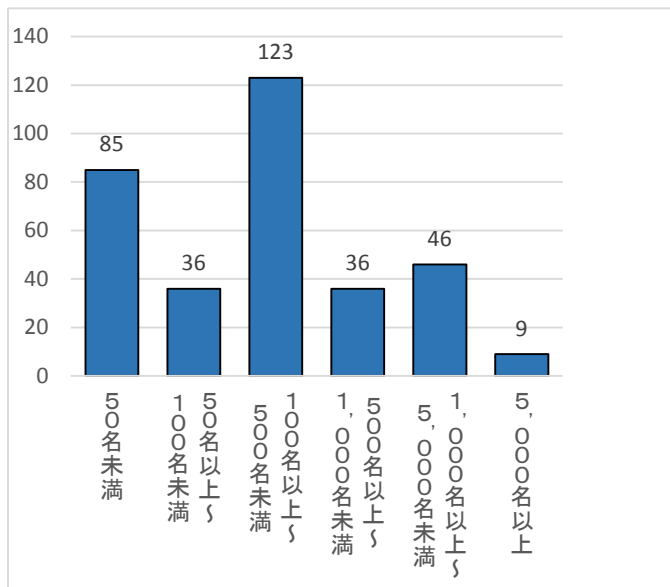
### 【分析結果】

回答企業の本社（本部）所在地は、佐賀を含む九州・沖縄地域で212社（63.3%）を占める結果となった。次いで関東72社（21.5%）、近畿21社（6.27%）である。

当アンケートの送付対象がこれまでに佐賀大学の学生を採用した実績のある企業であることから、回答企業の本社（本部）所在地が九州に集中していると考えられる。

## ■従業員規模

問1-3 貴社（機関）の従業員規模について、当てはまる番号に1つ○をつけてください。



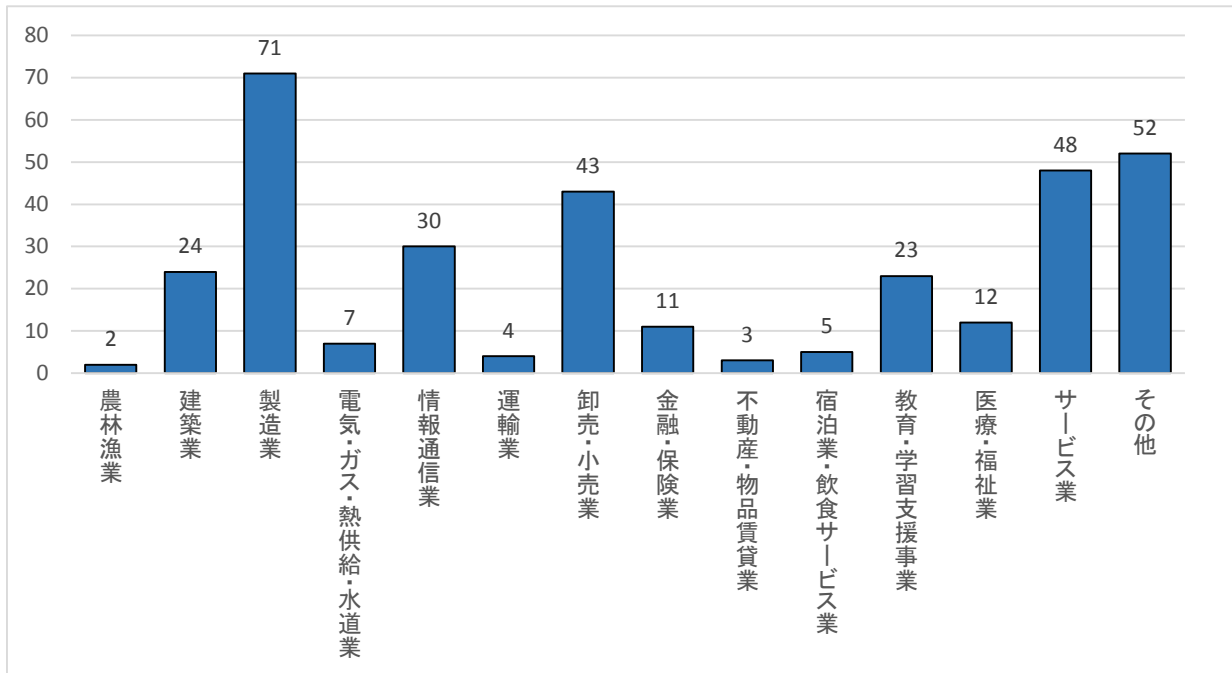
### 【分析結果】

回答企業の従業員規模は、多い順に100名以上500名未満123社（36.7%）、50名未満85社（25.4%）、1,000名以上5,000名未満46社（13.7%）となった。5,000名以上は2.7%と少ないものの、小規模、中規模、大規模それぞれの企業から回答を得ることができていると言える。

# 業種

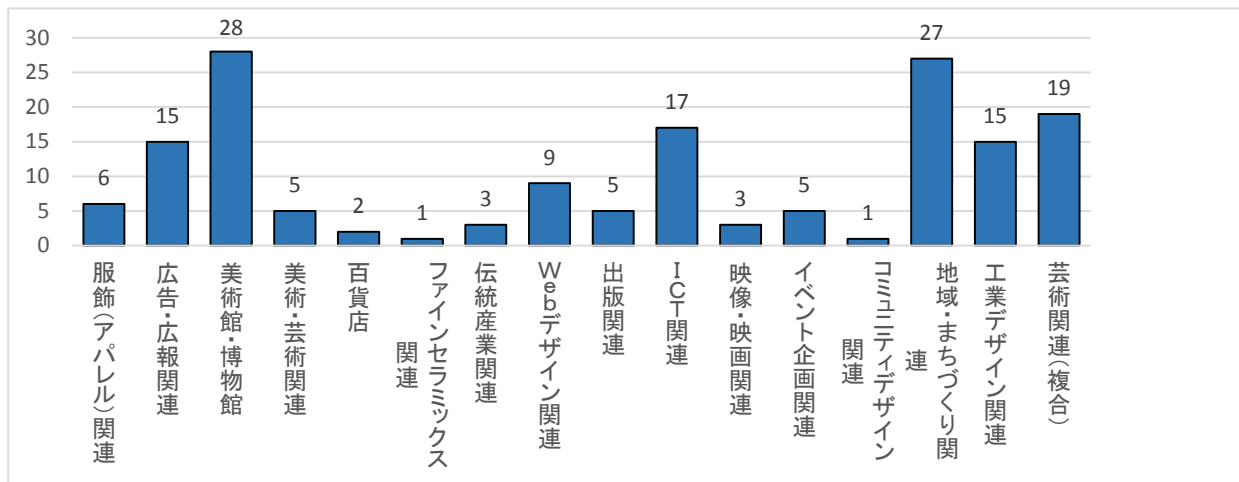
## ■業種

問 1-4 貴社（機関）の主要な業種について、当てはまる番号に1つ○をつけてください。



## ■芸術関連の業種

問 1-5 貴社（機関）の主要な業種が、特に以下の芸術関連の場合、当てはまる番号に1つ○をつけてください。



### 【分析結果】

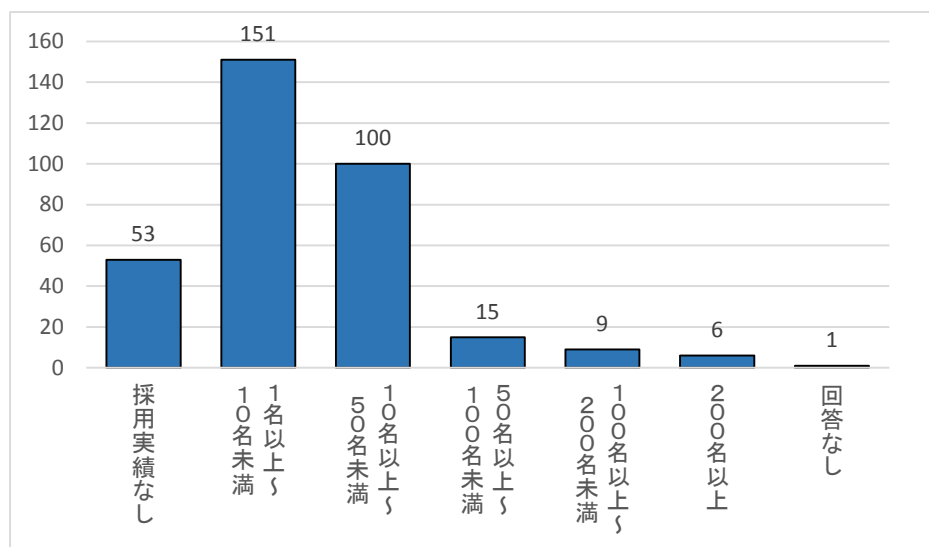
全体（335社）では多い順に製造業71社（21.2%）、サービス業48社（14.3%）、卸売・小売業43社（12.8%）の順であった。

また主要な業種が芸術関連であると答えた企業は161社で、全体の48.1%となった。その内訳は、多い順に美術館・博物館が28社、地域・まちづくり関連27社、芸術関連（複合）19社、ICT関連17社となっている。主要な業種が芸術関連であると答えた企業が半数近くとなった要因としては、潜在的に芸術学部の学生に関心のある企業がアンケート調査に積極的に回答した可能性、地域・まちづくり関連やICT関連を、広義で芸術関連の業種としたこと等が考えられる。

## 新卒採用実績(人数)

### ■ H 2 5 年度の新卒採用実績 (人数)

問 1 - 6 H 2 5 年度の新卒採用実績 (人数) について、当てはまる番号に1つ○をつけてください。



#### 【分析結果】

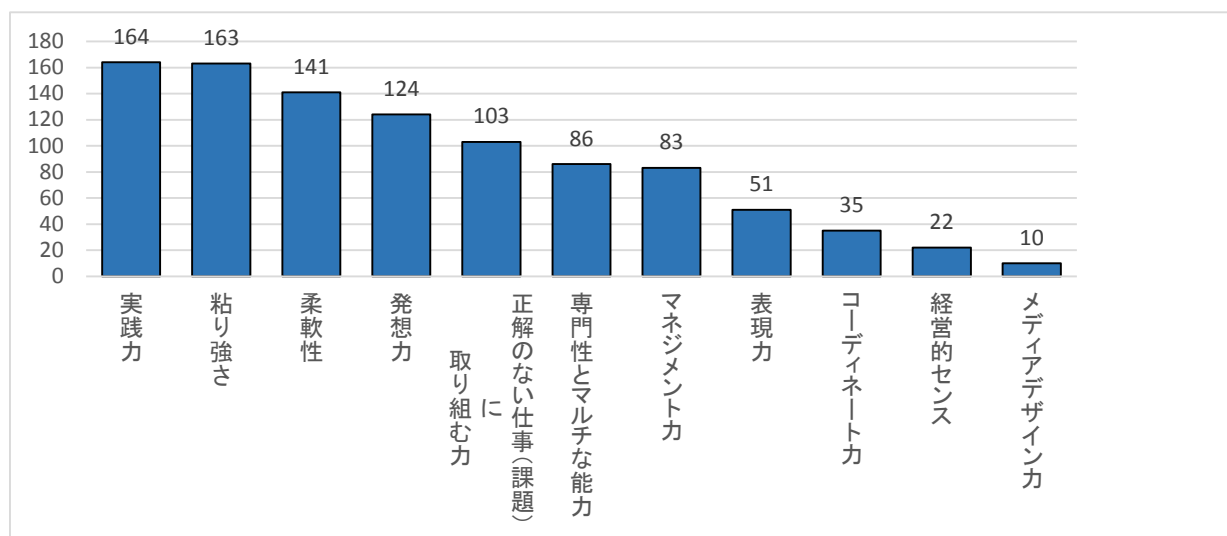
回答企業におけるH 2 5 年度の新卒採用実績(人数)は、多い順に1名以上10名未満が151社(45.1%)、10名以上50名未満が100社(29.9%)、採用実績なしが53社(15.8%)となった。

# 「芸術学部(仮称)で身につく能力のうち、採用したい人材が備えてほしい能力

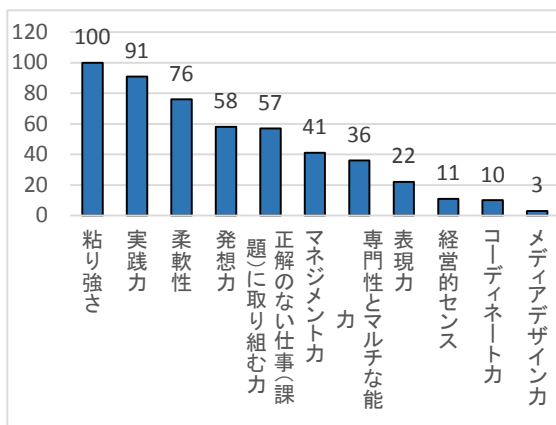
## ■「芸術学部(仮称)」で身につく能力のうち、採用したい人材が備えてほしい能力(全体)

問2-1 佐賀大学「芸術学部(仮称)」では、次のような力を身につけた人材を育成しようと考えています。これらのうち、あなたご自身や貴社(機関)は、どの力を身につけた学生を採用したいと思いますか。以下の項目から、上位3つに○をつけてください。

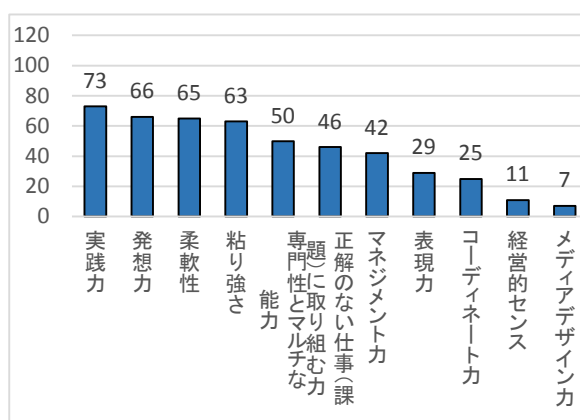
※降順に並び替え



## ■芸術関連以外の業種



## ■芸術関連の業種



## 【分析結果】

全体では多い順に「実践力」164社(49.0%)、「粘り強さ」163社(48.7%)、「柔軟性」141社(42.1%)となった。また傾向として、芸術関連以外の業種と芸術関連の業種で、顕著な差は見られなかった。

全体1位となった「実践力」は、芸術関連以外の業種では2位、芸術関連の業種では1位であり、多くの企業で重視されていることが分かる。また全体4位の「発想力」は芸術関連の業種では2位であった。この2つの力は、企業が学生に求める力として他の調査結果ではそれほど上位に見られない項目である。このことより、芸術学部の学生に対しては、すぐに仕事に活かせる実践的な力、そして他の学部出身の学生にはない発想力といった特有の力が求められていることが分かる。

全体2位の「粘り強さ」や全体3位の「柔軟性」については、企業が学生に求める力として他の調査結果でも上位にあげられている項目である。芸術学部ならではの実践力や発想力に加え、いわゆる「ジェネリックスキル」と呼ばれる汎用的な力も同時に求められていることが分かる。

「芸術学部(仮称)」では、問2-1にあげたスキルを総合的に兼ね備えた人材の育成を目指しており、芸術関連の企業のみならず、その他の業種の企業でも活躍できる人材の育成ができるものとする。

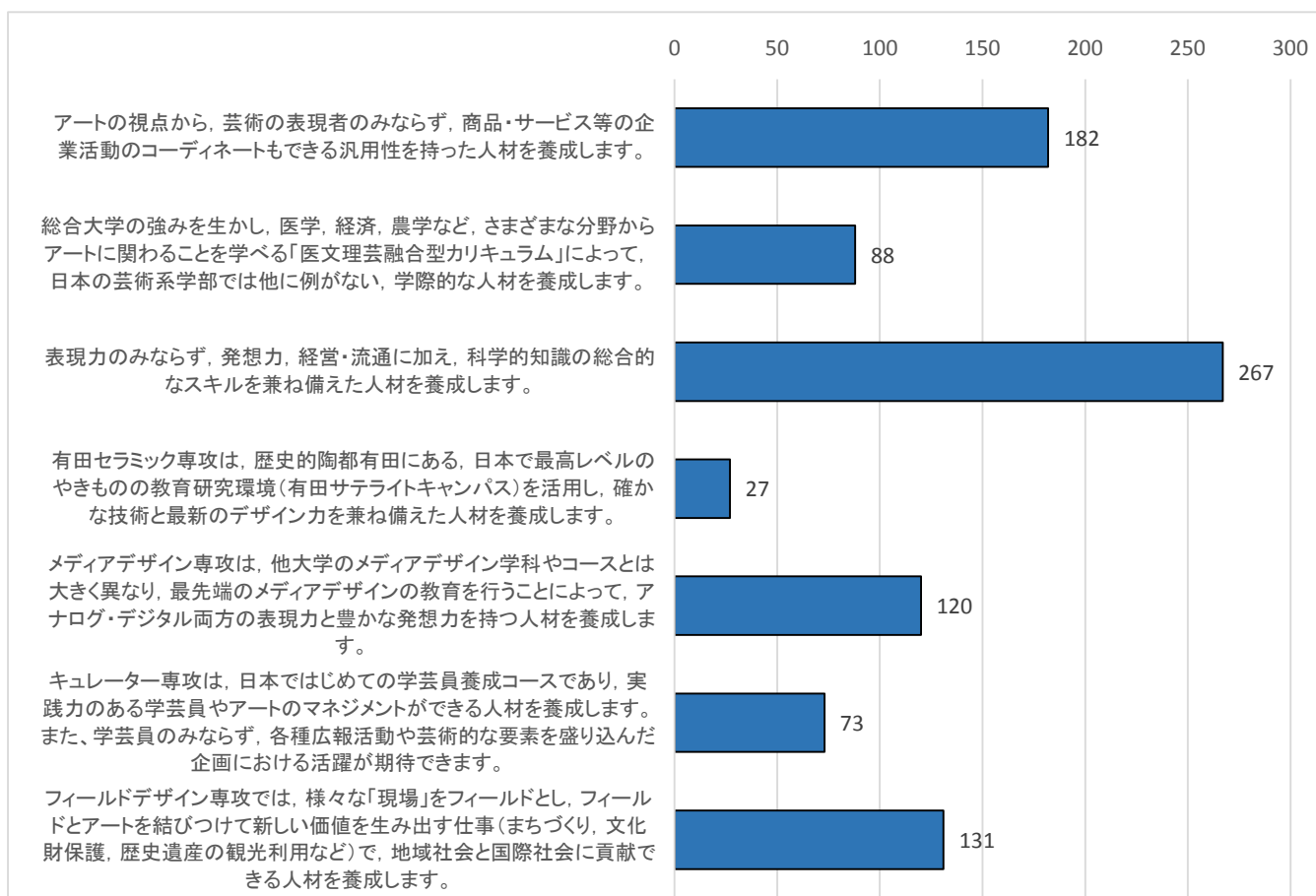
# 「芸術学部(仮称)」の教育特色のうち魅力を感じる項目

## ■「芸術学部(仮称)」の教育特色のうち魅力を感じる項目(全体)

問2-2 佐賀大学「芸術学部(仮称)」には、従来の教育以外に次のような特色があります。

1. アートの視点から、芸術の表現者のみならず、商品・サービス等の企業活動のコーディネートもできる汎用性を持った人材を養成します。
2. 総合大学の強みを生かし、医学、経済、農学など、さまざまな分野からアートに関わることを学べる「医文理芸融合型カリキュラム」によって、日本の芸術系学部では他に例がない、学際的な人材を養成します。
3. 表現力のみならず、発想力、経営・流通に加え、科学的知識の総合的なスキルを兼ね備えた人材を養成します。
4. 有田セラミック専攻は、歴史的陶都有田にある、日本で最高レベルのやきものの教育研究環境(有田サテライトキャンパス)を活用し、確かな技術と最新のデザイン力を兼ね備えた人材を養成します。
5. メディアデザイン専攻は、他大学のメディアデザイン学科やコースとは大きく異なり、最先端のメディアデザインの教育を行うことによって、アナログ・デジタル両方の表現力と豊かな発想力を持つ人材を養成します。
6. キュレーター専攻は、日本ではじめての学芸員養成コースであり、実践力のある学芸員やアートのマネジメントができる人材を養成します。また、学芸員のみならず、各種広報活動や芸術的な要素を盛り込んだ企画における活躍が期待できます。
7. フィールドデザイン専攻では、様々な「現場」をフィールドとし、フィールドとアートを結びつけて新しい価値を生み出す仕事(まちづくり、文化財保護、歴史遺産の観光利用など)で、地域社会と国際社会に貢献できる人材を養成します。

あなたご自身や貴社(機関)にとって魅力があると感じられる項目について上位3つに○をつけてください。



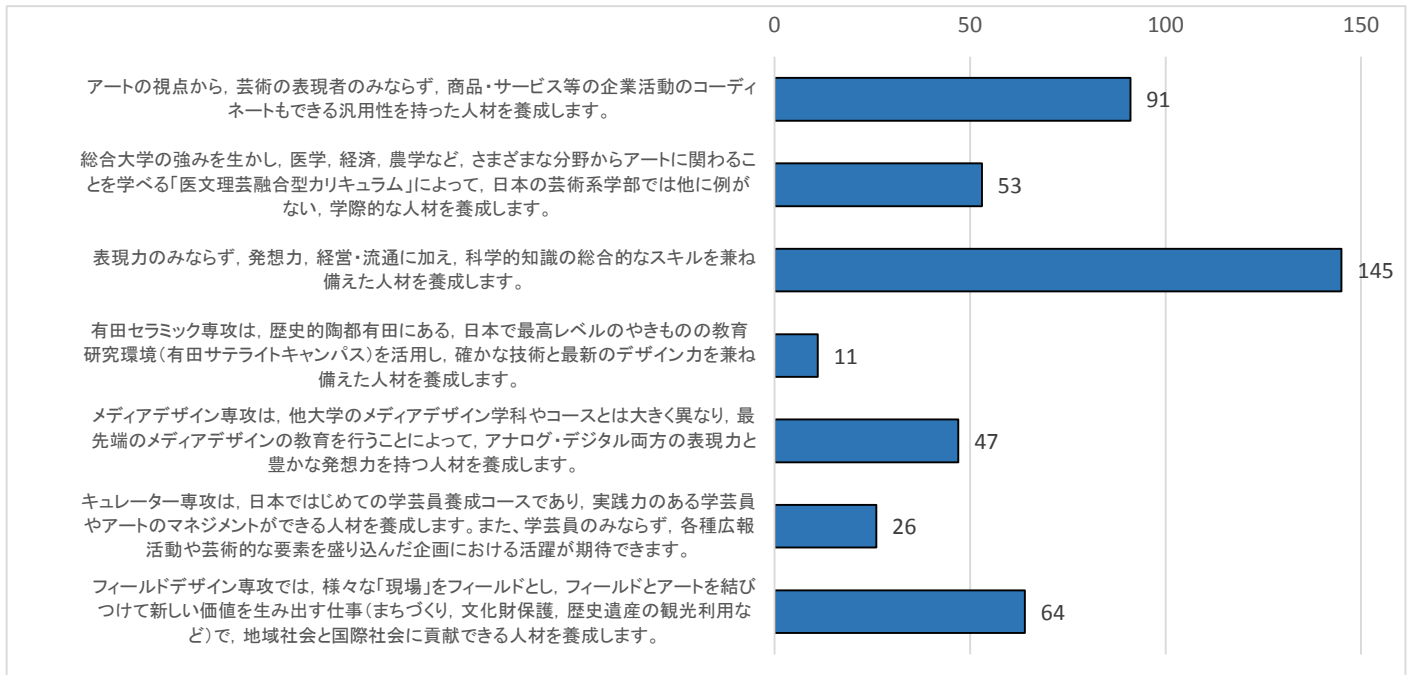
### 【分析結果】

「芸術学部(仮称)」の教育特色のうち魅力を感じる項目に関する質問は、全体では、「表現力のみならず総合的なスキルを兼ね備えた人材」が267社(79.7%)、次いで「アートの視点から企業活動のコーディネートも出来る汎用性を持った人材」182社(54.3%)の2項目が多い結果となった。

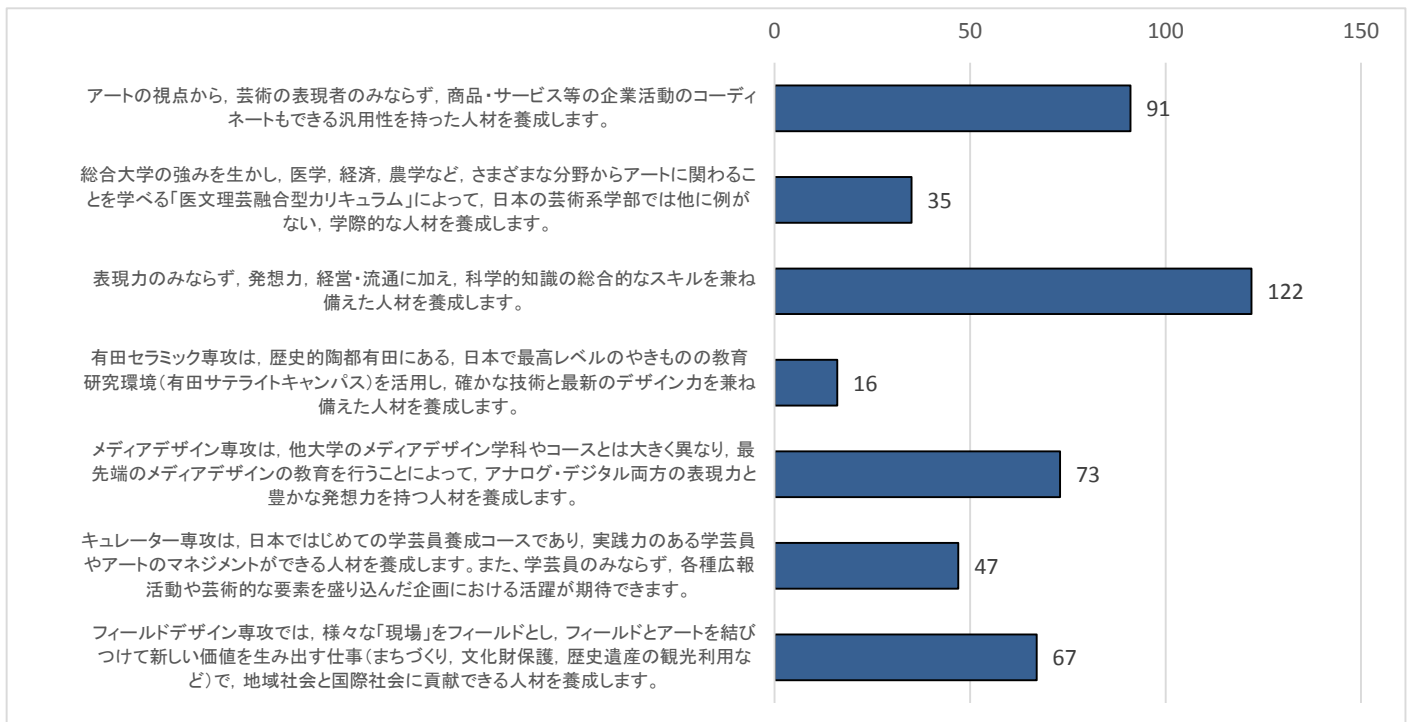
この結果からも、企業は総合的なスキル(ジェネリックスキル)を持った人材の育成に興味・関心を持っていることが分かるが、2位には「アートの視点から企業活動をコーディネートできる人材」があげられており、業種を問わずアートを基軸とした人材に対する企業の関心が高いことが明らかとなった。

# 「芸術学部(仮称)」の教育特色のうち魅力を感じる項目

## ■「芸術学部(仮称)」の教育特色のうち魅力を感じる項目(芸術関連以外の業種)



## ■「芸術学部(仮称)」の教育特色のうち魅力を感じる項目(芸術関連の業種)



### 【分析結果】

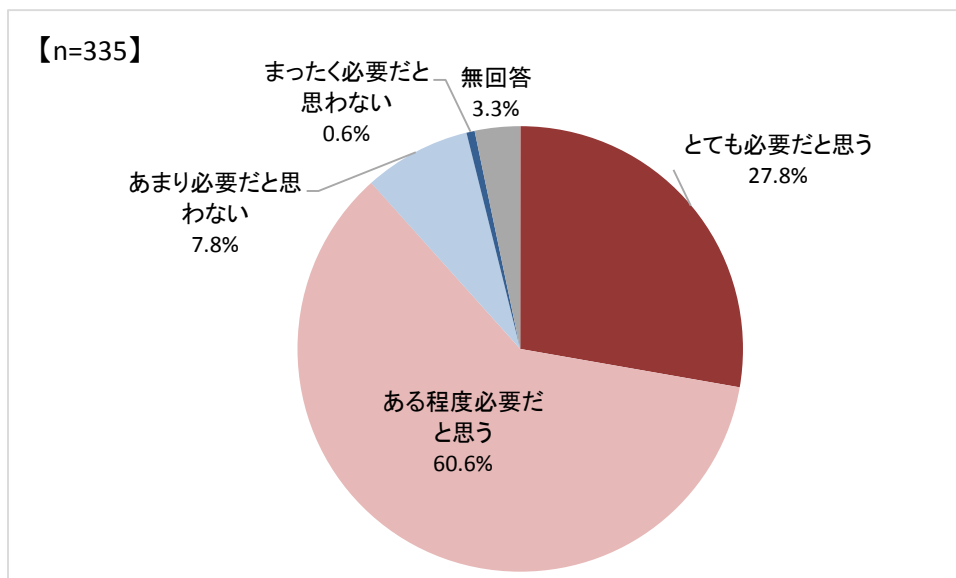
芸術関連以外の業種と芸術関連の業種で、1位、2位は同じ結果となった。

芸術関連の業種では3位はメディアデザイン専攻の教育特色、4位はフィールドデザイン専攻の教育特色、5位がキュレーター専攻の教育特色となっており、各専攻の特色に企業が魅力を感じていることが分かる。芸術関連以外の業種においても、フィールドデザイン専攻やメディアデザイン専攻といった民間企業および公務員を主な就職先と想定している専攻に対する一定の興味関心が得られた。有田セラミック専攻は主な就職先として窯業界を想定しているが、それ以外にもファインセラミック技師や百貨店、公務員等でも活躍できる人材を育成していることを企業にPRする必要がある。

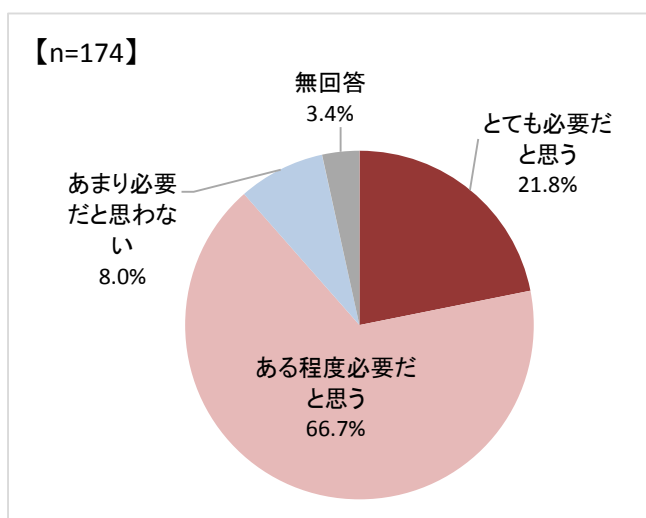
# 「芸術学部(仮称)」の社会的必要度

## ■「芸術学部(仮称)」の社会的必要度(全体)

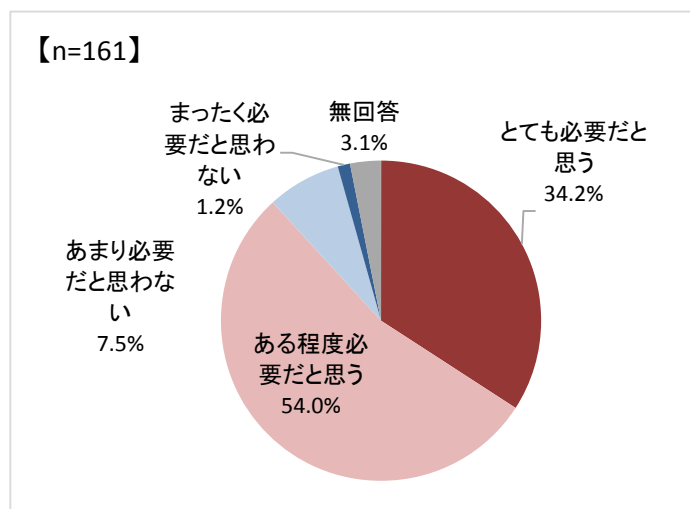
問2-3 あなたご自身や貴社(機関)からみて、佐賀大学の「芸術学部(仮称)」はこれからの社会にとって必要な学部であると思われますか。一番近いものに1つ○をつけてください。



## ■芸術関連以外の業種



## ■芸術関連の業種



## 【分析結果】

「芸術学部(仮称)」の社会的必要度は、全体では、「とても必要だと思う」が27.8%、「ある程度必要だと思う」が60.6%となった。

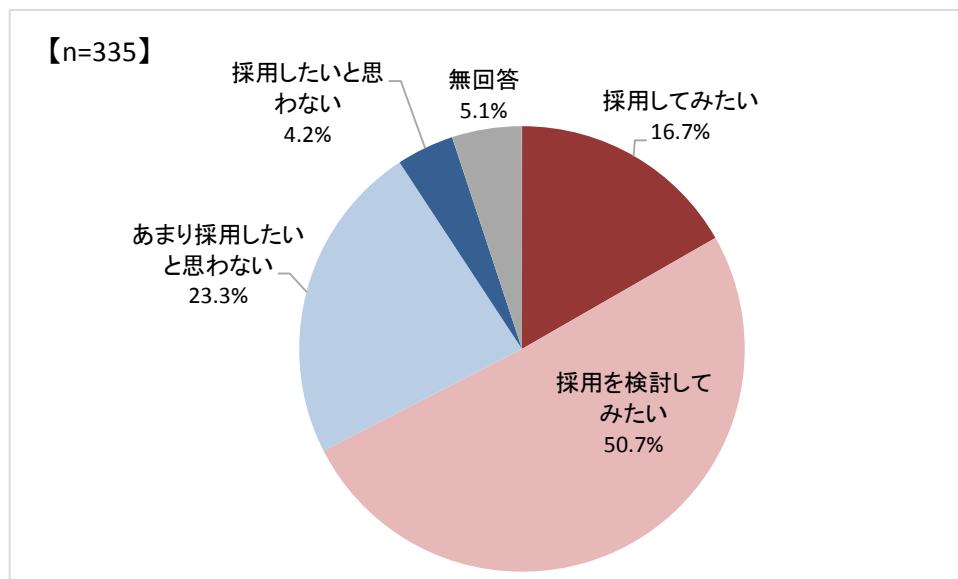
芸術関連以外の業種と芸術関連の業種を比較すると、やはり芸術関連の業種が高い数値となっているが、芸術関連以外の業種においても「とても必要だと思う」が21.8%、「ある程度必要だと思う」が66.7%となり、芸術関連以外の業種においても「芸術学部(仮称)」の必要性について高い評価を得られた。



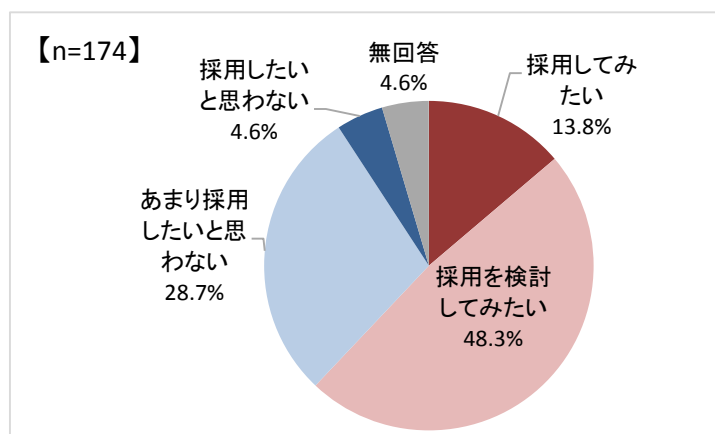
# 「芸術学部(仮称)」卒業生に対する採用意欲

## ■「芸術学部(仮称)」卒業生に対する採用意欲(全体)

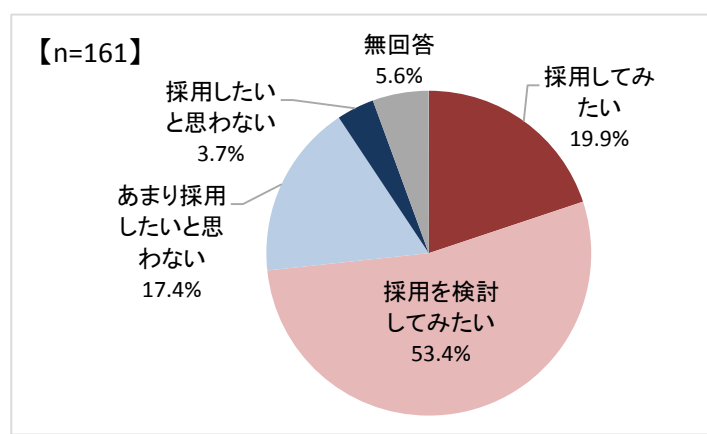
問2-4 あなたご自身や貴社(機関)からみて、佐賀大学の「芸術学部(仮称)」を卒業した学生を採用してみたいと思われませんか。一番近いものに1つ○をつけてください。



## ■芸術関連以外の業種



## ■芸術関連の業種



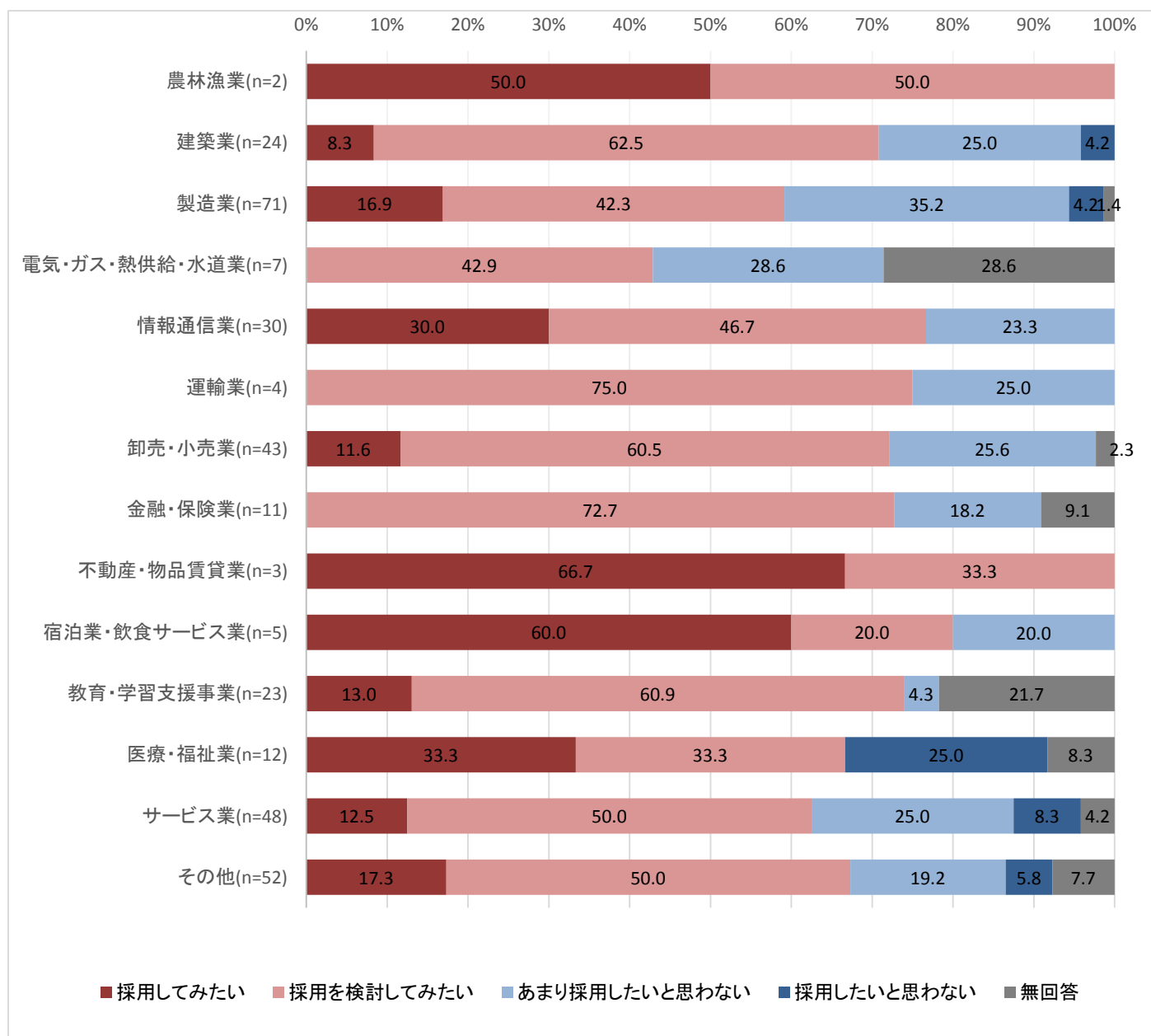
### 【分析結果】

「芸術学部(仮称)」卒業生に対する採用意欲は、全体では、「採用してみたい」が16.7%、「採用を検討してみたい」が50.7%となった。

芸術関連以外の業種と芸術関連の業種を比較すると、やはりやや芸術関連の業種が高い数値となっているが、芸術関連以外の業種においても「採用してみたい」が13.8%、「採用を検討してみたい」が48.3%となり、芸術関連以外の業種においても一定の採用ニーズがあることが分かった。

# 「芸術学部(仮称)」卒業生に対する採用意欲(業種別)

## ■業種別



### 【分析結果】

業種別にみると、不動産・物品賃貸業で66.7%、宿泊業・飲食サービス業で60.0%、農林漁業で50.0%が「採用してみたい」と回答しており、母集団は少ないが、採用意欲が高い企業が存在していることが分かった。

また医療・福祉業33.3%、情報通信業30.0%、その他17.3%、製造業16.9%、サービス業12.5%と、比較的母集団の大きい業種でも一定割合の企業が「採用してみたい」と回答しており、「採用を検討してみたい」と回答した企業はすべての業種に存在している。

この結果から、「芸術学部(仮称)」におけるキャリア教育・就職支援では、芸術関連業種だけでなく一般的な企業の中でも活躍の場が多くあることを学生に周知し、学生の職業選択における視野を広げていくことが重要だと考える。

# 「芸術学部(仮称)」を卒業した学生を採用してみたい理由

## ■「芸術学部(仮称)」を卒業した学生を採用してみたい理由

問2-5 問2-4の理由について、どんなことでも構いませんので、自由にお答えください。

※「採用してみたい」、「採用を検討してみたい」と答えた企業の記述

【各種デザイン・表現の力を発揮してもらいたいから】	
当組合では主に農産物の販売を行っています。その中に直販事業というものがあり、百貨店やデパートに直に卸しています。その商品のパッケージのデザイン等を手掛けてもらいたいと考えます。	農林水産
通販事業において、お客様にわかりやすく、豊かな表現を必要とするから。	製造業
消費財メーカーなので、一般消費者に訴えるデザイン(パッケージ)は大切にしています。	製造業
会社広報や商品紹介などにおいて、専門的な機能等の部分をより分かりやすく説明することができる人材。	製造業
製造メーカーで商品ラベルやパッケージ、ポップなどを自社で作製している。	製造業
弊社はメーカーですので、製品づくりから販売促進物まで様々な創作物があります。コミュニケーションに優れた人材に興味を持っています。	製造業
当社の製品(プラスチック食品容器)に、和のテイストを盛り込み洋食を彩ることを考えている為。	製造業
当社はポンプという人の目にはあまり関わりのない場所へ設置される商材ですが、デザイン面でのアピールはより高い効果を生むと実績で確認しております。	製造業
メディアデザイン専攻で、先端画像処理技術などを学ぶことがあれば、採用の対象となります。	製造業
広報、デザイン、WEBデザインに役立ってたい。	製造業
弊社は食品の製造から販売まで行っている会社であり、販促物のデザインも自社内で行っております。よって、デザインスキルに長けている人材は是非採用させていただきたいと考えております。	製造業
アートのセンスを持ったSE志望の学生がいたら、ぜひ採用したいと思いました。	情報通信業
ICTの分野でも今後デザインの重要性が増す。新たな事業・サービスをデザインできる人材が必要。あたらしさへの挑戦、しなやかな発想、集団の中で力を発揮できる人材を求む。	情報通信業
システムエンジニア候補として採用するにあたり、IT基礎知識だけでなく、表現力、発想力も重要なポイントであるため。	情報通信業
ホームページ製作等の受注をした際に、顧客要求を満たせるだけのデザインセンスを持ったシステムエンジニアが社内にはいないため。デザインセンスを持ったシステムエンジニアを養成したい。	情報通信業
当社の販売促進活動の中で、センス豊かな学生の採用を行ってみたい。	情報通信業
企業としての情報発信ツールのデザインの重要性やブランド構築において必要な人材を輩出するのがこの期待あり。	情報通信業
当社のCMや広告などのデザインを手がけてくれるような学生をぜひ採用したい。	運輸業
建築デザイン、インテリアコーディネート、webデザイン、CGデザインなどを行っている会社ですが、デザインセンス、コーディネートセンスのある学生は採用を検討させて頂きたいと考えております。	卸売・小売業
メディアデザイン専攻のコンテンツを発信する力には魅力を感じる。	教育・学習支援事業
医療、福祉業はサービス業です。「法人」を広く知らせていくための手法と表現が求められています。その専門員は、医療・福祉界にはなかなかいません。	医療・福祉業
分野横断的に活躍できる方や、主にデジタルなデザイン分野に強い方が当社のIT系職種で活躍していただければいい印象を持ったため。	サービス業
事業内容は開発ですが、デザイン領域の仕事もあり、他の大学で芸術学部の採用実績があるため。	サービス業
当社の集客施設(文化施設、商業施設他)のディスプレイという主要な業務に求められる能力や資質を有した人材が得ることができそうである。	サービス業
デザインや発想力が仕事上必要となる為、良い人材を育ててほしいです。	その他(印刷関連業)
高度な表現する力により、地域に対する当組合の発進力を高めたい!	その他(総合農協)
服飾知識と教養・チームで働く素質を身につけた方を採用したいため。	その他(アパレル製造小売業)
公共団体の多くが情報発信力が不足していると感じます。メディアデザインやフィールドデザインを有する人材に期待します。	その他(地方自治)

## 「芸術学部(仮称)」を卒業した学生を採用してみたい理由

【芸術学部ならではの発想力・新しい視点等を持つ、他にはないユニークな人材を採用したいから】	
既成の専門性の考えだけでなく違った視点から見れる人材を採用してみたい。	建築業
様々な観点を持った学生を採用していきたいため。	建築業
今までの採用では応募者、内定者とも比較的同じ色が多かったが、芸術という違った分野を学んだ学生なら新たな発想もでき会社の活性化につながる。	建築業
従来の芸術学部とはちがう切り口の教育により、今までとは違う可能性を感じるため。	建築業
社会人として表現していく事が数多く有ります。当然、その事を考え、実践していく粘り強さが必要な訳です。どの業種にも必要です。そう言う学生さんを望みます。	製造業
柔軟な発想、思考を持つ学生は、様々な部門にて活躍が期待できる。	製造業
新しい考え方や発想を持った人を採用したいと考えているため。	製造業
既存の大学より以上の可能性を期待したい。	製造業
画一的な人物ではない印象を受けるから。	電気・ガス・熱供給・水道業
文理関係なく、様々な対応が必要なIT業界において戦力になると思うから。	情報通信業
総合大学の芸術学部ならではの学生の発想に期待したい。	情報通信業
映像ディレクターの源泉は、個々人の発想力です。多様性が強い程、番組の質と量の向上が出来ると考えており、新たな個性はそれだけで必要だと考えています。	情報通信業
ビジネス環境が多様に変化する中、従来の価値観に捉われない自由な発想が可能な人材が求められると思う。	卸売・小売業
新しい発想で企業運営を行いたい。	卸売・小売業
一般的な学部（経済学部、法学部、商学部etc）以外の発想の豊かな指導をする学部出身の学生さんに興味あります。	卸売・小売業
販促・プレゼン提案など集客につながる発想に期待したい。	卸売・小売業
従来にない発想でのお客様へのアプローチでの展開、取組の創造。	卸売・小売業
本人が期待する仕事を用意できるかどうかということになるが、当社にはいない人材が期待できる。	卸売・小売業
教育業に従事している当社としては、子供達の教育についているいろいろな観点から総合的に考える人材に興味があり、とりわけ芸術的な観点を持つ人材は、その稀少さから異なる発想からの教育というものが期待できると感じたため。	教育・学習支援事業
地域社会、国際社会に貢献できる人材は本学にとっても必要だと思われるため。	教育・学習支援事業
面白い人材が採用できそうだから。	サービス業
発想力と様々な経験に基づく実践力を持った人材を常に欲する業界（IT事業）のため。	サービス業
建設コンサルタントの分野においても、従前の型にはまった考え方に加え、今後、柔軟で発想力を兼ね備えた方の必要性が増してくるよう考えます。	サービス業
個性豊かな人材として期待します。	サービス業
広告会社にとってデジタルも含めたクロスメディアビジネスが必須となった現在、デジタルリテラシーと発想力を持つ人材は必要な人材要件のひとつである。	サービス業
直接的に業務内容とは関係ないが、就職先として興味を持っていたら。	その他（情報サービス）
多様性のある人材確保を目指したい。	その他（地方自治体）
業務の多様化により、様々な知識を持った人材が必要と考える為。	その他（行政）
【採用にあたり大学・学部・学科不問である・多様な人材を採用したいから】	
学生の方がご自身の学部学科での勉強や研究に固執しなければ、当社としては学部学科不問で採用活動を行っているため、問2-2に記載されているような様々な知見、経験を持っておられる方を採用したいと考えているため。	製造業
多種多様な人材を採用するスタンスであるため。	製造業
デザイン系の新卒採用の検討を開始しようとしていたタイミングだったので、ぜひ採用を検討してみたいと思います。	情報通信業
当社は学部・学科問わず募集していますので今後もヒューマンスキルを重視して採用予定です。	情報通信業
学部にはこだわらず魅力的な学生がいれば採用したいので。	情報通信業
採用については学部問わず、人物本位で行っています。	情報通信業
弊社は交通や旅行、航空代理店業を通じ、宮崎県の活性化につなげることが重要な使命であると認識しております。このため様々な分野よりの学生の採用を行っております。	運輸業
学部・学科で採用の可否は決めていません。	運輸業
当社は芸術に特化してはなくても、全ての学部を対象と考えています。（繊維専門商社）	卸売・小売業
新事業展開に向け、多様な人財を求めているため。	卸売・小売業
組織の総合力を高めるために、幅広い視野をお持ちの方は是非採用を検討したいと思います。	卸売・小売業
良い人材であれば、学部・学科などは関係ないと思います。	金融・保険業
学部不問のため	金融・保険業
弊金庫は採用に関しては、学部不問としており、貴校の農学部出身の学生も採用しており、幅広い人材に集まって欲しいからです。	金融・保険業
ホテル業が芸術学部卒には向かないということではなく、地元に着用することが、望まれる企業であるため、本気でやる気がある人であれば学部は問いません。	宿泊業・飲食サービス業
学生時代から意欲的に活動する人材であれば、大学名を問わず機会があれば採用したい。	教育・学習支援事業
幅広く人材を採用したいため。	教育・学習支援事業
元々、学部にはこだわりのないため、学んだことを活かしつつ、教育分野に飛びこもうという気持ちのある方は、是非採用を検討したいと思います。	教育・学習支援事業
医療福祉業ですが、いろんな人材を採用したい。適材適所が必ずあります。	医療・福祉業
弊社では、新卒採用に関しまして学部不問となっております。従いまして、弊社に関心をお持ち頂ける方には是非受験して頂きたいと思っております。	サービス業
職員採用においては、知識偏重ではなく人物本位で能力を重視し採用する方針であり、多様な能力を持つ人材を採用したいと考えているため。	その他（地方行政業務）

# 「芸術学部(仮称)」を卒業した学生を採用してみたい理由

<b>【総合的な力・ジェネリックスキル・芸術学部(仮称)で育成する力を持った人材を採用したいから】</b>	
専門性と汎用性を兼ね備えた人材に魅力を感じる。	建築業
専攻内容ではなく、人柄を重視しているため。	建築業
上記のチェック人材は、とても必要だと考える。	電気・ガス・熱供給・水道業
当社の業種において芸術的センスを必要としないが、芸術学部の教育を経て積極性やコミュニケーション能力等総合的な人間力を身につけた学生であれば採用したい。	情報通信業
弊社ではIT企業として、プログラミング技術のみを追求した人材よりも、総合的にバランスの取れた人材を採用したいと考えております。文理にこだわらず、やる気と粘り強さを持った学生の育成に期待しております。	情報通信業
UXやUCDの知識をもった人材を採用したいと思うため	情報通信業
粘り強さをもった人材を育成されるとの事で、そういった人材が当社に合うと思うので。	卸売・小売業
営業センスも提案力も必要な仕事なので、それに対応できる人材であれば採用したい。	卸売・小売業
弊社の事業として、直接芸術には関係ありませんが、上記のような社会人としての資質を身につけ、社会に貢献し会社の成長に必要な人材であれば、採用したいと思います。	卸売・小売業
学生時代の経験を活かして当社で働いて頂くことができると考える為。	金融・保険業
コミュニケーション能力、課題解決能力、経営的センスを持った人材を育成しようとする御校の学生は、当社にとって魅力的だから。	不動産・物品賃貸業
間2-1及び間2-2にある人物像が弊社に必要なから。	不動産・物品賃貸業
芸術学部の学生は作品を作り出す粘り強さを持っていると考えているため、当社でも発揮して欲しい。	宿泊業・飲食サービス業
大卒者については、高卒者よりも自主性を持った者が多いと感じており、即戦力になる。ただし、以後の発想力、自発力をより出せる者が欲しい。リーダーシップという点からその様な力を発揮して欲しい。	宿泊業・飲食サービス業
当課では、多様なイベントに加え、文化財保護またその活用を実践する必要があり、上述された人材が必要と思われる。	サービス業
後に指導が可能な職種固有スキルより、総合的スキルを持つ人材が伸びると感じているため。	サービス業
作家を目指すのではなく、応用力を身につけた学生を希望する。	サービス業
実践を伴う学びから実行力、幅広い知識をもった方がいそうなるため。	サービス業
弊社の将来を担う人材を、貴校学生からも採用させて頂けると思われるため。	サービス業
幅広い知識を持った意欲的な学生に採用試験を受験していただきたい。	その他(公務)
専門学校生と大学生とは、やはり考え方や傾向等も異なりますので、専門的な技術や知識に加え、佐賀大学の強みも活かされた教育もされることがとても楽しみに思います。	その他(専門的・技術的職業)
<b>【文化財保護・学芸員としての採用を検討したいから】</b>	
文化的歴史的資源を単に守り継承していくのではなく、将来の文化的歴史的ニーズに対応できる人材が望まれると思われ、新たな発想方法を注入していくべきと考えられるため。	教育・学習支援事業
採用枠はないですが、学芸員、グラフィックデザイナー。	サービス業
学芸員に欠員が出て公募する際には近くでもありぜひ応募して頂きたい。	サービス業
学芸員だけに関して言いますと、これまで資格だけは大学で取って、実践や技術はあちこちの博物館を渡り歩いて弟子入りするように学びとっていくというのが多かったように思います。これからは佐賀大学の芸術学部で学芸員の資格を取るとすぐにでも現場で役に立つような教育をして頂きたいと思えます。	その他(博物館・記念館)
文化財専門職員の採用選考試験による。	その他(文化財保護行政)
博物館と学校・地域の機関や人々を結び、事業を展開するためのコーディネート力、また実践力のある学芸員は、職員数が限られる現場で必要としている。	その他(官公庁の施設の一つ)
文化課文化財保護係は専門性が必要なため。	その他(教育委員会)
<b>【クリエイティブな人材・企画力のある人材を採用したいから】</b>	
クリエイティブな仕事をまかせてみたい。	製造業
企画力のある人材を求めています。特に美術史に興味がある方、幅広く史料等に精通している人材を探しています。	製造業
今までにない企画力のある人材をぜひ採用したいと考えております。	サービス業
クリエイティブな人材がこれから必要だし、それを受け入れる企業側の経営体質も必要である。	その他(事業協同組合)
<b>【コーディネート力のある人材を採用したいから】</b>	
現在、クライアントが単なるデザインではなく、商品開発から販促までトータルでのプロデュースを求めています。貴学の教育方針は、必要とされている人材に結びつくと思われれます。	製造業
お客様が要望される職場環境のコーディネートや提案を期待します。	卸売・小売業
産業、ビジネスとしてのアートを支えていく力のひとつがキュレーションだと考えておりますので、その様なスキル教養を身につけた人材には非常に興味があります。	その他(IT音楽コンサルティング)
<b>【佐賀大学の卒業生、もしくは他の大学の芸術学部卒業生が活躍しているから】</b>	
御校の卒業生は優秀な人材が多く新学部卒の学生も期待できると考えます。	金融・保険業
他大学ではありますが、芸術学部卒業生が活躍しています。	卸売・小売業
現在も佐賀大学さん卒業のスタッフが多くがんばっています。学生時代に学んだことを会社でも活用して頂きたいので。	卸売・小売業
<b>【街づくりに活かせると思うから】</b>	
弊社の実務内容から、まちづくりの部分は役立てられると思うので。	建築業
地域、まちづくりに関連して創造力を発揮していただけたらと思います。	その他(建築コンサルタント)
<b>【九州地域に拠点があるから】</b>	
今後、九州への進出を考えているため	卸売・小売業
福岡に営業所があるので地の利があり、かつ継続的に雇用できる。	その他(広告業)



## 「芸術学部(仮称)」を卒業した学生を採用してみたい理由

【今後採用を検討していきたい】	
メーカーであるため、芸術のみの専攻であれば、エンジニアとしての採用は困難かと思われる。(管理スタッフとしては期待できる)	製造業
将来、CI等を取り入れる場合に採用を検討したい。	製造業
学生のスキルやアピールポイントについて、企業の戦力となるか様子を伺ってゆきたい。	製造業
国立大で総合大学の芸術学部を卒業した社員がいないので、採用した際にどのような活躍をして下さるのか大変興味があります。	製造業
高度なICT関連の知識、技術を学べる環境が佐賀に出来ることは、採用後、即戦力として期待できる。	製造業
メーカー技術者として実際に活躍できるか未知数だと思う。	製造業
【その他】	
すみません、イメージがあまりわかりません。	建築業
モノづくりが好きな方、グローバルな視点をおもちの方を募集しています。	建築業
九州では、芸術学部の4年制は少ないので(設置は)、よいと思います。	建築業
弊社では芸術的な専門性が必要な仕事は少ないが、そのような取り組みは評価できる。	製造業
どういったセンス(デザインの専門性)を有しているのか。	情報通信業
スタッフの新旧交代が進んでいない。	教育・学習支援事業
アートとビジネスの融合は、先進国の強みにできる為。	サービス業
専門知識に対する視点に疑問を感じる。	その他(オークションハウス)
専門的な知識技術を基礎から身につけた人材。国際的なセンスを持った人材。	その他(公立美術館)
採用にあたり一般教養及び面接試験に合格した者のみ採用となる。	その他(農業共済)
公務員を希望される方が、貴学部のどのようなスキルをもって公務貢献ができるかが課題と思われる。	その他(行政)

### 【分析結果】

芸術学部(仮称)を卒業した学生を「採用してみたい」もしくは「採用を検討してみたい」理由について、最も多かったのは「各種デザイン・表現の力を発揮してもらいたいから」という意見であった。なかでも製造業、情報通信業からの意見が多く、製品や販促物のデザイン、デザイン力のあるシステムエンジニアと言った分野での採用が期待される。

次いで多くなったのは「芸術学部ならではの発想力・新しい視点等を持つ、他にはないユニークな人材を採用したいから」という意見であった。この意見は建築業、製造業、卸売・小売業、サービス業といったあらゆる業種で見られ、業種問わず、芸術学部で身につけた力を発揮するフィールドがあることが予測される。

また「総合的な力・ジェネリックスキルを身につけた人材であれば大学・学部・学科不問で採用したい」という意見も多数みられたことから、芸術という専門性に加え、社会人としての基礎的な力を伸ばす教育が「芸術学部(仮称)」の卒業生の進路先拡大における重要な点であることがこの結果からも明らかとなった。

文化財保護・学芸員、アートに関するコーディネーター、クリエイティブな仕事や企画、街づくりなど、各専攻の教育特色となる分野に関する具体的な採用ニーズも確認することができた。

# 「芸術学部(仮称)」を卒業した学生を採用したいと思わない理由

## ■「芸術学部(仮称)」を卒業した学生を採用したいと思わない理由

問2-5 問2-4の理由について、どんなことでも構いませんので、自由にお答えください。

※「あまり採用したいと思わない」、「採用したいと思わない」と答えた企業の記述

【違う専門性を持った人材を採用したい・業種が異なる】	
体力が必要な仕事です。	建築業
弊社の募集する学部とは異なるため。	建築業
当社は建築と土木の専門知識を修得した学生が希望です。	建築業
専門分野が違う為	建築業
専門知識を持った技術者を採用しているため。	建築業
電気会社なので。	製造業
当社は消音器の設計、製造及び騒音計算等を主な業務としており、理工学部系の学生を採用希望しております。	製造業
当社の業務に於いて、リンクする分野ではないから。	製造業
分野が異なるため。	製造業
制御盤、ソフト製作が主な業務内容のため電気電子工学を専攻した学生の採用を考えています。	製造業
弊社の業種が造船業であるため、工学部生などに比べマッチする職種が見出し難い。	製造業
弊社製品である油圧プレス機械は、仕様、塗装色に至るまで一品物のオーダーメイドであり、加工技術や制御システム等のモノ作り分野のスペシャリストを人材として求めている。汎用性や流行に左右されにくいニッチ分野となっている。	製造業
機電情学生が対象のため。	製造業
当社では芸術を必要とする職種ではないため、採用は難しい。	製造業
ソフトウェア開発の会社ですので、参考にならないかもしれないです。申し訳ありません。	情報通信業
弊社の業務内容(ソフトウェア開発)との関連性が低いため。	情報通信業
当社の募集職種(SE)の適正とはあまり合致しない為。	情報通信業
弊社では現在のところ芸術面の補強は考えておりません。	卸売・小売業
当社は農業分野で肥料の製造・販売を行っており、末端農家への商売です。従い、現状からはイメージがつきません。	卸売・小売業
当金庫は金融業ですので、経済学部・商学部等の学生を優先して採用したい為。	金融・保険業
学生がどのように育っているか分からないので、問2-4は答えにくい。本館の仕事は、展示部分もあるが、ほとんどの仕事は、実測や実測図説明等で仕事内容が違うと思って3にした。	教育・学習支援事業
医療的資格を有する方の採用に限られるため。	医療・福祉業
業種的に向かない。	サービス業
建設コンサルタントとの関連性が薄いと考えられるから	サービス業
専攻分野が違うので。	サービス業
当協会における業務の専門性の違い。	サービス業
弊社の業種は芸術とは分野が違うため。	サービス業
業務自体は全く合うものがないため。	その他(税理士業務)
弊社の職種から少しかけ離れた気がします。企業からすれば、もう少し専門的に学ばれた学生さんを採用したいと思っております。	その他(濃度計量証明業)
弊社は、土木建設関連業種のため、新卒は工学部及び理工学部を希望しているため。	その他(建設コンサルタント)
当社は建設業であり、求める人材の能力のうち芸術性は優先度が低い為。	その他(建設業)
【芸術という専門性を社内で活かさない・芸術学部における学びと業務内容にギャップがある】	
活用する部署が少ない。	製造業
弊社は製造が主体の会社ですので専門性の発揮がしにくいと思うからです。	製造業
現状、自動車部品の製造分野では活用がやや難しいと思われる。	製造業
当社の部署の中で大学の芸術学部で学んだ事を生かせる部署がない為。	製造業
当社の場合、活躍できそうな場面が限定的である。	製造業
製造業にとって、それだけの能力を生かすステージがなく、本人にも不満が出ると思うから。	製造業
場所も遠いし、直接ビジネス面では関係がないので。	製造業
弊社における業務との結びつきが	製造業
大学で学んだことと当社での実際の業務に距離がありすぎる。ふり切れば良いが、入社後に失望しないか不安ではある。	製造業
当企業団の業種が水道業ということで芸術学部で専攻した内容を生かしきれない。	電気・ガス・熱供給・水道業
それだけ専門的な分野で学んだ方が、倉庫業に興味を持ってもらえるか疑問を感じるため。	運輸業
芸術的な知識・技術などについては、弊社で直接生かせる場が非常に少ないため。	卸売・小売業
現時点では当社の業務内容と学生の希望の間に大きなギャップがありそうだと考えられるため。	卸売・小売業
弊社事業に直接関わりのありそうな分野ではないと感じ、アンケートに記入させていただきました。	卸売・小売業
大学で学ぶ事と業務との関連性が少ないと思われる為。	金融・保険業
分野の違い、折角の専門性が生かせない。	医療・福祉業
学んだものが仕事に活かされるかが不明。	サービス業

## 「芸術学部(仮称)」を卒業した学生を採用したいと思わない理由

【条件付きで採用を検討】	
建設業に於いて期待できるのは、一級建築士の資格を取ったうえでの設計業務。	建築業
弊社はリフォーム業も営んでおりますので、建築や内装に関するデザインが出来る方なら採用を検討するかと思います。	電気・ガス・熱供給・水道業
大学を卒業して、お金を稼ぐことを前提に考えた学部教育が望ましい。芸術家、作家、評論家育成は他の大学にまかせ、プロデュース（マネージメント）、コーディネートできる人の育成をして欲しい。	卸売・小売業
弊社は総合人材サービス業を主としておりますので、芸術的な分野とは少々フィールドが異なりますが、豊かな発想力を持ち、その力を弊社で活かして頂けるという学生の方がおられましたらお会いしたいと思います。	サービス業
国立大学に芸術学部のできる意義は大きいと思います。自由な校風で発想力ゆたかな、有用な人材を輩出してください！！	その他（出版）
やや当館の職種が違うため採用は難しいが、キュレーター専攻であれば、採用を検討する可能性がある。	その他（博物館）
【大卒（新卒）採用予定がない・デザインは専門学校や外注にて対応している】	
大卒（新卒）予定がない為。	製造業
一例で申しますと、店舗デザインについては、外部デザイナーにお願いしている為。（芸術学部＝勝手にデザインと結びつけさせていただきました。）	宿泊業・飲食サービス業
専門学校生がより実践的に使える為「芸術学部」卒は当社では採用しない。	サービス業
クリエイターについては外注（外部スタッフ）で対応している。	サービス業
弊社の業務内容に貴学の新学部で学んだスキルをダイレクトに活かせる業務（デザイン部門等）がないため	その他（自動車開発業）
当財団の運営上、新たに新卒者の採用は考えていない。	その他（芸術文化に関する協会）
【判断できない・今後を見て判断】	
あまり学部の内容がわかりませんので。	建築業
弊社の事業に直接的に必要な人材かどうか、判断しにくい部分があるため。	製造業
弊社は食品製造販売の為、求めている学部と違うように思われる。（判断できない）	製造業
どういった人材が所属しているか不明なため。	サービス業
新設学部のため、今現在具体的な採用については未知数です。今後の状況を見て、検討したいと思えます。	その他（出版業）
【その他】	
プロフェッショナルな専門性の高い人材を育成できるとは思えない。	製造業
社会に幅広く役立つ芸術学部の創設を目指していると思いますが、昨今の教育カテゴリー（理工/経済/教育etc）自体がマルチであることに主眼をおいており、本当の意味での専門分野としての学術研究がなされていない風潮を感じています。一芸に秀でているよりは、無難に多趣味であることを社会が求めている結果かもしれないですが、研究機関としての大学のありかたには疑問を感じもします。	情報通信業
学部での勉強で読者の”面白い”をどの程度理解できるか不明。唯我独尊的な思考や視点にならないか不安あり。	情報通信業
確かに”有田”は魅力ある素材だと思いますが、だからと言って”芸術学部”の創設はいかがなものでしょうか？それよりも理工学部や文化教育学部の拡充を図った方が、より多くの学生を呼べる様な気がします。素人考えで申し訳ありません。	卸売・小売業
定着を考えると難しい。もともと志があって、芸術を専攻されている方は、又、その道に・・・という方がいらっしゃるので少し採用については考えてしまいます。	卸売・小売業
社会経済の変化や多様化する社会福祉の問題を的確に捉え、対応できる人材を求めているので、学部には拘らない。	医療・福祉業
芸術系学生は、集団行動が苦手としている印象があり、また広義の意味でも芸術は経済の上に成り立つという意識に乏しく独善的なイメージを拭えないため。	サービス業

### 【分析結果】

芸術学部（仮称）を卒業した学生を「あまり採用したいと思わない」もしくは「採用したいと思わない」理由について、最も多かったのは「違う専門性を持った人材を採用したい・業種が異なる」という意見であった。主に建築業、製造業、情報通信業、サービス業からの意見が多い。次いで「芸術という専門性を社内で活かさない・芸術学部における学びと業務内容にギャップがある」という意見が多かった。こちらも製造業からの意見が多い結果となっている。

しかし一方で、「条件付きでの採用を検討」といった意見や「判断できない・今後を見て判断」という企業の声も確認された。このことから、芸術と直接関係がないと思われる職種における卒業生の活躍事例などをPRすることで、卒業生の進路先開拓につながる可能性があると考えられる。

また、一部ではあるが、唯我独尊的・定着面での不安・集団行動が苦手といった芸術系学生に対するイメージからくる不安・懸念の声もあった。芸術を専門としながらも総合的な力を持った人材を育成するという教育特色への理解を促すことが重要だと考えられる。



# 「芸術学部(仮称)」についての意見等

## ■「芸術学部(仮称)」についての意見等(九州以外)

問2-6 佐賀大学「芸術学部(仮称)」について、ご意見等をご自由にお書きください。

所在地	自由記述意見	業種
北海道	どんな学部学科であれ、社会に出てから自身の活躍するという意志を明確に表現して欲しい。	製造業
関東	理工学部の学生を採用した実績があります。	建築業
	専攻が多岐に亘っているので、面白い人材が育つのでは。	製造業
	国立系の大学で芸術学部の設置を検討している大学はあまりないので、充実した蔵書の中で、国立でしかできない特異性のある学生を輩出していただきたい。	製造業
	一事業所での対応は無理と考えます。芸術との兼ね合いが今一つ(結びつき)。2015は農学部より男1・女2の内々定をしております。(2014は農学部より男1・女1採用)	製造業
	もう少し近代的な名称であれば目を引くと思う。	情報通信業
	一方的な感覚で美感を追求するのではなく、他方面から見た時どう思うか考えて表現できる人材を是非育成して頂きたいと思えます。	情報通信業
	発想豊かな学生の輩出を期待しています。	情報通信業
	地方ゆえの多様性に期待しています。また、お手伝いできることがあれば、是非協力させていただきます。	情報通信業
	今後の芸術学の分野で活躍できる人材を育成されることを楽しみにしています。	情報通信業
	実践力を身につけた学生を育成してほしい。	情報通信業
	「有田セラミックス専攻」など、佐賀の地域性を生かした専攻でおもしろい試みで期待しています。	情報通信業
	有田セラミックス専攻等、立地や環境を生かした内容を多くすることを期待します。総花的内容は”なんでもあるが、なにもない”ということになりかねないので。	情報通信業
	当社は学部不問としておりますので、ぜひご応募ください。	金融・保険業
	モノ造りが好きな学生を増やしてもらいたいです。	不動産・物品賃貸業
	いつも大変お世話になっております。今後とも何卒宜しくお願いいたします。	サービス業
貴学の新しい挑戦に期待します。	サービス業	
新しいタイプのデザイナーに期待する。	サービス業	
従来の芸術学部、大学にはない素晴らしい人材を育成いただけるよう、期待しております。	サービス業	
陶都有田でなければ・・・という人間、デザイン、アートに特化する必要があると思います。	サービス業	
私自身音楽専門学校の講師を務めているせいか、芸術学部なのに音楽的な勉強が出来る環境がないのは残念に思いました。もしそのようなジャンルの専攻も御検討されているようでしたら、色々と私案がありますので、お力になれるかもしれません。御検討下さい。	その他 (IT音楽コンサルティング)	
シンプルで一般的なので、一番適当である。	その他 (広告業)	
並の人間を教育で作るのではなく、天才や社会に新しい価値を創造する、そのような人材の育成が急務。常識にとらわれない新人類を育成してほしい！裾野と高みを作るのが教育の使命。水平思考と垂直思考で新しい教育を実現して下さい。期待しています！	その他 (出版)	
中部	メーカーでのデザインをする仕事があるという事を学生さんにも知って頂ければと思います。	製造業
	当社は、貴学の文化教育学部の方(地元)が1名在籍しています。芸術に拘りません。	卸売・小売業
	有田の復興や地元の活性化をアートを通じて行なうなど、佐賀の地を生かした大学運営をしてはどうか。でなければ、都市部の芸術大と大差なし。	卸売・小売業
	とても興味深いチャレンジだと思います。日本のカルチャーが世界に注目される今、教育から新しい人材を輩出するのはとても重要なことです。	サービス業
	弊社は理工系の学生を採用しております。あまりアンケートにご協力できるような回答とならず申し訳ありません。	その他 (設計請負)
近畿	今後の設置認可に向けて頑張ってください。ご期待申し上げます。	建築業
	弊社としては、メディア・デザイン専攻で学ばれた方に非常に興味があります。芸術学部を設置された際には、どうぞよろしくお願い致します。	製造業
	今までにない新しい試みに期待しています。	製造業
	芸術を専門に学ばれた方と社会でお会いできるのを楽しみにしています。	製造業
	どのような学問でも共通かと思いますが、学んだ知識を積極的に活かしていける方、能動的に動ける方を是非育てて頂ければと思います。	サービス業
	芸術関連の企業にとっては必要な学部になると思います。	サービス業
	今年は御校から1名入社頂くことになっております。今後共宜しくお願い致します。	その他 (印刷関連業)
専門的知識をもつ人材を育てる以前に企画屋的な人材の育成を考えすぎでないか。	その他 (オークションハウス)	
中国	有田焼を始め、さまざまな芸術作品のフィールドがある佐賀県ですので、芸術学部があつて当然ではないでしょうか。	卸売・小売業
	他の芸術系学部、学科を持つ大学と比較し、全く独自の人材を養成するのであれば良いが、他大学でも、同じような教育をしているようなカリキュラムだと必要性を認めない。	サービス業
四国	プロダクトデザイン、工業デザインも九州には必要では。九州は製造業多いし、アジアの玄関口。	サービス業

# 「芸術学部(仮称)」についての意見等

## ■「芸術学部(仮称)」についての意見等(九州・沖縄・佐賀)

問2-6 佐賀大学「芸術学部(仮称)」について、ご意見等をご自由にお書きください。

所在地	自由記述意見	業種
九州・沖縄 (佐賀除く)	今後ともどうぞよろしくお願い致します。	建築業
	弊社に入社している佐賀大卒生は非常に優秀でがんばり屋なので、芸術学部卒の方々にも期待しております。	建築業
	少子化の中、大変と思いますが、世の中に役立つ人材を育成してください。	建築業
	企業もオンリーワンが必要です。そのような人材が育成できれば。	建築業
	今後の発展に期待します。	建築業
	私自身が佐賀大学出身ですので、とても喜ばしいことです。ぜひ”芸術”という面で活躍できる人材を輩出してほしいです。	建築業
	商業的デザインの養成も力を入れて頂きたい。	製造業
	身近にある大学ですので、やる気溢れる学生が応募してくれることを期待しています。	製造業
	これからの社会には必要だと思う。	製造業
	有田セラミック専攻は、佐賀の特産を活かした教育課程であり、地域活性化の一助にもなると思う。	製造業
	過去、豊田勝秋が教授を務めたこともあり、工芸は歴史もある。これを機に大きく発展してもらいたい。	製造業
	九州に国立大学で芸術学部のある大学は少なく、学生の選択肢が増えることは大変良いことだと思います。	製造業
	特にありませんが、芸術のみに結び付くのはイメージとして勿体ないと思います。	電気・ガス・熱供給・水道業
	九州の学生達に新しい選択肢ができたことを嬉しく思います。	電気・ガス・熱供給・水道業
	デジタルデザイン、アニメーションの教育・育成に力を入れていただきたい。	情報通信業
	内容から見ると、総合芸術学部の方がしっくりする気がします。	情報通信業
	既存の大学、学部では得られないユニークな能力やスキルを持った人材を社会に輩出していただくことを期待しています。	情報通信業
	佐賀大学さんの学生も入社していただいており、応援しております。今後も宜しくお願致します。	卸売・小売業
	総合大学としての強みを生かすべきと思う。	卸売・小売業
	九州にはめずらしく、他地方からの人材流入や九州からの人材流入が防げるのではないかと。地方活性化のための人材育成などに是非一役買って頂きたい。	卸売・小売業
	わかりやすい学部名だと思います	卸売・小売業
	様々な視点から物事を見る力や感性が養われるのではないかと考えます。	金融・保険業
	就活時に学生にとって芸術学部出身といった時に企業にどの様に売り込むかが不透明であり、専門性が不利な状況になる事も考えられる。	宿泊業・飲食サービス業
	国立大学の芸術学部は、稀少性が高く、他大学との差別化が期待でき、また御学の他の学部にも大変良い影響を与えるのではないかと思います。	教育・学習支援事業
	キューレーター専攻のカリキュラムに疑問がある。留学等カリキュラムに含まれているのか?受皿となる就職先が豊富にあるとは思えない。学部卒で学芸員になるのは難しいのでは?東京芸大を出た人が作家になっている割合は低いことについて地方大学の学術学部の方はどう考えているのか。広報のページの「新学部設置について」、アップデートされていないように見受けられたのですが・・・	教育・学習支援事業
	私自身、美術鑑賞が非常に好きですので、九州の国立大学にこのような学部が出来ることを喜ばしく思います。一般人に向けた講演会など、是非実施して欲しいです。	教育・学習支援事業
	「有田焼」という世界に通じるモノを守り、活かす人材を育てていただきたいと思います。	教育・学習支援事業
地域の特性を活かした取り組みであり、将来に期待したいと思われる	教育・学習支援事業	
芸術家の玉子が毎年多数生まれますが、一握が芸術家として独立されると思いますが、残りの方々の多くは、就職の場の確保が大丈夫かと少し思いました。	教育・学習支援事業	
当館はミュージアムティーチャー(MT)として市教育委員会から数名の市立学校教員を受け入れ博学連携を行っています。過去、このMTに中学校美術科教員が在籍していたこともあります。今後、同様の可能性もあると考えられます。このため優秀な美術科教員の養成機関として貴学が発展されることを期待しております。	教育・学習支援事業	
地域の起爆剤になって下さい。	サービス業	
頑張って人材育成して下さい。	サービス業	
学生の選択肢が増えるのは良い事だと思います。	サービス業	
社会性のある人材を育てて下さい。特にコミュニケーション能力のある方。	サービス業	
なし	サービス業	
是非今後、採用募集をさせて頂きたいと思います。どうぞ、宜しくお願致します。	その他(専門的・技術的職業)	
佐賀	日本には”おもてなし”と言う言葉が有る様に、それは芸術だと思います。小さな事から、大きな事まで、それを身に付ける機会も無いのだと思います。めざしている特色の通りの事を実践し、マネジメントして下さい。すばらしい社会人となるでしょう。期待しています。	製造業
	グローバル思考を形にするデザイン力、競争力を高める。	製造業
	非日常の芸術分野を日常の産業分野に融合させて、世界に情報発信できる人材を育成して欲しい。	製造業
	伝統的な文化価値の高いものの継承が難しいこの時代に日本古来の大切な文化を育み発展させていく教育はとても大切だと思います。	製造業
	折角佐賀の地にて学んでいただくのですから、佐賀の地で活躍していただきたい。また、地域でも活躍出来る場、独特な街づくりが出来ればと思います。	電気・ガス・熱供給・水道業
	非常に良い試みだと思います。準備等、ご苦労がたえないかと存じますが、佐賀の未来のためにぜひ頑張ってください。	情報通信業
	佐賀の芸術・文化の発展に寄与してほしい。	教育・学習支援事業
	新しい学部が集まる人材が、佐賀に多少とも影響を及ぼすと思います。大いに期待したい。	医療・福祉業
	今後の御活躍を期待いたします。	サービス業
	新学部設置、期待しております。	サービス業
	魅力のある人材育成を期待しております。	サービス業
	国立大学で芸術学部を設置されるのは大変良い試みと思えます。人気が出るのでは?と思えます。	サービス業
	より良い人材の輩出を期待しています。	サービス業
	佐賀大学が美術館を作ったり、芸術学部を新しく作る理由は何なのでしょう?本来存在したものをくずしてまで、芸術に力をそそぐ必要があるのでしょうか。佐賀大学がどこを目指して向かっているのか全く理解できません。美術館の利用者はいますか?そんなにきざわっているとは思いません。施設を新しくすることはいいことだと思いますが、新しい建物を立てる前に、改修が必要などころはありませんでしたか?未来の佐賀大学に期待しております。	サービス業
	伝統と実績のある特設美術科の流れをくんで、他の大学になり総合力のある学部を作って頂きたいと思えます。	その他(博物館・記念館)
佐賀大学とは協力関係を築いていきたい。	その他(教育委員会)	
佐賀有田のランドマークとして大いに期待します。	その他(事業協同組合)	
国内でもこれまでになかったユニークな芸術学部であることを期待します。	その他(美術館)	
県立博物館施設(博物館・美術館等)とも連携して活動(運営)してほしい。	その他(文化財保護行政)	
佐賀県における芸術文化の核となる運営を望む。	その他(芸術文化に関する協会)	

## 「芸術学部(仮称)」についての意見等

---

### 【分析結果】

関東，そして九州・沖縄（佐賀除く），佐賀の企業より多くの意見が寄せられた。

関東の企業からは，国立大学の芸術学部ということで従来にはない人材育成を期待する，地方ゆえの多様性に期待するといった，地方国立大学の特色を活かした人材育成への要望があった。

九州・沖縄（佐賀除く），佐賀の企業からは，地域の特色を活かした取り組みであること・学生の選択肢が増えることから九州の優秀人材の確保にも繋がるとする意見もあり，地域の起爆剤となるような人材育成を期待する声が多く見られた。

産業界からのニーズという観点では，アートを基軸とした中で，地方国立大学ならではの強みを活かした人材育成，そして地域の起爆剤となり，地域を活性化させることができるような人材育成が重要であり，企業に対してこうした人材育成に関する情報を積極的に提供していくことの重要性が示唆された。

# 佐賀大学「芸術学部(仮称)」に関するアンケート

## 【調査の目的】

佐賀大学では、2016年4月より「芸術学部(仮称)」の設置を検討しています。その中で、この「芸術学部(仮称)」の産業界におけるニーズ調査を実施することとなりました。つきましては、大変ご多用なところ恐縮ですが、以下のアンケートにご回答いただきますようお願い申し上げます。なお、ご回答いただいた情報は、新設計画の資料作成の目的以外で利用することはありません。

佐賀大学 学長

問1. はじめに貴社(機関)についてお伺いします。

問1-1 差支えなければ貴社(機関)名をご記入ください(任意)。

貴社(機関)名: \_\_\_\_\_

問1-2 貴社(機関)の本社(本部)所在地について、当てはまる番号に1つ○をつけてください。

- |        |       |                 |        |
|--------|-------|-----------------|--------|
| 1. 北海道 | 4. 中部 | 7. 四国           | 10. 国外 |
| 2. 東北  | 5. 近畿 | 8. 九州・沖縄(佐賀を除く) |        |
| 3. 関東  | 6. 中国 | 9. 佐賀           |        |

問1-3 貴社(機関)の従業員規模について、当てはまる番号に1つ○をつけてください。

※ 支店・支社・支部等を含めた、正社員の数のみをお答えください。

- |                 |                    |                      |
|-----------------|--------------------|----------------------|
| 1. 50名未満        | 3. 100名以上～500名未満   | 5. 1,000名以上～5,000名未満 |
| 2. 50名以上～100名未満 | 4. 500名以上～1,000名未満 | 6. 5,000名以上          |

問1-4 貴社(機関)の主要な業種について、当てはまる番号に1つ○をつけてください。

- |                  |                 |
|------------------|-----------------|
| 1. 農林漁業          | 9. 金融・保険業       |
| 2. 鉱業            | 10. 不動産・物品賃貸業   |
| 3. 建築業           | 11. 宿泊業・飲食サービス業 |
| 4. 製造業           | 12. 教育・学習支援事業   |
| 5. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 13. 医療・福祉業      |
| 6. 情報通信業         | 14. サービス業       |
| 7. 運輸業           | 15. その他( )      |
| 8. 卸売・小売業        |                 |

問1-5 貴社(機関)の主要な業種が、特に以下の芸術関連の場合、当てはまる番号に1つ○をつけてください。

- |                 |                  |
|-----------------|------------------|
| 1. 服飾(アパレル)関連   | 9. 出版関連          |
| 2. 広告・広報関連      | 10. 報道機関         |
| 3. 美術館・博物館      | 11. ICT関連        |
| 4. 美術・芸術関連      | 12. 映像・映画関連      |
| 5. 百貨店          | 13. イベント企画関連     |
| 6. ファインセラミックス関連 | 14. コミュニティデザイン関連 |
| 7. 伝統産業関連       | 15. 地域・まちづくり関連   |
| 8. Webデザイン関連    | 16. 工業デザイン関連     |

問1-6 H25年度の新卒採用実績(人数)について、当てはまる番号に1つ○をつけてください。

- |                |                  |
|----------------|------------------|
| 1. 採用実績なし      | 4. 50名以上～100名未満  |
| 2. 1名以上～10名未満  | 5. 100名以上～200名未満 |
| 3. 10名以上～50名未満 | 6. 200名以上        |

裏面もあります

問2. 次に、佐賀大学で構想中の新学部(「芸術学部(仮称)」)についてお伺いします。

問2-1 佐賀大学「芸術学部(仮称)」では、次のような力を身につけた人材を育成しようと考えています。これらのうち、あなたご自身や貴社(機関)は、どの力を身につけた学生を採用したいと思いますか。以下の項目から、上位3つに○をつけてください。

- |                      |              |
|----------------------|--------------|
| 1. 表現力               | 7. 粘り強さ      |
| 2. 発想力               | 8. マネジメント力   |
| 3. 専門性とマルチな能力        | 9. メディアデザイン力 |
| 4. 柔軟性               | 10. コーディネート力 |
| 5. 実践力               | 11. 経営的センス   |
| 6. 正解のない仕事(課題)に取り組む力 |              |

問2-2 佐賀大学「芸術学部(仮称)」には、従来の教育以外に次のような特色があります。あなたご自身や貴社(機関)にとって魅力があると感じられる項目について上位3つに○をつけてください。

1. アートの視点から、芸術の表現者のみならず、商品・サービス等の企業活動のコーディネートもできる汎用性を持った人材を養成します。
2. 総合大学の強みを生かし、医学、経済、農学など、さまざまな分野からアートに関わることを学べる「医文理芸融合型カリキュラム」によって、日本の芸術系学部では他に例がない、学際的な人材を養成します。
3. 表現力のみならず、発想力、経営・流通に加え、科学的知識の総合的なスキルを兼ね備えた人材を養成します。
4. 有田セラミック専攻は、歴史的陶都有田にある、日本で最高レベルのやきものの教育研究環境(有田サテライトキャンパス)を活用し、確かな技術と最新のデザイン力を兼ね備えた人材を養成します。
5. メディアデザイン専攻は、他大学のメディアデザイン学科やコースとは大きく異なり、最先端のメディアデザインの教育を行うことによって、アナログ・デジタル両方の表現力と豊かな発想力を持つ人材を養成します。
6. キュレーター専攻は、日本ではじめての学芸員養成コースであり、実践力のある学芸員やアートのマネジメントができる人材を養成します。また、学芸員のみならず、各種広報活動や芸術的な要素を盛り込んだ企画における活躍が期待できます。
7. フィールドデザイン専攻では、様々な「現場」をフィールドとし、フィールドとアートを結びつけて新しい価値を生み出す仕事(まちづくり、文化財保護、歴史遺産の観光利用など)で、地域社会と国際社会に貢献できる人材を養成します。

問2-3 あなたご自身や貴社(機関)からみて、佐賀大学の「芸術学部(仮称)」はこれからの社会にとって必要な学部であると思われますか。一番近いものに1つ○をつけてください。

- |               |                 |
|---------------|-----------------|
| 1. とても必要だと思う  | 3. あまり必要だと思わない  |
| 2. ある程度必要だと思う | 4. まったく必要だと思わない |

問2-4 あなたご自身や貴社(機関)からみて、佐賀大学の「芸術学部(仮称)」を卒業した学生を採用してみたいと思われませんか。一番近いものに1つ○をつけてください。

- |               |                  |
|---------------|------------------|
| 1. 採用してみたい    | 3. あまり採用したいと思わない |
| 2. 採用を検討してみたい | 4. 採用したいと思わない    |

問2-5 問2-4の理由について、どんなことでも構いませんので、自由にお答えください。(できるだけ具体的にお願いいたします)

問2-6 佐賀大学「芸術学部(仮称)」について、ご意見等をご自由にお書きください。

\*\*\* アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました \*\*\*

芸術学部（仮称）設置に関するニーズ調査（訪問調査）  
～地域の意見（概要）～ 【2次調査】

## 1. 概要

芸術学部（仮称）の設置にあたり、密接に関連する機関（企業）を訪問して、①人材育成、②就職、③地域連携・振興、等の観点から意見交換を行った。

## 2. 訪問期間

平成26年5月15日～9月18日

## 3. 訪問機関（企業）の概要

次の19機関（企業）を対象とした。

企業（機関）名	組織の概要
九州経済産業局	経済産業省の九州地域7県（福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島）における経済産業施策の総合的な窓口機関
佐賀県	佐賀県の人事行政に関する調査、研究、職員の競争試験及び採用選考等を行う監督機関
	佐賀県における文化に係る施策の総合調整等を所掌する部局
	佐賀県における海外関連施策の総合調整ポスト
佐賀県工業技術センター諸富デザインセンター	家具・建具業界の振興を図るためインテリア関連製品の開発支援やデザイン情報の提供および販売促進ツールのグラフィックデザインに関する支援を行うセンター分室
佐賀県立九州陶磁文化館	古伊万里や唐津をはじめとする九州の陶磁器を展示する美術館
公益財団法人佐賀県地域産業支	県内中小企業等の経営基盤の強化、経営の革新、研究開発の推進等を支援する事

援センター		業を産業界、大学、行政等との連携のもとに推進する財団法人
佐賀市役所		佐賀市政の総合計画・調整、広域行政、地域振興に関することを所掌する部局 COC 事業の窓口
佐賀県町村会		県内の全町村の事務の円滑な運営と地方自治の振興発展を図ることを目的とした団体
佐賀県市長会		佐賀県内各市による同上の団体
株式会社佐賀銀行		県外進出が顕著であり、隣り合う福岡・長崎両県、特に福岡都市圏と筑後に集中して出店する佐賀市に本店を置く地方銀行
財団法人 佐賀銀行文化財団		美術・音楽・演劇等を通して文化の向上を図り、豊かな地域社会づくりに寄与することを目的として佐賀銀行が設立した財団
認定 NPO 法人 地球市民の会		国際文化交流事業を通して国際理解と国際協力を進め、地球市民運動を通じて、世界平和と親善に貢献し、あわせて地域社会の向上発展に寄与することを目的とする特定非営利法人
有田商工会議所		有田地域の商工業の改善発達を図るための組織
佐賀商工会議所		<u>地域の商工業者の世論を代表</u> し、商工業の振興に力を注いで、国民経済の健全な発展に寄与するための地域総合経済団体
佐賀県中小企業団体中央会		中小企業の起業・創業・連携をサポートする団体
株式会社 STS エンタープライズ		総合広告代理店及びマスメディア関連の企画・制作・販売、イベント企画・実施企業
株式会社 エフエム佐賀		佐賀県を対象地域として FM 放送を行う放送事業者

株式会社 佐賀新聞社		佐賀県の日刊（朝刊専売）新聞社
株式会社 サガテレビ		佐賀県を対象地域としてテレビジョン放送を行う放送事業者
PINEBOOKS DESIGN OFFICE		デザイン事務所を併設した「アートと暮らしがつながる」を標榜した佐賀市内の古書店
レグナテック 株式会社		自社ブランド「CLASSE（クラッセ＝階級）」で、時代に左右されないシンプルなデザインの家具を、上質な素材でつくる諸富家具のメーカー



## I. 芸術学部（仮称）全体について

### 1. 学部名称について

➤芸術学部イコール芸術家養成の学部というイメージが先行

#### 株式会社 エフエム佐賀

個々に専攻の特徴の説明を聞けば理解できるが、これから進学する高校生を持つ親の立場と仮定した場合、芸術家を目指す学部と考え、進学を勧めるかは疑問である。そもそも、パンフレットすら手に取らない可能性が大きい。芸術学部イコール芸術家養成の学部というイメージが先行する。ネーミングは重要である。

➤勉強してきたことが見え辛い

#### 株式会社 佐賀新聞社

採用する企業側としては、提出された履歴書を見た時に勉強してきたことが見え辛いきらいがある。新聞社の場合、広告デザイン、紙面のレイアウト、写真等を連想するが、他の業種ではどうなのであろうか。

➤期待感

#### 株式会社 サガテレビ

採用する側としては、「独自性をもったユニークな人材」という期待感をもたせる。仮に一次面接で合格基準を多少下回っていたとしても、面接して「何故このような進路を選択したのか」質問したくなるような学部（名）である。

## 2. 総合大学としての強みについて

### ➤他学部との連携

#### 公益財団法人 佐賀県地域産業支援センター

産業デザインに限って言えば意匠のみならず内部構造やその材質までを含めた総合力を持った人材育成が必要である。

例えば、携帯電話であればボタンの位置や形状、自動車であればシートの角度や位置等、人間工学に根ざしたスキルが産業界で求められている。その点、佐賀大学は、理工学部や医学部という総合大学としての強みを持っている。

キーワード：材料工学、人間工学

### ➤ アール・ブリュット

#### 佐賀県庁文化課

現在アートの世界で広まりつつあるのが、「アール・ブリュット」という考え方である。マスコミでよく障害者が制作したアートが紹介されるが、基本となる技法はその周辺にいるアーティストがサポートしている。このような方面の出口も一考してはどうか。佐賀大学は、医学部を有する総合大学であるため、介護・福祉という面から芸術学部の学生教育への参画が期待出来る。

キーワード：介護、福祉

### ➤ バリアフリー

#### 佐賀県市長会

フィールドデザインの観点から、各市町の共通項として今後進展していく「少子高齢化」の視点を忘れないで欲しい。これは、観光という観点からも、外国人観光客への配慮が必要であり、バリアフリーその他への対応を学んで欲しい。さらに人口の減少に伴う街づくりとの関わりにも配慮して欲しい。具体には、増加していく空き家の利活用・再利用にも取り組んで欲しい。

キーワード：介護、福祉

## II. 地域等との連携について

### 1. 県からの要望・要請といったニーズ等

#### ➤ 県内企業経営者からの要望

##### 県内企業経営者

○夢がある話で、今後が楽しみ。わが社には、美術工芸課程卒業の社員が在籍しているが、業務について、別の角度から意見してくれることがある。きっと感性なのでしょうが、目の付け所が違うと感じる。

○是非、作家だけでなく、経営という概念をもった人材を育てていただきたい。

○もっと他の世界へも進出して行ってほしいし、感覚的にもっと対応できる人材を育成することが大きな売りになるのでは？

○国際化という意味で、マイセンなど、世界でも有名な焼き物の地域と連携していければと思う。

(平成25年度 第9回経営協議会(平成26年3月26日) 議事要旨(抜粋))

#### ➤ 観光戦略との連携

##### 佐賀県国際・観光部 観光戦略グループ

佐賀県では、「佐賀県観光戦略(2014年6月)」を策定している。従来の取り組みはイベント等の開催といった一過性のモノであり、その担い手も主として旅館やその関連の人たちであった。

しかしながら、持続性を確保するためには、総合的にデザイン(コーディネート)できる人材の育成が急務である。このため、佐賀県としてはこれらの人材育成・確保、活動主体の組織化に今後取り組んでいく。

例えば、標示板一つをとっても若者の視点が不可欠であり、さらには外国人観光客に対してはその国の宗教や習慣の知識が必要である。その場合、学生に加え留学生が数多く在籍する佐賀大学からのアドバイス、さらにはそのようなプロジェクトに参加してもらえると、一種のインターンシップとなり実践力を身につけるいい機会であると考える。

今後、佐賀県がいろいろな施策を実施していく上で学生の参加は、両者にとってメリットは大きいので、この新学部設置構想は、非常に良いタイミングである。

佐賀県観光戦略(2014年6月)

<https://www.pref.saga.lg.jp/web/var/rev0/0161/0065/201461319653.pdf>

## ➤ 佐賀県が求める人材像

### 佐賀県人事委員会

設置を予定している各専攻は、地域が求める人材育成についてバランスがとれた内容であると考えられる。

具体的に県庁が最も求めている人材は、佐賀県の情報発信が出来る人材である。地方製品の販路拡大を考えた場合、パッケージングやデザインといった見せ方に加え、ブランディング戦略、さらにはどのように売っていくのかという最終を見据えた総合力が要求される。加えて、高くアンテナを張った情報収集力も必要である。当然に、コミュニケーション能力やメンタル面の耐性も同様である。

総括すれば、現場感覚（を理解して）生活をデザインできる人材の育成が必要である。  
※以上のような人材獲得のため、佐賀県は「佐賀県職員採用試験[行政特別枠]」を設定

## ➤ 県内市町村の芸術学部（仮称）への期待

### 佐賀県町村会

フィールド・デザイン専攻に関しては、地域をフィールドワークの場として実践して欲しい。この分野では、佐賀大が日本のメッカとなることを期待している。

### 佐賀県市長会 松永事務局長

フィールドデザインの観点から、各市町の共通項として今後進展していく「少子高齢化」の視点を忘れないで欲しい。これは、観光という観点からも、外国人観光客への配慮が必要であり、バリアフリーその他への対応を学んで欲しい。さらに人口の減少に伴う街づくりとの関わりにも配慮して欲しい。具体には、増加していく空き家の利活用・再利用にも取り組んで欲しい。

## 2. 佐賀県と地域及び佐賀大学が変わっていくというイメージ

➤ アートの APU 版&新しい観光資源の創出（各市町村との連携）

### 財団法人佐賀銀行文化財団

佐賀大学は、アジアからの留学生が数多く在籍しており、アートの APU 版を目指すのも一つの方法である。

各自治体が作成する石碑や記念碑（モニュメント）等は、佐賀大学がデザインを受注してアート感覚あふれるものを県内に少しずつ増やしていく。そうすれば、恵比寿巡りに加え、5年後、10年後の新しい観光資源の創出につながっていくのではないかと。

<先進事例>

**越後妻有（つまり）大地の芸術祭の里**

<http://www.echigo-tsumari.jp/about/beginner/>

**ベネッセアート直島**

<http://www.benesse-artsite.jp/>

➤伝統的技法を武器

### 佐賀県立九州陶磁文化館

海外に視野を向けた場合、留学生の活用も重要となってくる。

東京芸大との差別化を考えた場合、伝統的技法を武器にするというのもひとつの方法である。地場産業の後押しし、雇用の拡大につなげてほしい。

九州の伝統工芸の核となる大学

（学長発言 平成26年9月4日 第15回全学的な組織再編WG）

➤県立博物館との連携強化

### 佐賀県庁文化課

佐賀県との連携を一層深め授業に取り入れていくことを提案したい。具体的には、学生が佐賀県立美術館・博物館が企画展を開催する場合に企画から展示までに参画し実践力を身につけていく機会を提供したい。さらには、学芸員の経験と学生の感性が交流できる場を設定することによって、互いがWin-Winの関係になっていくことが出来れば、新学部の大きな武器（特徴）となる。また、展示品の見所等も解説できれば、エドゥケーターとのスキルを身につけることが可能である。

➤県内各高校との連携

**株式会社 佐賀新聞社**

カーデザイナーでは、佐賀北高校美術コースの出身者がホンダで活躍しており、その他有田工業高校も人材を輩出している。これらの高校との融合も模索できるのではないか。

➤地域企業に対する「知」の還元

**レグナテック株式会社**

海外進出を考えた場合、現地の生活スタイルに合わせたデザイン・スケール・材質が求められるため、現地のデザイナーに発注している。そのようなスキルを持った人材であれば、採用を検討する。

佐賀大学は、多数の留学生が在籍しているため、語学や現地で受け入れられるデザイン等をアドバイスしてくれるコミュニティを設置して欲しい。

➤ユニバーサルデザインへの取り組みへの連携

<http://www.saga-ud.jp/>

### 3. 佐賀大学が新学部を設置することについての、佐賀のみならず、それ以外の地域を含めたバックグラウンドについて

#### ➤ 経済産業行政との適合

#### 九州経済産業局総務部

芸術表現コース（デザイン専攻）及び芸術マネジメントコース（フィールドデザイン専攻）の設置は時宜に適ったものと捉えている。

企業が商品を開発する場合、当然にデザイン（意匠）という商品イメージを作る作業が必要であるが、もっと広い視野に立った商品販売戦略等については外部の経営コンサルを活用しているのが現状である。経営コンサルは、経営や財務関連の人材から主に構成されており、開発した商品をどのように消費者にアピールしていくか、商品のイメージ戦略やコンセプト策定に関するスキルを持った人材を各企業では求めている。

※地域経済部新産業戦略課を窓口として、国や経済産業省のデザイン政策について資料提供を受けている。

#### ➤ 佐賀市の文化行政との連携強化

#### 佐賀市役所

佐賀市の文化振興基本計画の一環で、一昨年から佐賀市民芸術祭を開催し、佐賀大学の教員にも企画の段階から協力してもらっている。芸術学部設置後に、マネジメントまで学んだ芸術学部生が参加してくれると活性化できるのではないかと期待している。

音楽が中心であり領域が狭く、参加者に高齢の方が中心であるが、芸術学部生が関わることで幅広く展開できる。文化振興課でこうした文化的企画を、経済部で佐賀城プロジェクトマッピングといった企業とのコラボ企画を行っているが、芸術学部に進学する学生は他学部より感性が秀でており、自治体職員に限らず、社会人・市民として幅広くこうした企画での活躍が期待できる。

現在、ゆつつらーと館（佐賀大学地域連携サテライト）には多くの佐賀大学生が関わっているが、まちづくり、中心市街地活性化の面で言えば専門外の学生になる。芸術学部のフィールドマネジメント専攻の学生が参加してくれば、まさしく専門的な内容を勉強したスタッフが増えることになり心強い。大学としては地域に育ててもらいたいという想いもあるだろうが、そこはお互いにメリットをもってやれるのではないか。

佐賀市と佐賀大学はCOC構想のもと連携しているが、その推進力にもなり得るのではないか。

### Ⅲ. 就職等について

#### 1. 卒業生にどのような出口があって、どう活躍できるのかというイメージ

##### ➤キュレーター養成

###### **佐賀県立九州陶磁文化館**

学芸員、特に小規模な博物館においては、企画、図録作成（写真撮影も）から展示、開催してからは来館者に対する教育という多彩な能力が求められる。このうち、企画段階では展示内容を面白くする仕掛けや展示にはデザイナー的な感性も要求される。加えて、作品の貸借については他の館との不断のパイプ作りのためのネットワーク作りも必要となる。また、企画展示であれば広報の面からメディアとの対応能力も要求される。

国立の博物館では「博物館学芸員」の資格を求めることはなく、海外や学会での実績、語学力といったスキルが採用条件となる。学芸員の出口（就職）という観点から、どのような博物館をターゲットにするかという点も人材育成の観点からは重要である。

九州陶磁文化館における採用の視点は専門性である。当然にそれぞれの館には特色があり、卒業生が目指すスキルを習得できるカリキュラムの準備も必要である。

#### 2. 地域が求める人材像

##### ➤マスコミが求める人材像

###### **株式会社 佐賀新聞社**

フィールドデザイン専攻の学生であれば、街おこし（づくり）をどのように考えているか、実際にどのような実を挙げてきたのか、実践力を評価する。

###### **株式会社 サガテレビ 大森報道編成制作局長**

求めるものは、企画・立案能力である。しかし、制作はチームで行うので、コミュニケーション能力は当然に要求される。専門的能力が3割とすれば、残りは人間としての総合力が要求される。さらに企業は収益性も念頭に置く必要もあるし、広い視野に立ったマネジメント能力も必要である。大学の教育の中で、どのように実践力を身につけていくかが課題と考える。



### 株式会社 STS エンタープライズ

これからは、ネットや SNS がより一層普及拡大していくことが予想され従来のマス広告は、投資の割には効果が薄く、時代遅れになっていく。SNS 等は、例えば遠隔地にある中小の企業であっても、世界やさらにはエンドユーザーに直接、情報発信が可能な手段である。のみならず、24 時間の更新が可能である。

このことにより、自社にメディアを備える「オウンドメディア【owned media】」が可能となるが、現時点ではコンテンツの作成や編集等、その技術を駆使できるスキルを持った人材は育っていない。

最高学府である佐賀大学では、メディアデザイン専攻を単なる専門学校レベルではなく、企業経営を戦略的に支援する人材育成を目指して欲しい。将来的にはビッグデータの利用も可能となるはずであり、それらを分析できる人材が求められてくる。

#### ➤マネジメント能力

### 財団法人佐賀銀行文化財団

アートのみの特化（限定）した人材ではなく、マネジメントやコーディネート出来る人材が必要。さらに言えば、異物と異物を連携させていく能力を備えていれば、企業でも通用する汎用力といえる。

#### ➤社会における実践力

### 佐賀市役所

フィールドデザイン専攻の学生は、座学でなく学外の様々なフィールドにおいて、実社会において実習を行い、そうしたバランス感覚が必要

【カリキュラムとの整合：フィールドデザイン専攻カリキュラム【H260730】  
地域創世フィールドワーク（実習）、フィールドデザイン演習（演習）等】

#### ➤材料や材質の知識

### 有田商工会議所

手わざに必要なのは、型どおりに物を作る技術よりも、クリエイティブな感性や美的センスといったものである。一言でいえばデザイン感覚を身につけた人材である。

加えて、材料や材質の知識を備えてほしい。それば焼き物であれば、土に混ぜるものや釉薬の発色にまで応用が可能となる。さらには、漆・ガラス・金属をコラボレーションできる知識を必要である。

【カリキュラムとの整合：有田セラミック専攻カリキュラム【H260730】

アートと科学（講義）、材料学（Ⅱ）釉薬化学（講義・演習）、漆・木工芸基礎（実習）

## ➤手わざの習得

### 諸富デザインセンター

基礎的なスキルとして「手わざ」は、必須である。三次元 CAD でデザインした場合、スクリーンに映し出された映像を見て分かったつもりになるだけで、実際に作らせてみると理解不足であることが判明する。例えば、コーヒーカップの取っ手がどのような形状でどのようなについているかも分からなくなる。

つまり、実際にモノを作った経験が不足しているため、最終形を頭の中にイメージするトレーニングが不足しているためである。彫刻や彫塑の経験がある者は、その点造形能力が優れているといえる。

#### カリキュラムとの整合：

表現・マネジメント共通基礎

## ➤手わざの経験

### レグナテック株式会社

五軸の NC 旋盤を導入したが、プログラミングする場合、基礎力としての感性に加え、頭の中でイメージをデザインする力が必須である。そのため、モノ作りには、しっかりと手仕事（手わざ）の経験が必要である。

特に木工の場合、材質、強度、含水率等が均質ではなく、刃の硬度や回転率、さらには切削する面も考慮しなければならない。加えて、季節や温度・湿度によっても伸縮するため、素材の知識を習得することは重要である。

#### カリキュラムとの整合：

表現・マネジメント共通基礎、木材工芸概論(講義)、漆・木工芸基礎(実習)

## ➤デザインへの理論付け

### PINEBOOKS DESIGN OFFICE

例えば、デザインする場合に1本の線がどのような意味を持つのか、タイポグラフィにしても、それがどのような視覚的効果を持つのか。その表現の持つ意味を理論付けした教育を行って欲しい。「美術・工芸専攻」や「有田セラミック専攻」は多分に感性に頼る部分が多いが、「メディア・デザイン専攻」は、理論によってある程度のカバーが可能である。

理論的なスキルを身につけていれば、トレンドの動向分析も可能となり、流行の先取りも可能となるのではないかと。

#### カリキュラムとの整合：メディアデザイン専攻カリキュラム【H260730】

タイポグラフィ(演習)

芸術地域デザイン学部(仮称)関連の求人状況調査(専攻に対応する事業内容)【3次調査】

資料10

コース	対応する専攻	求人年度	求人票番号	企業名	事業内容等	
芸術表現	美術工芸	2014①	20130202	[株]アッシュ・ペー・フランス	インテリア:小売り店舗運営、販売(生活雑貨、家具)アート:創作活動の支援、アートギャラリーイベントの企画運営	
		2014③	20132212	(株)中津木工	家具インテリア製品の制作、建築、内装、建具工事の施行	
		2014③	20132362	[有]劇団かかし座	影絵美術や影絵人形などのデザイン制作、風景、人形、静物などの原画デザイン	
		2014③	20132025	(有)廣瀬染工場	江戸小紋の技法で行う染めの作業全般	
		2014①	20130011	(株)アトリエミラネーゼ	宝石、貴金属の加工販売	
		2013②	20120829	四季株式会社【劇団四季】	演劇の企画、制作、興業	
	有田セラミック	2013①	20120177	(株)三英コーポレーション	生活関連用品の輸出入、及び国内販売(家具、家庭用品、服飾雑貨)	
		2013①	20120295	[株]ポーラ	化粧品、健康食品の製造販売、ボディーファッション、アパレル、宝飾品の企画販売など	
		2014③	20132325	ゆう工房	陶芸、銀アクセサリー、ガラス工芸、染色、照明クラフトの教室運営。物販、ギャラリーの企画、陶器、クラフトの制作販売	
		2013①	20120509	(株)イオンリテール	店舗での接客、販売業務を基礎として、商品化、売り場作り、商品発注、管理業務並びに、売上管理・組織マネージメント	
	メディアデザイン	2014②	20130913	読売新聞社	新聞広告の営業、企画、立案	
		2014①	20130183	(株)ソーバル	大手メーカーのデジタル製品開発(キャノン、ソニー)。各種WEBシステムの設計、開発	
		2014①	20130217	(株)ガンバリオン	家庭用ゲームソフトの企画開発	
		2014①	20130002	(株)EWMファクトリー	WEB企画、制作、運用、開発、保守管理	
		2013②	20121253	(株)ジャンヌマリー	ファッション、服飾雑貨のデザイン、企画開発。CI、パッケージ等のグラフィックデザイン	
	マネジメント	キュレーター	2013④	20122916	(公)新潟市芸術文化振興財団	学芸員、新潟市歴史博物館または新潟市文化財旧小澤家住宅等で館運営、資料の収集保存等、調査研究、教育普及、展示等
			2013③	20122545	海の見える杜美術館	学芸員、中世から近代の日本絵画
2014②			20131139	(公)鹿児島県文化振興財団、鹿児島県霧島アート森	学芸員、霧島アートの森における、展示、その他の各種プログラムの企画運営、現bン大美術に関する資料の収集・保存	
フィールドデザイン		2014①	20130266	[株]類設計室	都市計画・建築設計(意匠・設備・構造)・管理	
		2014②	20130898	一般財団法人、休暇村協会	公共のリゾート事業(ホテル事業、レクリエーション事業)	
		2013①	20120464	(株)クレオ	大手チェーンストア(コンビニエンスストア、スーパーマーケット)、メーカー、専門店に対してのマーケティング企画、マーケット調査、分析、ブランド開発、育成企画	
		2014②	20131457	(株)木下サーカス	マスコミ、スポンサーとのタイアップ、商圏調査、その他プロモーションなど	

\* 専攻毎の養成する人材像、身に付ける付加価値に対応する事業内容の企業を抜粋して表示

## 教 員 名 簿

学 長 の 氏 名 等						
調書 番号	役職名	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額基本給 (千円)	現 職 (就任年月)
—	学長	ホケチ 孝夫 佛淵 孝夫 <平成21年10月>		博士 (医学)		佐賀大学長 (平10.9)

教 員 の 氏 名 等												
(芸術地域デザイン学部 芸術地域デザイン学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
①①	専	教授	タナカ ヨシオ 田中 嘉生 <平成28年4月>		教育学士		芸術表現基礎(工芸) 芸術表現B(染色工芸)	1前 1後	0.4 2	1 3	佐賀大学 文化教育学部 教授 (平11.10)	5日
①②	専	講師	トリヤ サヤカ 鳥谷 さやか <平成29年4月>		修士(教育学)		芸術表現基礎(工芸) 芸術表現B(染色工芸) 染色工芸基礎【隔年】 染色工芸概論【隔年】 染色工芸Ia【隔年】 染色工芸Ib【隔年】 染色工芸IIa【隔年】 染色工芸IIb【隔年】 地域創生フィールドワーク 卒業研究	1前 1後 2・3前 2・3前 2・3前 2・3前 2・3後 2・3後 3通 4通	0.4 2 2 2 4 4 4 4 0.3 6	1 3 1 1 1 1 1 1 1 1	福岡県立 太宰府高等学校 非常勤講師 (平24.5)	5日
②	専	教授	トミタ ヨシノリ 富田 義典 <平成28年4月>		博士(経済学)		地域デザイン基礎(マネジメント) 地域デザイン基礎(フィールドワーク) 職業キャリア論 社会政策 コミュニティビジネス 地域雇用政策論 卒業研究	1前 1前 1後 2前 2前 3前 4通	0.1 0.1 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 経済学部 教授 (平9.10)	5日
③	専	教授	アサダ サトコ 浅田 智子 <平成28年4月>		Master of Arts (オーストラリア)		地域デザイン基礎(マネジメント) 地域デザイン基礎(フィールドワーク) 博物館概論 博物館学内実習※ キュレイトイング応用I※ 博物館経営論 博物館展示論 美術史II 国内外芸術研修 博物館学外実習 卒業研究	1前 1前 1後 1後 2前 2前 2後 3前 3前 4通	0.1 0.1 2 0.6 0.8 2 2 2 0.8 0.2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 文化教育学部 教授 (平27.4)	5日
④	専	教授	アラキ ヒロノブ 荒木 博申 <平成28年4月>		修士(デザイン学)		芸術表現基礎(絵画) 地域デザイン基礎(デザイン) デザイン発想論※ 視覚伝達デザインI 視覚伝達デザインII デザイン基礎※ デザインプロジェクト演習※ 地域創生フィールドワーク 視覚伝達デザインIII デザイン実践セミナー※ 卒業研究	1前 1前 1後 2前 3前 2後 2後 3通 3後 3後 4通	0.2 0.8 1 2 2 1 1 0.3 2 1 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 文化教育学部 教授 (平11.4)	5日
⑤	専	教授	ヤマシタ ムネトシ 山下 宗利 <平成28年4月>		理学博士		地域デザイン基礎(デザイン) 地域デザイン基礎(フィールドワーク) 風土と地理学 フィールドワーク実習 地域情報マネジメント演習 地域再生論 都市空間論I 地域創生フィールドワーク 地域調査分析 都市空間論II 卒業研究	1前 1前 1後 2前 2前 2前 2後 3通 3前 3後 4通	0.1 1 2 2 2 2 2 1.5 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 文化教育学部 教授 (平2.4)	5日
⑥	専	教授	ニシジマ ヒロキ 西島 博樹 <平成28年4月>		博士(学術)		地域デザイン基礎(デザイン) 地域デザイン基礎(マネジメント) 地域デザイン基礎(フィールドワーク) 芸術表現基礎(工芸) 流通論 文化経済論 有田キャンパスプロジェクト 地域創生フィールドワーク 陶磁器産業論 地域マネジメント論 経営・流通演習III 経営・流通演習IV 卒業研究	1前 1前 1前 1前 1前 1後 3通 3通 3後 3前 2後 3後 4通	0.1 0.1 0.1 0.4 2 2 1 0.3 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	長崎県立大学 経済学部 教授 (平21.4)	5日

⑦	専	教授	ヤナギ ケンジ 柳 健司 <平成28年4月>	芸術学修士	芸術表現基礎（絵画） 芸術表現基礎（彫刻） 芸術表現基礎（工芸） 現代美術概論 【隔年】 ミクストメディア Ia 【隔年】 ミクストメディア Ib 【隔年】 ミクストメディア IIa 【隔年】 ミクストメディア IIb 【隔年】 ミクストメディア基礎 【隔年】 地域創生フィールドワーク 卒業研究	1前 1前 1前 2・3後 2・3前 2・3前 2・3後 2・3後 2・3後 3通 4通	0.2 0.4 0.4 2 4 4 4 4 2 0.3 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	学校法人小林学園 本庄東高等学校 美術科目 非常勤講師 (平26.4)	5日
⑧	専	教授	ナカムラ タカトシ 中村 隆敏 <平成28年4月>	博士（学術）	地域デザイン基礎（デザイン） 地域デザイン基礎（フィールドワーク） デジタル表現基礎 映像デザインⅠ 映像デザインⅡ 地域創生フィールドワーク デザイン実践セミナー ※ 映像デザインⅢ 卒業研究	1前 1前 1後 2前 3前 3通 3後 3後 4通	0.1 0.1 2 2 2 0.3 1 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 文化教育学部 教授 (平20.4)	5日
⑨	専	教授	ヨシズミ マコ 吉住 磨子 <平成28年4月>	Doctor of Philosophy in Art History (イギリス)	芸術表現基礎（絵画） 地域デザイン基礎（フィールドワーク） 美術史基礎 博物館学内実習 ※ キュレイトイング応用Ⅰ ※ 美術史Ⅰ 美術史演習 博物館学外実習 国内外芸術研修 卒業研究	1前 1前 1後 1後 2前 2前 2後 3前 3前 4通	0.2 0.1 2 0.6 0.6 2 2 0.4 0.8 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 文化教育学部 教授 (平7.10)	5日
⑩	専	教授	アカツ タカシ 赤津 隆 <平成28年4月>	博士（工学）	地域デザイン基礎（マネジメント） セラミック原料化学 セラミック焼成 材料学 有田キャンパスプロジェクト アートと科学 釉薬化学Ⅱ セラミック科学演習 セラミック科学実験 卒業研究	1前 2前 2後 2後 3通 2.3前 3後 3前 3前 4通	0.1 2 2 2 1 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 大学院工学系研究科 教授 (平27.4)	5日
⑪	専	教授	タナカ ユウキ 田中 右紀 <平成28年4月>	芸術学修士	芸術表現基礎（絵画） 芸術表現基礎（彫刻） 芸術表現基礎（工芸） 芸術表現B（窯芸） 唐津焼演習 工芸理論 窯芸基礎 ※ 有田キャンパスプロジェクト 陶磁成形技法Ⅲ ※ 卒業研究	1前 1前 1前 1後 2・3前 2・3前 2後 3通 3前 4通	0.2 0.4 0.4 2 1 2 1.4 1 0.9 6	1 1 1 3 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 文化教育学部 教授 (平17.4)	5日
⑫	専	教授	アリマ タカフミ 有馬 隆文 <平成28年4月>	博士（工学）	地域デザイン基礎（デザイン） 地域デザイン基礎（フィールドワーク） ランドスケープ 都市・地域空間史 地域再生デザイン学 フィールドデザイン演習Ⅰ 地域創生フィールドワーク フィールドデザイン演習Ⅱ 卒業研究	1前 1前 1後 2前 2後 2後 3通 3前 4通	0.1 0.1 2 2 2 2 0.3 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 大学院工学系研究科 教授 (平27.4)	5日
⑬	専	教授	ヤマザキ イサオ 山崎 功 <平成28年4月>	修士（法学）	地域デザイン基礎（デザイン） 地域デザイン基礎（フィールドワーク） 比較オリエンタリズム研究 ヘリテージマネジメント論 ※ キュレイトイング応用Ⅰ ※ エリアスタディー演習Ⅰ 国内外芸術研修 博物館の政治学 エリアスタディー演習Ⅱ 卒業研究	1前 1前 1後 2前 2前 2後 3前 3前 3前 4通	0.1 0.1 2 0.6 0.6 2 0.8 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 文化教育学部 教授 (平13.4)	5日
⑭	専	教授	トクヤス カズヒロ 徳安 和博 <平成28年4月>	修士（教育学）	芸術表現基礎（彫刻） 芸術表現A（彫刻） 彫刻Ⅰa 【隔年】 彫刻Ⅰb 【隔年】 彫刻基礎 【隔年】 彫刻概論 【隔年】 彫刻Ⅱa 【隔年】 彫刻Ⅱb 【隔年】 地域創生フィールドワーク 卒業研究	1前 1後 2・3前 2・3前 2・3前 2・3前 2・3後 2・3後 3通 4通	0.4 2 4 4 2 2 4 4 0.3 6	1 3 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 文化教育学部 教授 (平20.4)	5日

⑮	専	教授	シゲフジ テルユキ 重藤 輝行 <平成28年4月>	修士(文学) ※	地域デザイン基礎(デザイン) 地域デザイン基礎(フィールドワーク) 文化財の保存と活用 考古学Ⅰ 考古学演習Ⅰ(古代以前) 【隔年】 ヘリテージマネジメント演習 ヘリテージマネジメント論 ※ 考古学Ⅱ 考古学実習Ⅰ(室内) 地域創生フィールドワーク 考古学演習Ⅱ(中世・近世) 【隔年】 考古学実習Ⅱ(野外) 卒業研究	1前 1前 2前 2前 2前 2前 2後 2後 3通 3前 3前 4通	0.1 0.1 2 2 2 2 2 2 0.3 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 文化教育学部 教授 (平20.4)	5日
⑯	専	教授	ヤマグチ ユキコ 山口 夕妃子 <平成28年4月>	博士(商学)	地域デザイン基礎(デザイン) 地域デザイン基礎(マネジメント) 地域デザイン基礎(フィールドワーク) アートマーケティング 美術品流通論 経営・流通演習Ⅰ 地域創生フィールドワーク 経営・流通演習Ⅱ 陶磁マーケティング ミュージアム・マーケティング 卒業研究	1前 1前 1前 1後 2後 2後 3通 3前 3前 3前 4通	0.1 0.1 0.1 2 2 2 0.3 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 経済学部 教授 (平27.4)	5日
⑰	専	准教授	ホートン ステファニー アン Houghton Stephanie Ann <平成28年4月>	Doctor of Philosophy in the Faculty of Social Sciences and Health (イギリス)	地域デザイン基礎(デザイン) 地域デザイン基礎(フィールドワーク) Key Concepts in Art (キーコンセプトインアート) Intercultural Communication and Art I (インターカルチュラル・コミュニケーションとアートⅠ) Critical Studies in Language and Image I (クリティカル・スタディーズ(言語とイメージ)Ⅰ) 国内外芸術研修 Critical Studies in Language and Image II (クリティカル・スタディーズ(言語とイメージ)Ⅱ) Intercultural Communication and Art II (インターカルチュラル・コミュニケーションとアートⅡ) Art in Context (アート・イン・コンテキスト) Critical Studies in Language and Image III (クリティカル・スタディーズ(言語とイメージ)Ⅲ) Intercultural Communication and Art III (インターカルチュラル・コミュニケーションとアートⅢ) 卒業研究	1前 1前 1後 2後 2後 3前 3前 3前 3前 3後 3後 4通	0.1 0.1 2 2 2 0.8 2 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 文化教育学部 准教授 (平23.4)	5日
⑱	専	准教授	フジマキ ミエ 藤巻 美恵 <平成28年4月>	博士(学術)	地域デザイン基礎(デザイン) 芸術表現基礎(工芸) 博物館学内実習 ※ キュレイトリング基礎 博物館資料保存論(芸術と倫理を含む) 博物館資料論 キュレーター実務実践演習 キュレイトリング応用Ⅱ ※ 国内外芸術研修 博物館学外実習 美術史Ⅲ 卒業研究	1前 1前 1後 2前 2前 2後 2後 2後 3前 3前 3前 4通	0.1 0.4 0.6 2 2 2 2 1 0.8 0.2 2 6	1 1 1 1 2 1 1 1 1 1 1 1	東京文化財研究所 文化遺産国際協力 センター 客員研究員 (平23.4)	5日
⑲	専	准教授	ハナダ シンイチ 花田 伸一 <平成28年4月>	学士(文学)	地域デザイン基礎(デザイン) 地域デザイン基礎(マネジメント) 地域デザイン基礎(フィールドワーク) アートマネジメント アートプロデュース論 芸術文化・地域創生論(国内外地域プロジェクト事例研究) キュレイトリング応用Ⅱ ※ アートプロデュース演習Ⅰ 地域創生フィールドワーク アートプロデュース演習Ⅱ 卒業研究	1前 1前 1前 1前 2前 2後 2後 2後 3通 3前 4通	0.1 0.1 0.1 2 2 2 1 2 0.3 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	福岡県 新社会推進部 県民文化 スポーツ課 (九州芸文館 担当学芸員) 非常勤職員 (平26.4)	5日
⑳	専	准教授	コセムラ タカヨシ 小瀬村 貴哉 <平成28年4月>	修士(美術)	芸術表現基礎(絵画) 地域デザイン基礎(デザイン) デザイン発想論 ※ コンテンツデザインⅡ デザイン基礎 ※ コンテンツデザインⅠ 有田キャンパスプロジェクト メディアプレゼンテーション コンテンツデザインⅢ 卒業研究	1前 1前 1後 3前 2後 2後 3通 3前 3後 4通	0.2 0.1 1 2 1 2 1 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	学校法人専門学校 東京スクール・ オブ・ビジネス 非常勤講師 (平26.9)	5日

⑳	専	准教授	スギモト タツオ 杉本 達應 <平成28年4月>	修士(学 際情報 学)	地域デザイン基礎(デザイン) 地域デザイン基礎(フィールドワーク) デジタル表現基礎 情報デザインⅡ 情報デザインⅠ デザインプロジェクト演習 ※ 博物館情報・メディア論 地域創生フィールドワーク 情報デザインⅢ 卒業研究	1前 1前 1後 3前 2後 2後 3通 3後 4通	0.1 0.1 2 2 2 1 2 0.3 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1	札幌市立大学 デザイン学部 講師 (平25.4)	5日
㉑	専	准教授	オギソ マコト 小木曾 誠 <平成28年4月>	修士(美 術) ※	芸術表現基礎(絵画) 芸術表現基礎(彫刻) 芸術表現A(西洋画) 西洋画概論【隔年】 西洋画Ⅰa【隔年】 西洋画Ⅰb【隔年】 西洋画基礎【隔年】 西洋画Ⅱa【隔年】 西洋画Ⅱb【隔年】 地域創生フィールドワーク 卒業研究	1前 1前 1後 2・3前 2・3前 2・3前 2・3前 2・3後 2・3後 3通 4通	0.8 0.4 2 2 4 4 2 4 4 0.3 6	1 1 3 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 文化教育学部 准教授 (平18.4)	5日
㉒	専	准教授	イシザキ トモカズ 石崎 誠和 <平成28年4月>	博士(芸 術学)	芸術表現基礎(絵画) 芸術表現A(日本画) 日本画Ⅰa【隔年】 日本画Ⅰb【隔年】 日本画概論【隔年】 日本画Ⅱa【隔年】 日本画Ⅱb【隔年】 日本画基礎【隔年】 地域創生フィールドワーク 卒業研究	1前 1後 2・3前 2・3前 2・3後 2・3後 2・3後 2・3後 3通 4通	0.2 2 4 4 2 4 4 2 0.3 6	1 3 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 文化教育学部 准教授 (平23.4)	5日
㉓	専	准教授	イガワ タケシ 井川 健 <平成28年4月>	博士(美 術)	芸術表現基礎(彫刻) 芸術表現基礎(工芸) 芸術表現B(漆・木工芸) 応用木工芸 漆・木工芸Ⅰa【隔年】 漆・木工芸Ⅰb【隔年】 漆・木工芸概論【隔年】 漆・木工芸Ⅱa【隔年】 漆・木工芸Ⅱb【隔年】 漆・木工芸基礎【隔年】 地域創生フィールドワーク 卒業研究	1前 1前 1後 2・3前 2・3前 2・3前 2・3後 2・3後 2・3後 2・3後 3通 4通	0.4 0.4 2 2 4 4 2 4 4 2 0.3 6	1 1 3 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 文化教育学部 准教授 (平21.4)	5日
㉔	専	講師	ユノハラ キヨシ 湯之原 淳 <平成29年4月>	教育学修 士	陶磁成形技法Ⅰ 陶磁成形技法Ⅱ 地域創生フィールドワーク 陶磁成形技法Ⅲ ※ 卒業研究	2前 2後 3通 3前 4通	2 2 0.3 1.1 6	1 1 1 1 1	佐賀県立 有田窯業大学校 助教授 (平5.4)	5日
㉕	専	講師	カイ ヒロフミ 甲斐 広文 <平成29年4月>	教育学士	図法 ロクロ成形Ⅰ ロクロ成形Ⅱ 有田キャンパスプロジェクト ロクロ成形Ⅲ 卒業研究	2前 2前 2後 3通 3前 4通	2 2 2 1 2 6	1 1 1 1 1 1	佐賀県立 有田窯業大学校 助教授 (平2.4)	5日
㉖	専	講師	ミキ エツコ 三木 悦子 <平成29年4月>	修士(デ ザイン 学)	図法 石膏型成型Ⅰ 窯芸基礎 ※ 石膏型成型Ⅱ 地域創生フィールドワーク 石膏型成型Ⅲ 卒業研究	2前 2前 2後 2後 3通 3前 4通	2 2 0.6 2 0.3 2 6	1 1 1 1 1 1 1	佐賀県立 有田窯業大学校 副主査 (平16.4)	5日
26	兼担	講師	カイ キョウコ 甲斐 今日子 <平成30年4月>	博士 (医学)	衣食住文化論【隔年】※	2.3前	0.8	1	佐賀大学 文化教育学部 教授 (昭61.10)	
27	兼担	講師	ミヤタケ マサト 宮武 正登 <平成30年4月>	文学修士	地域史演習 ※ 地域史論Ⅲ【隔年】	3前 3後	0.9 2	1 1	佐賀大学 全学教育機構 教授 (平26.4)	—
28	兼担	講師	キヨハラ ナミコ 清原 奈美子 <平成28年10月>	文学修士	博物館学内実習 ※ 博物館学外実習	1後 3前	0.2 0.2	1 1	佐賀大学学務部 教務課(美術館) 主任 (平25.4)	
29	兼担	講師	クリヤマ ヒロシ 栗山 裕至 <平成29年10月>	学術修士 (芸術 学)	博物館教育論 ※	2後	0.5	1	佐賀大学 文化教育学部 教授 (平7.4)	
30	兼担	講師	サワシマ トモアキ 澤島 智明 <平成30年4月>	博士 (学術)	衣食住文化論【隔年】※	2.3前	0.6	1	佐賀大学 文化教育学部 教授 (平17.4)	—



31	兼担	講師	イトウ アキヒロ 伊藤 昭弘 <平成29年4月>	博士 (文学)	地域史論Ⅰ ※ 古文書解読演習 ※	2前 3後	0.9 0.9	1 1	佐賀大学 地域学歴史文化 研究センター 准教授 (平18.4)	
32	兼担	講師	フジナガ ゴウ 藤永 豪 <平成30年4月>	博士(理 学)	地域資源論 【隔年】	3前	2	1	佐賀大学 文化教育学部 准教授 (平18.4)	
33	兼担	講師	キジマ アツシ 鬼嶋 淳 <平成29年10月>	博士(文 学)	地域史論Ⅱ 【隔年】 地域史演習 ※	2後 3前	2 1.1	1 1	佐賀大学 文化教育学部 准教授 (平19.10)	
34	兼担	講師	ワダ マナブ 和田 学 <平成29年10月>	博士(芸 術学)	博物館教育論 ※	2後	0.5	1	佐賀大学 文化教育学部 准教授 (平26.4)	
35	兼担	講師	カヤシマ トモコ 萱島 知子 <平成29年4月>	博士 (教育学)	衣食住文化論 【隔年】※ 食と器 【隔年】※	2.3前 2.3前	0.6 0.4	1 1	佐賀大学 文化教育学部 准教授 (平23.4)	
36	兼担	講師	ミツマツ マコト 三ツ松 誠 <平成29年4月>	博士 (文学)	地域史論Ⅰ ※ 古文書解読演習 ※	2前 3後	1.1 1.1	1 1	佐賀大学 地域学歴史文化 研究センター 講師 (平26.6)	
37	兼任	講師	ノグチ カズコ 野口 和子 <平成29年4月>	なし	食と器 【隔年】※	2.3前	1.6	1	なし	—
38	兼任	講師	アオキ トシユキ 青木歳幸 <平成29年4月>	博士(歴 史学)	アーカイブズ論	2前	2	1	佐賀大学 非常勤講師 (平26.4) 久留米大学 非常勤講師 (平26.4)	
39	兼任	講師	ヒライ ヤスオ 平井 安雄 (平成29年4月)	工学士	知的財産権学	2前	2	1	平井・筒井国際特許 事務所所長 (H4.7)	—
40	兼任	講師	イタバシ ヒロミ 板橋 廣美 <平成29年10月>	法学士	石膏型成型特別演習 【隔年】	2・3後	2	1	板橋廣美陶芸研究所 所長 (昭54.4)	—
41	兼任	講師	オオハシ コウジ 大橋 康二 <平成29年10月>	文学修士	陶磁史	2後	2	1	佐賀県立 有田窯業大学校 非常勤講師 (平20.4)	-
42	兼任	講師	オクガワ シュンエモン (カズトシ) 奥川 俊右衛門(一 俊) <平成30年4月>	なし	ロクロ特別演習	3前	2	1	佐賀県立 有田窯業大学 非常勤講師 (平13.4)	-
43	兼任	講師	アリタ タクミ 有田 巧 <平成30年10月>	芸術修士	西洋画Ⅲa 【隔年】 西洋画Ⅲb 【隔年】	3後 3後	2 2	1 1	崇城大学 芸術学部 教授 (平15.4)	-
44	兼任	講師	アベ マモル 阿部 守 <平成29年4月>	芸術学修 士	製図	2前	2	1	福岡教育大学 教育学部 教授 (平14.4)	-
45	兼任	講師	マエダ アキヒロ 前田 昭博 <平成29年4月>	芸術学士	陶磁技法特別演習 【隔年】	2・3前	2	1	国の重要無形文化財 「白磁」部門保持者 (平25.10)	-
46	兼任	講師	イワナガ チホコ 岩永 千穂子 <平成29年4月>	なし	装飾技法Ⅰ 装飾技法Ⅱ	2前 2後	2 2	1 1	佐賀県立 有田窯業大学校 嘱託講師 (平12.4)	-
47	兼任	講師	ヤマモト ノブキ 山本 伸樹 <平成30年10月>	美術学修 士	ミクストメディアⅢb 【隔年】	3後	2	1	美術家 (昭59.4)	—
48	兼任	講師	オカモト サクレイ(ケン ジ) 岡本 作礼(憲次) <平成29年4月>	なし	唐津焼演習	2・3前	1	1	窯元「作礼窯」 当主 (平元.4)	-
49	兼任	講師	チヨダ ノリコ 千代田 憲子 <平成30年4月>	博士 (芸術工 学)	染色工芸Ⅲa 【隔年】 染色工芸Ⅲb 【隔年】	3前 3前	2 2	1 1	愛媛大学 教育学部 教授 (平12.9)	-
50	兼任	講師	フクダ アツオ 福田 篤夫 <平成31年10月>	美術学士	ミクストメディアⅢa 【隔年】	3後	2	1	彫刻家 田中アートプログラム (昭55.4)	—
51	兼任	講師	クリモト ナツキ 栗本 夏樹 <平成29年4月>	修士(芸 術)	漆・木工芸Ⅲa 【隔年】 漆・木工芸Ⅲb 【隔年】	2・3前 2・3前	2 2	1 1	京都市立芸術大学 美術学部教授 (平5.4)	-
52	兼任	講師	ミヤタ ヨウヘイ 宮田 洋平 <平成29年10月>	芸術学修 士	金属工芸Ⅱa 【隔年】 金属工芸Ⅱb 【隔年】	2・3後 2・3後	2 2	1 1	福岡教育大学 教育学部 教授 (平12.4)	-
53	兼任	講師	ナカオ セイイチロウ 中尾 清一郎 <平成29年10月>	商学士	世界の中の肥前陶磁器	2後	2	1	株式会社 佐賀新聞社 代表取締役社長 (昭60.12)	—

54	兼任	講師	シン ミサ 辛 美沙 <平成30年4月>	修士 Master of Arts in Art Dealersh ip and Collecti ng (Visual Art Administ ration) (米国)		アートマネジメント特別講義【隔年】	3前	2	1	株式会社Misa Shin & Co. 代表 (平17) MISA SHIN GALLER 代表 (平22.11) 株式会社磯崎新アト リエ 代表 (平24.10)	-
55	兼任	講師	カンノ ヤスシ 菅野 靖 <平成29年4月>	芸術学修 士		金属工芸 I a 【隔年】	2・3前	2	1	長岡造形大学 造形学部 教授 (平22.4)	-
56	兼任	講師	イマイズミ イマエモン 今泉 今右衛門 <平成29年10月>	美術学士		陶磁特別演習 I 【隔年】	2・3後	2	1	合資会社 今右衛門 代表社員 (平14.6)	-
57	兼任	講師	ミズノエ カズトモ 水ノ江 和同 <平成29年4月>	博士(文 化史学)		考古学Ⅲ	2前	2	1	文化庁 文化財部記念物課 (平18.4)	-
㊸	兼任	講師	シモカワ カズヤ 下川 一哉 <平成29年4月>	経済学士		地域ブランディング論【隔年】	2・3前	1	1	株式会社意と匠研究 所代表取締役 (平25.4) NPOメイド・イン・ ジャパン・プロジェ クト代表理事 京都造形芸術大学大 学院客員教授	-
㊹	兼任	講師	モリヤマ トモエ 森山 朋絵 <平成30年4月>	芸術学修 士		メディアアート論【隔年】	2・3前	1	1	公益財団法人 東京都歴史文化財団 東 京都現代美術館 事業推進課 企画係主任 学芸員 (平2.4)	-
60	兼任	講師	マツヒサ コウジ 松久 公詞 <平成31年10月>	修士(芸 術学)		日本画Ⅲa 【隔年】	3後	2	1	福岡教育大学 教育学部 准教授(平16.4)	-
61	兼任	講師	ソエジマ キヨシ 副島 潔 <平成30年4月>	博士 (芸術工 学)		CAD/CAM I	3前	2	1	佐賀県窯業技術セン ター陶磁器部デザイ ン担当係長 (平10.4)	-
62	兼任	講師	コンノ トモコ 今野 朋子 <平成29年10月>	家政学士		装飾技法特別演習 【隔年】	2・3後	2	1	陶芸家	-
63	兼任	講師	センボンギ ナオユキ 千本木 直行 (平成30年4月)	修士(芸 術学)		彫刻Ⅲa 【隔年】	3前	2	1	福岡教育大学 教育学部 教授 (平12.4)	-
64	兼任	講師	サカイダ カキエモン 酒井田 柿右衛門 <平成30年10月>	なし		陶磁特別演習Ⅱ 【隔年】	2・3後	2	1	柿右衛門窯当主	-
65	兼任	講師	マツオ ヒデユキ 松尾 英之 <平成29年4月>	修士(理 学)		釉薬化学概論	2前	2	1	佐賀県立 有田窯業大学校 副主査 (平16.4)	-
㊺	兼任	講師	クラリ ヒデトシ 倉成 英俊 <平成29年4月>	学士 (機械工 学)		コミュニケーションデザイン論【隔年】	2・3前	1	1	株式会社電通 (H12.4) 株式会社電通総研 (H14.7)	-
67	兼任	講師	イワタ ソウヘイ 岩田 壮平 <平成30年10月>	修士(芸 術)		日本画Ⅲb 【隔年】	3後	2	1	武蔵野美術大学 非常勤講師 (平23.4)	-
68	兼任	講師	ナガオ マサコ 長尾 正子 <平成30年4月>	修士(芸 術)		装飾技法Ⅲ	3前	2	1	佐賀県立 有田窯業大学校 副主査 (平21.4)	-

教 員 の 氏 名 等												
(芸術地域デザイン学部 芸術地域デザイン学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 当 単 位 数	年 間 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週当たり 平均日数
①①	専	教授	タナカ ヨシオ 田中 嘉生 <平成28年4月>		教育学士		芸術表現基礎(工芸)	1前	0.4	1	佐賀大学 文化教育学部 教授 (平11.10)	5日
							芸術表現B(染色工芸)	1後	2	3		
①②	専	講師	トリヤ サヤカ 鳥谷 さやか <平成29年4月>		修士(教 育学)		芸術表現基礎(工芸)	1前	0.4	1	福岡県立 太宰府高等学校 非常勤講師 (平24.5)	5日
							芸術表現B(染色工芸)	1後	2	3		
							染色工芸基礎【隔年】	2・3前	2	1		
							染色工芸概論【隔年】	2・3前	2	1		
							染色工芸Ia【隔年】	2・3前	4	1		
							染色工芸Ib【隔年】	2・3前	4	1		
							染色工芸IIa【隔年】	2・3後	4	1		
							染色工芸IIb【隔年】	2・3後	4	1		
							地域創生フィールドワーク	3通	0.3	1		
卒業研究	4通	6	1									
②	専	教授	トミタ ヨシノリ 富田 義典 <平成28年4月>		博士(経 済学)		地域デザイン基礎(マネジメント)	1前	0.1	1	佐賀大学 経済学部 教授 (平9.10)	5日
							地域デザイン基礎(フィールドワーク)	1前	0.1	1		
							職業キャリア論	1後	2	1		
							社会政策	2前	2	1		
							コミュニティビジネス	2前	2	1		
							地域雇用政策論	3前	2	1		
卒業研究	4通	6	1									
③	専	教授	アサダ サトコ 浅田 智子 <平成28年4月>		Master of Arts (オー スト ラ リ ア)		地域デザイン基礎(マネジメント)	1前	0.1	1	佐賀大学 文化教育学部 教授 (平27.4)	5日
							地域デザイン基礎(フィールドワーク)	1前	0.1	1		
							博物館概論	1後	2	1		
							博物館学内実習 ※	1後	0.6	1		
							キュレイトイング応用I ※	2前	0.8	1		
							博物館経営論	2前	2	1		
							博物館展示論	2後	2	1		
							美術史II	2後	2	1		
							国内外芸術研修	3前	0.8	1		
博物館学外実習	3前	0.2	1									
卒業研究	4通	6	1									
④	専	教授	アラキ ヒロノブ 荒木 博申 <平成28年4月>		修士(デ ザ イ ン 学)		芸術表現基礎(絵画)	1前	0.2	1	佐賀大学 文化教育学部 教授 (平11.4)	5日
							地域デザイン基礎(デザイン)	1前	0.8	1		
							デザイン発想論 ※	1後	1	1		
							視覚伝達デザインI	2前	2	1		
							視覚伝達デザインII	3前	2	1		
							デザイン基礎 ※	2後	1	1		
							デザインプロジェクト演習 ※	2後	1	1		
							地域創生フィールドワーク	3通	0.3	1		
							視覚伝達デザインIII	3後	2	1		
デザイン実践セミナー ※	3後	1	1									
卒業研究	4通	6	1									
⑤	専	教授	ヤマシタ ムネトシ 山下 宗利 <平成28年4月>		理学博士		地域デザイン基礎(デザイン)	1前	0.1	1	佐賀大学 文化教育学部 教授 (平2.4)	5日
							地域デザイン基礎(フィールドワーク)	1前	1	1		
							風土と地理学	1後	2	1		
							フィールドワーク実習	2前	2	1		
							地域情報マネジメント演習	2前	2	1		
							地域再生論	2前	2	1		
							都市空間論I	2後	2	1		
							地域創生フィールドワーク	3通	1.5	1		
							地域調査分析	3前	2	1		
都市空間論II	3後	2	1									
卒業研究	4通	6	1									
⑥	専	教授	ニシジマ ヒロキ 西島 博樹 <平成28年4月>		博士(学 術)		地域デザイン基礎(デザイン)	1前	0.1	1	長崎県立大学 経済学部 教授 (平21.4)	5日
							地域デザイン基礎(マネジメント)	1前	0.1	1		
							地域デザイン基礎(フィールドワーク)	1前	0.1	1		
							芸術表現基礎(工芸)	1前	0.4	1		
							流通論	1前	2	1		
							文化経済論	1後	2	1		
							有田キャンパスプロジェクト	3通	1	1		
							地域創生フィールドワーク	3通	0.3	1		
							陶磁器産業論	3後	2	1		
							地域マネジメント論	3前	2	1		
							経営・流通演習III	2後	2	1		
							経営・流通演習IV	3後	2	1		
卒業研究	4通	6	1									

⑦	専	教授	ヤナギ ケンジ 柳 健司 <平成28年4月>	芸術学修士	芸術表現基礎（絵画）	1前	0.2	1	学校法人小林学園 本庄東高等学校 美術科目 非常勤講師 (平26.4)	5日
					芸術表現基礎（彫刻）	1前	0.4	1		
					芸術表現基礎（工芸）	1前	0.4	1		
					現代美術概論【隔年】	2・3後	2	1		
					ミクストメディアIa【隔年】	2・3前	4	1		
					ミクストメディアIb【隔年】	2・3前	4	1		
					ミクストメディアIIa【隔年】	2・3後	4	1		
					ミクストメディアIIb【隔年】	2・3後	4	1		
					ミクストメディア基礎【隔年】	2・3後	2	1		
					地域創生フィールドワーク	3通	0.3	1		
卒業研究	4通	6	1							
⑧	専	教授	ナカムラ タカトシ 中村 隆敏 <平成28年4月>	博士(学術)	地域デザイン基礎（デザイン）	1前	0.1	1	佐賀大学 文化教育学部 教授 (平20.4)	5日
					地域デザイン基礎（フィールドワーク）	1前	0.1	1		
					デジタル表現基礎	1後	2	1		
					映像デザインI	2前	2	1		
					映像デザインII	3前	2	1		
					地域創生フィールドワーク	3通	0.3	1		
					デザイン実践セミナー ※	3後	1	1		
					映像デザインIII	3後	2	1		
卒業研究	4通	6	1							
⑨	専	教授	ヨシズミ マコ 吉住 磨子 <平成28年4月>	Doctor of Philosophy in Art History (イギリス)	芸術表現基礎（絵画）	1前	0.2	1	佐賀大学 文化教育学部 教授 (平7.10)	5日
					地域デザイン基礎（フィールドワーク）	1前	0.1	1		
					美術史基礎	1後	2	1		
					博物館学内実習 ※	1後	0.6	1		
					キュレイトング応用I ※	2前	0.6	1		
					美術史I	2前	2	1		
					美術史演習	2後	2	1		
					博物館学外実習	3前	0.4	1		
					国内外芸術研修	3前	0.8	1		
					卒業研究	4通	6	1		
⑩	専	教授	アカツ タカシ 赤津 隆 <平成28年4月>	博士(工学)	地域デザイン基礎（マネジメント）	1前	0.1	1	佐賀大学 大学院工学系研究科 教授 (平27.4)	5日
					セラミック原料化学	2前	2	1		
					セラミック焼成	2後	2	1		
					材料学	2後	2	1		
					有田キャンパスプロジェクト	3通	1	1		
					アートと科学	2.3前	2	1		
					釉薬化学II	3後	2	1		
					セラミック科学演習	3前	2	1		
					セラミック科学実験	3前	2	1		
					卒業研究	4通	6	1		
⑪	専	教授	タナカ ユウキ 田中 右紀 <平成28年4月>	芸術学修士	芸術表現基礎（絵画）	1前	0.2	1	佐賀大学 文化教育学部 教授 (平17.4)	5日
					芸術表現基礎（彫刻）	1前	0.4	1		
					芸術表現基礎（工芸）	1前	0.4	1		
					芸術表現B（窯芸）	1後	2	3		
					唐津焼演習	2・3前	1	1		
					工芸理論	2・3前	2	1		
					窯芸基礎 ※	2後	1.4	1		
					有田キャンパスプロジェクト	3通	1	1		
					陶磁成形技法III ※	3前	0.9	1		
					卒業研究	4通	6	1		
⑫	専	教授	アリマ タカフミ 有馬 隆文 <平成28年4月>	博士(工学)	地域デザイン基礎（デザイン）	1前	0.1	1	佐賀大学 大学院工学系研究科 教授 (平27.4)	5日
					地域デザイン基礎（フィールドワーク）	1前	0.1	1		
					ランドスケープ	1後	2	1		
					都市・地域空間史	2前	2	1		
					地域再生デザイン学	2後	2	1		
					フィールドデザイン演習I	2後	2	1		
					地域創生フィールドワーク	3通	0.3	1		
					フィールドデザイン演習II	3前	2	1		
卒業研究	4通	6	1							
⑬	専	教授	ヤマザキ イサオ 山崎 功 <平成28年4月>	修士(法学)	地域デザイン基礎（デザイン）	1前	0.1	1	佐賀大学 文化教育学部 教授 (平13.4)	5日
					地域デザイン基礎（フィールドワーク）	1前	0.1	1		
					比較オリエンタリズム研究	1後	2	1		
					ヘリテージマネジメント論 ※	2前	0.6	1		
					キュレイトング応用I ※	2前	0.6	1		
					エリアスタディー演習I	2後	2	1		
					国内外芸術研修	3前	0.8	1		
					博物館の政治学	3前	2	1		
					エリアスタディー演習II	3前	2	1		
					卒業研究	4通	6	1		
⑭	専	教授	トクヤス カズヒロ 徳安 和博 <平成28年4月>	修士(教育学)	芸術表現基礎（彫刻）	1前	0.4	1	佐賀大学 文化教育学部 教授 (平20.4)	5日
					芸術表現A（彫刻）	1後	2	3		
					彫刻Ia【隔年】	2・3前	4	1		
					彫刻Ib【隔年】	2・3前	4	1		
					彫刻基礎【隔年】	2・3前	2	1		
					彫刻概論【隔年】	2・3前	2	1		
					彫刻IIa【隔年】	2・3後	4	1		
					彫刻IIb【隔年】	2・3後	4	1		
					地域創生フィールドワーク	3通	0.3	1		
					卒業研究	4通	6	1		

⑮	専	教授	シゲフジ テルユキ 重藤 輝行 <平成28年4月>	修士(文学) ※	地域デザイン基礎(デザイン)	1前	0.1	1	佐賀大学 文化教育学部 教授 (平20.4)	5日
					地域デザイン基礎(フィールドワーク)	1前	0.1	1		
					文化財の保存と活用	2前	2	1		
					考古学Ⅰ	2前	2	1		
					考古学演習Ⅰ(古代以前) 【隔年】	2前	2	1		
					ヘリテージマネジメント演習	2前	2	1		
					ヘリテージマネジメント論 ※	2前	1.4	1		
					考古学Ⅱ	2後	2	1		
					考古学実習Ⅰ(室内)	2後	2	1		
					地域創生フィールドワーク	3通	0.3	1		
					考古学演習Ⅱ(中世・近世) 【隔年】	3前	2	1		
					考古学実習Ⅱ(野外)	3前	2	1		
卒業研究	4通	6	1							
⑯	専	教授	ヤマグチ ユキコ 山口 夕妃子 <平成28年4月>	博士(商学)	地域デザイン基礎(デザイン)	1前	0.1	1	佐賀大学 経済学部 教授 (平27.4)	5日
					地域デザイン基礎(マネジメント)	1前	0.1	1		
					地域デザイン基礎(フィールドワーク)	1前	0.1	1		
					アートマーケティング	1後	2	1		
					美術品流通論	2後	2	1		
					経営・流通演習Ⅰ	2後	2	1		
					地域創生フィールドワーク	3通	0.3	1		
					経営・流通演習Ⅱ	3前	2	1		
					陶磁マーケティング	3前	2	1		
					ミュージアム・マーケティング	3前	2	1		
					卒業研究	4通	6	1		
					⑰	専	准教授	ホートン ステファニー アン Houghton Stephanie Ann <平成28年4月>		
地域デザイン基礎(フィールドワーク)	1前	0.1	1							
Key Concepts in Art (キーコンセプトインアート)	1後	2	1							
Intercultural Communication and Art I (インターカルチュラル・コミュニケーションとアートⅠ)	2後	2	1							
Critical Studies in Language and Image I (クリティカル・スタディーズ(言語とイメージ)Ⅰ)	2後	2	1							
国内外芸術研修	3前	0.8	1							
Critical Studies in Language and Image II (クリティカル・スタディーズ(言語とイメージ)Ⅱ)	3前	2	1							
Intercultural Communication and Art II (インターカルチュラル・コミュニケーションとアートⅡ)	3前	2	1							
Art in Context (アート・イン・コンテキスト)	3前	2	1							
Critical Studies in Language and Image III (クリティカル・スタディーズ(言語とイメージ)Ⅲ)	3後	2	1							
Intercultural Communication and Art III (インターカルチュラル・コミュニケーションとアートⅢ)	3後	2	1							
卒業研究	4通	6	1							
⑱	専	准教授	フジマキ ミエ 藤巻 美恵 <平成28年4月>	博士(学術)	地域デザイン基礎(デザイン)	1前	0.1	1	東京文化財研究所 文化遺産国際協力 センター 客員研究員 (平23.4)	5日
					芸術表現基礎(工芸)	1前	0.4	1		
					博物館学内実習 ※	1後	0.6	1		
					キュレイトリング基礎	2前	2	1		
					博物館資料保存論(芸術と倫理を含む)	2前	2	2		
					博物館資料論	2後	2	1		
					キュレーター実務実践演習	2後	2	1		
					キュレイトリング応用Ⅱ ※	2後	1	1		
					国内外芸術研修	3前	0.8	1		
					博物館学外実習	3前	0.2	1		
					美術史Ⅲ	3前	2	1		
					卒業研究	4通	6	1		
⑲	専	准教授	ハナダ シンイチ 花田 伸一 <平成28年4月>	学士(文学)	地域デザイン基礎(デザイン)	1前	0.1	1	福岡県 新社会推進部 県民文化 スポーツ課 (九州芸文館 担当学芸員) 非常勤職員 (平26.4)	5日
					地域デザイン基礎(マネジメント)	1前	0.1	1		
					地域デザイン基礎(フィールドワーク)	1前	0.1	1		
					アートマネジメント	1前	2	1		
					アートプロデュース論	2前	2	1		
					芸術文化・地域創生論 (国内外地域プロジェクト事例研究)	2後	2	1		
					キュレイトリング応用Ⅱ ※	2後	1	1		
					アートプロデュース演習Ⅰ	2後	2	1		
					地域創生フィールドワーク	3通	0.3	1		
					アートプロデュース演習Ⅱ	3前	2	1		
					卒業研究	4通	6	1		
					⑳	専	准教授	コセムラ タカヨシ 小瀬村 貴哉 <平成28年4月>		
地域デザイン基礎(デザイン)	1前	0.1	1							
デザイン発想論 ※	1後	1	1							
コンテンツデザインⅡ	3前	2	1							
デザイン基礎 ※	2後	1	1							
コンテンツデザインⅠ	2後	2	1							
有田キャンパスプロジェクト	3通	1	1							
メディアプレゼンテーション	3前	2	1							
コンテンツデザインⅢ	3後	2	1							
卒業研究	4通	6	1							

⑳	専	准教授	スギモト タツオ 杉本 達應 <平成28年4月>	修士(学 際情報 学)	地域デザイン基礎(デザイン)	1前	0.1	1	札幌市立大学 デザイン学部 講師 (平25.4)	5日
					地域デザイン基礎(フィールドワーク)	1前	0.1	1		
					デジタル表現基礎	1後	2	1		
					情報デザインⅡ	3前	2	1		
					情報デザインⅠ	2後	2	1		
					デザインプロジェクト演習 ※	2後	1	1		
					博物館情報・メディア論	2後	2	1		
					地域創生フィールドワーク	3通	0.3	1		
					情報デザインⅢ	3後	2	1		
卒業研究	4通	6	1							
㉑	専	准教授	オギソ マコト 小木曾 誠 <平成28年4月>	修士(美 術) ※	芸術表現基礎(絵画)	1前	0.8	1	佐賀大学 文化教育学部 准教授 (平18.4)	5日
					芸術表現基礎(彫刻)	1前	0.4	1		
					芸術表現A(西洋画)	1後	2	3		
					西洋画概論【隔年】	2・3前	2	1		
					西洋画Ⅰa【隔年】	2・3前	4	1		
					西洋画Ⅰb【隔年】	2・3前	4	1		
					西洋画基礎【隔年】	2・3前	2	1		
					西洋画Ⅱa【隔年】	2・3後	4	1		
					西洋画Ⅱb【隔年】	2・3後	4	1		
地域創生フィールドワーク	3通	0.3	1							
卒業研究	4通	6	1							
㉒	専	准教授	イシザキ トモカズ 石崎 誠和 <平成28年4月>	博士(芸 術学)	芸術表現基礎(絵画)	1前	0.2	1	佐賀大学 文化教育学部 准教授 (平23.4)	5日
					芸術表現A(日本画)	1後	2	3		
					日本画Ⅰa【隔年】	2・3前	4	1		
					日本画Ⅰb【隔年】	2・3前	4	1		
					日本画概論【隔年】	2・3後	2	1		
					日本画Ⅱa【隔年】	2・3後	4	1		
					日本画Ⅱb【隔年】	2・3後	4	1		
					日本画基礎【隔年】	2・3後	2	1		
					地域創生フィールドワーク	3通	0.3	1		
卒業研究	4通	6	1							
㉓	専	准教授	イガワ タケシ 井川 健 <平成28年4月>	博士(美 術)	芸術表現基礎(彫刻)	1前	0.4	1	佐賀大学 文化教育学部 准教授 (平21.4)	5日
					芸術表現基礎(工芸)	1前	0.4	1		
					芸術表現B(漆・木工芸)	1後	2	3		
					応用木工芸	2・3前	2	1		
					漆・木工芸Ⅰa【隔年】	2・3前	4	1		
					漆・木工芸Ⅰb【隔年】	2・3前	4	1		
					漆・木工芸概論【隔年】	2・3後	2	1		
					漆・木工芸Ⅱa【隔年】	2・3後	4	1		
					漆・木工芸Ⅱb【隔年】	2・3後	4	1		
漆・木工芸基礎【隔年】	2・3後	2	1							
地域創生フィールドワーク	3通	0.3	1							
卒業研究	4通	6	1							
㉔	専	講師	ユノハラ キヨシ 湯之原 淳 <平成29年4月>	教育学修 士	陶磁成形技法Ⅰ	2前	2	1	佐賀県立 有田窯業大学校 助教授 (平5.4)	5日
					陶磁成形技法Ⅱ	2後	2	1		
					地域創生フィールドワーク	3通	0.3	1		
					陶磁成形技法Ⅲ ※	3前	1.1	1		
卒業研究	4通	6	1							
㉕	専	講師	カイ ヒロフミ 甲斐 広文 <平成29年4月>	教育学士	図法	2前	2	1	佐賀県立 有田窯業大学校 助教授 (平2.4)	5日
					ロクロ成形Ⅰ	2前	2	1		
					ロクロ成形Ⅱ	2後	2	1		
					有田キャンパスプロジェクト	3通	1	1		
					ロクロ成形Ⅲ	3前	2	1		
卒業研究	4通	6	1							
㉖	専	講師	ミキ エツコ 三木 悦子 <平成29年4月>	修士(デ ザイン 学)	図法	2前	2	1	佐賀県立 有田窯業大学校 副主査 (平16.4)	5日
					石膏型成型Ⅰ	2前	2	1		
					窯芸基礎 ※	2後	0.6	1		
					石膏型成型Ⅱ	2後	2	1		
					地域創生フィールドワーク	3通	0.3	1		
					石膏型成型Ⅲ	3前	2	1		
卒業研究	4通	6	1							
26	兼担	講師	カイ キョウコ 甲斐 今日子 <平成30年4月>	博士(医学)	衣食住文化論【隔年】※	2.3前	0.8	1	佐賀大学 文化教育学部 教授 (昭61.10)	
27	兼担	講師	ミヤタケ マサト 宮武 正登 <平成30年4月>	文学修士	地域史演習 ※	3前	0.9	1	佐賀大学 全学教育機構 教授 (平26.4)	-
地域史論Ⅲ【隔年】	3後	2	1							
28	兼担	講師	キヨハラ ナミコ 清原 奈美子 <平成28年10月>	文学修士	博物館学内実習 ※	1後	0.2	1	佐賀大学学務部 教務課(美術館) 主任 (平25.4)	
博物館学外実習	3前	0.2	1							
29	兼担	講師	クリヤマ ヒロシ 栗山 裕至 <平成29年10月>	学術修士 (芸術学)	博物館教育論 ※	2後	0.5	1	佐賀大学 文化教育学部 教授 (平7.4)	
30	兼担	講師	サワシマ トモアキ 澤島 智明 <平成30年4月>	博士 (学術)	衣食住文化論【隔年】※	2.3前	0.6	1	佐賀大学 文化教育学部 教授 (平17.4)	-

31	兼担	講師	イトウ アキヒロ 伊藤 昭弘 <平成29年4月>	博士 (文学)	地域史論Ⅰ ※ 古文書解読演習 ※	2前 3後	0.9 0.9	1 1	佐賀大学 地域学歴史文化 研究センター 准教授 (平18.4)	
32	兼担	講師	フジナガ ゴウ 藤永 豪 <平成30年4月>	博士(理 学)	地域資源論 【隔年】	3前	2	1	佐賀大学 文化教育学部 准教授 (平18.4)	
33	兼担	講師	キジマ アツシ 鬼嶋 淳 <平成29年10月>	博士(文 学)	地域史論Ⅱ 【隔年】 地域史演習 ※	2後 3前	2 1.1	1 1	佐賀大学 文化教育学部 准教授 (平19.10)	
34	兼担	講師	ワダ マナブ 和田 学 <平成29年10月>	博士(芸 術学)	博物館教育論 ※	2後	0.5	1	佐賀大学 文化教育学部 准教授 (平26.4)	
35	兼担	講師	カヤシマ トモコ 萱島 知子 <平成29年4月>	博士 (教育学)	衣食住文化論 【隔年】※ 食と器 【隔年】※	2.3前 2.3前	0.6 0.4	1 1	佐賀大学 文化教育学部 准教授 (平23.4)	
36	兼担	講師	ミツマツ マコト 三ツ松 誠 <平成29年4月>	博士 (文学)	地域史論Ⅰ ※ 古文書解読演習 ※	2前 3後	1.1 1.1	1 1	佐賀大学 地域学歴史文化 研究センター 講師 (平26.6)	
37	兼任	講師	ノグチ カズコ 野口 和子 <平成29年4月>	なし	食と器 【隔年】※	2.3前	1.6	1	なし	—
38	兼任	講師	アオキ トシユキ 青木歳幸 <平成29年4月>	博士(歴 史学)	アーカイブズ論	2前	2	1	佐賀大学 非常勤講師 (平26.4) 久留米大学 非常勤講師 (平26.4)	
39	兼任	講師	ヒライ ヤスオ 平井 安雄 (平成29年4月)	工学士	知的財産権学	2前	2	1	平井・筒井国際特許 事務所所長 (H4.7)	—
41	兼任	講師	オオハシ コウジ 大橋 康二 <平成29年10月>	文学修士	陶磁史	2後	2	1	佐賀県立 有田窯業大学校 非常勤講師 (平20.4)	-
43	兼任	講師	アリタ タクミ 有田 巧 <平成30年10月>	芸術修士	西洋画Ⅲa 【隔年】 西洋画Ⅲb 【隔年】	3後 3後	2 2	1 1	崇城大学 芸術学部 教授 (平15.4)	-
44	兼任	講師	アベ マモル 阿部 守 <平成29年4月>	芸術学修 士	製図	2前	2	1	福岡教育大学 教育学部 教授 (平14.4)	-
47	兼任	講師	ヤマモト ノブキ 山本 伸樹 <平成30年10月>	美術学修 士	ミクストメディアⅢb 【隔年】	3後	2	1	美術家 (昭59.4)	—
49	兼任	講師	チヨダ ノリコ 千代田 憲子 <平成30年4月>	博士 (芸術工 学)	染色工芸Ⅲa 【隔年】 染色工芸Ⅲb 【隔年】	3前 3前	2 2	1 1	愛媛大学 教育学部 教授 (平12.9)	-
50	兼任	講師	フクダ アツオ 福田 篤夫 <平成31年10月>	美術学士	ミクストメディアⅢa 【隔年】	3後	2	1	彫刻家 田中アートプログラム (昭55.4)	—
51	兼任	講師	クリモト ナツキ 栗本 夏樹 <平成29年4月>	修士(芸 術)	漆・木工芸Ⅲa 【隔年】 漆・木工芸Ⅲb 【隔年】	2・3前 2・3前	2 2	1 1	京都市立芸術大学 美術学部教授 (平5.4)	-
52	兼任	講師	ミヤタ ヨウヘイ 宮田 洋平 <平成29年10月>	芸術学修 士	金属工芸Ⅱa 【隔年】 金属工芸Ⅱb 【隔年】	2・3後 2・3後	2 2	1 1	福岡教育大学 教育学部 教授 (平12.4)	-
53	兼任	講師	ナカオ セイイチロウ 中尾 清一郎 <平成29年10月>	商学士	世界の中の肥前陶磁器	2後	2	1	株式会社 佐賀新聞社 代表取締役社長 (昭60.12)	—
54	兼任	講師	シン ミサ 辛 美沙 <平成30年4月>	修士 Master of Arts in Art Dealersh ip and Collecti ng (Visual Art Administ ration) (米国)	アートマネジメント特別講義【隔年】	3前	2	1	株式会社Misa Shin & Co. 代表 (平17) MISA SHIN GALLER 代表 (平22.11) 株式会社磯崎新アト リエ 代表 (平24.10)	-
55	兼任	講師	カンノ ヤスシ 菅野 靖 <平成29年4月>	芸術学修 士	金属工芸Ⅰa 【隔年】 金属工芸Ⅰb 【隔年】	2・3前 2・3前	2 2	1 1	長岡造形大学 造形学部 教授 (平22.4)	-
57	兼任	講師	ミズノエ カズトモ 水ノ江 和同 <平成29年4月>	博士(文 化史学)	考古学Ⅲ	2前	2	1	文化庁 文化財部記念物課 (平18.4)	-

㉘	兼任	講師	シモカワ カズヤ 下川 一哉 <平成29年4月>	経済学士	地域ブランディング論【隔年】 地域ブランディング演習【隔年】	2・3前 2・3前	1 1	1 1	株式会社意と匠研究所代表取締役 (平25.4) NPOメイド・イン・ ジャパン・プロジェクト代表理事 京都造形芸術大学大学院客員教授	-
㉙	兼任	講師	モリヤマ トモエ 森山 朋絵 <平成30年4月>	芸術学修士	メディアアート論【隔年】 メディアアート演習【隔年】	2・3前 2・3前	1 1	1 1	公益財団法人 東京都歴史文化財団 東 京都現代美術館 事業推進課 企画係主任 学芸員 (平2.4)	-
60	兼任	講師	マツヒサ コウジ 松久 公詞 <平成31年10月>	修士(芸術学)	日本画Ⅲa 【隔年】	3後	2	1	福岡教育大学 教育学部 准教授 (平16.4)	-
63	兼任	講師	センボンギ ナオユキ 千本木 直行 (平成30年4月)	修士(芸術学)	彫刻Ⅲa 【隔年】 彫刻Ⅲb 【隔年】	3前 3前	2 2	1 1	福岡教育大学 教育学部 教授 (平12.4)	-
㉚	兼任	講師	クラリ ヒデトシ 倉成 英俊 <平成29年4月>	学士 (機械工学)	コミュニケーションデザイン論【隔年】 コミュニケーションデザイン演習【隔年】	2・3前 2・3前	1 1	1 1	株式会社電通 (H12.4) 株式会社電通総研 (H14.7)	-
67	兼任	講師	イワタ ソウヘイ 岩田 壮平 <平成30年10月>	修士(芸術学)	日本画Ⅲb 【隔年】	3後	2	1	武蔵野美術大学 非常勤講師 (平23.4)	-



教 員 の 氏 名 等												
(芸術地域デザイン学部 芸術地域デザイン学科)												
調書 番号	専任等 区分	職位	フリガナ 氏名 <就任(予定)年月>	年齢	保有 学位等	月額 基本給 (千円)	担当授業科目の名称	配当 年次	担 単 位 数	年 開 講 数	現 職 (就任年月)	申請に係る 大学等の職 務に従事す る週あたり 平均日数
⑥	専	教授	ニシジマ ヒロキ 西島 博樹 <平成28年4月>		博士(学 術)		地域デザイン基礎(デザイン) 地域デザイン基礎(マネジメント) 地域デザイン基礎(フィールドワーク) 芸術表現基礎(工芸) 流通論 文化経済論 有田キャンパスプロジェクト 地域創生フィールドワーク 陶磁器産業論 地域マネジメント論 経営・流通演習Ⅲ 経営・流通演習Ⅳ 卒業研究	1前 1前 1前 1前 1前 1後 3通 3通 3後 3前 2後 3後 4通	0.1 0.1 0.1 0.4 2 2 1 0.3 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	長崎県立大学 経済学部 教授 (平21.4)	5日
⑩	専	教授	アカツ タカシ 赤津 隆 <平成28年4月>		博士(工 学)		地域デザイン基礎(マネジメント) セラミック原料化学 セラミック焼成 材料学 有田キャンパスプロジェクト アートと科学 釉薬化学Ⅱ セラミック科学演習 セラミック科学実験 卒業研究	1前 2前 2後 2後 3通 2.3前 3後 3前 3前 4通	0.1 2 2 2 1 2 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 大学院工学系研究科 教授 (平27.4)	5日
⑪	専	教授	タナカ ユウキ 田中 右紀 <平成28年4月>		芸術学修 士		芸術表現基礎(絵画) 芸術表現基礎(彫刻) 芸術表現基礎(工芸) 芸術表現B(窯芸) 唐津焼演習 工芸理論 窯芸基礎 ※ 有田キャンパスプロジェクト 陶磁成形技法Ⅲ ※ 卒業研究	1前 1前 1前 1後 2・3前 2・3前 2後 3通 3前 4通	0.2 0.4 0.4 2 1 2 1.4 1 0.9 6	1 1 1 3 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 文化教育学部 教授 (平17.4)	5日
⑯	専	教授	ヤマガチ ユキコ 山口 夕妃子 <平成28年4月>		博士(商 学)		地域デザイン基礎(デザイン) 地域デザイン基礎(マネジメント) 地域デザイン基礎(フィールドワーク) アートマーケティング 美術品流通論 経営・流通演習Ⅰ 地域創生フィールドワーク 経営・流通演習Ⅱ 陶磁マーケティング ミュージアム・マーケティング 卒業研究	1前 1前 1前 1後 2後 2後 3通 3前 3前 3前 4通	0.1 0.1 0.1 2 2 2 0.3 2 2 2 6	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	佐賀大学 経済学部 教授 (平27.4)	5日
⑳	専	講師	ユノハラ キヨシ 湯之原 淳 <平成29年4月>		教育学修 士		陶磁成形技法Ⅰ 陶磁成形技法Ⅱ 地域創生フィールドワーク 陶磁成形技法Ⅲ ※ 卒業研究	2前 2後 3通 3前 4通	2 2 0.3 1.1 6	1 1 1 1 1	佐賀県立 有田窯業大学校 助教授 (平5.4)	5日
㉑	専	講師	カイ ヒロフミ 甲斐 広文 <平成29年4月>		教育学士		図法 ロクロ成形Ⅰ ロクロ成形Ⅱ 有田キャンパスプロジェクト ロクロ成形Ⅲ 卒業研究	2前 2前 2後 3通 3前 4通	2 2 2 1 2 6	1 1 1 1 1 1	佐賀県立 有田窯業大学校 助教授 (平2.4)	5日
㉒	専	講師	ミキ エツコ 三木 悦子 <平成29年4月>		修士(デ ザイン 学)		図法 石膏型成型Ⅰ 窯芸基礎 ※ 石膏型成型Ⅱ 地域創生フィールドワーク 石膏型成型Ⅲ 卒業研究	2前 2前 2後 2後 3通 3前 4通	2 2 0.6 2 0.3 2 6	1 1 1 1 1 1 1	佐賀県立 有田窯業大学校 副主査 (平16.4)	5日
40	兼任	講師	イタバシ ヒロミ 板橋 廣美 <平成29年10月>		法学士		石膏型成型特別演習【隔年】	2・3後	2	1	板橋廣美陶芸研究所 所長 (昭54.4)	—

42	兼任	講師	オクガワ シュンエモン (カズトシ) 奥川 俊右衛門 (一 俊) <平成30年4月>		なし		ロクロ特別演習	3前	2	1	佐賀県立 有田窯業大学 非常勤講師 (平13.4)	-
45	兼任	講師	マエダ アキヒロ 前田 昭博 <平成29年4月>		芸術学士		陶磁技法特別演習 【隔年】	2・3前	2	1	国の重要無形文化財 「白磁」部門保持者 (平25.10)	-
46	兼任	講師	イワナガ チホコ 岩永 千穂子 <平成29年4月>		なし		装飾技法 I 装飾技法 II	2前 2後	2 2	1 1	佐賀県立 有田窯業大学校 嘱託講師 (平12.4)	-
48	兼任	講師	オカモト サクレイ (ケン ジ) 岡本 作礼 (憲次) <平成29年4月>		なし		唐津焼演習	2・3前	1	1	窯元「作礼窯」 当主 (平元.4)	-
56	兼任	講師	イマイズミ イマエモン 今泉 今右衛門 <平成29年10月>		美術学士		陶磁特別演習 I 【隔年】	2・3後	2	1	合資会社 今右衛門 代表社員 (平14.6)	-
61	兼任	講師	ソエジマ キヨシ 副島 潔 <平成30年4月>		博士 (芸術工 学)		CAD/CAM I CAD/CAM II	3前 3後	2 2	1 1	佐賀県窯業技術セン ター陶磁器部デザイ ン担当係長 (平10.4)	-
62	兼任	講師	コンノ トモコ 今野 朋子 <平成29年10月>		家政学士		装飾技法特別演習 【隔年】	2・3後	2	1	陶芸家	-
64	兼任	講師	サカイダ カキエモン 酒井田 柿右衛門 <平成30年10月>		なし		陶磁特別演習 II 【隔年】	2・3後	2	1	柿右衛門窯当主	-
65	兼任	講師	マツオ ヒデユキ 松尾 英之 <平成29年4月>		修士 (理 学)		釉薬化学概論 釉薬化学 I	2前 2前	2 2	1 1	佐賀県立 有田窯業大学校 副主査 (平16.4)	-
68	兼任	講師	ナガオ マサコ 長尾 正子 <平成30年4月>		修士 (芸 術)		装飾技法 III	3前	2	1	佐賀県立 有田窯業大学校 副主査 (平21.4)	-

専任教員の年齢構成・学位保有状況										
職 位	学 位	29歳以下	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～69歳	70歳以上	合 計	備 考
教 授	博 士	人	人	人	5人	2人	1人	人	8人	
	修 士	人	人	人	5人	2人	人	人	7人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
准教授	博 士	人	人	2人	2人	人	人	人	4人	
	修 士	人	人	3人	人	人	人	人	3人	
	学 士	人	人	1人	人	人	人	人	1人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
講 師	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	1人	1人	1人	人	人	人	3人	
	学 士	人	人	人	1人	人	人	人	1人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
助 教	博 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	修 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	学 士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	
合 計	博 士	人	人	2人	7人	2人	1人	人	12人	
	修 士	人	1人	4人	6人	2人	人	人	13人	
	学 士	人	人	1人	1人	人	人	人	2人	
	短期大士	人	人	人	人	人	人	人	人	
	その他	人	人	人	人	人	人	人	人	

(注)

- この書類は、申請又は届出に係る学部等ごとに作成すること。
- この書類は、専任教員についてのみ、作成すること。
- この書類は、申請又は届出に係る学部等の開設後、当該学部等の修業年限に相当する期間が満了する年度（以下「完成年度」という。）における状況を記載すること。
- 専門職大学院の課程を修了した者に対し授与された学位については、「その他」の欄にその数を記載し、「備考」の欄に、具体的な学位名称を付記すること。